取 扱 書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

PRIUS PHV

TOYOTA

	イラスト目次	**イラスト**から検索
1	安全・安心のために	お客様に**必ずお読みいただきたいこと**
2	プラグインハイブリッドシステム	プラグインハイブリッドシステムの特徴や、充電に関する情報など
3	メーターの見方	メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など
4	各部の操作	ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など
5	運転	運転に必要な操作やアドバイス
6	室内装備・機能	室内装備の使い方など
7	お手入れのしかた	車のお手入れ・メンテナンスの方法
8	万一の場合には	故障したときや、緊急時などの対処
9	車両情報	車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など
	さくいん	**症状**から検索
		音から検索
		アルファベットで検索
		五十音で検索

知っておいていただきたいこと 8
本書の見方 13
検索のしかた 14
イラスト目次 16

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に 28
安全なドライブのために 30
シートベルト 32
SRS エアバッグ 36
排気ガスに対する注意 44

1-2. お子さまの安全
お子さまを乗せるときは 45
チャイルドシート 46

1-3. 盗難防止装置
イモビライザーシステム 66
オートアラーム 67

2 プラグインハイブリッドシステム

2-1. プラグインハイブリッドシステムについて
プラグインハイブリッドシステムの特徴 72
プラグインハイブリッドシステムの注意 84
プラグインハイブリッド車運転のアドバイス 91
EV 走行可能距離について 94

2-2. 充電について
充電に関する装備について 98
普通充電ケーブルについて ... 104
スマートリッド＆コネクターロックシステム 112
接続可能な外部電源について（普通充電時） 123
充電方法について 132
充電に関するアドバイス 138
充電の前に知っておいていただきたいこと 141
普通充電のしかた 145
急速充電・V2H 充電／V2H 給電のしかた 156
タイマー充電機能を使う 164
マイルームモードを使う 185
ソーラー充電システム 190
正常に充電できないときは ... 194

2-3. 外部電源供給システムについて
AC 外部電源供給システム 208
AC 外部電源供給システムをご使用になる前に 212
AC 外部電源供給システムの使い方 213
DC 外部電源供給システム ... 230
DC 外部電源供給システムの使い方 231
外部電源供給システムが正常に作動しないときは 240

3 メーターの見方

3. メーターの見方

コンビネーションメーター....246
警告灯／表示灯.....255
メインディスプレイ 263
マルチインフォメーション
ディスプレイ 269
カラーヘッドアップ
ディスプレイ 304
エネルギーモニター／燃費画面
（マルチメディアシステム
装着車）.....312

4 各部の操作

4-1. キーの取り扱い

キー 318

4-2. ドアの開閉、ロックのしかた

ドア 323
バックドア.....328
スマートエントリー＆
スタートシステム 334

4-3. シートの調整

フロントシート.....341
リヤシート.....343
ヘッドレスト.....345

4-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル 348
インナーミラー.....350
ドアミラー.....352

4-5. ドアガラスの開閉

パワーウインドウ.....354

5 運転

5-1. 運転にあたって

運転にあたって 360
荷物を積むときの注意 372

5-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション）
スイッチ 374
トランスミッション 380
方向指示レバー 386
パーキングブレーキ 387

5-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ 388
AHB（オートマチック
ハイビーム）..... 392
AHS（アダプティブ
ハイビームシステム）..... 396
LED イルミネーション
ビーム 401
フォグランプスイッチ 402
ワイパー＆ウォッシャー 405

5-4. 給油のしかた

給油口の開け方 409

5-5. 運転支援装置について
Toyota Safety Sense.....414
PCS（プリクラッシュセーフティ）.....420
LTA（レーントレーシングアシスト）.....430
RSA（ロードサインアシスト）.....442
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）.....447
先行車発進告知機能.....464
ITS Connect.....467
ドライブモードセレクトスイッチ.....477
BSM（ブラインドスポットモニター）.....479
クリアランスソナー.....492
パーキングサポートブレーキ.....503
プラスサポート（販売店装着オプション）.....513
S-IPA（シンプルインテリジェントパーキングアシスト）.....518
運転を補助する装置.....551
パノラミックビューモニター.....557
5-6. 運転のアドバイス
寒冷時の運転.....589

6 室内装備・機能

6-1. エアコンの使い方
オートエアコン.....594
リモートエアコンシステム.....606
ステアリングヒーター／シートヒーター（快適温熱シート）／シートベンチレーター.....610
6-2. 室内灯のつけ方
室内灯一覧.....613
・フロントインテリアランプ.....614
・マップランプ.....614
・リヤインテリアランプ.....615
6-3. 収納装備の使い方
収納装備一覧.....616
・グローブボックス.....617
・コンソールボックス.....617
・カップホルダー.....618
・ボトルホルダー／ドアポケット.....619
・小物入れ.....620
・カードホルダー.....621
・シートバックポケット.....621
ラゲージルーム内装備.....622

6-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備 627
・サンバイザー.....627
・バニティミラー.....627
・アクセサリーソケット 628
・アクセサリーコンセント 629
・ワイヤレス充電器（おくだけ充電）.....640
・アームレスト.....646
・コートフック.....646
・アシストグリップ.....647
・ステアリングスイッチ 648

7 お手入れのしかた

7-1. お手入れのしかた

外装の手入れ.....650
内装の手入れ.....655

7-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット.....662
ガレージジャッキ 665
ウォッシャー液の補充 666
タイヤについて.....668
タイヤ空気圧について 672
タイヤの交換.....674
エアコンフィルターの交換.....685
ワイパーゴムの交換 689
電子キーの電池交換 692
ヒューズの点検、交換 695
電球（バルブ）の交換 698

8 万一の場合には

8-1. まず初めに

故障したときは 708
非常点滅灯（ハザードランプ）..... 709
発炎筒 710
車両を緊急停止するには..... 712
水没・冠水したときは 713

8-2. 緊急時の対処法

けん引について 715
警告灯がついたときは 722
警告メッセージが表示されたときは..... 727
パンクしたときは 736
ハイブリッドシステムが始動できないときは..... 753
電子キーが正常に働かないときは 755
補機バッテリーがあがったときは 759
オーバーヒートしたときは 765
スタックしたときは 770

9 車両情報

9-1. 仕様一覧
メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）.....774
9-2. カスタマイズ機能
ユーザーカスタマイズ機能一覧.....780
9-3. 初期設定
初期設定が必要な項目 790

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）.....792
車から音が鳴ったときは（音さくいん）.....796
アルファベット順さくいん.....798
五十音順さくいん 800

マルチメディアシステム装着車にお乗りのお客さまは、次の装備については別冊「マルチメディア取扱書」をお読みください。

・オーディオ＆ビジュアル
・音声操作システム
・バックガイドモニター
・ハンズフリー
・T-Connect

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取り扱い説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

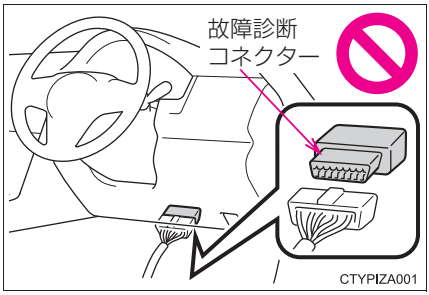
本文中では、この車両独自の機能説明（外部電源からの充電等）や車両固有の注意などの記載部分では「プラグインハイブリッドシステム」、その他の記載は「ハイブリッドシステム」と表記しています。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因になったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
  また、このような改造は Toyota Safety Sense のような先進安全装備にも影響を与え、正しく作動しない危険や作動すべきでない場面での作動をする恐れがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
  - ・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
    異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
  - ・電装品・無線機などの取り付け・取りはずし
    電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
    RF 送信機の取り付けについては、P. 12 も参照してください。
- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。
電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

・エンジン回転数／電気モーター回転数
・アクセルペダルの操作状況
・ブレーキペダルの操作状況
・車速
・運転支援システムの作動状況
・カメラの画像情報
　車両には複数のカメラがついています。どのカメラが画像を記録しているかは、トヨタ販売店にお問い合わせください。
・駆動用電池の状態

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・トヨタが訴訟で使用する場合
・統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● 記録した画像情報はトヨタ販売店にて消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

T-Connect によるデータの取り扱いについて

お客様が T-Connect をご利用の場合、記録データとその使用について、T-Connect 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDRは、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。
EDRは車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。
・車両の各システムの作動状況
・アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
・車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両またはEDRに接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。
・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは
・データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
・使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- ハイブリッドシステム
- EFI コンピュータ
- Toyota Safety Sense
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

プラスサポートについて（GR SPORT を除く）

トヨタ販売店で専用の電子キーをご購入し、ご使用いただくことで、プラスサポート（→ P. 513）の機能が利用可能になります。詳細については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

本書の見方

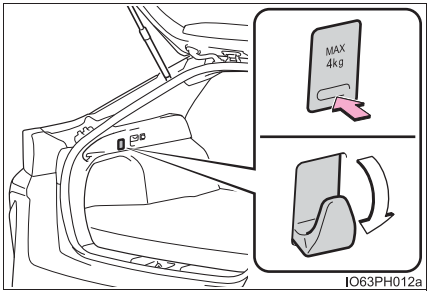
警告 お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。

注意 お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。

1 2 3… 操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

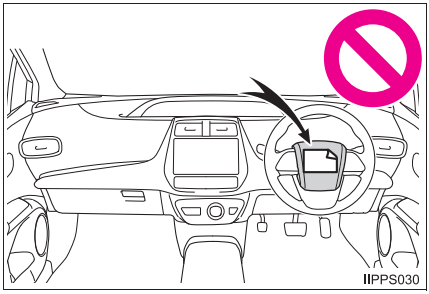
押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。

フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



説明の対象となるもの・場所を示しています。

“してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味です。

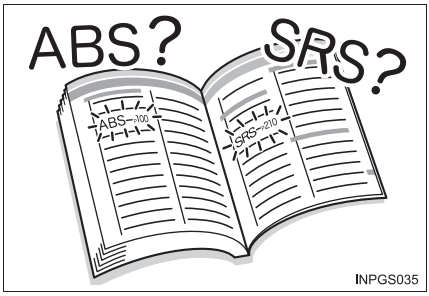


知識 機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

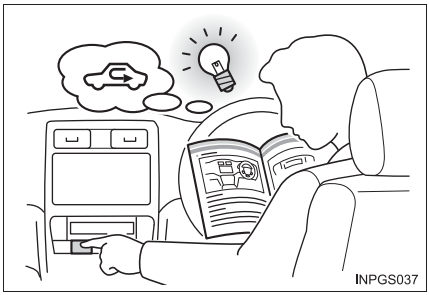
■ 名称から探す

・五十音順さくいん.....800
・アルファベット順
さくいん.....798



■ 取り付け位置から探す

・イラスト目次.....16

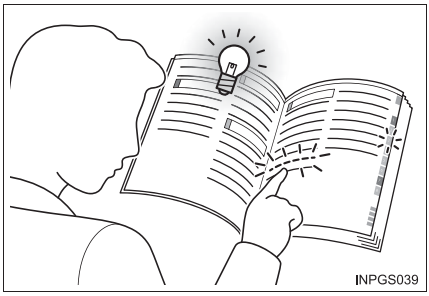


■ 症状や音から探す

・こんなときは
（症状別さくいん）.....792
・車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....796

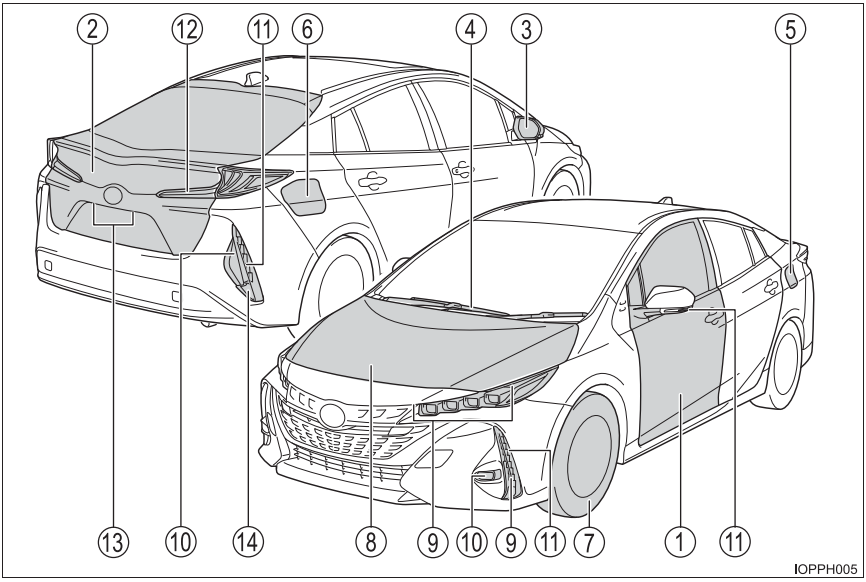
■ タイトルから探す

・目次.....2



イラスト目次

■外観（GR SPORT を除く）



① **ドア . . . . . P. 323**

施錠／解錠 . . . . . P. 323

ドアガラスの開閉 . . . . . P. 354

メカニカルキーでの施錠／解錠 . . . . . P. 755

警告灯・警告メッセージ . . . . . P. 724, 727

② **バックドア . . . . . P. 328**

車外から開ける . . . . . P. 328

警告灯・警告メッセージ . . . . . P. 724, 727

③ **ドアミラー . . . . . P. 352**

鏡面の角度調整 . . . . . P. 352

ミラーの格納 . . . . . P. 352

曇りを取る（ミラーヒーター）★ . . . . . P. 598

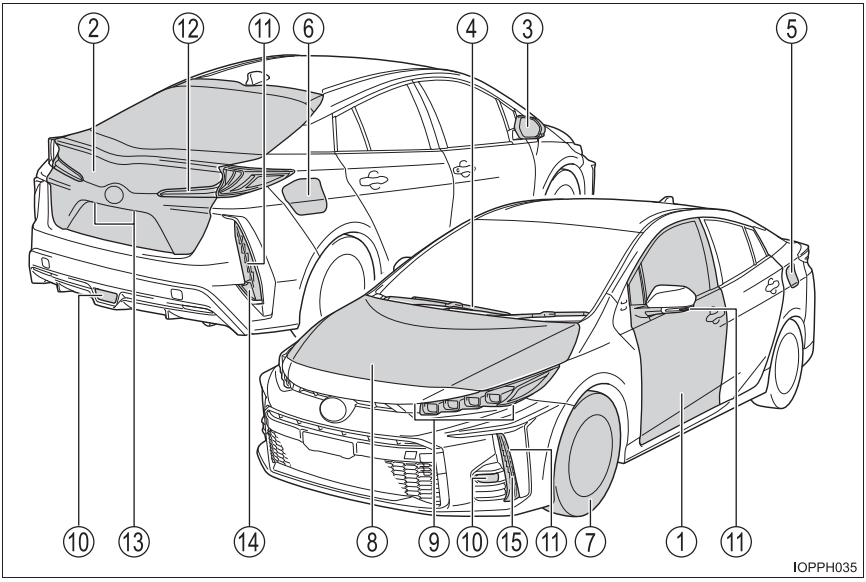
④ **ワイパー** . . . . . **P. 405**
冬季の注意 . . . . . P. 589
凍結防止（ウインドシールドデアイサー）★ . . . . . P. 598
洗車時の注意（雨滴感知式ワイパー装着車）. . . . . P. 652
ワイパーゴムの交換 . . . . . P. 689
⑤ **給油口** . . . . . **P. 409**
給油方法 . . . . . P. 409
燃料の種類・燃料タンク容量 . . . . . P. 774
⑥ **充電ポート** . . . . . **P. 98**
充電方法 . . . . . P. 132
外部電源供給システム . . . . . P. 208, 230
⑦ **タイヤ** . . . . . **P. 668**
交換 . . . . . P. 674
サイズ・空気圧 . . . . . P. 779
冬用タイヤ・タイヤチェーン . . . . . P. 589
点検・ローテーション . . . . . P. 668
パンク時の対処 . . . . . P. 736
⑧ **ボンネット** . . . . . **P. 662**
開け方 . . . . . P. 662
エンジンオイル . . . . . P. 775
オーバーヒート時の対処 . . . . . P. 765

走行に関わる外装のランプバルブ（交換要領：P. 698, ワット数：P. 779）

⑨ **ヘッドランプ・車幅灯・薄暮灯★** . . . . . **P. 388**
⑩ **フロントフォグランプ★・リヤフォグランプ★** . . . . . **P. 402**
⑪ **方向指示灯** . . . . . **P. 386**
⑫ **尾灯** . . . . . **P. 388**
⑬ **番号灯** . . . . . **P. 388**
⑭ **後退灯**
シフトポジションを R にする . . . . . P. 380

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■外観（GR SPORT）



① **ドア . . . . . P. 323**

施錠／解錠 . . . . . P. 323

ドアガラスの開閉 . . . . . P. 354

メカニカルキーでの施錠／解錠 . . . . . P. 755

警告灯・警告メッセージ . . . . . P. 724, 727

② **バックドア . . . . . P. 328**

車外から開ける . . . . . P. 328

警告灯・警告メッセージ . . . . . P. 724, 727

③ **ドアミラー . . . . . P. 352**

鏡面の角度調整 . . . . . P. 352

ミラーの格納 . . . . . P. 352

曇りを取る（ミラーヒーター）★ . . . . . P. 598

④ **ワイパー . . . . . P. 405**

冬季の注意 . . . . . P. 589

凍結防止（ウインドシールドデアイサー）★ . . . . . P. 598

ワイパーゴムの交換 . . . . . P. 689

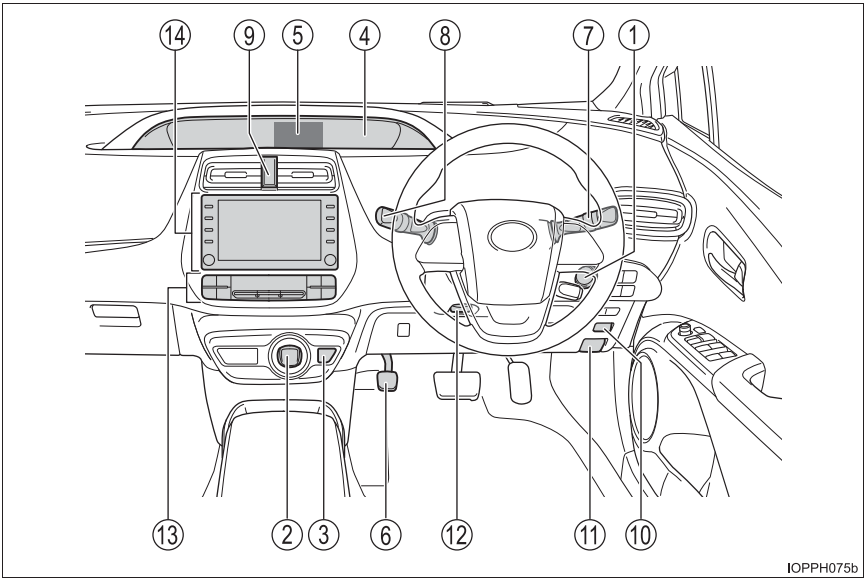
⑤ **給油口**. . . . . .**P. 409**
給油方法 . . . . . .P. 409
燃料の種類・燃料タンク容量. . . . . .P. 774
⑥ **充電ポート** . . . . . .**P. 98**
充電方法 . . . . . .P. 132
外部電源供給システム. . . . . .P. 208, 230
⑦ **タイヤ**. . . . . .**P. 668**
交換 . . . . . .P. 674
サイズ・空気圧. . . . . .P. 779
冬用タイヤ . . . . . .P. 589
点検・ローテーション. . . . . .P. 668
パンク時の対処. . . . . .P. 736
⑧ **ボンネット** . . . . . .**P. 662**
開け方. . . . . .P. 662
エンジンオイル. . . . . .P. 775
オーバーヒート時の対処 . . . . . .P. 765

走行に関わる外装のランプバルブ（交換要領：P. 698, ワット数：P. 779）

⑨ **ヘッドランプ・車幅灯**. . . . . .**P. 388**
⑩ **フロントフォグランプ・リヤフォグランプ**. . . . . .**P. 402**
⑪ **方向指示灯** . . . . . .**P. 386**
⑫ **尾灯** . . . . . .**P. 388**
⑬ **番号灯**. . . . . .**P. 388**
⑭ **後退灯**
シフトポジションを R にする . . . . . .P. 380
⑮ **LED イルミネーションビーム** . . . . . .**P. 401**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■インストルメントパネル



① **パワースイッチ . . . . . P. 374**

ハイブリッドシステムの始動・モード切りかえ . . . . . P. 374

ハイブリッドシステムの緊急停止 . . . . . P. 712

ハイブリッドシステムが始動できないときの対処 . . . . . P. 753

警告メッセージ . . . . . P. 727

② **シフトレバー . . . . . P. 380**

シフトポジションの切りかえ . . . . . P. 380

けん引時の注意 . . . . . P. 715

③ **P ポジションスイッチ . . . . . P. 381**

④ **メーター . . . . . P. 246**

見方・明るさの調整 . . . . . P. 246, 248

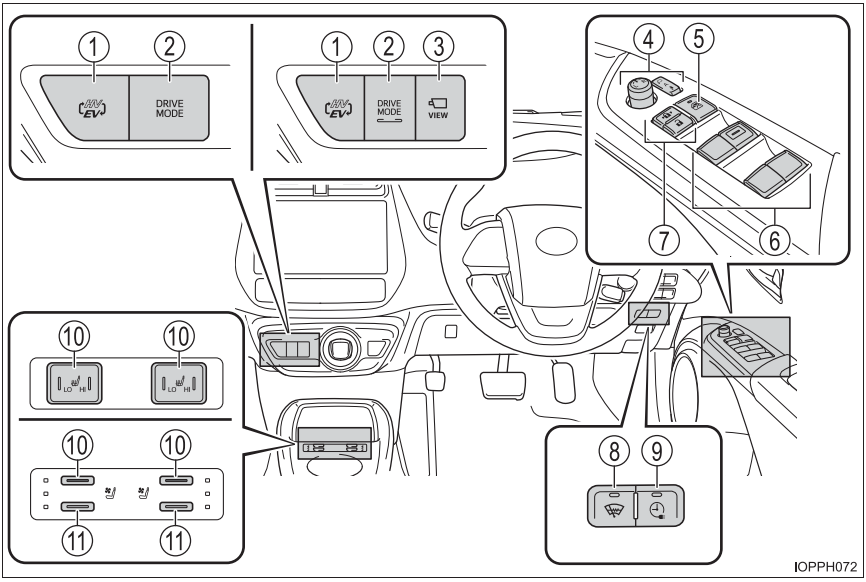
警告灯／表示灯 . . . . . P. 255

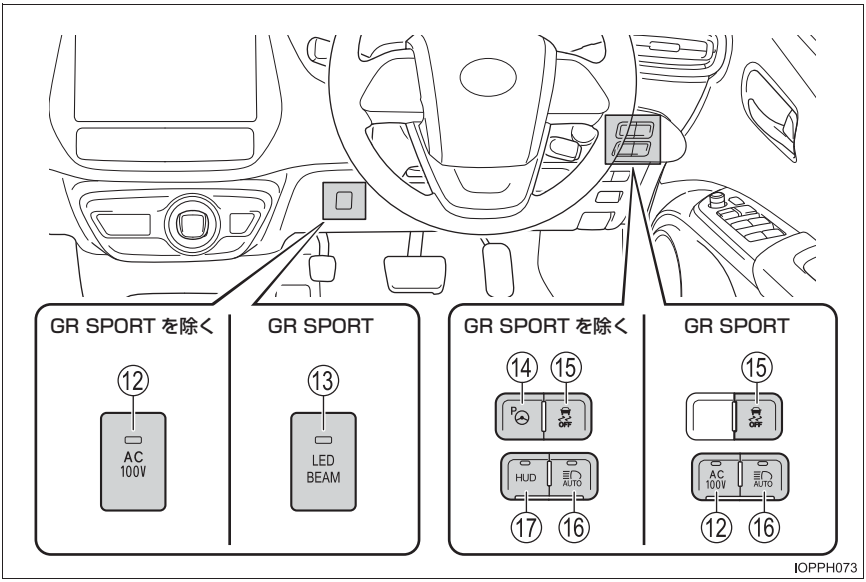
警告灯点灯時の対処 . . . . . P. 722

⑤ **マルチインフォメーションディスプレイ . . . . . .P. 269**
表示内容 . . . . . .P. 269
エネルギーモニター . . . . . .P. 272
警告メッセージ表示時の対処. . . . . .P. 727
⑥ **パーキングブレーキ . . . . . .P. 387**
かける・解除する . . . . . .P. 387
冬季の注意 . . . . . .P. 590
警告ブザー . . . . . .P. 387
⑦ **方向指示レバー. . . . . .P. 386**
ランプスイッチ. . . . . .P. 388
ヘッドランプ・車幅灯・尾灯・薄暮灯★. . . . . .P. 388
フロントフォグランプ★・リヤフォグランプ★. . . . . .P. 402
⑧ **ワイパー&ウォッシャースイッチ . . . . . .P. 405**
使い方. . . . . .P. 405
ウォッシャー液の補充. . . . . .P. 666
⑨ **非常点滅灯スイッチ . . . . . .P. 709**
⑩ **給油口オープナー . . . . . .P. 412**
⑪ **ボンネット解除レバー. . . . . .P. 662**
⑫ **ハンドル位置調整レバー . . . . . .P. 348**
⑬ **オートエアコン. . . . . .P. 594**
操作方法 . . . . . .P. 594
リヤウインドウの曇り取り
（リヤウインドウデフォッガー）. . . . . .P. 598
⑭ **オーディオ★※**
音楽を聴く※
電話をかける・受ける（ハンズフリー）※

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
※：別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

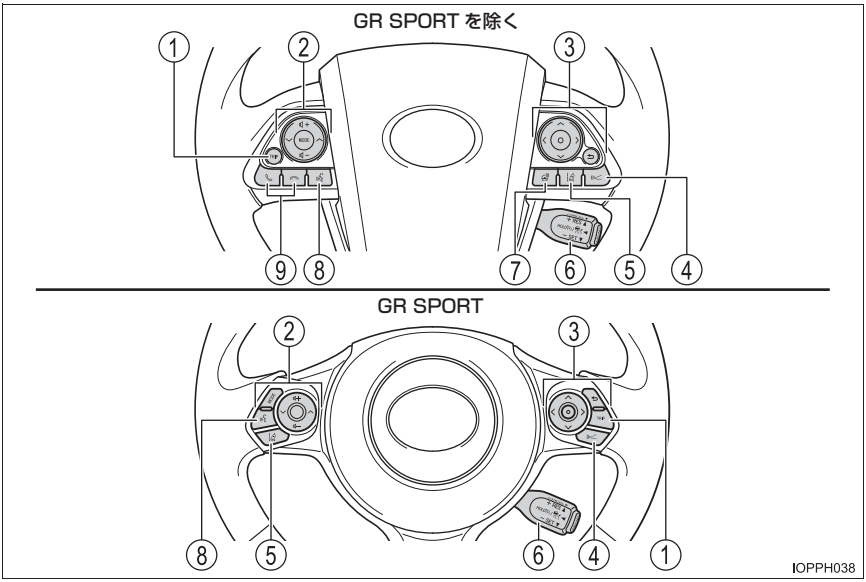
■スイッチ類


DRIVE MODE
DRIVE MODE
VIEW
LO HI
LO HI
IOPPH072


GR SPORT を除く
GR SPORT
AC 100V
LED BEAM
GR SPORT を除く
GR SPORT
HUD
AUTO
AC 100V
AUTO
IOPPH073

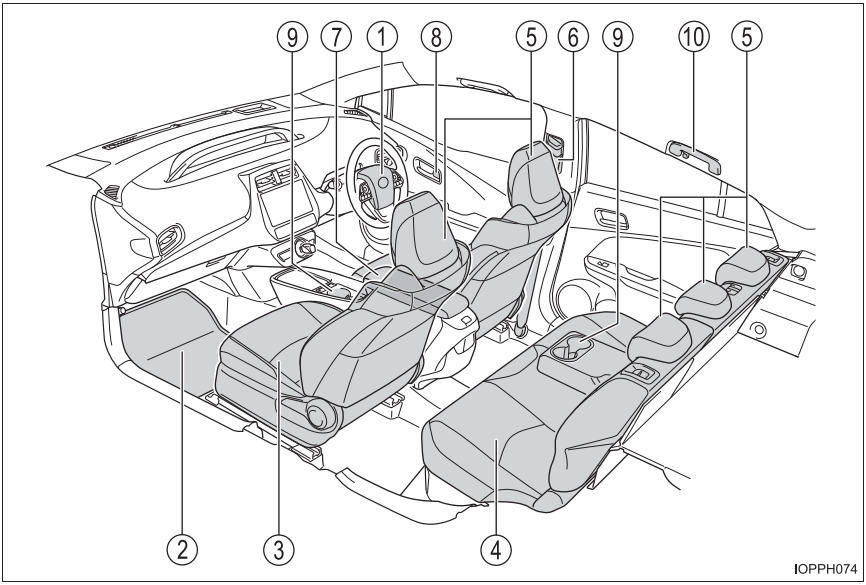
① EV ／ HV モード切りかえスイッチ . . . . . P. 75
② ドライブモードセレクトスイッチ . . . . . P. 477
③ パノラミックビューモニターメインスイッチ★ . . . . . P. 558
④ ドアミラースイッチ . . . . . P. 352
⑤ ウインドウロックスイッチ . . . . . P. 354
⑥ パワーウインドウスイッチ . . . . . P. 354
⑦ ドアロックスイッチ . . . . . P. 325
⑧ ウインドシールドデアイサースイッチ★. . . . . P. 598
⑨ タイマー充電スイッチ. . . . . P. 168
⑩ シートヒータースイッチ★. . . . . P. 612
⑪ シートベンチレータースイッチ★. . . . . P. 612
⑫ AC100V スイッチ. . . . . P. 630
⑬ LED イルミネーションビームスイッチ★ . . . . . P. 401
⑭ S-IPA（シンプルインテリジェントパーキングアシスト）
スイッチ★. . . . . P. 521
⑮ VSC OFF スイッチ . . . . . P. 552
⑯ オートマチックハイビームスイッチ★ . . . . . P. 392
アダプティブハイビームシステムスイッチ★ . . . . . P. 397
⑰ HUD（ヘッドアップディスプレイ）スイッチ★. . . . . P. 306

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



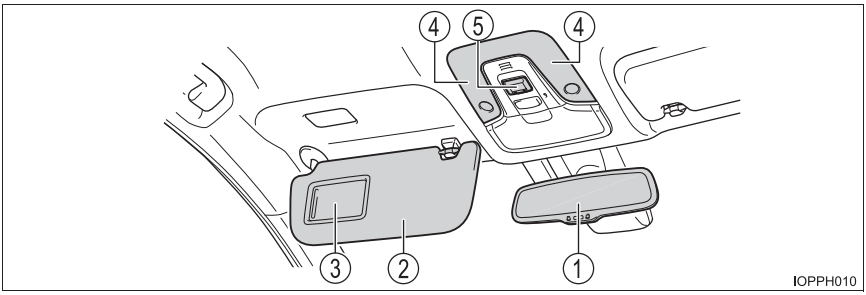
① TRIP スイッチ . . . . . .P. 264
② オーディオスイッチ ※ . . . . . .P. 648
③ メーター操作スイッチ . . . . . .P. 247
④ 車間距離切りかえスイッチ . . . . . .P. 453
⑤ LTA（レーントレーシングアシスト）スイッチ . . . . . .P. 436
⑥ クルーズコントロールスイッチ
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）. . . . . .P. 447
⑦ ステアリングヒータースイッチ★. . . . . .P. 611
⑧ トークスイッチ ※ . . . . . .P. 648
⑨ 電話スイッチ★ ※ . . . . . .P. 648

室内



① SRS エアバッグ . . . . . P. 36
② フロアマット . . . . . P. 28
③ フロントシート . . . . . P. 341
④ リヤシート . . . . . P. 343
⑤ ヘッドレスト . . . . . P. 345
⑥ シートベルト . . . . . P. 32
⑦ コンソールボックス . . . . . P. 617
⑧ ロックレバー . . . . . P. 325
⑨ カップホルダー . . . . . P. 618
⑩ アシストグリップ . . . . . P. 647

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
※：マルチメディアシステム装着車は、別冊「マルチメディア取扱書」または「ナビゲーション取扱書」を参照してください。



① インナーミラー . . . . . P. 350
② サンバイザー ※1 . . . . . P. 627
③ バニティミラー . . . . . P. 627
④ インテリアランプ ※2 . . . . . P. 614, 615
マップランプ . . . . . P. 614
⑤ ヘルプネットボタン★※3

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1：やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。（→ P. 49）

※2：図はフロントですが、リヤにも装着されています。
※3：別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に.....28
安全なドライブのために.....30
シートベルト.....32
SRS エアバッグ.....36
排気ガスに対する注意.....44
1-2. お子さまの安全
お子さまを乗せるときは.....45
チャイルドシート.....46
1-3. 盗難防止装置
イモビライザーシステム.....66
オートアラーム.....67

運転する前に

点検整備

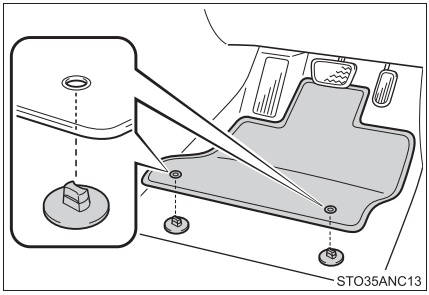
日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。
異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

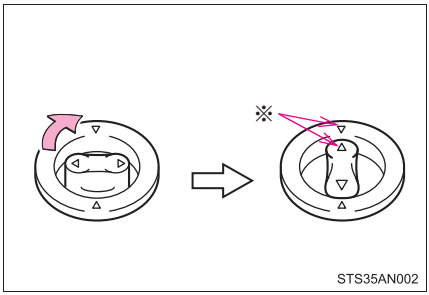
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

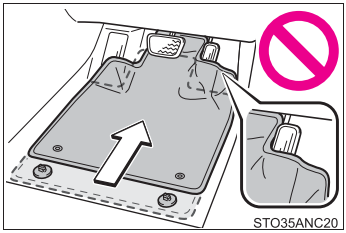
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

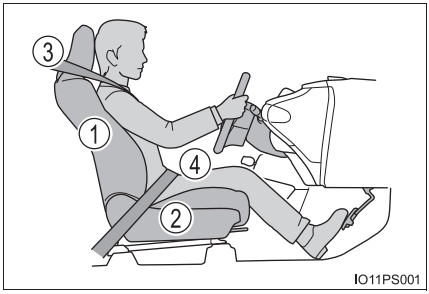
- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- ハイブリッドシステム停止およびシフトポジションが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する


STO35ANC20

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について



① まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→ P. 341）

② ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→ P. 341）

③ ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→ P. 345）

④ シートベルトを正しく着用する（→ P. 32）

シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→ P. 32）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。（→ P. 46）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。（→ P. 350, 352）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
  ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
  また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルト

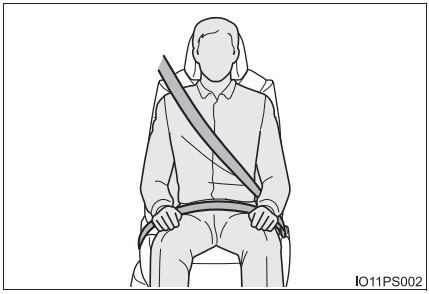
走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

正しく着用する

- 肩部ベルトを肩に十分かける

  首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

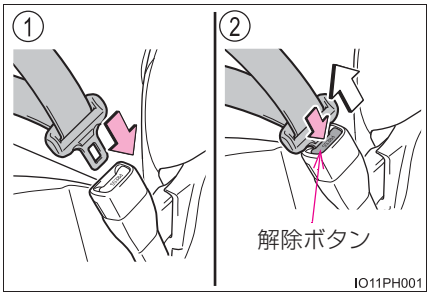
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする



着け方、はずし方

① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

② ベルトを解除するには、プレートに手を添えて解除ボタンを押す

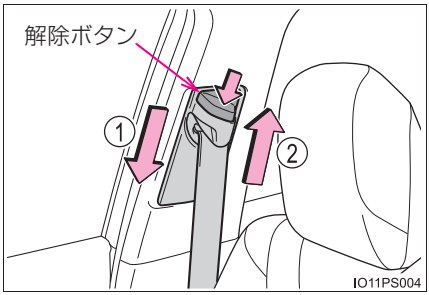


シートベルトの高さ調節（フロント席）

① 解除ボタンを押しながら、アジャスターを下げる

② 解除ボタンを押しながら、アジャスターを上げる

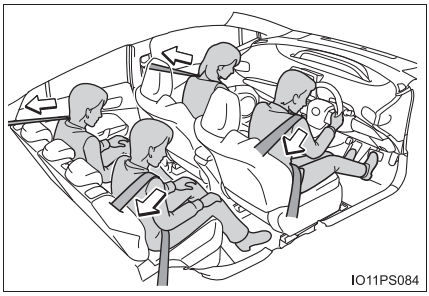
“カチッ” と音がして固定されるところまで動かしてください。



シートベルトプリテンショナー（フロント席・リヤ外側席）

前方・側方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



知識

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを着用するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

●シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。（→ P. 46）

●シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。（→ P. 32）

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

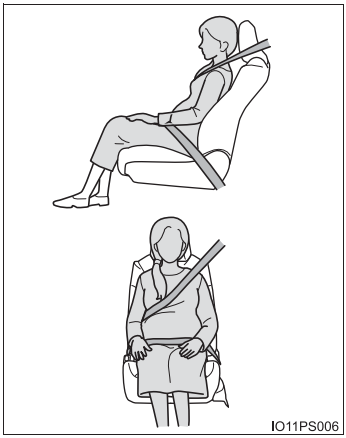
■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。（→ P. 32）
通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



警告

■**疾患のある方の場合**

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。（→ P. 32）

■**お子さまを乗せるとき**

→ P. 61

■**プリテンショナー付きシートベルトについて**

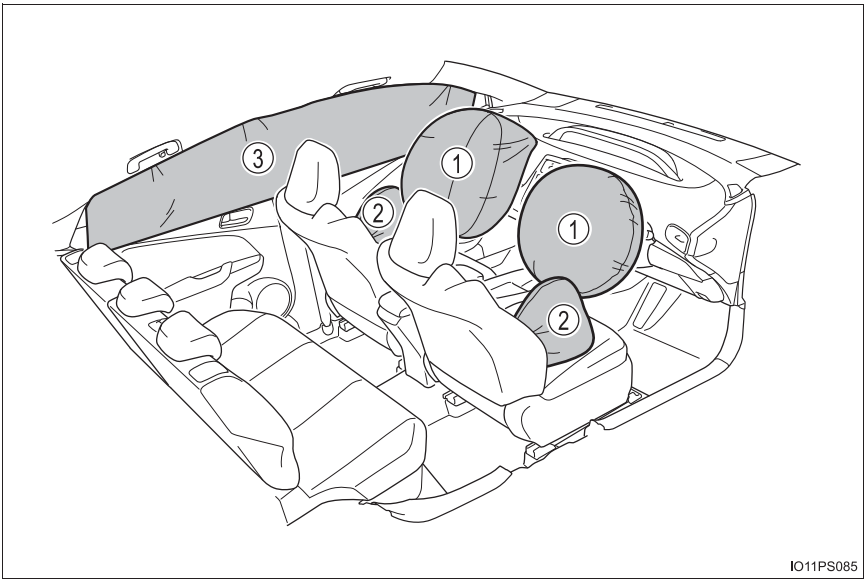
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■**シートベルトの損傷・故障について**

- ベルトやプレート、バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
  不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



◆ フロント SRS エアバッグ

① 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

◆ SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ

② 運転席 SRS サイドエアバッグ／助手席 SRS サイドエアバッグ★
（運転者と助手席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

③ SRS カーテンシールドエアバッグ
（フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和）

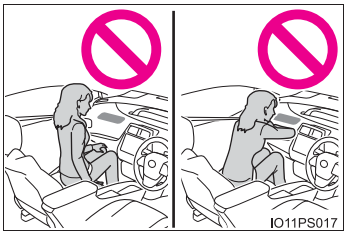
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

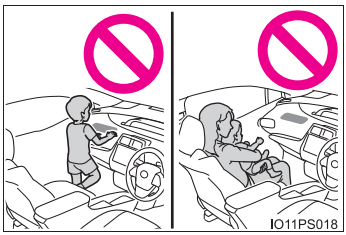
■SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
  SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
  お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。（→ P. 46）
- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



- お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



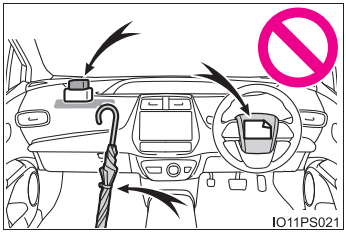
警告

■SRS エアバッグについて

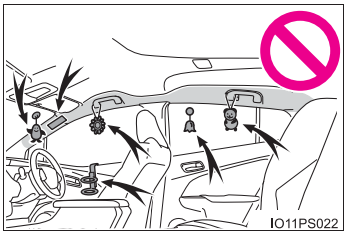
●ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない

●助手席では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

●ダッシュボード・ハンドルのパッド部分などには何も取り付けたり、置いたりしない



●ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー、ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない



●コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■SRS エアバッグについて

●SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺およびフロントドアの周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。

●SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

■改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理

●ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール・フロントドアパネル・フロントドアトリム・フロントドアスピーカーなどの周辺の修理・取りはずし・改造

●フロントドアパネルの穴あけなどの改造

●フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造

●グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウィンチなどの取り付け

●サスペンションの改造

●CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

知識

■SRS エアバッグが作動すると

●SRS エアバックは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。

●作動音と共に白いガスが発生します。

●フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

●ハイブリッドシステムと燃料供給を停止します。（→ P. 85）

●非常点滅灯が自動で点滅します。（→ P. 709）

●T-Connect をご利用のお客様は、次の場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両を手配します。詳しくは別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

・SRS エアバッグが作動した
・シートベルトプリテンショナーが作動した
・後方から強い衝撃を受けた

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。

・駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
・もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

●衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

■SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

●前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

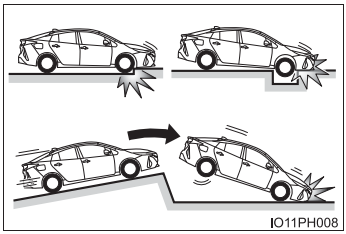
■衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき

●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



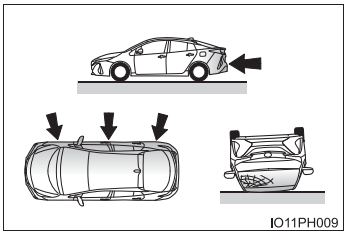
■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

●側面からの衝突

●後方からの衝突

●横転

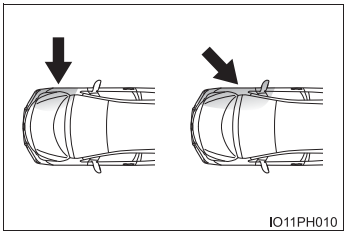


■SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

●客室部分以外の側面への衝撃

●斜めからの衝撃

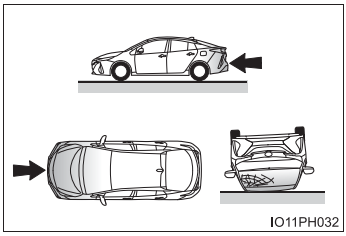


SRSサイドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

●前方からの衝突

●後方からの衝突

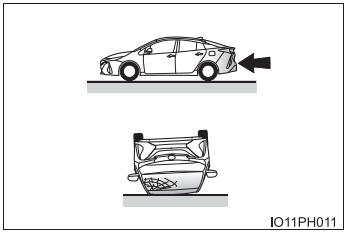
●横転



SRSカーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

●後方からの衝突

●横転

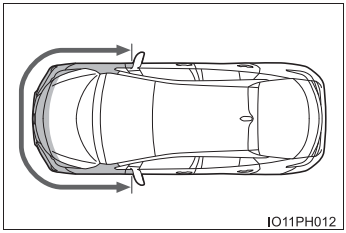


■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

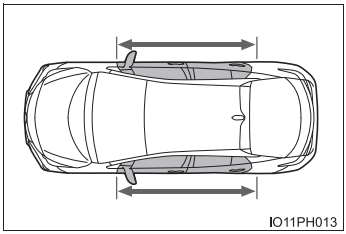
次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

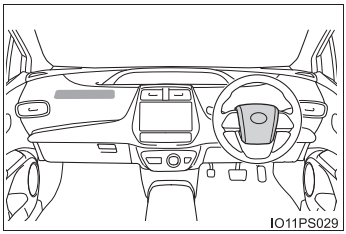
●フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき


IO11PH012

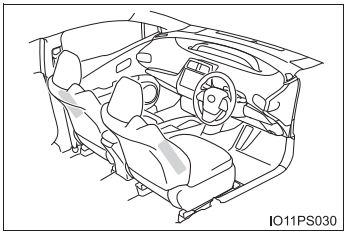
●SRS サイド & カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形・穴あきなどがあるとき


IO11PH013

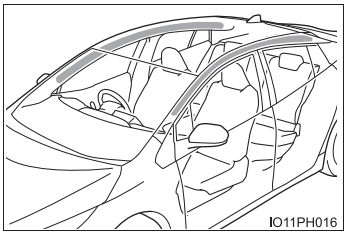
●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席SRSエアバッグ付近が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき


IO11PS029

●SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき


IO11PS030

●SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき


IO11PH016

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。
バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、ハイブリッドシステムを停止してください。
- 長時間ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。
やむを得ないときは、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。（→ P. 46）
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウインドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター（→ P. 326）・ウインドウロックスイッチ（→ P. 354）をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウインドウ・ボンネット・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシート」を参照してください。（→ P. 46）

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
  取り付け方法は、商品に付属の取り扱い説明書に必ず従ってください。
- トヨタでは、より安全にお使いいただくために、トヨタ純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
  トヨタ純正チャイルドシートは、トヨタ車のために作られたチャイルドシートです。トヨタ販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 46
チャイルドシートを使用するときは・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 48
シート位置別チャイルドシートの適合性について・・・・・・・・・P. 51
チャイルドシートの取り付け方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 59
・シートベルトで固定する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 60
・ISOFIX ロアアンカレッジで固定する・・・・・・・・・・・・・・P. 62
・トップテザーアンカレッジを使用する・・・・・・・・・・・・・・・・P. 64

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。（→ P. 51）

警告

■お子さまを乗せるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- トヨタでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いため、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください（→ P. 51）。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートを使用するときは

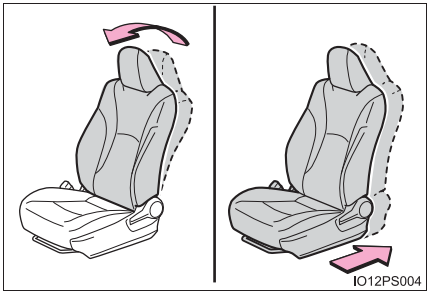
■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

● 背もたれを可能な限り起こす

背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



● シートをいちばんうしろに下げる

● ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずす

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

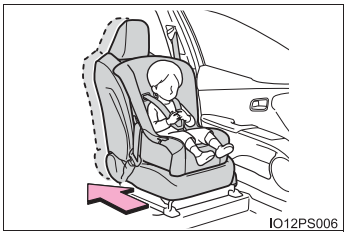
警告

■チャイルドシートを使用するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

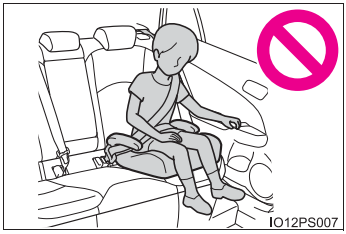
●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。
助手席SRSエアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



警告

■チャイルドシートを使用するとき

●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

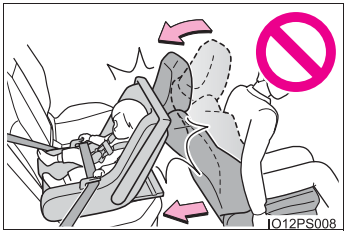


●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。

●助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。



シート位置別チャイルドシートの適合性について

■ シート位置別チャイルドシートの適合性について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→ P. 53）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。

推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。（→ P. 57）

次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

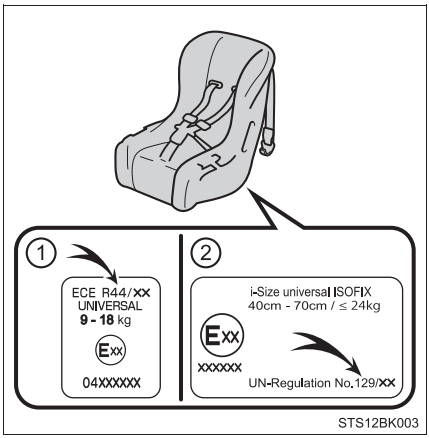
1 チャイルドシートの規格を確認する

UN（ECE）R44※1 または、UN（ECE）R129※1 に適合したチャイルドシートを使用してください。
適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。
チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。

法規番号の表示例

① UN（ECE）R44 認可マーク※2
対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

② UN（ECE）R129 認可マーク※2
対象となるお子さまの身長の範囲および使用可能な体重が記載されています。



※1 UN（ECE）R44、UN（ECE）R129 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

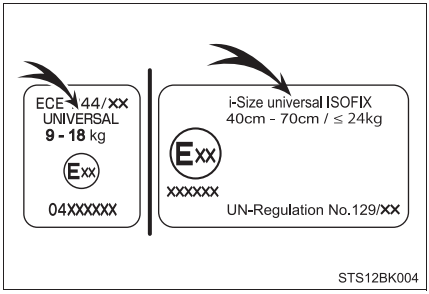
※2 表示されているマークは、商品により異なります。

2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する

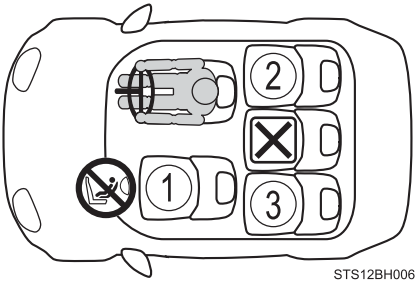
チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。

また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取り扱い説明書を確認いただくか、または販売業者へ確認してください。

・ユニバーサル「universal（汎用）」
・セミユニバーサル「semi-universal（準汎用）」
・リストリクティッド「restricted（限定）」
・ビークルスペシフィック「vehicle specific（特定車両）」



■ シート位置別チャイルドシートの適合性



1 ※1, 2, 3	U ※4 L
2 ※3	U L
3 ※3	U L

U 車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

L 推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→ P. 57）に記載されたチャイルドシートに適しています。

i-Size チャイルドシートおよび ISOFIX チャイルドシートに適しています。

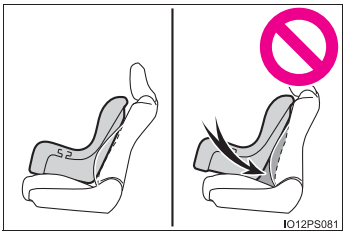
トップテザーアンカレッジが装備されています。

チャイルドシートの取り付けに適していません。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

※1 シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※2 背もたれを可能な限り起こしてください。
前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



※3 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

※4 チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置			
シート位置の番号	①	②	③
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有／無）	有 前向きのみ	有	有
アイサイズ着座位置（有／無）	無	有	有
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1 ／ L2）	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1 ／ R2X ／ R2 ／ R3）	×	R1, R2, R2X, R3	R1, R2, R2X, R3
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X ／ F2 ／ F3）	×	F2X, F2, F3	F2X, F2, F3
搭載可能なジュニアシートの治具（B2 ／ B3）	×	B2, B3	B2, B3

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

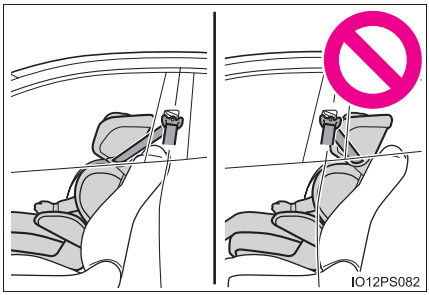
治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

■ 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

質量グループ	推奨チャイルドシート	着座位置		
		①	②	③
0、0+（13kg まで）	トヨタ純正 NEO G-Child baby	×	○	○
	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	×	○	○
Ⅰ（9 ～ 18kg）	トヨタ純正 NEO G-Child baby	○ 前向きのみ	○	○
	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	×	○	○
Ⅱ、Ⅲ（15 ～ 36kg）	トヨタ純正ジュニアシート	○	○	○

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

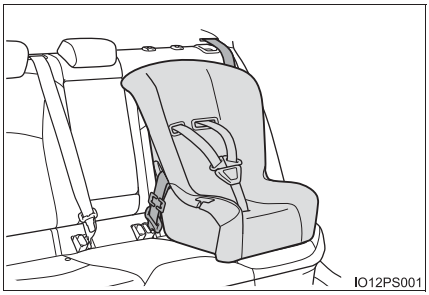
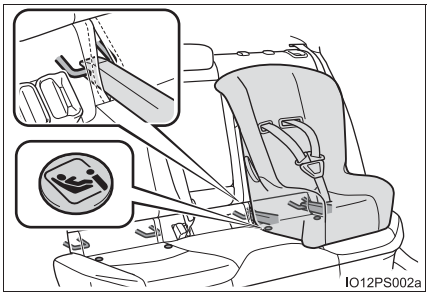
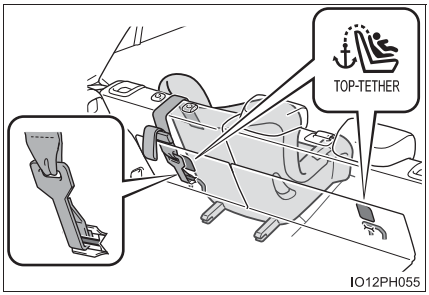
- リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。
- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。
- シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。



- ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートの取り付けについては、チャイルドシートに付属の取り扱い説明書を確認してください。

固定方法		ページ
シートベルトで固定する		P. 60
ISOFIX ロアアンカレッジで固定する		P. 62
テザーベルトを固定する		P. 64

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

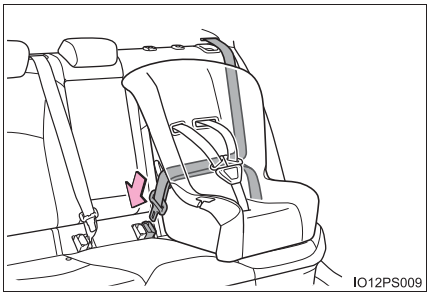
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→ P. 52, 53）

1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。（→ P. 48）

2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→ P. 345）

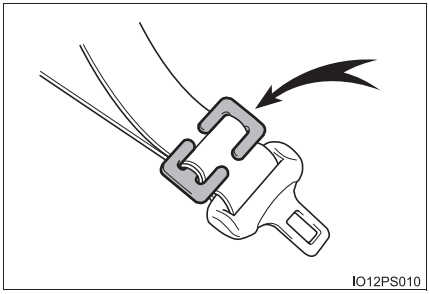
3 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



4 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）



5 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。（→ P. 61）

■ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。
チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

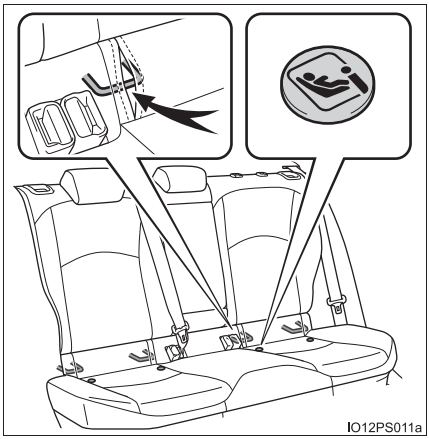
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

■ ISOFIX ロアアンカレッジについて

この車はリヤ外側席にISOFIXロアアンカレッジが装備されています。（ロアアンカレッジが装備されていることを示すボタンがシートに付いています）



■ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→ P. 52, 53）

1 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→ P. 345）

2 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートのコネクタ（取り付け金具）をロアアンカレッジに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従ってください。

3 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する（→ P. 61）

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

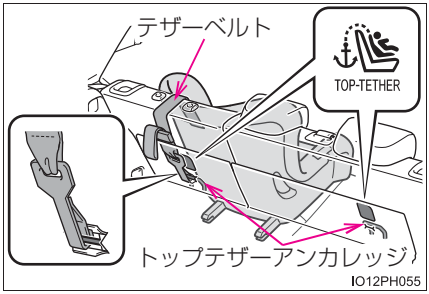
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカレッジを使用する

■ トップテザーアンカレッジについて

この車はリヤ外側席にトップテザーアンカレッジが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。

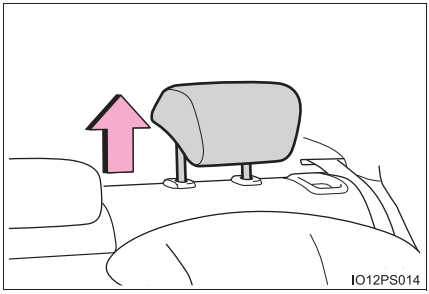


■ テザーベルトをトップテザーアンカレッジに固定する

チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

1 ヘッドレストを上げる

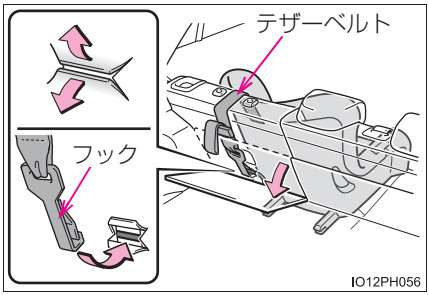
ヘッドレストとチャイルドシートまたはテザーベルトが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。（→ P. 346）



2 トップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。（→ P. 61）

ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。



警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカレッジ以外に掛けないでください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカレッジに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。

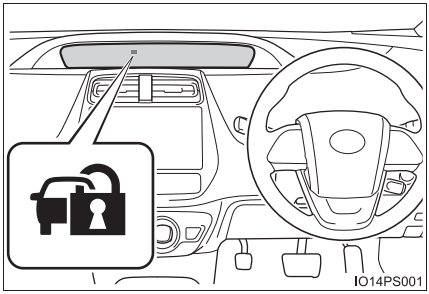
イモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではハイブリッドシステムを始動できません。
車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

パワースイッチをOFFにすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、パワースイッチをアクセサリーモードまたはON モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。



知識

■メンテナンスについて

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■イモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

オートアラームとは

オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

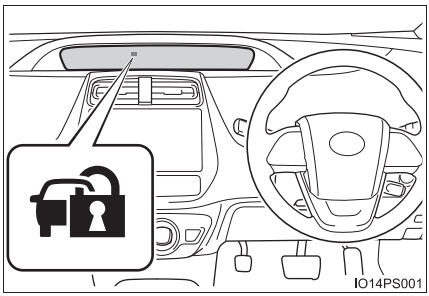
- 施錠されたドアが、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき

※ マルチメディアシステム装着車、かつT-Connectをご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合メールや電話でお知らせすることができます。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

オートアラームを設定する

ドア・ボンネットを閉め、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。
30 秒以上経過すると自動的に設定されます。

オートアラームが設定されるとインジケーターは点灯から点滅にかわります。



オートアラームの設定を解除・作動を停止する

次のいずれかを行ってください。

- スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使ってドアを解錠する
- パワースイッチをアクセサリーモードまたはONモードにするか、ハイブリッドシステムを始動する（数秒後に解除・停止します）

知識

■メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ドアを施錠する前の確認

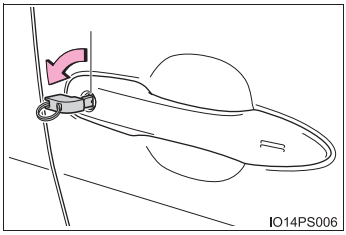
オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスが閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

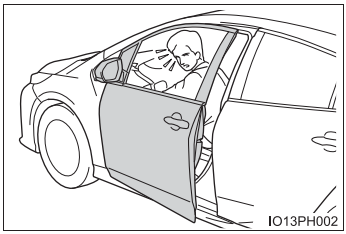
■オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームの設定を解除・作動を停止する操作を行ってください。

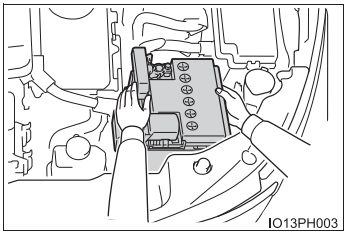
- メカニカルキーを使ってドアを解錠したとき



- 車内に残った人が、ドアやボンネットを開けた、またはロックレバーで解錠したとき



- 施錠後、補機バッテリーあがりなどで補機バッテリーの充電や交換をしたとき
（→ P. 759）



■オートアラーム作動によるドアロック機能について

次のような場合、車内への不正な侵入を防止するため自動的にドアが施錠されることがあります。

●車内に残った人がドアを解錠し、オートアラームが作動したとき

●オートアラーム作動中に車内に残った人がドアを解錠したとき

●補機バッテリーあがりなどで充電・交換したとき

■カスタマイズ機能

メカニカルキーを使って解錠したとき、オートアラームが作動しないように設定を変更できます。（カスタマイズ一覧：→P. 780）

⚠注意

■オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

プラグインハイブリッドシステム

2

2-1. プラグインハイブリッドシステムについて

プラグインハイブリッドシステムの特徴.....72
プラグインハイブリッドシステムの注意.....84
プラグインハイブリッド車運転のアドバイス.....91
EV 走行可能距離について.....94

2-2. 充電について

充電に関する装備について.....98
普通充電ケーブルについて...104
スマートリッド＆コネクターロックシステム.....112
接続可能な外部電源について（普通充電時）.....123
充電方法について.....132
充電に関するアドバイス.....138
充電の前に知っておいていただきたいこと.....141
普通充電のしかた.....145
急速充電・V2H 充電／V2H 給電のしかた.....156
タイマー充電機能を使う.....164
マイルームモードを使う.....185
ソーラー充電システム.....190
正常に充電できないときは...194

2-3. 外部電源供給システムについて

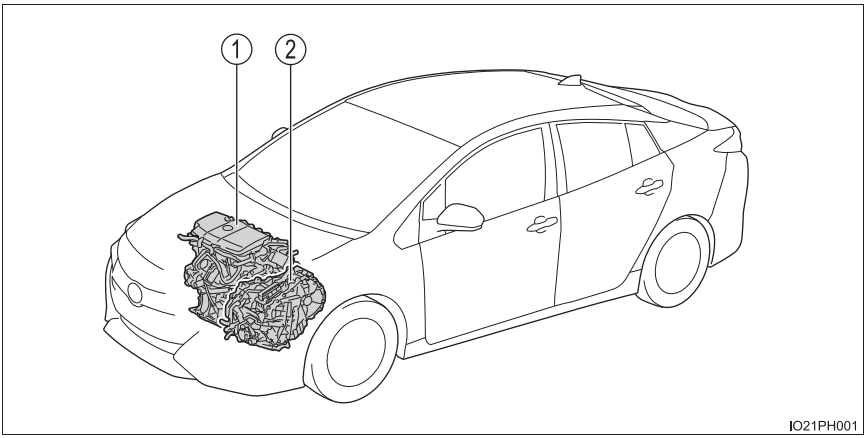
AC 外部電源供給システム....208
AC 外部電源供給システムをご使用になる前に.....212
AC 外部電源供給システムの使い方.....213
DC 外部電源供給システム....230
DC 外部電源供給システムの使い方.....231
外部電源供給システムが正常に作動しないときは.....240

プラグインハイブリッドシステムの特徴

プラグインハイブリッドシステムは、電気自動車の経済性とハイブリッド車の実用性とを併せ持ったシステムです。

- 外部電源から駆動用電池に充電した電気を使用して、EV 走行を楽しむことができます。※
- 駆動用電池の残量が減少した場合は、ガソリンエンジンを併用するハイブリッド車として走行するように自動制御され、長距離のドライブも可能としています。

※ EV 走行距離は、駆動用電池の残量や車速、エアコンの使用状況などにより変化します。また、走行状況により、ガソリンエンジンを併用することがあります。



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

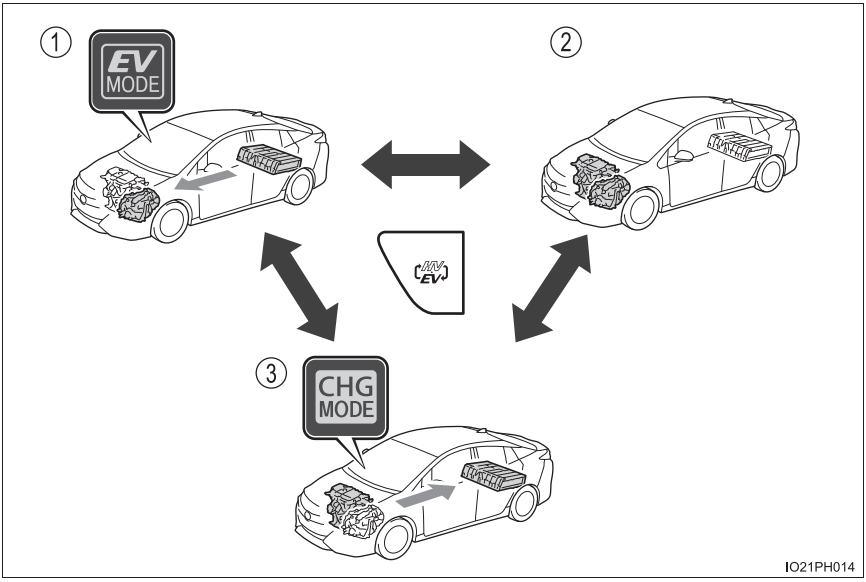
① ガソリンエンジン

② 電気モーター

プラグインハイブリッドシステムの作動モードについて

この車のプラグインハイブリッドシステムは、次の各モードで作動します。

マルチインフォメーションディスプレイでプラグインハイブリッドシステムの作動状況を確認することができます。（→ P. 269）



① EV モード

充電を実施して駆動用電池に充分な残量がある状態のとき ※1 は、駆動用電池に蓄えられた電気を使用して、EV 走行します ※2。

車両が EV モードのときは、EV ドライブモード表示灯が点灯します。

※1 マルチインフォメーションディスプレイの表示などで、駆動用電池の残量を確認できます。（→ P. 283）

※2 一部の状況では EV 走行が解除され、エンジンを併用した走行となります。（→ P. 81）

② HV モード

HV モード時は、ガソリンエンジンと電気モーターを併用して走行します。（→ P. 77）

● EV モードでの EV 走行に必要な電池残量がなくなると、自動で HV モードに移行します。

● EV 走行するための駆動用電池残量を温存したいときなどには、スイッチ操作により、任意のタイミングで HV モードに切りかえることもできます ※ （→ P. 75）。高速道路や登坂路を走行するときは、電気消費量を抑えるために、HV モードで走行することをおすすめします。

車両が HV モードのときは、EV ドライブモード表示灯が消灯します。

※ HV モードに切りかえた場合でも、EV 走行可能距離が低下する場合があります。

③ バッテリーチャージモード （→ P. 75）

EV 走行に必要な駆動用電池の残量がなくなったとき、スイッチ操作でバッテリーチャージモードに切りかえることにより、ガソリンエンジンで発電した電気を駆動用電池に充電することができます。※

● プラグインハイブリッドシステムの状況により、バッテリーチャージモードに切りかえることができない場合があります。（→ P. 76）

● バッテリーチャージモードでの走行時は、車両の走行状況によって充電にかかる時間がかわります。

車両がバッテリーチャージモードのときは、バッテリーチャージモード表示灯が点灯します。

※ バッテリーチャージモードに切りかえると、走行しながら駆動用電池に充電することができますが、発電のためにガソリンエンジンが作動するため、HV モードでの走行時にくらべて、燃料の消費量が増えます。

EV ／ HV モード切りかえスイッチ

スイッチ操作により、任意のタイミングでプラグインハイブリッドシステムの作動モードを切りかえることができます。

EV 走行するために必要な駆動用電池の残量がないときは、EV モードに切りかえることはできません。

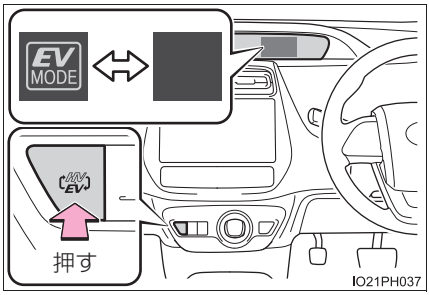
駆動用電池が満充電に近いときは、バッテリーチャージモードに切りかえることはできません。

■ EV モード・HV モードを切りかえるには

スイッチを押す

押すたびに EV モードと HV モードが切りかわります。

EV モードのときは、EV ドライブモード表示灯が点灯します。



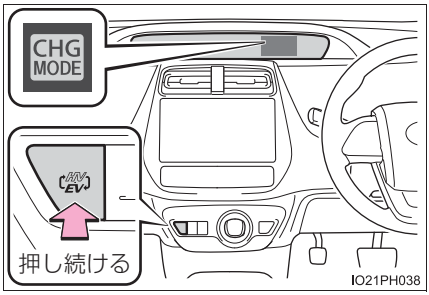
■ バッテリーチャージモードに切りかえるには

スイッチを押し続ける

バッテリーチャージモード表示灯が点滅したら、スイッチから手を離します。

バッテリーチャージモードへの切りかえが完了すると、バッテリーチャージモード表示灯が点灯します。

駆動用電池が満充電 ※ になると、バッテリーチャージモードは自動で解除され、HV モードに遷移します。



バッテリーチャージモード中に EV ／ HV モード切りかえスイッチを押すと、バッテリーチャージモードが解除されます。

※ バッテリーチャージモードでの最大充電量は、普通充電での満充電量の約 80% になります。

知識

■プラグインハイブリッドシステムの作動モードを変更できないとき

次の状況のときは、EV ／ HV モード切りかえスイッチを操作しても、プラグインハイブリッドシステムの作動モードを変更できません。（その場合は、スイッチを操作するとマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます）

●EV 走行するために必要な駆動用電池の残量がないとき（EV モード）

●駆動用電池が満充電に近いとき（バッテリーチャージモード）

■スイッチ操作で EV モードからほかのモードに切りかえたとき

パワースイッチを OFF にすると作動モードの切りかえが解除され、次の始動時には EV モードの状態にもどります。

■バッテリーチャージモードについて

●システム保護などの理由により、次のようなことが起こる場合があります。

・バッテリーチャージモードに移行できなかったり、解除されたりする
・バッテリーチャージモードに切りかえてもガソリンエンジンが始動しない、または停止する

●エアコンの消費電力が大きいときや冷却水温度が高いときなど、システムの負荷が大きい状況では、バッテリーチャージモードによる充電にかかる時間が通常より長くなったり、駆動用電池への充電が実施されなくなったりする場合があります。

各モードでの走行時・減速時の制御について

■ EV モード時

EV モード時は EV 走行（電気モーターのみでの走行）※ できますが、一部の状況では EV 走行が解除され、ガソリンエンジンを併用した走行となります（→ P. 81）。また、駆動用電池の残量が少なくなると、自動的に HV モードに切りかわります。EV モードでの走行状態を長く続けるために、次のような点にご留意ください。

- 急加速や急減速を避け、スムーズな運転を心がけてください。
  急加速をくり返すと、駆動用電池の残量が早く減少します。また、急加速や速度により EV 走行が解除されます。
- なるべく控えめな速度で走行してください。車速が高くなるとEV走行できる距離は大幅に低下します。

※ マルチインフォメーションディスプレイなどで、EV 走行可能距離を確認できます。（→ P. 265, 282, 287, 305）

■ HV モード時

一般的なハイブリッド車と同じように使用することができます。
HV モード時は、走行状況に応じて、主に次のように制御されます。

- 停車中はガソリンエンジンを停止 ※ します。
- 発進時は電気モーターを使って発進します。
- 通常走行時は、ガソリンエンジンと電気モーターを効率よく制御し、燃費効率が最適になるように走行します。また、必要に応じて電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。
- アクセルペダルを大きく踏み込んだときは、ガソリンエンジンと電気モーターの両方の動力により力強く加速します。

※ 駆動用電池の充電が必要なときやエンジン暖機中など、ガソリンエンジンが自動停止しないことがあります。（→ P. 81）

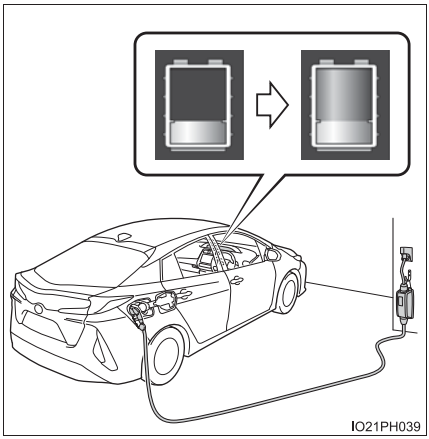
■ 減速時・制動時（回生ブレーキ）

車輪が電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。この回生ブレーキ機能を積極的に活用して駆動用電池に電気を蓄えることで、EV 走行できる距離をのばすことができます。
また、HV モード時も燃料消費を抑えるために、回生ブレーキ機能の活用が有効です。

充電について（→ P. 98）

EV モードを利用可能にするために、車両のご使用前には、あらかじめ外部電源から駆動用電池を充電してください。

駆動用電池の充電が完了していなくても車両は使用可能ですが、残量が十分にないと、EV モードを利用できなかったり、EV 走行できる距離が短くなります。



車両接近通報装置

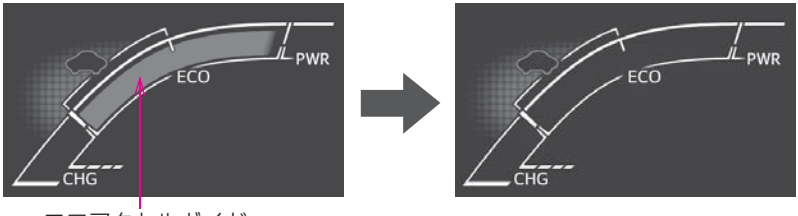
ガソリンエンジンが停止した状態での走行時、車両の接近を周囲の人に知らせるため、車速に応じた音階で通報音を鳴らします。車速が約25km/h をこえると消音します。

先読みエコドライブ（先読み減速支援）（エントリーナビキットまたはT-Connect ナビキット装着車）

本システムは走行の状況や交通情報をもとに作動し、優れた実燃費に貢献する機能です。

先読みエコドライブの詳細については、別冊「ナビゲーション取扱書」を参照してください。

● ナビゲーションシステムに登録された先読み減速支援地点に車両が近づくと、マルチインフォメーションディスプレイ上のエコアクセルガイド（→ P. 280）の表示が消え、余分な加速をし続けないように支援します。



エコアクセルガイド

IO45PS251

● アクセルペダルを離したあとに、走行状況に応じてエンジンブレーキ力を高め、より効率的に駆動用電池を充電します。

知識

■回生ブレーキについて

次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ充電すると共に減速力を得ることができます。

●シフトポジションがDまたはBで走行中に、アクセルペダルから足を離したとき

●シフトポジションが D または B で走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

■EV 走行できる距離

カタログに記載の充電電力使用時走行距離（プラグインレンジ、国土交通省審査値）は、一定の条件における国土交通省指定のパターン走行モードで測定されたものです。

走行条件が異なれば実際の EV 走行距離はカタログ値と異なりますが、これは一般のガソリンエンジン車でも同様です。

●マルチインフォメーションディスプレイなどに表示される、EV 走行可能距離の表示を目安にしてください。（→ P. 265, 282, 287, 305）

●EV 走行距離は、駆動用電池の充電状態や、車速などの状況により変化します。

●駆動用電池の残量が十分にあっても、一部の状況では EV 走行が解除され、エンジンを併用した走行となります。（→ P. 81）

■駆動用電池の残量が減少し、EV モードから HV モードに切りかわったあとは

長い下り坂を連続して走行するなどして駆動用電池の充電量が回復すると、EV 走行可能距離がマルチインフォメーションディスプレイなどに表示され、EV モードに自動的に復帰します。
EV 走行可能距離が表示されているのに EV モードに切りかわらないときは、EV ／ HV モード切りかえスイッチを押して EV モードに切りかえることができます。

■燃料補給について

プラグインハイブリッド車は、外部からの充電により蓄えた電気を使用して走行することができますが、EV モード中でも一部の状況（→ P. 81）ではガソリンエンジンを使用するほか、HV モード中は走行の動力源としてガソリンエンジンを併用するため、燃料の補給は不可欠です。燃料計を確認し、残量が少なくなったときはすみやかに燃料を補給してください。（→ P. 409）

■EV モード時のガソリンエンジンの作動について

駆動用電池の残量が十分にあり、EV 走行可能距離（→ P. 265, 282, 287, 305）がマルチインフォメーションディスプレイなどに表示されていても、一部の状況では自動で EV 走行（電気モーターのみでの走行）が解除され、ガソリンエンジンを併用した走行に切りかわります（再度 EV 走行が可能な状態になった場合は、自動的に EV 走行に復帰します）。

EV 走行が自動的に解除される状況には、主に次のようなものがあります ※。

●車速が約 135km/h 以上のとき

●アクセルペダルを大きく踏み込んだときや急加速時など、一時的にパワーが必要なとき

●ハイブリッドシステムが高温のとき
炎天下に駐車したあとや、登降坂・高速走行後など

●ハイブリッドシステムが低温のとき

●外気温が約－ 10 ℃を下まわる状態で暖房を使用したとき

●フロントウインドウガラスの曇り取りスイッチ（→ P. 597）を押したとき

●ガソリンエンジンの始動が必要であるとシステムが判断したとき

※ 状況により、上記のほかにも EV 走行が解除される場合があります。

■ガソリンエンジンの自動停止について

車両の状態に応じて、ガソリンエンジンが自動的に始動・停止します。ただし、次の状態では自動停止しないことがあります。※

●ガソリンエンジン暖機中

●駆動用電池充電時

●駆動用電池の温度が高いとき、または低いとき

●フロントウインドウガラスの曇り取りスイッチ（→ P. 597）を押したとき

※ 状況により、上記のほかにもガソリンエンジンが自動停止しない場合があります。

■車を長期間使用しなかったとき

●車を長期間使用しなかった場合は、補機バッテリーや駆動用電池が充電不足になっている可能性があります。駆動用電池が極端に充電不足になるのを防ぐため、外部電源から充電するか、少なくとも 2 ～ 3ヶ月に一度はハイブリッドシステムを始動し、ガソリンエンジンの作動が自動的に停止したあと、パワースイッチを OFF にしてください。（READY インジケーターが点灯後、約 10 秒経過してもガソリンエンジンが作動しない場合は、そのままパワースイッチを OFF にしても問題ありません）

・マルチインフォメーションディスプレイに「補機バッテリー（始動用）充電不足」が表示された場合は、P. 732 の記載に従って対処してください。
・補機バッテリーがあがってしまっている場合は、「補機バッテリーがあがったときは」（→ P. 759）の記載に従って、対処してください。

●車両に充電ケーブルを接続したまま長期間放置すると、システムチェックなどの制御が働くことにより、補機バッテリーの電力消費量が増加します。充電ケーブルを接続しておく必要がないときは、すみやかに車両から取りはずしておいてください。

●ソーラー充電システム装着車にお乗りのお客様は、P. 193 の記載も参照してください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

この車は READY インジケーターが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のようにエンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気が付かない場合があります。安全のため、駐車時はパーキングブレーキをかけて、確実にシフトポジションを P にしてください。
ハイブリッドシステム始動後は、次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

●エンジンルームからのモーター音

●ハイブリッドシステム始動時や停止時に聞こえる、車両後方および駆動用電池からの音

●ハイブリッドシステム始動時および停止時に車両後方から聞こえる“コトン”、“カチッ”などの高電圧リレーの音

●バックドアを開けたときに聞こえる作動音

●ガソリンエンジンの始動・停止時や低速走行時、およびアイドリング中にトランスミッション付近から聞こえる音

●急加速時のエンジン音

●ブレーキペダルを踏んだときや、アクセルペダルをゆるめたときに聞こえる回生ブレーキの音

●ガソリンエンジンの始動・停止による振動

●駆動用電池冷却用吸入口（→ P. 85）から聞こえるファンの音

■車両接近通報装置について

次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなることがあります。

●周囲の騒音が大きい場合

●雨または強風の場合

また、車両接近通報装置は車両前側にあるので、車両前方と比較して、車両後方は聞こえにくくなることがあります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「車両接近通報装置故障 販売店で点検してください」が表示されたとき

車両接近通報装置に異常があるおそれがあります。トヨタ販売店に連絡してください。

■メンテナンスや修理・廃車について

お車のメンテナンスや修理・廃車の際は必ずトヨタ販売店にご相談ください。
特に廃車する場合は、トヨタ販売店を通じて駆動用電池の回収を行っていますので、ご協力ください。

⚠警告

■バッテリーチャージモードを使用するとき

バッテリーチャージモードを駐車中に使用するときは、次のことをお守りください。

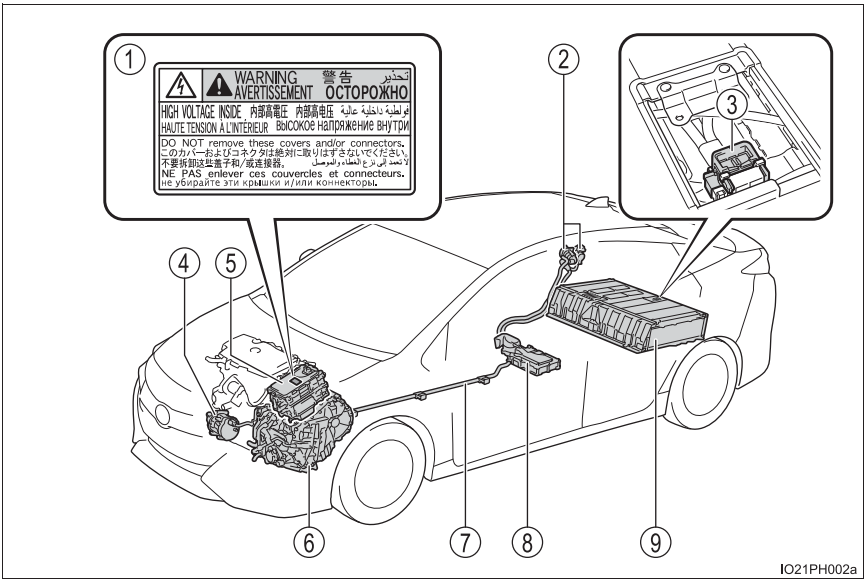
バッテリーチャージモードの使用中はガソリンエンジンが作動するため、お守りいただかないと思わぬ事故の原因となり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●燃えやすいものや可燃物の付近などに車を停めない

●車庫内や雪が積もった場所など、換気が悪く囲まれた場所では、バッテリーチャージモードを使用しない

プラグインハイブリッドシステムの注意

ハイブリッドシステムには、駆動用電池・パワーコントロールユニット・オレンジ色の高圧ケーブル・電気モーターなどの高電圧部位（最高約600V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。なお、高電圧部位などには、取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してありますので、ラベルの指示に従って正しい取り扱いをしてください。

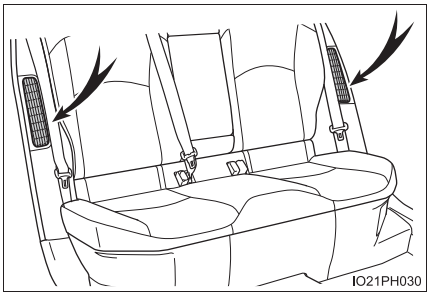


イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

① ラベル
② 充電インレット
③ サービスプラグ
④ エアコンコンプレッサー
⑤ パワーコントロールユニット・DC ／ DC コンバーター
⑥ 電気モーター
⑦ 高電圧ケーブル（オレンジ色）
⑧ 充電器
⑨ 駆動用電池

駆動用電池冷却用吸入口

リヤシートの左右には、駆動用電池冷却用の吸入口があります。吸入口がふさがれると、駆動用電池の入出力に制限がかかる原因になります。



緊急停止システム

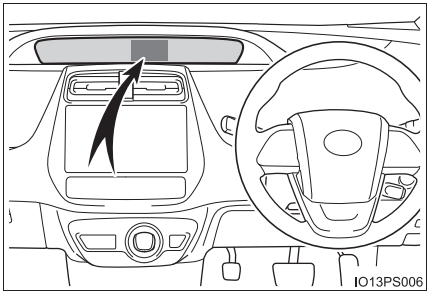
事故により衝撃を受けたときなどは、ハイブリッドシステムを停止して高電圧を遮断します。また、フューエルポンプ制御により燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。
この場合、ハイブリッドシステムを再始動させることができなくなるためトヨタ販売店へご連絡ください。

警告メッセージ

ハイブリッドシステムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動で表示されます。

警告メッセージは、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

表示された画面の指示に従ってください。



知識

■警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機バッテリーとの接続が断たれたとき

ハイブリッドシステムを再始動できないおそれがあります。
もう一度始動操作をしてもREADYインジケーターが点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

■ガス欠になったとき

ガス欠でハイブリッドシステムが始動できないときは、燃料残量警告灯（→P. 724）が消灯するまで給油してから再始動してください。少量の給油では始動できない場合があります。（給油量の目安は車両水平状態で約 7.5L です。車両の傾きによって給油量はかわります。傾いているときは、少し多めに給油してください）

■電磁波について

- 高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品とくらべて、電磁波が多いということはありません。
- アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■磁力による影響について

大型スピーカーなど、強い磁力を発生するものをラゲージルーム付近に取り付けたり、ラゲージルームに置いたりすると、ハイブリッドシステムに悪影響をおよぼす場合があります。

■駆動用電池（リチウムイオン電池）について

駆動用電池には寿命があります。

駆動用電池の容量（蓄電能力）は、ほかの充電式電池などと同様に時間の経過や使用状況にともない低下します。低下の程度は運転のしかた、充電のしかたなど、お客様の使用状況や環境（外気温等）により大きく異なります。
これらはリチウムイオン電池本来の特性であり、不具合ではありません。なお、電池の容量が低下すると EV 走行できる距離が減少しますが、車両性能などが著しく低下するものではありません。

容量低下を抑えるためには、P. 142 の「駆動用電池の容量低下について」に記載されていることを心がけてください。

■極寒の環境での始動について

外気温の影響により駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合（およそ－ 30 ℃以下）、ハイブリッドシステムが始動できなくなることがあります。その場合は気温の上昇を待つなど、駆動用電池の温度が上がってから再度始動操作をしてください。

■適合宣言

この車両は、ECE100（バッテリー電気車両安全）に基づいた水素排出量に適合しています。

警告

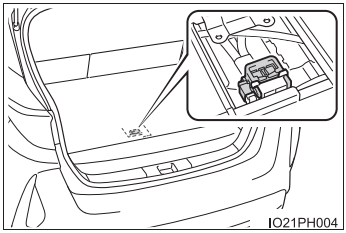
■高電圧・高温について

この車は、高電圧システムを使用しています。
次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし・分解などは絶対に行わないでください。

●走行後はハイブリッドシステムが高温になります。車に貼ってあるラベルの指示に従い、常に高電圧・高温部位に注意してください。

●サービスプラグが駆動用電池に設置してあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。サービスプラグは、トヨタ販売店での車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。



警告

■事故が発生したとき

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●続発事故防止のため安全な場所に停車して、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションをＰにして、ハイブリッドシステムを停止する

●高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない

●車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対にさわらない

●液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
駆動用電池の電解液（炭酸エステルを主とする有機電解液）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。

●駆動用電池の電解液がもれている場合は、車両に近付かない
万一、駆動用電池が破損しても、電池内部の構造により大量に電解液が流出することはありませんが、流出すると蒸気を発生します。蒸気は目や皮膚に刺激性があり、吸引すると急性中毒を起こすおそれがあり危険です。

●火気や高温のものを絶対に近付けない
電解液に引火するおそれがあり危険です。

●万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する
水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。

●前輪が接地した状態でけん引しない
電気モーターから発電され、破損の状態によっては、火災のおそれがあり危険です。（→ P. 715）

●車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかった場合、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままハイブリッドシステムを始動すると燃料に引火するおそれがあり危険ですので、始動しないでください。
この場合は、トヨタ販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

警告

■駆動用電池について

●絶対に転売・譲渡・改造などをしないでください。廃車から取りはずされた駆動用電池は事故防止のため、トヨタ販売店を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。
適切に回収されないと、次のようなことが起こり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・不法投棄または放置され、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位にふれてしまい、感電事故が発生する
・装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する
特に、転売・譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。

●駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクターにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、トヨタ販売店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠注意

■駆動用電池冷却用の吸入口について

- シートカバーや荷物などで、吸入口がふさがれないようにしてください。
  吸入口がふさがれると駆動用電池の入出力に制限がかかる原因になります。
- 吸入口にほこりなどがたまったときは、目づまりしないよう掃除機などで清掃してください。
- 吸入口に水や異物を入れないでください。
  駆動用電池を損傷するおそれがあります。
- 駆動用電池周辺に多量の水をこぼさないよう注意してください。
  誤ってこぼしてしまったときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 吸入口にはフィルターが取り付けられています。吸入口を清掃してもフィルターの汚れが目立つときは、フィルターの清掃・交換をお勧めします。フィルターの清掃については、P. 656 を参照してください。

■燃料について

- プラグインハイブリッド車では、車の使用状況によっては燃料がタンク内に長期間滞留し、燃料の品質が変化することがあります。燃料系の部品やエンジンに影響をおよぼす可能性があるため、12ヶ月ごとに 20L 以上（12ヶ月間の給油量が合計 20L 以上になるように）燃料補給を行ってください。
- 一定のあいだ燃料が補給されておらず、燃料タンクにある燃料の品質の変化が予想されるときは、パワースイッチを ON モードにしたとき、マルチインフォメーションディスプレイに「長期間燃料が補給されていません。燃料を補給してください。」というメッセージが表示されます。メッセージが表示された場合は、すみやかに燃料を補給してください。

プラグインハイブリッド車運転のアドバイス

環境に配慮した経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。

◆ EV モードと HV モードの効果的な使い方

主に EV モードは市街地走行時に使用し、HV モードは高速走行時に使用することで、電気や燃料の節約につながります。（→ P. 75）

◆ エコドライブモードの利用

エコドライブモードを使用すると、通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになります。また、エアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、電気や燃料の節約につながります。（→ P. 477）

◆ ハイブリッドシステムインジケーターの利用

メーター内のハイブリッドシステムインジケーターの表示をエコエリアの範囲に保つことで、より環境に配慮した走行が可能です。（→ P. 277）

◆ シフトポジションの変更

信号待ちや渋滞のときなどは、シフトポジションを D にしましょう。また、駐車するときは、シフトポジションを P にしましょう。シフトポジションを N にしても、燃費向上の効果はありません。N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、エアコンなどを使用していると駆動用電池の残量が低下します。

◆ アクセルペダル・ブレーキペダルの操作

- 急加速・急減速を控え、スムーズな運転を心がけましょう。ゆるやかに加速・減速することで、より効果的に電気モーターを使用でき、余分なガソリン消費を抑えることができます。
- 加速のくり返しは、駆動用電池の残量を低下させ、結果、燃費が悪化するため控えましょう。走行中、アクセルペダルを少しもどすことで駆動用電池の残量を回復させることができます。

◆ 減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。
減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

◆ 渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは電気・燃料の消費量が多くなります。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分な電気消費や燃料消費を抑えることができます。

◆ 高速道路での運転

- 速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早めにアクセルをもどし、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。
- EV モードで高速走行をすると、著しく電力を消費します。高速道路を下りてから、次に外部電源から充電する場所までの距離が長い場合、高速道路は HV モードで走行し、高速道路を下りたあと EV モードに切りかえることをおすすめします。（→ P. 75）

◆ エアコンの ON ／ OFF

● 必要時以外はエアコンスイッチ（ A/C ）を OFF にしましょう。余分な電気消費や燃料消費を抑えることができます。

夏季：外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょう。
エアコンへの負荷が減り、電費・燃費向上につながります。

冬季：過剰または不要な暖房は避けてください。また、ステアリングヒーター★（→ P. 611）・シートヒーター★（→ P. 612）の活用も効果的です。

● 充電ケーブルが車両に接続されている状態でリモートエアコンシステム（→ P. 606）を使用すると、主に外部電源の電力を使用して車内を空調できるため、出発直後の駆動用電池の電力消費を抑制できます。

● タイマー設定時、充電モードを「出発」に設定し、エアコン連動を ON にしておくことで、「出発」に設定した時間に併せて、あらかじめ車内を空調しておくことができ、出発直後のエアコンの負荷を低減することができます。（→ P. 164）

◆ タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、EV 走行できる距離が短くなったり、HV モード時の燃費悪化につながります。
また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では電気・燃料の消費量が大きくなります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

◆ 荷物

重い荷物が積まれていると、それだけ余分なエネルギーが必要となります。不要な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。
また、大型ルーフキャリアの装着も重い荷物と同様にエネルギー消費の原因になります。

◆ 走行前の暖機運転

この車はガソリンエンジンの始動／停止を自動的に行いますので、暖機運転は必要ありません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

EV 走行可能距離について

マルチインフォメーションディスプレイなどに表示される EV 走行可能距離は、現在どのくらい EV 走行（電気モーターのみでの走行）が可能かの目安を示しており、表示の距離を実際に走行できない場合があります。

EV 走行可能距離が表示されているときでも、一部の状況では EV 走行が解除され、エンジンを併用した走行となります。（→ P. 81）

表示値について

マルチインフォメーションディスプレイなどに表示する値（→ P. 265, 282, 287, 305）は、主に次のような情報から推定しています。

- 現在の駆動用電池残量
- 電力消費率（単位電力量で EV 走行できる距離）の学習値
- 過去のエアコンシステムの電力消費量

電力消費率は走行のしかたによって変化します。電力消費率の学習は車両の充電を行うたびに車両が自動的に行っており、EV 走行可能距離の推定に反映されます。このため、前回までの走行のしかたにより、満充電状態で表示される EV 走行可能距離が前回と異なる場合があります。

学習値が安定するまでのあいだ（新車時から約 1 ～ 2ヶ月ほど）は充電するごとに EV 走行可能距離が大きく変化する場合がありますが、異常ではありません。

エアコンをONにしているときは電力消費量が多くなることを考慮して、過去のエアコン電力消費量のデータを基に、EV 走行可能距離（エアコン使用時）を推定しています。

EV 走行できる距離を伸ばすためのヒント

EV 走行できる距離は、運転のしかた・道路状況・天候や気温・電装品の使用状況・乗員数などに大きく左右されます。

次のことに気を付けて運転していただくと、より EV 走行できる距離を伸ばすことが可能です。

◆ 発進するときは、ゆるやかにアクセルペダルを踏んで加速する

目安として、最初の 5 秒で時速 20km/h 程度になるように加速してください。

マルチインフォメーションディスプレイに表示されるエコアクセルガイドを活用して、やさしい発進を心がけるだけで電費／燃費の向上につながります。（→ P. 280）

走行モードをエコドライブモードにすると、アクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになり、やさしいアクセル操作がしやすくなります。同時にエアコンの制御はエコ空調モード（→ P. 597）に切りかわり、エアコンの作動が控えめになります。

◆ 車間距離を十分にとり、不要な加減速をしない

走行中は、一定の速度で走行することを心がけましょう。

車間距離が短いと、むだな加減速をくり返すことになり、電費／燃費が悪化する原因となります。

◆ 信号などで停車する前は、早めにアクセルペダルから足を離す

回生ブレーキの作動により、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池に充電することができます。

ハイブリッドシステムインジケーターで回生の状況を確認することができます。（→ P. 277）

減速時にブレーキペダルを軽く踏むことで回生量が増加し、より多くの電気エネルギーを回収できます。

ブレーキペダルを強く踏みすぎると、回収量の表示がいっぱいになってしまい、回収できる上限をこえてしまうため、早めのブレーキ操作を心がけてください。

◆ エアコンを適切に使用し、ステアリングヒーター★・シートヒーター★も活用する

EVモードでは電気エネルギーによって冷房・暖房されます。（約－10℃以下の極低温時を除く）

冷やしすぎたり、暖めすぎたりしないようにすると、電力消費を抑え、電費の向上につながります。

エコ空調モードを使用すると、自動的に控えめなエアコン制御になります。（→ P. 597）

ステアリングヒーター★・シートヒーター★（快適温熱シート）は、少ない電力で直接体を暖められる、効率のよい暖房装置です。

エアコンと併せて使用することで、設定温度を控えめにでき、電費／燃費の向上につながります。

◆ タイヤの空気圧を点検する

空気圧が規定値より不足すると、電費／燃費が悪化する原因となります。

規定値より 50kPa（0.5kg/cm^2）不足した状態で数%程度悪化します。

◆ 高速道路を走行するときは、EV ／ HV モード切りかえスイッチを活用し、HV モードで走行する

EV モードで高速道路を走行すると、電力消費量が著しく増加します。

◆ 不要な荷物を積まないように心がける

100kg の荷物を載せて走行すると、約 3%程度電費／燃費が悪化します。

空気抵抗も電費／燃費に大きく影響するため、ルーフキャリアなどの外装品は、使用しないときは取りはずしましょう。

また、冬用タイヤは走行抵抗が大きく、電費／燃費の悪化する原因ですので、必要がなくなったらすみやかに標準タイヤにもどしてください。

◆ ご自身の電費／燃費を把握しておきましょう

日々の電費／燃費を把握すると、エコドライブ効果が実感できます。

マルチインフォメーションディスプレイに表示される燃費履歴、ドライブモニター、エコダイアリーなどを活用してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

充電が完了したときの表示について

車両の充電が正しく完了したかどうかは、次のことで確認できます。

- 充電インジケーターが消灯する
- 駆動用電池残量インジケーターが約 15 秒間点灯する（→ P. 100）
- 走行開始時にマルチインフォメーションディスプレイに「充電結果のお知らせ　充電完了しました」と表示される（→ P. 140）

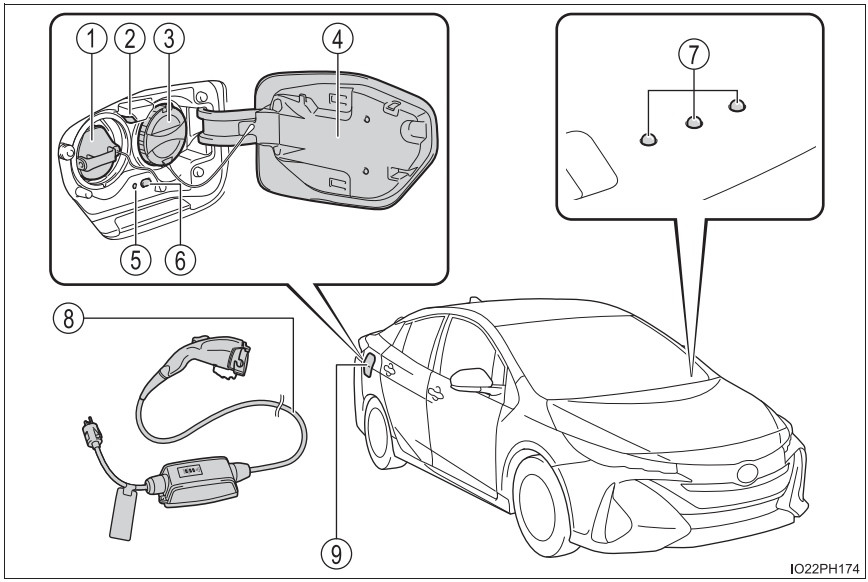
接続する電源（100V・200V）やタイマー充電機能の使用に関わらず、上記のことが確認できれば正しく充電されています。

充電に関するメッセージについて：→ P. 203

充電に関する装備について

この車両には外部電源と接続するための充電インレットや、外部電源と車両とを接続するための充電ケーブルなどが装備されています。

充電装備と名称



① 普通充電インレット
② 充電インレット照明
③ 急速充電インレット★
④ 充電リッド（→ P. 99, 113）
⑤ 充電インジケーター（→ P. 102）
⑥ コネクターロックスイッチ（→ P. 117）
⑦ 駆動用電池残量インジケーター（→ P. 100）
⑧ 普通充電ケーブル（→ P. 104）
⑨ 充電ポート

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

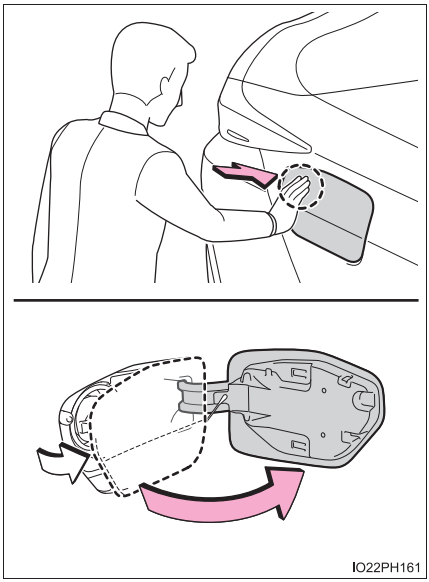
充電リッドの開閉

■ 充電リッドの開け方

ドアが解錠されている状態で、充電リッドの車両後端（図に示す位置）を押す

押して手を離すと、充電リッドが少し開きます。その後、手で全開にします。

ドアが施錠されているときは、電子キーを携帯して充電リッドを操作することにより、スマートリッド＆コネクターロックシステムで充電リッドのみを解錠することができます。（→ P. 113）

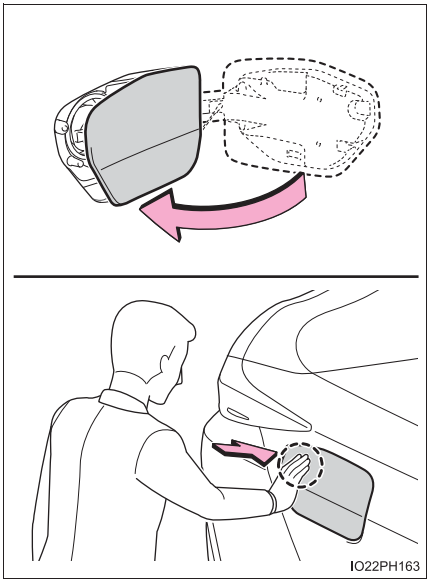


■ 充電リッドの閉め方

充電リッドを閉め、充電リッドの車両後端（図に示す位置）を押す

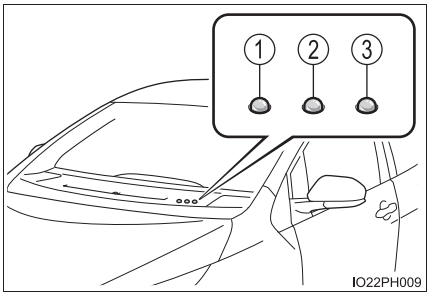
スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン、ドアロックスイッチなどでドアを施錠すると、充電リッドも施錠されます。（→ P. 323, 325）

ドアが施錠されている状態で充電リッドを閉めると、充電リッドも施錠されます。



駆動用電池残量インジケーター

充電ケーブル、またはヴィークルパワーコネクタ（→ P. 210）が充電インレットに接続されているとき、3 つのインジケーターの点灯・点滅状態で、駆動用電池の充電状態をお知らせします。



■ 充電中／外部電源供給システム（→ P. 208, 230）の使用中

駆動用電池残量	駆動用電池残量インジケーター		
	①	②	③
約半分未満	点滅	消灯	消灯
約半分以上	点灯	点滅	消灯
満充電	点灯	点灯	点滅

■ 充電中／外部電源供給システム（→ P. 208, 230）の使用中以外のとき

充電リッドが開いた状態で次の操作が行われたとき、駆動用電池残量インジケーターが点灯 ※1 します。

- 電子キーを携帯して、電子キーの検知エリア ※2（→ P. 335）に近付いたとき
- ドアを解錠したとき

駆動用電池残量	駆動用電池残量インジケーター		
	①	②	③
約半分未満	点灯	消灯	消灯
約半分以上	点灯	点灯	消灯
満充電	点灯	点灯	点灯

※1 最大で約 15 秒間、点灯します。

※2 充電リッドの検知エリアを除く

知識

■駆動用電池が満充電のとき

車両に充電ケーブルを接続すると、駆動用電池残量インジケーターが 3 つすべて点灯し、駆動用電池が満充電であることをお知らせします。※

※ プッシュリフター（→ P. 151）が押されていると、駆動用電池残量インジケーターが点滅する場合があります。

■急速充電が正常終了したとき（急速充電インレット装着車）

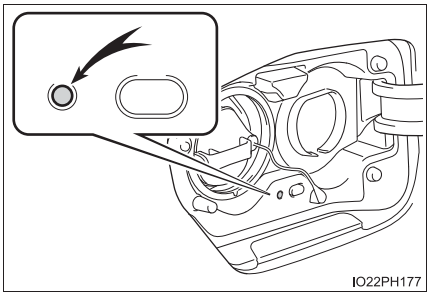
駆動用電池残量インジケーターの①･②が約 15 秒間点灯し、急速充電が完了したことをお知らせします。※

※ プッシュリフター（→ P. 151）が押されていると、駆動用電池残量インジケーターが点滅する場合があります。

充電インジケーター

点灯・点滅パターンの変化により、次のように充電に関する状況をお知らせします。

充電インジケーターの作動は、普通充電時・急速充電時★ともに共通です。



点灯・点滅パターン	車両の状況
点灯	・充電中・外部電源供給中 ※1 ・充電・外部電源供給が可能な状況のとき ※1 ・駆動用電池ヒーター（→ P. 135）の作動中 ・駆動用電池冷却（→ P. 135）の作動中
点滅（通常）※2	充電スケジュール（→ P. 164）が登録されている状態で、充電ケーブルを車両に接続したとき（普通充電時のみ）
速い点滅 ※2	電源または車両の異常などにより充電ができない状況（→ P. 195）のとき
遅い点滅 ※3	外部電源供給システム ※1 の給電開始操作の待機中
消灯	・充電コネクター・ヴィークルパワーコネクタ ※1 が充電インレットに挿し込まれていないとき ・タイマー充電（→ P. 164）の待機中 ・充電が終了したとき

※1 ヴィークルパワーコネクタ・AC 外部電源供給システムについては、P. 208 を参照してください。DC外部電源供給システム★については、P. 230を参照してください。

※2 一定時間点滅したあと、消灯します。

※3 一定時間点滅したあと、点灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■充電インジケーターについて

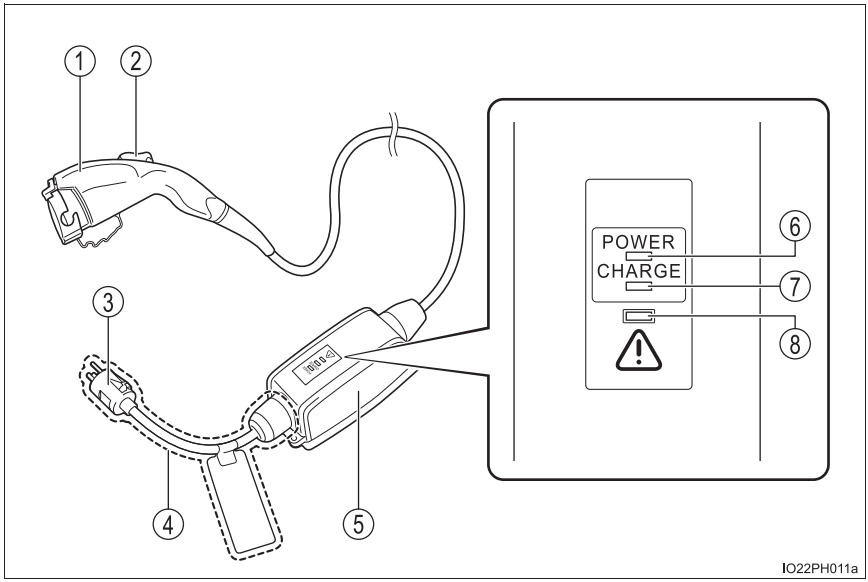
充電中・リモートエアコンシステムの使用中にシステム異常などが発生した場合は、一定時間、速い点滅をしたあとで消灯します。

その場合、次回ハイブリッドシステムを始動すると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示されたメッセージの内容に従って、それぞれ対処してください。

普通充電ケーブルについて

普通充電ケーブルの機能や正しい取り扱い方法などについて説明しています。

各部の名称



① 普通充電コネクター
② ロック解除ボタン
③ 電源プラグ
④ 電源プラグコード※
⑤ コントロールユニット
⑥ 電源インジケーター（→ P. 105）
⑦ 充電インジケーター（→ P. 105）
⑧ エラーインジケーター（→ P. 105）

※ 接続する電源電圧（200V または 100V）に合わせて、電源プラグコードを交換する必要があります。（→ P. 107）

安全機能について

普通充電ケーブルに取り付けられているコントロールユニットは、次のような安全機能を備えています。

■ 漏電検知機能

充電中に漏電を検知すると、自動的に電気を遮断し、漏電による感電や火災などを未然に防ぎます。

漏電検知機能により電気が遮断された場合は、エラーインジケーターが点滅します。（電気が遮断された場合の対処方法については、P. 106 を参照してください）

■ 自動チェック機能

漏電検知機能の作動に問題がないか、充電開始前に自動でシステムチェックが実施されます。

システムチェックの結果、漏電検知機能の異常が検出されると、エラーインジケーターの点滅でお知らせします。（→ P. 106）

■ 温度検知機能

電源プラグに温度検知機能が搭載されており、充電中、コンセント側のゆるみなどにより電源プラグ部が発熱した場合に、充電電流を制御することで発熱を抑制します。

■ 車両との通電の条件

電源プラグがコンセントに挿してあっても、普通充電コネクターが車両に接続されていないと、普通充電コネクターに通電されない構造になっています。

コントロールユニット上のインジケーターについて

■ 各インジケーターの働き

３つのインジケーターで、それぞれ次の状態を示します。

① 電源インジケーター

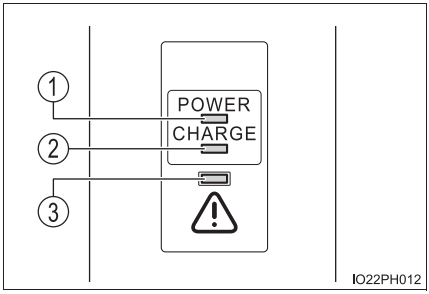
コントロールユニットに通電しているときに点灯します。

② 充電インジケーター

充電中に点灯します。

③ エラーインジケーター

漏電が発生したとき、またはコントロールユニットに異常が発生したとき点滅します。



■ 充電時に異常が発生したとき

コントロールユニット上のインジケーターの点灯・点滅状態の組み合わせにより、異常の内容をお知らせします。

エラーインジケーターが点灯・点滅したときは、いったん電源プラグをコンセントから抜き、再度コンセントに挿し込んで、エラーインジケーターが消灯するか確認してください。

エラーインジケーターが消灯していれば、そのまま充電が可能です。

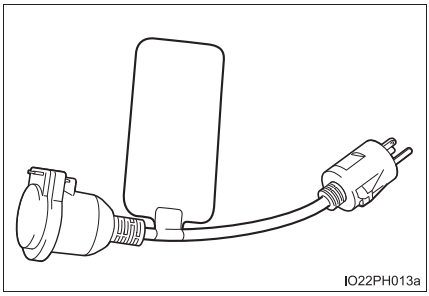
消灯しない場合は、次の表に従って対処してください。

状況	電源インジケーター	エラーインジケーター	原因・対処
充電システムエラー	消灯	消灯または点灯	漏電を検知して充電を中断しているか、普通充電ケーブルが故障しています。 **→ トヨタ販売店にご相談ください。**
	点灯	点滅	
電源プラグ温度検知異常	点滅	点滅	電源プラグの温度検知部品が故障しています。 **→ トヨタ販売店にご相談ください。**
電源プラグ温度上昇検知	点滅	消灯	コンセントと電源プラグとの接触不良などにより、電源プラグの温度上昇を検知しました。 **→ 電源プラグがコンセントに確実に挿し込まれているか確認してください。**
普通充電ケーブル寿命予告	点灯	点滅	普通充電ケーブルの充電回数が、使用可能な上限に近付いています。 **→ トヨタ販売店にご相談ください。**
普通充電ケーブル寿命	点灯	点灯	普通充電ケーブルの充電回数が、使用可能な上限をこえています。 **→ トヨタ販売店にご相談ください。**

電源プラグコードの交換

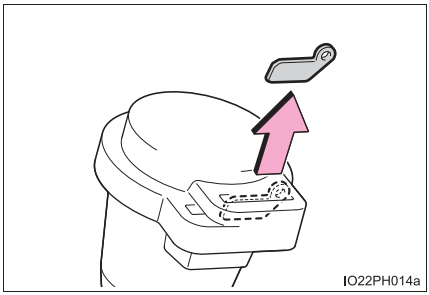
電源プラグを 100V 用、または 200V 用に交換したい場合は、次の手順で電源プラグコードを交換してください。

1 普通充電ケーブル（→ P. 104）と交換用電源プラグコードを用意する

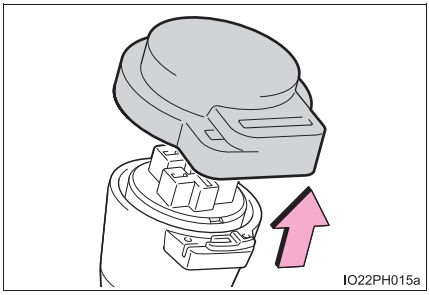


2 解除キーを取り出す

取り出した解除キーをなくさないようにご注意ください。

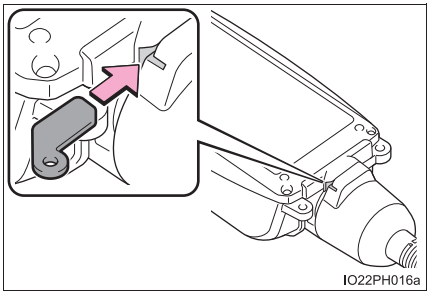


3 保護キャップを取りはずす

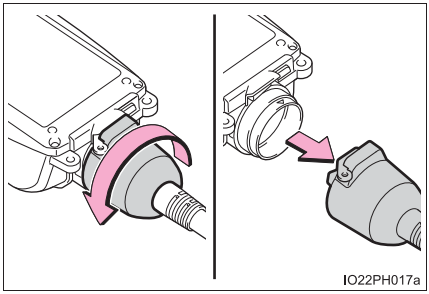


4 コントロールユニットの解除穴に解除キーを挿し込む

解除キーは図の向きで挿し込んでください。



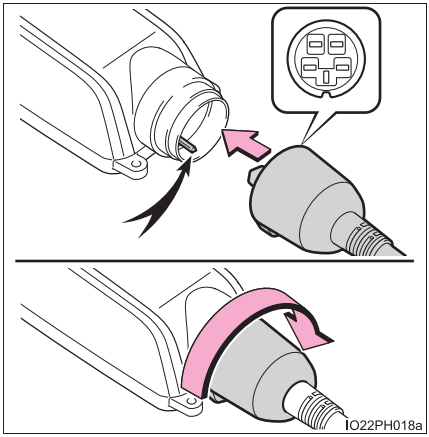
5 コントロールユニットの解除穴に解除キーを奥まで挿し込んだまま、電源プラグコードのナット部をまわして、電源プラグコードを取りはずす



電源プラグコードを取りはずしたら、解除キーを抜いてください。

電源プラグコードを取りはずしたまま放置しないでください。電源プラグコードが接続されていないと、コントロールユニットの内部に水などが入り、故障につながるおそれがあります。

6 コントロールユニット接合部の突起と、電源プラグコードコネクターの溝とを合わせて挿し込み、電源プラグコードのナット部をまわして取り付ける



電源プラグコードを取り付ける前に、接続部に異物が付着していないか確認してください。異物が付着している場合は、必ず取り除いてください。異物が付着している状態で接続すると、水などが入り、故障につながるおそれがあります。

“カチッ” という音がして固定されるまで、取りはずしたときと逆方向にまわします。

7 取りはずした電源プラグコードに、保護キャップと解除キーを取り付ける

紛失を防ぐため、解除キーは保護キャップに確実に取り付けてください。また、解除キーが保護キャップから意図せず脱落しないよう、ご注意ください。

電源プラグコードは、ほこりや水などがかからない安全な場所に保管してください。

警告

■**充電ケーブル・コントロールユニットを取り扱うとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●普通充電ケーブルや電源プラグ・普通充電コネクター・コントロールユニットの分解・修理・改造をしない
充電ケーブル・コントロールユニットに異常が認められた場合は、ただちに使用を中止してトヨタ販売店にご連絡ください。

●普通充電ケーブルや電源プラグ・充電コネクター・コントロールユニットに強い衝撃を与えたり落としたりしない

●普通充電ケーブルを無理に折り曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、引きずるなどの負担をかけない

●普通充電ケーブルを鋭利なもので傷付けたりしない

●電源プラグの端子を折り曲げたり異物を付けたりしない

●普通充電コネクター・電源プラグを水に浸けない

●電源プラグコードの交換作業は、ぬれた手で行わない
また、雨や水のかかる場所で行わないでください。

●電源プラグ・普通充電コネクターを接続した状態で、電源プラグコードの交換作業を行わない

●コントロールユニットから電源プラグコードを取りはずした状態で放置しない

●電源プラグコードをコントロールユニットに取り付けるときは、接続部に異物が付着していないことを必ず確認する

●電源プラグコードの交換時には、“カチッ”という音がするまで電源プラグコードのナット部をしっかりまわす

●普通充電ケーブルを熱器具等の高温物に近付けない

●普通充電ケーブル・電源プラグコードに負荷をかけない（コントロールユニット・普通充電コネクターに普通充電ケーブルを巻き付けるなど）

●コンセント・電源プラグに負荷がかかる状態で使用したり、放置したりしない（コントロールユニットが接地せず、宙吊りになっているなど）

注意

■普通充電ケーブルや関連部品などを取り扱うとき

→P. 154

■寒冷時の注意

寒冷時は、普通充電ケーブル・電源プラグコードが通常より固くなることがあるため、固くなった状態で無理な力をかけないでください。普通充電ケーブル・電源プラグコードの損傷につながるおそれがあります。

■電源プラグコードについての注意

電源プラグコードは充電以外の用途で使用しないでください。電源プラグコードの損傷につながるおそれがあります。

普通充電ケーブルの点検・お手入れ

安全にお使いいただくために、日常的に次の事項を点検してください。

警告

■日常点検について

定期的に次のことを確認してください。
点検をしないで使い続けると、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 普通充電ケーブルや電源プラグ・普通充電コネクター・コントロールユニットに破損などがないこと
- コンセントに破損がないこと
- コンセントの挿し込みがゆるくなっていないこと
- 充電中に電源プラグが極端に熱くならないこと
- 電源プラグの刃が変形していないこと
- 電源プラグにほこり等の汚れがないこと

電源プラグはコンセントから抜いて点検してください。また、点検の結果、普通充電ケーブルに異常が見つかった場合は、ただちに使用を中止して、トヨタ販売店にご相談ください。

■普通充電ケーブルのお手入れについて

汚れたときは固くしぼった布で汚れをふき取ったあと、乾いた布でから拭きしてください。
なお、水洗いは絶対に行わないでください。普通充電ケーブルを水洗いすると、充電時に火災や感電事故が発生し、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

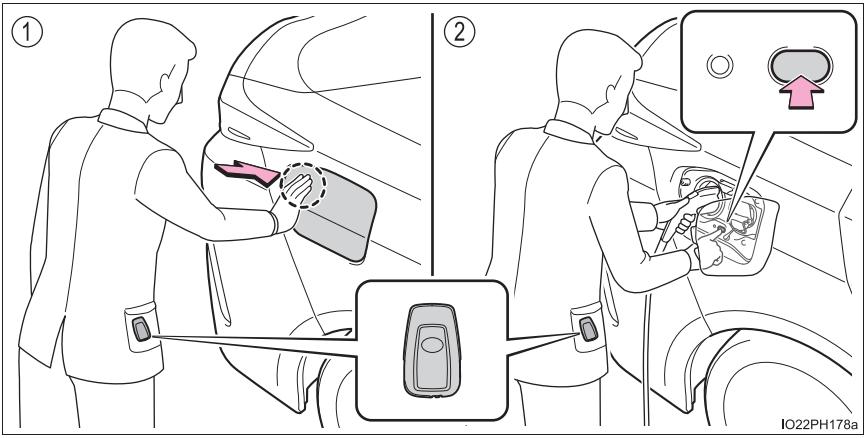
■長期間普通充電ケーブルを使用しないとき

電源プラグをコンセントから抜いておいてください。電源プラグやコンセントにほこりがたまり、過熱や発火の原因となります。
また、普通充電ケーブルは水気がない場所で保管してください。

スマートリッド&コネクターロックシステム

電子キーをポケットなどに携帯しているとき、車両のドアが施錠されている状態で充電リッドのみを解錠したり、普通充電コネクターを施錠・解錠したりすることができます。

スマートリッド&コネクターロックシステムの働き



① スマートリッドシステム

電子キーをポケットなどに携帯して充電リッドを操作することにより、車両のドアが施錠された状態のまま、充電リッドのみを解錠できます。

② コネクターロックシステム

電子キーをポケットなどに携帯してコネクターロックスイッチを操作することにより、普通充電コネクターを施錠・解錠できます。

普通充電中の普通充電コネクターの取りはずしや、第三者による普通充電ケーブルの持ち去りなどのいたずらなどを回避することができます。

知識

■アンテナの位置

→P. 334

■作動範囲（電子キーの検知エリア）

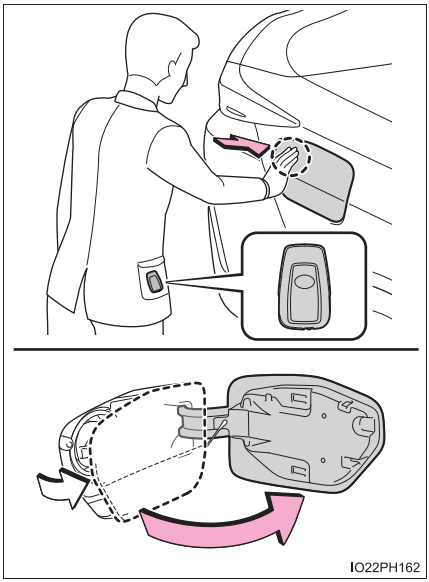
→P. 335

スマートリッドシステムの使い方

■ 充電リッドを解錠するには

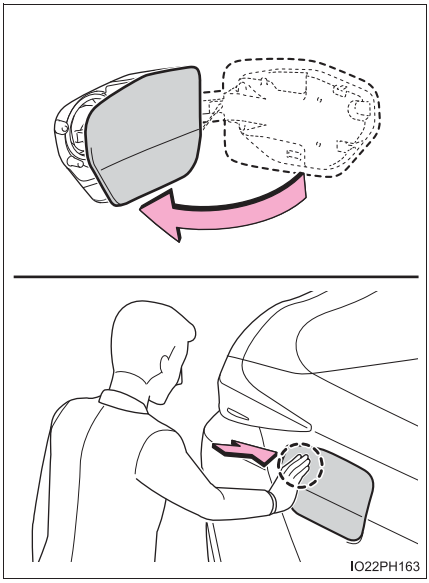
電子キーをポケットなどに携帯した状態で、充電リッドの車両後端（図に示す位置）を押すと、充電リッドが解錠されます。

押して手を離すと、充電リッドが少し開きます。その後、手で全開にします。



■ 充電リッドを施錠するには

1 充電リッドを閉め、充電リッドの車両後端（図に示す位置）を押す



2 スマートエントリー＆スタートシステム、またはワイヤレスリモコンでドアを施錠する（→ P. 323）

充電リッドが施錠されます。

ドアが施錠されている状態で充電リッドを閉めると、充電リッドも施錠されます。

知識

■充電リッドについて

●電子キーを携帯しておらず、ドアも施錠されているときに、充電リッドの車両後端（P. 99, 113 の図に示す位置）を押すと、充電リッドが施錠されたまま、わずかに開きます。
その場合は、電子キーを携帯するか、ドアロックを解錠してから、充電リッドを 2 回押して開いてください。

●充電リッドを連続で開閉操作すると、システムの保護のために、充電リッドロックが作動しなくなることがあります。
その場合は、しばらく待ってから、充電リッドを 2 回押してください。

■カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたとき

スマートリッド＆コネクターロックシステムも非作動になります。カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたときは、次の手順で充電リッドを施錠・解錠できます。

●充電リッドを施錠するとき

1 充電リッドを閉める（→ P. 99）

2 ワイヤレスリモコン、またはドアロックスイッチでドアを施錠する（→ P. 323, 325）

1・2の手順を逆に行った場合も、充電リッドが施錠されます。

●充電リッドを解錠するとき

1 ワイヤレスリモコン、またはドアロックスイッチでドアを解錠する（→ P. 323, 325）

2 充電リッドを開ける（→ P. 99）

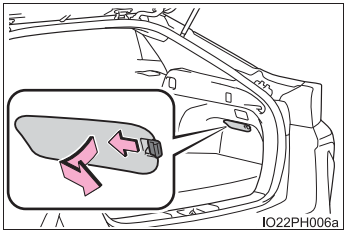
■充電リッドが開かないとき

通常の手順で充電リッドが開かない緊急時は、次の方法で充電リッドを開けることができます。

1 バックドアを開ける（→ P. 328）

2 ホイールナットレンチを用意する（→ P. 675）

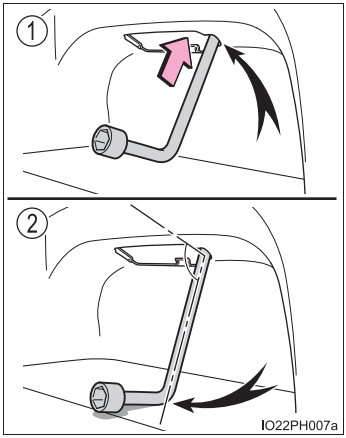
3 ノブを引いて、図に示すカバーを取りはずす



4 ホイールナットレンチを図のように挿し込む

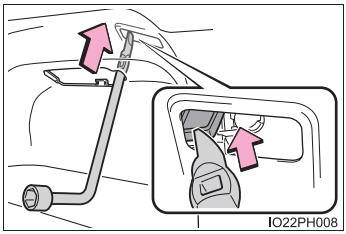
① カバー取り付け部の切り欠きに沿わせる要領で、ホイールナットレンチの先端を挿し込む

② ホイールナットレンチの L 字の部分がデッキボードにあたる位置で、いったん保持する（ホイールナットレンチが作業穴に対して直角になるようにする）



5 手順 4 の状態から、そのまま車両上方に向けてホイールナットレンチを挿し込む

作業穴の内部にある緊急解除レバーが押し上げられると、充電リッドが解錠されます。



6 充電リッドの車両後端の中央部分を押して、充電リッドを開く（→ P. 99）

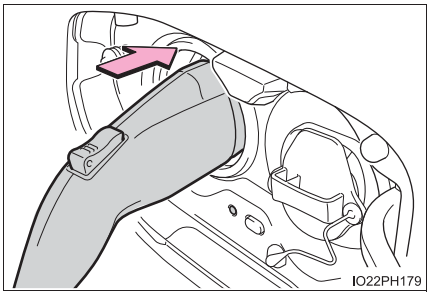
この解錠方法は、緊急時の一時的な対処です。異常が解消しない場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

コネクターロックシステムの使い方

■ 普通充電コネクターの施錠・解錠

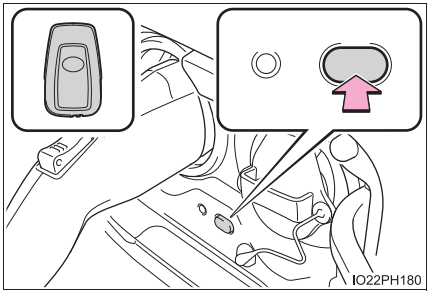
電子キーをポケットなどに携帯した状態で操作を行ってください。

1 普通充電コネクターを普通充電インレットに挿し込む
（→ P. 147）



2 コネクターロックスイッチを押す

スイッチを押すたびに、普通充電コネクターが施錠・解錠されます。



■ コネクターロックシステムの設定変更

マルチインフォメーションディスプレイの「車両カスタマイズ」設定で、普通充電コネクターの施錠・解錠方法を次のように変更することができます。

設定変更のしかたについては、P. 297 を参照してください。

設定	作動内容
マニュアルロック（デフォルト設定）	電子キーを携帯して、またはドアを解錠してからコネクターロックスイッチを押すと、普通充電コネクターが施錠・解錠される
オートロック	充電コネクターを接続すると自動で施錠される ※1, 2
オートロック＆オートアンロック	充電コネクターを接続すると自動で施錠され、充電終了後は自動的に解錠される ※1, 2, 3

※1 電子キーの携帯・ドアの解錠は不要です。

※2 マニュアルロックと同様の操作で普通充電コネクターを施錠・解錠することもできます。

※3 オートロック後に停電などで電源が遮断されると、普通充電コネクターが解錠されます。

知識

■コネクターロックシステムについて

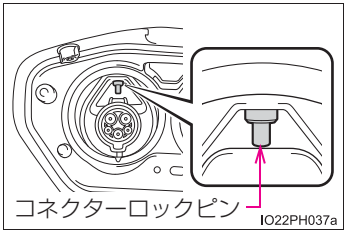
●コネクターロックスイッチを連続で操作すると、システムの保護のためにコネクターロックが作動しなくなることがあります。その場合は、しばらく待ってから再度、コネクターロックスイッチを操作してください。

●コネクターロックシステムは、普通充電ケーブルの盗難防止を保証する機能ではありません。また、すべてのいたずら行為に効果を発揮するものではありません。

●コネクターロックシステムでヴィークルパワーコネクタ（→ P. 210）を施錠することもできます。

■普通充電インレットに普通充電コネクターを挿し込めないとき

コネクターロックピンが下がっていないか確認してください。
コネクターロックピンが下がっている場合は、コネクターロックが作動しています。電子キーを携帯して、またはドアを解錠してからコネクターロックスイッチを押し、コネクターロックを解除してコネクターロックピンが上がっている状態にしてください。



■カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたとき

●スマートリッド＆コネクターロックシステムも非作動になります。カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたときは、次の手順で充電コネクターを施錠・解錠できます。

1 ワイヤレスリモコン、またはドアロックスイッチでドアロックを解除する（→ P. 323, 325）

2 普通充電コネクターを普通充電インレットに挿し込む（充電コネクターの施錠時のみ）

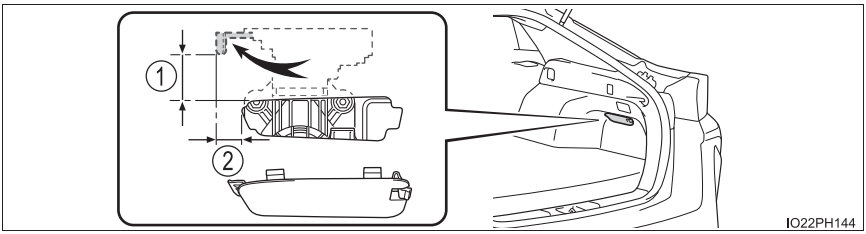
3 コネクターロックスイッチを押す

普通充電コネクターが施錠、または解錠されます。

●充電コネクターロックの設定（→ P. 118）を「オートロック」にしたときは、解錠時のみ、上記の操作が必要です。「オートロック＆オートアンロック」に設定したときは、スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしても、コネクターロック機能は作動します。

■普通充電コネクターを解錠できないとき

電子キーを携帯している、またはドアが解錠されているのに、コネクターロックスイッチの操作で普通充電コネクターを解錠できないときは、コネクターロック緊急解除レバーを操作して、充電コネクターを解錠することができます。

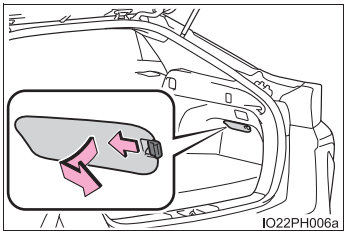


① 約 5cm

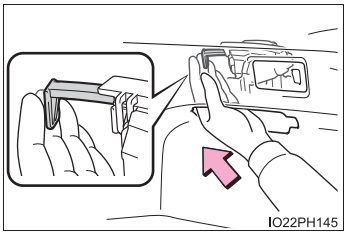
② 約 2cm

1 バックドアを開ける（→ P. 328）

2 ノブを引いて、図に示すカバーを取りはずす



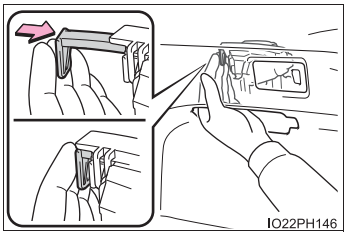
3 車両下側からななめ上方向に向けて手を入れ、コネクターロック緊急解除レバーに指をかける



4 コネクターロック緊急解除レバーを矢印の方向に動かす ※

普通充電コネクターが解錠され、普通充電コネクターの取りはずしが可能になります。

※ 必ず矢印の方向に操作してください。矢印の向き以外に力をかけると、コネクターロック緊急解除レバーが損傷するおそれがあります。



5 カバーをもとどおりに取り付ける

この方法は、緊急時の一時的な対処です。異常が解消しない場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

通常の操作で普通充電コネクターを解錠できるときは、緊急解除レバーを操作しないでください。

■急速充電コネクターを解錠できないとき

●急速充電コネクターは、急速充電器により施錠しています。車両のコネクターロック緊急解除レバーで操作を行っても、解錠することはできません。

●急速充電中は急速充電コネクターを取りはずすことはできません。取りはずす必要があるときは、充電を中止してください。充電が停止すると、急速充電コネクターの取りはずしが可能になります。

●充電が停止しても急速充電コネクターを取りはずせない場合、急速充電器・V2H 機器に異常がある可能性があります。

・急速充電器に問題がある場合は、設備の管理者にご連絡ください。
・V2H 機器に問題がある場合は、V2H 機器の製造業者または販売業者にご連絡ください。

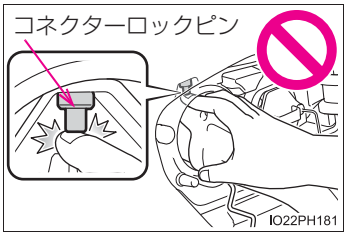
■補機バッテリーあがり時や取りはずし時など

→ P. 762

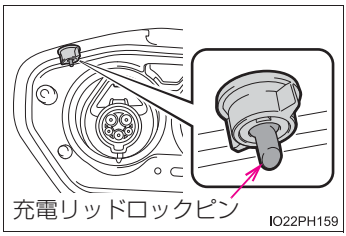
警告

■普通充電インレットに充電コネクターを接続するとき

●コネクターロック部に手を入れないでください。
コネクターロックピンに挟まれ、けがをするおそれがあり危険です。



●充電リッドロック部にふれないようにご注意ください。
コネクターロック作動時、充電リッドロックピンも作動するため、手にあたり、けがをするおそれがあり危険です。



⚠注意

■普通充電コネクターをロックするとき

次のことをお守りください。お守りいただかないと、コネクターロックシステムの故障の原因となります。

●普通充電コネクターがこの車両に適合していることを確認する

異なるタイプの普通充電コネクターや、挿入部が破損・変形した普通充電コネクターなどは、施錠できない可能性があります。

●普通充電コネクターを接続する前にコネクターロックスイッチを操作しない

●普通充電コネクターを普通充電インレットにしっかりと奥まで挿し込んでから、コネクターロックスイッチを操作する

●普通充電コネクターを施錠したあとは、普通充電コネクターに無理な力をかけない

普通充電コネクターを取りはずすときは、必ずコネクターロックを解除してください。

接続可能な外部電源について（普通充電時）

この車両を充電するための外部電源は、ここで説明する要件を備えていることが必要です。
充電作業を行う前に、あらかじめ次の事項をご確認ください。

警告

■**電気事故についての警告**

車両の充電を行うときは、必ず本書に記載されている注意事項をお守りください。
必要要件を満たしていない電源を使用したり、記載されている禁止事項を守らずに充電を行ったりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

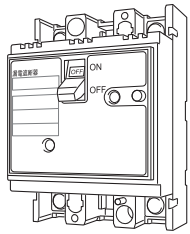
電源について

■ 200V 電源を使用する場合

- 200Vの充電用コンセントには、必ず専用回路を設置してください。
- AC200V で 16A（100V 換算で 32A）の電流が流れてもブレーカーが作動しない（電流が遮断されない）コンセントに接続してください。※1
- 分岐回路内に専用の漏電遮断器が設置されていることを確認してください。

  もし設置されていない場合は、必ず設置した上で車両の充電を行ってください。※2

漏電遮断器の例



ITO12P138a

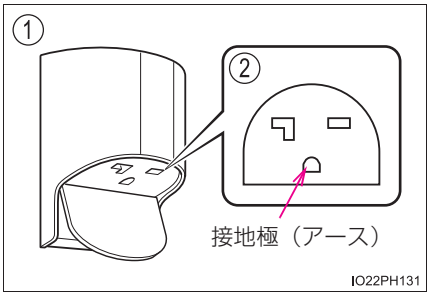
- EV ／ PHV 専用コンセントに接続してください。

① EV ／ PHV 専用コンセントの例

推奨コンセント型式：
パナソニック製
WK4322（200V）

② 200Vコンセント極配置※3

JIS C 8303
2 極 接地極（アース）付コンセント
20A 250V



IO22PH131

※1 電力会社との電気契約の変更が必要となる場合があります。電気契約に関するご相談については、ご契約中の電力会社にお問い合わせください。

※2 建物の電気工事や、電流容量などのご相談については、電気工事業者などにお問い合わせください。

※3 図は代表的な形状を示したもので、実際のコンセントとは形状が異なる場合があります。

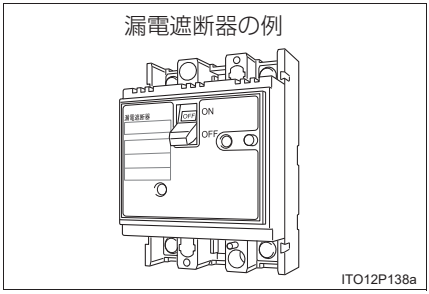
■ 100V 電源を使用する場合 ※1

● ブレーカーの容量を確認してください。
この車の充電時には、100V で最大 6A の電流が流れます。余裕をみて、20A のブレーカーを備えたコンセントに接続することを推奨します。※2

ブレーカーの容量に余裕がないと、ほかの電気製品を接続した際にブレーカーが作動して、電流が遮断される可能性があります。

● 回路上に漏電遮断器が設置されていることを確認してください。（主幹含む）

もし設置されていない場合は、必ず設置した上で車両の充電を行ってください。※2



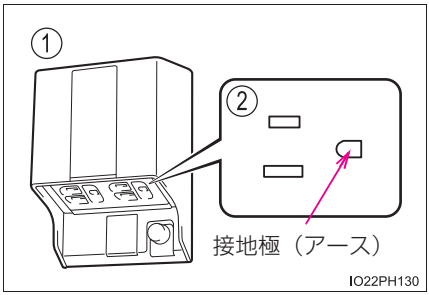
● 屋外で充電する場合は、軽負荷電動車両充電用コンセントに接続してください。※3

① 一般回路用の軽負荷電動車両充電用コンセントの例

推奨コンセント型式：
パナソニック製
WK4632（100V）

② 100Vコンセント極配置※4

JIS C 8303
2 極 接地極（アース）付コンセント
15A 125V



- 普通充電ケーブルのコントロールユニットをフックに引っかけることにより、コンセントや電源プラグに荷重がかからないようにしてください。

※1 100V 電源で充電する際は、普通充電ケーブルの電源プラグを 100V 用のものに交換してください。（→ P. 107）

※2 建物の電気工事や、電流容量などのご相談については、電気工事業者などにお問い合わせください。

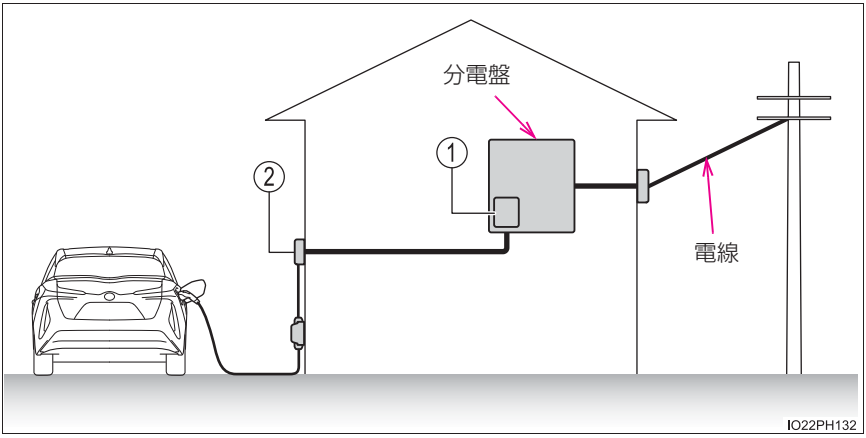
※3 日々の充電にあたっては、電源プラグのひんぱんな抜き挿しが必要となるため、抜止形の防雨形 100V コンセントでは耐久性が十分でない場合があります。

※4 図は代表的な形状を示したもので、実際のコンセントとは形状が異なる場合があります。

知識

■充電環境について （200V 電源の使用時）

より安全に充電を行うために、次のような充電設備を設置することをおすすめします。※



① 分岐専用回路内高速高感度形漏電遮断器

万一、漏電が発生したときに住宅全体が停電する可能性を低減します。また、漏電発生時における人体への影響を最小限に抑えることができます。

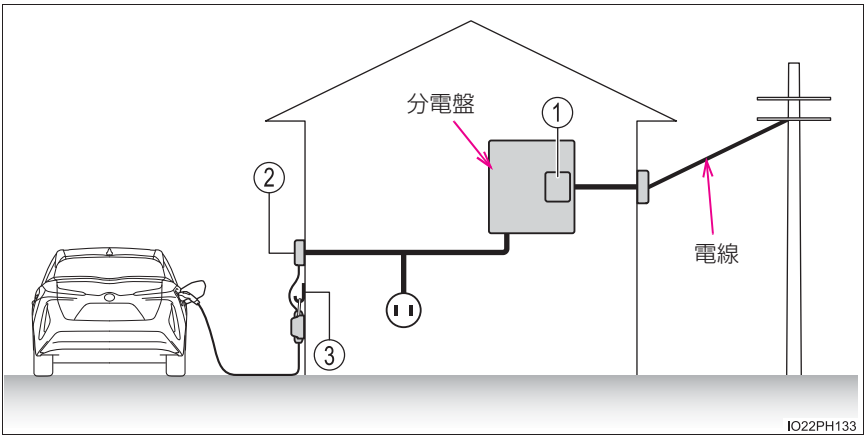
② EV ／ PHV 専用コンセント（→ P. 124）

EV ／ PHV 専用コンセントは日々の使用に対する耐久性が確保されており、充電中に電源プラグがコンセントから脱落するのを防ぎます。

※ 手元スイッチを使うと、スイッチ操作でコンセントへの電気が遮断できるため、電源プラグの抜き挿しをより安全に行うことができます。

■充電環境について（100V 電源の使用時）

より安全に充電を行うために、次のような充電設備を設置することをおすすめします。



① 高速高感度形漏電遮断器

漏電発生時における人体への影響を最小限に抑えることができます。

② 軽負荷電動車両充電用コンセント

一般的な抜止形の防雨形 100V コンセントでは、ひんぱんな抜き挿し使用による耐久性が十分ではない場合がありますが、軽負荷電動車両充電用コンセントは耐久性が確保されています。
充電中に電源プラグがコンセントから脱落するのを防ぐため、フックを併用していただくことをおすすめします。

③ フック

普通充電ケーブルのコントロールユニットをフックに引っかけることにより、コンセントや電源プラグに荷重がかからないようにしてください。

■200V での充電時に家庭のブレーカーが落ちる場合は

マルチインフォメーションディスプレイの「車両カスタマイズ」設定で、充電電流の上限値を変更することができます。※1

1 画面でメーター操作スイッチの∧／∨を押して（車両カスタマイズ）を選択し、◎を押す

2 メーター操作スイッチの∧／∨を押して「充電設定」を選択し、◎を押す

「充電設定」画面が表示されます。

3 メーター操作スイッチの∧／∨を押して「充電電流」を選択し、◎を押す

「充電電流」画面が表示されます。

4 メーター操作スイッチの∧／∨を押して「8A」を選択し、◎を押す

充電時の最大電流が 8A に制限されます。※2

充電電流の上限値を変更しても、充電時に家庭のブレーカーが落ちる場合は、接続した電源が充電に必要な要件を満たしているか確認してください。
（→ P. 124）

※1 カスタマイズ設定で充電電流の設定を変更しても、100V 充電時の最大電流は 6A から変更されません。

※2 充電電流を制限すると、充電完了までの時間は長くなります。

警告

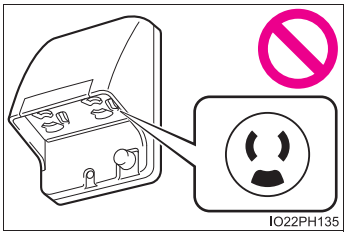
■電源についての警告

充電時に使用する外部電源については、必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

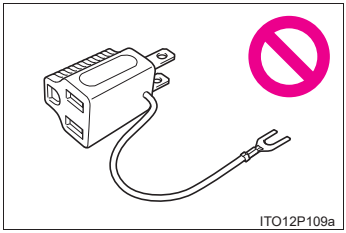
●安全のため、必ず接地極（アース）付きのコンセントに接続してください。

●必ずブレーカーおよび漏電遮断器が設置されたコンセントを使用してください。
ブレーカーがないと、ショートなど異常時の過電流に対して安全を確保できません。

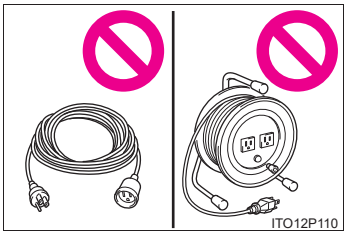
●抜止形のコンセントは耐久性が十分ではない場合があるため、充電用コンセントとしては常用しないでください。



●コンセントと電源プラグは、必ず直接接続してください。
コンセントとのあいだに分岐アダプターを接続したり、変換アダプターなどを接続したりしないでください。

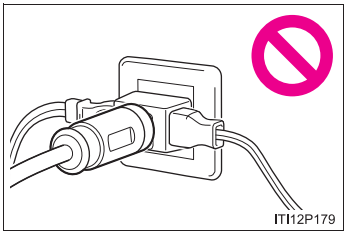


●必ず車両に搭載されている充電ケーブルで届く範囲のコンセントに接続し、延長コードは使用しないでください。
延長コードを使用すると、異常発熱や漏電検知機能（→ P. 105）が働かなくなるなどの原因になります。



警告

●分岐用コンセントには接続しないでください。



●普通充電コネクターと普通充電インレットは、必ず直接接続してください。
普通充電コネクターと普通充電インレットとのあいだに、変換アダプターや延長コードなどを接続しないでください。

充電方法について

この車は、次の方法で駆動用電池を充電することができます。

◆ 普通充電（→ P. 145）

AC コンセント（200V または 100V）と車両に付属している普通充電ケーブル、または普通充電器（スタンド）などで行う充電方法です。

充電開始時刻（または出発時刻）・曜日を設定しておくことで、ご希望の日時にタイマー充電を行うことも可能です。（→ P. 164）

◆ 急速充電★（→ P. 156）

CHAdeMO（チャデモ）※ 規格に準拠した急速充電器（スタンド）を使用して行う充電方法です。

普通充電にくらべて短時間で駆動用電池を充電できます。（ただし、最大充電量は普通充電での満充電量の約 80% になります）

※ CHAdeMO はチャデモ協議会が提案する急速充電方法の商標名です。

◆ V2H★（→ P. 156）

車両と V2H 機器双方向に電源供給することを、「V2H（ヴィーツーエッチ）」といいます。V2H 機器から車両へ充電を行うことを「V2H 充電」、V2H機器を経由して車両から自宅へ電源供給することを「V2H 給電」といいます。

このシステムを使用するには、V2H 機器 ※ が必要です。（車両には付属していません）

V2H の詳細については、各 V2H 機器の取り扱い説明書などをご確認いただくか、V2H 機器の製造元へお問い合わせください。

※ 車両から自宅へ電力を供給するために、車両から取り出した DC（直流）電力を AC（交流）電力に変換する機器。
一般社団法人電動車両用電源供給システム協議会が発行する電動自動車用充放電システムガイドライン V2H DC 版に準拠したもの。

◆ バッテリーチャージモード（→ P. 74）

プラグインハイブリッドシステムをバッテリーチャージモードに切りかえることにより、ガソリンエンジンの作動によって発電した電気で、駆動用電池を充電することができます。

バッテリーチャージモードでの最大充電量は、普通充電での満充電量の約 80% になります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ ソーラー充電システム★（→ P. 190）

駐車中、車両のルーフに搭載されたソーラーパネルで発電した電力を駆動用電池に蓄えることができる、充電補助システムです。

ソーラー充電システムでの最大充電量は、普通充電での満充電量の約 90% になります。（1 日の充電だけで、最大充電量まで充電できる訳ではありません）

充電時間の目安（普通充電時・急速充電時★）

駆動用電池の充電が完了するまでの時間は、充電電圧・充電方法ごとに次のように異なります。

充電の種類	普通充電		急速充電
	200V 電源	100V 電源	
充電電流 ※1	16A	6A	—
充電時間の目安 ※2, 3	約 2 時間 20 分	約 14 時間	約 20 分

※1 数値は最大値です。なお、200V 電源での充電時は、「車両カスタマイズ」設定で充電電流の上限値を変更できます。（→ P. 129）

※2 駆動用電池の残量・外気温・充電器（スタンド）の仕様などの条件により、充電完了までに必要な時間はかわります。

※3 マイルームモード（→ P. 185）を使用しているときは、充電完了までの時間が長くなる、または充電が完了しない場合があります。

- 普通充電の場合、100V 電源よりも 200V 電源の方が短時間で効率よく充電できるため、200V 電源での充電をおすすめします。
- 普通充電は、急速充電にくらべて駆動用電池への負荷が少ないため、駆動用電池を長持ちさせることができます。
- 急速充電時は、普通充電での満充電量の約 80% まで充電されます ※。急速充電で駆動用電池を満充電にすることはできません。
- V2H 充電時★は、駆動用電池を満充電にすることができます。充電が完了するまでの時間は、接続する V2H 機器の出力によって異なります。

※ 充電開始時の駆動用電池残量や外気温などの影響により、普通充電での満充電量の約 80% まで到達する前に充電が停止する場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■充電時間が長くなるとき

次のような場合は、充電時間が通常より長くなることがあります。

- ●低温または高温の環境下にあるとき
- ●車両の電力消費量が大きいとき
  （ヘッドランプのスイッチが ON になっているときなど）
- ●マイルームモード（→ P. 185）を使用しているとき
- ●充電中に停電したとき
- ●普通充電器・急速充電器・V2H 機器で供給電力を調整しているとき
- ●外部電源の供給電圧が低下したとき
- ●車両を長期間放置したことなどにより、補機バッテリーの充電量が低下したとき
- ●「車両カスタマイズ」設定で充電時の最大電流を 8A にしたとき（→ P. 129）※
- ●駆動用電池ヒーター（→ P. 135）が作動したとき
- ●充電前に駆動用電池冷却（→ P. 135）が作動したとき
- ●接続先のコンセントなどに問題があるとき

※ 200V での普通充電時のみ

充電に連携する機能について

この車両には、充電に連携する各種の機能が搭載されています。

■ マイルームモード（→ P. 185）

車両に充電ケーブルを接続した状態のとき、外部電源からの電力※で、車両のエアコンやオーディオ★などの電装品を使用できます。

※ 状況により、駆動用電池の電力が消費される場合があります。

■ 駆動用電池ヒーター

外気温が低い場合、車両に充電ケーブルが接続されていると、駆動用電池が一定以上の温度になるように、自動で昇温します。

- 車両から充電ケーブルをはずす、または充電ケーブルを接続したまま、およそ 3 日が経過すると、システムが自動で停止します。
- タイマー充電時（→ P. 164）は、タイマー設定内容に応じて作動します。
- 急速充電時には作動しません。

■ 駆動用電池冷却

駆動用電池の温度が高いとき、車両のエアコン（冷房）を利用して、充電前に駆動用電池を冷却し、保護する機能です。

- 駆動用電池の温度が一定以上のとき、パワースイッチをOFFにすると、駆動用電池冷却の実施を確認する画面が、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

  「いいえ」を選択したときは、駆動用電池冷却システムは作動しません。

IO22PH102J

- 100V での充電時、および急速充電時★には作動しません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■駆動用電池ヒーターについて

●駆動用電池ヒーターは、充電中以外でも作動する場合があります。

●駆動用電池ヒーターの作動中は、充電インジケーターが点灯します。

●充電中に駆動用電池ヒーターが作動すると、通常よりも充電時間が長くなる場合があります。

●駆動用電池ヒーターの作動中に外気温が高くなったときは、充電モード（→P. 164）で「出発」に設定した時刻よりも、充電が早く完了する場合があります。

●マルチインフォメーションディスプレイの「車両カスタマイズ」設定で、駆動用電池ヒーターの ON・OFF を変更できます。（→ P. 780）

●駆動用電池が満充電の状態であっても、駆動用電池の温度によっては駆動用電池ヒーターが作動する場合があります。

・駆動用電池ヒーターが作動すると、駆動用電池の残量が低下するため、駆動用電池の残量を補うために再度充電を行うことがあります。
・再充電中に普通充電コネクターを取りはずすと、「充電コネクター操作により充電停止しました」と表示されることがあります。（→ P. 203）

■駆動用電池冷却について

●駆動用電池の温度が一定以上のとき、パワースイッチを OFF にすると表示される、駆動用電池冷却実施の確認画面で「はい」を選択したあと、約 5 分後にシステムが作動可能になります。

●駆動用電池冷却は、充電開始の時点で駆動用電池の温度が高い場合にのみ、作動します。

●駆動用電池冷却の待機中、または作動中のときは、充電インジケーターが点灯します。

●駆動用電池冷却は、最大で約 30 分作動します。ただし、充電モード（→ P. 164）を「出発」に設定したときは、現在時刻から充電完了までの所要時間に十分な余裕がない場合、駆動用電池冷却の作動時間が短くなります。

●駆動用電池の残量が少ないときは、駆動用電池が高温であっても、駆動用電池冷却が作動しない場合があります。

●駆動用電池冷却の作動中に次の操作を行うと、駆動用電池の冷却作動が停止します。

・いずれかのドアを開けたとき
・ボンネットを開けたとき
・パワースイッチを OFF 以外にしたとき
・アラーム（→ P. 67）が作動したとき
・シフトポジションを P 以外にしたとき
・リモートエアコンシステム（→ P. 606）を作動させたとき
・「今すぐ充電」（→ P. 165）を実施したとき
・駆動用電池の残量が一定未満になったとき

●マルチインフォメーションディスプレイの「メーターカスタマイズ」設定で、パワースイッチを OFF にしたときに表示される「駆動用電池冷却」実施の確認画面の表示・非表示を変更することができます（→ P. 300）。なお、確認画面の表示を「OFF」に設定したときは、駆動用電池冷却は作動しなくなります。

●駆動用電池冷却は、駆動用電池と外部電源からの電力を利用します。

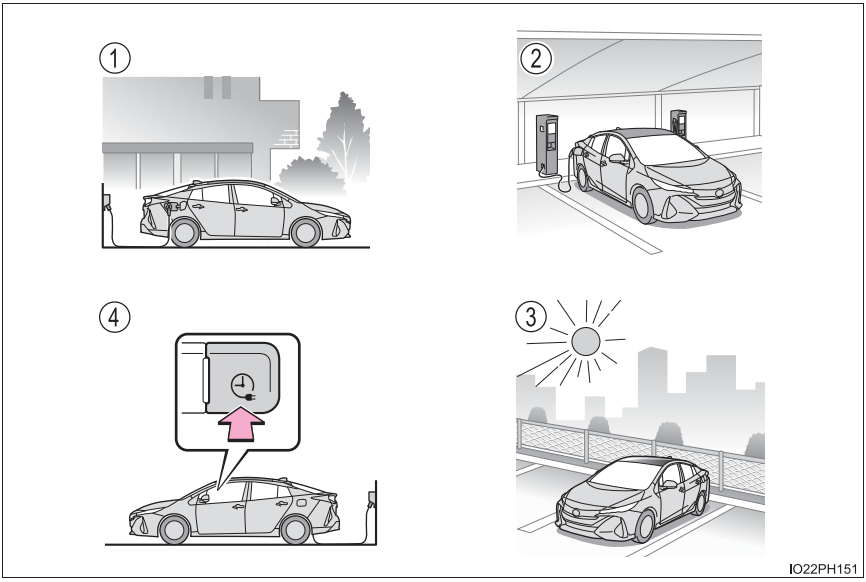
・駆動用電池冷却の作動中は、駆動用電池残量が一定の幅で増減し、通常の充電時のように駆動用電池残量が増加しません。
・駆動用電池冷却の作動中も、普通充電器からは充電中と認識されます。
よって、充電時間に応じて課金される普通充電器では、駆動用電池冷却の作動中にも課金が発生します。

充電に関するアドバイス

この車両の充電機能を活用する方法や、充電に関する情報の確認方法などを説明しています。

上手に充電するには

出発前・ドライブ中など、車両の状況に応じて充電機能を使い分けると便利です。



① お出かけの前に

EV 走行するために、お出かけの前には普通充電で駆動用電池を充電しましょう。（→ P. 145）

タイマー充電機能（→ P. 164）を使えば、ご希望の出発時刻に合わせて自動で充電が完了するように設定することができます。また、お出かけの時刻に合わせて、自動でエアコンを作動させ、あらかじめ車内を快適な状態にしておくことも可能です。

② ドライブの途中で（急速充電インレット装着車）

ドライブ中に駆動用電池の残量が少なくなったら、最寄りの充電設備で駆動用電池を充電しましょう。急速充電なら、普通充電での満充電量の約 80% まで約 20 分で充電できます。（→ P. 156）

③ お出かけ先で

- 近くに充電設備がない場合は、必要に応じてバッテリーチャージモードで駆動用電池を充電することができます。（→ P. 74）※
- ソーラー充電システム装着車は、駐車中などの必要条件を満たしている場合に、太陽光発電を行い駆動用電池を充電できます。（→ P. 190）

④ 帰宅したら

次回のドライブのために、駆動用電池を充電しておきましょう。

充電スケジュールを登録しておけば、深夜・早朝などのご希望の時間に駆動用電池を充電できます。なお、タイマー充電は、毎日、またはご希望の曜日の同じ時刻に、自動で充電されるように設定することも可能です。（→ P. 164）

ソーラー充電システム装着車の場合、駆動用電池が満充電の状態では、ソーラー充電システムによる駆動用電池への充電が実施されません。数日間ドライブの予定がないときは、お出かけの直前まで充電を控えることで、ソーラー充電システムの機能を効果的に利用できます。

※ 駐車中にバッテリーチャージモードを使用するときは、車両の近くに可燃物がなく、換気のよい場所であることを確認してください。（→ P. 83）

知識

■充電設備の検索について（マルチメディアシステム装着車）

エントリーナビキットまたは T-Connect ナビキット装着車、かつ T-Connect にお申込みいただいた方は、T-Connect 対応アプリで、充電設備を検索することができます。

T-Connect サービスの詳細については、別冊「マルチメディア取扱書」または「ナビゲーション取扱書」を参照してください。

充電に関する情報を確認するには

車両のマルチインフォメーションディスプレイで、充電に関する各種の情報を確認できます。

■ 充電中は

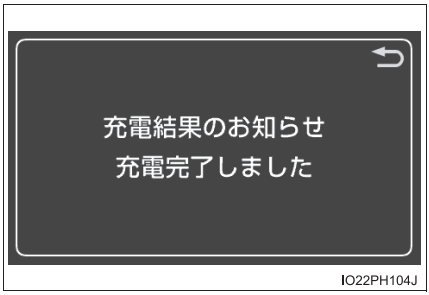
充電中にいずれかのドアを開くと、現在の充電状態と充電完了までに必要な時間の目安 ※ を確認できます。

※ 急速充電中★・V2H 充電中★は、充電完了までに必要な時間の目安は表示されません。

■ 充電が終わったあとは

充電終了後、最初にハイブリッドシステムを始動したときは、充電結果についてのメッセージが表示されます。また、充電停止となる操作をしたときや、充電できない状況が発生した場合などには、メッセージが表示されます。

表示されたメッセージの指示に従って、それぞれ必要な操作を行ってください。（→ P. 203）



知識

■充電中のメーター表示について

充電中にパワースイッチを ON モードにしたあと、マイルームモード（→ P. 185）を選択しない状態が約 100 秒間続くと、パワースイッチが自動で OFF になります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

充電の前に知っておいていただきたいこと

車両に充電ケーブルを接続して充電を行う前に、必ず次の事項をご確認ください。

充電に関する留意事項

この車は一般家庭用の AC コンセントに接続して駆動用電池を充電できますが、一般的な電気製品と次の点が大きく異なるため、取り扱いを誤ると火災や感電事故が発生し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 200V での普通充電時は、大電流で長時間電流が流れる（→ P. 133）
- お客さまの充電環境によっては、屋外で充電作業を行う

充電作業は、本書で説明している内容をよくお読みいただいた上で、正しい手順に沿って行ってください。

- お子さまなど、不慣れな方だけで充電作業を行わないでください。
- 普通充電器、または急速充電器※・V2H 機器※で充電する場合は、各機器の使用手順に従って作業を行ってください。
- 公共の普通充電器（スタンド）で充電する場合は、タイマー充電の設定状態を確認してください。
  - ・充電スケジュールが登録されているときは一時的に OFF にするか、「今すぐ充電」を ON にしてください。（→ P. 171, 173, 180, 182）
  - ・充電スケジュールが ON になっていると、普通充電ケーブルを接続しても充電が開始されません。また、充電が開始しなくても、普通充電ケーブルを接続したことで課金される場合があります。

※ 急速充電インレット装着車のみ

普通充電・急速充電・V2H 充電／ V2H 給電前の重要確認事項

必ず次の点をご確認ください。

- パーキングブレーキが確実にかかっていること（→ P. 387）
- ヘッドランプが OFF または AUTO、非常点滅灯・室内灯などのランプ類が OFF になっていること

  スイッチが ON になっていると、それらの機器に電力が消費され、充電時間が長くなります。また、V2H 給電の時間が短くなります。
- パワースイッチが OFF になっていること（→ P. 374）

普通充電ケーブルの点検（普通充電時）

充電の前に、普通充電ケーブル各部の状態に異常がないかご確認ください。（→ P. 111）

知識

■安全機能について

●車両に充電ケーブルが接続されているときは、パワースイッチを操作してもハイブリッドシステムを始動することはできません。

●READYインジケーターが点灯しているときに充電ケーブルを接続すると、ハイブリッドシステムは自動的に停止し、走行できなくなります。

●車両に充電ケーブルが接続されているときは、Pからほかのシフトポジションに切りかえることはできません。

■充電中は

次のようなことが起こりますが、異常ではありません。

●車両の状態により、充電が開始されるまでの時間が異なる場合があります。

●充電中は、充電器冷却用吸入口（→ P. 144）からファンの音が聞こえることがあります。

●充電中・充電完了後は、充電器が搭載されているリヤシート周辺が温かくなることがあります。

■普通充電・急速充電・V2H 充電について（急速充電インレット装着車）

普通充電と急速充電・V2H 充電を同時に行うことはできません。2 つある充電インレットの両方に充電ケーブルを接続しても、いずれか一方のみで充電されます。

■駆動用電池の容量低下について

駆動用電池は使用していくうちに、徐々に電池容量が低下していきます。低下する割合は車の使い方、使用環境により異なります。電池容量の低下を抑えるために、次のことを心がけてください。

●満充電状態での高温炎天下での駐車は極力避ける

●EV 走行中にひんぱんな急加速、急減速をしない

●EV 走行の最高車速付近（→ P. 81）での走行を控える

●長期間、運転をしないときは駆動用電池の残量を少なくしておく
自動的に EV モードから HV モードに切りかわるのを確認してから、パワースイッチを OFF にしてください。

●充電は走行開始前に満充電になるよう、タイマー充電（→ P. 164）を活用する

●ひんぱんな急速充電を避ける

なお、電池の容量が低下すると EV 走行できる距離が減少しますが、車両性能などが著しく低下するものではありません。

■充電後に駆動用電池の残量が低下するとき

次の場合、システムの保護のために、充電完了後の駆動用電池の残量が通常よりも少なくなる（満充電後の EV 走行可能距離が短くなる）※ ことがあります。

●気温が低い、または高い環境で充電したとき

●高負荷走行の直後、かつ炎天下で充電したとき

上記に該当しないのに、充電完了後の駆動用電池残量が大幅に低下したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

※ この場合、駆動用電池の残量表示が満充電になっていても、通常よりも早く残量が低下します。

■駆動用電池への充電量が減少するとき

普通充電器（スタンド）の供給電力が小さい、または駆動用電池ヒーターの作動等により駆動用電池への充電電力が小さくなった場合、駆動用電池への充電量が減少することがあります。

⚠警告

■充電するときの警告

ペースメーカー（植込み型心臓ペースメーカー／植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータ）装着のお客様は、充電の操作はご自身ではなさらず、ほかの方にお願いしてください。

●充電時は、充電器、充電ケーブルに近付かないでください。
充電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

●充電中は車内にとどまらないでください。
充電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

●ものを取るときなどに、ラゲージルームなど含めた車内に入り込まないでください。
充電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

■車両に充電ケーブルが接続されているとき

シフトレバーを操作しないでください。
万一、充電ケーブルが故障していた場合、シフトポジションが P からほかのシフトポジションに切りかわることがあり、車両が動いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠注意

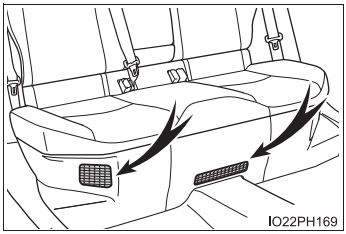
■充電ケーブルの取り扱いに関する注意

次のことをお守りください。お守りいただかないと、充電ケーブルや充電インレットの故障につながるおそれがあります。

- 充電コネクターは、斜めになったり傾いたりしないよう、充電インレットにまっすぐ挿し込む
- 充電コネクターを挿し込んだあとは、充電コネクターに無理な力をかけたり、こじったりしない。また、体や荷物などをぶつけないように注意する
- 充電ケーブルを踏んだり、つまずいたりしないように注意する
- 普通充電コネクターを取りはずす前に、普通充電コネクターが解錠されていることを確認する（→P. 151）
- 普通充電ケーブルを取りはずしたあとは、すみやかに所定の位置に片付ける（急速充電コネクターは、急速充電器のホルダーにもどす）
- 普通充電コネクターを取りはずしたあとは、普通充電インレットのキャップを確実に取り付ける

■充電器冷却用の吸入口について

リヤシートの下部にあるグリルは、シート下部に設置されている充電器の冷却用吸入口です。



冷却用吸入口については、次のことをお守りください。お守りいただかないと、充電システムの故障につながるおそれがあります。

- シートカバーや荷物などで吸入口をふさがない
- 吸入口にほこりなどがたまったときは、掃除機などで取り除く
- 吸入口に水や異物を入れない
- 吸入口周辺に多量の水をこぼさない
  誤ってこぼしてしまったときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。また、点検を受けるまで充電を実施しないでください。

普通充電のしかた

ここでは、車両に付属の充電ケーブルを使用して普通充電する手順を説明しています。
充電設備を利用する際は、普通充電器の作業手順もご確認ください。

充電スケジュールが登録されているときは、「今すぐ充電」を ON にしてから充電を実施してください。（→ P. 173, 182）

充電前の重要確認事項

→ P. 141

充電するときは

1 普通充電ケーブルを用意する

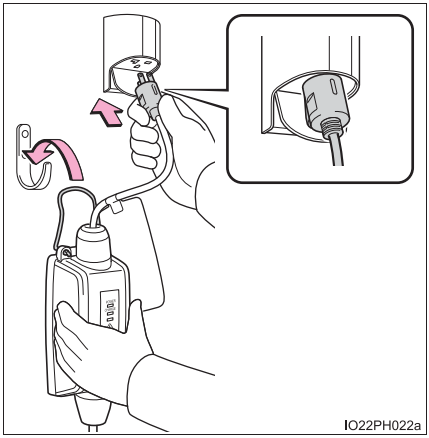
2 普通充電ケーブルの電源プラグを外部電源のコンセントに挿し込む

必ず電源プラグ本体を持って、確実に奥まで挿し込んでください。

手元スイッチがある場合は、スイッチを ON にしてください。

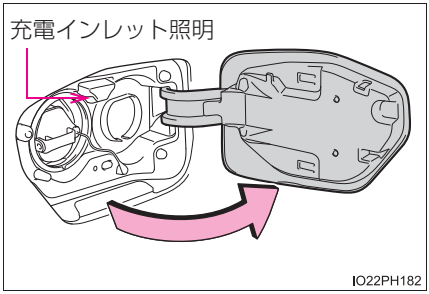
コントロールユニット上の電源インジケーターが点灯していることを確認してください。（点灯していないときは、P. 194 を参照してください）

コンセントや電源プラグへの負荷を軽減するために、電源プラグを挿しているときは、ひもなどを使って、コントロールユニットをフック等に引っかけて使用してください。



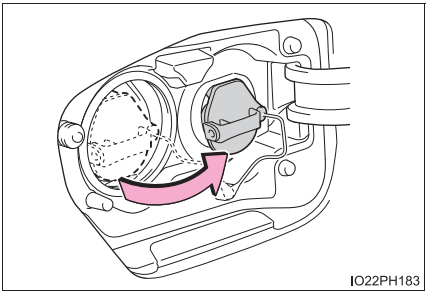
3 充電リッドを開ける（→ P. 99）

充電リッドを開けると、充電インレット照明が点灯します。

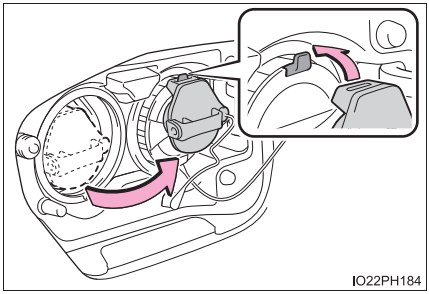


4 普通充電インレットキャップをはずし、図のように固定する

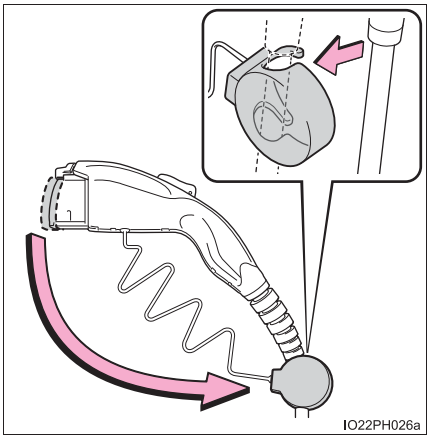
▶ 急速充電インレット非装着車



▶ 急速充電インレット装着車



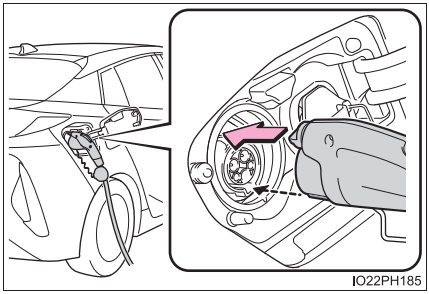
5 普通充電コネクターの保護キャップをはずし、ケーブルにかけて固定する



6 普通充電コネクターを普通充電インレットに挿し込む

普通充電コネクターの下側にあるガイドの位置を合わせて、まっすぐにいっぱいまで挿し込みます。

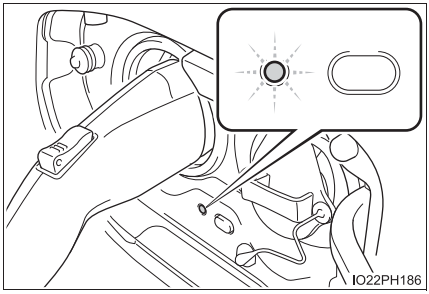
“カチッ” という音がして、普通充電コネクターが確実にロックされたことを確認してください。



7 充電インジケーターが点灯していることを確認する

充電インジケーターが点灯していないときは、充電が開始されていません。(→ P. 195)

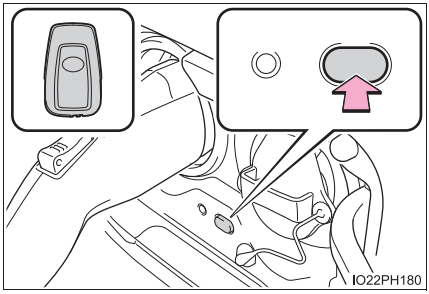
充電インジケーターが点滅（通常）しているときは、充電スケジュールが登録されています。(→ P. 148)



充電時にコントロールユニット上のエラーインジケーターが点滅したときは、P. 106 の記載を確認し、対処してください。

8 普通充電コネクターを施錠したいときは、電子キーを携帯してコネクターロックスイッチを押す

スマートリッド＆コネクターロックシステムによって、普通充電コネクターが施錠されます。施錠後は、電子キーが充電リッドの検知エリア（→ P. 335）にないと、コネクターロックスイッチを押しても普通充電コネクターを解錠することはできません。



充電が完了すると、充電インジケーターが消灯します。

知識

■充電中は

●コントロールユニットの表面が温かくなることがありますが、異常ではありません。

●電波の状況によっては、ラジオ★に雑音が入ることがあります。

●マルチインフォメーションディスプレイで、現在の充電状態や、充電完了までの時間の目安を確認することができます。（→ P. 140）

●充電中は、駆動用電池残量インジケーターが点灯・点滅し、充電量に応じて、点灯状態が変化します。（→ P. 100）

■普通充電ケーブルの接続後に充電インジケーターが点滅したとき

充電スケジュール（→ P. 164）が登録されている状態になっており、充電を開始することができません。タイマー充電をキャンセルして充電を開始したいときは、次のいずれかの操作を行ってください。

●「今すぐ充電」を ON にする（→ P. 173, 182）

●充電インジケーターが点滅（通常）しているあいだに、接続した普通充電コネクターを取りはずして、約 5 秒以内に接続し直す

■普通充電インレットに充電コネクターを挿し込めないとき

→ P. 119

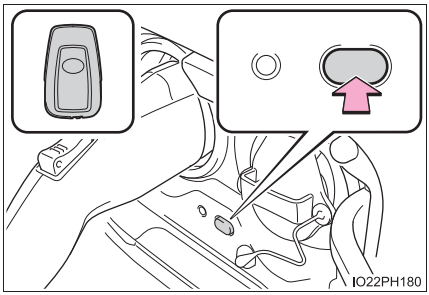
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

充電したあとは

1 普通充電コネクターを施錠したときは、電子キーを携帯してコネクターロックスイッチを押す

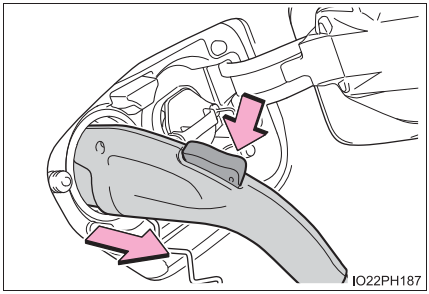
スマートリッド＆コネクターロックシステムによって、普通充電コネクターが解錠されます。

電子キーを携帯して普通充電インレットに近付くと、充電インレット照明が点灯します。

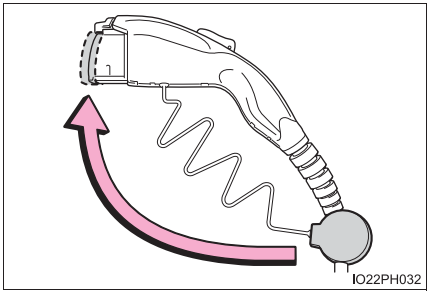


2 ロック解除ボタンを押しながら手前に引いて、普通充電コネクターを取りはずす

充電中（充電インジケーターの点灯中）にロック解除ボタンを押すと、充電が停止されます。

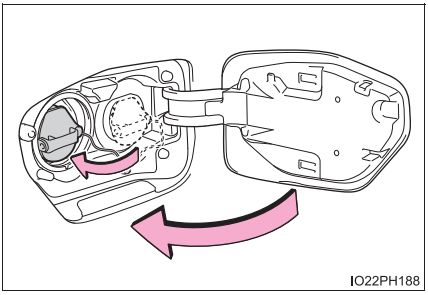


3 充電コネクターの保護キャップを取り付ける

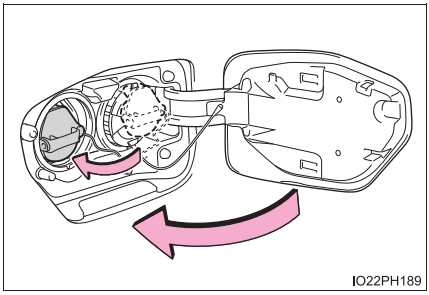


4 普通充電インレットキャップをはめ、充電リッドを閉める

▶ 急速充電インレット非装着車



▶ 急速充電インレット装着車

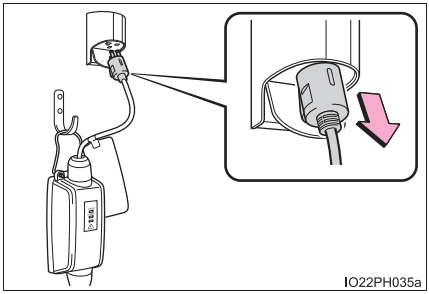


5 長期間使用しないときは、コンセントから電源プラグを抜く

必ず電源プラグ本体を持って抜いてください。

取りはずした普通充電ケーブルは、すみやかに片付けてください。
（→ P. 154）

電源プラグを挿したままにするときは、1ヶ月に 1 回は電源プラグに汚れやほこりがないか点検してください。



知識

■普通充電時の充電時間について

→ P. 133

■安全機能について

普通充電コネクターを普通充電インレットに挿し込んだ状態でも、ロック解除ボタンを押しているあいだは、充電が開始されません。

なお、充電中に数秒程度ロック解除ボタンを押し続けると充電が中止されます。充電を再開したいときは、いったん普通充電コネクターを抜いてから再度、普通充電コネクターを挿し直して、充電インジケーターが点灯することを確認してください。

■周囲の温度が低温または高温のとき

充電が完了して駆動用電池の残量表示（→ P. 283）が満充電の状態になっていても、パワースイッチを ON モードにすると残量表示がわずかに低下することがありますが、異常ではありません。

■充電時間が長くなるとき

→ P. 134

■充電しているとき

パワースイッチを ON モードにしてエネルギーモニターを表示すると、エネルギーモニター上に普通充電コネクターが表示され、充電中の電気の流れが表示されます（→ P. 272）。また、普通充電コネクターが施錠されているときは、🔒 が表示されます。

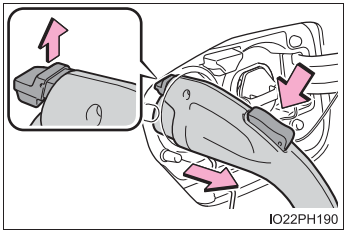
■普通充電コネクターを解錠できないとき

→ P. 120

■普通充電コネクターをはずすとき

ロック解除ボタンを押して、レバーが上がることを確認してから普通充電コネクターを手前に引いてください。

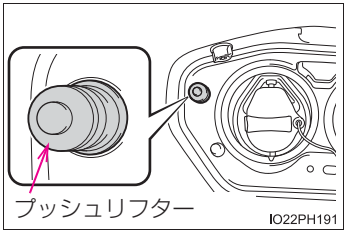
ロック解除ボタンを押してもレバーが上がらないときは、普通充電コネクターが施錠されています。その場合は、電子キーを携帯してコネクターロックスイッチを押し、普通充電コネクターを解錠してください。



■プッシュリフターについて

充電リッドが開いているときは、プッシュリフターにふれないように注意してください。誤ってふれると、充電リッドロックまたはコネクターロックが作動する場合があります。

誤って作動させてしまった場合は、電子キーを携帯して、またはドアを解錠してコネクターロックスイッチを押し、ロックを解除してください。



警告

■**充電するときの警告**

充電するときは、必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 必ず充電に必要な要件を満たす電源に接続する（→ P. 123）
- 充電前に普通充電インレットに変形・破損・腐食・ほこり等の異物がないか、または雪・氷が付着していないか確認する
  付着している場合は、普通充電コネクターを接続する前にしっかりと取り除いてください。
- 普通充電インレットの端子部がぬれないようにする
- 充電前に普通充電ケーブル・電源プラグ・コンセントに変形・破損・水分・腐食・ほこり等の異物がないことを確認する
- 挿し込みがゆるくなったコンセントは使用しない
- 普通充電ケーブルを束ねたり巻いたりした状態で充電しない
- 普通充電コネクター・普通充電インレットの端子に金属製の鋭利なもの（針金など）でふれたり、手でふれたり、異物でショートさせたりしない
- 屋外では必ず防雨形コンセントを使用する
- コンセントが水没または雪に埋もれている場合は、電源プラグは挿さない
- 雨や雪の中で充電を行うときは、ぬれた手で電源プラグの抜き挿しを行わない。また、コンセントや電源プラグをぬらさない
- 落雷の可能性がある天候のときは充電を行わない
- 普通充電ケーブルや電源プラグ・普通充電コネクター・コントロールユニットを車両で踏まない
- 電源プラグはコンセントにいっぱいまで挿し込む
- 延長コード・変換アダプターを使用しない

警告

■充電時にコントロールユニット上のエラーインジケーターが点灯・点滅したときは

電源経路に漏電が発生しているか、普通充電ケーブル・コントロールユニットに異常がある可能性があります。P. 106 の記載内容を確認し、対処してください。対処してもエラーインジケーターが消灯しない場合は、ただちに充電を中止し、普通充電ケーブルを取りはずして、トヨタ販売店にご連絡ください。そのまま充電を続けると、思わぬ事故の発生や重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

■充電後の警告

長期間使用しないときは、電源プラグを抜いておいてください。
電源プラグやコンセントにほこり等の汚れがたまると、故障や火災などが発生し、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■充電器について

リヤシートの下部に充電器があります。充電器については、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 充電時は高温になります。やけどをするおそれがあるため、ふれないでください。
- 分解・修理・改造しないでください。
  修理が必要な場合は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

■普通充電インレットについて

普通充電インレットの分解・修理・改造などをしないでください。思わぬ事故の発生や重大な傷害につながるおそれがあり危険です。修理が必要な場合は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

⚠注意

■普通充電ケーブルや関連部品などを取り扱うとき

普通充電ケーブルや充電関連部品などの損傷を防ぐため、取り扱いの際は次のことをお守りください。

- 充電を中断・終了するときは、電源プラグを抜く前に普通充電コネクターを抜く
- 普通充電ケーブルを抜くときは、普通充電コネクターが解錠されていることを確認する
- コネクターキャップ・普通充電インレットキャップを無理に引っ張らない
- 充電中に普通充電コネクターを揺するなど振動を与えない

  充電を停止することがあります。
- 普通充電インレットに普通充電コネクター・ヴィークルパワーコネクタ以外のものを挿し込まない
- 電源プラグをコンセントに抜き挿しするときは、必ず電源プラグ本体を持って操作する
- 普通充電インレットキャップを鋭利なもので傷付けたりしない
- ケーブルが引っかかったり、絡んだ状態から無理に引っ張らない

  絡んだ場合は、ほどいてから使用してください。
- 家庭での充電時は、車両に付属している普通充電ケーブルを使用する

■充電時の注意

普通充電インレットに電源プラグを挿し込まないでください。
普通充電インレットが故障するおそれがあります。

■充電後の注意

- 普通充電インレットから普通充電コネクターを取りはずしたあとは、必ず普通充電インレットキャップをはめ、充電リッドを閉めてください。
  普通充電インレットキャップをはずしたまま放置すると、普通充電インレットに水や異物が入り、車両故障につながるおそれがあります。
- コンセントから電源プラグを取りはずしたあとは、普通充電ケーブルをほこりや水などがかからない安全な場所に保管してください。
  普通充電ケーブルを足や車両で踏んだりすると、普通充電ケーブルや電源プラグが損傷する原因となります。

⚠ 注意

■自家用発電機の使用について

充電用電源に自家用発電機は使用しないでください。
安定した充電ができなかったり、電圧が足りず、普通充電ケーブルのコントロールユニット上のエラーインジケーターが点滅したりするおそれがあります。

■充電設備について

電力設備などが併設された環境では、ノイズにより安定した充電ができなかったり、電圧が足りず、普通充電ケーブルのコントロールユニット上のエラーインジケーターが点滅したりするおそれがあります。

急速充電・V2H 充電／ V2H 給電のしかた★

急速充電および V2H 充電／ V2H 給電をするときは、次の手順に従ってください。また、急速充電器および V2H 機器は種類によって操作方法が異なるため、急速充電器および V2H 機器の取り扱い方法を必ずご確認ください。

警告

■急速充電器・V2H 機器を使用するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- CHAdeMO 認定の急速充電器・V2H 機器を使用してください。
- 30m をこえる充電ケーブルを使用しないでください。
- 本車両の急速充電･V2H 充電／ V2H 給電は、30m 以内のケーブルでの充電、もしくはほかの機器／車両と同時充電しない急速充電器・V2H 機器に対応しております。

急速充電前・V2H 充電／ V2H 給電前の重要確認事項

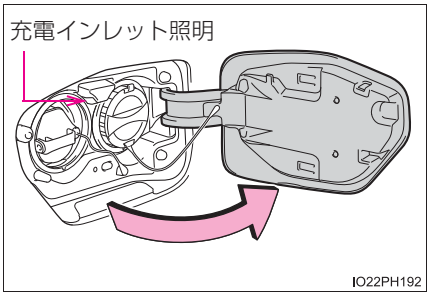
→ P. 141

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

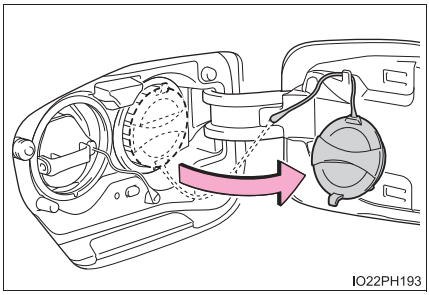
急速充電・V2H 充電／ V2H 給電するときは

1 充電リッドを開ける（→ P. 99）

充電リッドを開けると、充電インレット照明が点灯します。

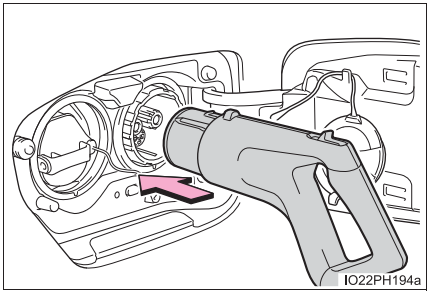


2 急速充電インレットキャップをはずし、図のように固定する



3 急速充電コネクターを急速充電インレットに挿し込む

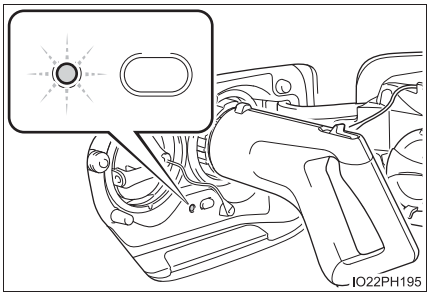
急速充電コネクターの形状や取り扱い方法などは、急速充電器・V2H 機器のタイプにより異なります。急速充電器の取り扱い方法・V2H 機器に付属している取り扱い説明書に従って、作業を行ってください。



4 急速充電器・V2H 機器を操作して充電を開始する

具体的な充電開始方法については、急速充電器の取り扱い方法・V2H 機器に付属している取り扱い説明書に従ってください。

5 充電インジケーターが点灯していることを確認する



システムチェックが実施されたあと、急速充電・V2H 充電／ V2H 給電が開始されます。

充電インジケーターが点灯していないときは、急速充電・V2H 充電／ V2H 給電が開始されていません。
（→ P. 196）

急速充電・V2H 充電／ V2H 給電を中断したいときは、急速充電器の取り扱い方法・V2H 機器に付属している取り扱い説明書に従って停止してください。

充電が完了すると、充電インジケーターが消灯します。

知識

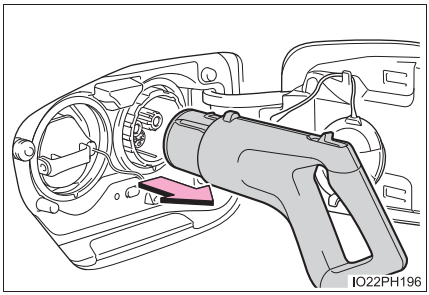
■急速充電中・V2H 充電中は

- マルチインフォメーションディスプレイで、現在の充電状態を確認することができます。（→ P. 140）
  ただし、V2H 充電中の充電時間は表示されません。
- 充電中は、駆動用電池残量インジケーターが点灯・点滅し、充電量に応じて点灯状態が変化します。（→ P. 100）

急速充電・V2H 充電／ V2H 給電したあとは

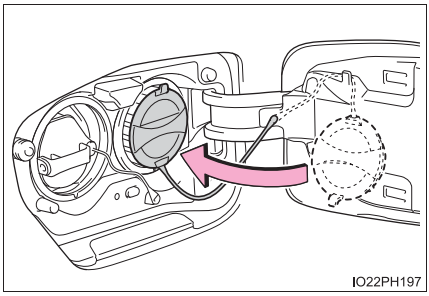
1 急速充電コネクターを取りはずす

急速充電コネクターの形状や取り扱い方法などは、急速充電器・V2H 機器のタイプにより異なります。急速充電器の取り扱い方法・V2H 機器に付属している取り扱い説明書に従って、作業を行ってください。



取りはずした急速充電コネクターは、もとの位置にもどしてください。

2 急速充電インレットキャップをはめ、充電リッドを閉める



知識

■ **急速充電時の充電時間について**

→ P. 133

■ **充電時間が長くなるとき**

→ P. 134

■ **急速充電・V2H 充電／ V2H 給電しているとき**

- パワースイッチを ON モードにしてエネルギーモニターを表示すると、エネルギーモニター上に急速充電コネクターが表示され、急速充電中は電気の流れが表示されます。（→ P. 272）
- 急速充電器または V2H 機器に車両に異常があるようなメッセージ（例えば、「車両に異常が見つかりました」、「車両故障発生」など）が表示されても、車両の異常ではなく、急速充電器または V2H 機器と車両間の通信異常である可能性があります。

  この場合、急速充電コネクターの端子故障（接点不良）などが考えられます。

  車両に異常がない場合は、急速充電器の管理者に連絡するか、V2H 機器に付属の取り扱い説明書を確認してください。

■急速充電について

●急速充電時は、普通充電での満充電量の約 80% まで充電されます ※。急速充電で駆動用電池を満充電にすることはできません。また、駆動用電池が満充電に近い状態のときは、急速充電を実施することはできません。

●最大充電時間は 60 分です。60 分を経過すると、駆動用電池の残量が普通充電での満充電量の約 80% に達していなくても充電が終了します。

●駆動用電池の容量の低下を防ぐため、ひんぱんな急速充電は避けることをおすすめします。

●急速充電が終了したあとは、ほかの利用者のため、すみやかに急速充電スペースから移動してください。

●急速充電器での充電中、急速充電器に表示される充電時間と、実際の充電時間とは異なる場合があります。

●急速充電中は、ノイズの発生によりラジオ★が聞こえなくなる場合があります。

※ 充電開始時の駆動用電池残量や外気温などの影響により、普通充電での満充電量の約 80% まで到達する前に充電が停止する場合があります。

■V2H 充電／ V2H 給電について

●V2H 充電時は、駆動用電池を満充電にすることができます。

●V2H 充電／ V2H 給電中は、マイルームモードを使用できません。

■停電時の V2H 機器の利用について

V2H 機器の中には、停電時に機器起動のため、車両から電源供給を必要とするものもあります。その場合、DC 外部電源供給システム（→ P. 230）を使うことにより、車両の補機バッテリーから機器起動のための電力を供給することで、停電時にも電源供給を行うことができます。

停電時の V2H 機器の利用については、V2H 機器に付属の取り扱い説明書を確認してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■急速充電後･V2H 充電／ V2H 給電後、マルチインフォメーションディスプレイに「プラグイン充電システム 確認のため 充電口を閉めてください 詳細は取扱書をお読みください」が表示されたとき

急速充電後･V2H 充電／ V2H 給電後のシステムチェックが正常に終了しなかった場合は、ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを押しても、ハイブリッドシステムを始動できなくなります。（その場合、マルチインフォメーションディスプレイに「プラグイン充電システム 確認のため 充電口を閉めてください 詳細は取扱書をお読みください」が表示されます）

急速充電後・V2H 充電／ V2H 給電後にハイブリッドシステムを始動できなくなったときは、次の手順で充電システムのチェックを実施してください。

1 パーキングブレーキをしっかりとかけ、パワースイッチを OFF にする

2 急速充電インレットキャップをはめ、充電リッドを閉める

3 パワースイッチを ON モードにする

マルチインフォメーションディスプレイに「プラグイン充電システム確認中」が表示されたことを確認してください。

充電システムのチェック中は、充電リッドを開けないでください。

システムチェックが終了すると、パワースイッチが自動で OFF になります。

4 ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを押し、READY インジケーターが点灯することを確認する

充電システムのチェックを実施してもハイブリッドシステムを始動できない場合は、トヨタ販売店にご連絡ください。

■急速充電コネクターを解錠できないとき

→ P. 121

■スマートフォンとの連携について（マルチメディアシステム装着車）

T-Connect にお申込みいただいた方は、T-Connect 対応アプリで、急速充電・V2H 充電／ V2H 給電に関する情報を確認したり、一部の操作を行ったりすることができます。

T-Connect サービスの詳細については、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

警告

■**急速充電・V2H 充電／ V2H 給電するときの警告**

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●急速充電インレットに急速充電コネクター･外部給電コネクター以外のものを挿し込まない

●急速充電器・V2H 機器・急速充電インレットに破損箇所がないか確認する
急速充電インレットに破損箇所がある場合は絶対に急速充電・V2H 充電／ V2H 給電を行わず、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

●急速充電コネクター・急速充電インレットに異物がないか、または雪・氷が付着していないか確認する
付着している場合は、急速充電コネクターを接続する前にしっかりと取り除いてください。

●急速充電インレットの端子部がぬれないようにする

●急速充電コネクター・急速充電インレットの端子に手をふれたり、異物でショートさせたりしない

●急速充電コネクター・急速充電インレットの端子に、金属製の鋭利なもの（針金や針など）でふれない

●急速充電コネクターのケーブルが折れ曲がったり、重いものの下敷きになったりしていないことを確認する

●急速充電･V2H 充電／ V2H 給電を中断するときは、急速充電器の取り扱い方法・V2H 機器に付属している取り扱い説明書に従う
急速充電中・V2H 充電／ V2H 給電中に発熱・発煙・異音などを発見したときは、ただちに急速充電・V2H 充電／ V2H 給電を中止してください。

●急速充電コネクターと急速充電インレットは、必ず直接接続する
急速充電コネクターと急速充電インレットとのあいだに、変換アダプターや延長コードなどを接続しないでください。

●落雷の可能性がある天候のときは急速充電･V2H充電／ V2H給電を行わない
急速充電中･V2H 充電／ V2H 給電中、雷に気付いたときは、車両およびケーブルにはさわらないでください。

警告

■**急速充電コネクターを接続するとき**

急速充電器の取り扱い方法に従って急速充電コネクターを接続してください。急速充電コネクターが正しく接続されていない場合、システムがコネクターの接続を認識できず、ハイブリッドシステムを始動できてしまうことがあります。充電完了後、ハイブリッドシステムを始動する前に、必ず急速充電コネクターを車両の急速充電インレットから取りはずしてください。もしコネクターが接続されたままの車両を発進させると、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■**急速充電・V2H 充電／ V2H 給電するとき**

必ず急速充電器の取り扱い方法・V2H 機器に付属している取り扱い説明書に従ってください。
誤った取り扱いをすると、車両や急速充電器・V2H 機器などを損傷するおそれがあります。

■**急速充電後・V2H 充電／ V2H 給電後の注意**

急速充電インレットから急速充電コネクターを取りはずしたあとは、必ず急速充電インレットキャップを急速充電インレットにはめて、充電リッドを閉めてください。
急速充電インレットキャップをはずしたまま放置すると、急速充電インレットに水や異物が入り、車両故障につながるおそれがあります。

タイマー充電機能を使う

充電スケジュールを登録しておくことで、ご希望の時刻に普通充電を実施することができます。また、出発する時刻に合わせて充電が完了するようにしたり、特定の曜日の同じ時刻に充電を実施したりするなど、お好みに合わせたタイマー設定が可能です。

タイマー設定でできること

充電スケジュールの登録時には、次の各機能の設定が可能です。

■ 充電モードの選択

次の 2 種類から充電モードを選択できます。

充電モード	作動内容
開始	設定した時刻 ※1, 2 に普通充電が開始され、満充電になると充電が終了します。 夜間電力 ※3 を利用して普通充電する場合などに便利です。
出発	設定した時刻までに普通充電が完了するように、充電が実施されます。※4, 5 この設定を選択したときは、エアコン連動機能が利用可能になります。

※1 駆動用電池の状態により、普通充電が開始される時刻に誤差が生じる場合があります。

※2 タイマー充電は、メーター内の時計に表示される時刻に従って実行されます。充電スケジュールを登録する前に時刻が正しく設定されているか、確認してください。

※3 夜間電力の料金設定は、電力会社との契約内容により異なります。詳しくは、各電力会社にご確認ください。

※4 車両のシステムにより、設定した出発時刻までに充電が完了できないと判断された場合は、すぐに充電が開始されます。その際は、タイマー充電の設定時刻を確認してください。

※5 普通充電中に急激な気温変化が発生したり、電源の状況に変化が生じたりした場合は、システムの予測どおりに充電が完了しない場合があります。

■ 繰り返し設定

ご希望の曜日を選択することで、繰り返しタイマー充電が行われるように設定できます。（曜日を選択しない場合は、1 回のみ充電が実施されます）

■ エアコン連動設定

充電モードを「出発」に設定したときは、設定した時刻に合わせて、車両のエアコン(→P. 594)が自動で作動※するように設定できます。

お出かけに合わせて、あらかじめ車内を空調しておくことで、乗車直後から快適にお車をご使用いただけます。

※ 出発設定時刻の約 10 分前から作動を開始します。

■「今すぐ充電」の ON・OFF

充電スケジュールがひとつでも登録されていると、車両に普通充電ケーブルを接続しても、タイマー充電の設定時刻まで普通充電が開始されません。充電スケジュールの登録内容を変更することなく充電を行いたいときは、「今すぐ充電」を ON にすることで、充電スケジュールが一時的に無効になり、普通充電ケーブル接続後、普通充電を開始することができます。

■「次回充電予定」※1 の変更

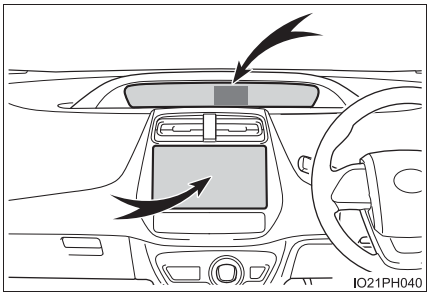
登録済みの繰り返し設定の内容を変更せずに ※2、次回の充電予定のみを一時的に変更することができます。

※1 登録済みの充電スケジュールのうち、現在時刻から最も近い充電スケジュールを「次回充電予定」と呼びます。タイマー充電は、次回充電予定の設定に従い、普通充電を実施します。

※2「次回充電予定」を変更すると、「次回充電予定」として登録されたタイマー充電が実施されるまでの期間の充電スケジュールは、一時的に無効になります。(例えば、次回充電予定を 2 日後に設定した場合、それまでの期間に充電スケジュールが登録されていても、次回充電予定として設定された時刻までは、タイマー充電が実施されなくなります)

充電スケジュールを登録するには

マルチインフォメーションディスプレイ、またはマルチメディアシステム★の画面で、充電スケジュールを登録できます。



- マルチインフォメーションディスプレイでの設定操作：→ P. 168
- マルチメディアシステム★での設定操作：→ P. 177

知識

■タイマー設定について

●走行中に充電スケジュールの設定操作を行うことはできません。

●充電スケジュールは、最大で 15 件まで登録できます。

■タイマー充電機能について（急速充電インレット装着車）

タイマー充電機能は、急速充電時･V2H 充電／ V2H 給電時には使用できません。

■タイマー充電機能を正しく作動させるために

次のことをご確認ください。

●時計が正しい時刻に調整されていること（→ P. 251）

●カレンダーが正しい年月日に設定されていること（→ P. 253）

●パワースイッチが OFF になっていること

●充電スケジュールの登録後に普通充電ケーブルを接続すること
普通充電ケーブルを接続した時点の充電スケジュールを基に、充電の開始時刻が決定されます。

●普通充電ケーブルの接続後、充電ポートの充電インジケーターが点滅することを確認する（→ P. 102）

●電力遮断機能（タイマー機能を含む）を持つコンセントで使用しない
常に電力が供給されているコンセントを使用してください。タイマー機能などで電力が遮断されるコンセントでは、設定されている時間帯に電力が遮断されるため、意図どおりに充電が行われない場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■普通充電ケーブルが車両に接続されたままの状態のとき

連続する複数の充電スケジュールが登録されていても、充電完了後に普通充電ケーブルを取りはずして再接続するまで、次のタイマー充電は実施されません。また、駆動用電池が満充電のときは、タイマー充電は実施されません。

■エアコン連動設定について

●エアコン連動設定をONにすると、設定した出発時刻までエアコンが作動するため、エアコンの電力消費量によっては、設定時刻になっても充電が終了していない場合があります。

●駆動用電池が満充電の場合、充電スケジュールが登録されていても充電は実施されませんが、エアコン連動が ON の場合は、「出発」に設定した時刻に近付くとエアコンのみが 1 回だけ作動します。その場合、エアコンの電力消費によって、出発時に駆動用電池の残量が低下していることがあります。

●ドアが施錠されていないと、エアコン連動は作動しません。

■スマートフォンとの連携について（マルチメディアシステム装着車）

T-Connect にお申込みいただいた方は、T-Connect 対応アプリで、次回充電予定を変更することができます。

T-Connect サービスの詳細については、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

■タイマー設定が無効になるとき

タイマー充電の待機中に次の操作を行ったときは、タイマー充電を一時的にキャンセルして、充電を開始します。

●リモートエアコンシステム（→ P. 606）を作動させたとき

●マイルームモード（→ P. 185）を開始したとき

●「今すぐ充電」を ON にしたとき（→ P. 173, 182）

●タイマー充電を一時的にキャンセルする操作を行ったとき（→ P. 148）

■外気温の影響について

充電モードを「出発」に設定したときは、外気温の影響によりタイマー設定が無効になり、充電が開始される場合があります。

■駆動用電池冷却（→ P. 135）について

タイマー充電時、駆動用電池の温度によっては駆動用電池冷却機能が作動する場合があります。

●充電モードを「開始」に設定したときは、充電開始時刻に作動します。

●充電モードを「出発」に設定したときは、システムが算出した充電開始時刻の約 30 分前に作動します。ただし、現在時刻から充電完了時刻までに十分な余裕がないタイマー設定のときは、駆動用電池冷却時間が短くなったり、駆動用電池冷却が作動しなかったりする場合があります。

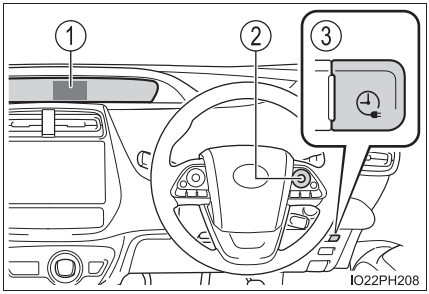
マルチインフォメーションディスプレイでの設定操作

タイマー設定操作を行うときは、タイマー充電スイッチとメーター操作スイッチを使用します。

① マルチインフォメーションディスプレイ

② メーター操作スイッチ（→ P. 247）

③ タイマー充電スイッチ



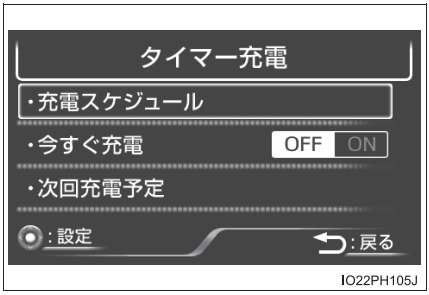
■ 充電スケジュールを登録するには

1 タイマー充電スイッチを押す

マルチインフォメーションディスプレイに「タイマー充電」画面が表示されます。

2 メーター操作スイッチの ∧ ／ ∨ を押して、「充電スケジュール」を選択し、◎ を押す

「充電スケジュール」画面が表示されます。



3 メーター操作スイッチの ∧ ／ ∨ を押して、「+」を選択し、◎ を押す

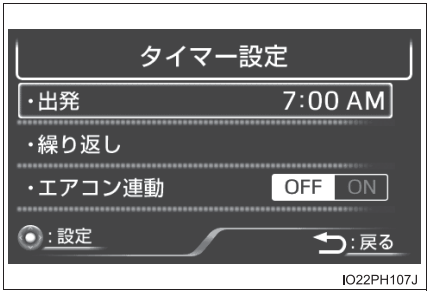
「タイマー設定」画面が表示されます。

IO22PH106J

4 メーター操作スイッチの ∧ ／ ∨ を押して、充電モード／時刻設定の行を選択し、◎ を押す

充電モード／時刻の設定画面が表示されます。

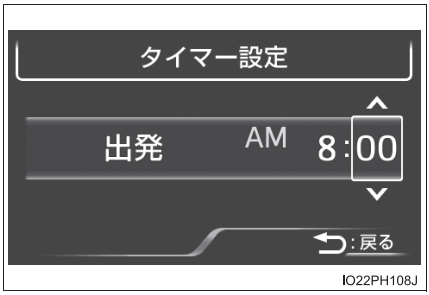
時刻の表示（12 時間表示・24 時間表示）は、時計の設定内容に従ってかわります。（→ P. 251）



IO22PH107J

5 メーター操作スイッチの 〈 ／ 〉 を押して変更する項目にカーソルを合わせ、∧ ／ ∨ を押して設定を変更する

ご希望の充電モード、および充電開始（または出発）時刻を設定します。



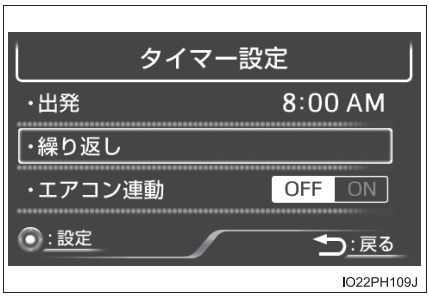
IO22PH108J

充電モードが「開始」のときは普通充電を開始する時刻を、「出発」のときは普通充電を完了させておきたい時刻を設定します。

ご希望の設定に変更したら、⮌ スイッチを押して前の画面にもどします。

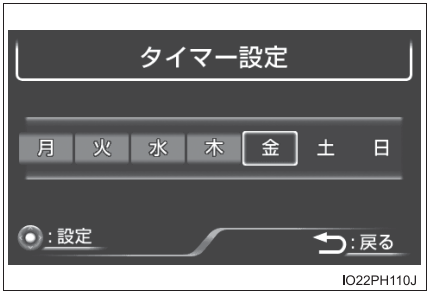
6 繰り返し設定を有効にしたいときは、メーター操作スイッチの ∧ ／ ∨ を押して、「繰り返し」を選択し、◎ を押す

設定を繰り返す曜日を選択する画面が表示されます。



IO22PH109J

7 メーター操作スイッチの〈／〉を押して繰り返し設定を有効にしたい曜日にカーソルを合わせ、◎を押す



◎を押すたびに、繰り返し設定のON・OFFが切りかわります。

設定をONにすると、選択した曜日がハイライト表示に切りかわり、選択した曜日にタイマー充電が繰り返し実施されます。複数の曜日に対して、繰り返し設定をONにすることも可能です。

いずれの曜日もONに設定していない場合は、現在時刻から24時間以内の設定時刻に、一度だけタイマー充電が実施されます。

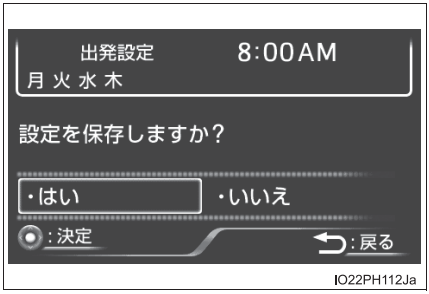
ご希望の設定に変更したら、⮌スイッチを押して前の画面にもどします。

8 充電モードを「出発」に設定したときは、エアコン連動機能（→P. 165）のON・OFFを設定する

エアコンを作動させる場合は、メーター操作スイッチの∧／∨を押して「エアコン連動」を選択し、◎を押して機能をONにします。

◎を押すたびに、機能のON・OFFが切りかわります。

9 すべての設定が終了したら⮌スイッチを押す



設定の保存を確認する画面が表示されます。

メーター操作スイッチの〈／〉を押して「はい」を選択し、◎を押すと、設定した内容が保存されます。

設定内容を変更したい場合は、「いいえ」を選択して、手順3から設定操作をやり直します。

設定の終了後、車両に普通充電ケーブルを接続すると、設定内容に従ってタイマー充電が実施されます。

■ 充電スケジュールの登録内容を変更するには

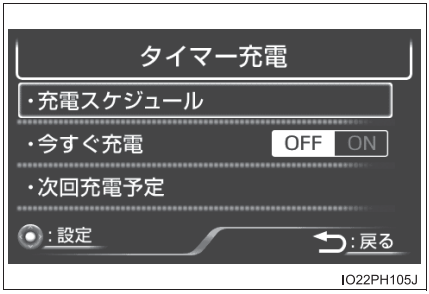
登録済み充電スケジュールの設定変更や機能の ON・OFF、登録内容の削除などの操作を行えます。

1 タイマー充電スイッチを押す

マルチインフォメーションディスプレイに「タイマー充電」画面が表示されます。

2 メーター操作スイッチの ∧ ／ ∨ を押して、「充電スケジュール」を選択し、◎ を押す

「充電スケジュール」画面が表示され、登録済みの充電スケジュールが一覧表示されます。



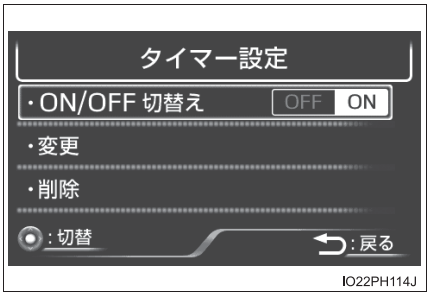
IO22PH105J

3 メーター操作スイッチの ∧ ／ ∨ を押して、内容を変更したい設定の行を選択し、◎ を押す

「タイマー設定」画面が表示されます。

IO22PH113Ja

4 メーター操作スイッチの ∧ ／ ∨ を押して操作したい項目を選択し、それぞれ必要な操作を行う



IO22PH114J

● ON/OFF 切替え

メーター操作スイッチの◎を押すたびに、選択した充電スケジュールの ON・OFF が切りかわります。

OFF に設定すると充電スケジュールが無効になり、タイマー充電が実施されなくなります。

⮌スイッチを押すと、設定が終了します。

● 変更

「充電スケジュールを登録するには」（→ P. 168）の手順 4 以降の操作要領で、ご希望の設定内容に変更します。

メーター操作スイッチの〈／〉を押して「はい」を選択し、◎を押すと、変更内容が保存されます。

IO22PH115J

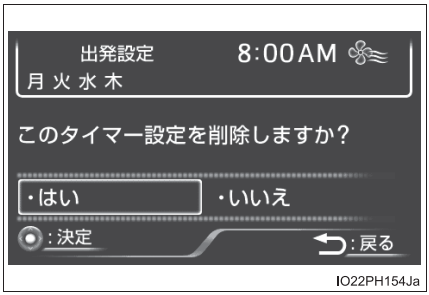
⮌スイッチを押すと、前の画面にもどります。

登録内容の変更を中止するときは、「いいえ」を選択して◎を押します。

● 削除

メーター操作スイッチの◎を押すと、削除を確認する画面が表示されます。

メーター操作スイッチの〈／〉を押して「はい」を選択し、◎を押すと、選択した充電スケジュールが削除されます。



IO22PH154Ja

⮌スイッチを押すと、前の画面にもどります。

登録内容の削除を中止するときは、「いいえ」を選択して◎を押します。

■「今すぐ充電」を ON にするには

次の 2 つのうち、いずれかの方法で「今すぐ充電」の設定を変更できます。

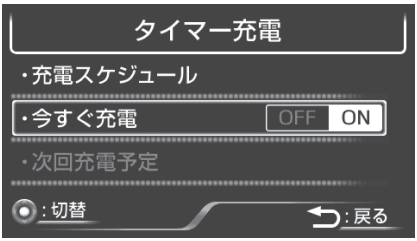
▶「タイマー充電」画面での操作

1 タイマー充電スイッチを押す

マルチインフォメーションディスプレイに「タイマー充電」画面が表示されます。

2 メーター操作スイッチの ∧ ／ ∨ を押して、「今すぐ充電」を選択し、◎ を押す

◎ を押すたびに、「今すぐ充電」の ON・OFF が切りかわります。



IO22PH116Ja

▶ エンディング画面での操作

1 パワースイッチを OFF にする

マルチインフォメーションディスプレイにエンディング画面が表示されます。（→ P. 250）

2 エンディング画面が表示されているあいだにメーター操作スイッチの 〈 ／ 〉 を押して、「次回充電予定」画面を表示する ※

※ パワースイッチをOFFにした時点で、「今すぐ充電」の設定画面が表示される場合もあります。

IO22PH117J

3 ◎ を押して、「今すぐ充電」を ON にする

◎ を押すたびに、「今すぐ充電」の ON・OFF が切りかわります。

設定の終了後、車両に普通充電ケーブルを接続すると、普通充電が開始されます。（→ P. 145）

■「次回充電予定」を変更するには ※

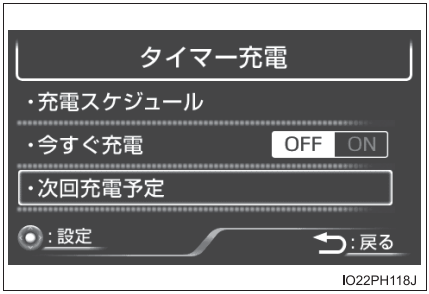
※「今すぐ充電」を ON にしたときや、マイルームモード（→ P. 185）の使用中などは、次回充電予定の登録内容を変更できません。

1 タイマー充電スイッチを押す

マルチインフォメーションディスプレイに「タイマー充電」画面が表示されます。

2 メーター操作スイッチの ∧ ／ ∨ を押して、「次回充電予定」を選択し、◎ を押す

「次回充電予定」画面が表示されます。



3 メーター操作スイッチの ∧ ／ ∨ を押して、設定を変更したい項目を選択し、◎ を押す

次の表に従って、登録内容を変更します。

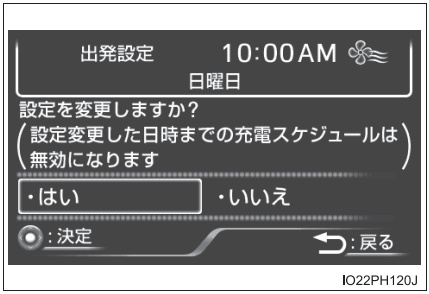
設定項目	操作
充電モード・時刻	メーター操作スイッチの ∧ ／ ∨ ／ 〈 ／ 〉 を操作して、充電モード（「開始」または「出発」）と充電開始（または出発）時刻を設定します。 設定後、↩ スイッチを押して前の画面にもどします。
曜日	メーター操作スイッチの ∧ ／ ∨ を操作して、タイマー充電を実施する曜日を選択します。 設定後、↩ スイッチを押して前の画面にもどします。
エアコン連動	充電モードが「出発」のときに設定できます。◎ を押すたびに、エアコン連動の ON・OFF が切りかわります。

4 すべての設定が終了したら

スイッチを押す

次回充電予定の変更を確認する画面が表示されます。

メーター操作スイッチの〈／〉を押して「はい」を選択し、◎を押すと、設定したタイマー設定が保存されます。



スイッチを押すと、前の画面にもどります。

「次回充電予定」の変更を中止するときは、「いいえ」を選択して◎を押します。

知識

■タイマー充電スイッチについて

●タイマー充電スイッチは、パワースイッチの状態に関係なく機能します。
なお、パワースイッチが ON モード以外のときにタイマー充電スイッチを押したときは、タイマー充電の設定画面が表示されたあと、メーター操作スイッチを操作しない状態がしばらく続くと、自動的に表示が消えます。

●タイマー充電スイッチは、走行中には使用できません。

■タイマー設定操作が中断されるとき

車両が次の状態になると、タイマー設定操作が中断されます。

●設定操作中にメッセージが表示されたとき

●設定を確定する前にパワースイッチを操作したとき

●車両が走行し始めたとき

●タイマー充電設定よりも優先度が高い画面が表示されたとき

■タイマー設定操作について

マルチインフォメーションディスプレイの「車両カスタマイズ」設定から、「タイマー充電」画面を表示して設定操作を行うこともできます。（→ P. 780）

■「次回充電予定」について

「次回充電予定」の設定内容に従って充電が実施されても、充電完了後に普通充電ケーブルを取りはずすまで、マルチインフォメーションディスプレイに表示される「次回充電予定」の設定内容は変化しません。

■「次回充電予定」の変更後にもとの設定にもどしたいとき

「今すぐ充電」をいったん ON にしてから再度 OFF にすることで、「次回充電予定」を現在時刻から最も近い充電スケジュールに設定することができます。

■充電中に「次回充電予定」を変更したとき

●充電モードが「出発」のときは、充電完了までに必要な時間に応じて、現在の充電が中断、または継続されます。

●充電モードが「開始」のときは、設定した時刻から次回の充電が開始されるため、現在の充電は中断されます。

■パワースイッチを OFF にしたとき

パワースイッチを OFF にして、エンディング画面※1（→ P. 250）が表示されているあいだに、メーター操作スイッチの〈／〉を操作すると、次回のタイマー充電予定（次回充電予定）の登録内容を確認できます。※2

※1 充電中など、エンディング画面が表示されない場合があります。

※2 パワースイッチを OFF にした時点で、次回充電予定の確認画面が表示される場合もあります。

警告

■設定操作を行うときの警告

ハイブリッドシステムが作動した状態で操作を行う場合、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■設定操作を行うとき

ハイブリッドシステムが停止した状態で設定操作を行うときは、補機バッテリーあがりにご注意ください。

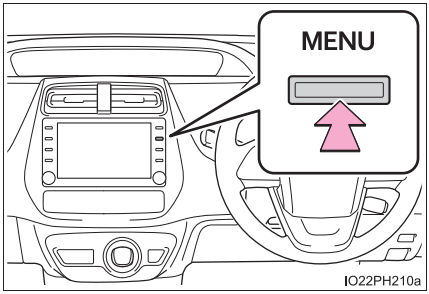
マルチメディアシステム★での設定操作

タイマー充電に関する設定操作は、充電スケジュール画面上で行います。

マルチメディアシステム★の詳しい操作方法については、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

■「充電スケジュール」画面を表示するには

1 「MENU」スイッチを押してメニュー画面を表示する

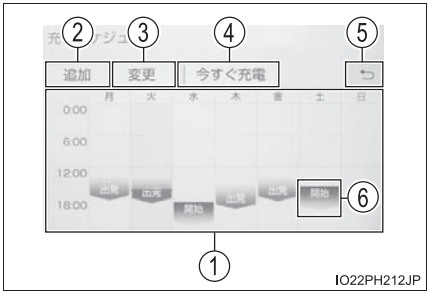


2 「情報」－「充電スケジュール」の順に選択する

「充電スケジュール」画面が表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■「充電スケジュール」画面の見方



① 充電スケジュール（カレンダー表示）

本日を起点とした 1 週間の範囲で、登録済みの充電スケジュールがアイコンの形で一覧表示されます。

②「追加」ボタン

充電スケジュールを新規登録するときに選択します。（→ P. 179）

③「変更」ボタン

登録済みの充電スケジュールの内容を変更・削除したいときに選択します。（→ P. 181）

④「今すぐ充電」ボタン

選択すると「今すぐ充電」が ON になります。（→ P. 182）

⑤ もどるボタン

選択すると、「充電スケジュール」画面が終了します。

⑥ 充電スケジュール（アイコン表示）

充電スケジュールを登録すると、カレンダー上にアイコンが表示されます。

カレンダー上に表示される主な内容：

表示	内容
赤色の線 ※1	現在時刻
橙色のアイコン ※2	「次回充電予定」に該当する充電スケジュール
緑色のアイコン	充電モードが「出発」の充電スケジュール
青色のアイコン	充電モードが「開始」の充電スケジュール

※1 赤色の線が含まれる列は、今日現在であることを示します。

※2「今すぐ充電」（→ P. 182）を ON にしたときは、赤色の線の位置に橙色のアイコンが移動し、アイコン上の表示が「今すぐ」にかわります。

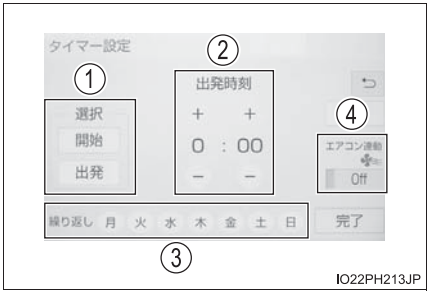
■ 充電スケジュールを登録するには

1 「充電スケジュール」画面を表示する（→ P. 177）

2 「追加」ボタンを選択する

「タイマー設定」画面が表示されます。

3 ご希望のスケジュールを設定する



① 充電モード

「開始」または「出発」を選択すると、選択した側の充電モードに設定されます。

② 開始時刻（または出発時刻）

充電モードが「開始」のときは普通充電を開始する時刻（開始時刻）を、「出発」のときは普通充電を完了させておきたい時刻（出発時刻）を設定します。

「+」または「−」を選択して、ご希望の時刻を設定してください。

③ 繰り返し設定

ボタンを選択するたびに、選択した曜日の繰り返し設定の ON・OFF が切りかわります。

設定を ON にすると、選択した曜日にタイマー充電が繰り返し実施されます。複数の曜日に対して、繰り返し設定を ON にすることも可能です。

いずれのボタンも ON にしていない場合は、現在時刻から 24 時間以内の設定時刻に、一度だけタイマー充電が実施されます。

④ エアコン連動設定

充電モードを「出発」に設定した場合に表示されます。

エアコンを作動させる場合は、「エアコン連動」スイッチを選択して機能を ON にします。

スイッチを選択するたびに、機能の ON・OFF が切りかわります。

4 すべての設定が終了したら、「完了」を選択する

IO22PH214JP

充電スケジュールが登録され、カレンダー上にアイコンが追加されます。

タイマー設定の登録を中止するときは、もどるボタンを選択します。

設定の終了後、車両に普通充電ケーブルを接続すると、設定内容に従ってタイマー充電が実施されます。

■ 充電スケジュールの ON・OFF を切りかえるには

1 「充電スケジュール」画面を表示する（→ P. 177）

2 「変更」ボタンを選択する

「タイマー設定内容」画面が表示されます。

3 画面に表示されているリストの中から、ON・OFF を切りかえたい充電スケジュールが表示されている行の「On」または「Off」を選択する

IO22PH215JP

ON・OFF を切りかえたい充電スケジュールが画面上に表示されていないときは、リスト表示を上下にスクロールして、対象の充電スケジュールを表示させます。

ボタンを選択するたびに充電スケジュールの ON・OFF が切りかわります。

■ 充電スケジュールの登録内容を変更するには

1 「充電スケジュール」画面を表示する（→ P. 177）

2 「変更」ボタンを選択する

「タイマー設定内容」画面が表示されます。

3 画面に表示されているリストの中から、登録内容を変更したい充電スケジュールの行の「変更」を選択する

IO22PH216JP

「タイマー設定」画面が表示されます。

カレンダー上に表示されている中から、登録内容を変更したい充電スケジュールのアイコンを選択することでも、「タイマー設定」画面を表示できます。

● 登録内容を変更するときは：

「充電スケジュールを登録するには」（→ P. 179）の手順 3 ～ 4 の操作要領で、ご希望の設定内容に変更する

設定を変更すると、カレンダー上のアイコンの表示もかわります。

● 登録内容を削除するときは：

「削除」を選択する

IO22PH217JP

削除を確認するメッセージが表示されます。

「はい」を選択すると、選択した充電スケジュールが削除されます。

削除を中止する場合は、「いいえ」またはもどるボタンを選択します。

充電スケジュールを削除すると、カレンダー上のアイコンも削除されます。

■「今すぐ充電」を ON にするには

1 「充電スケジュール」画面を表示する（→ P. 177）

2 「今すぐ充電」ボタンを選択する

ボタンを選択するたびに、「今すぐ充電」の ON・OFF が切りかわり、ボタン上のインジケーターが点灯・消灯します。

IO22PH218JP

設定の終了後、車両に普通充電ケーブルを接続すると、普通充電が開始されます。（→ P. 145）

■ 次回充電予定を変更するには ※

※「今すぐ充電」を ON にしたときや、マイルームモード（→ P. 185）の使用中などは、次回充電予定の登録内容を変更できません。

1 「充電スケジュール」画面を表示する（→ P. 177）

次回充電予定は、「充電スケジュール」画面上に橙色のアイコンで表示されます。

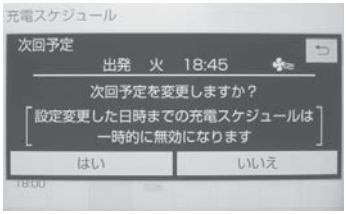
2 橙色のアイコンを選択する

変更の確認画面が表示されます。

3 「はい」を選択する

「タイマー設定」画面が表示されます。

変更を中止する場合は「いいえ」またはもどるボタンを選択します。



IO22PH219JP

4 「充電スケジュールを登録するには」（→ P. 179）の手順 3 ～ 4 の操作要領で、ご希望の設定内容に変更する

設定を変更すると、カレンダー上のアイコンの表示も変化します。

次回充電予定の変更を中止するときは、もどるボタンを選択します。

知識

■充電スケジュールを登録したとき

充電スケジュールをすべて OFF にすると、「充電スケジュール（カレンダー表示）」画面上にアイコンは表示されません。「タイマー設定内容」画面で ON にすることで、アイコンが表示されます。

■タイマー設定操作が中断されるとき

車両が次の状態になると、タイマー設定操作が中断されます。

●設定を確定する前にパワースイッチを OFF にしたとき

●車両が走行し始めたとき

●タイマー充電設定よりも優先度が高い画面が表示されたとき

■次回充電予定について

次回充電予定の設定内容に従って充電が実施されても、充電完了後に普通充電ケーブルを取りはずすまで、ディスプレイに表示される設定内容は変化しません。

■次回充電予定の変更後にもとの設定にもどしたいとき

「今すぐ充電」をいったん ON にしてから再度 OFF にすることで、次回充電予定を現在時刻から最も近い充電スケジュールに設定することができます。

■充電中に次回充電予定を変更したとき

●充電モードが「出発」のときは、充電完了までに必要な時間により、現在の充電が中断、または継続されます。

●充電モードが「開始」のときは、設定した時刻から次回の充電が開始されるため、現在の充電は中断されます。

■充電スケジュール設定に関するアドバイス表示

「タイマー設定」画面（→ P. 180）で「?」を選択すると、「タイマー設定」画面上の設定項目に関する説明が表示されます。

IO22PH220JP

警告

■設定操作を行うときの警告

ハイブリッドシステムが作動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■設定操作を行うとき

ハイブリッドシステムが停止した状態で設定操作を行うときは、補機バッテリーあがりにご注意ください。

マイルームモードを使う

車両に充電ケーブルを接続した状態のとき、外部電源からの電力により、エアコンやオーディオ★などの電装品を使用することができます。

マイルームモードを開始するには

1 車両に充電ケーブルを接続する／充電を開始する

普通充電時：→ P. 145

急速充電時★：→ P. 156

V2H 充電／ V2H 給電時★は、マイルームモードを使用できません。

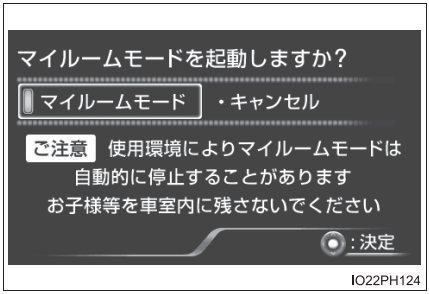
2 充電の実施中にパワースイッチを ON モードにする

マルチインフォメーションディスプレイにマイルームモードの設定画面が自動表示されます。

3 メーター操作スイッチの〈／〉を押して「マイルームモード」を選択し、◎を押す

マイルームモードが開始され、車内でエアコンやオーディオ★などが利用可能になります。

マイルームモードを使用しないときは、「キャンセル」を選択して◎を押します。



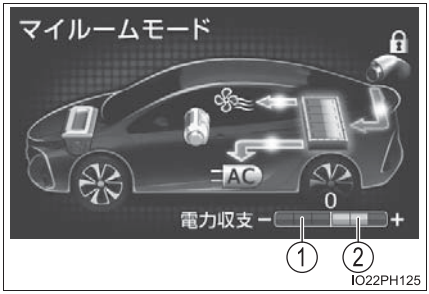
マイルームモードを停止するときは、パワースイッチを OFF にします。

急速充電時★は、急速充電の終了と同時にマイルームモードが自動で終了します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

マイルームモード使用中の電力収支に関する情報の表示

マイルームモードを開始すると、マルチインフォメーションディスプレイにエネルギーモニター（→ P. 272）が自動的に表示され、電力収支バーの色と表示される数で、マイルームモード使用中の電力収支（電気供給量と電力消費量とのバランス）の目安を確認することができます。



① 放電状況（−）

② 充電状況（＋）

充電ケーブルからの電気供給量が車内の消費電力より多いときはプラス方向のゲージが、電気供給量より消費電力が大きいときはマイナス方向のゲージが 3 段階で表示されます。

プラス方向のゲージは緑色、マイナス方向のゲージは黄色で表示されます。

電気供給量と電力消費量の釣り合いがとれているとき（電力の収支がゼロと判断されたとき）は、いずれの色のゲージも表示されません。

知識

■充電中のメーター表示について

充電中にパワースイッチを ON モードにしたあと、マイルームモードを選択しない状態が約 100 秒間続くと、パワースイッチが自動で OFF になります。

■マイルームモードの使用中は

次のようなことが起こる場合があります。

- 駆動用電池の残量が下限に達すると、エアコンが自動的に停止する
  その場合は、駆動用電池の残量が増えるまでエアコンを操作できなくなります。いったんパワースイッチを OFF にし、駆動用電池の残量が回復したあとで、マイルームモードを使用してください。
- 駆動用電池の充電時間が長くなる
- 電波の状況によっては、ラジオ★に雑音が入る

■充電スケジュール（→ P. 164）が登録されているとき

タイマー充電の待機中にマイルームモードを開始すると、タイマー設定が無効になり、充電が開始されます。

■マイルームモードを使用しているとき

パワースイッチが ON モードの状態でドアを施錠すると、スマートリッド＆コネクターロックシステムによる充電リッドの解錠・充電コネクターの施錠／解錠ができなくなります。

その場合は、パワースイッチを OFF にするかドアを解錠してから、再度、スマートリッド＆コネクターロックシステムの操作を行ってください。

■駆動用電池が満充電の状態でマイルームモードを使用するとき

駆動用電池が満充電、かつ電力が供給されている普通充電コネクターが接続された状態で、パワースイッチを ON モードにすると、「充電口が開いています」というメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

その場合は、メーター操作スイッチ（→ P. 247）の を押すことで、マイルームモードの設定画面が表示され、「マイルームモード」を選択することができます。

駆動用電池が満充電の状態でマイルームモードを使用すると、駆動用電池量の電力が消費されることがあります。その場合は、再度充電を行うことがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■マイルームモードに関するメッセージが表示されたとき

マイルームモードを開始しようとしたとき、またはマイルームモードの使用中に、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されたときは、それぞれ次のように対処してください。

メッセージ	原因・対処方法
駆動用電池の残量低下のため マイルームモードが起動できません	マイルームモードの開始に必要な駆動用電池の残量がない状態です。 駆動用電池の残量が増えるまでしばらく待ってから、マイルームモードを開始してください。
駆動用電池の残量不足のため マイルームモードを終了します	駆動用電池の残量が不足しています。 マイルームモードの使用を中止して、駆動用電池を充電してください。
駆動用電池の残量が低下 しています マイルームモード を継続するためには使用電力 を抑えてください	駆動用電池への充電量よりも車内の電力消費量が多く、駆動用電池の残量が低下しています。※ ・車内の電力消費状況が改善されない場合は、マイルームモードが終了します。 ・マイルームモードを継続したいときは、エアコンやオーディオ★などの電源をOFFにして、駆動用電池の残量を増やしてください。

※ エネルギーモニターの電力収支バーで、マイルームモード中の電力収支の状況を確認できます。（→ P. 186）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■マイルームモードの使用上の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまや介護を必要とする方、ペットを車内に残さないでください。
システムの自動停止等により車室内が高温または低温になり、熱中症・脱水症状・低体温症になるおそれがあります。また、ワイパーなどが使用できる状態になるため、誤操作による事故につながるおそれもあります。

●車両の周囲の安全を十分に確認してから使用してください。

注意

■充電器冷却用の吸入口について

→P. 144

ソーラー充電システム★

車両のルーフに搭載された大型ソーラーパネル（ソーラールーフ）により太陽光発電を行い、その電力を駆動用電池および補機バッテリー系統へ供給するシステムです。

充電設備がない駐車場や災害等で停電した場合でも、太陽光さえあれば、特別な操作をすることなく、駆動用電池の充電※が可能になります。

※ ソーラー充電システムによる充電量は、季節や天候などの条件により異なります。また、1 日で充電できる量にも限りがあり、ソーラー充電システムで充電可能な最大量まで達するには、最速で約 10 日程度の期間が必要です。

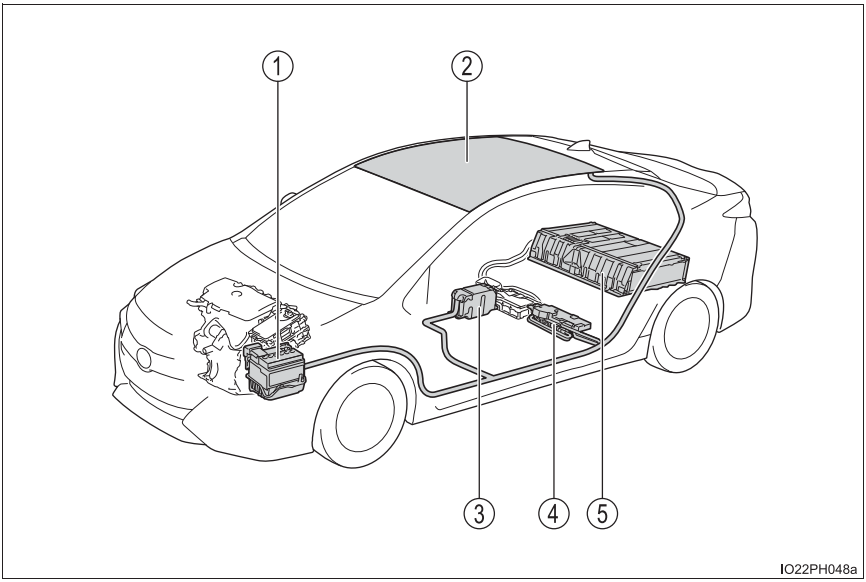
ソーラー充電システムの働き

車両のルーフに搭載されたソーラーパネル（ソーラールーフ）で太陽光発電を行います。

- 駐車中（普通充電中または急速充電中・外部電源供給中・V2H 充電／V2H 給電中を除く）は駆動用電池を充電※します。
  太陽光発電した電力をいったんソーラーバッテリーに蓄えたあと、まとめて駆動用電池に送ることにより、システムの電力消費を低減して効率よく充電します。
- 走行中・外部電源供給中・V2H 給電中は駆動用電池の消費を低減します。
  太陽光発電した電力により補機バッテリー系統の消費を補うことで、駆動用電池の電力消費を抑え、EV 走行距離や燃費の向上に貢献します。

※ ソーラー充電システムでの最大充電量は、普通充電での満充電量の約 90% になります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



① 補機バッテリー

② ソーラールーフ

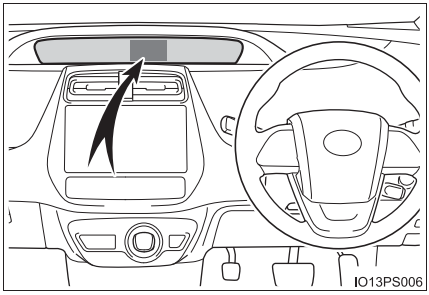
③ ソーラーバッテリー（コンソールボックス内）

④ ソーラー ECU

⑤ 駆動用電池

ソーラー充電システムに関する情報表示

マルチインフォメーションディスプレイの（ドライブインフォメーション）で、ソーラー充電システムに関する情報を確認することができます。（→ P. 276, 287）



知識

■ソーラー充電システムについて

●次の場合は、ソーラー充電システムによる駆動用電池への充電は行われません。ソーラーバッテリーが満充電になった時点で、太陽光発電が停止します。

・普通充電中または急速充電中
・マイルームモードの使用中
・パワースイッチが OFF 以外のとき
・駆動用電池ヒーター（→ P. 135）の作動中
・リモートエアコンシステムの使用中
・駆動用電池の残量が普通充電での満充電量の約 90%以上あるとき

●次の場合は、ソーラー充電システムによる太陽光発電、駆動用電池および補機バッテリー系統への電力供給を停止します。

・ソーラー充電システムの温度保護機能が働いているとき
・ソーラー充電システムが故障したとき
・補機バッテリー端子をはずしたとき

●太陽光発電量は、季節や気候、天候、車両の角度、周囲環境などの状況により異なります。

●ソーラールーフの一部にでも影がかかっていると、極端に発電量が低下する場合があります。

●ソーラールーフの性能を十分に発揮させるために、次のことをお守りください。

・ルーフは定期的に清掃する（特に落ち葉や鳥のふんなどは極端な発電量低下につながります）
・ルーフに雪が積もったときはすみやかに取り除く
・シールやステッカーなどをルーフに貼り付けない
必要がない場合は、ルーフキャリアなどの装備も取り付けないことをおすすめします。

●駆動用電池が満充電の状態では、ソーラー充電システムによる充電が行われません。日中に外部電源からの充電を行う必要がないときは、日没まで可能な限りソーラー充電システムで充電しておき、夜間に外部電源からの充電を行うことで、ソーラー充電システムの機能を効果的に利用できます。

●夏場、炎天下の長時間放置は車内が高温になり、温度保護機能が働きやすくなります。サンシェードの使用や、車両を北向きに駐車するなどの対策を行うことで、ソーラー充電システムの機能を効果的に利用できます。

■ソーラーバッテリーについて

ソーラールーフに太陽光があたらない、かつ走行しない状態が長期間継続すると、ソーラーバッテリーが充電不足になり、システムに悪影響をおよぼすおそれがあります。

太陽光のあたらない車庫等で車両を保管し、長期間車両を使用しない場合は、少なくとも 2 ～ 3ヶ月に一度は、次のいずれかの方法でソーラーバッテリーを充電してください。

●ハイブリッドシステムを始動し、READYインジケーターが点灯している状態を約 1 時間以上継続させる

●車庫の外で駐車するなど、ソーラールーフに太陽光が直接あたる状態を約2時間以上継続させる
（この場合は、ハイブリッドシステムを作動させておく必要はありません）

■スマートフォンとの連携について（マルチメディアシステム装着車）

T-Connect にお申込みいただいた方は、T-Connect 対応アプリで、ソーラー発電に関する情報を確認することができます。

T-Connect サービスの詳細については、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

⚠注意

■ソーラー充電システムの故障を防ぐために

●次のことをお守りください。

・ソーラールーフを改造しない
・ソーラールーフに太陽光を集光しない
・ソーラールーフの上に乗ったり、ものを載せたりしない
・車室内の天井部分からソーラールーフに強い衝撃を与えたり、先のとがったもので力を加えたりしない

●ソーラールーフが破損したときは、破損個所にはふれず、ただちにトヨタ販売店に修理を依頼してください。

■ルーフに荷物を積むとき

→P. 373

正常に充電できないときは

正しい手順に従って作業しても充電が開始されない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示された場合は、P. 203 も併せて参照してください。

正常に普通充電できないとき

次の記載を参照して、それぞれ必要な処置を行ってください。

考えられる原因	対処方法
❑電源プラグを外部電源に接続してもコントロールユニット上の電源インジケーターが点灯しない	
電源プラグがコンセントに正しく接続されていない	電源プラグがコンセントに正しく接続されているか確認してください。
停電している	停電の解消後、再度充電してください。
手元スイッチが OFF になっている	手元スイッチが設置されている場合は、スイッチを ON にしてください。
建物側のブレーカーが作動して電気が遮断されている	ブレーカーの接続状態を確認し、異常がない場合はほかのコンセントで充電可能かご確認ください。 充電できた場合、最初に接続したコンセントの異常が考えられます。建物・設備の管理者、または電気工事業者にご連絡ください。
コントロールユニットから電源プラグまでのあいだに断線が発生している	ただちに充電を中止して、トヨタ販売店にご連絡ください。
❑コントロールユニット上のエラーインジケーターが点滅している	
漏電検知機能、または自己診断機能が作動して電気が遮断された	電圧が不足している場合や、ノイズの影響を受けた場合などに、エラーインジケーターが点滅することがあります。リセット操作を行い、正常な電源に接続してください。 （→ P. 106） 充電が開始されない場合は、ただちに充電を中止してトヨタ販売店にご連絡ください。

考えられる原因	対処方法
❑充電コネクターを接続しても充電インジケーターが点灯しない	
電源プラグがコンセントに確実に接続されていない	電源プラグがコンセントに正しく接続されているか確認してください。
普通充電コネクターが普通充電インレットに確実に接続されていない	普通充電コネクターの接続状態を確認してください。 ・普通充電コネクターを接続するときは、ロック解除ボタンにふれないように注意し、“カチッ”と音がするまで挿し込んでください。ロック解除ボタンを押しながら挿し込むと、正しく接続されないおそれがあります。 ・普通充電コネクターの接続後は、ロック解除ボタンが押し込まれておらず、充電インジケーターが点灯していることを確認してください。 普通充電コネクターが確実に接続されているのに充電インジケーターが点灯しない場合は、システムに異常があるおそれがあります。ただちに充電を中止して、トヨタ販売店にご連絡ください。
すでに駆動用電池が満充電になっている	駆動用電池が満充電の場合、充電は行われません。
普通充電器（スタンド）が作動しない	普通充電器（スタンド）に問題がある場合は、設備の管理者にご連絡ください。
❑充電インジケーターが点滅して充電できない	
充電インジケーターが点滅（通常）しているとき※： 充電スケジュールが登録されている	タイマー充電を実施したい場合は、設定した時刻になるまでそのままお待ちください。 充電を開始したい場合は、「今すぐ充電」をONにしてください。（→P. 173, 182）
充電インジケーターが速い点滅をしているとき※： 外部電源、または車両に異常が発生している	ハイブリッドシステムを始動して、マルチインフォメーションディスプレイに表示されたメッセージ（→P. 203）の指示に従って、それぞれ対処してください。

※ 充電インジケーターの点灯・点滅については、P. 102を参照してください。

正常に急速充電・V2H 充電／ V2H 給電できないとき

次の記載を参照して、それぞれ必要な処置を行ってください。

考えられる原因	対処方法
❑急速充電・V2H 充電／ V2H 給電が開始しない	
急速充電コネクターが車両に正しく接続されていない	急速充電コネクターの接続状態を確認し、コネクターを確実にロックしてください。 接続状態に異常がないのに急速充電・V2H 充電／ V2H 給電が開始されないときは、急速充電器・V2H 機器、または充電システムに異常がある可能性があります。 ・急速充電器に問題がある場合は、設備の管理者にご連絡ください。 ・V2H 機器に問題がある場合は、V2H 機器の製造業者または販売業者にご連絡ください。 ・急速充電器･V2H 機器に問題がない場合は、システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店にご連絡ください。
急速充電コネクターが確実にロックされていない	
急速充電器（スタンド）・V2H 機器、または車両のセルフチェック機能でエラーが検出された	急速充電器・V2H 機器、または充電システムに異常がある可能性があります。（→ P. 159） ・急速充電器に問題がある場合は、設備の管理者にご連絡ください。 ・V2H 機器に問題がある場合は、V2H 機器の製造業者または販売業者にご連絡ください。 ・急速充電器･V2H 機器に問題がない場合は、システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店にご連絡ください。 ・ハイブリッドシステムを始動できなくなった場合は、トヨタ販売店にご連絡ください。
急速充電器（スタンド）・V2H 機器の電源が OFF になっている	・急速充電器の管理者に連絡して、電源状態をご確認ください。 ・V2H　機器の取り扱い説明書を確認するなど、電源状態をご確認ください。

考えられる原因	対処方法
❑急速充電・V2H 充電／ V2H 給電が開始しない	
駆動用電池の残量が普通充電での満充電量の約80%以上ある	駆動用電池の残量が普通充電での満充電量の約 80% 以上あるときは、急速充電できません。満充電にしたい場合は、普通充電または V2H 充電を実施してください。 V2H 充電時は、V2H 機器の設定を確認してください。
普通充電コネクターも接続している	普通充電と急速充電を同時に行うことはできません。
AC 外部電源供給をしている	AC 外部電源供給と急速充電・V2H 充電／ V2H 給電を同時に行うことはできません。
EV給電モードを選択している	EV 給電モードを選択している場合、急速充電・V2H 充電を行うことはできません。
HV 給電モードを選択している	HV 給電モードを選択している場合、急速充電・V2H 充電／ V2H 給電を行うことはできません。
ハイブリッドシステムが始動している	ハイブリッドシステムが始動していると急速充電・V2H 充電／ V2H 給電を開始できません。また、シフトポジションが P でないと急速充電システムを使用できません。

考えられる原因	対処方法
❑急速充電・V2H 充電／ V2H 給電が途中で停止する	
急速充電器（スタンド）・V2H 機器のタイマーが作動した	急速充電器または V2H 機器によっては、一定時間で充電が停止するようにタイマーが設定されている場合があります。急速充電器の管理者に確認するか、V2H 機器に付属の取り扱い説明書を確認してください。
急速充電器（スタンド）・V2H 機器の電源が OFF になった	急速充電器またはV2H機器の電源状態を確認してください。電源の状態が不明な場合は、急速充電器の管理者に連絡するか、V2H 機器に付属の取り扱い説明書を確認してください。
駆動用電池の温度が極端に高い、または極端に低い	極端な高温、または極低温の環境下では、急速充電または V2H 充電／ V2H 給電できない場合があります。気温が安定してから急速充電・V2H 充電／ V2H 給電を実施してください。
急速充電器（スタンド）・V2H 機器、または車両のセルフチェック機能でエラーが検出された	急速充電器・V2H 機器、または充電システムに異常がある可能性があります。（→ P. 159） ・急速充電器に問題がある場合は、設備の管理者にご連絡ください。 ・V2H 機器に問題がある場合は、V2H 機器に付属の取り扱い説明書をご確認ください。 ・急速充電器･V2H 機器に問題がない場合は、システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店にご連絡ください。 ・ハイブリッドシステムを始動できなくなった場合は、トヨタ販売店にご連絡ください。
充電を開始してから60分が経過した（急速充電時のみ）	急速充電は、最大 60 分で充電が停止します。（→ P. 160）

考えられる原因	対処方法
❑急速充電後･V2H 充電／ V2H 給電後にハイブリッドシステムが始動できなくなった	
充電後のシステムチェックが正常に終了しなかった	P. 161 の手順でシステムチェックを実施してください。再試行してもシステムチェックが正常に終了しない場合は、トヨタ販売店にご連絡ください。
急速充電コネクターが接続されたままになっている	急速充電コネクターが接続されているときは、安全のため、ハイブリッドシステムを始動することができません（→ P. 142）。急速充電・V2H 充電／ V2H 給電終了後は、すみやかに急速充電コネクターを取りはずしてください。
急速充電システムまたは V2H 充電／V2H給電システムが故障した	故障の原因によっては、充電リッドを閉めることで、ハイブリッドシステムを始動できる場合があります。 始動できない場合は、トヨタ販売店にご連絡ください。

タイマー充電機能が正常に作動しないとき

次の記載を参照して、それぞれ必要な処置を行ってください。

考えられる原因	対処方法
❑希望の時刻に充電できない	
車両の時計が正しく調整されていない	時計の設定を確認し、正しい時刻に調整してください。（→ P. 251）
車両のカレンダーが正しく設定されていない	カレンダーの設定内容を確認し、正しい年月日に設定してください。（→ P. 253）
車両に普通充電ケーブルが接続されていない	タイマー充電を使用する際は、あらかじめ普通充電ケーブルを接続しておいてください。
誤った充電モードを選択している	充電モードの設定をご確認ください。（→ P. 164） 充電モードが「開始」のときは設定した時刻に充電が開始されますが、「出発」に設定したときは、設定した時刻に充電が完了するように充電が実施されます。（充電開始時刻は、システムにより自動制御されます）
❑スマートフォンのアプリケーション ※ から次回充電予定の変更ができない	
スマートフォンが通信圏外にある	電波状態を確認し、通信圏外になっている場合は電波の状況がよい場所へ移動してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

考えられる原因	対処方法
❑充電スケジュールを登録してあるのに充電が開始される	
「今すぐ充電」が ON になっている	タイマー充電する際は、「今すぐ充電」を OFF に設定してください。（→ P. 173, 182）
充電スケジュールが OFF になっている	充電スケジュールが OFF に設定されていないか確認してください。（→ P. 171, 180）
充電モードが「出発」に設定されており、かつ出発予定時刻が現在時刻に近い時刻に設定されている	車両のシステムにより、設定した出発時刻までに充電が完了できないと判断された場合は、充電が開始されます。充電スケジュールを確認してください。
充電インジケーターの点滅（通常）中に普通充電ケーブルを抜き挿しした	充電インジケーターの点滅（通常）中に普通充電ケーブルを抜き挿しすると、タイマー充電がキャンセルされます（→ P. 148）。いったん普通充電ケーブルを取りはずして、再度、接続しなおしてください。
マイルームモード、またはリモートエアコンシステムを作動させた	マイルームモード、またはリモートエアコンシステムを作動させると、充電スケジュールが登録されていても、充電が開始されます。タイマー充電を実施したい場合は、それぞれの機能を停止してから、接続し直してください。
駆動用電池ヒーター（→ P. 135）が作動した	充電モードが「出発」のときは、充電前に駆動用電池ヒーターが作動する場合があります。充電インジケーターの状態を確認してください。（→ P. 102）
❑「出発」に設定した時刻よりも早く充電が終了する	
電源環境や気温などの影響により、システムが予測した充電完了時刻にずれが生じた	充電中に急激な気温変化が発生したり、電源の状況に変化が生じたりした場合は、システムの予測よりも早く充電が終了する場合があります。

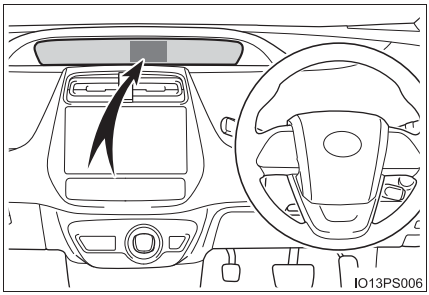
考えられる原因	対処方法
❑「出発」に設定した時刻になっても充電が完了しない	
エアコン連動機能を使用している	エアコン連動機能を使用すると、「出発」に設定した時刻までエアコンが作動するため、充電状態によっては、設定時刻になっても充電が完了しない場合があります。その場合は、満充電になるまで充電が継続されるため、充電を続けるときはそのままお待ちください。
電源環境や気温などの影響により、システムが予測した充電完了時刻にずれが生じた	充電中に急激な気温変化が発生したり、電源の状況に変化が生じたりした場合は、システムの予測どおりに充電が完了しない場合があります。
❑「開始」に設定した時刻になっても充電が開始されない	
設定した時刻が過ぎてから普通充電ケーブルを接続した	普通充電ケーブルは、「開始」に設定した時刻になる前に接続してください。

※ スマートフォンのアプリケーションを利用するには、マルチメディアシステムを装着、かつ T-Connect へのお申し込みが必要です。T-Connect サービスの詳細については、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

充電に関するメッセージが表示されたときは

充電後にハイブリッドシステムを始動すると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

その場合は、メッセージの指示に従って、それぞれ必要な処置を行ってください。



考えられる原因	対処方法
❑「充電コネクター操作により充電停止しました」と表示されたとき	
普通充電中に普通充電コネクターを取りはずした	普通充電中に普通充電コネクターを取りはずすと、充電は中断されます。 満充電にしたい場合は再度、充電を行ってください。
普通充電で満充電になったあと、電力を消費する機能※が作動したことで低下した駆動用電池残量を補うための再充電時に、普通充電コネクターを取りはずした ※ 駆動用電池ヒーター（→ P. 135）・エアコン連動機能（→ P. 165）・リモートエアコンシステム（→ P. 606）が作動すると、電力が消費されます。また、マイルームモード（→ P. 185）の使用も、電力を消費します。	

考えられる原因	対処方法
❑「充電コネクター操作により充電停止しました」と表示されたとき	
普通充電コネクターが確実に接続されていない	普通充電コネクターの接続状態を確認してください。 ・普通充電コネクターを接続するときは、ロック解除ボタンにふれないように注意し、“カチッ”と音がするまで挿し込んでください。ロック解除ボタンを押しながら挿し込むと、正しく接続されないおそれがあります。 ・普通充電コネクターの接続後は、ロック解除ボタンが押し込まれておらず、充電インジケーターが点灯していることを確認してください。 正しい作業手順に従っても充電できない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。
充電中に普通充電コネクターのロック解除ボタンを押した	充電中にロック解除ボタンを押し続けると、充電が停止します。充電を続ける場合は、普通充電コネクターを接続し直してください。
❑「充電完了しました（駆動用電池温度による制限）」と表示されたとき	
駆動用電池が高温の状態が続いたため、駆動用電池の保護のために充電が終了した	ご希望の充電量に到達していないときは、駆動用電池が冷えてから再度、充電を行ってください。

考えられる原因	対処方法
❑「停電または電源プラグ抜けにより充電停止しました」と表示されたとき	
外部電源からの電源供給に問題がある	次の点をご確認ください。 ・電源プラグが抜けていないか ・手元スイッチが OFF になっていないか ・コントロールユニット上の電源インジケーターが点灯しているか ・ブレーカーが落ちていないか 以上の点に問題がない場合は、建物のコンセントなどに問題がある可能性があります。電気工事業者に点検を依頼してください。（充電設備のご利用時に問題が生じた場合は、設備の管理者にご連絡ください） 電源経路に問題がないのに充電できない場合は、システムの異常が考えられます。トヨタ販売店で点検を受けてください。 なお、コントロールユニット上のエラーインジケーターが点滅している場合は、漏電の可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。
普通充電器（スタンド）が充電を停止した	●普通充電器の仕様により、電源供給が停止されることで充電中止となることがあります。例えば、次のような場合があります。普通充電器の取り扱い方法をご確認ください。 ・普通充電器（スタンド）の停止ボタンを押した ・普通充電器（スタンド）にタイマー充電機能がある ・普通充電器（スタンド）が車両のタイマー充電機能に対応していない ●この車両に装備されている普通充電ケーブルでの充電が可能かご確認ください。 トヨタ純正の普通充電ケーブルを使用しても充電できない場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
❑「充電設備の要因により充電停止しました」と表示されたとき	
普通充電器（スタンド）が車両に適合していない	この車両に装備されている普通充電ケーブルでの充電が可能かご確認ください。 トヨタ純正の普通充電ケーブルを使用しても充電できない場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
普通充電器（スタンド）が充電を停止した	

考えられる原因	対処方法
❑「AC 供給電源の要因により充電停止しました」と表示されたとき	
外部電源からの電源供給に問題がある	次の点をご確認ください。 ・電源プラグがしっかりと挿し込まれているか ・延長コードを使用したり、タコ足配線になったりしていないか ・専用回線に接続されているか ・停電が発生していないか 以上の点に問題がない場合は、建物のコンセントなどに問題がある可能性があります。電気工事業者に点検を依頼してください。（充電設備のご利用時に問題が生じた場合は、設備の管理者にご連絡ください） 電源経路に問題がないのに充電できない場合は、システムの異常が考えられます。トヨタ販売店で点検を受けてください。
普通充電器（スタンド）が充電を停止した	この車両に装備されている普通充電ケーブルでの充電が可能かご確認ください。 トヨタ純正の普通充電ケーブルを使用しても充電できない場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
❑「電装品の電力消費大のため充電停止しました」と表示されたとき	
車両の電装品によって電力が消費されている	次の点をご確認の上、再度充電してください。 ・ヘッドランプやオーディオ★などが ON になっている場合は、OFF にしてください。 ・パワースイッチを OFF にしてください。 以上を実施しても充電できない場合は、補機バッテリーの充電不足が考えられます。ハイブリッドシステムを約 15 分以上作動させて、補機バッテリーを充電してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

考えられる原因	対処方法
❑「プラグイン充電システム確認のため充電口を閉めてください 詳細は取扱書をお読みください」と表示されたとき	
急速充電時･V2H 充電／ V2H 給電時のシステムチェックが正常に終了しなかった	この場合、システムチェックが正常に終了するまで、ハイブリッドシステムが始動できなくなります。 P. 161 の記載に従って、充電システムのチェックを実施してください。
❑「システムの要因により充電停止しました」と表示されたとき	
充電システムに異常が発生した	トヨタ販売店で点検を受けてください。
❑「充電終了時間に達したため充電停止しました」と表示されたとき	
急速充電器（スタンド）、または車両側の制限時間内に急速充電が完了しなかった	・急速充電器によっては、一定時間で充電が停止するように、タイマーが設定されている場合があります。急速充電器の管理者に確認してください。 ・エアコンやヘッドランプ、オーディオ★などの電源が ON のため、電装品が電力を消費し、駆動用電池への充電電力が小さくなっている可能性があります。電装品の電源を OFF にしてから、急速充電を行ってください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

AC 外部電源供給システム

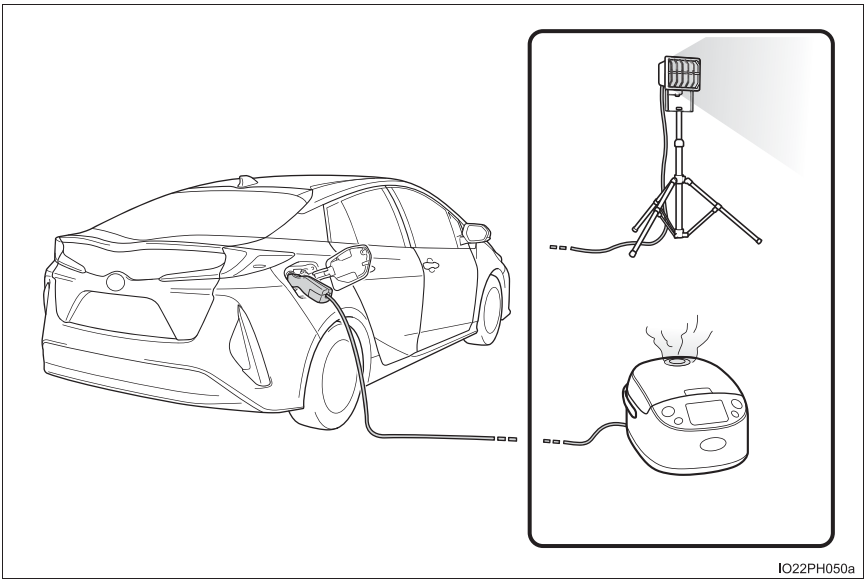
この車の AC 外部電源供給システムは、車両から屋外での電源供給が可能という点で一般家庭のコンセントと異なるため、取り扱いには注意が必要です。

ご使用前に、必ずここで説明している内容をよくお読みいただいた上で、正しく取り扱ってください。

AC 外部電源供給システムについて

普通充電インレットに専用変換アダプタ（ヴィークルパワーコネクタ）を取り付け、電源供給開始操作を行うことで、AC100V で最大消費電力の合計が 1500W 以下 ※ の電気製品を使用することができるシステムです。

※ ヴィークルパワーコネクタの車外コンセント、および車内のアクセサリーコンセント（→ P. 629）に接続する電気製品の、最大消費電力の合計が 1500W 以下であることが必要です。



AC 外部電源供給モードについて

次の 2 種類からご希望のモードを選択して、AC 外部電源供給を行うことができます。

■ EV 給電モード

駆動用電池に蓄えられている電力のみを使用して AC 外部電源供給を行います。電源供給可能な駆動用電池の残量を下まわると、給電を終了します。

■ HV 給電モード

AC 外部電源供給中に電源供給可能な駆動用電池の残量を下まわると、エンジンが作動して給電を継続します。燃料残量警告灯が点灯すると、給電を終了します。

知識

■アイドリングストップ条例について

HV 給電モードでの使用時は、電源供給可能な駆動用電池の残量を下まわると、自動でエンジンが始動し、充電を行います。

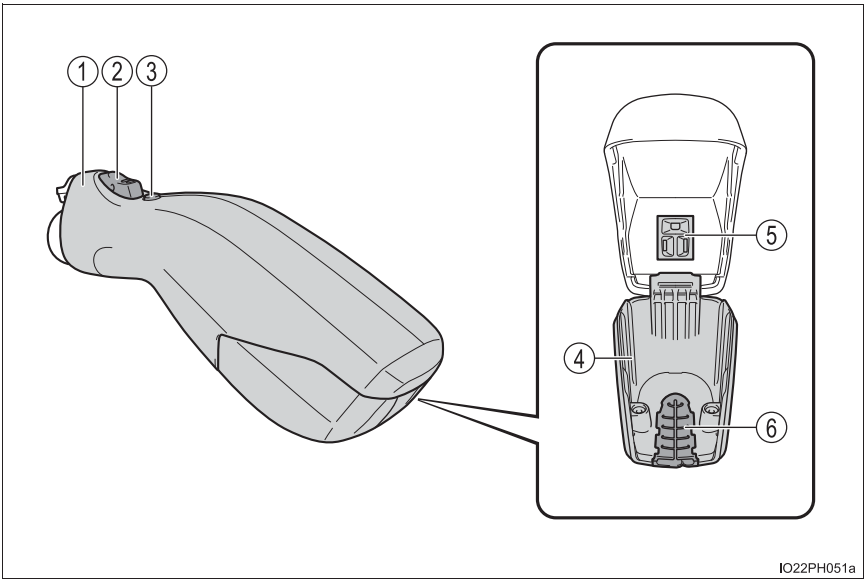
一部の自治体では、駐車または停車中にエンジンを始動させた場合、アイドリングストップに関する条例にふれるおそれがあります。関係する自治体に確認した上で、適切にご使用ください。

■スマートフォンとの連携について（マルチメディアシステム装着車）

T-Connect にお申込みいただいた方は、T-Connect 対応アプリで、AC 外部電源供給システムに関する情報を確認したり、一部の操作を行ったりすることができます。

T-Connect サービスの詳細については、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

ヴィークルパワーコネクタ各部の名称



① ヴィークルパワーコネクタ
② ロック解除ボタン
③ 電源スイッチ
④ 防水カバー
⑤ 車外コンセント
⑥ 防水ゴム

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ヴィークルパワーコネクタを取り扱うとき

- 分解・修理・改造・塗装をしない
  異常が認められた場合は、ただちに使用を中止してトヨタ販売店にご連絡ください。
- 強い衝撃を与えたり落としたりしない
- 水にぬれたときや汚れがあるときは、乾いた布でふく
- 水洗いしたり、水やほかの液体に浸けたりしない
  水やほかの液体に浸けた場合は使用しないでください。
- シールなどを貼り付けない
- 警告ラベルを汚したり、はがしたりしない
- お子さまにはさわらせない
- 車外コンセントにほこりなどの汚れが付着しないようにする
- 対応していない、ほかの車両には接続しない
- 保管するときは、取扱説明書・手順書とともに保管する
  お車を人に貸し出すときは、車両の取扱書とヴィークルパワーコネクタの手順書とを併せてお渡しください。

AC 外部電源供給システムをご使用になる前に

AC 外部電源供給システムを安全にお使いいただくため、ご使用前には次の事項をご確認ください。

警告

■ご使用前の点検について

次のことを確認してください。
点検をしないで使い続けると、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ヴィークルパワーコネクタに破損などがないこと
異常がある場合はただちに使用を中止して、トヨタ販売店にご連絡ください。

●電源プラグに破損・変形などがないこと
異常がある場合はただちに使用を中止してください。

●車外コンセントに汚れや破損などがないこと

■ヴィークルパワーコネクタを清掃するとき

●水洗いによる清掃は行わないでください。ヴィークルパワーコネクタ内部に水が浸入すると、使用時に火災や感電事故が発生し、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ヴィークルパワーコネクタが汚れたときは、固くしぼった布で汚れをふき取ったあと、乾いた布でからぶきしてください。

●ガソリン等の溶剤・酸またはアルカリ性の溶剤は使用しないでください。

■車外コンセントの交換について

電源プラグを車外コンセントに挿し込んでもゆるいときは、トヨタ販売店にご相談ください。

注意

■ヴィークルパワーコネクタを使用しないとき

衝撃やほこりから保護するため、すみやかに車両から取りはずして保管してください。

なお、長期間使用しないときは、水気がなく、直射日光があたらない場所に保管してください。

AC 外部電源供給システムの使い方

AC 外部電源供給作業は、ここで説明している内容をよくお読みいただいた上で、正しい手順に沿って行ってください。

AC 外部電源供給作業前の重要確認事項

必ず、次の点をご確認ください。

- パーキングブレーキがかかっていること（→ P. 387）
- パワースイッチが OFF になっていること（→ P. 374）
- HV 給電モードのときは、AC 外部電源供給中にエンジンが作動する場合があるため、車庫内等、換気の悪い場所を避け、換気のよい場所に駐車すること
- 地面が固く平らな場所に駐車すること

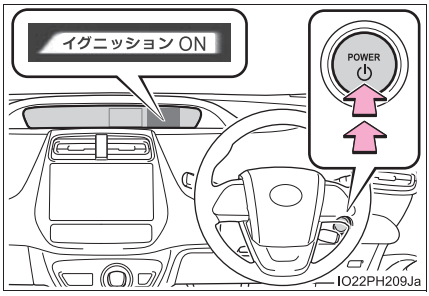
  輪止めの使用をおすすめします。輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。
- ボンネットが閉まっていること
- シフトポジションが P になっていること

AC 外部電源供給を開始するときは

1 ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを 2 回押して、ON モードにする

メインディスプレイに「イグニッション ON」と表示されていることを確認してください。

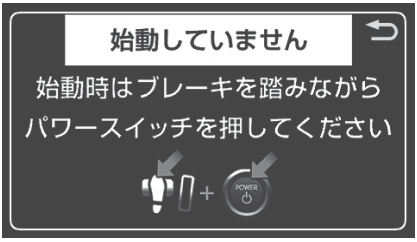
ブレーキペダルを踏んだままパワースイッチを押すと、ハイブリッドシステムが始動してしまい、AC 外部電源供給システムが使用できません。



ON モードにしたあとは、シフトレバーを操作しないでください。シフトポジションが P でないと、AC 外部電源供給システムを使用できません。

2 始動操作に関するアドバイス画面が表示されたときは、メーター操作スイッチの を押して前の画面にもどす

一定時間、メーター操作スイッチを操作しないと、始動操作に関するアドバイス画面が再表示されます。その場合は、そのつど スイッチを押して前の画面にもどしてください。



IO22PH138

3 マルチインフォメーションディスプレイの 画面で、メーター操作スイッチの ／ を押して （車両カスタマイズ）を選択し、 を押す（→ P. 297）

4 メーター操作スイッチの ／ を押して「外部電源供給」を選択し、 を押す

外部電源供給モードの選択画面が表示されます。

IO22PH126a

5 メーター操作スイッチの ／ を押してご希望の外部電源供給モードを選択し、 を押す ※1, 2

外部電源供給モードの選択画面上に、各モードでの給電可能時間の目安が表示されます。※3

IO22PH127

※1 給電に必要な燃料が不足しているときは、HV 給電モードを選択できません。

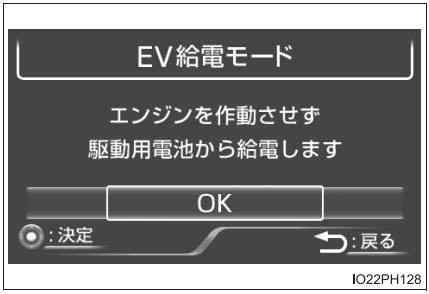
※2 駆動用電池の残量が低下しているときは、EV 給電モードを選択できません。

※3 使用する電気製品や使用環境などにより、表示されている時間と実際の給電可能時間が異なる場合があります。

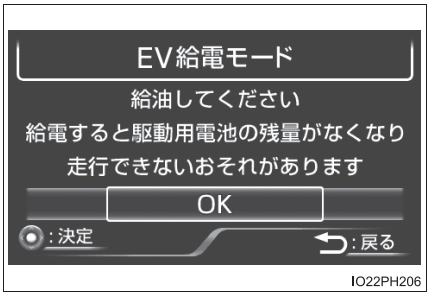
▶ EV 給電モードを選択した場合

6 操作ガイド画面の表示に従う

燃料残量警告灯が点灯していると、操作ガイド画面の前に、警告画面が表示されます。そのまま AC 外部給電を行うと、駆動用電池の残量不足、かつ燃料不足により、走行できなくなるおそれがあります。AC 外部給電を行う前に給油することをおすすめします。



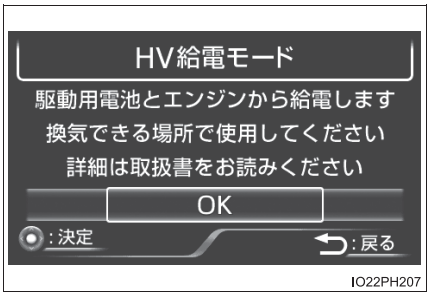
IO22PH128



IO22PH206

▶ HV 給電モードを選択した場合

6 使用上の注意に関する画面を確認して、◎を押し、操作ガイド画面の指示に従う。



IO22PH207

7 必要に応じてメーター操作スイッチの ∧／∨ を押して「ヴィークルパワーコネクタ」を選択し、◎ を押す

開始操作ガイドが表示されます。

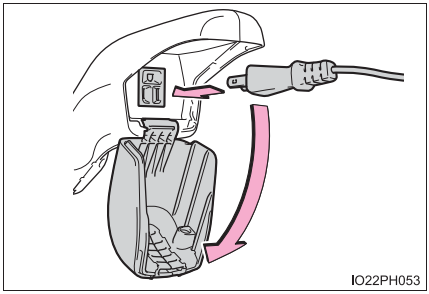
IO22PH172

8 ヴィークルパワーコネクタを用意する

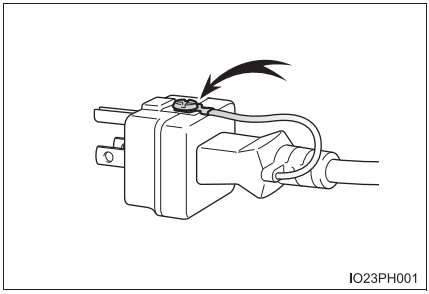
ヴィークルパワーコネクタに異常がないことを確認してください。（→ P. 212）

9 ヴィークルパワーコネクタの防水カバーを開け、使用する電気製品の電源プラグを車外コンセントに接続する

電源プラグは奥までしっかり挿し込んでください。（→ P. 225）

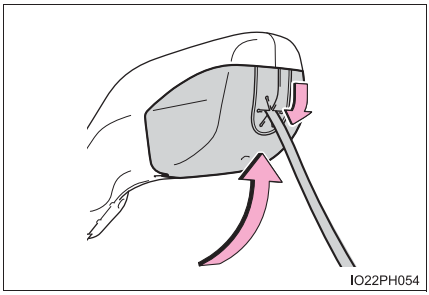

IO22PH053

アース線のある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線を変換アダプターのアース端子に接続してください。


IO23PH001

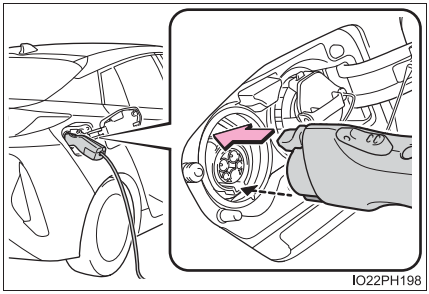
10 防水ゴムに電源コードを通し、防水カバーを閉じる

防水カバーがロックされたことを確認してください。（→ P. 225）

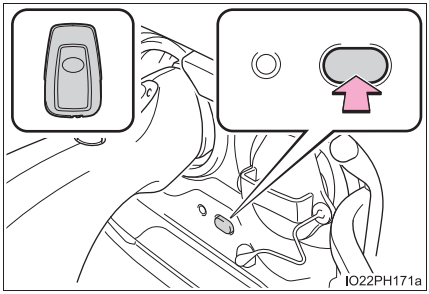

IO22PH054

11 充電リッドを開け（→ P. 99）、ヴィークルパワーコネクタを普通充電インレットに接続する

ヴィークルパワーコネクタの下側にあるガイドの位置を合わせて、まっすぐにいっぱいまで挿し込み、“カチッ”という音がして、確実にロックされたことを確認してください。

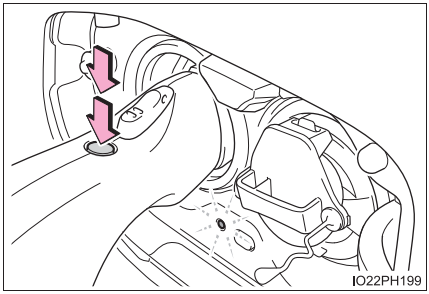

IO22PH198

12 ヴィークルパワーコネクタを施錠したいときは、電子キーを携帯してコネクターロックスイッチを押す



スマートリッド＆コネクターロックシステムによって、ヴィークルパワーコネクタが施錠されます。施錠後は、電子キーが充電リッドの検知エリア（→ P. 335）にないと、コネクターロックスイッチを押してもヴィークルパワーコネクタを解錠することはできません。

13 ヴィークルパワーコネクタの電源スイッチを 2 回連続で押す



充電インジケーターが点滅※ します。

電源スイッチを 2 回連続で押す間隔が 3 秒以上空いたり、2 回よりも多く押したりした場合は、充電インジケーターは点滅しません。

※ このときは遅い点滅になります。（→ P. 102）

14 充電インジケーターが点滅から点灯にかわったら、接続した電気製品の電源を ON にする

充電インジケーターは一定時間点滅します。点滅中は AC 外部電源供給が開始されていないため、点灯にかわるまでお待ちください。（AC 外部電源供給が開始されないときは：→ P. 241）

AC 外部電源供給中は、マルチインフォメーションディスプレイの表示で、現在の給電状況をお知らせします。

知識

■給電モードの選択画面の表示方法

次の手順でも給電モードの選択画面を表示することができます。

1 充電リッドを開け、ヴィークルパワーコネクタを普通充電インレットに接続する

2 ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを 2 回押して、ON モードにする

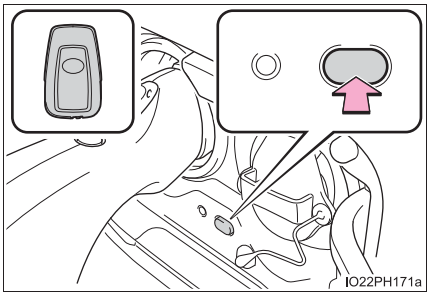
AC 外部電源供給を停止するときは

1 使用している電気製品の電源を OFF にする

2 ヴィークルパワーコネクタを施錠したときは、電子キーを携帯してコネクターロックスイッチを押す

スマートリッド＆コネクターロックシステムによって、ヴィークルパワーコネクタが解錠されます。

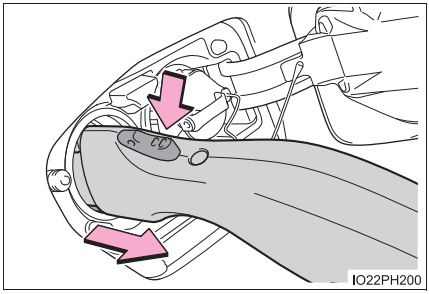
電子キーを携帯して普通充電インレットに近付くと、充電インレット照明が点灯します。



3 ロック解除ボタンを押しながら手前に引いて、ヴィークルパワーコネクタを取りはずす

パワースイッチが自動でOFFになります。

ロック解除ボタンを押すだけでも、AC外部電源供給は停止します。また、パワースイッチを押して、電源供給を停止することもできます。

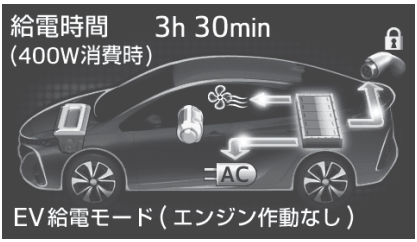


4 車外コンセントから電源プラグを取りはずす

ヴィークルパワーコネクタと電気製品を片付けてください。

AC 外部電源供給に関する情報の表示

AC 外部電源供給システムの使用中は、マルチインフォメーションディスプレイにエネルギーモニターが表示され、AC 外部電源供給の状況※1 や、電源供給可能時間 ※2 などの情報を確認することができます。



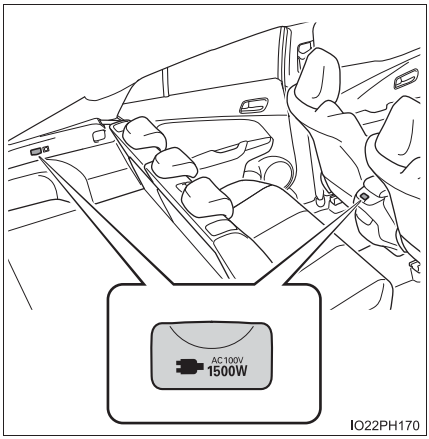
IO22PH129

※1 エネルギーモニターの見方については、P. 272 を参照してください。

※2 表示される時間は目安であり、電気製品の使用状況や、使用環境などにより実際の給電可能時間が異なる場合があります。

車内のアクセサリーコンセントについて

AC 外部電源供給システムを使用しているときは、車内にあるアクセサリーコンセントからも電源を取り出すことができます。



AC 外部電源供給システムの使用中は、AC100V スイッチ（→ P. 630）を押さなくてもアクセサリーコンセントを使用できます。また、AC100V スイッチを押して OFF にすることはできません。

アクセサリーコンセントの使用方法については、P. 629 を参照してください。

知識

■ヴィークルパワーコネクタを解錠できないとき

「普通充電コネクターを解錠できないとき」（→ P. 120）をご確認ください。

■AC 外部電源供給システムの使用中は

- シフトポジションを P からほかのシフトポジションに切りかえることはできません。
- スマートエントリー＆スタートシステムでドアを解錠・施錠することはできません。
- ワイヤレスリモコンでドアの解錠・施錠をすることができます。
  使用する電気製品から発生するノイズにより、正常に作動しない場合があります。
- ドアの開閉などにより、ブザーが鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに「キーが見つかりません」と表示されたりすることがあります。
- 給電中に周囲が暗くなると、自動でヘッドランプなどが点灯します。ランプを消灯したいときは、P. 389 を参照してください。

■AC 外部電源供給システムについて

●AC100V で最大消費電力の合計が 1500W 以下の電気製品を使用してください。規定容量をこえる電気製品を使用すると、AC 電源装置の保護機能が作動し、車外コンセント、および車内のアクセサリーコンセントが使用できなくなりますが、故障ではありません。なお、保護機能が作動したときに音がすることがありますが、異常ではありません。

●AC 外部電源供給システムの起動中に、電気製品によっては大きな電流が流れ、瞬間電力が 1500W をこえるときがあります。この場合、AC 電源装置の保護機能が作動し、AC 外部電源供給システムが停止することがありますが、故障ではありません。
その場合は、いったん電気製品の電源を OFF にし、電源プラグを挿し直してから、再度、AC 外部電源供給を開始してください。

●消費電力が大きな電気製品（ホットプレートなど）の中には、コンセントを単独で使うことを必須としているものがあります。その場合、他の電気製品と併用しないでください。

●複数の電気製品に給電する場合、電気製品によっては正常に作動しない可能性があります。
その場合は、単独で電気製品を使用してください。

●使用する電気製品によっては、周囲のテレビやラジオに雑音が入ることがあります。

■車外コンセントに接続する電気機器について

次のような AC100V の電気製品は、消費電力の合計が 1500W 以下の場合でも正常に作動しないおそれがあります。

●起動時の電力が高い電気製品

●取扱説明書などに記載されている消費電力よりも大きな供給電力を必要とする電気製品

●精密なデータ処理をする計測機器

●極めて安定した電力供給を必要とする電気製品

●タイマー設定する機器など、AC 電源の出力が連続して必要な電気製品

■AC 外部電源供給中のいたずらなどを防ぐために

コネクターロックスイッチ（→ P. 117）でヴィークルパワーコネクタを施錠できます。

■電源周波数について

工場出荷時、車両側の電源周波数は、60Hz に設定されています。
コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。
電気製品によっては、電源周波数の切りかえ（50 ／ 60Hz）機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を同じにしてください。
車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■AC 外部電源供給システムを使用しているとき

●AC 外部電源供給システムの作動中は、リヤシートの下側から冷却用ファンの音がすることがあります。

●炎天下など、車内が高温になる状態で使用すると、システムを保護するためにAC 外部電源供給システムが自動で停止することがあります。
その場合はエアコンを使用するか、いったんヴィークルパワーコネクタを取りはずしてから、車両を日陰に移動するなどして車内の温度を下げ、再度、AC 外部電源供給を開始してください。

●特に外気温が低いときは、駆動用電池を保護するため、AC 外部電源供給システムを使用できないことがあります。
その場合は、いったんヴィークルパワーコネクタを取りはずしてからしばらく走行するなどして、駆動用電池を暖めてからご使用ください。

●パワースイッチがONモードの状態でドアを施錠すると、スマートリッド＆コネクターロックシステムによる充電リッドの解錠・普通充電コネクターの施錠／解錠ができなくなります。
その場合は、パワースイッチを OFF にするかドアを解錠してから、再度、スマートリッド＆コネクターロックシステムの操作を行ってください。

●AC外部電源供給システムを開始した時点で、いったんエアコンがOFFになります。AC 外部電源供給中にエアコンを使用したい場合は、エアコンの操作スイッチを操作して、エアコンを作動させてください。※

※ AC 外部電源供給システムの使用中にエアコンを使用すると、マルチインフォメーションディスプレイに表示される給電可能時間と実際の給電時間が異なる場合があります。

■エアコンの使用について

EV 給電モード時はエンジンが作動しないため、外気温が極めて低いときにエアコンを作動させても暖かい風が出ない場合がありますが、故障ではありません。

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■AC 外部電源供給システムを使用するときの警告

●使用中は車両から離れない

●換気の悪い場所に停車しない
HV 給電モードでの使用時は、駆動用電池の残量減少により、自動的にガソリンエンジンが作動します。排気ガスによる人体への影響を避けるため、次のことを必ずお守りください。

・車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所（雪が積もった場所）などでは、酸素欠乏や排気ガスの充満、滞留を防ぐため、給排気を可能とする関連装置などを適切に設置して、使用してください。
・給排気設備のない車庫内など換気が悪い場所や給排気設備のない囲まれた場所（雪が積もった場所）などでは、酸素欠乏のおそれや排気ガスが充満したり、滞留したりするおそれがあるため、使用しないでください。
（→ P. 44）

●傾いた場所や坂道などに停めて使用しない
使用中に車両を移動させたり、傾けたりしないでください。

●ボンネットが閉まっていることを確認する
状況によっては、エンジンが自動で始動するため排気管付近に近付いたり、荷物を置いたりしないでください。また、エンジンルーム内に顔や手を近付けないでください。ラジエーター冷却用のファンが急にまわりだすことがあります。ファンの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれるおそれがあります。

●燃えやすいものの近くに停車しない
過熱した排気管で発火するおそれがあります。

●車内のアクセサリーコンセントに、使用する意図のない電気製品が接続されていないことを確認する
AC 外部電源供給を開始したときに、車内のアクセサリーコンセントにも電源供給されることにより、それらの電気製品が作動するおそれがあります。

●給油をしない

●車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しない

●お子さまにはヴィークルパワーコネクタを使用させない

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■AC 外部電源供給システムを使用するときの警告

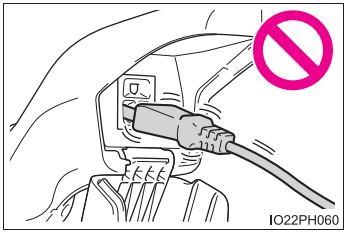
- 破損したヴィークルパワーコネクタ・コード・電源プラグ・コンセントは使用しない
  使用中は不要な荷重がかからないようにし、コードなどを足や車両で踏まないようにしてください。
- ヴィークルパワーコネクタと普通充電インレットは、必ず直接接続する
  ヴィークルパワーコネクタと普通充電インレットとのあいだに、変換アダプターや延長コードなどを接続しないでください。
- 本来の用途以外には使用しない
  コンセントは、照明器具などの電気製品と直接接続して使用するものであり、家屋などへ電気を供給する発電機として使用しないでください。また、家屋などに設置されている非常時の給電システム（外部電源と接続ができる専用設備、外部電源からの供給回路が電力会社からの電気配線と分離されている設備など）に使用する場合は、当該システムの製造業者または販売業者にご相談ください。
- 落雷の可能性がある天候のときは AC 外部電源供給システムを使用しない
  使用中、雷に気付いたときにはAC外部電源供給システムを停止してください。
- 普通充電インレットに普通充電コネクター・ヴィークルパワーコネクタ以外のものを挿し込まない
- ヴィークルパワーコネクタに破損箇所がないか確認する
- ヴィークルパワーコネクタ・普通充電インレットに異物がないか、または雪・氷が付着していないか確認する
  付着している場合は、ヴィークルパワーコネクタを接続する前にしっかりと取り除いてください。
- ヴィークルパワーコネクタの端子部および、普通充電インレットの端子部がぬれないようにする
- ヴィークルパワーコネクタの端子・車外コンセントに金属製の鋭利なもの（ピンや針金など）を挿し込まない
- ヴィークルパワーコネクタの車外コンセントに水や液体・雪がかからないようにする
- 車外コンセントへは電源プラグ本体を持って抜き挿しをする
  プラグの刃にふれないようにしてください。また、コードを引っ張って電源プラグを抜くと、電源プラグやコードが損傷するおそれがあります。

警告

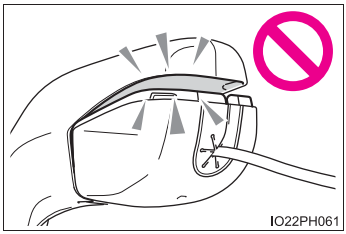
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■AC 外部電源供給システムを使用するときの警告

- 車外コンセントが水没または雪に埋もれている場合は、電源プラグを挿さないすでに電源プラグが挿してあり、抜く必要がある場合は、まずパワースイッチを OFF にし、ヴィークルパワーコネクタを車両から取りはずしたあと、電源プラグを抜いてください。
- ぬれた手で電源プラグの抜き挿しを行わない。また、電源プラグやコンセントをぬらさない
- アース線のある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線を変換アダプターのアース端子に接続する
- 電源プラグはコンセントにいっぱいまで確実に挿し込む
  電源プラグが半挿しの状態にならないようにしてください。また、電源プラグに荷重がかからないようにしてください。



- 車外コンセントに電源プラグを接続したあとは、防水カバーを閉じる
  確実にロックがかかるまで閉じてください。防水カバーがロックできないような大きな電源プラグは使用しないでください。

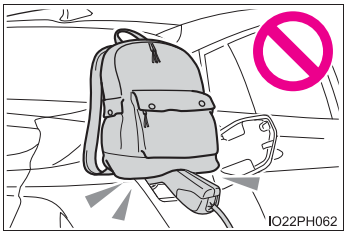


警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■AC 外部電源供給システムを使用するときの警告

●ヴィークルパワーコネクタの上に重量物を置いたり、ものを引っかけたりしない



●異常な発熱を感じたらただちに使用を中止する

■接続する電気製品について

●使用する電気製品に付属の取り扱い説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。

●電源プラグや電気製品が故障しているときは使用しないでください。

●特に外気温が低いときや高いときは、故障や作動不良になる可能性があります。

●水平設置が必要な電気製品は、正常に作動しない可能性があります。

●防水仕様の電気製品を除き、雨や水のかかる場所、湿気の多い場所では使用しないでください。

●水没や浸水した、またそのおそれのある電気製品は使用しないでください。

●車両の状態によっては、一時的に給電機能が停止することがあるため、医療機器は使用しないでください。

■エアコンの使用に関する警告

AC 外部電源供給システムの使用中は、お子さまや介護を必要とする方、ペットを車内に残さないでください。

AC 外部電源供給中にエアコンを使用していても、システムの自動停止等により室内が高温、または低温になる場合があり、熱中症・脱水症状・低体温症になり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■車両にヴィークルパワーコネクタが接続されているとき

シフトレバーを操作しないでください。

万一、ヴィークルパワーコネクタが故障していた場合、シフトポジションが P からほかのシフトポジションに切りかわることがあり、車両が動いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠注意

■AC 外部電源供給システムを使用するときの注意

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、正常に作動しなかったり、車両や電気製品が損傷したりするおそれがあります。

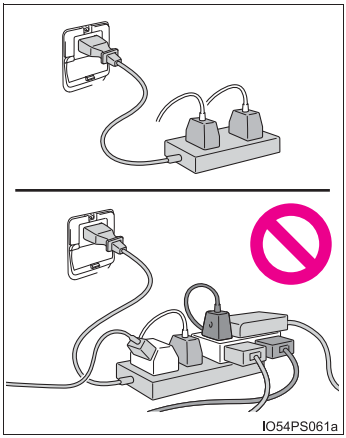
●AC100V 以外の電気製品を接続しない

●最大消費電力の合計が 1500W をこえないようにする
また、振動や熱などに弱い電気製品を使用しないでください。

●コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しない
誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。特に、電子レンジは使用中に発熱するおそれがあります。

●コードやコンセントに異常な発熱を感じたらただちに使用を中止してください。
また、コードの発熱を防ぐために、次のことをお守りください。

・コンセントに、二股などの分岐用コンセントを複数接続しない



・コードリールを使用する場合、コードはリールからすべて引き出す

●車外コンセントにほこりやごみが付着していなことを確認する
車外コンセントは定期的に清掃してください。

●使用中はヴィークルパワーコネクタを揺するなどの不要な振動を与えない
給電を停止することがあります。

■電気製品の電源プラグを車外コンセントに接続するとき

●電源プラグを車外コンセントに接続する前に、電気製品の電源が OFF になっていることを確認してください。

●晴天であっても、防水カバーを確実に閉めた状態で使用してください。

⚠ 注意

■車両を長時間駐車して電源供給を行うとき

次のことにご注意ください。

- ガソリンエンジンの作動中に排気管から水が出ることがありますが、異常ではありません。
- HV 給電モードでの使用時、特に外気温が低いときには、排気管の中にある水が凍り、ガソリンエンジンが始動しにくくなったり、ガソリンエンジン作動中に排気管から臭いが発生したりすることがあります。
  その場合は、いったん電源供給作業を中断して、15 ～ 30 分ほど走行してください。

■AC 外部電源供給システムを使用したあとの注意

- 必ず電気製品の電源を切ってから、ヴィークルパワーコネクタを取りはずしてください。
  電気製品の電源を OFF にしないまま、先に車両からヴィークルパワーコネクタを取りはずすと、電気製品が正常に終了せず、電気製品の故障につながるおそれがあります。
- 普通充電インレットからヴィークルパワーコネクタを取りはずしたあとは、必ず普通充電インレットキャップをはめ、充電リッドを閉めてください。
  普通充電インレットキャップをはずしたまま放置すると、普通充電インレットに水や異物が入り、車両故障につながるおそれがあります。
- 車両から離れる際は、ドアを確実に施錠したことを確認してください。

DC 外部電源供給システム★

車両に外部給電器 ※1 を接続することで、車両から外部へ電源供給 ※2 を行います。

車両の補機バッテリーから機器起動のための電力を供給することで、停電時にも電源供給を行うことができます。

このシステムを使用するには、外部給電器 ※1 が必要です。（車両には付属していません）

※1 車両から電気製品へ電力を供給するために、車両から取り出した DC（直流）電力を AC（交流）電力に変換する機器。
一般社団法人電動車両用電源供給システム協議会が発行する電動自動車用充放電システムガイドライン V2L DC 版に準拠したもの。

※2 車両側の定格出力は DC6kW です。
ただし、接続する外部給電器の出力上限以上は出力されません。

知識

■スマートフォンとの連携について（マルチメディアシステム装着車）

T-Connect にお申込みいただいた方は、T-Connect 対応アプリで、DC 外部電源供給システムに関する情報を確認したり、一部の操作を行ったりすることができます。

T-Connect サービスの詳細については、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

DC 外部電源供給システム★の使い方

DC 外部電源供給作業は、ここで説明している内容をよくお読みいただいた上で、正しい手順に沿って行ってください。

DC 外部電源供給作業前の重要確認事項

必ず、次の点をご確認ください。

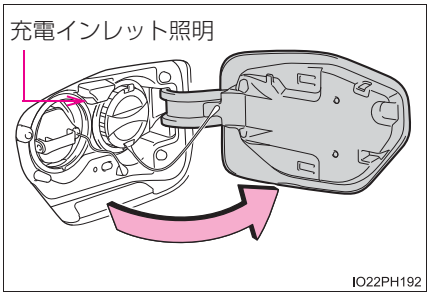
- パーキングブレーキがかかっていること（→ P. 387）
- パワースイッチが OFF になっていること（→ P. 374）
- 地面が固く平らな場所に駐車すること

  輪止めの使用をおすすめします。輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。
- ボンネットが閉まっていること
- シフトポジションが P になっていること

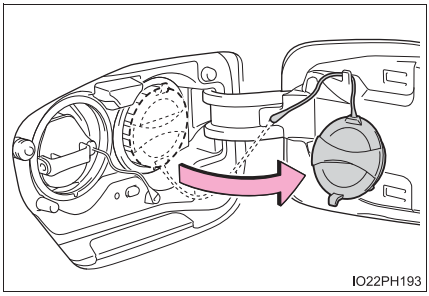
DC 外部電源供給を開始するときは

1 充電リッドを開ける

充電リッドを開けると、充電インレット照明が点灯します。



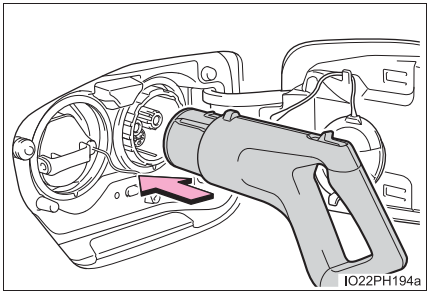
2 急速充電インレットキャップをはずし、図のように固定する



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

3 外部給電コネクターを急速充電インレットに挿し込む

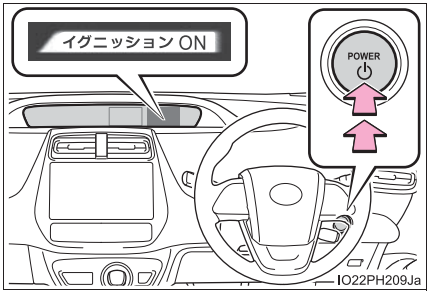
外部給電コネクターの形状や取り扱い方法などは、外部給電器により異なります。外部給電器の取り扱い説明書に従って、作業を行ってください。



4 ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを 2 回押して、ON モードにする

メインディスプレイに「イグニッション ON」と表示されていることを確認してください。

ブレーキペダルを踏んだままパワースイッチを押すと、ハイブリッドシステムが始動してしまい、DC 外部電源供給システムが使用できません。



5 マルチインフォメーションディスプレイの 画面で、メーター操作スイッチの ／ を押して （車両カスタマイズ）を選択し、 を押す

6 メーター操作スイッチの ／ を押して「外部電源供給」を選択し、 を押す

外部電源供給モードの選択画面が表示されます。

7 メーター操作スイッチの 〈／〉 を押して「EV 給電モード」を選択し、◎ を押す ※1

外部電源供給モードの選択画面上に、各モードでの給電時間の目安が表示されます。※2

駆動用電池の残量が低下しているときは、EV 給電モードを選択できません。

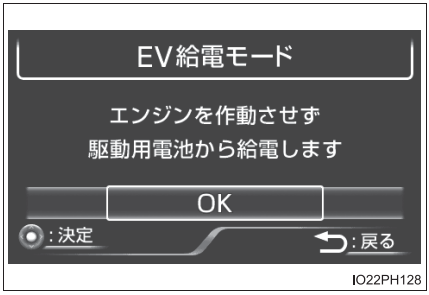
IO22PH127

※1 HV 給電モードを選択すると、DC 外部電源供給システムを開始できません。その場合は、⮌スイッチを押して、「EV 給電モード」を選択し直してください。

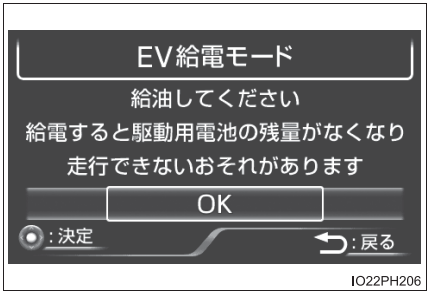
※2 使用する電気製品や使用環境などにより、表示されている時間と実際の給電時間が異なる場合があります。

8 操作ガイド画面の表示に従う

燃料残量警告灯が点灯していると、操作ガイド画面の前に、警告画面が表示されます。そのまま DC 外部給電を行うと、駆動用電池の残量不足、かつ燃料不足により、走行できなくなるおそれがあります。DC 外部給電を行う前に給油することをおすすめします。



IO22PH128



IO22PH206

9 必要に応じてメーター操作スイッチの ∧／∨ を押して「外部給電器」を選択し、◎ を押す

開始操作ガイドが表示されます。

IO22PH173

10 外部給電器で開始操作をする

外部給電器に付属の取り扱い説明書に従い、操作してください。

外部給電器によっては、パワースイッチが OFF になり、給電が停止することがあります。その場合は、再度手順 4 から開始操作を行ってください。

11 充電インジケーターが点滅から点灯にかわったら、接続した電気製品の電源を ON にする

充電インジケーターが点滅しているときはDC外部電源供給が開始されていないため、点灯にかわるまでお待ちください。(DC 外部電源供給が開始されないときは：→ P. 242)

DC 外部電源供給中は、マルチインフォメーションディスプレイの表示で、現在の給電状況をお知らせします。

DC 外部電源供給を停止するときは

1 使用している電気製品の電源を OFF にする

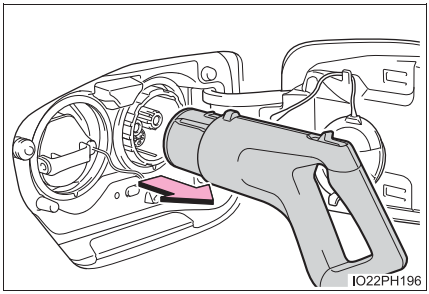
2 外部給電器を停止させる

外部給電器に付属の取り扱い説明書に従い、操作してください。

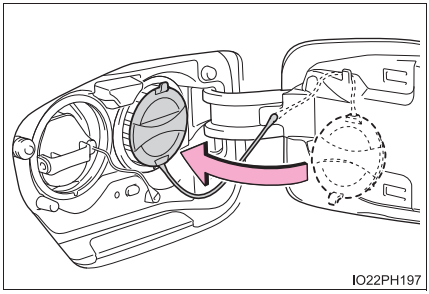
パワースイッチを OFF にしても給電を停止できます。

3 外部給電コネクターを取りはずす

外部給電コネクターの形状や取り扱い方法などは、外部給電器により異なります。外部給電器に付属の取り扱い説明書に従って、作業を行ってください。



4 急速充電インレットキャップをはめ、充電リッドを閉める



知識

■DC 外部電源供給システムの使用中は

●シフトポジションを P からほかのシフトポジションに切りかえることはできません。

●外部給電器の出力上限以上の電力を使用した場合、外部給電器が出力を制限したり、給電を停止したりすることがあります。

●車両側の定格出力以上の電力を使用した場合、車両が給電を停止することがあります。

●スマートエントリー＆スタートシステムでドアを解錠・施錠することはできません。

●ワイヤレスリモコンでドアの解錠・施錠をすることができます。
使用する電気製品から発生するノイズにより、正常に作動しない場合があります。

●ドアの開閉などにより、ブザーが鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに「キーが見つかりません」と表示されたりすることがあります。

●給電中に周囲が暗くなると、自動でヘッドランプなどが点灯します。ランプを消灯したいときは、P. 389 を参照してください。

●気温が低いときまたは高いときは、出力を制限または停止することがありますが、異常ではありません。
その場合は、使用する電気製品を減らしてください。

●DC 外部電源供給システムの作動中は、リヤシートの下側から冷却用ファンの音がすることがあります。

●HV 給電モードは急速充電･V2H 充電／ V2H 給電･DC 外部電源供給に対応していません。
そのため、急速充電器・V2H 機器・外部給電器に異常を示す表示がされたときは、HV 給電モードが選択されている可能性があります。
その場合は、EV 給電モードを選択し直してください。

●走行中は DC 外部電源供給システムを使用できません。

●使用する電気製品によっては、周囲のテレビやラジオに雑音が入ることがあります。

●炎天下など、車内が高温になる状態で使用すると、システムを保護するために DC 外部電源供給システムが自動で停止することがあります。
その場合は、いったん外部給電コネクターを取りはずしてから、車両を日陰に移動するなどして車内の温度を下げ、再度、DC 外部電源供給を開始してください。

●特に外気温が低いときは、駆動用電池を保護するため、DC 外部電源供給システムを使用できないことがあります。
その場合は、いったん外部給電コネクターを取りはずしてからしばらく走行するなどして、駆動用電池を暖めてから使用してください。

●DC 外部電源供給システム使用中はエアコン･アクセサリーコンセントが使用できません。

●外部給電器に車両に異常があるようなメッセージ（例えば、「車両に異常が見つかりました」、「車両故障発生」など）が表示されても、車両の異常ではなく、外部給電器と車両間の通信異常である可能性があります。
この場合、外部給電コネクターの端子故障（接点不良）などが考えられます。
外部給電器に付属の取り扱い説明書を確認してください。

■DC 外部電源供給後、マルチインフォメーションディスプレイに「プラグイン充電システム 確認のため 充電口を閉めてください 詳細は取扱書をお読みください」が表示されたとき

急速充電後・V2H 充電／ V2H 給電後、マルチインフォメーションディスプレイに「プラグイン充電システム 確認のため 充電口を閉めてください 詳細は取扱書をお読みください」が表示されたときの手順に従い、処置してください。（→ P. 161）

■DC 外部電源供給に関する情報の表示

DC 外部電源供給システムの使用中は、マルチインフォメーションディスプレイにエネルギーモニターが表示され、DC 外部電源供給の状況や、給電時間 ※ などの情報を確認することができます。

※ 表示される時間は目安であり、電気製品の使用状況や、使用環境などにより実際の給電時間と異なる場合があります。

■外部給電コネクターを解錠できないとき

「急速充電コネクターを解錠できないとき」（→ P. 121）を参照してください。

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、給電時に車両火災や感電事故などが発生し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■DC 外部電源供給システムを使用するときの警告

- 傾いた場所や坂道などに停めて使用しない
  使用中に車両を移動させたり、傾けたりしないでください。
- ボンネットが閉まっていることを確認する
  エンジンルーム内に顔や手を近付けないでください。ラジエーター冷却用のファンが急にまわりだすことがあります。ファンの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれるおそれがあります。
- 可燃物や危険物を車両の近くに置かない
- 給電を開始する前に、接続した電気製品の電源が OFF になっていることを確認する
  電源が ON になっていると、電気製品が突然作動するおそれがあります。
- 給油をしない
- 車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しない
- お子さまなど、不慣れな方だけで作業を行わない
- 外部給電コネクターと急速充電インレットは、必ず直接接続する
  外部給電コネクターと急速充電インレットとのあいだに、変換アダプターや延長コードなどを接続しないでください。
- 落雷の可能性がある天候のときは DC 外部電源供給システムを使用しない
  使用中、雷に気付いたときには DC 外部電源供給システムを停止してください。
- 急速充電インレットに急速充電コネクター･外部給電コネクター以外のものを挿し込まない
- 外部給電コネクター・急速充電インレットに異物がないか、または雪・氷が付着していないか確認する
  付着している場合は、外部給電コネクターを接続する前にしっかりと取り除いてください。
- 急速充電インレットの端子部がぬれないようにする
- 外部給電コネクター・急速充電インレットの端子に金属製の鋭利なもの（ピンや針金など）を挿し込まない

警告

■車両に給電ケーブルが接続されているとき

シフトレバーを操作しないでください。万一、給電ケーブルが故障していた場合、シフトポジションが P からほかのシフトポジションに切りかわることがあり、車両が動いて思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■DC 外部電源供給システムがおよぼす影響について

ペースメーカー（植込み型心臓ペースメーカー／植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータ）装着のお客様は、給電の操作はご自身ではなさらず、ほかの方にお願いしてください。

●給電時は、外部充電器、給電ケーブルに近付かないでください。給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

●給電中は車内にとどまらないでください。給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

●ものを取るときなどに、ラゲージルームなど含めた車内に入り込まないでください。給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

■接続する電気製品について

電源供給を行うときは、必ず本書および接続する外部給電器や使用する電気製品に付属の取り扱い説明書に記載されている注意事項をお守りください。
記載されている禁止事項を守らずに給電すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■接続する外部給電器について

必ず電動自動車用充放電システムガイドライン V2L DC 版（→ P. 230）に準拠した外部給電器を接続してください。ガイドラインに準拠していない外部給電器を使用すると火災や感電事故が発生し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠注意

■DC 外部電源供給システムの故障を防ぐために

- 急速充電インレットの急速充電インレットキャップに強い衝撃を与えないでください。
- ケーブルを損傷するおそれがあるので、使用中は充電リッドでケーブルを挟まないでください。
- 外部給電コネクターを急速充電インレットに抜き挿しするときは、過度の負荷をかけないでください。
  挿し込み不足の原因になります。
- 給電中に外部給電コネクター・ケーブルに物をのせたり、引っかけたりしないでください。
- 給電中に外部給電コネクター・ケーブルを引っ張ったり、過度の負荷をかけたりしないでください。
- 給電中に外部給電コネクター・ケーブルに異常な発熱を感じたらすぐに使用を中止してください。
- 給電を停止するときは、使用している電気製品の電源を切ってから停止してください。

■DC 外部電源供給システムを使用したあとは

急速充電インレットから外部給電コネクターを取りはずしたあとは、必ず急速充電インレットの急速充電インレットキャップをはめてから、充電リッドを閉めてください。
急速充電インレットを開けたままにすると、急速充電インレットに水や異物が入り、故障につながるおそれがあります。

■車から離れるとき

盗難を防止するため、ドアが確実に施錠されたことを確認してください。

外部電源供給システムが正常に作動しないときは

正しい手順に従って操作しても電源供給が開始されないときは、次の事項をご確認ください。

AC 外部電源供給システムが正常に作動しないとき

次の記載を参照して、それぞれ必要な処置を行ってください。

考えられる原因	対処方法
❑AC 外部電源供給開始画面（→ P. 214）が表示されない	
ヴィークルパワーコネクタがしっかりと接続されていない	いったんヴィークルパワーコネクタを取りはずし、再度、“カチッ”と音がするまで確実に挿し込んでください。
ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを操作している	ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを操作してください。
アクセサリーモードになっている	パワースイッチが OFF の状態でパワースイッチを 2 回押して、メーターに「イグニッション ON」と表示されていることを確認してください。
シフトポジションが P 以外にある	シフトポジション表示灯（→ P. 380）でシフトポジションが P になっていることを確認してください。
❑HV 給電モードを選択できない	
燃料が不足している	燃料残量警告灯（→ P. 724）を確認し、点灯している場合はすみやかに燃料を補給してください。
❑EV 給電モードを選択できない	
駆動用電池の残量が不足している	駆動用電池の残量を確認し（→ P. 283）、残量が少なくなっているときは、駆動用電池を充電してください。（→ P. 145, 156）

考えられる原因	対処方法
❑ヴィークルパワーコネクタの電源スイッチを押しても AC 外部電源供給が開始されない	
電源スイッチを 2 回押す間隔が長すぎる、または電源スイッチを 2 回よりも多く押している	電源スイッチは、約 3 秒以内に 2 回連続で押してください。（→ P. 217）
保護機能が働いている	「コンセントが使用できないとき」（→ P. 634）の記載に従って、対処してください。
駆動用電池の残量が不足している	駆動用電池の残量を確認してください（→ P. 283）。 残量が少なくなっているときは、ヴィークルパワーコネクタを取りはずし、ブレーキペダルをしっかり踏みながらパワースイッチを押して、駆動用電池の残量を回復させてください。または、普通充電を実施し、駆動用電池の残量を回復させてください。

DC 外部電源供給システム★が正常に作動しないとき

次の記載を参照して、それぞれ必要な処置を行ってください。

考えられる原因	対処方法
❑ 給電が開始されない	
外部給電コネクターがしっかりと接続されていない	外部給電コネクターが急速充電インレットに確実に接続されているか確認してください。
ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを操作している	ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを操作してください。
アクセサリーモードになっている	パワースイッチが OFF の状態でパワースイッチを 2 回押して、メーターに「イグニッション ON」と表示されていることを確認してください。
シフトポジションが P 以外にある	シフトポジション表示灯（→ P. 380）でシフトポジションが P になっていることを確認してください。
駆動用電池の残量が不足している	駆動用電池の残量を確認し（→ P. 283）、残量が少なくなっているときは、駆動用電池を充電してください。（→ P. 145, 156）
開始操作が適切でない	外部給電器によっては、開始操作が通常の手順と異なるものがあります。外部給電器の製造業者または販売業者にご確認ください。
外部給電器に異常が発生している（→ P. 235）	外部給電器の取り扱い説明書に従って、適切に処置してください。
外部給電器の電源が OFF になっている	
前回使用時に正常終了していない	急速充電後・V2H 充電／ V2H 給電後、マルチインフォメーションディスプレイに「プラグイン充電システム確認のため充電口を閉めてください 詳細は取扱書をお読みください」が表示されたときの手順に従い、処置してください（→ P. 161）。その後、再度開始操作を行ってください。
普通充電・AC 外部電源供給システムまたは急速充電を使用している	普通充電・AC 外部電源供給システムまたは急速充電を終了してから DC 外部電源供給システムの開始操作を行ってください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

考えられる原因	対処方法
❑ 給電が開始されない	
HV 給電モードが選択されている	HV 給電モードでは電源供給を開始しません。EV 給電モードを選択し直してください。
その他	「DC 外部電源供給作業前の重要確認事項」（→ P. 231）の手順により、再度開始操作を行ってください。
❑ 給電が途中で停止する	
外部給電器の電源が何らかの理由で OFF になっている	外部給電器の取り扱い説明書に従って、適切に処置してください。
車両の出力を超過する電気製品を使用している	使用する電気製品を減らして、再度開始操作を行ってください。
外部給電器に異常が発生している（→ P. 235）	外部給電器の取り扱い説明書に従って、適切に処置してください。
❑ 使用後、ハイブリッドシステムが始動しない	
車両に外部給電器が接続されている	外部給電器の取り扱い説明書に従って、外部給電コネクターを取りはずしてください。
使用終了時に正常終了していない	急速充電後・V2H 充電／ V2H 給電後、マルチインフォメーションディスプレイに「プラグイン充電システム確認のため充電口を閉めてください 詳細は取扱書をお読みください」が表示されたときの手順に従い、処置してください。（→ P. 161）
❑ 使用終了後、外部給電コネクターがはずれない	
外部給電コネクターが何らかの理由でロックされている	外部給電器の取り扱い説明書に従って、適切に処置してください。

メーターの見方

3

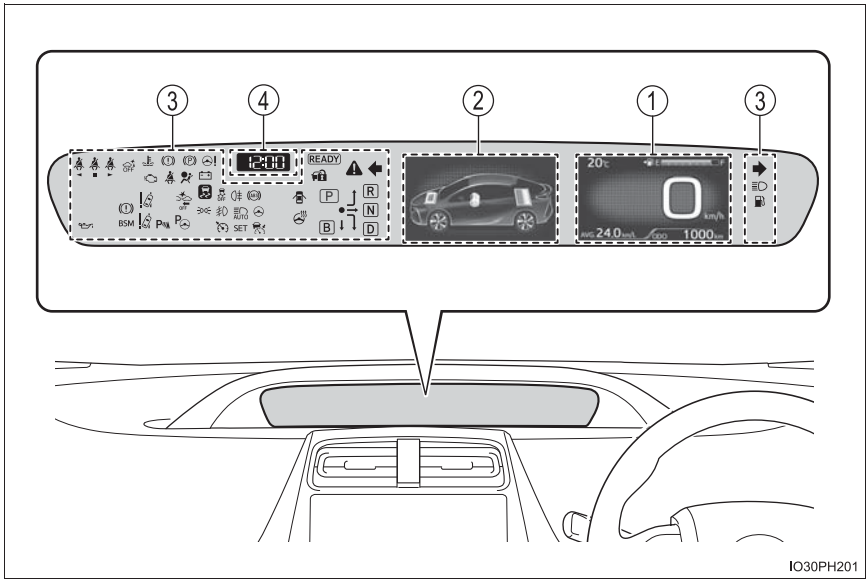
3. メーターの見方

コンビネーションメーター ...246
警告灯／表示灯.....255
メインディスプレイ 263
マルチインフォメーション
ディスプレイ 269
カラーヘッドアップ
ディスプレイ 304
エネルギーモニター／燃費画面
（マルチメディアシステム
装着車）.....312

コンビネーションメーター

2 つの液晶ディスプレイを備えた大型メーターにより、車両の状態・走行状況・電費／燃費などに関する、さまざまな情報を表示します。

コンビネーションメーターの構成



① メインディスプレイ（→ P. 263）

車速や燃料残量など、走行に関する基本的な情報が表示されます。

② マルチインフォメーションディスプレイ（→ P. 269）

ハイブリッドシステムの作動状況や電費／燃費に関する履歴など、車を便利に使用するための各種情報が表示されます。また、設定画面に切りかえることで、走行支援システムの作動内容やメーターの表示設定などを変更できます。

③ 警告灯・表示灯（→ P. 255）

車両に関する問題の発生や、車両の各システムの作動状態などを示す、警告灯・表示灯が点灯・点滅します。

④ 時計（→ P. 251）

メーター表示に関する操作を行うときは

ハンドルに装着されているメーター操作スイッチを使って、画面表示の切りかえや、画面に表示された機能に関する設定操作などを行います。

① 押すたびに、オドメーター・トリップメーターなどの走行距離表示および、それぞれの走行距離に関する燃費情報が切りかわります。（→ P. 264）

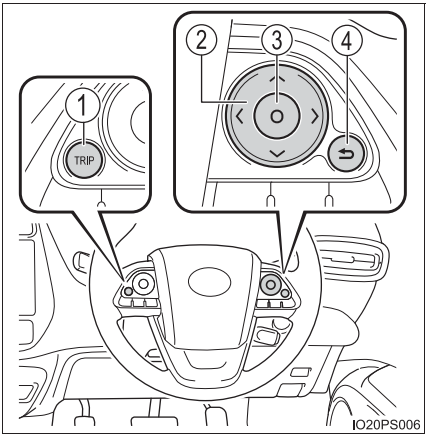
② ∧・∨・＜・＞の位置を押して、画面のスクロール※や表示内容の切りかえ※、カーソルの移動などの操作を行います。

③ 選択されている項目の決定や ON ／ OFF の切りかえなどの操作に使用します。

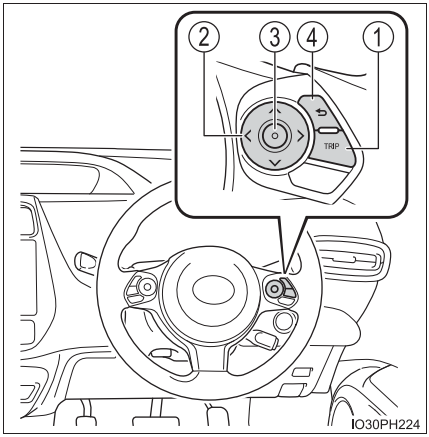
④ 押すと、ひとつ前の画面にもどります。

※ 画面のスクロールや表示の切りかえなどが可能な画面では、操作方向を示すマーク（＜・＞など）が表示されます。

▶ GR SPORT を除く



▶ GR SPORT



メーター照度の調整

メーター照度を調整するときは、マルチインフォメーションディスプレイの 画面（→ P. 297）で操作を行います。

車幅灯の点灯状態、および周囲の明るさにより、選択できる照度は異なります。（→ P. 253）

1 ハンドルにあるメーター操作スイッチの ／ を押して、 を選択する

2 メーター操作スイッチの ／ を押して、 を選択する

3 を押して、カーソルを表示させる

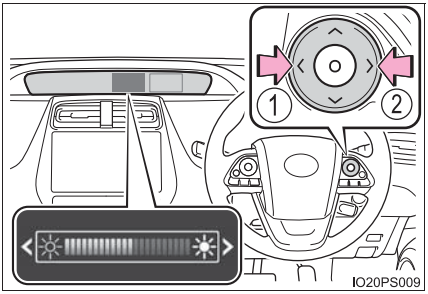
4 メーター操作スイッチの ／ を押して、メーター照度を調整する

① 暗くなる

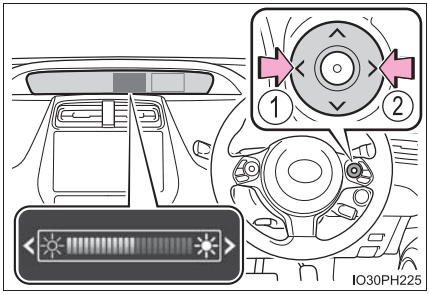
② 明るくなる

調整が完了したら、 スイッチを押して前の画面にもどします。

▶ GR SPORT を除く



▶ GR SPORT

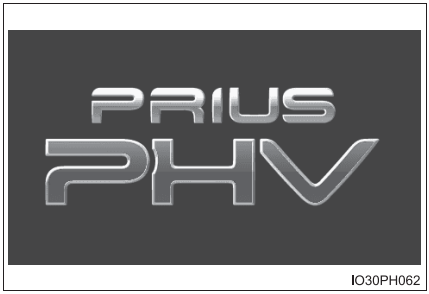


ディスプレイ上に自動表示される情報

パワースイッチの操作や車両の状況などに応じて、いくつかの情報がディスプレイ上に自動表示されます。

■ ハイブリッドシステム始動時

ハイブリッドシステムを始動すると、メインディスプレイ上にオープニングアニメーションが表示されます。



アニメーションの終了後、通常の画面表示にかわります。

オープニングアニメーションの実施中に次の操作を行ったときは、アニメーション表示が中断されます。

・シフトポジションをP以外に切りかえたとき
・シンプルインテリジェントパーキングアシスト★をONにしたとき

■ 走行支援システムが作動しているとき

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→ P. 447）やLTA（レーントレーシングアシスト）（→ P. 430）などの使用時は、マルチインフォメーションディスプレイに各システムに関する情報が、状況に応じて自動表示されます。

表示される情報や表示内容などの詳細については、各システムの説明ページを参照してください。

■ 車両についてお知らせしたいことがあるとき

誤ったシフトポジションを選択したり、車両のシステムに問題が発生したりした際には、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージ（または画像）が表示されます。

警告メッセージが表示されたときは、画面に表示された指示に従って、それぞれ対処してください。（→ P. 727）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ハイブリッドシステム停止時

● ハイブリッドシステムを停止すると、マルチインフォメーションディスプレイにエンディング画面が表示されます。(約 30 秒間表示されます ※1)

エンディング画面の表示中、メーター操作スイッチの ∧ ／ ∨ ／ ＜ ／ ＞ を操作することで、次の情報を確認できます。

① エコジャッジ採点項目のスコア表示（→ P. 281, 294）

② エコジャッジの採点結果とアドバイス表示

③ ハイブリッドシステム始動後の走行時間

④ ハイブリッドシステム始動後の走行距離

⑤ ハイブリッドシステム始動後の平均燃費

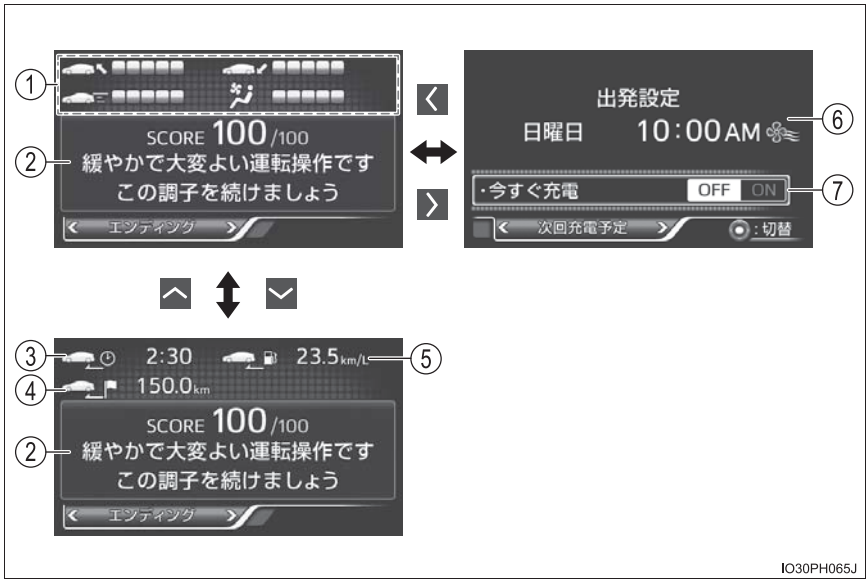
⑥ 次回充電予定 ※2

⑦「今すぐ充電」の ON・OFF 設定（→ P. 173）

◎ を押すたびに、「今すぐ充電」の ON・OFF が切りかわります。

※1 ドアを施錠したときは、すぐに表示が消えます。

※2 充電スケジュールが登録されているときに表示されます。（→ P. 164）



● ハイブリッドシステムを停止したとき、「駆動用電池冷却」の実施を確認する画面が表示されることがあります。（→ P. 135）

時計の調整

時刻を合わせるときは、マルチインフォメーションディスプレイの 画面（→ P. 269）で操作を行います。

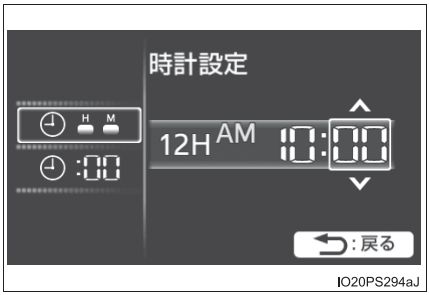
■ 時刻を調整するときは

1 ハンドルにあるメーター操作スイッチの 〈 ／ 〉 を押して、 を選択する

2 メーター操作スイッチの ∧ ／ ∨ を押して、 H M を選択する

3 ◎ を押して、カーソルを表示させる

4 メーター操作スイッチの 〈 ／ 〉 を押して調整する項目にカーソルを合わせ、∧ ／ ∨ を押して設定を変更する



12 時間表示にするときは「12H」を、24 時間表示にするときは「24H」を表示させます。

「分」を調整すると、自動的に 00 秒から作動開始します。

設定が完了したら、 スイッチを押して前の画面にもどします。

■ 正時合わせするときは

1 ハンドルにあるメーター操作スイッチの〈／〉を押して、

を選択する

2 メーター操作スイッチの

／を押して、:00

を選択する

3 を押す

「分」の表示が「00」にかわります。

変更する前の分表示が 1 ～ 29 のときは切り捨て、30 ～ 59 のときは時表示がくり上げされます。

（例）1：00 ～ 1：29 → 1：00
　　1：30 ～ 1：59 → 2：00

知識

■メーターの作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■メーター照度調整について（→ P. 248）

●車幅灯の点灯状態、および周囲の明るさにより、選択できる照度が次のように異なります。

	車幅灯の消灯中	車幅灯の点灯中
周囲が明るいとき	2 段階 ※	2 段階 ※
周囲が暗いとき		22 段階

※ 調整画面には 22 段階の目盛りが表示されますが、1 段階目（最も暗い状態）以外の段階を選択しても、最も明るい状態のままメーター照度は変化しません。ただし、1 または 22 以外の段階に調整した場合は、周囲が暗い状態で車幅灯を点灯したとき、調整されている値でメーター照明が点灯します。

●周囲が暗いときに車幅灯を点灯すると、メーター照明が減光されます。ただし、メーター照度を最小または最大（メーター照度調整値の 1 または 22）に設定しているときは、車幅灯を点灯しても減光されません。

■補機バッテリー端子の脱着をしたとき

時計の設定がリセットされます。

■カレンダー設定について

補機バッテリーの交換や補機バッテリーあがりなどによってカレンダーの記録が中断された場合は、それぞれの処置後にパワースイッチを ON モードにしたとき、カレンダーの設定確認画面がマルチインフォメーションディスプレイに自動表示されます。

IO20PS020J

●日付の情報が設定されていないと、電費／燃費の記録とタイマー充電が正しく行われません。カレンダー設定の確認画面が表示されたときは、必ず設定を行ってください。（→ P. 297）

●カレンダー設定を実施するまでは、パワースイッチをONモードにするたびに確認画面が表示されます。

●設定済みのカレンダー情報は、「メーターカスタマイズ」設定で変更することができます。（→ P. 300）

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

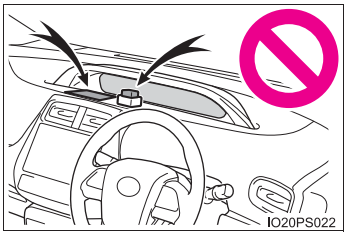
■割り込み表示について

ドライブモードセレクトスイッチやエアコンなどの一部の機能は、操作に連動して、マルチインフォメーションディスプレイ上に割り込み画面を表示します。これらの機能の割り込み表示が不要な場合は、「メーターカスタマイズ」設定でOFF に設定することもできます。（→ P. 300）

警告

■事故を防ぐために

メーター表示部の前にものを置いたり、シールなどを貼り付けたりしないでください。置いたものがメーター表示のさまたげとなったり、表示部に映り込んでメーター表示が見えなくなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



■走行中の警告

安全のため、メーター操作スイッチはできるだけ走行中に操作しないでください。メーター操作スイッチは、安全な場所に停車して操作してください。走行中に操作すると、ハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、走行中は画面を見続けないでください。

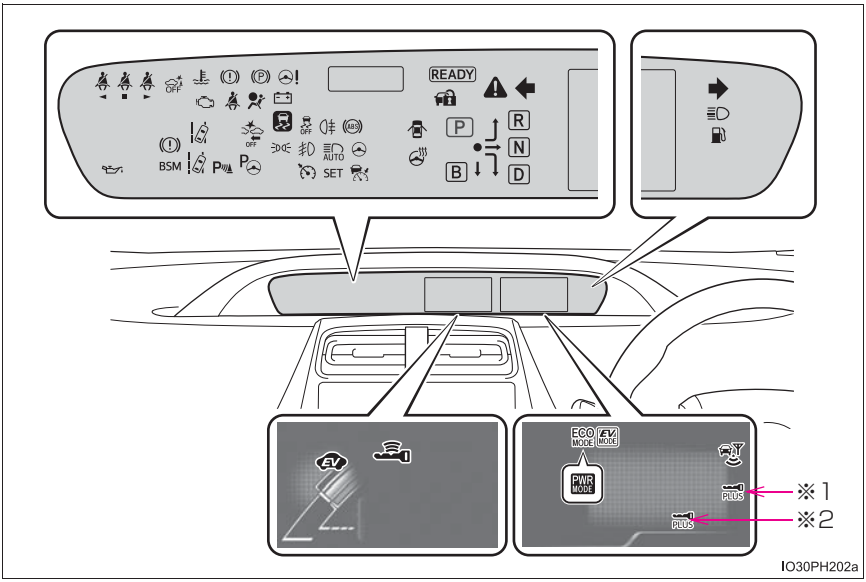
注意

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてください。

警告灯／表示灯

メーター内の警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。
次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。



※1 ITS Connect 装着車
※2 ITS Connect 非装着車

警告灯

システム異常などを警告します。

警告灯			参照先
※		ブレーキ警告灯（赤色）	P. 722
※		電子制御ブレーキ警告灯（黄色）	P. 722
※		充電警告灯	P. 722
※		油圧警告灯	P. 722
※		エンジン警告灯	P. 722
※		SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯	P. 723
※		ABS ＆ブレーキアシスト警告灯	P. 723
※		パワーステアリング警告灯 （赤色／黄色）	P. 723
※	OFF	PCS 警告灯 （点滅または点灯）	P. 723
		LTA 表示灯（橙色）	P. 723
※		スリップ表示灯	P. 723
※		高水温警告灯	P. 724
※	OFF	PKSB OFF 表示灯★ （点滅）	P. 724

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯			参照先
		半ドア警告灯	P. 724
		燃料残量警告灯	P. 724
		シートベルト非着用警告灯	P. 724
		リヤ席シートベルト非着用警告灯	P. 724
※		マスターウォーニング	P. 724

※ 作動確認のためにパワースイッチを ON モードにすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

表示灯

システムの作動状況を表示します。

表示灯			参照先
		方向指示表示灯	P. 386
		尾灯表示灯	P. 388
		パーキングブレーキ表示灯	P. 387
		ハイビーム表示灯	P. 389
		フロントフォグランプ表示灯★	P. 402, 403
		リヤフォグランプ表示灯★	P. 403
		セキュリティ表示灯	P. 66, 67
	READY	READY インジケーター	P. 374
	P R N D B	シフトポジション表示灯	P. 380
※1		スリップ表示灯（点滅）	P. 552
※1, 2	OFF	VSC OFF 表示灯	P. 553
		クルーズコントロール表示灯	P. 456
		レーダークルーズコントロール表示灯	P. 451

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

表示灯			参照先
	SET	クルーズコントロールセット表示灯	P. 451
※1, 2	OFF	PCS 警告灯	P. 423
※3		LTA 表示灯	P. 436
		ステアリング制御表示灯	P. 436
	AUTO	オートマチックハイビーム表示灯★ アダプティブハイビームシステム表示灯★	P. 392 P. 397
		ステアリングヒーター表示灯★	P. 611
	BSM	BSM 表示灯★	P. 479
	P	クリアランスソナー表示灯★	P. 493
※1, 2	OFF	PKSB OFF 表示灯★	P. 505
※1	P	シンプルインテリジェントパーキングアシスト表示灯★	P. 522

※1 作動確認のためにパワースイッチを ON モードにすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 システムが OFF のときに点灯します。

※3 システムの作動状態により、表示色と点灯・点滅の状態が変化します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ディスプレイ上に表示される表示灯・シンボル表示

■ メインディスプレイ・マルチインフォメーションディスプレイ

表示灯			参照先
※1	EV MODE	EV ドライブモード表示灯	P. 75
※1	CHG MODE	バッテリーチャージモード表示灯	P. 75
※2	ECO MODE	エコドライブモード表示灯	P. 477
※2	PWR MODE	パワーモード表示灯	P. 477
	EV	EV ドライブインジケーター	P. 279
※3		ITS Connect 通信接続状態表示★	P. 469
	PLUS	プラスサポート表示灯★	P. 513

※1 現在のプラグインハイブリッドシステムの作動モードに従って、表示される表示灯がかわります。

※2 現在の走行モードに従って、表示される表示灯がかわります。

※3 現在の通信状況により、アイコンの意匠がかわります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

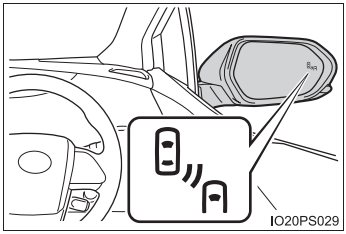
■ マルチインフォメーションディスプレイ（シンボル表示※）

シンボル表示			参照先
		スマートエントリー＆スタートシステム	P. 374
		ペダル誤操作	P. 725
		LTA（レーントレーシングアシスト）	P. 440
			P. 441

※ メッセージに併せて表示されます。また、ここに掲載しているシンボル表示は一例であり、マルチインフォメーションディスプレイでお知らせする内容により、異なるシンボルが表示される場合もあります。

知識

■ブラインドスポットモニター（→ P. 479）のインジケーターについて★



●ドアミラーにもインジケーターが表示されます。

●作動確認のため、次の条件のときインジケーターが点灯します。

・マルチインフォメーションディスプレイの 画面で BSM の機能を ON に設定している状態で、パワースイッチを ON モードにしたとき

・パワースイッチが ON モードの状態で、BSM の機能をマルチインフォメーションディスプレイの 画面で ON にしたとき

システムが正常であればインジケーターは数秒後に消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**安全装置の警告灯が点灯しないとき**

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、ハイブリッドシステムを始動しても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

注意

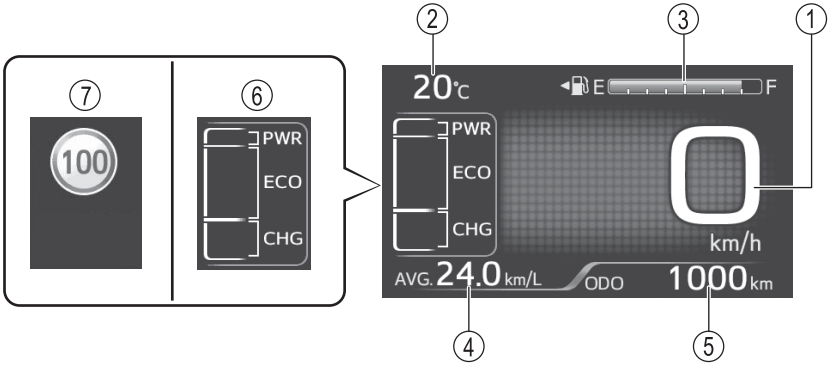
■**ハイブリッドシステムの損傷を防ぐために**

高水温警告灯が点滅または点灯したときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→ P. 765）

メインディスプレイ

車速や燃料残量などの基本的な情報が表示されます。また、お好みに応じて、画面上に表示される情報を切りかえることができます。

メインディスプレイの表示内容



① スピードメーター

車両の走行速度を示します。

② 外気温

外気温を－40 ℃～ 50 ℃のあいだで表示します。

外気温が約 3 ℃以下になると温度表示が約 10 秒間点滅したあと、通常の表示にもどります。

③ 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

・ 少量給油（約 5L 以下）を行ったとき
・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
・ 坂道やカーブを走行したとき

④ 平均燃費表示

走行距離表示の内容に連動した平均燃費を表示することができます。

⑤ 走行距離表示（オドメーター／トリップメーター／航続可能距離）

車両が走行した距離、または現在の駆動用電池残量・燃料残量から推定される航続可能距離を表示することができます。

⑥ サブ画面（RSA[ロードサインアシスト] が OFF のとき）

ハイブリッドシステムインジケーターや瞬間燃費などの情報を表示することができます。（→ P. 266）

⑦ サブ画面（RSA[ロードサインアシスト] が ON のとき）

RSA（ロードサインアシスト）※ の情報を表示します。（→ P. 442）

※ マルチインフォメーションディスプレイの画面（→ P. 296）に RSA（ロードサインアシスト）の情報が表示されているときは、サブ画面には RSA（ロードサインアシスト）の情報が表示されません。

平均燃費表示・走行距離表示の切りかえ

TRIP スイッチを押すたびに、平均燃費表示と走行距離表示が次の 1 ～ 7 の順に切りかわります。

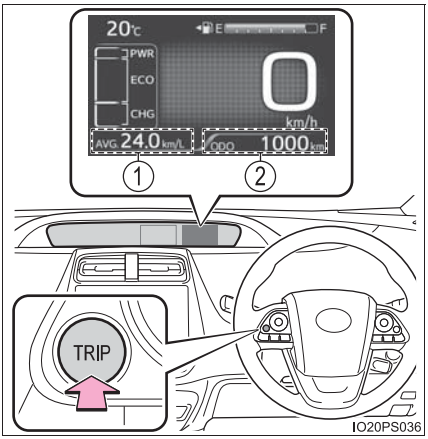
① 平均燃費表示

② 走行距離表示

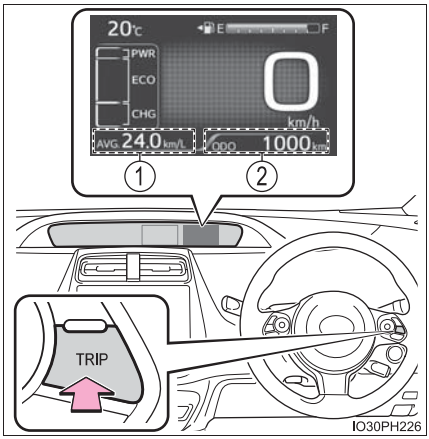
7 まで表示されたあとは、1 にもどります。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

▶ GR SPORT を除く



▶ GR SPORT



	①平均燃費表示	②走行距離表示
1	**リセット間平均燃費** 前回リセットしてから現在までの平均燃費 ※1	**ODO（オドメーター）** 現在までに走行した総距離
2	**TRIP A 平均燃費** TRIP A をリセットしてからの平均燃費 ※1	**TRIP A（トリップメーター A）** リセットしてからの走行距離 ※1
3	**TRIP B 平均燃費** TRIP B をリセットしてからの平均燃費 ※1	**TRIP B（トリップメーター B）** リセットしてからの走行距離 ※1
4	**始動後平均燃費** ハイブリッドシステムを始動してからの平均燃費 ※2	**（始動後走行距離）** ハイブリッドシステムを始動してからの走行距離 ※2
5	**ブランク表示**	**（航続可能距離）** 現在の燃料残量で走行できるおよその距離
6	**ブランク表示**	**（EV 走行可能距離）** 過去の走行データに基づく、現在の駆動用電池の残量で走行可能な、EV 走行距離の目安 （→ P. 94） ※3, 4, 5
7	**ブランク表示**	**ブランク表示**

※1 表示中に TRIP スイッチを押し続けると、情報がリセットされます。

※2 ハイブリッドシステムを始動するたびにリセットされます。

※3 EV 走行に必要な駆動用電池残量がないときは、数値が表示されません。

※4 エアコンの作動中はアイコン表示が にかわり、エアコンを使用した場合の EV 走行可能距離が表示されます。

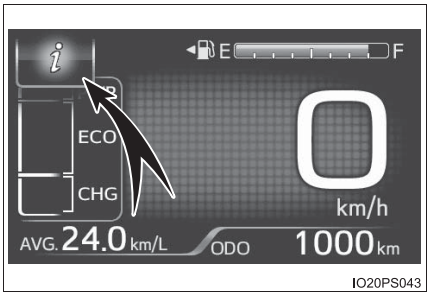
※5 システムの電力消費により、走行していなくても EV 走行可能距離が減少する場合があります。

サブ画面に表示する項目を切りかえるには

RSA（ロードサインアシスト）が OFF のとき、サブ画面に表示する項目を選択できます。

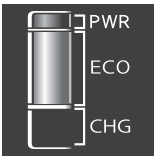
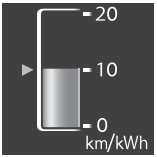
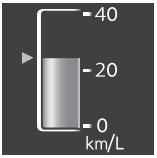
1 メーター操作スイッチの〈／〉を押して、サブ画面を選択する

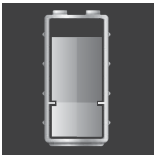
サブ画面が選択されると、サブ画面上に i が表示されます。



2 メーター操作スイッチの∧／∨を押して、表示項目を選択する

次の 4 種類の中から、表示する項目を選択できます。

表示項目	内容
	**ハイブリッドシステムインジケーター** 簡易的なハイブリッドシステムインジケーターが表示されます。 ハイブリッドシステムインジケーターの見方については、P. 277 を参照してください。
	**瞬間電費** 車両が EV モードのとき、走行中の瞬間電費が表示されます。 ・▶ マークは、リセットしてから再度リセットするまでの、通算平均電費を示しています。 ・「電費リセット」（→ P. 301）を実行すると、通算平均電費のデータが消去され、▶ マークの表示が 0 の位置に移動します。
	**瞬間燃費** 車両が HV モードのとき、走行中の瞬間燃費が表示されます。 ・▶ マークは、平均燃費表示（→ P. 264）に表示されている値を示しています。平均燃費表示を切りかえると、▶ マークの表示位置もかわります。 ・平均燃費をリセットすると、▶ マークの表示も 0 の位置に移動します。

表示項目	内容
	**駆動用電池の残量表示** ハイブリッドシステムインジケーター上の駆動用電池残量表示と同じ内容が表示されます。（→ P. 277）

知識

■外気温表示について

●次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

・停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
・外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

●“ -- ” または “ E ” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■電費について

EV 走行時の電力消費率を表す数値で、ガソリンエンジン車の燃料消費率に相当します。この車では、電力 1 キロワット時（1kWh）あたりの走行キロ数（km/kWh）が、「電費」として各画面上に表示されます。

■EV 走行可能距離について

→ P. 94

■航続可能距離について

●運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費がかわるため、実際に走行できる距離とは異なります。

●燃料給油量が少量（約 5L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。この場合、燃料計の表示と共に更新することができます。

■燃料計と航続可能距離について

燃料計と航続可能距離は連動しています。少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行うことで表示を更新することができます。

1 車両を平坦な場所に停車させる

燃料タンク内の燃料の動きがおさまるまで、しばらくお待ちください。

2 TRIP スイッチを押して走行距離表示をオドメーター(ODO)に切りかえる

3 パワースイッチを OFF にする

4 TRIP スイッチを押したまま、パワースイッチを ON モードにする

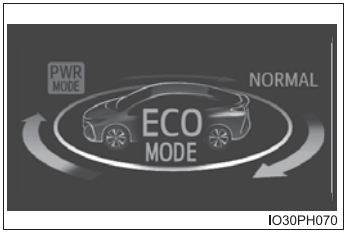
5 そのまま約 5 秒間 TRIP スイッチを押し続け、オドメーター（ODO）が点滅を開始したら手をはなす

オドメーター（ODO）が約 5 秒間点滅したあと、通常の表示にもどれば、更新は終了です。

■走行モード（→ P. 477）を切りかえたとき

走行モードを切りかえると、走行モードの表示灯が変化するとともに、マルチインフォメーションディスプレイに切りかえアニメーション ※ が表示されます。

また、メインディスプレイとエネルギーモニター（→ P. 272）、およびハイブリッドシステムインジケーター（→ P. 277）の背景色が次のように変化します。



走行モード	背景色
ノーマルモード	緑色
パワーモード	赤色
エコドライブモード	青色

※「メーターカスタマイズ」設定で、切りかえ時のアニメーション表示を OFF に設定することもできます。（→ P. 300）

マルチインフォメーションディスプレイ

各システムの作動状況や経済走行に関するデータなど、車両に関するさまざまな情報を表示したり、各システムの設定をお好みに合わせて変更したりできます。

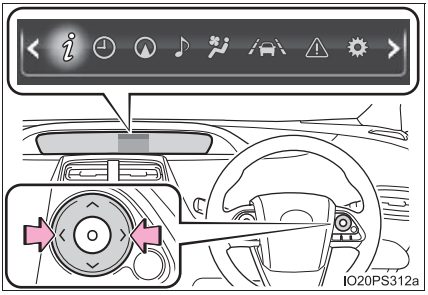
マルチインフォメーションディスプレイに表示できる項目

メーター操作スイッチを操作してマルチインフォメーションディスプレイの上部に表示されるアイコンを選択することで、各アイコンに関連付けられた情報を表示することができます。

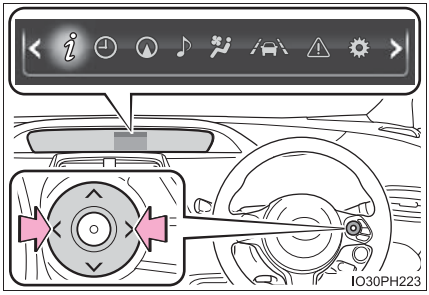
アイコンはメーター操作スイッチの〈／〉を押すと表示され、操作後、しばらくすると表示が消えます。

車両の機能と連携している画面については、各機能の作動状況に従って自動的に表示される場合があります。

▶ GR SPORT を除く



▶ GR SPORT



アイコン表示	表示画面の内容	記載ページ
	ドライブインフォメーション ハイブリッドシステムの作動状況を表示するエネルギーモニターや、電費／燃費などに関する各種の情報を確認できます。	P. 271
	時計設定画面 時刻に関する設定を変更できます。	P. 290
	ナビゲーションシステム連携画面★ ナビゲーションシステムと連携した情報を表示できます。	P. 291
	オーディオ連携画面★ オーディオ機能に関する設定操作を行えます。	P. 292
	エアコン設定画面 エアコンの設定内容を確認したり、設定を変更したりできます。	P. 293
	走行支援システム連携画面 LTA（レーントレーシングアシスト）や、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）などの走行支援システムに関する情報を確認できます。	P. 296
	警告メッセージ表示画面 ※ 警告メッセージを確認できます。	P. 296
	設定画面 車両の機能やメーター表示などに関する設定を変更できます。	P. 297

※ 確認可能な警告メッセージがあるときは、 が橙色で表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

基本操作

1 メーター操作スイッチの〈／〉を押して、表示したい項目のアイコンを選択する

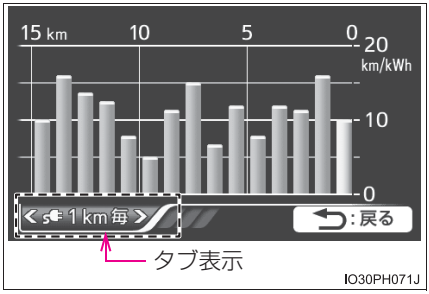
選択したアイコンがハイライト表示され、各情報画面に切りかわります。

RSA（ロードサインアシスト）が OFF のときは、メインディスプレイのサブ画面も、項目のひとつとして選択できます。（→ P. 266）

2 メーター操作スイッチの∧／∨を押して、表示内容を切りかえる

3 選択・決定が必要な画面では ◎ を押す

タブ表示がある項目では、◎を押すとタブ表示が選択状態になり、メーター操作スイッチの〈／〉を押すことで、表示画面を変更できます。



4 前の画面にもどるときは ⮌ スイッチを押す

ドライブインフォメーション

i が選択されているとき、メーター操作スイッチの∧／∨を押すことで、次の情報を表示することができます。

- エネルギーモニター（→ P. 272）
- ハイブリッドシステムインジケーター（→ P. 277）
- 燃費履歴（→ P. 285）
- ドライブモニター（→ P. 286）
- ドライブモニター 2（→ P. 287）
- エコダイアリー（→ P. 288）
- エンジン回転数［タコメーター］
  （GR SPORT のみ：→ P. 290）

◆ エネルギーモニター

車両の駆動状況、ハイブリッドシステムの作動状況、およびエネルギーの回収状況を確認できます。

外部電源からの充電中は、充電中の電気エネルギーの流れが表示されます。

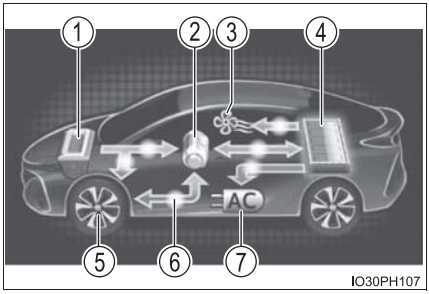
ソーラー充電システム装着車では、ソーラールーフによる太陽光発電状態の目安も表示されます。

エネルギーの流れがあるとき、矢印の向きと光点の動きにより、エネルギーが流れている方向を表します。エネルギーの流れがない状態のときは、矢印と光点は表示されません。

- エンジンからモーターまたはタイヤへの矢印は赤色で表示されます。
- エネルギー消費を示す矢印は黄色で、エネルギー回収、または充電を示す矢印は緑色で表示されます。併せて、駆動用電池の周囲の色も変化します。

図は説明のためにすべての矢印を掲載しており、実際の表示内容とは異なります。

■ 充電中・外部電源供給中★・V2H 充電／ V2H 給電中★以外のとき



① エンジン
② モーター
③ エアコン作動表示 ※1
④ 駆動用電池
⑤ タイヤ
⑥ エネルギーの流れを示す光点
⑦ アクセサリーコンセント★ ※2

（表示例）

- 駆動用電池に充電しているときは、④に向かって光点が移動します。
- 走行しているときは、①または②（状況により①と②の両方）から⑤に向かって光点が移動します。※3
- エアコンのコンプレッサーの作動中は、④から③に向かって光点が移動します。
- アクセサリーコンセント★の使用中は、④から⑦に向って光点が移動します。
- 走行中は、タイヤの表示が回転します。

※1 エアコンの作動中に表示されます。

※2 AC100V スイッチが ON のときに表示されます。（→ P. 629）

※3 表示内容は、車両の走行状況により異なる場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **充電中**

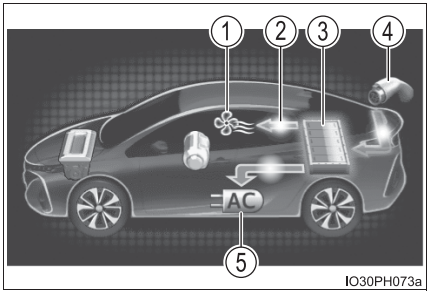
① エアコン作動表示 ※1

② エネルギーの流れを示す光点

③ 駆動用電池

④ 充電コネクター

⑤ アクセサリーコンセント★ ※2



（表示例）

- 駆動用電池に充電しているときは、④から③に向かって光点が移動します。
- エアコンのコンプレッサーの作動中は、③から①に向かって光点が移動します。
- アクセサリーコンセント★の使用中は、③から⑤に向って光点が移動します。

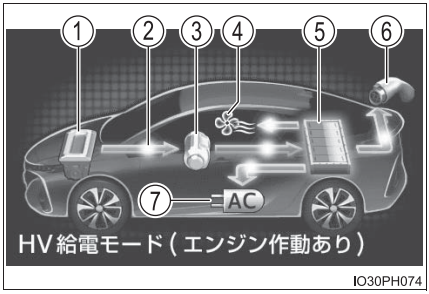
※1 エアコンの作動中に表示されます。

※2 AC100V スイッチが ON のときに表示されます。（→ P. 629）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ AC 外部電源供給中★

① エンジン
② エネルギーの流れを示す光点
③ モーター
④ エアコン作動表示 ※
⑤ 駆動用電池
⑥ ヴィークルパワーコネクタ
⑦ アクセサリーコンセント



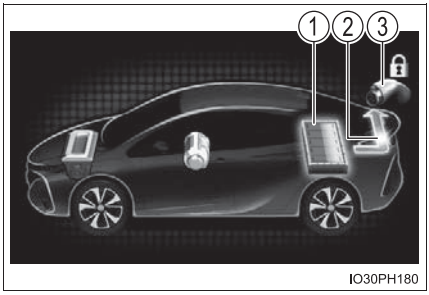
（表示例）

- AC 外部電源供給中は、⑤から⑥、および⑤から⑦に向かって光点が移動します。
- エアコンのコンプレッサーの作動中は、⑤から④に向かって光点が移動します。
- HV 給電モード中にガソリンエンジンが作動したときは、①から③へ、また③から⑤へ向かう光点が表示されます。

※ エアコンの作動中に表示されます。

■ DC 外部電源供給中★・V2H 充電／ V2H 給電中★

① 駆動用電池
② エネルギーの流れを示す光点
③ 外部給電コネクターまたは急速充電コネクター



（表示例）

- DC 外部電源供給中は、①から③に向かって光点が移動します。
- V2H 充電／ V2H 給電中は、エネルギーの流れを示す矢印と光点は表示されません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ソーラー充電システム★の作動中

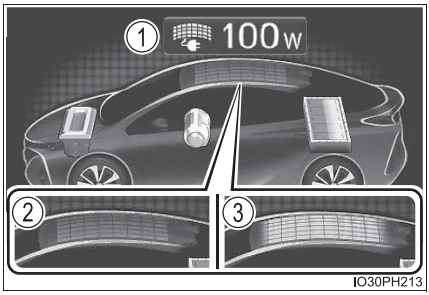
瞬間発電量の表示とルーフ部の表示※の変化で、現在の発電状態の目安をお知らせします。

① 瞬間発電量

② 太陽光発電していない状態

③ 太陽光発電量が最大付近の状態

※ 表示は5段階に変化します。

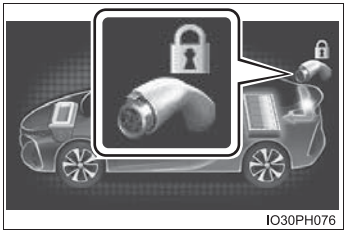


IO30PH213

知識

■普通充電コネクターを施錠しているとき（→ P. 147）

普通充電コネクターを施錠しているときは、エネルギーモニターの普通充電コネクター表示部分に 🔒 を表示してお知らせします。


IO30PH076

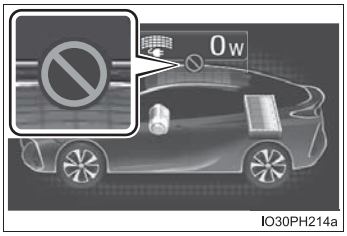
■マイルームモードを使用しているとき（→ P. 185）

●マイルームモードを開始すると、マルチインフォメーションディスプレイにエネルギーモニターが自動で表示されます。

●マイルームモードの使用中は、エネルギーモニター上に電力収支バーが表示されます。（→ P. 186）

■ソーラー充電システム★が故障したとき

ソーラー充電システムが故障すると、エネルギーモニターのソーラールーフ部分に故障を示すマークが表示されます。故障マークが表示されたときは、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。



IO30PH214a

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ ハイブリッドシステムインジケーター

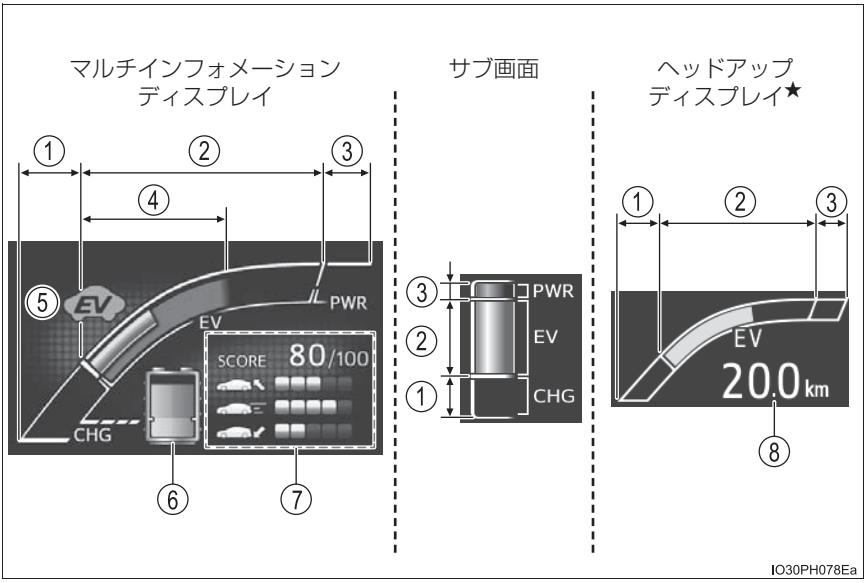
アクセルペダルの操作に従って表示が変化し、現在の走行状況・エネルギーの回収状況を表示します。

EV モード時と HV モード時とで、ハイブリッドシステムインジケーターの表示内容がかわります。

ハイブリッドシステムインジケーターは、メインディスプレイのサブ画面（→ P. 266）、およびヘッドアップディスプレイ★（→ P. 305）にも表示させることができます。

■ 表示の見方

▶ EV モード時



① チャージエリア

回生機能により、エネルギーを回収している状態を示します。

② EV 走行エリア

電気モーターのみで走行している状態を示します。

③ エンジン始動エリア

ガソリンエンジンが補助動力として使用されている状態を示します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

④ エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

エコアクセルガイド（→ P. 280）がこの範囲内で変化します。※1

⑤ EV ドライブインジケーター ※1, 2

ガソリンエンジン停止中や、電気モーターのみで走行しているときに表示されます。

⑥ 駆動用電池の残量表示

→ P. 283

⑦ エコジャッジ

→ P. 281

⑧ EV 走行可能距離

→ P. 305

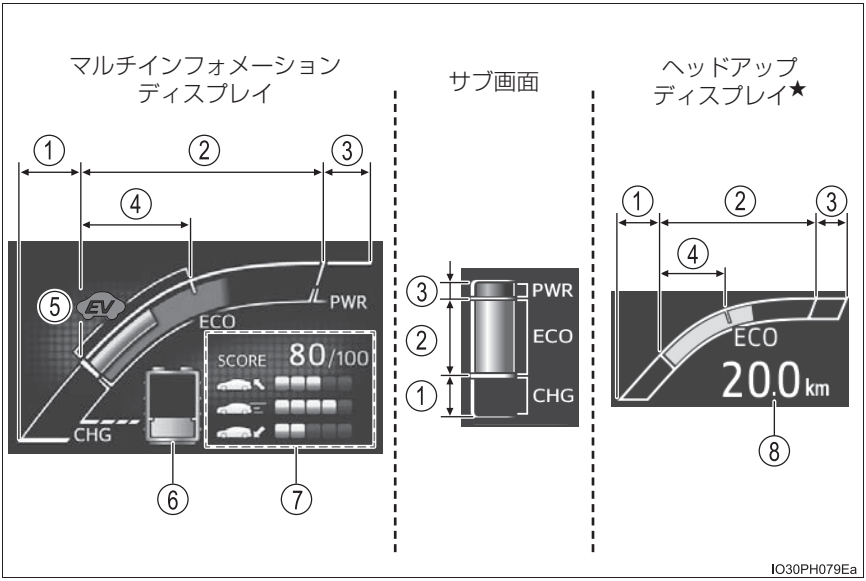
- インジケーターの表示をエコエリアに保つことで、エコ運転が可能です。
- チャージエリアは、回生 ※3 状態を示します。回生した電力は、駆動用電池を充電します。

※1 サブ画面、およびヘッドアップディスプレイ上には表示されません。

※2 「メーターカスタマイズ」設定で EV ドライブインジケーターの機能を OFF に設定することもできます。（→ P. 300）

※3 ここでの「回生」の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

▶ HV モード時



① チャージエリア

回生機能により、エネルギーを回収している状態を示します。

② エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

エコアクセルガイド（→ P. 280）がこの範囲内で変化します。※1

③ パワーエリア

全開走行時など、エコ運転の範囲をこえている状態を示します。

④ ハイブリッドエコエリア ※2

ガソリンエンジンの動力を使用しない状況を多く含む状態を示します。

ガソリンエンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。

⑤ EV ドライブインジケーター ※1, 3

ガソリンエンジン停止中や、電気モーターのみで走行しているときに表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⑥ 駆動用電池の残量表示

→ P. 283

⑦ エコジャッジ

→ P. 281

⑧ EV 走行可能距離

→ P. 305

- インジケーターの表示をエコエリアに保つことで、エコ運転が可能です。
- チャージエリアは、回生 ※4 状態を示します。回生した電力は、駆動用電池を充電します。

※1 サブ画面、およびヘッドアップディスプレイ上には表示されません。

※2 サブ画面上には表示されません。

※3 「メーターカスタマイズ」設定で EV ドライブインジケーターの機能を OFF に設定することもできます。（→ P. 300）

※4 ここでの「回生」の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

■ エコアクセルガイド

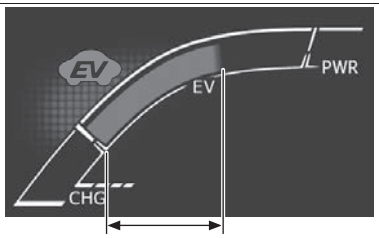
発進・安定走行などの各走行状況に適したアクセル操作範囲の目安が、エコエリア内に青くゾーン表示されます。

エコアクセルガイドの表示は、発進・安定走行などの走行状況に応じて変化します。

アクセルペダルの操作を示す表示が、エコアクセルガイドの範囲をこえないように走行することで、環境に配慮した走行が、より容易に行えます。（→ P. 362）

「メーターカスタマイズ」設定で、エコアクセルガイドの機能を OFF に設定することもできます。（→ P. 300）

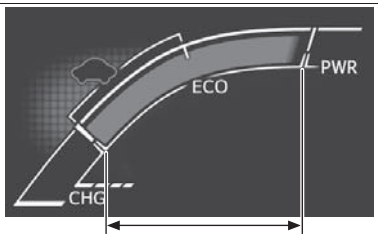
▶ EV モード時



エコアクセルガイド

IO30PH080Ea

▶ HV モード時



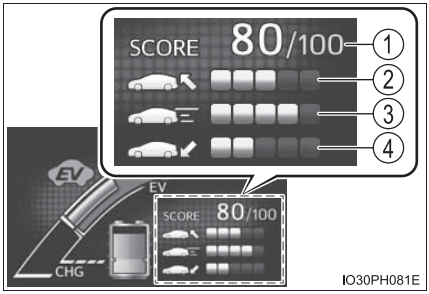
エコアクセルガイド

IO20PS064E

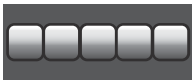
■ **エコジャッジ**

なめらかな発進加速（エコ発進）・急な加減速のない安定した走行（安定走行）・スムーズな停車（エコ停車）という 3 つの観点から、走行状況をそれぞれ 5 段階で評価し、車両が停車するたびに 100 点満点で採点結果を表示します。

① 採点結果
② エコ発進の状況
③ 安定走行の状況
④ エコ停車の状況



バー表示の見方：

評価状況	低い ※	高い
バー表示		

※ 現在評価されていない項目は、表示数が 0 になります。

● エコジャッジは発進するたびにリセットされ、新たに評価が開始されます。

● シフトポジションが P のときは、エコジャッジ表示部のみが拡大表示されます。P ポジション以外に切りかえると、もとの表示にもどります。

● ハイブリッドシステムを停止すると、今回の走行における総合的な採点結果と、得点を高くするためのアドバイスが表示されます。
（→ P. 250）

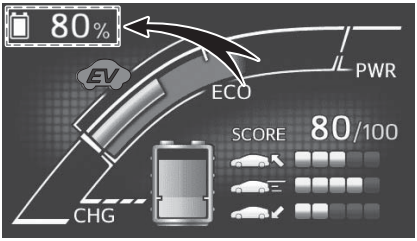
■ EV 走行に関する情報表示

「メーターカスタマイズ」設定の「ハイブリッドシステムインジケーター」の設定項目で、次の 2 つの情報のうち、いずれかひとつを選択して、ハイブリッドシステムインジケーターの左上に表示することができます。（→ P. 300）

▶ EV エネルギー

EV 走行に使用できる駆動用電池の残量をパーセントで表した数値が表示されます。

駆動用電池が満充電のとき、100% になります。

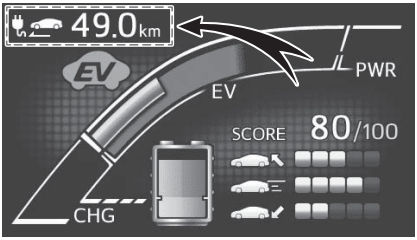


IO30PH083E

▶ EV 走行可能距離

過去の走行データをもとに、駆動用電池の残量から電気モーターのみで走行できるおよその距離が表示されます。（→ P. 94）

エアコンの作動中はアイコン表示が にかわり、エアコンを使用した場合の EV 走行可能距離が表示されます。



IO30PH082E

知識

■各機能の作動が停止するとき

●次の場合、ハイブリッドシステムインジケーターの作動が停止します。

・READY インジケーターが点灯していないとき
・シフトポジションが D または B 以外のとき

●次の場合、エコジャッジとエコアクセルガイドの作動が停止します。

・ハイブリッドシステムインジケーターが作動していないとき
・レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用しているとき

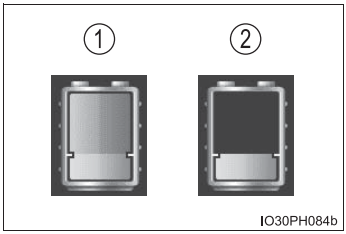
■駆動用電池の残量表示について

●ハイブリッドシステムインジケーター、およびメインディスプレイのサブ画面（→ P. 267）上に、現在の駆動用電池の残量が表示されます。

・EV モードでの EV 走行に使用される電池残量は緑色で、HV モードで使用される電池残量は青色で表示されます。
・駆動用電池の残量表示は走行に伴って減少し、駆動用電池を充電、または回生ブレーキ（→ P. 80）による電気エネルギー回収、ガソリンエンジンによる発電が実施されると増加します。
・緑色の表示領域がないときは HV モードで走行し、EV モードに切りかえることはできません。EV 走行を楽しむためには、駆動用電池の充電を実施してください。（→ P. 98）

① 駆動用電池が満充電のとき

② EV モード用の駆動用電池残量がないとき



●HV モード時の駆動用電池の充電量は、ハイブリッドシステムによって自動制御されます。そのため、回生ブレーキ機能による電気回収・ガソリンエンジンによる発電が行われても、HV モード時の駆動用電池の残量が境界線 ※ まで到達しないことがありますが、異常ではありません。また、駆動用電池の残量が境界線をこえた場合でも、EV モードにもどるまでは、青色で表示されます。

※ 駆動用電池の残量表示上で、EV ／ HV モードの領域を分ける境界線の位置

●充電中に駆動用電池の残量を表示させた場合、残量表示が満充電の状態になったあとも、充電状況によっては、しばらくのあいだ充電が継続されますが、異常ではありません。充電が終了するまでお待ちください。

■駆動用電池の残量警告について

●シフトポジションが N で、駆動用電池の充電ができない状態が継続、もしくは、駆動用電池の残量が一定未満まで低下すると、ブザーが断続的に吹鳴します。その後、さらに残量が低下したときは、ブザー音が断続から連続にかわります。

●マルチインフォメーションのメッセージとブザー音で警告されたときは、画面の指示に従って対処してください。

■エコジャッジについて

●発進後、車速が約 30km/h をこえるまで、エコジャッジの表示は開始されません。

●エコジャッジは、車両の走行状況のほかに、エアコンの使用状況についても評価を行います（→ P. 294）。ハイブリッドシステムを停止したときに表示される点数は、ハイブリッドシステム始動後の走行状況とエアコンの使用状況とを総合評価した結果になります。

■EV エネルギー・EV 走行可能距離の表示について

EV エネルギーの残量、および EV 走行可能距離の表示が減少する度合いは、車両の走行状況により異なります。また、システムの電力消費により、走行していなくても EV エネルギーの残量、および EV 走行可能距離が減少する場合があります。

■信号情報利用型エコアクセルガイド（ITS Connect 装着車）

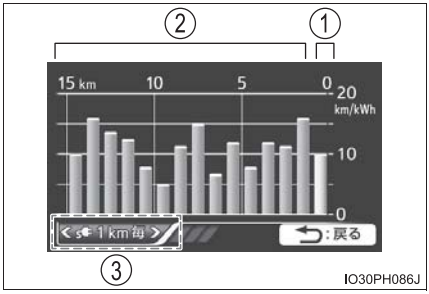
ITS Connect が利用可能なときに作動します。（→ P. 473）

◆ 燃費履歴

1km走行ごと・5km走行ごとの各単位で、ハイブリッドシステム始動後の平均電費／平均燃費の推移を確認できます。

■ 画面の見方

ここでは「 1km 毎」の表示を例にしていますが、基本的な見方は各電費／燃費履歴画面とも同様です。



① 現在の平均電費／平均燃費の記録（黄色表示）

それぞれの記録単位（1km ごと・5kmごと）が過ぎると、現在の記録が履歴として左列へ移動し、最も古い記録が消去されます。

② 過去の平均電費／平均燃費の記録（緑色表示）

③ タブ表示

電費／燃費履歴の種類が表示されます。

■ 燃費履歴の種類

タブ表示	記録される内容	記録される範囲
1 km 毎	1km 走行あたりの平均電費 ※	過去 15km 走行まで
5 km 毎	5km 走行あたりの平均電費 ※	過去 30km 走行まで
1 km 毎	1km 走行あたりの平均燃費 ※	過去 15km 走行まで
5 km 毎	5km 走行あたりの平均燃費 ※	過去 30km 走行まで

※ ハイブリッドシステムを停止すると、記録がリセットされます。

■ 電費／燃費履歴画面を切りかえるには

1 燃費履歴画面が表示されている状態で を押す

タブ表示が選択状態になり、表示内容の切りかえが可能になります。

2 メーター操作スイッチの 〈 ／ 〉 を押して、表示内容を切りかえる

〉を押すたびに「 1 km 毎」・「 5 km 毎」・「 1 km 毎」・「 5 km 毎」の順 ※ に、〈 を押すと逆の順に表示が切りかわります。

※「 5 km 毎」の次は「 1 km 毎」にもどります。

◆ ドライブモニター

現在の走行距離表示（→ P. 264）の内容に連動した、走行時間や平均車速などの情報を表示します。

① 現在の表示内容

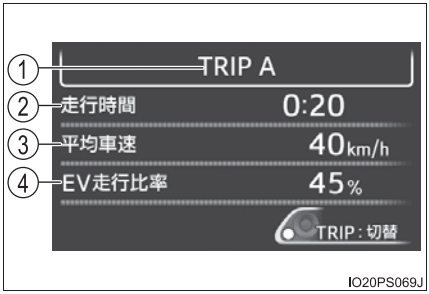
表示中の情報が、どの走行記録に基づく内容かを示しています。

② 走行時間

③ 平均車速

④ EV 走行比率

走行距離表示に表示された距離における、電気モーターの動力のみで走行した割合をパーセント表示します。



TRIP スイッチを押すたびに、走行距離表示（→ P. 264）が切りかわるとともに、ドライブモニターの表示内容が次のように変化します。

走行距離表示	①の表示	ドライブモニターの表示内容
ODO	通算	前回リセットしてからの情報 ※1
TRIP A	TRIP A	TRIP A の走行記録に基づいた情報 ※2
TRIP B	TRIP B	TRIP B の走行記録に基づいた情報 ※2
	始動後	ハイブリッドシステムを始動してから現在までの情報 ※3
ブランク表示		

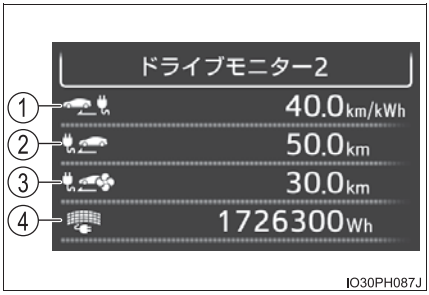
※1 平均燃費をリセット（→ P. 265）すると、ドライブモニターの表示もリセットされます。

※2 トリップメーターをリセット（→ P. 265）すると、ドライブモニターの表示もリセットされます。

※3 ハイブリッドシステムを始動するたびにリセットされます。

◆ ドライブモニター 2

EV 走行に関する、次の各情報が表示されます。



① 通算平均電費

リセットしてから再度リセットするまでの、通算平均電費が表示されます。※1

② EV 走行可能距離（エアコン非使用時）

過去の走行データをもとに、現在の駆動用電池の残量で走行可能な、EV 走行距離の目安が表示されます。（→ P. 94）※2

③ EV 走行可能距離（エアコン使用時）

現在の駆動用電池の残量で、かつエアコンを使用した場合に走行可能な、EV 走行距離の目安が表示されます。※2

④ ソーラー充電システム★の累積発電量

今までに太陽光発電した累積の発電量が表示されます。

※1 「電費リセット」（→ P. 301）を実行すると、通算平均電費のデータが消去されます。

※2 システムの電力消費により、走行していなくても EV 走行可能距離が減少する場合があります。

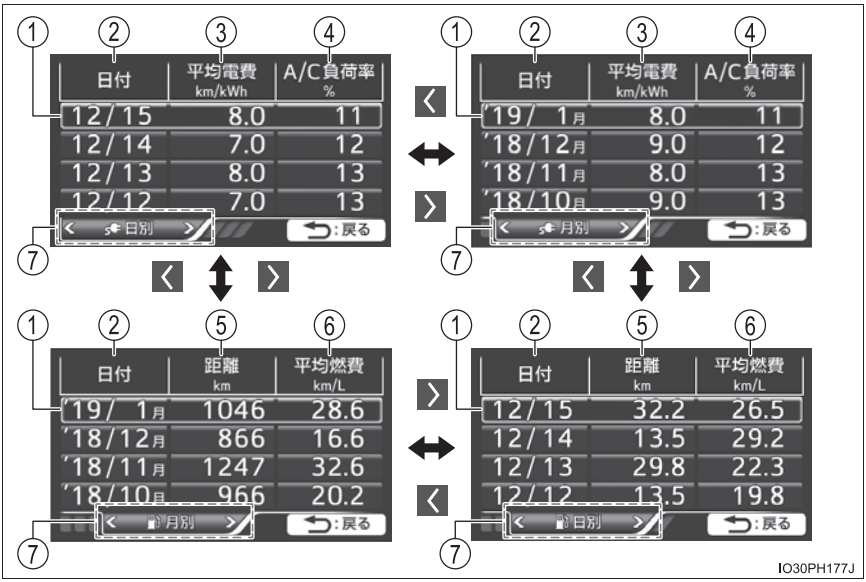
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ エコダイアリー

1 日ごと（日別）、または 1ヶ月ごと（月別）の単位で、平均電費・エアコン負荷率（A/C 負荷率）※・走行距離・平均燃費の履歴を一覧表示できます。

※ 駆動用電池から消費された電力のうち、エアコンの使用によって消費された電力の割合を示します。

■ 表示の見方



① 当日／当月の記録

② 情報が記録された日付／年月

③ 当日／当月の平均電費

④ 当日／当月のエアコン負荷率

⑤ 当日／当月の通算走行距離

⑥ 当日／当月の平均燃費

⑦ タブ表示

◎を押すと選択状態になり、メーター操作スイッチの〈／〉を押すことで、各画面表示に切りかわります。

■ 履歴を確認するには

各画面が選択されている状態でメーター操作スイッチの ∧ ／ ∨ を押すと、それぞれ次の範囲まで過去の記録を表示することができます。

表示画面	1 画面に表示される情報	記録される情報
日別	4 件	最大 32 件（8 画面分）
月別		最大 12 件（3 画面分）

- 記録件数が上記をこえるときは、最も古い情報が消去されます。
- 履歴をリセットするときは、「メーターカスタマイズ」設定（→ P. 300）から「履歴リセット」を実行します。（「日別」・「月別」の情報をそれぞれ独立してリセットできます）

知識

■カレンダー設定について

→ P. 302

◆ エンジン回転数［タコメーター］（GR SPORT のみ）

毎分のエンジン回転数を示します。

IO30PH139

知識

■エンジン回転数について

ハイブリッド車のエンジン回転数は、燃費の向上や排気ガス低減などのため、ち密に制御されています。走行条件や運転条件が同じでも、エンジン回転数が異なる場合があります。

注意

■ハイブリッドシステムや構成部品への損傷を防ぐために

タコメーターの指針の表示がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。

時計設定画面

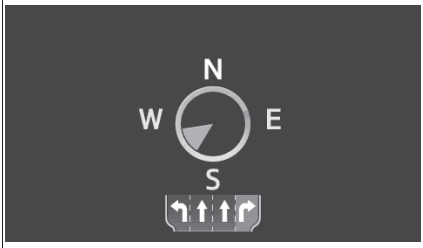
時計の設定を変更することができます。

設定項目	設定結果
H M	時計の表示が調整される（→ P. 251）
:00	分の単位の表示が 00 になる（→ P. 252）

IO20PS294aJ

ナビゲーションシステム連携画面★

マルチインフォメーションディスプレイとの連携機能に対応した、トヨタ純正ナビゲーションシステム（販売店オプション）を装着している場合に、ナビゲーションシステムと連携した情報を表示することができます。



IO20PS209

ナビゲーションシステムと連携して、方位計などを表示します。また、ナビゲーションシステムでの目的地案内中に交差点案内が行われると、マルチインフォメーションディスプレイにも交差点案内が表示されます。

図は説明のための例であり、実際の画面表示とは異なる場合があります。

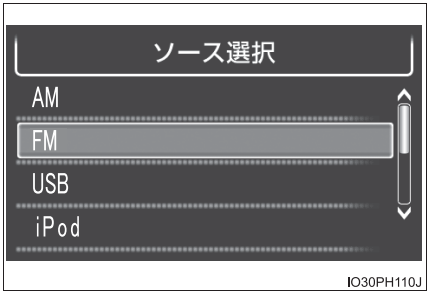
非対応のナビゲーションシステムを装着している場合はアイコンが表示されず、ナビゲーションシステム連携画面を表示できません。

目的地の設定・地図の向きの切りかえなどについては、別冊「マルチメディア取扱書」、または製品に添付されている取り扱い説明書を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

オーディオ連携画面★

マルチインフォメーションディスプレイとの連携機能に対応した、トヨタ純正ナビゲーションシステム（販売店オプション）を装着している場合、選択されているオーディオソースの情報が表示されます。



図は説明のための例であり、実際の画面とは異なる場合があります。

オーディオソースを変更するときは、を押してオーディオソース選択画面を表示し、メーター操作スイッチの／を操作してご希望のオーディオソースを選択し、を押します。

オーディオソースの変更を中止する場合は、オーディオソース選択画面でスイッチを押します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

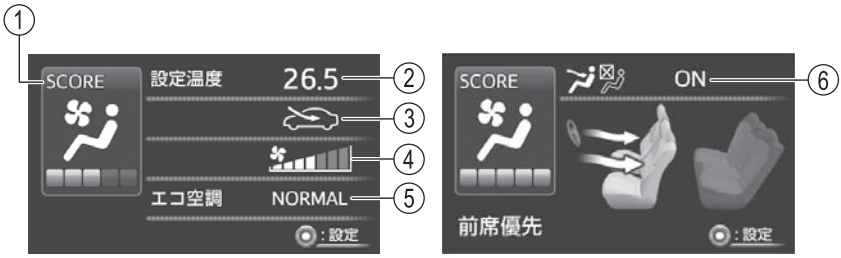
エアコン設定画面

エアコンの設定状態を画面表示で確認したり、メーター操作スイッチを使用して、エアコンの設定を変更したりすることができます。

エアコン設定画面でメーター操作スイッチの∧／∨を押すと、表示内容が切りかわります。

エアコンの機能の詳細については、P. 594 を参照してください。

■ 画面表示・設定変更が可能な項目



IO20PS289

項目		設定値		
①	エコジャッジ（空調スコア）	P. 294		
②	設定温度	メーター操作スイッチの操作に連動して変化する ※1		
③	内気循環／外気導入モード	（外気導入）	（内気循環）	
④	風量	1 ～ 7		
⑤	エコ空調	NORMAL（通常）	ECO（エコ）	
⑥	フロント席集中送風モード（S-FLOW）	ON（運転席優先）※2	ON（前席優先）※2	OFF（全席空調）

※1 設定温度を最も低くすると「LO」、最も高くすると「HI」が、それぞれ表示されます。

※2 助手席乗員の有無などの状況により、選択可能なモードが異なります。（→ P. 596）

■ エアコンの設定を変更するには

1 ◎ を押して、カーソルを表示させる

2 メーター操作スイッチの ∧ ／ ∨ を押して、設定したい項目を選択する

3 メーター操作スイッチの 〈 ／ 〉 を押して、設定項目・設定値を選択する

エアコン設定画面の操作で、エアコンを停止することはできません。エアコンを停止するときは、エアコンのスイッチを操作してください。

■ エコジャッジ（空調スコア）について

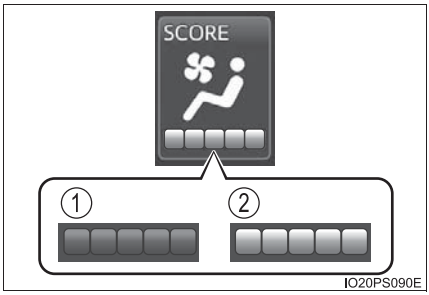
現在のエアコンの使用状況が環境に配慮した内容になっているか、5段階で評価します。

エアコンの使用状況に従って評価が変化し、パワースイッチを OFF にすると、今回の走行における総合得点 ※1 と、エアコンの使用に関するアドバイス ※2 が表示されます。（→ P. 250）

① 評価が低い ※3

② 評価が高い

過剰な冷暖房を避け、外気温や乗員の状況などに適した設定、およびフロント席集中送風モード（S-FLOW）（ ）・エコ空調モードでエアコンを使用すると、高評価につながります。



※1 パワースイッチを ON モードにしてから約 1 分以上が経過するまでは、エコジャッジ（空調スコア）の評価は開始されません。

※2 状況により、エアコンの使用に関するアドバイスが表示されない場合があります。

※3 エコジャッジ（空調スコア）が評価されていないときは、表示数が 0 になります。

知識

■エアコンを操作したとき

●マルチインフォメーションディスプレイにエアコン設定以外の画面が表示されている状態で、エアコンのスイッチを操作してエアコンの設定を変更すると、エアコン設定内容の確認画面が割り込み表示されます。なお、割り込み表示画面でエアコンの設定を変更することはできません。

IO20PS091Ja

●「メーターカスタマイズ」設定で、エアコンのスイッチを操作してエアコンの設定を変更したときの、割り込み表示機能を OFF に設定することもできます。（→ P. 300）

■エコジャッジ（空調スコア）について

●エアコンの各機能のうち、次の設定状況が評価に反映されます。

・設定温度
・風量
・内外気切りかえ
・A/C スイッチ
・フロント席集中送風モード（S-FLOW）
・エコ空調モード

●エコジャッジ（空調スコア）は、外気温や車内温度などを判断して評価を行います。よって、同じ設定でエアコンを使用していても、季節や天候などの状況により、評価がかわります。

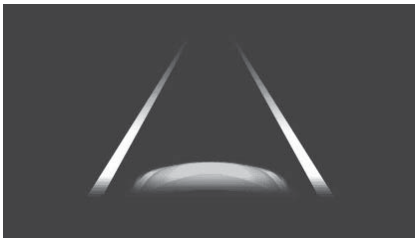
●エアコンを使用していないとき、または吹き出し口が ・ のときは、エコジャッジ（空調スコア）の評価を実施しません。（評価されていないあいだのエアコンの使用状況は、総合的なエコジャッジの採点結果にも反映されません）

●エコジャッジ（空調スコア）は、省電費／省燃費につながるエアコン設定へ誘導する機能であり、快適性との両立を保証するシステムではありません。

走行支援システム連携画面

LTA（レーントレーシングアシスト）やレーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）などの走行支援システムの作動状況や、各種警報などの情報が表示されます。

走行支援システムの詳細については、各機能の記載ページを参照してください。

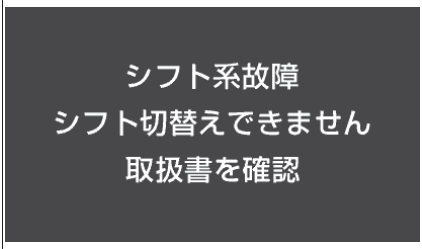


IO55PH205a

警告メッセージ表示画面

パワースイッチをONモードにしてから現在までに表示された警告メッセージを確認することができます。

複数の警告メッセージが現在までに表示されていたときは、メーター操作スイッチの∧／∨を押して、表示を切りかえることができます。



IO20PS158J

現時点で問題が解消している警告メッセージ、および一部の警告メッセージは表示されません。また、確認可能な警告メッセージがないときは、「メッセージがない」という内容の表示でお知らせします。

設定画面

走行支援システムの作動内容や、メーター表示に関する設定などを変更することができます。

PCS（プリクラッシュセーフティ）やブラインドスポットモニター★などの走行支援システムは、を押すだけで ON ／ OFF の状態が切りかわります。システムを誤って解除してしまわないように、ご注意ください。

■ 設定操作のしかた

1 ハンドルにあるメーター操作スイッチの〈／〉を押して、を選択する

2 メーター操作スイッチの∧／∨を押して設定を変更したい項目を選択し、を押す

機能の ON ／ OFF や機能の感度レベルなどを設定する項目では、を押すたびに機能のON／OFF、または調整レベルが切りかわります。

機能の作動内容や表示内容などを設定できる項目では、設定画面が表示されます。

IO20PS356J

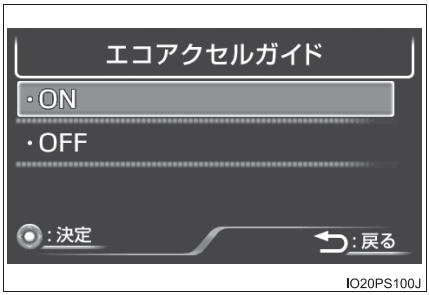
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

3 設定画面が表示されたときは、メーター操作スイッチを操作して、いずれかの設定を選択、または時間などを希望の値に設定する※1, 2

作動内容や設定値などを選択する項目では、ご希望の設定を選択、または値を設定したあと、◎を押します。

設定を中止する場合は、⮌スイッチを押します。

設定の実行を確認する画面が表示された場合は、実行か中止を選択の上、◎を押します。



IO20PS100J

※1 設定項目の種類によっては、項目を選択すると、さらに次の設定画面が表示される場合があります。

※2 調整レベルや時間などを設定する項目では、設定終了後に⮌スイッチを押すまで、設定画面が終了しません。

■ 設定項目一覧

設定項目	設定内容	設定結果
LTA	有	LTA（レーントレーシングアシスト）のセンタートレース制御の有無が切りかわる（→ P. 430）
	無	
	有	LTA（レーントレーシングアシスト）の操舵支援の有無が切りかわる（→ P. 430）
	無	
	高	LTA（レーントレーシングアシスト）の車線逸脱警報の感度が切りかわる（→ P. 430）
	普通	
	ON	PCS（プリクラッシュセーフティ）のON／OFF が切りかわる（→P. 423）
	OFF	
	早い	PCS（プリクラッシュセーフティ）の警報タイミングが切りかわる（→ P. 423）
	中間	
	遅い	
P ★	ON	クリアランスソナーの ON ／ OFF が切りかわる（→ P. 493）
	OFF	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

設定項目	設定内容	設定結果
★	ON OFF	パーキングサポートブレーキの ON ／ OFF が切りかわる（→ P. 505）
★	ON OFF	ブラインドスポットモニターの ON ／ OFF が切りかわる（→ P. 480）
	有 無	LTA （レーントレーシングアシスト）のふらつき警報の有無が切りかわる（→ P. 430）
	高 普通 低	LTA（レーントレーシングアシスト）のふらつき警報の感度が切りかわる（→ P. 430）
HUD ★	表示位置 明るさ	ヘッドアップディスプレイの表示位置･輝度が変化する（→ P. 307）
nanoe ★	ON OFF	「ナノイー」※ の ON ／ OFF が切りかわる（→ P. 603）
	ON OFF	RSA（ロードサインアシスト）の ON ／ OFF が切りかわる（→ P. 442）
	ON OFF	先行車発進告知機能の ON ／ OFF が切りかわる（→ P. 464）
	早 普通 遅	先行車の発進を告知するタイミングが切りかわる（→ P. 464）
	輝度	メーターの輝度が変化する（→ P. 248）
	「メーターカスタマイズ」設定：→ P. 300	
	「車両カスタマイズ」設定：→ P. 781	

※「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■「メーターカスタマイズ」設定項目一覧（ ）

設定項目	設定内容		設定結果
画面 OFF※	はい		実行すると、マルチインフォメーションディスプレイが非表示になる
	いいえ		
HV システムインジケーター（→ P. 277）	エコアクセルガイド	ON	エコアクセルガイドの表示・非表示が切りかわる
		OFF	
	EV 表示 ON ／ OFF	ON	EV ドライブインジケーターの有効・無効が切りかわる
		OFF	
	EV ドライブモニター	EV エネルギー	HV システムインジケーターの左上に表示される情報が切りかわる（→ P. 282）
		EV 走行可能距離	
		ブランク	
割込み表示 ON ／ OFF	ナビゲーション★	ON	選択した項目の、マルチインフォメーションディスプレイへの割り込み表示の有無が切りかわる
		OFF	
	エアコン設定	ON	
		OFF	
	クルーズコントロールガイド	ON	
		OFF	
	HUD 調整★	ON	
		OFF	
	走行モード設定	ON	
		OFF	
	駆動用電池冷却	ON	
		OFF	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

<table>
<tr><th>設定項目</th><th colspan="2">設定内容</th><th>設定結果</th></tr>
<tr><td rowspan="2">言語</td><td colspan="2">日本語</td><td rowspan="2">画面上に表示される言語が切りかわる</td></tr>
<tr><td colspan="2">English（英語）</td></tr>
<tr><td>カレンダー</td><td colspan="2">年／月／日</td><td>電費／燃費データの記録・タイマー充電に使用する年月日が変更される</td></tr>
<tr><td rowspan="4">履歴リセット</td><td rowspan="2">エコダイアリー（日別）</td><td>はい</td><td rowspan="2">実行すると、エコダイアリー（日別）（→ P. 288）のデータが消去される</td></tr>
<tr><td>いいえ</td></tr>
<tr><td rowspan="2">エコダイアリー（月別）</td><td>はい</td><td rowspan="2">実行すると、エコダイアリー（月別）（→ P. 288）のデータが消去される</td></tr>
<tr><td>いいえ</td></tr>
<tr><td rowspan="2">電費リセット</td><td colspan="2">はい</td><td rowspan="2">実行すると、通算平均電費（→ P. 266, 287）のデータが消去される</td></tr>
<tr><td colspan="2">いいえ</td></tr>
<tr><td rowspan="2">初期化</td><td colspan="2">はい</td><td rowspan="2">実行すると、メーター設定が工場出荷時の状態にもどる</td></tr>
<tr><td colspan="2">いいえ</td></tr>
</table>

※ 画面を非表示にしているときは、◎を押すと設定画面が再表示されます。

知識

■設定項目について

●「メーターカスタマイズ」／「車両カスタマイズ」の設定項目は、走行中は選択不可になり、操作できません。また、次の場合は設定画面が一時中断されます。

・警告メッセージが表示されたとき
・走行し始めたとき

●車両に装着されていない機能の設定項目は表示されません。

●設定変更の対象となる機能が OFF になっているときは、関連する設定項目も選択不可になります。

■カレンダー設定について

カレンダーの設定内容は、エコダイアリー（→ P. 288）の記録情報と連動しています。カレンダーの日付を変更すると、エコダイアリーの記録が次のように処理されます。

日付の変更内容	エコダイアリーの記録
現在よりも先の日付に変更したとき	保持 ※
先月以前の日付に変更したとき	全消去
当月内の過去の日付に変更したとき	「日別」のデータのみ消去

※ 記録されていない月・日付の情報は「0.0」になります。

警告

■設定操作を行うときの警告

ハイブリッドシステムが作動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

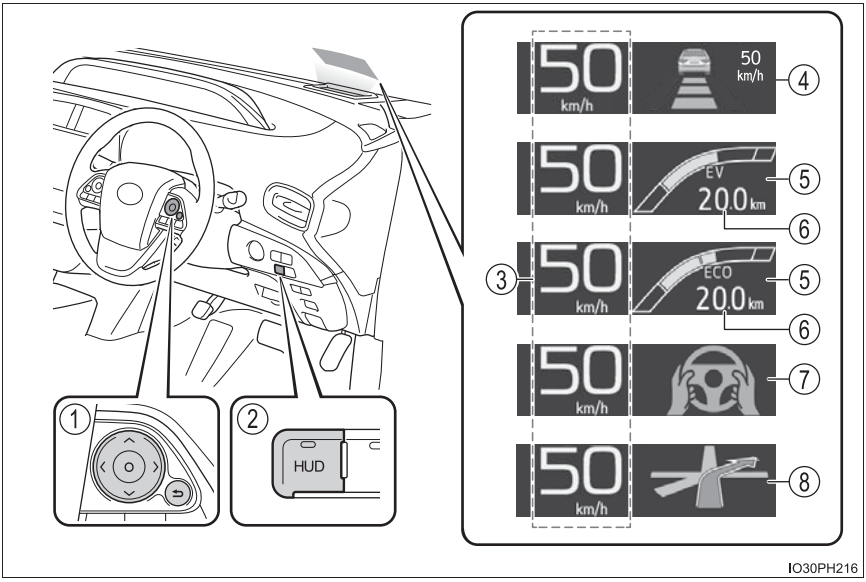
■設定操作を行うとき

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

カラーヘッドアップディスプレイ★

現在の車速・ハイブリッドシステムインジケーターを運転者の視界前方に表示することができます。また、運転を補助するための各種の情報も表示されます。

操作スイッチ・表示内容



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

① メーター操作スイッチ

ヘッドアップディスプレイの表示位置・輝度を調整するときに使用します。
（→ P. 307）

② HUD（ヘッドアップディスプレイ）スイッチ（→ P. 306）

③ 車速表示

④ クルーズコントロール表示（→ P. 447）

⑤ ハイブリッドシステムインジケーター（→ P. 277）

EV モード時と HV モード時とで、ハイブリッドシステムインジケーターの表示内容がかわります。

⑥ EV 走行可能距離

過去の走行データをもとに、現在の駆動用電池の残量で走行可能な、EV 走行距離の目安が表示されます。（→ P. 94）

エアコンの作動中は、エアコンを使用した場合のEV走行可能距離が表示されます。

システムの電力消費により、走行していなくても EV 走行可能距離が減少する場合があります。

⑦ 割り込み表示（→ P. 308）

走行状況に応じて、各走行支援システムからの情報が割り込み表示されます。

⑧ ナビゲーションシステム連携表示★（→ P. 309）

ナビゲーションシステムと連携した情報が表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

HUD（ヘッドアップディスプレイ）スイッチ

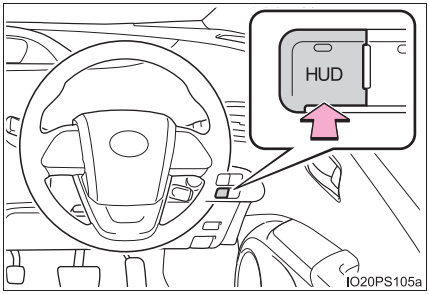
ヘッドアップディスプレイの ON ／ OFF、または表示内容を切りかえることができます。

■ ヘッドアップディスプレイが OFF のとき

HUD スイッチを押すとヘッドアップディスプレイが ON になり、表示が開始されます。

スイッチの作動表示灯が点灯します。

マルチインフォメーションディスプレイに表示位置・輝度の調整画面が自動表示されます。（→ P. 307）



■ ヘッドアップディスプレイが ON のとき

スイッチを押すたびに、次のように表示が切りかわります。

① 車速とクルーズコントロール表示 ※1

② 車速／ハイブリッドシステムインジケーター※1, 2 ／ EV 走行可能距離

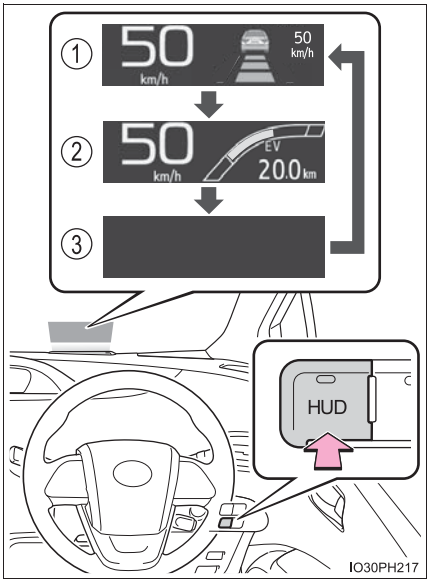
ハイブリッドシステムインジケーターの見方については、P. 277 を参照してください。

③ 非表示（ヘッドアップディスプレイ OFF）

スイッチの作動表示灯が消灯します。

※1 各走行支援システムからの割り込み表示があるときは、一時的に非表示になります。

※2 EV モード時と HV モード時とで、ハイブリッドシステムインジケーターの表示内容がかわります。



表示位置・輝度の調整

ヘッドアップディスプレイが見やすくなるように、表示位置・輝度を調整することができます。

1 マルチインフォメーションディスプレイに調整画面を表示する

ヘッドアップディスプレイが ON のとき：

マルチインフォメーションディスプレイの 画面で HUD を選択し、 を押します。（→ P. 298）

ヘッドアップディスプレイが OFF のとき：
HUD スイッチを押すと、ヘッドアップディスプレイの調整画面が自動で表示されます。※1

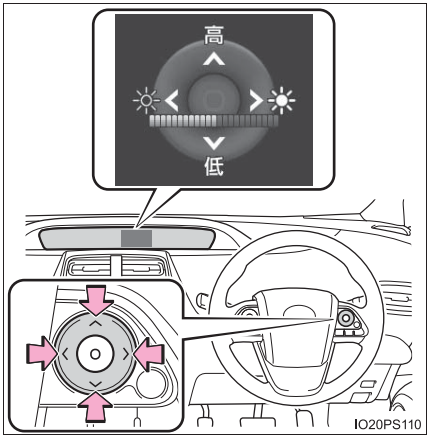
調整操作をしないまま約 6 秒間 ※2 が経過すると、自動でもとの画面にもどります。

2 メーター操作スイッチを操作して、表示位置・輝度を調整する

∧／∨を押すと、ヘッドアップディスプレイの表示位置がかわります。

＜／＞を押すと、ヘッドアップディスプレイの輝度がかわります。

スイッチを押すと、マルチインフォメーションディスプレイがもとの画面にもどります。



※1 この機能を OFF に設定することもできます。（→ P. 300）

※2 警告メッセージの割り込みにより、調整画面がすぐに中断される場合があります。

割り込み表示について

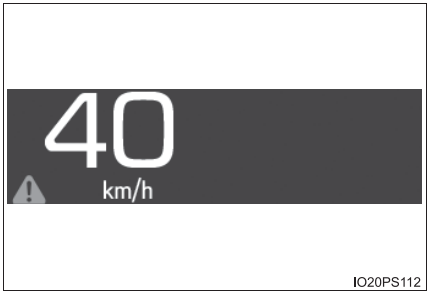
■ 走行支援システムの割り込み表示

次のシステムの作動に連動して、マルチインフォメーションディスプレイに表示される情報の一部が、ヘッドアップディスプレイに割り込み表示されます。

対象のシステム	表示される情報
PCS（プリクラッシュセーフティ） （→ P. 420）	衝突警報表示
LTA（レーントレーシングアシスト） （→ P. 430）	車線逸脱警報表示
	手放し運転に対する注意喚起
	ふらつき警報表示
RSA（ロードサインアシスト） （→ P. 442）	道路標識表示
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き） （→ P. 447）	接近警報表示
ITS Connect★ （→ P. 467）	各種の注意喚起
パーキングサポートブレーキ★ （→ P. 503）	作動表示 （シンボル表示）

■ マスターウォーニングの割り込み表示

マスターウォーニング（→P. 724）が点灯・点滅しているとき、ヘッドアップディスプレイへの割り込み表示でお知らせします。



マスターウォーニングが点灯・点滅したときは、マルチインフォメーションディスプレイに表示されたメッセージの内容を確認して、それぞれ対処してください。
（→ P. 727）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ナビゲーションシステム連携表示★

ナビゲーションシステムでルート案内を設定しているとき、簡易的なルート案内またはレーン情報が表示されます。

■ ルート案内表示

交差点に接近すると、交差点の形状と交差点までの残距離※1が表示されます。

一定距離まで交差点に接近すると、矢印のアニメーション表示※2で進行方向をお知らせします。

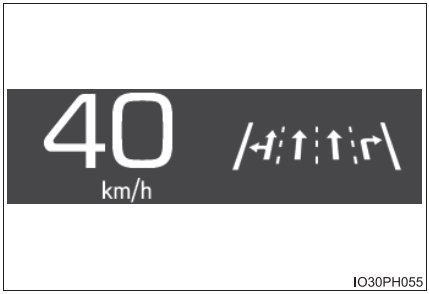
※1 アニメーション表示中は、残距離の表示が消えます。

※2 アニメーション表示中に停車すると、進行方向の表示が点滅にかわります。

■ レーン表示

ハイブリッドシステムインジケーターを非表示にしているとき、ナビゲーションシステムからの情報を受信して、レーン情報が自動的に表示されます。

一定距離まで交差点に接近すると表示がはじまり、交差点を通過すると、レーン表示が消えてもとの表示にもどります。



必要に応じて、ナビゲーションシステム連携表示 の ON ／ OFF を切りかえることができます。（→ P. 780）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ヘッドアップディスプレイの表示／非表示について

HUD スイッチの操作でヘッドアップディスプレイを OFF にしたときは、再度、スイッチを操作して ON にするまで、ヘッドアップディスプレイが表示されません。（パワースイッチの操作には連動しません）

■ヘッドアップディスプレイの輝度について

●ヘッドランプの ON ／ OFF の状態、および周囲の明るさに応じて、ヘッドアップディスプレイの輝度が自動調整されます。

●ヘッドアップディスプレイを一定以上の輝度に調整しているときは、車両が停止すると自動的に減光されます。発進後、車速が約 5km/h 以上になると自動でもとの輝度にもどります。

■車速表示について

外気温が極端に低い環境では、スピードメーターの表示とヘッドアップディスプレイの車速表示とのあいだに、わずかなズレが生じることがあります。

■ヘッドアップディスプレイについて

サングラス（特に偏光サングラス）を着用していると、ヘッドアップディスプレイの表示が見づらくなる場合があります。表示が見づらい場合は、輝度を調整するか、サングラスをはずしてください。

■補機バッテリー端子の脱着をしたときは

ヘッドアップディスプレイに関する設定内容がリセットされます。

■ナビゲーションシステム連携表示★について

ナビゲーションシステムの情報は、ヘッドアップディスプレイとマルチインフォメーションディスプレイに、同時には表示されません。ヘッドアップディスプレイにナビゲーションシステム連携表示が表示されているときは、ナビゲーションシステム連携画面（→ P. 291）が選択されている状態であっても、マルチインフォメーションディスプレイにはナビゲーションシステムの情報が表示されなくなります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■ヘッドアップディスプレイ使用上の注意

●映像の明るさ、および表示位置は、安全運転に支障がないよう適切な状態に調整してください。調整が不適切だと運転者の視界のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

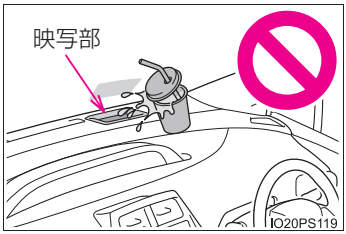
●ヘッドアップディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあります。

注意

■ヘッドアップディスプレイ映写部についての注意

●映写部の付近に飲み物を置かないでください。水やその他の液体が映写部にかかると、装置が故障する原因になります。

●映写部の上にものを置いたり、シールなどを貼り付けたりしないでください。
ヘッドアップディスプレイの表示のさまたげとなります。



●映写部の内部にふれたり、とがったものを押し付けたりしないでください。
装置が故障する原因となります。

エネルギーモニター／燃費画面（マルチメディアシステム装着車）

ハイブリッドシステムの状態や燃費に関する情報を、マルチメディアディスプレイに表示します。

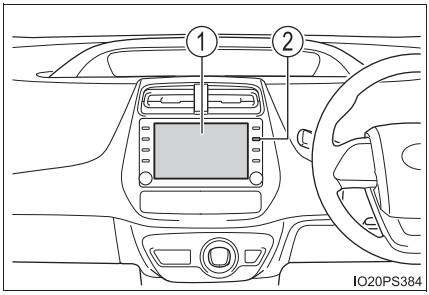
エネルギーモニター、燃費画面は、マルチインフォメーションディスプレイまたはマルチメディアディスプレイのHome画面にも表示することができます。

マルチインフォメーションディスプレイでの表示については、P. 269を参照してください。

システムの構成部品

① マルチメディアディスプレイ

② 「MENU」スイッチ



エネルギーモニターの見方

車両の駆動状況、ハイブリッドシステムの作動状況、およびエネルギーの回収状況を確認できます。

■ 表示のしかた

1 「MENU」スイッチを押し、「情報」を選択する

2 「情報」画面の「エコ情報」を選択する

エネルギーモニター画面以外が表示されたときは、「エネルギー」を選択します。

■ 表示について

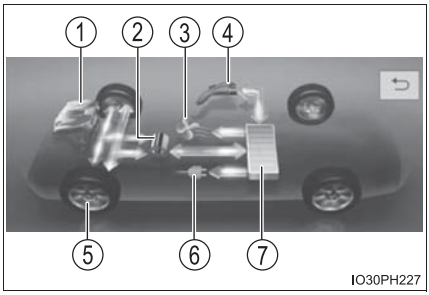
エネルギーの流れに応じて矢印が表示されます。エネルギーの流れがないときは、矢印は表示されません。

矢印の色は次のように変化します。

緑：電気エネルギーを回収・充電しているとき
黄：電気エネルギーを使用しているとき
赤：ガソリンエンジンの動力を使用しているとき

外部電源からの充電中は、充電中の電気エネルギーの流れが表示されます。

▶ マルチメディアディスプレイ



① エンジン
② モーター
③ エアコン作動表示 ※1
④ コネクター ※2
⑤ タイヤ
⑥ アクセサリーコンセント ※3
⑦ 駆動用電池

図は説明のためにすべての矢印を掲載しており、実際の表示内容とは異なります。

V2H 充電／ V2H 給電中★は、エネルギーの流れを示す矢印は表示されません。

※1 エアコンの作動中に表示されます。

※2 充電・給電中に表示されます。充電・給電の状況によって、コネクターの表示が次のようにかわります。
普通充電中：普通充電コネクター
AC 外部給電中：ヴィークルパワーコネクター
急速充電中★・DC 外部給電中★・V2H 充電／ V2H 給電中★：急速充電コネクター

※3 アクセサリーコンセント使用中または AC 外部給電中に表示されます。

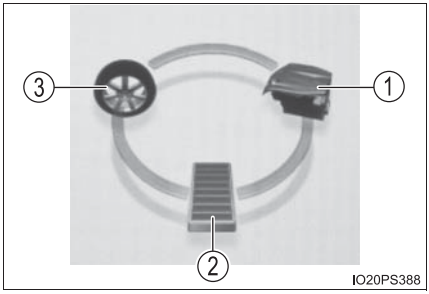
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ マルチメディアディスプレイ（Home 画面の表示）

① エンジン

② 駆動用電池

③ タイヤ



図は説明のためにすべての矢印を掲載しており、実際の表示内容とは異なります。

知識

■駆動用電池の残量警告について

●シフトポジションが N で、駆動用電池の充電ができない状態が継続、もしくは、駆動用電池の残量が一定未満まで低下すると、ブザーが断続的に吹鳴します。その後、さらに残量が低下したときは、ブザー音が断続から連続にかわります。

●マルチインフォメーションディスプレイのメッセージとブザー音で警告されたときは、画面の指示に従って対処してください。

■マルチメディアディスプレイ上の駆動用電池の表示について

駆動用電池に充電しているときは緑色に、駆動用電池の電力が使用されているときは黄色に、それぞれ表示色がかわります。

■マルチメディアディスプレイ上のエンジンの表示について

ガソリンエンジンの暖機中はガソリンエンジンのイメージが青色で表示されます。

燃費画面の見方

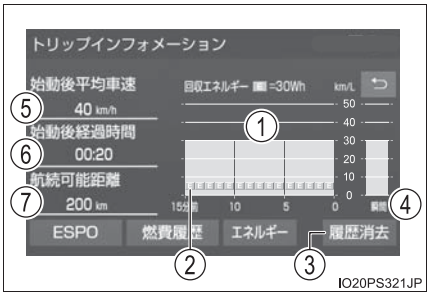
■ 表示のしかた

1 「MENU」スイッチを押し、「情報」を選択する

2 「情報」画面の「エコ情報」を選択する

■ トリップインフォメーションの見方

トリップインフォメーション画面以外が表示されたときは、「トリップインフォメーション」を選択します。



IO20PS321JP

① 過去 15 分間の 1 分ごとの燃費（平均燃費）

② 過去 15 分間の 1 分ごとのエネルギー回収量

E マーク 1 つが 30Wh です。

③ 履歴消去

④ 瞬間燃費

⑤ ハイブリッドシステム始動後平均車速

⑥ ハイブリッドシステム始動後経過時間

⑦ 航続可能距離

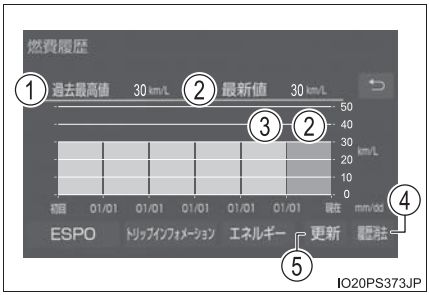
平均燃費はパワースイッチを ON モードにしてからと、前回走行時で色分けして表示されます。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ 燃費履歴の見方

燃費履歴画面以外が表示されたときは、「燃費履歴」を選択します。



① 過去最高値表示

② 最新値表示

③ 過去平均燃費表示

平均燃費は最後に更新してからの平均、過去の平均で色分けして表示されます。

④ 履歴消去

⑤ 最新値更新

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

知識

■過去の区間平均燃費の記録を更新するには

燃費履歴画面で「更新」を選択すると、平均燃費の値とグラフが更新され、新たに平均燃費の記録を開始します。

■燃費データをリセットするには

「履歴消去」を選択すると、燃費データがリセットされます。

■航続可能距離について

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を示します。

表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

■燃費情報について

マルチメディアディスプレイの Home 画面に平均燃費と航続可能距離を表示させることもできます。

Home 画面の詳細については、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

■スマートフォンとの連携について

T-Connect にお申込みの方は、T-Connect 対応アプリで、エコ運転に関する情報を確認することができます。

T-Connect サービスの詳細については、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

各部の操作 4

4-1. キーの取り扱い

キー.....318

4-2. ドアの開閉、ロックのしかた

ドア.....323

バックドア.....328

スマートエントリー&スタートシステム.....334

4-3. シートの調整

フロントシート.....341

リヤシート.....343

ヘッドレスト.....345

4-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル.....348

インナーミラー.....350

ドアミラー.....352

4-5. ドアガラスの開閉

パワーウインドウ.....354

キー

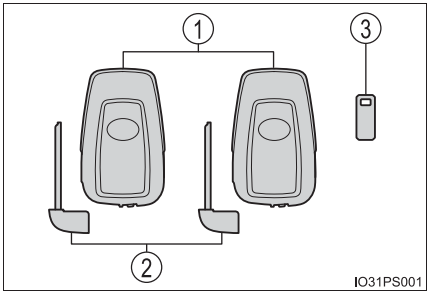
キーについて

お客様へ次のキーをお渡しします。

① 電子キー
- スマートエントリー＆スタートシステムの作動（→ P. 334）
- ワイヤレス機能の作動
- リモートエアコンシステムの作動（→ P. 606）

② メカニカルキー

③ キーナンバープレート



ワイヤレスリモコン

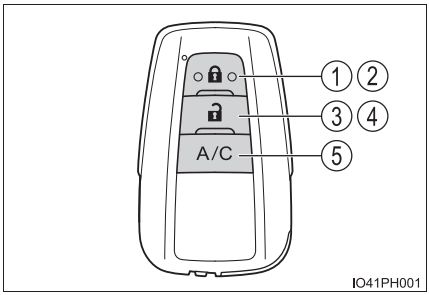
① 全ドアを施錠する（→ P. 323）

② ドアガラスを閉める ※（→ P. 323）

③ 全ドアを解錠する（→ P. 323）

④ ドアガラスを開く ※（→ P. 323）

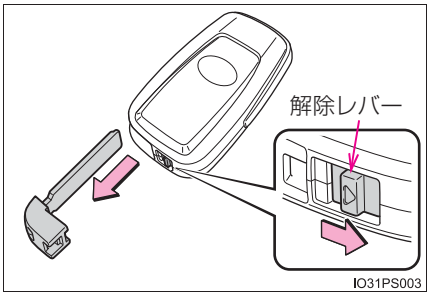
⑤ リモートエアコンシステムを作動・停止する（→ P. 606）



※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。（→ P. 780）

メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除レバーをスライドさせてキーを取り出す



メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キーの溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→ P. 755）

知識

■メカニカルキーを紛失したとき

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

■航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。

●電池残量が少なくなると、ハイブリッドシステムを停止した際に車内から警告音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。

・スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
・作動範囲が狭くなった
・電子キーの LED が点灯しない

電池はお客様自身で交換することができます（→ P. 692）が、交換の際にキーが破損するおそれがあるため、トヨタ販売店での交換をおすすめします。

●電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の1m以内に電子キーを保管しないでください。

・TV
・パソコン
・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
・電気スタンド
・電磁調理器

■電子キーの状態や、パワースイッチのモードに関するメッセージが表示されたとき

車内への電子キーの閉じ込みや、同乗者による電子キーの持ち出し、電源の切り忘れなどを防止するため、電子キーやパワースイッチなどの状態の確認をうながすメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されることがあります。その場合は、表示内容に従ってすみやかに対処してください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「キーの電池残量が少なくなっています 電池を交換してください」が表示されたとき

電子キーの電池残量が少なくなっています。新しい電池と交換してください。
(→ P. 692)

■電池の交換方法

→ P. 692

■キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはトヨタ販売店へご相談ください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「新しいキーが登録されました 詳しくは販売店に問い合わせください」が表示されたとき

追加で新しく電子キーが登録された場合、車外から解錠して運転席ドアを開けたときにメッセージが表示されることが 10 日ほど続きます。
電子キーの登録をした覚えがないにも関わらずメッセージが表示されたときは、お持ちの電子キー以外に登録されている電子キーがないかをトヨタ販売店で確認してください。

■不正キーの使用について

指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

⚠注意

■キーの故障を防ぐために

- ●落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- ●温度の高いところに長時間放置しない
- ●ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- ●キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- ●分解しない
- ●電子キー表面にシールなどを貼らない
- ●テレビやオーディオ、電磁調理器などの磁気を帯びた製品の近くに置かない
- ●電気医療機器（マイクロ波治療機器や低周波治療機器など）の近くに置いたり、身に付けたまま治療を受けない

■電子キー取り扱いの注意

電子キーは電波法の認証に適合しています。
必ず以下のことをお守り下さい。
・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
・必ず日本国内でご使用下さい。

■キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

■電子キーを紛失したとき

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーをすべてお持ちの上、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

ドア

スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン・ドアロックスイッチ・ロックレバーを使って施錠・解錠できます。

車外からの解錠／施錠

◆ スマートエントリー＆スタートシステム

電子キーを携帯して操作します。

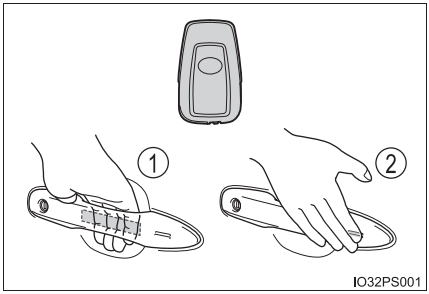
① ハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

② ドアハンドル表面のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。



IO32PS001

◆ ワイヤレスリモコン

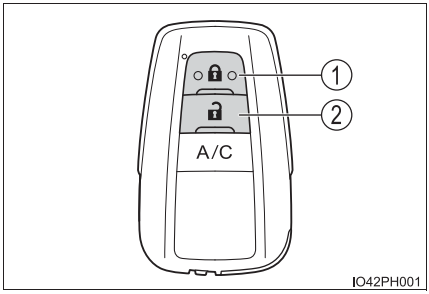
① 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

押し続けるとドアガラスが閉まります。※

② 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスが開きます。※



IO42PH001

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。（→ P. 780）

知識

■作動の合図

ドア：
ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

ドアガラス：
ドアガラスの開閉をブザーで知らせます。

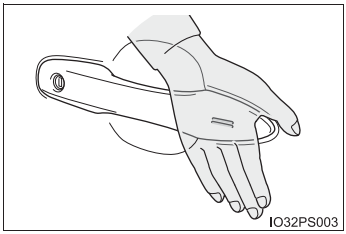
■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■ドアハンドル表面のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル表面のロックセンサーに指でふれても施錠できないときは、手のひらでロックセンサーにふれてください。

手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。



■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。
ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■オートアラームの設定

施錠するとオートアラームが設定されます。（→ P. 67）

■スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

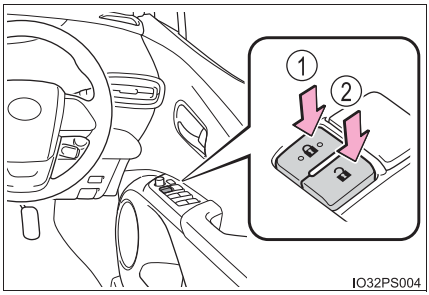
- メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→ P. 755）
- 電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。（→ P. 692）

車内からの施錠／解錠

◆ ドアロックスイッチ

① 全ドアを施錠する

② 全ドアを解錠する

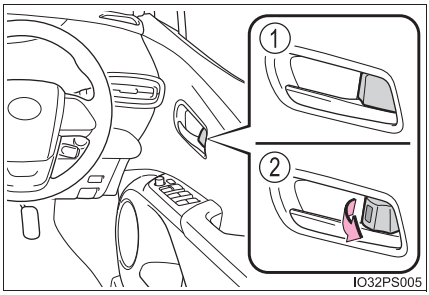


◆ ロックレバー

① ドアを施錠する

② ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開けられます。



キーを使わずに外側からフロント席を施錠するとき

1 ロックレバーを施錠側にする

2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。ただし、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。

① 解錠

② 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。

知識

■ **メカニカルキーでの施錠・解錠**

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→ P. 755）

■ **チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方**

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■ **半ドア走行時警告ブザー**

全ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえるとマスターウォーニングが点滅し、警告ブザーが鳴ります。

開いているドアがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ **スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況**

→ P. 337

■リヤシートリマインダー機能

●リヤシートへの荷物の置き忘れなどを防止するため、次の操作を行ってからパワースイッチを OFF にするとブザーが鳴り、約 6 秒間マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

・リヤドアを開閉したあと約 10 分以内にハイブリッドシステムを始動した
・ハイブリッドシステムが始動している状態でリヤドアを開閉した
ただし、リヤドアを開けてから約 2 秒以内にリヤドアを閉めたときは、リヤシートリマインダー機能は作動しません。

●リヤシートリマインダー機能は、リヤドアの開閉によりリヤシートに荷物などを載せたと判断します。そのため使い方によっては、リヤシートに荷物などを置き忘れていてもリヤシートリマインダー機能が作動しないなど、実際の状況とは異なる作動をする場合があります。

●リヤシートリマインダー機能の作動／非作動を設定できます。（→ P. 780）

■カスタマイズ機能

施錠・解錠時のブザー音量などを変更できます。（カスタマイズ一覧：→ P. 780）

⚠警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●すべてのドアを確実に閉め、施錠する

●走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

●お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときの留意事項

傾斜した場所・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

■ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスを操作するとき

ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

バックドア

バックドアは次の方法で解錠・施錠および開閉することができます。

◆ スマートエントリー＆スタートシステム

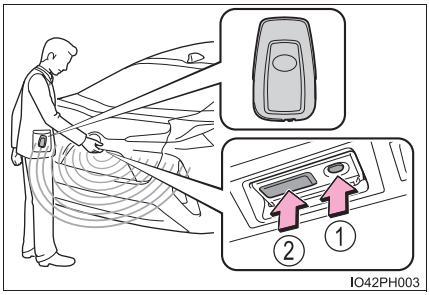
電子キーを携帯して操作します。

① 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

② 全ドアを解錠する

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。



◆ ワイヤレスリモコン

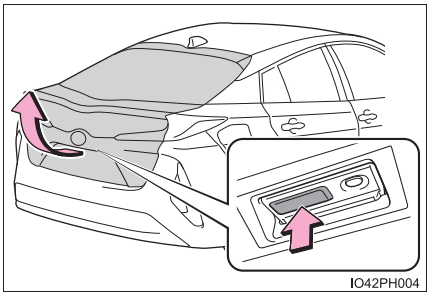
→ P. 323

◆ ドアロックスイッチ

→ P. 325

バックドアを開ける

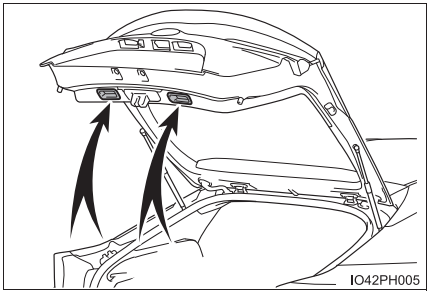
バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げてください。



バックドアを閉める

バックドアハンドルを持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。

引き下げるときは、バックドアハンドルを持って、横方向に力をかけないように引き下げます。



知識

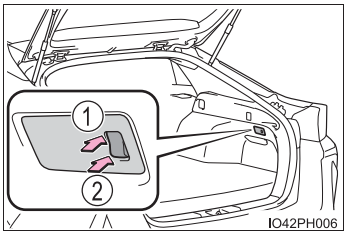
■ラゲージルームランプ

スイッチを ON にしておくと、バックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。

① ON

② OFF

パワースイッチが OFF の場合、約 20 分後に自動消灯します。

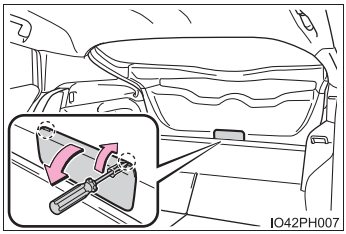


■バックドアが開かないとき

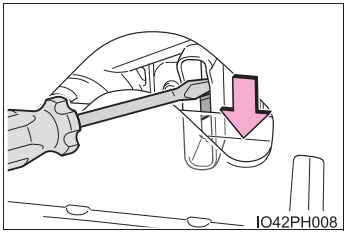
バックドアのロックを内側から解除することができます。

1 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



2 レバーを押す



警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行する前に

●走行前にバックドアが閉まっていることを確認してください。
完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが開いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■走行中の留意事項

●走行中はバックドアを閉めてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■バックドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

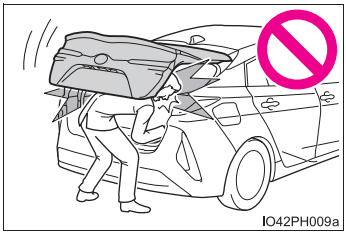
●バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。

●バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

●人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

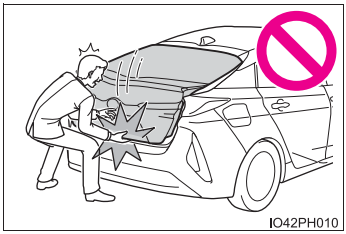
●強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

●半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。
特に傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。


IO42PH009a

●バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

●バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアハンドルを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。


IO42PH010

●バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

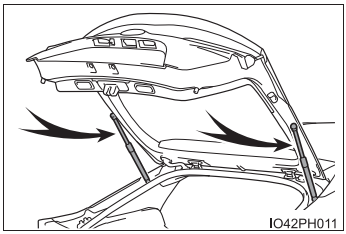
●バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

⚠注意

■ダンパーステーについて

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない
- ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない



スマートエントリー&スタートシステム

電子キーをポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。必ず運転者が携帯してください。

- ドアを解錠・施錠する（→ P. 323）
- バックドアを解錠・施錠する（→ P. 328）
- 充電リッドを解錠する（→ P. 113）
- 普通充電コネクターを施錠・解錠する（→ P. 117）
- ハイブリッドシステムを始動する（→ P. 374）

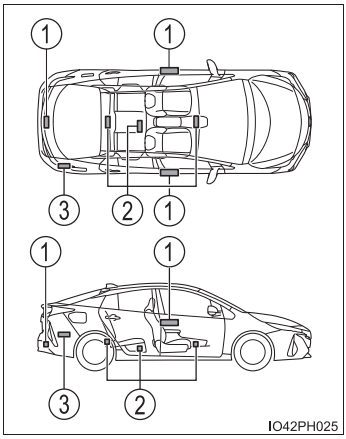
知識

■アンテナの位置

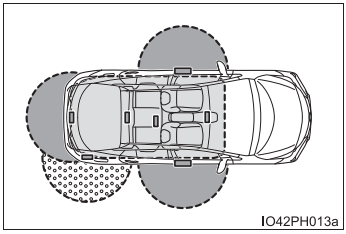
① 車外アンテナ

② 車室内アンテナ

③ 充電リッドアンテナ



■作動範囲（電子キーの検知エリア）



：ドアの施錠・解錠時

フロント席ドアハンドル･バックドアオープンスイッチから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

：充電リッドの解錠時、普通充電コネクターの施錠・解錠時

充電リッドから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。

：ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のとおりです。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と 5 秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー＆スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠してください。
車内から“ポーン、ポーン”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態でパワースイッチをアクセサリーモードにした（アクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた）	パワースイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉めてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「スマートエントリー＆スタートシステム故障 取扱書を確認」が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両の補機バッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

●次の状況では、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。

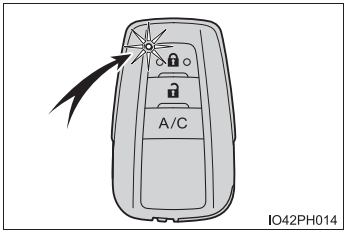
・車の外約 2m 以内に電子キーを 10 分以上放置した
・5 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった

●14 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■電子キーの節電モードについて

節電モードに設定すると、電子キーによる電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの 🔒 を押しながら、🔓 を2回押し、電子キーのインジケーターが 4 回光ることを確認してください。



節電モード中は、スマートエントリー＆スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→ P. 755）

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき

・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
・他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

●充電器など電子機器の近くにキーを置いた場合

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。

・ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にある
・ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチの切りかえ時に、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・ドアポケット・またはグローブボックス内などに置かれている

●インストルメントパネル上面やドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも解錠・施錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外は解錠しません。

●車外でも電子キーがドアガラスに近付いていると、ハイブリッドシステムを始動できることがあります。

●電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが解錠・施錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠します）

●ワイヤレスリモコンなどでの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー＆スタートシステムでの解錠ができないことがあります。（ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できます）

●手袋を着用していると解錠・施錠しないことがあります。

●電子キーを携帯したまま洗車をすると、水がドアハンドルにかかったときに施錠・解錠をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をしてください。

・キーを車両から 2m 以上離れた場所に置く（盗難に注意し保管してください）
・キーを節電モードに設定してスマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→ P. 336）

●洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。全てのドアを施錠すると警報は止まります。

●ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着すると、センサーが反応しないことがあります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。

●すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。

■長期間運転しないとき

●盗難防止のため、電子キーを車両から 2m 以上離しておいてください。

●あらかじめスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることができます。（→ P. 780）

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります）

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき

●ドアの施錠・解錠：→ P. 755

●ハイブリッドシステムの始動：→ P. 756

■カスタマイズ機能

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 780）

■カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたとき

●ドアの解錠・施錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの解錠・施錠ができます。（→ P. 323, 755）

●充電リッドの解錠：→ P. 115

●普通充電コネクターの施錠・解錠：→ P. 119

●ハイブリッドシステムの始動・パワースイッチのモード切りかえ：→ P. 756

●ハイブリッドシステムの停止：→ P. 375

警告

■**電波がおよぼす影響について（スマートエントリー＆スタートシステムアンテナ）**

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ（→ P. 334）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

フロントシート

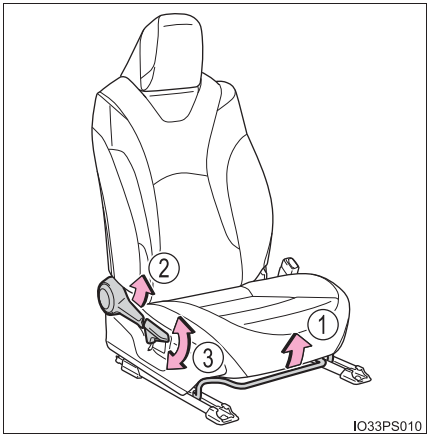
調整のしかた

▶ マニュアルシート装着車

① 前後位置調整

② リクライニング調整

③ シート全体の上下調整
（運転席のみ）



▶ 運転席パワーシート装着車

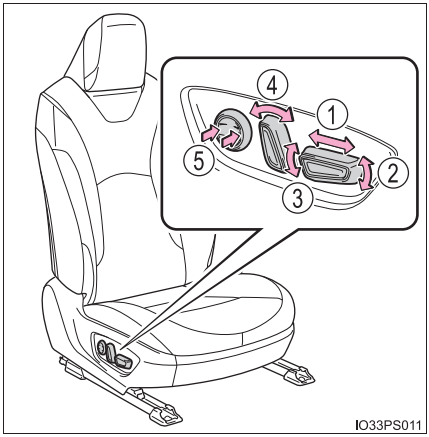
① 前後位置調整

② クッション前端の上下調整

③ シート全体の上下調整

④ リクライニング調整

⑤ 腰部硬さ調整



知識

■シートを調整するとき

ヘッドレストが天井にあたらないよう注意してください。

警告

■シートを調整するとき

●同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■リクライニング調整について

●背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●マニュアルシート装着車は、シート調整後はきちんと固定されていることを確認してください。

リヤシート

背もたれを倒して、ラゲージスペースを広げることができます。

背もたれを倒す前に

1 車を安全な場所に駐車する

しっかりとパーキングブレーキをかけ（→ P. 387）、シフトポジションを P にします。（→ P. 381）

2 フロントシートの位置・背もたれの角度を調整する（→ P. 341）

フロントシートの位置によっては、背もたれが後方に倒れていると、リヤシートの操作時にあたる場合があります。

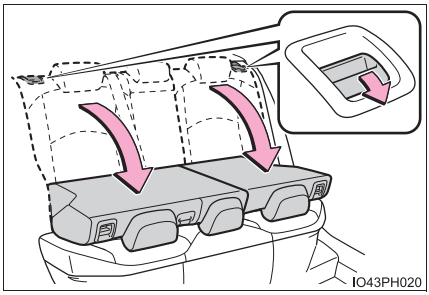
3 リヤシートのヘッドレストを下げる（→ P. 345）

4 リヤシートのアームレストを引き出している場合は、格納する（→ P. 646）

助手席側のシートのみを操作する場合、この手順は不要です。

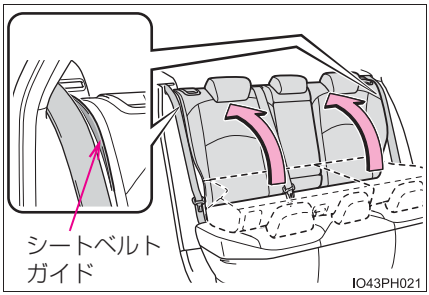
背もたれを倒す

ロック解除レバーを引きながら、背もたれを倒す



背もたれをもとにもどす

シートベルトをシートベルトガイドにかけて、シートとボデーのあいだに挟まれないように操作してください。また、背もたれがロックされるまで確実にもどしてください。



警告

■背もたれを前倒しするとき

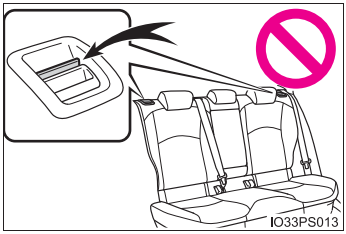
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中に前倒しをしない
- 平坦な場所で確実にパーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにする
- 倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない
- お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する
- シートに人が乗っている状態で背もたれを操作しない
- 操作中は、可動部や結合部に手足を挟まないように注意する
- お子さまに操作させない

■背もたれをもとの位置にもどしたあとは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 背もたれを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する
  背もたれが確実に固定されていないときは、レバーに赤色が見えます。赤色が見えていないことを確認してください。



- シートベルトがねじれたり、挟み込まれていないか確認する

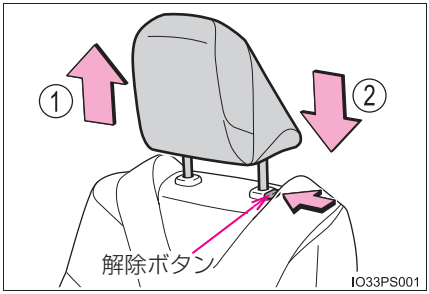
ヘッドレスト

フロントシート

① 上げる

② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



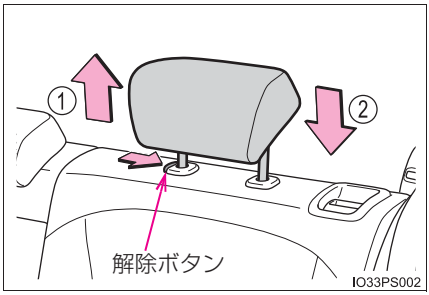
リヤシート

■ 左右席

① 上げる

② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

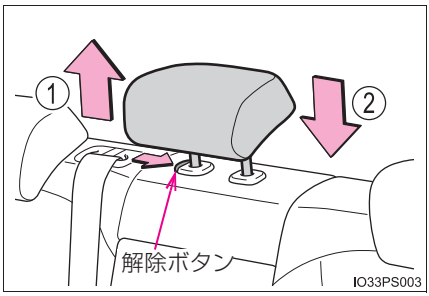


■ 中央席

① 上げる

② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



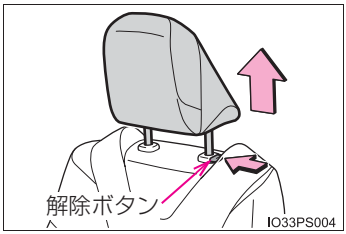
知識

■ヘッドレストを取りはずすとき

▶フロント席・リヤ中央席

解除ボタンを押しながら取りはずします。

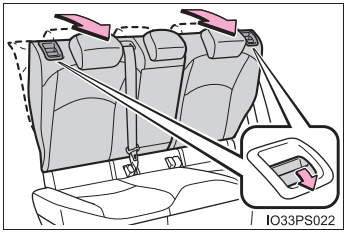
イラストはフロントシートで代表しています。



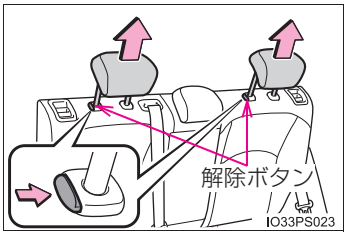
▶リヤ外側席

1 ロック解除レバーを引きながら、背もたれを倒す

ヘッドレストをはずすことができる位置まで前に倒してください。



2 解除ボタンを押しながら、ヘッドレストをはずす



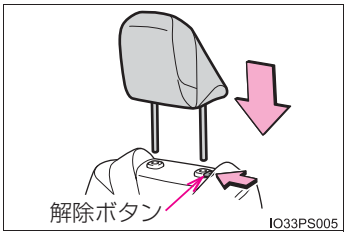
■ヘッドレストを取り付けるとき

▶フロント席・リヤ中央席

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作してください。

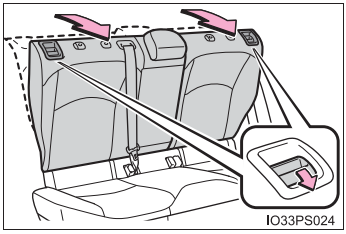
イラストはフロントシートで代表しています。



▶リヤ外側席

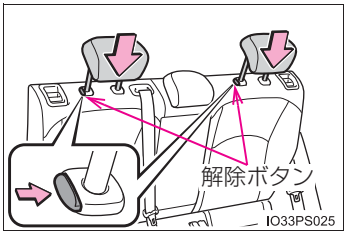
1 ロック解除レバーを引きながら、背もたれを倒す

ヘッドレストを取り付けることができる位置まで前に倒してください。



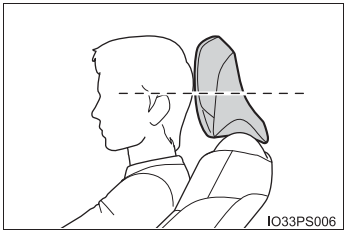
2 ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作してください。



■ヘッドレストの高さについて（フロントシート）

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



■リヤシートのヘッドレストの使用について

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

警告

■ヘッドレストについて

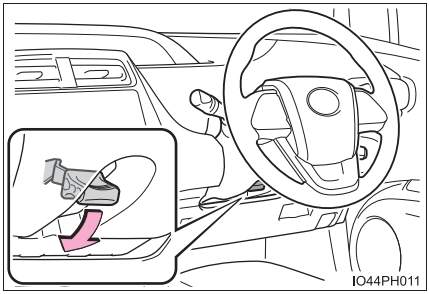
次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ●ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ●ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ●ヘッドレストをはずしたまま走行しない

ハンドル

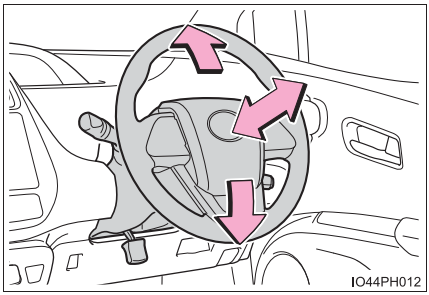
調整のしかた

1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



2 ハンドルを上下・前後に動かし、適切な位置にする

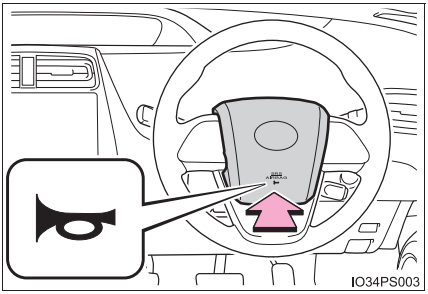
位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



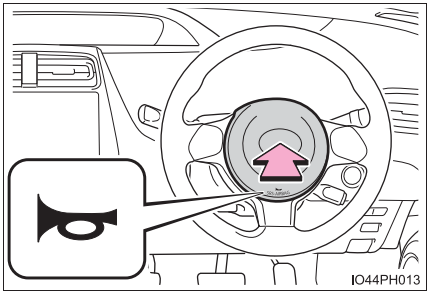
ホーン（警音器）

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。

▶ GR SPORT を除く



▶ GR SPORT



警告

■**走行中の警告**

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**ハンドル位置を調整したあとは**

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だと、ハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。

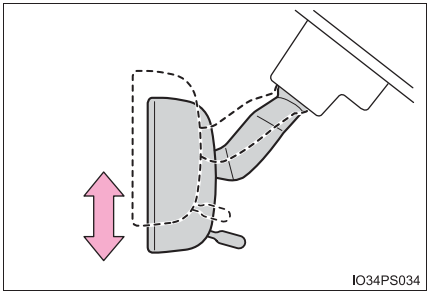
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



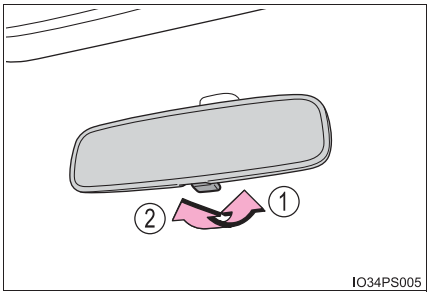
防眩機能

▶ 手動防眩ミラー装着車

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。

① 通常使用時

② 防眩時



▶ 自動防眩ミラー装着車

後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

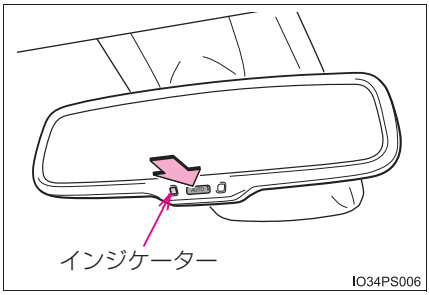
自動防眩機能の切りかえ

ON ／ OFF

ON のときはインジケーターが点灯します。

パワースイッチを ON モードにしたときは、ミラーは常に自動防眩機能が ON になっています。

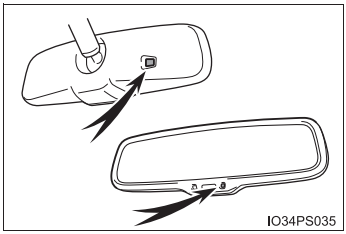
ボタンを押すとOFFになりインジケーターが消灯します。



知識

■ センサーの誤作動防止（自動防眩ミラー装着車）

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



警告

走行中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

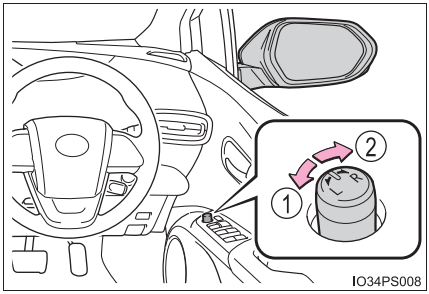
ドアミラー

調整のしかた

1 調整するミラーを選ぶ

① 左

② 右



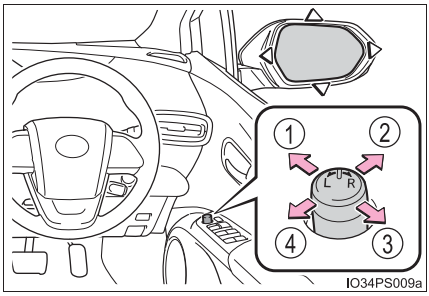
2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを操作する

① 上

② 右

③ 下

④ 左

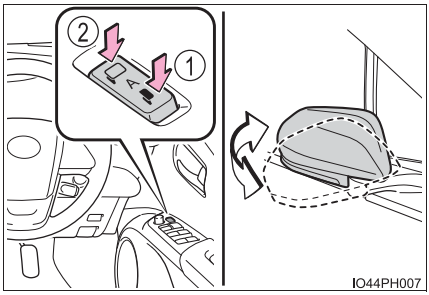


ドアミラーを格納・復帰する

① ミラーを格納する

② ミラーをもとの位置にもどす

スイッチを中立の位置（A）にするとオート作動に切りかわり、ドアの施錠・解錠、パワースイッチの操作と連動して作動します。



知識

■鏡面調整の作動条件

パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのとき

■ミラーが曇ったとき（ミラーヒーター装着車）

リヤウインドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。（→ P. 598）

■寒冷時に「オート作動」で使用するとき

寒冷時に「オート作動」で使用しているとき、ドアミラーが凍結すると、自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、格納スイッチを押すか、手で動かしてください。

■カスタマイズ機能

オート電動格納の設定を変更できます。（カスタマイズ一覧：→ P. 780）

警告

■走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ミラーが動いているとき

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ミラーヒーターが作動しているとき（ミラーヒーター装着車）

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

パワーウインドウ

開閉のしかた

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。

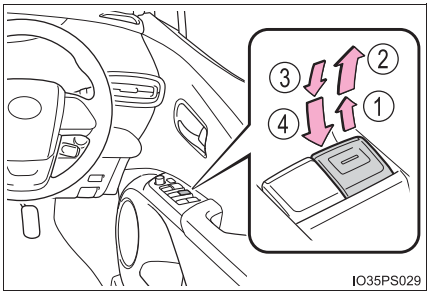
① 閉める

② 自動全閉 ※

③ 開ける

④ 自動全開 ※

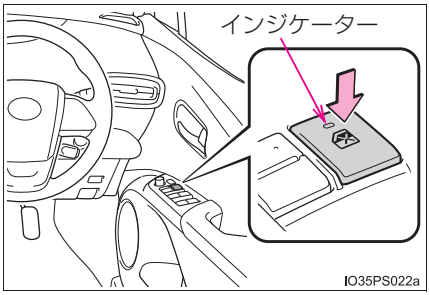
※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。



ウインドウロックスイッチ

スイッチを押すと、インジケーターが点灯し、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



知識

■ **作動条件**

パワースイッチが ON モードのとき

■ **ハイブリッドシステム停止後の作動**

パワースイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

■ドアガラスを開閉することができないとき

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウインドウスイッチで、次の操作を行ってください。

●車を停止し、パワースイッチを ON モードの状態で、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける、または「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。

●上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

1 パワースイッチを ON モードにする

2 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする

3 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 6 秒以上引き続ける

4 パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける

5 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で約 4 秒以上押し続ける

6 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ドアロック連動ドアガラス開閉機能

●メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。※ （→ P. 755）

●ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。※ （→ P. 323）

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

■補機バッテリーをはずしたとき

ウインドウロックスイッチが OFF になるため、補機バッテリーを接続したあと、再度ウインドウロックスイッチを ON にする必要があります。

■窓開警告機能

パワースイッチが OFF でドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■カスタマイズ機能

ドアロック連動ドアガラス開閉機能などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 780）

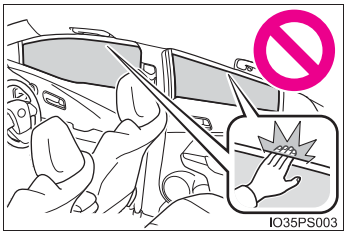
警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ドアガラスを開閉するとき

●運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。（→ P. 354）

●ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



●ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

●車から離れるときはパワースイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

■巻き込み防止機能

- 巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。
- 巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などが巻き込まれないように注意してください。

運転 5

5-1. 運転にあたって

運転にあたって 360
荷物を積むときの注意..... 372

5-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション）スイッチ 374
トランスミッション..... 380
方向指示レバー 386
パーキングブレーキ..... 387

5-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ 388
AHB（オートマチックハイビーム）..... 392
AHS（アダプティブハイビームシステム）..... 396
LED イルミネーションビーム 401
フォグランプスイッチ..... 402
ワイパー & ウォッシャー..... 405

5-4. 給油のしかた

給油口の開け方 409

5-5. 運転支援装置について

Toyota Safety Sense.....414
PCS（プリクラッシュセーフティ）.....420
LTA（レーントレーシングアシスト）.....430
RSA（ロードサインアシスト）.....442
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）.....447
先行車発進告知機能.....464
ITS Connect.....467
ドライブモードセレクトスイッチ.....477
BSM（ブラインドスポットモニター）.....479
クリアランスソナー.....492
パーキングサポートブレーキ.....503
プラスサポート（販売店装着オプション）.....513
S-IPA（シンプルインテリジェントパーキングアシスト）.....518
運転を補助する装置.....551
パノラミックビューモニター.....557

5-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転.....589

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

乗車前の確認事項

充電ケーブル、またはヴィークルパワーコネクタが車両に接続されていないことを確認する（→ P. 145, 208）

ハイブリッドシステムを始動する

→ P. 374

発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトポジションを D にする（→ P. 380）

シフトポジション表示灯が D であることをメーターで確認します。

2 パーキングブレーキを解除する（→ P. 387）

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

停車する

1 シフトポジションは D のまま、ブレーキペダルを踏む

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトポジションを P にします。（→ P. 381）

駐車する

1 車を完全に停止させる

2 パーキングブレーキをかける（→ P. 387）

3 シフトポジションを P にする（→ P. 381）

シフトポジション表示灯が P であることをメーターで確認します。

4 パワースイッチを押して、ハイブリッドシステムを停止する

5 ブレーキペダルからゆっくり足を離す

6 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め ※ を使用してください。

※ 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

上り坂の発進のしかた

1 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトポジションを D にする

2 ブレーキペダルから足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏む

3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

急発進および後退速度の抑制（ドライブスタートコントロール）

■ 急発進の抑制制御

アクセルペダルを踏み込んだまま、次のようにシフトポジションを切りかえたとき、ハイブリッドシステム出力を抑制することがあります。

● R に切りかえたとき ※

● PまたはRから、Dなどの前進シフトポジションに切りかえたとき ※

この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

※ 状況によっては操作できない場合があります。

■ 後退速度の抑制制御

後退時の速度が所定以下となるようにハイブリッドシステムの出力を抑制 ※ します。

後退速度の抑制制御が作動しているときは、マルチインフォメーションディスプレイに「速度抑制中」が表示されます。

※ 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります。

知識

■上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。（→ P. 551）

■電気・燃料を節約する走り方

この車のシステム特性を理解し、ハイブリッドシステムの各機能を活用してください。また、急加速を控えるなど、通常のガソリン車と同様の心がけも必要です。「プラグインハイブリッド車運転のアドバイス」（→ P. 91）を参照してください。

■雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■エコアクセルガイド（→ P. 280）

エコアクセルガイドの表示を参考に走行することで、環境に配慮した走行がより容易に行えます。また、エコアクセルガイドを活用することで、エコジャッジの評価も高くなりやすくなります。

- 発進時は：
  エコアクセルガイドの範囲をこえないように、アクセルペダルをやさしく踏み込み、目的の速度まで加速します。必要以上の急加速を控えることで、エコ発進の評価が高くなります。
- 走行中は：
  目的の速度まで加速したらアクセルペダルをもどし、エコアクセルガイドの範囲を目安にして、安定した速度で走行します。エコアクセルガイドの範囲内に収まるように走行し続けると、安定走行の評価が高くなります。
- 停車時は：
  停車時は、早めにアクセルペダルをもどすことで、エコ停車の評価が高くなります。

■ハイブリッドシステム出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

- アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。
- ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→ P. 733）

■ ドライブスタートコントロールについて

●TRC の作動を停止（→ P. 553）すると、急発進の抑制制御も停止※ します。急発進の抑制制御が作動してぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合は、TRC の作動を停止してください。（→ P. 553）

※ 後退速度の抑制制御は作動します。

●タイヤがスリップ（空転）していると、後退速度の抑制制御が作動することがあります。

●後退速度の抑制制御の ON（作動）／ OFF（非作動）を切りかえることができます。（→ P. 780）

・パワースイッチを ON モードにしたときは、後退速度の抑制制御は常に ON（作動）になっています。
・後退速度の抑制制御を OFF（非作動）にしても、急発進の抑制制御は作動します。

■ 運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーや樹脂バックドア、アルミボデー部に取り付けることはできません。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ハイブリッド車は電気モーターでの走行時にエンジン音がしないため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が作動していても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。

●枯れ葉や紙くず、布きれなどの可燃物の上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●通常走行時は、走行中にハイブリッドシステムを停止しないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 712を参照してください。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転するとき

- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。（→ P. 381）
- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
- 渡河などの水中走行はしないでください。
  電装品のショートやハイブリッドシステムの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。

■すべりやすい路面を運転するとき

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シフトポジションを変更するとき

- 前進側のシフトポジションのまま惰性で後退したり、R のまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
  思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、P ポジションスイッチを押さないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトポジションを R にしないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトポジションを前進側のシフトポジションにしないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトポジションをNにすると、ハイブリッドシステムの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
  シフトポジションが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
  また、シフトポジションが N のときは、意図するシフトポジションに切りかえることができないおそれがあります。

  シフトポジションの変更後は、メーター内のシフトポジション表示灯で現在のシフトポジションを必ず確認してください。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■停車するとき

●不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。
シフトポジションが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■駐車するとき

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にし、ハイブリッドシステムを停止し、施錠してください。
READY インジケーターが点灯しているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトポジションを P にした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●READY インジケーターが点灯しているとき、またはハイブリッドシステム停止直後は、排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■仮眠するとき

必ずハイブリッドシステムを停止してください。
READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やハイブリッドシステムの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるとき

●ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。

●電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりもブレーキペダルを強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

●ブレーキシステムは２つ以上の独立したシステムで構成されており、1 つの油圧システムが故障しても、残りは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

⚠注意

■運転しているとき

●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。

●坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけシフトポジションをＰにしてください。パーキングブレーキをかけシフトポジションをＰにしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

●パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

●ハンドルがとられる

●異常な音や振動がある

●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 736 をご覧ください。

■車体の損傷を防ぐために（GR SPORT）

大きな段差や輪止めなどがある場所、踏切、悪路では、十分に注意して走行してください。
標準モデルよりも最低地上高が低くなっているため、路面の状況によっては、バンパーや車両の下まわりなどを損傷するおそれがあります。

⚠注意

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- ●エンストする
- ●電装品がショートする
- ●水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ●ブレーキの効き具合
- ●エンジン・トランスミッション・トランスアクスルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- ●各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

冠水によりシフト制御システムが損傷すると、シフトポジションが P に切りかえられない、または P から他のシフトポジションに切りかえられなくなる可能性があります。P から他のシフトポジションに切りかえられないときは、前輪が固定されているため、けん引での移動はできません。（→ P. 715）

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

●燃料が入った容器

●スプレー缶

■荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。

●シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。

●後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。

●ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。

●次の場所には荷物を積まないでください。

・運転席足元
・助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
・トノカバー
・インストルメントパネル
・ダッシュボード

●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

警告

■荷物の重量・荷重のかけ方について

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。

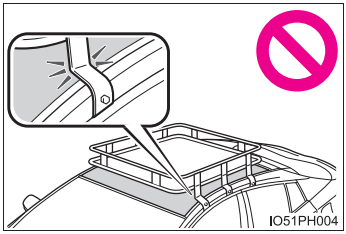
これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

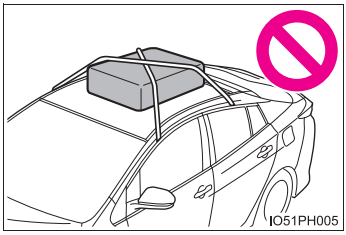
■ルーフに荷物を積むとき（ソーラー充電システム装着車）

次のことをお守りください。お守りいただかないと、ソーラールーフが破損したり、ルーフラックが脱落したりするおそれがあります。

●ソーラールーフにあたるようなルーフラックは装着しない



●ソーラールーフに直接荷物を積まない



パワー（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、ハイブリッドシステムの始動またはパワースイッチのモードを切りかえることができます。

ハイブリッドシステムの始動のしかた

1 充電ケーブル、またはヴィークルパワーコネクタが車両に接続されていないことを確認する（→ P. 145, 208）

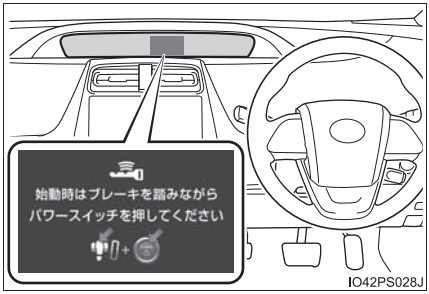
2 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

3 ブレーキペダルをしっかり踏む

マルチインフォメーションディスプレイに が表示されます。

表示されないと、ハイブリッドシステムは始動しません。

シフトポジションが N と表示されているときは、ハイブリッドシステムを始動できません。ハイブリッドシステムの始動時は、シフトポジションを P にしてください。（→ P. 381）

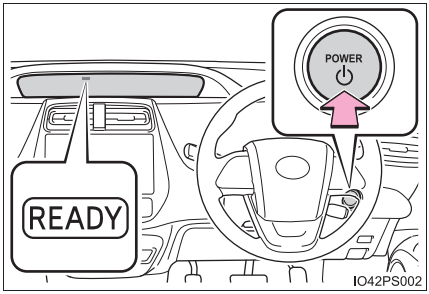


4 パワースイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

READYインジケーターが点灯すれば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

READY インジケーターが点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。



パワースイッチのどのモードからでもハイブリッドシステムを始動できます。

5 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが点滅から点灯にかわり、ブザーが鳴れば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

READY インジケーターが消灯している状態では走行できません。

READY インジケーターが点灯していれば、ガソリンエンジンが停止していても走行できます。（車両の状態に応じて、ガソリンエンジンは自動で始動・停止します）

プラスサポートをご使用の方は、P. 513 も併せて参照してください。

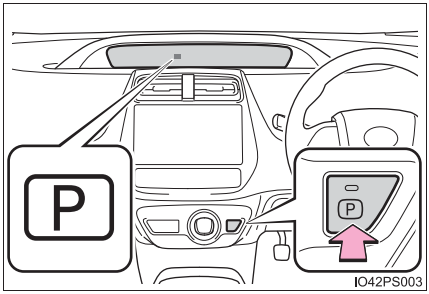
ハイブリッドシステムの停止のしかた

1 車両を完全に停止させる

2 パーキングブレーキをかける（→ P. 387）

3 P ポジションスイッチを押す（→ P. 381）

シフトポジション表示灯が P であることをメーターで確認します。（→ P. 380）



4 パワースイッチを押す

ハイブリッドシステムが停止します。

5 ブレーキペダルから足を離してメーターの表示が消灯していることを確認する

ハイブリッドシステム停止後、時間の経過に従って、段階的にメーター表示が消えます。（→ P. 378）

パワースイッチの切りかえ

ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）

① OFF

非常点滅灯が使用できます。

② アクセサリーモード

アクセサリーソケットなどの電装品が使用できます。

メインディスプレイに「アクセサリー」が表示されます。

③ ON モード

すべての電装品が使用できます。

メインディスプレイに「イグニッション ON」が表示されます。

知識

■ **自動電源 OFF 機能**

シフトポジションが P にあるとき、20 分以上アクセサリーモードか 1 時間以上 ON モード（ハイブリッドシステムが作動していない状態）にしたままにしておくと、パワースイッチが自動で OFF になります。
ただし、自動電源 OFF 機能は、補機バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。ハイブリッドシステムが作動していないときは、パワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■ **ハイブリッド車特有の音と振動について**

→ P. 82

■ **電子キーの電池の消耗について**

→ P. 320

■外気温が低いとき

●ハイブリッドシステム始動時に READY インジケーターの点滅時間が長くなることがあります。READY インジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。

●極寒の環境などで駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合（およそ−30℃以下）、ハイブリッドシステムが始動できなくなることがあります。
その場合は気温の上昇を待つなど、駆動用電池の温度が上がってから再度始動操作をしてください。

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 337

■ご留意いただきたいこと

→ P. 338

■ハイブリッドシステムが始動しないとき

●イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→ P. 66）
トヨタ販売店へご連絡ください。

●車両に充電ケーブルが接続されているときは、ハイブリッドシステムを始動することはできません。（→ P. 142）

●始動操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されている場合は、画面の指示に従ってください。

■万一、READY インジケーターが点灯しないとき

正しい手順で始動操作を行っても READY インジケーターが点灯しない場合は、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

■ハイブリッドシステムに異常があるとき

→ P. 85

■電子キーの電池が切れたとき

→ P. 692

■パワースイッチの操作について

●スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切りかえやハイブリッドシステムの始動ができない場合があります。

●パワースイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、ハイブリッドシステムが始動しない場合があります。パワースイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■自動 P ポジション切りかえ機能について

→ P. 383

■シフト制御システムについて

シフト制御システムが故障すると、パワースイッチを操作して OFF にしようとしてもアクセサリーモードになることがあります。その場合は、パーキングブレーキをかけてからパワースイッチを操作すると OFF にすることができます。システムが故障した場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■メーター表示について

パワースイッチを OFF にすると、各表示が次のように消えます。

●約 2 秒後にシフトポジション表示灯が消えます。

●約 30 秒後にマルチインフォメーションディスプレイや時計などが消えます。（30 秒間経過する前でも、ドアを施錠すると各表示はすぐに消えます）

■カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたとき

→ P. 756

⚠警告

■ハイブリッドシステムを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■緊急時のハイブリッドシステム停止方法

●走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したい場合には、パワースイッチを2秒以上押し続けるか、素早く3回以上連続で押してください。（→P. 712）ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチにふれないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

●走行中にパワースイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。

●走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したあと、走行中にハイブリッドシステムを再始動させる場合は、パワースイッチを押してください。停車後にハイブリッドシステムを再始動させる場合は、シフトポジションを P にし、パワースイッチを押してください。

⚠注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

●ハイブリッドシステム停止中は、パワースイッチをアクセサリーモードまたはON モードにしたまま長時間放置しないでください。

●ハイブリッドシステム停止中に、メインディスプレイの「アクセサリー」・「イグニッション ON」の表示、または走行距離表示（→ P. 263）が消灯していない場合、パワースイッチが OFF になっていません。パワースイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

■ハイブリッドシステムを始動するとき

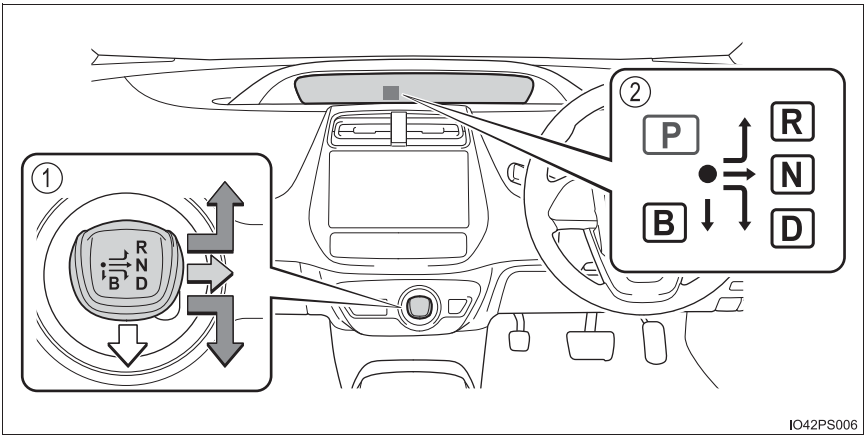
もしハイブリッドシステムが始動しにくい場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■パワースイッチの操作について

パワースイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

トランスミッション

シフトレバーの動かし方



① シフトレバー

シフトレバーは、ゆっくり確実に操作してください。
シフトレバーを操作したあとは、シフトレバーから手を離してください。シフトレバーが●の位置に自然にもどります。

D または R に切りかえるときは、ゲートにそってそのまま操作します。

N に切りかえるときは、右にスライドさせ、しばらく保持します。

B へ切りかえるときは、下側に操作します。
シフトポジションが D のときのみ、B に切りかえが可能です。

P から N・D・R へ、または D から R、および R から D へ切りかえるときは、ブレーキペダルを踏み、車が完全に停止している状態で行ってください。

② シフトポジション表示灯

現在のシフトポジションが強調表示されます。

D・B 以外のときは、シフトポジション表示灯の B 方向への矢印と B 表示が消灯します。

シフトレバーを操作したあとは、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。

シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはハイブリッドシステム始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ※
B	急な下り坂など、強いエンジンブレーキが必要なとき

※ 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D を使用してください。

走行モードの選択

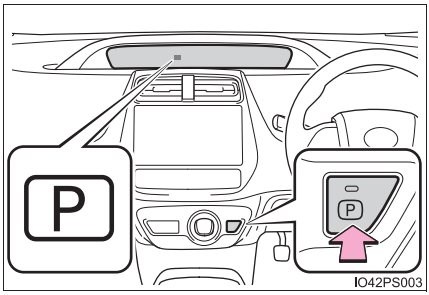
→ P. 477

P ポジションスイッチ

■ シフトポジションを P に切りかえる

車を完全に停止させ、パーキングブレーキをかけ、P ポジションスイッチを押す

シフトポジションを P にすると、スイッチの作動表示灯が点灯します。シフトポジション表示灯で、P の位置が強調表示されていることを必ず確認してください。



■ P から他のシフトポジションに切りかえる

- ブレーキペダルをしっかり踏みながら、シフトレバーを操作します。（ブレーキペダルを踏まずにシフトレバーを操作すると、ブザーが鳴りシフトポジションの切りかえができません）
- 操作後は、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。
- P から直接、シフトポジションを B に切りかえることはできません。

知識

■シフトポジションについて

●パワースイッチが OFF のときはシフトポジションの切りかえはできません。

●パワースイッチが ON モードで、READY インジケーターが消灯しているときは、N にのみ切りかえが可能です。シフトレバーを操作して D または R の位置で保持したときも N に切りかわります。

●READY インジケーターが点灯中は、P から、D・N・R を選択できます。

●READYインジケーターが点滅しているときは、シフトレバーを操作してもPから他のシフトポジションに切りかえることはできません。READY インジケーターが点滅から点灯にかわってから、再度シフトレバーを操作してください。

●D 以外から直接、B に切りかえることはできません。

また、次に示す操作をするとブザーが鳴り、シフトポジションの切りかえが無効になるときや、自動的に N に切りかわる場合があります。その場合は適切なシフトポジションに切りかえてください。

●シフトポジションの切りかえを無効にするとき

・P からブレーキペダルを踏まずにシフトレバーを操作したとき
・停車中に P または N からアクセルペダルを踏んだままシフトレバーを操作したとき
・P または N から、B を選択したとき
・車両に充電ケーブルを接続した状態でシフトレバーを操作したとき

●自動的にシフトポジションが N に切りかわるとき

・走行中に、P ポジションスイッチを押したとき ※1
・車両が前進しているときに R を選択したとき ※2
・車両が後退しているときに D を選択したとき ※3
・R から B を選択したとき

※1 極低速走行時は、P に切りかわることがあります。

※2 低速走行時は、R に切りかわることがあります。

※3 低速走行時は、D に切りかわることがあります。

●一定以上の速度で走行中にNを選択した場合は、シフトレバーをNの位置で保持しなくても N に切りかわります。この場合はブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに確認メッセージが表示され、N にかわったことを運転者に知らせます。

■リバース警告ブザー

シフトポジションを R にするとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■ ドライブスタートコントロールについて

→ P. 361

■ 自動 P ポジション切りかえ機能について

次のときは、自動的にシフトポジションが P に切りかわります。

●パワースイッチが ON モード、かつシフトポジションが P 以外の状態で、車両を停止させパワースイッチを押したとき（シフトポジションが P に切りかわったあと、パワースイッチが OFF になります）※

●シフトポジションが P 以外の状態で、万が一、運転席ドアを開け、次の条件をすべて満たしているとき

・パワースイッチが ON モード
・運転席シートベルトを着用していない
・ブレーキペダルを踏んでいない

シフトポジションが P に切りかわったあと、車両を発進させるときは、シフトレバーを操作してください。

※ 停車直前など、極低速走行時にパワースイッチを押すと、自動的にシフトポジションが P に切りかわる場合があります。必ず車両が完全に停止している状態でパワースイッチを押してください。

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）の制御停車中に次を検出したときは、自動的にシフトポジションが P に切りかわる場合があります。

●運転席シートベルトを着用していない

●運転席ドアが開いた

●車両が停止したあと約 3 分経過した

■ シフトポジションが P から切りかわらない場合は

補機バッテリーあがりの可能性があります。補機バッテリーがあがってしまった場合の対処法は、P. 759 を参照してください。

■ エンジンブレーキについて

●高速走行時は、通常の車にくらべてエンジンブレーキによる減速感が小さくなります。

●強いエンジンブレーキが必要な場合は、シフトポジションを B にしてください。B のまま走行し続けると、燃費の悪化につながります。通常は D で走行してください。

■ 補機バッテリーを脱着したとき

→ P. 762

■シフト操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されたとき

誤操作やシステムの状況等によりシフトポジションが切りかわらない、またはシフト操作が無効にされたときには、切りかえができない原因や、正しい操作方法などに関するメッセージが、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。その場合は、画面の指示に従って操作し直してください。

警告

■すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が、横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

■シフトレバー／ P ポジションスイッチについて

- シフトレバーのノブを取りはずしたり、純正品以外のノブを取り付けたりしないでください。また、ものをぶら下げたりしないでください。シフトレバーが定位置にもどらなくなって、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が動いているときは、P ポジションスイッチにふれないでください。
  停車直前など、極低速走行中に P ポジションスイッチを押すと、シフトポジションが P に切りかわることがあるため、車が急停止して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 意図せぬシフトポジションの切りかわりを防止するため、操作時以外はシフトレバーや P ポジションスイッチにふれないでください。

⚠注意

■駆動用電池の充電について

シフトポジションがNでは、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、Nで長時間放置すると駆動用電池の残量が低下し、走行不能になるおそれがあります。

■シフト制御システムの異常が考えられるとき

次のような状態になったときは、シフト制御システムの異常が考えられます。安全で平坦な場所に停車し、パーキングブレーキをかけて、トヨタ販売店にご連絡ください。

- ●マルチインフォメーションディスプレイにシフト制御システムに関する警告メッセージが表示されたとき
- ●シフトポジションが選択されていない表示状態が、数秒以上続いているとき

■シフトポジションの切りかえ操作について

PからP以外、およびP以外からPへの切りかえ操作を短時間にくり返し行わないでください。そのような操作を行うと、システム保護のため、一定時間Pからの切りかえができなくなることがあります。その場合は、約20秒待ってから操作し直してください。

■車を降りるとき（運転席のみ）

シフトポジション表示灯がPであることと、パーキングブレーキがかかっていることを確認してから、ドアを開け、降車してください。

方向指示レバー

操作のしかた

① 左折

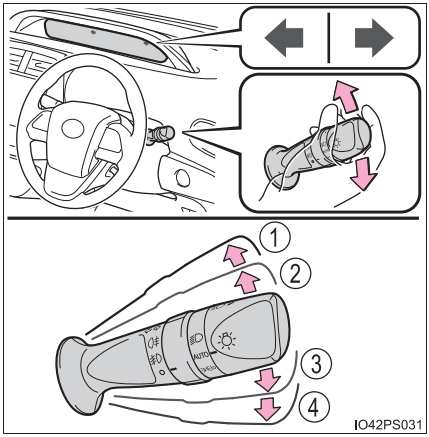
② 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで、左側方向指示灯が点滅します。

③ 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで、右側方向指示灯が点滅します。

④ 右折



知識

■**作動条件**

パワースイッチが ON モードのとき

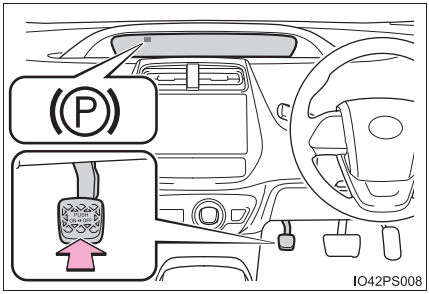
■**表示灯の点滅が異常に速くなったとき**

各方向指示灯が正常に点滅しているか、確認してください。

パーキングブレーキ

操作のしかた

パーキングブレーキをかけるには、右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングペダルをいっぱいまで踏み込む（再度踏み込むと解除される）



知識

■駐車するとき

→ P. 361

■パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー

パーキングブレーキを解除しないまま車を発進させ、車速が約 5km/h 以上になると、警告ブザーが鳴ります。

■冬季のパーキングブレーキの使用について

→ P. 590

注意

■走行前の注意

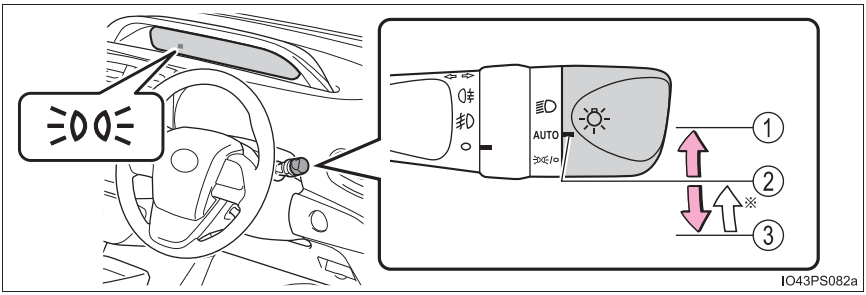
パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯・消灯できます。

点灯のしかた

次のように スイッチを操作すると、ランプが点灯します。



※ スイッチを③ の位置へ操作し手を離すと、自動的に② AUTO の位置へ戻ります。

	点灯状態	
ポジション	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
①	ヘッドランプ・スモールランプが点灯	
② AUTO ※1	ヘッドランプ・スモールランプが消灯	ヘッドランプ・スモールランプが点灯
③ ※1	スモールランプが点灯	スモールランプが点灯 ※2

上記の表のスモールランプは、薄暮灯★・車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプを意味します。

※1 操作するたびに、② AUTO による点灯状態と③ による点灯状態が切りかわります。

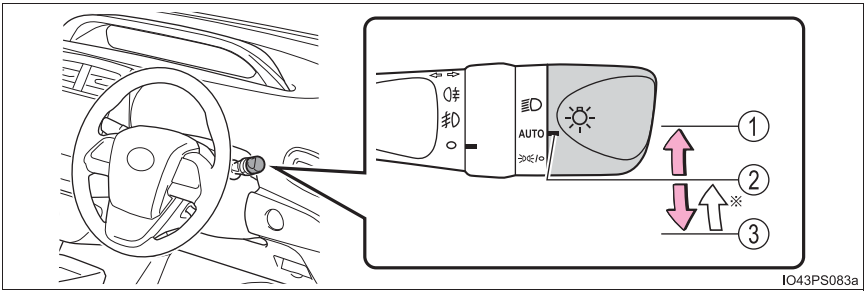
※2 停車中のみ点灯可能。車両を発進させると② AUTO による点灯状態に切りかわります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

消灯のしかた

スイッチを③ の位置で 1 秒以上保持すると、次のように作動します。

消灯中に① か③ の位置へ操作すると消灯状態が解除されます。



※ スイッチを③ の位置へ操作し手を離すと、自動的に② AUTO の位置へ戻ります。

	点灯状態	
ポジション	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
③	ヘッドランプ・スモールランプが消灯	ヘッドランプ・スモールランプが消灯 ※

※ 停車中のみ消灯可能。車両を発進させると消灯状態が解除されます。

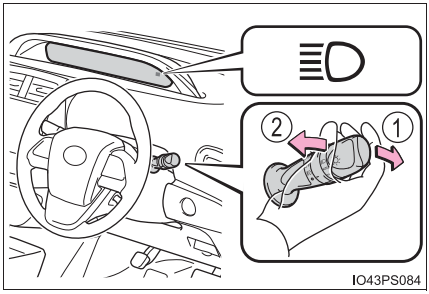
ハイビームにする

① ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。



知識

■AUTO モードの作動条件

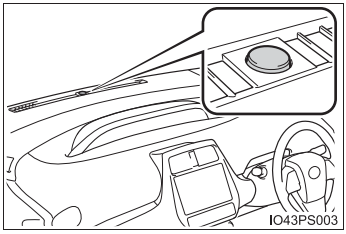
パワースイッチが ON モードのとき

■自動で点灯／消灯する明るさについて

周囲の明るさに応じて自動的にランプが点灯／消灯します。日中走行中でも周囲の環境や明るさによって、ヘッドランプが自動点灯する場合があります。

■ライトセンサー

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。
また、エアコン作動のさまたげとなります。



■ランプ消し忘れ防止機能

パワースイッチをアクセサリーモードまたは OFF にして運転席ドアを開けるとすべてのランプが自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、パワースイッチを ON モードにするか、一度ランプスイッチを AUTO にしてから または の位置にします。

■ランプ消し忘れ警告ブザー

パワースイッチが OFF で運転席ドアを開けたとき、ヘッドランプ・尾灯が点灯したままの状態だと、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数、荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■節電機能

車両のバッテリーあがりを防止するため、パワースイッチが OFF の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

パワースイッチを ON モードにすると節電機能は解除されます。

次のいずれかを行った場合、節電機能はいったん解除され、再度節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

- ランプスイッチを操作したとき
- ドアを開閉したとき

■マルチインフォメーションディスプレイに「ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください」が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P. 780）

⚠注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

AHB（オートマチックハイビーム）★

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラスに設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

警告

■**安全にお使いいただくために**

オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

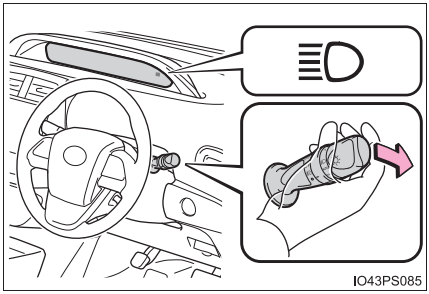
■**オートマチックハイビームの誤操作を防ぐために**

荷物を積み過ぎないでください。

オートマチックハイビームの使い方

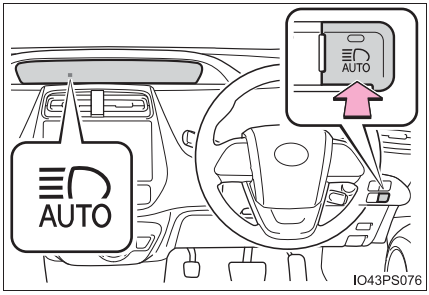
1 ランプスイッチを AUTO または

にし、レバーを前方へ押す



2 オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビームが作動すると、オートマチックハイビーム表示灯が点灯します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

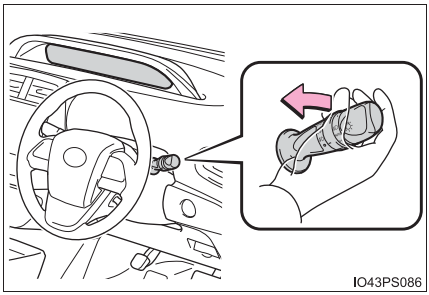
手動切りかえのしかた

■ ロービームへの切りかえ

レバーをもとの位置にもどす

オートマチックハイビーム表示灯が消灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーを前方に押します。

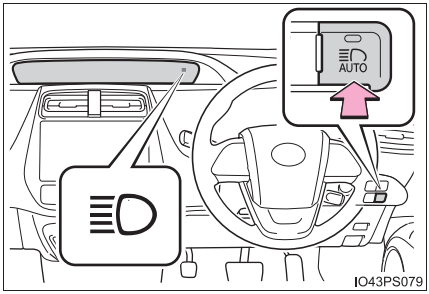


■ ハイビームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビーム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度スイッチを押します。



知識

■ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。

・車速が約 30km/h 以上
・車両前方が暗い
・前方にランプを点灯した車両がいない
・前方の道路沿いの街路灯の光が少ない

次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。

・車速が約 25km/h 以下
・車両前方が明るい
・前方車両がランプを点灯している
・前方の道路沿いの街路灯の光が多い

■前方カメラの検知について

●次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。

・見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
・他車が前方を横切ったとき
・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
・前方車両が離れた車線から接近してきたとき
・前方車両が無灯火のとき

●前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。

●次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。

・前方車両のランプの明るさ
・前方車両の動きや向き
・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
・前方車両が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●従って、ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

・悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
・フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
・フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
・前方カメラが変形しているときや、汚れているとき
・前方カメラが極端に高温になっているとき
・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
・急激な明るさの変化が連続するとき
・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
・カーブが多い道路を走行しているとき
・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
・コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
・自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
・パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
・ハイビームの使用に問題がある、またはほかの運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき
・マルチインフォメーションディスプレイに「ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください」の警告メッセージが表示されているとき

■**マルチインフォメーションディスプレイに「ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください」の警告メッセージが表示されたとき**

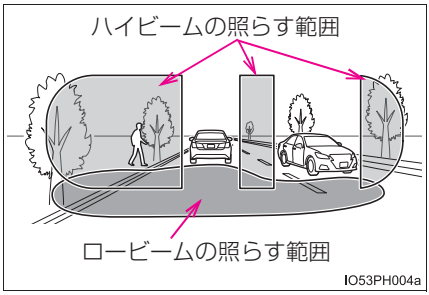
システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

AHS（アダプティブハイビームシステム）★

アダプティブハイビームシステムは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、ヘッドランプの配光を制御します。

- 車速に応じて、ハイビームの明るさと照らす範囲を調整します。
- 前方車両の周辺を遮光したハイビームを点灯します。（遮光ハイビーム）

  前方車両へのまぶしさを緩和しつつ、前方視界の確保を補助します。



- カーブを走行しているとき、進行方向側をハイビームでより明るく照らします。
- 先行車との距離に応じて、ロービームの照らす範囲を調整します。

警告

■**安全にお使いいただくために**

アダプティブハイビームシステムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■**アダプティブハイビームシステムの誤操作を防ぐために**

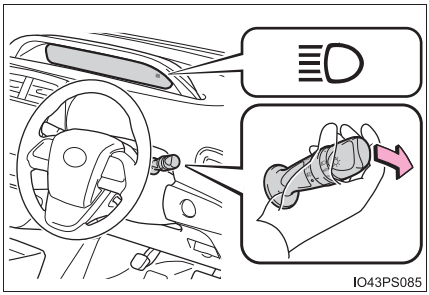
荷物を積み過ぎないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アダプティブハイビームシステムの使い方

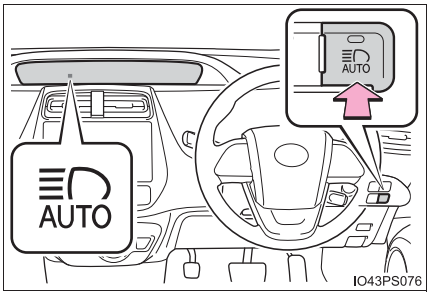
1 ランプスイッチを AUTO または

にし、レバーを前方へ押す



2 アダプティブハイビームシステムスイッチを押す

アダプティブハイビームシステムが作動すると、アダプティブハイビームシステム表示灯が点灯します。



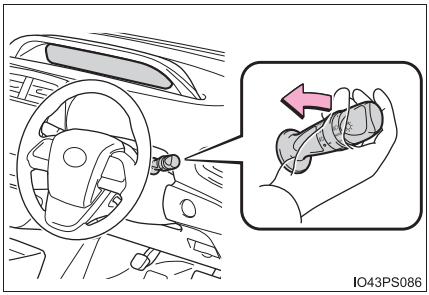
手動切りかえのしかた

■ ロービームへの切りかえ

レバーをもとの位置にもどす

アダプティブハイビームシステム表示灯が消灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度レバーを前方に押します。

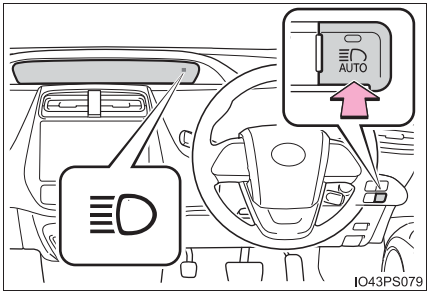


■ ハイビームへの切りかえ

アダプティブハイビームシステムスイッチを押す

アダプティブハイビームシステム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度スイッチを押します。



知識

■ヘッドランプ配光の自動切りかえ条件

●次の条件をすべて満たすと、ハイビームが点灯し、システムが作動します。

・車速が約 15km/h 以上※
・前方にランプを点灯した車両がない
・車両前方が暗い

※ 車速が約 30km/h 以上になると、カーブ走行時に進行方向側を明るく照らします。

●次の条件をすべて満たすと、前方車両の位置に応じて遮光ハイビームに切りかわり、ロービームの照らす範囲を調整します。

・車速が約 15km/h 以上
・前方にランプを点灯した車両がある
・車両前方が暗い

●次の条件のいずれかのとき、ロービームに切りかわります。

・車速が約 10km/h 以下
・車両前方が明るい
・前方車両の台数が多い
・前方車両の動きが速く、その車両にまぶしさを与える可能性がある

■前方カメラの検知について

●次の状況では、ハイビームが自動で遮光ハイビームに切りかわらない場合があります。

・見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
・他車が前方を横切ったとき
・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
・前方車両が離れた車線から接近してきたとき
・前方車両が無灯火のとき

●前方車両のフォグランプにより、ハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合や切りかわらない場合、または遮光範囲が変化する場合があります。

●次の原因により、遮光範囲の追従速度やロービームへの切りかえのタイミングが変化する場合があります。

・前方車両のランプの明るさ
・前方車両の動きや向き
・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
・前方車両が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●ヘッドランプの配光制御が運転者の感覚に合わない場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

・悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
・フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
・フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
・前方カメラが変形しているときや、汚れているとき
・前方カメラの温度が非常に高いとき
・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
・前方車両から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
・急激な明るさの変化が連続するとき
・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
・カーブが多い道路を走行しているとき
・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
・コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
・自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
・パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
・ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき

■マルチインフォメーションディスプレイに「ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください」の警告メッセージが表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 780）

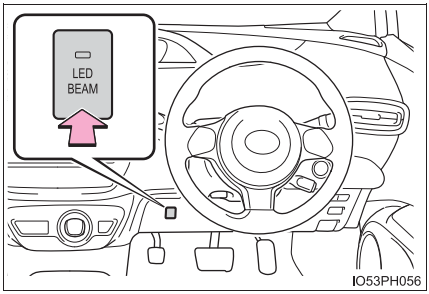
LED イルミネーションビーム★

使い方

LED イルミネーションビームスイッチを押す

ON にするとスイッチ上の作動表示灯が点灯し、フロントバンパーの LED イルミネーションビームが点灯します。

スイッチを押すたびに、LED イルミネーションビームの ON ／ OFF が切りかわります。



知識

■作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でLEDイルミネーションビームを長時間点灯しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フォグランプスイッチ★

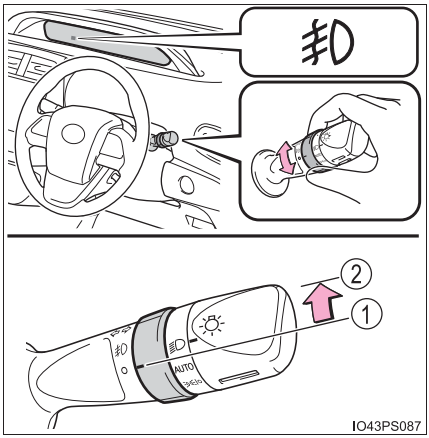
雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

操作のしかた

▶ フロントフォグランプ装着車

① ○ 消灯する

② 点灯する



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

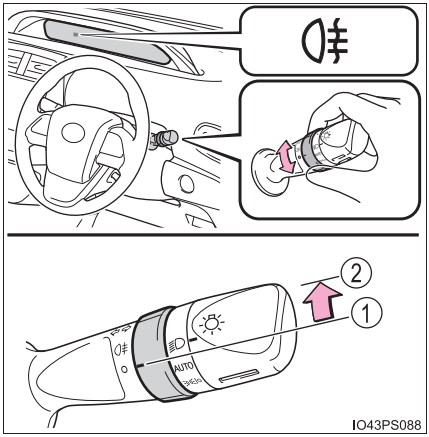
▶ リヤフォグランプ装着車

① ○ 消灯する

② 点灯する

手を離すと ○ の位置までもどります。

再度操作すると、消灯します。



▶ フロント＆リヤフォグランプ装着車

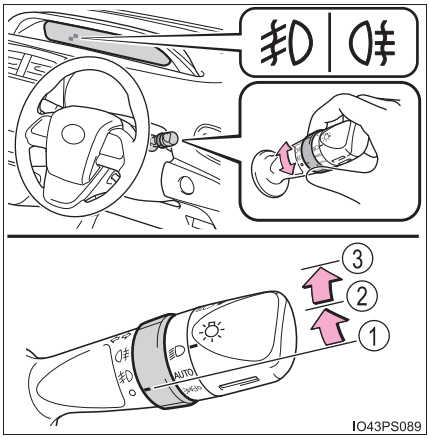
① ○ 消灯する

② フロントフォグランプを点灯する

③ フロント＆リヤフォグランプを点灯する

手を離すと の位置までもどります。

再度操作すると、リヤフォグランプのみ消灯します。



知識

■点灯条件

▶フロントフォグランプ装着車またはリヤフォグランプ装着車

ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

▶フロント＆リヤフォグランプ装備車

フロントフォグランプ：ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

リヤフォグランプ：フロントフォグランプが点灯しているときに使用できます。

■リヤフォグランプについて

●リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。

●雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。必要なとき以外は使用しないでください。

注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

ワイパー & ウォッシャー

操作のしかた

次のように レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。

▶ 間欠作動調整式ワイパー装着車

① 停止

② 間欠作動

③ 低速作動

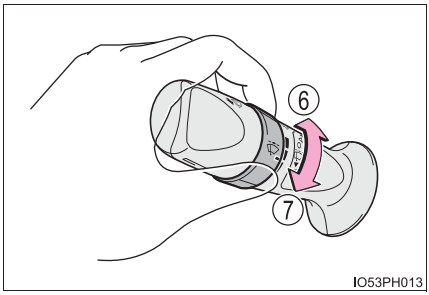
④ 高速作動

⑤ 一時作動

間欠作動（ ）を選択しているとき、間欠作動の作動頻度を調整することができます。間欠作動の時間は、車速に応じてかわります。

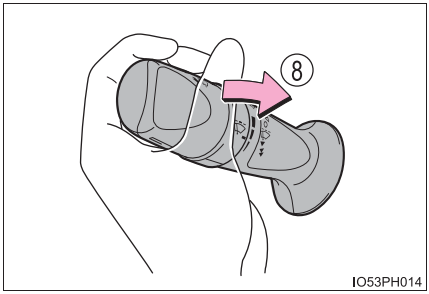
⑥ 間欠ワイパーの作動頻度（増）

⑦ 間欠ワイパーの作動頻度（減）



⑧ ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。



▶ 雨滴感知式ワイパー装着車

AUTO モード（ AUTO ）を選択したときは、雨滴量や車速に応じてワイパーが自動で作動します。

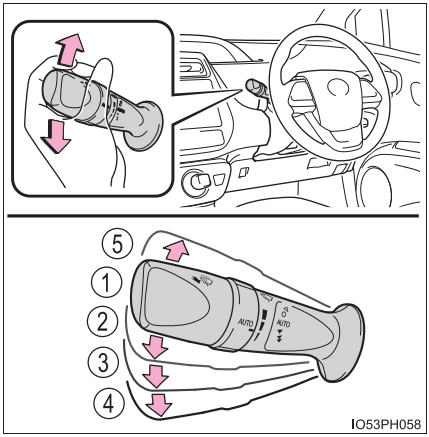
① ○ 停止

② AUTO AUTO モード

③ ▼ 低速作動

④ ▼▼ 高速作動

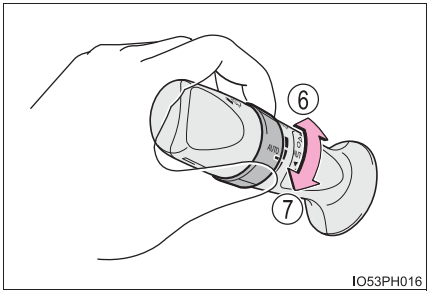
⑤ △ 一時作動



AUTO モード（ AUTO ）を選択しているとき、次のようにツマミをまわして雨滴センサーの感度を調整できます。

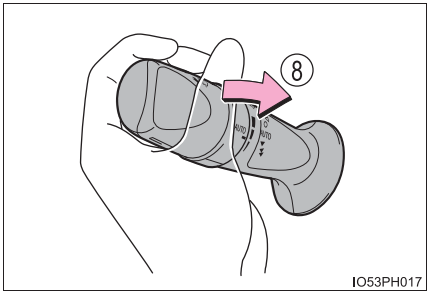
⑥ 雨滴センサーの感度調整（高）

⑦ 雨滴センサーの感度調整（低）



⑧ ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。



IO53PH017

知識

■作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

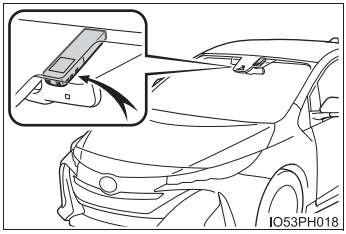
■液だれ防止作動（雨滴感知式ワイパー装着車）

ウォッシャー液を噴射するとワイパーが数回作動し、その後、液だれ防止のためにさらに 1 回作動します。

ただし、走行中は液だれ防止作動は働きません。

■雨滴感知センサー（雨滴感知式ワイパー装着車）

●雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。光学センサーを使用しているため、フロントウインドウガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。


IO53PH018

●パワースイッチがONモードのときにAUTOモードにすると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。

●AUTO モードのとき雨滴センサーの感度調整を（高）側へ調整すると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。

●雨滴感知センサーの温度が85℃以上または－ 15 ℃以下のときは、AUTO作動しないことがあります。その場合は、AUTO モード以外でワイパーを使用してください。

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■カスタマイズ機能

AUTO モードの作動を変更できます。（カスタマイズ一覧：→ P. 780）

警告

■**AUTO モード時のワイパー作動について（雨滴感知式ワイパー装着車）**

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが作動するおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

■**ウォッシャー使用時の警告**

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍り付き、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■**フロントウインドウガラスが乾いているとき**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■**ウォッシャー液が出ないとき**

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■**ノズルがつまったとき**

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

■**補機バッテリーあがりを防止するために**

ハイブリッドシステムを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

給油口の開け方

次の手順で給油口を開けてください。

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、パワースイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■**燃料の種類**

●無鉛レギュラーガソリン

●バイオ混合ガソリン（レギュラー）

■**バイオ混合ガソリンについて**

エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

警告

■**給油するとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。
静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

●キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。
すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。

●気化した燃料を吸わないようにしてください。
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

●喫煙しないでください。

●給油口にノズルを確実に挿入してください。

●継ぎ足し給油をしないでください。

●正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

⚠注意

■給油するとき

指定のガソリンを使用してください。
指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

- ●エンジンの始動性が悪くなる
- ●エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- ●エンジン出力が低下する
- ●排気制御システムが正常に機能しない
- ●燃料系部品が損傷する
- ●塗装が損傷する

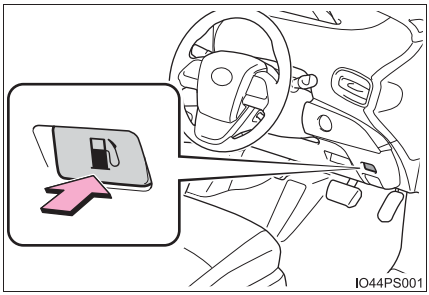
※ エタノール混合率 10%をこえるもの、または ETBE 混合率 22%をこえるもの

■燃料について

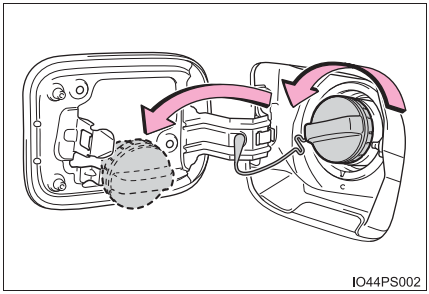
→ P. 90

給油口の開け方

1 オープナーを押して、給油扉を開く



2 キャップをゆっくりまわして開け、ハンガーにかける

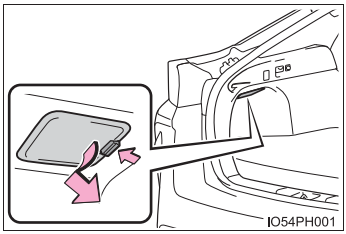


知識

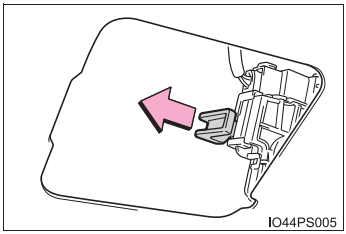
■車内のスイッチで給油扉が開かないとき

給油扉が開かないときは、次の方法で開けることができます。

1 ラゲージルームを開け、ラゲージルームランプ下部にあるカバーを取りはずす



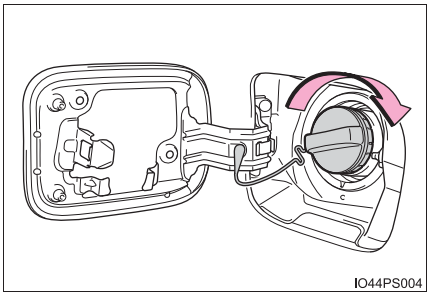
2 レバーを手前に引き、給油扉が開いたことを確認する



給油口の閉め方

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



警告

■キャップが正常に閉まらないとき

必ずトヨタ販売店へご連絡ください。
正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

Toyota Safety Sense

Toyota Safety Sense は、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

運転支援装置

◆ PCS（プリクラッシュセーフティ）

→ P. 420

◆ LTA（レーントレーシングアシスト）

→ P. 430

◆ AHS（アダプティブハイビームシステム）★

→ P. 396

◆ AHB（オートマチックハイビーム）★

→ P. 392

◆ RSA（ロードサインアシスト）

→ P. 442

◆ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

→ P. 447

◆ 先行車発進告知機能

→ P. 464

警告

■Toyota Safety Sense について

Toyota Safety Sense は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。
本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

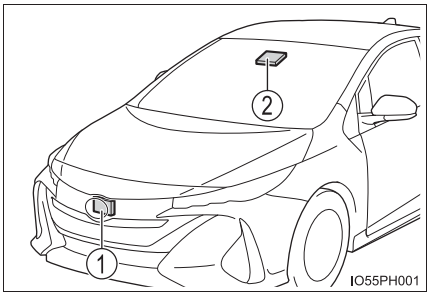
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

前方センサー

フロントグリルとフロントウインドウガラスにある 2 種類のセンサーにより、各運転支援装置に必要な情報を認識します。

① レーダー

② 前方カメラ



警告

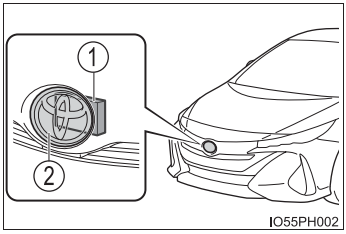
■**レーダーの故障や誤作動を防ぐために**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく

① レーダー

② レーダー専用カバー



レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。

●レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない

●レーダー周辺への強い衝撃を避ける
レーダー・フロントグリル・フロントバンパーに強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

●レーダーを分解しない

●レーダーやレーダー専用カバーを改造したり、塗装したりしない

●次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

・レーダー・フロントグリルを脱着や交換したとき
・フロントバンパーを交換したとき

警告

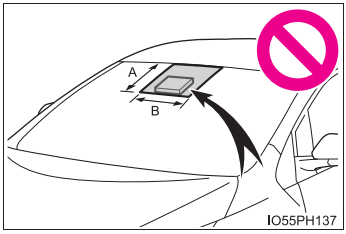
■**前方カメラの故障や誤作動を防ぐために**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく

・フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
・フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
・フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない
A：フロントウインドウガラス上端から前方カメラ下端より下約 1cm まで
B：約 20cm（前方カメラ中心から左右約 10cm）



●前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する（フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→ P. 597）

●前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する

●フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない

●フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

●前方カメラに液体をかけない

●前方カメラに強い光を照射しない

警告

- 前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
  フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
  レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 前方カメラに強い衝撃を加えない
- 前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方カメラを分解しない
- インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない
  詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

知識

■ **レーダーの取り扱い**

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

■マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

前方センサーが一時的に作動しない、または異常があるおそれがあります。

●次の状況が改善されると警告メッセージが消え、作動可能状態になります。

対処を行っても警告メッセージが表示されたままの場合はトヨタ販売店にご相談ください。

状況	対処法
前方カメラ周辺に汚れや付着物（曇り、結露、凍結などを含む）があるとき	ワイパーやエアコンの機能などを使って、汚れや付着物を取り除く（フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→ P. 597）
炎天下や極寒の環境など、前方カメラ周囲の温度などが作動条件外のとき	炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を下げる 特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります。
	極寒での駐車時など、前方カメラが低温のときは、エアコンで前方カメラ周辺の温度を上げる
ボンネットが開いているときや、フロントウインドウガラスの前方カメラ前部にステッカーが貼り付けられているときなど、前方カメラの前方がさえぎられているとき	ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、前方カメラの視界がさえぎられないようにする
「プリクラッシュセーフティ現在使用できません」が表示されたとき	レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除く

●次のときは周囲の環境が前方センサーの作動可能状態になれば警告メッセージが消えます。

周囲の環境が改善されたり、しばらく走行したりしても警告メッセージが表示されたままの場合はトヨタ販売店にご相談ください。

・炎天下や極寒の環境など、レーダー周囲の温度などが作動条件外のとき
・暗闇・逆光・雪・霧など、前方カメラが周囲の状況を認識できないとき
・車両周辺の状況によってはレーダーが正しく周囲の環境を認識できないとき
その場合には「プリクラッシュセーフティ現在使用できません」が表示されます。

PCS（プリクラッシュセーフティ）

進路上の作動対象（→ P. 420）を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティの ON ／ OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→ P. 423）

システムの作動対象

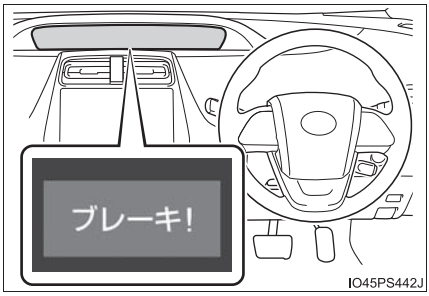
システムは次のものを作動対象として検出しています。

- 車両
- 自転車運転者
- 歩行者

機能一覧

■ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ･･･”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、回避操作をうながします。



■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに応じてブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の低減に寄与します。

警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき：→P. 425
・システムが正常に作動しないおそれがあるとき：→P. 427

●お客様ご自身でプリクラッシュセーフティの作動テストを行わないでください。
対象（マネキンや段ボールで作動対象を模したものなど）や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■プリクラッシュブレーキについて

●プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。

●プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、約２秒後にプリクラッシュブレーキが解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。

●プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。

●プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

●ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

警告

■**プリクラッシュセーフティを OFF にするとき**

次のときは、システムを OFF にしてください。
システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- けん引されるとき
- けん引するとき
- トラック・船舶・列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、ハイブリッドシステムを始動しタイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- 事故などにより、フロントバンパーやフロントグリルに強い衝撃が加わったとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- メーカー指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 応急用タイヤやタイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- 車両に前方センサーをさえぎるような装備品（除雪装置など）を一時的に取り付けているとき

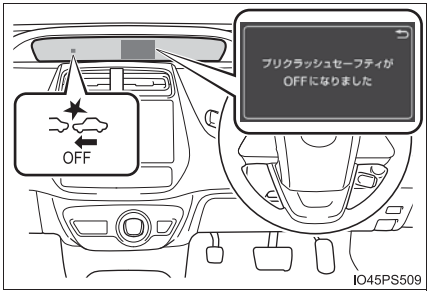
プリクラッシュセーフティの設定変更

■ プリクラッシュセーフティの ON ／ OFF を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの （→ P. 297）から、プリクラッシュセーフティの ON（作動）／ OFF（非作動）を変更することができます。

パワースイッチが ON モードになるとシステムは ON になります。

システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



■ 衝突警報の作動タイミングを変更する

マルチインフォメーションディスプレイの （→ P. 297）から、衝突警報の作動タイミングを変更することができます。

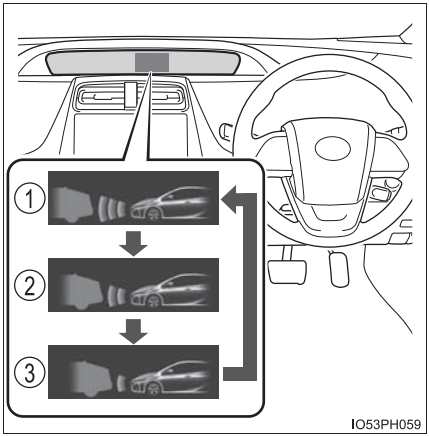
変更した作動タイミングはパワースイッチを OFF にしても継続しますが、プリクラッシュセーフティを OFF から ON の状態にすると「中間」に戻ります。

① 早い

② 中間

初期設定

③ 遅い



知識

■システムの作動条件

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。
各機能の作動速度は次のとおりです。

●衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 10 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 10 ～ 80km/h	約 10 ～ 80km/h

●プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 30 ～ 180km/h	約 30 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 30 ～ 80km/h	約 30 ～ 80km/h

●プリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 10 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 10 ～ 80km/h	約 10 ～ 80km/h

ただし、次のときシステムは作動しません。

●補機バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ

●シフトポジションが R のとき

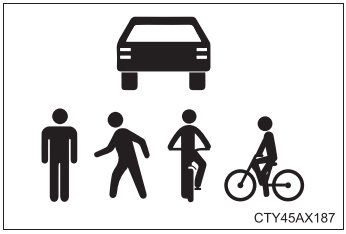
●VSC OFF 表示灯が点灯しているとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

■作動対象の検出

大きさ・輪郭・動きなどから検出します。

周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。（→ P. 427）

図は作動対象として検出する対象のイメージです。



■プリクラッシュブレーキの作動解除

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

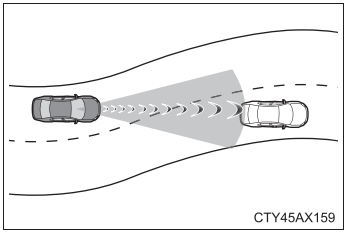
●アクセルペダルを強く踏み込む

●ハンドルを大きくきる、またはすばやく操作する

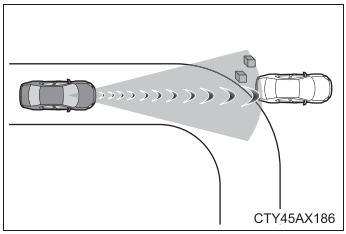
■衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。

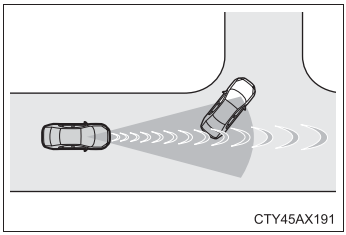
・作動対象などのすぐそばを通過するとき
・車線を変更して作動対象などを追いこすとき
・進路変更時や曲がりくねった道を走行時など、自車前方の隣車線や路側に作動対象が存在するとき


CTY45AX159

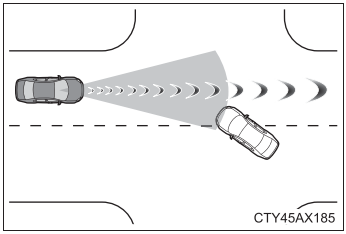
・作動対象などに急接近したとき
・道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）などに近付いたとき
・カーブ入り口の道路脇に作動対象や物体などが存在するとき


CTY45AX186

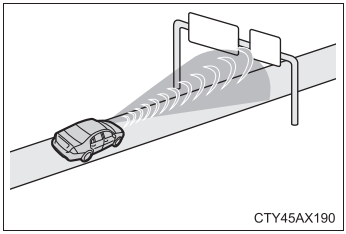
・自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき
・自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき
・車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき


CTY45AX191

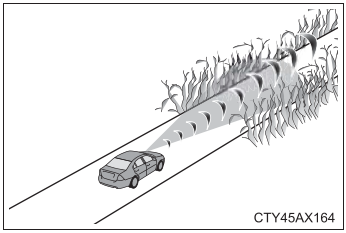
・右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき



・作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき
・路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
・構造物に囲まれた道（トンネルや鉄橋など）を走行するとき
・自車の前方に金属物（マンホール・鉄板など）・段差・突起物があるとき
・道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき



・ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
・洗車機を使用するとき
・自車に覆い被さるような障害物（生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など）がある場所を走行するとき

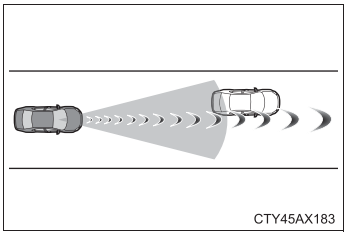


・自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
・電波の反射が強い物体（大型トラック・ガードレールなど）の横を走行するとき
・テレビ塔・放送局・発電所など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき

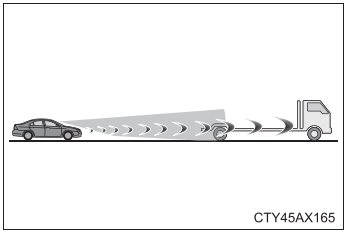
■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

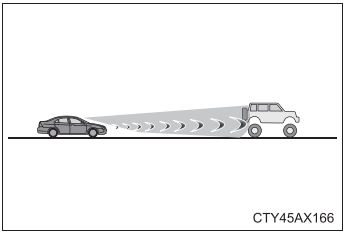
・自車に向かって作動対象が近付いてくるとき
・自車や作動対象がふらついているとき
・作動対象が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
・作動対象に急接近したとき
・作動対象が自車の中心軸からずれているとき


CTY45AX183

・作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
・上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
・作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
・作動対象が複数重なっているとき
・作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
・作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
・作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
・作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
・自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき
・自車の正面方向から強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラにあたっているとき
・横向き、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき
・前方車両がオートバイのとき
・前方車両の全幅が狭いとき（超小型モビリティなど）
・前方車両の後端面積が小さいとき（空荷のトラックなど）
・前方車両の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）

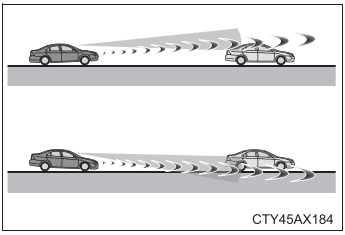

CTY45AX165

・前方車両の最低地上高が極端に高いとき



・前方車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
・前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
・子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2　人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
・歩行者・自転車運転者の大きさが約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
・歩行者・自転車運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
・歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
・歩行者・自転車運転者の移動速度が速いとき
・歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
・悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき
・自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
・周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
・周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）
・ハイブリッドシステムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
・右左折中および右左折後の数秒間
・カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
・自車が横すべりしているとき

・車両姿勢が変化しているとき



・ホイールアライメントがずれているとき
・ワイパーブレードが前方カメラの視界をさえぎっているとき
・過度な高速走行をしているとき
・坂道を走行しているとき
・前方センサーの向きがずれているとき

●例えば次のような状況では、制動力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。

・ブレーキ性能が十分に発揮できない場合（ブレーキ部品が極度に冷えている・過熱している・ぬれているなど）
・車両の整備状態（ブレーキ部品・タイヤの摩耗や空気圧など）が良好でないとき
・砂利道やすべりやすい路面を走行しているとき

■VSC を停止したとき

●VSC の作動を停止（→ P. 553）したときは、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。

●PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「VSC が OFF のためプリクラッシュブレーキも停止します」が表示されます。

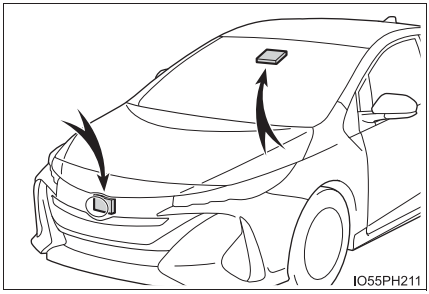
LTA（レーントレーシングアシスト）

機能概要

白（黄）線が整備された道路を走行中、車線または走路※からの逸脱の可能性を警告するとともに、車線または走路※からの逸脱を避けるためのハンドル操作の一部を支援します。また、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→P. 447）の作動中は、車線維持に必要なハンドルの操作を支援します。

白（黄）線または走路※を前方カメラで認識します。また、先行車を前方カメラやレーダーで認識します。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



警告

■LTA をお使いになる前に

- LTA を過信しないでください。LTA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。
- 適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- LTA を使用しないときは、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。

■LTA を使用してはいけない状況

次の状況では、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 雨天時や積雪・凍結などで、すべりやすい路面を走行しているとき
- 雪道を走行しているとき
- 水たまりや雨・雪・霧・砂ぼこりなどで白（黄）線が見えにくいとき
- 工事によって規制された車線・仮設の車線を走行しているとき
- 工事区間を走行しているとき

警告

- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき
- タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき
- 車両けん引時

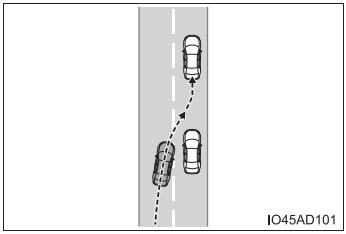
■LTA の故障、または誤作動を防ぐために

- ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。
- サスペンションなどを改造しないでください。交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。
- フロントウインドウガラスの修理が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

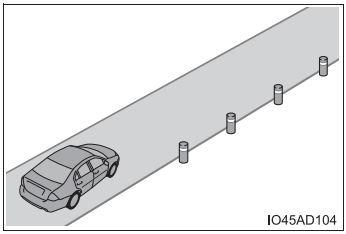
- 先行車追従表示中（→ P. 437）に、先行車が車線変更したとき（先行車の動きに合わせて自車も車線変更するおそれがあります）



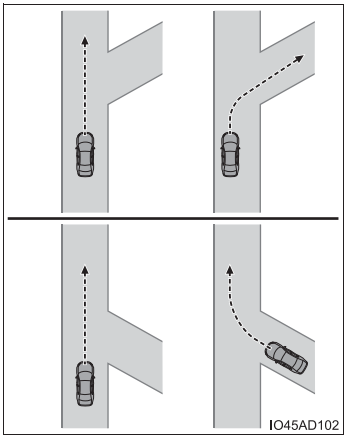
- 先行車追従表示中（→ P. 437）に、先行車がふらついたとき（先行車の動きに合わせて自車もふらついて走行しレーンをはみ出すおそれがあります）
- 先行車追従表示中（→ P. 437）に、先行車が車線から逸脱したとき（先行車の動きに合わせて自車も車線から逸脱するおそれがあります）
- 先行車追従表示中（→ P. 437）に、先行車がレーン内を右、または左に片寄って走行したとき（先行車の動きに合わせて自車も片寄って走行しレーンをはみ出すおそれがあります）
- 急カーブを走行しているとき

警告

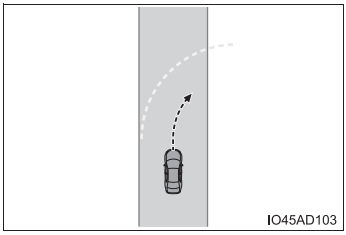
●路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物や模様があるとき（ガードレール・反射ポールなど）



●分岐・合流路などを走行するとき



●道路の修復で、アスファルト修復後や白（黄）線の跡が残っているとき



●白（黄）線に平行するような影がある、または白（黄）線が影の中にあるとき

●料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき

●白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鋲）や置き石などがあるとき

●白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき

●雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行しているとき

●車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）

●白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき

警告

- コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき
- アスファルトと草・土・縁石等の境界が不明瞭または直線的でないとき
- 照り返しなどにより明るくなった路面を走行しているとき
- トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行しているとき
- 対向車のヘッドランプ光・太陽光などが前方カメラに入射しているとき
- 坂道を走行しているとき
- 左右に傾いた道路やうねった道路を走行しているとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき
- 車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- 走行中の路面状況（悪路・道路の継ぎ目など）により、車両が上下に大きく揺れているとき
- 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、またはレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- 横風を受けているとき
- 周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後
- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用したとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- 冬用タイヤなどを装着しているとき
- 過度な高速走行をしているとき

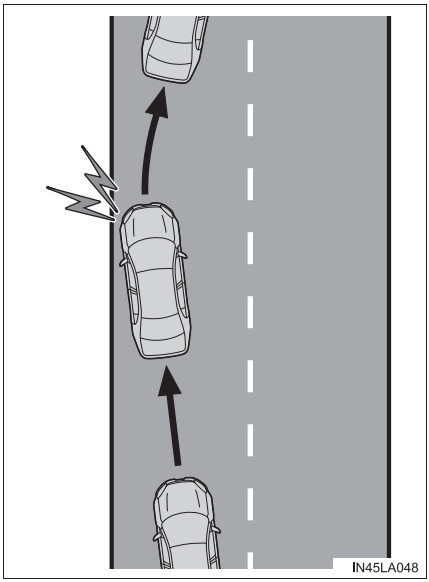
LTA に含まれる機能

■ 車線逸脱警報機能

車両が車線または走路 ※ から逸脱する可能性がある場合に、マルチインフォメーションディスプレイの表示および、警報ブザーにより注意をうながします。

警報ブザーが鳴ったときは、まわりの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白（黄）線または走路※内の中央付近にもどってください。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

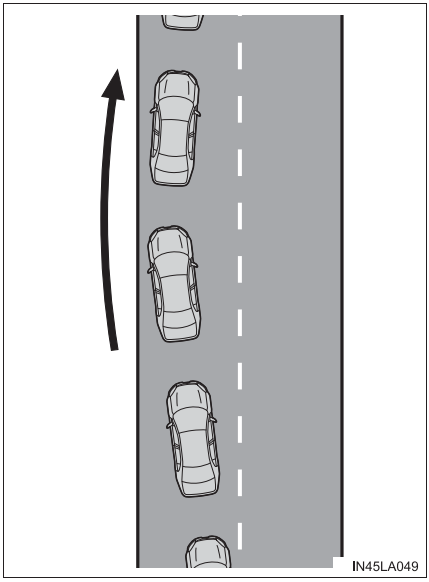


■ 車線逸脱抑制機能

車両が車線または走路 ※ から逸脱する可能性がある場合に、短時間、小さな操舵力をハンドルに与えて、車線からの逸脱を避けるために必要なハンドル操作の一部を支援します。

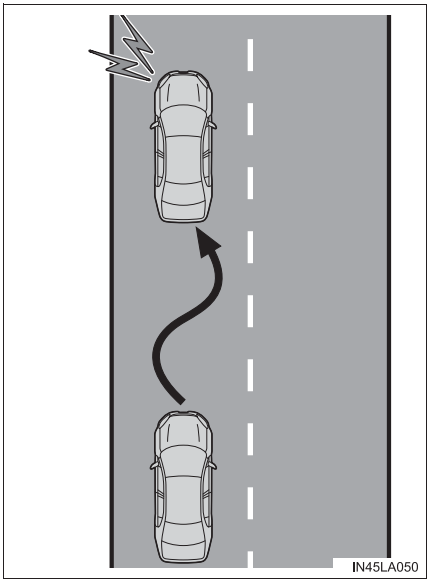
一定時間ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは、マルチインフォメーションディスプレイの表示により注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



■ ふらつき警報機能

車両がふらついて走行しているときに、警報ブザーおよびマルチインフォメーションディスプレイの表示により注意をうながします。



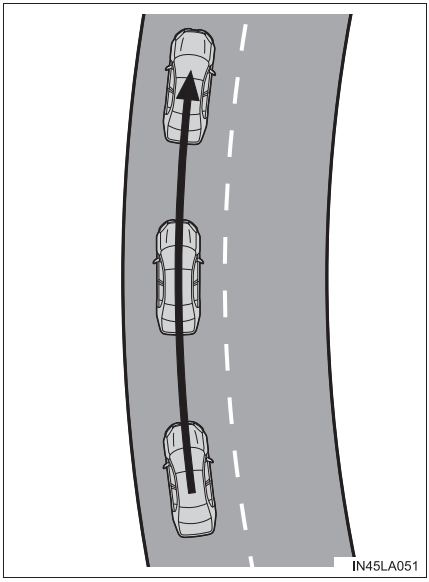
■ 車線維持支援機能

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）と連携し、現在の車線内を走行するために必要なハンドル操作の一部を、システムが支援します。

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が作動していないときは、車線維持支援機能は作動しません。

渋滞のときなど白（黄）線が見えにくい、または見えない場合、先行車の軌跡を利用して先行車に追従する支援を行います。

一定時間ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは、マルチインフォメーションディスプレイの表示により注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。



設定のしかた

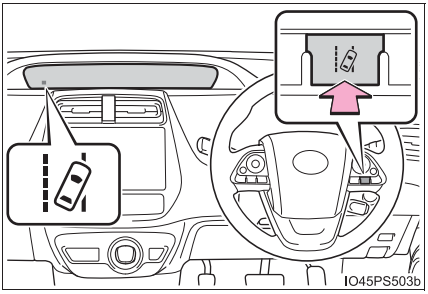
LTA を ON にするには LTA スイッチを押す

LTA 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

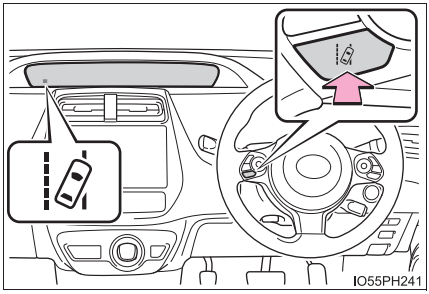
OFF にするには、再度スイッチを押します。

いったん LTA を ON ／ OFF すると、次回ハイブリッドシステムを始動したときにも、そのままの状態が続きます。

▶ GR SPORT を除く



▶ GR SPORT



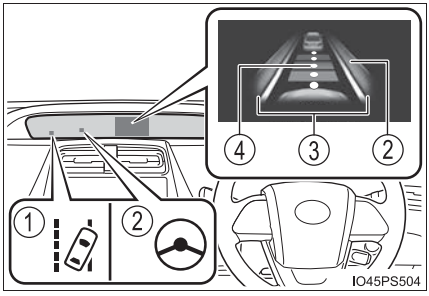
マルチインフォメーションディスプレイ表示

① LTA 表示灯

表示灯の点灯状態で、システムの作動状況をお知らせします。

緑色に点灯：車線逸脱監視中

橙色に点滅：車線逸脱警報中



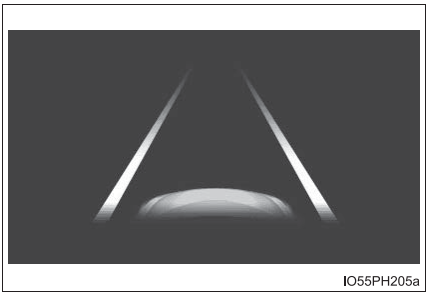
② ステアリング制御表示灯／ハンドル操舵支援作動表示

車線逸脱抑制機能、または車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中のとき、表示灯が点灯するとともに、マルチインフォメーションディスプレイに作動画面が表示されます。

③ 車線逸脱警報機能表示

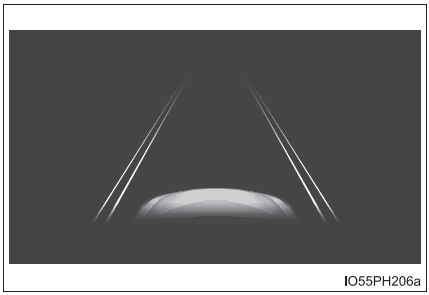
マルチインフォメーションディスプレイを走行支援システム連携画面に切りかえると表示されます。

▶ 白線表示の内側が白いとき



システムが白（黄）線または走路※を認識していることを示しています。車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が橙色で点滅します。

▶ 白線表示の内側が黒いとき



システムが白（黄）線または走路※を認識できていない、またはシステムが一時的に解除されていることを示しています。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

④ 先行車追従表示

マルチインフォメーションディスプレイを走行支援システム連携画面に切りかえると表示されます。

車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中（先行車に追従中）であることを示しています。

先行車の動きに合わせて自車も同じ動きをする場合があります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。

知識

■各機能の作動条件

●車線逸脱警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・LTA を ON にしているとき
・車速が約 50km/h 以上のとき ※1
・システムが白（黄）線または走路 ※2 を認識しているとき（白［黄］線または走路 ※2 が片側しかないとき、認識している方向のみ作動します）
・車線の幅が約 3m 以上のとき
・方向指示レバーを操作していないとき
・急カーブを走行していないとき
・システムの異常が検知されていないとき（→ P. 441）

※1 車線維持支援機能が作動中は約 50km/h 以下でも作動します。

※2 アスファルトと草・土・縁石等の境界

●車線逸脱抑制機能

車線逸脱警報機能の作動条件に加えて、次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・マルチインフォメーションディスプレイの 画面で （操舵支援）を「有」に設定しているとき（→ P. 269）
・一定以上の加減速がないとき
・車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
・ABS・VSC・TRC・PCS が作動していないとき
・TRC または VSC を OFF にしていないとき
・手放し運転に対する注意喚起（→ P. 440）が行われていないとき

●ふらつき警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・マルチインフォメーションディスプレイの 画面で （ふらつき警報）を「有」に設定しているとき（→ P. 269）
・車速が約 50km/h 以上のとき
・車線の幅が約 3m 以上のとき
・システムの異常が検知されていないとき（→ P. 441）

●車線維持支援機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・LTA を ON にしているとき

・マルチインフォメーションディスプレイの 画面で （操舵支援）を「有」かつ LTA （センタートレース制御）を「有」に設定しているとき（→ P. 269）

・システムが白（黄）線を認識しているとき、または先行車の軌跡を認識しているとき（先行車が二輪車の場合を除く）

・レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が車間制御モードで作動しているとき

・車線の幅が約 3 ～ 4m のとき

・方向指示レバーを操作していないとき

・急カーブを走行していないとき

・システムの異常が検知されていないとき（→ P. 441）

・一定以上の加減速がないとき

・車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき

・ABS・VSC・TRC・PCS が作動していないとき

・TRC または VSC を OFF にしていないとき

・手放し運転に対する注意喚起（→ P. 440）が行われていないとき

・車線中央付近を走行しているとき

・車線逸脱抑制機能が作動していないとき

■機能の一時解除

●作動条件（→ P. 438）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

●車線維持支援機能作動中に、作動条件（→ P. 439）が満たされなくなった場合、“ピピッ” とブザー音で、一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。

■車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能について

●車速や車線の逸脱状況・路面状況などにより、車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能の作動を感じなかったり、車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能が作動しなかったりすることがあります。

●これらの各機能によるステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

●車線逸脱抑制機能の作動テストを行わないでください。

■車線逸脱警報機能について

●外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。

●走路※がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は走路逸脱に対する警報・制御が作動しない場合があります。

●車線逸脱警報機能の作動テストを行わないでください。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

■手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

●システムの作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

●車線維持支援機能作動中にカーブを曲がりきれず車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断したとき

車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。また、システムがカーブを走行中と判断した場合は、直線走行時に比べて早いタイミングで注意喚起が行われます。

●車線逸脱抑制機能による車線逸脱を避けるためのハンドル操舵支援中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに、操作しない状態が続きハンドル操舵支援が行われると、ブザーが鳴り注意喚起が行われます。ハンドル操舵支援の回数が増えるごとに、ブザーの継続時間が長くなります。

■ふらつき警報機能について

システムの作動中に、車両がふらついて走行しているとシステムが判断したとき、ブザーと同時にマルチインフォメーションディスプレイに休憩をうながすメッセージと図で示すシンボルで注意喚起を行います。

車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。

■警告メッセージ

次のメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示され、LTA 表示灯が橙色で点灯した場合は、対処方法に従って適切に対処してください。また、その他の警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

●「LTA 故障販売店で点検してください」

システムが正常に作動しなくなっているおそれがあります。
トヨタ販売店で点検を受けてください。

●「LTA 現在利用できません」

前方カメラ以外のセンサーの異常によりシステムが一時停止しています。いったん LTA を OFF にして、しばらくしてから再度、LTA を ON にしてください。

●「LTA 現在の車速では使用できません」

車速が LTA の作動可能範囲をこえたため、使用できません。車速を落として走行してください。

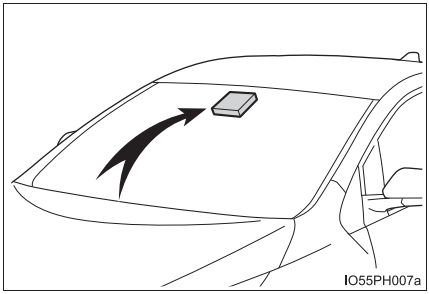
■カスタマイズ機能

機能の設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→ P. 297）

RSA（ロードサインアシスト）

機能概要

前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）を使って特定の道路標識を認識し、ディスプレイ表示によって道路標識の情報を運転者にお知らせします。



認識した道路標識の制限速度に対し、運転者が制限速度を超過して走行、または禁止行為を行っている等とシステムが判断した場合に、告知表示およびブザー音で運転者に告知します。

警告

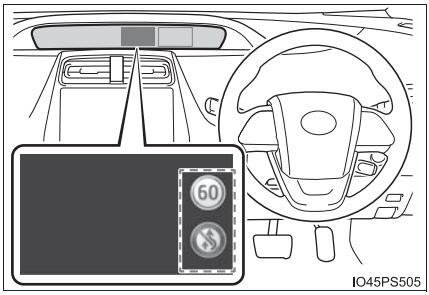
■RSA をお使いになる前に

RSA は、道路標識の情報を知らせることで運転者を支援しますが、運転者自身の確認や認識を代行するものではありません。安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

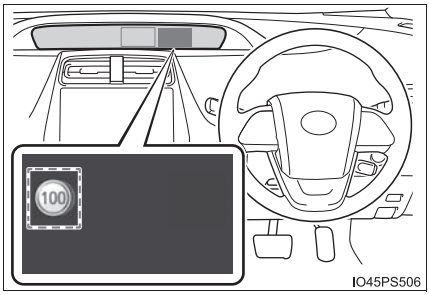
メインディスプレイまたはマルチインフォメーションディスプレイ表示

前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）によって標識を認識すると、メインディスプレイまたはマルチインフォメーションディスプレイに表示します。

● 走行支援システム連携画面を選択したときは、最大2つの標識をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。（→P. 269）



● 走行支援システム連携画面以外を選択したときは、次のいずれかの標識がメインディスプレイに表示されます。（→ P. 263）
・最高速度標識
・車両進入禁止標識（告知時のみ）



速度制限標識以外を認識した場合、速度標識の重複表示にてお知らせします。

認識される道路標識の種類

電光標識も含めて、次の種類の道路標識を認識します。

ただし、規定外の標識、新しく導入された標識は認識されない場合があります。

最高速度

はみ出し通行禁止

車両進入禁止

終わり ※

一時停止

※ メインディスプレイ・マルチインフォメーションディスプレイに、表示されません。

告知機能

次の状況では、システムが告知表示で運転者に告知します。

- 自車の車速がメインディスプレイまたはマルチインフォメーションディスプレイに表示されている制限速度より、一定の速度を超過すると、最高速度標識の強調やブザーの吹鳴をします。
- システムが進入禁止の標識を認識し、自車が進入禁止区域に進入したと判定したときには、メインディスプレイまたはマルチインフォメーションディスプレイに表示される車両進入禁止標識の点滅やブザーの吹鳴をします。
- はみ出し通行禁止標識がマルチインフォメーションディスプレイに表示されているときに、自車の追い越しを検出すると、はみ出し通行禁止標識の点滅やブザーの吹鳴をします。

状況によっては、告知表示が正常に作動しない場合があります。

知識

■設定のしかた

→ P. 297

■RSA 標識表示

次の状況では、最高速度・はみ出し通行禁止・車両進入禁止の標識表示が消えます。

- 一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき
- 終わり標識の下に対象標識を認識したとき

次の状況では、一時停止の標識表示が消えます。

- 標識を通過したとシステムが判定したとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正常に標識を認識できず、正しい標識の表示がされない場合があります。

- 前方カメラやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- 汚れ・雪・ステッカー等がフロントウインドウの前方カメラの近くにあるとき
- 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
- 強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラに直接あたっているとき
- 標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき
- 電光標識のコントラストが低いとき
- 標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき
- 前方カメラが標識を認識する時間が短いとき
- 運転の状況（曲がる・車線変更等）が誤って判断されたとき
- 標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき
- 先行車の後部分にステッカーが貼ってあるとき
- システムが対応している標識と類似した標識が認識されたとき
- 側道の速度標識が前方カメラの認識範囲内に入ったとき
- ロータリー（環状交差路）を走行しているとき
- 重い荷物を積むなど車両が傾いているとき
- 十分な光がなかったり、明るさが急激に変化したりしたとき
- トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき

●ナビゲーションシステムの地図情報が古いとき

●ナビゲーションシステムを利用できないとき

●メインディスプレイまたはマルチインフォメーションディスプレイとナビゲーションシステムに表示される最高速度標識が異なる場合があります。

■速度制限標識表示

マルチインフォメーションディスプレイとメインディスプレイに最高速度標識が表示されているときに、パワースイッチを OFF にすると、次回パワースイッチを ON モードにしたときには再度同じ標識が表示されます。

■マルチインフォメーションディスプレイに「RSA 故障　販売店で点検してください」が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

一部の機能は、設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→ P. 780）

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

機能概要

アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行い、自動的に加速・減速・停止をします。定速制御モードでは、一定の車速で走行できます。通信利用型レーダークルーズコントロールは ITS Connect を装備している車両のみ使用できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

- 車間制御モード（→ P. 450）
- 定速制御モード（→ P. 456）
- 通信利用型レーダークルーズコントロール（ITS Connect装着車のみ）（→ P. 457）

システムの構成部品

① 表示灯

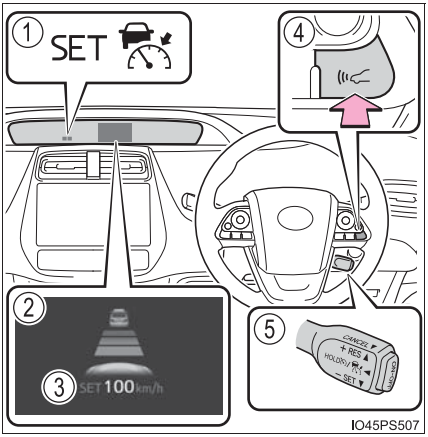
② マルチインフォメーションディスプレイ

③ 設定速度

④ 車間距離切りかえスイッチ

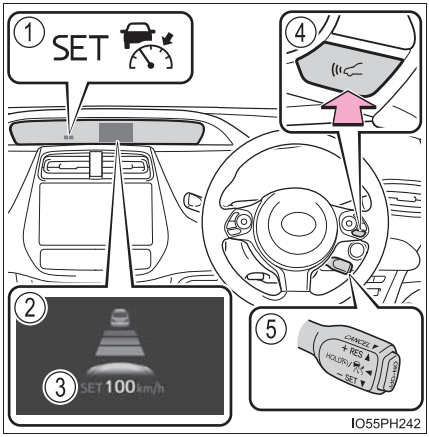
⑤ クルーズコントロールスイッチ

▶ GR SPORT を除く



IO45PS507

▶ GR SPORT



IO55PH242

警告

■**安全にお使いいただくために**

●安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・ センサーが正しく検知しないおそれのある先行車：→P. 462
・ 車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況：→P. 463

●設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は運転者が行う必要があります。

●システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使わないときは ON-OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

■**システムの支援内容に関する注意点**

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。
システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者が見る過程での支援内容
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。
運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

警告

■**レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用してはいけない状況**

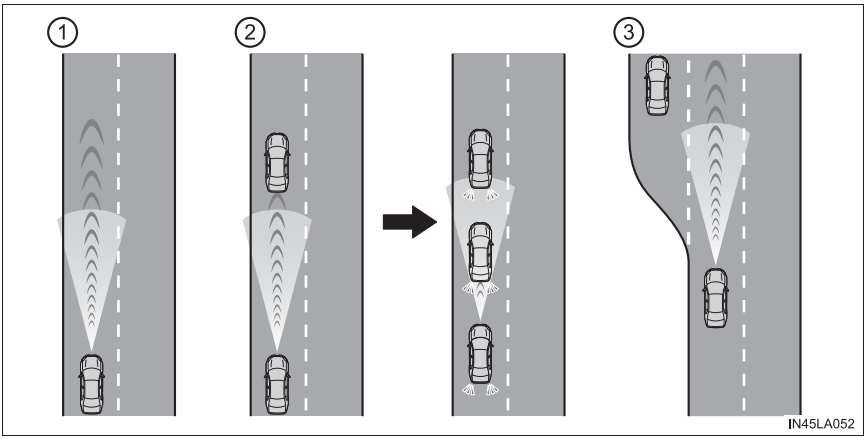
次の状況では、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用しないでください。
適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 歩行者や自転車等が混在している道
- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
  急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。
- 高速道路や自動車専用道路の出入り口
- センサーが正しく検知できないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）
- レーダー前面または、前方カメラ前面に雨滴や雪などが付着しているとき
- ひんぱんに加速・減速をくり返すような交通状況のとき
- 車両けん引時
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき

車間制御モードでの走行

車間制御モードでは、レーダーにより車両前方約 100m 以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

下り坂を走行しているときは、車間距離が短くなることがあります。



① 定速走行：
先行車がいないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。

② 減速走行 ― 追従走行：
設定した速度より、遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

先行車が停止したときは、続いて停止します（制御停車）。先行車の発進後、クルーズコントロールレバーを上げるか、アクセルペダルを踏むと追従走行にもどります（発進操作）。自車が発進操作を行わなかった場合は、制御停車を続けます。

約 80km/h 以上で走行中に追い越し車線側へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して設定速度まで加速することで、追い越しを支援します。

③ 加速走行 ：
設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき

設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

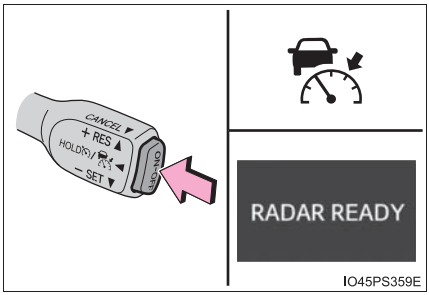
速度を設定する（車間制御モード）

1 ON-OFFスイッチを押して、システムをONにする

レーダークルーズコントロール表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

OFF にするには再度スイッチを押します。

ON-OFF スイッチを 1.5 秒以上押し続けると定速制御モードでシステムが ON します。（→P. 456）

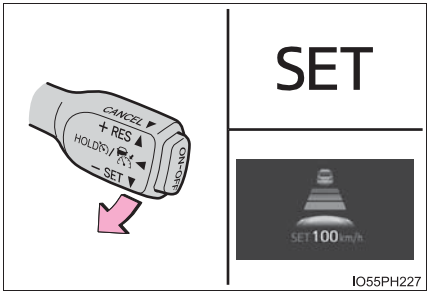


IO45PS359E

2 希望の車速(約30km/h以上)までアクセルペダル操作で加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの車速で定速走行できます。

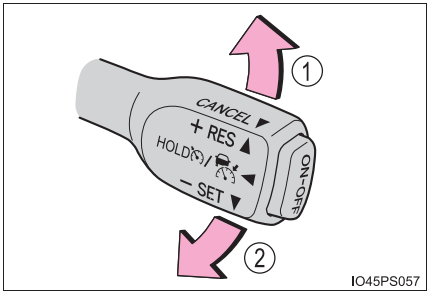


IO55PH227

設定速度をかえる

● レバーで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまでレバーを操作します。



① 速度を上げる

（車間制御モードの制御停車中は除く）

② 速度を下げる

微調整：レバーを上または下に軽く操作して手を離す

大幅調整：レバーを上または下に保持して速度をかえ、希望の速度で手を離す

車間制御モードでは、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：レバー操作をするごとに 1km/h

大幅調整：レバーを保持しているあいだ、5km/h ずつ

定速制御モード（→ P. 456）では、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：レバー操作をするごとに 1km/h

大幅調整：レバーを保持しているあいだ連続して変化

● アクセルペダルで設定速度を上げる

1 設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する

2 レバーを下げる

車間距離を変更する（車間制御モード）

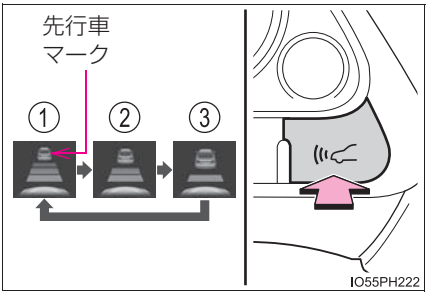
スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。

① 長い

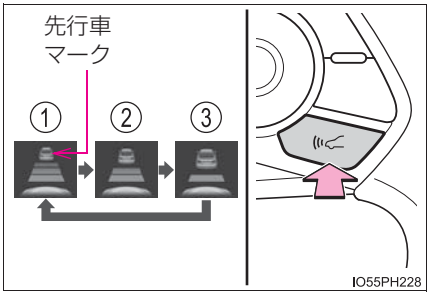
② 中間

③ 短い

▶ GR SPORT を除く



▶ GR SPORT



車間距離選択の目安（車間制御モード）

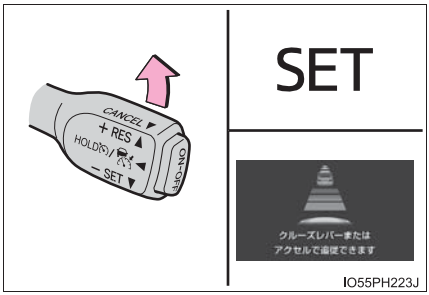
次の目安を参考に車間距離を選択してください。
（車速 80km/h で走行している場合）
なお、車速に応じて車間距離は増減します。また、制御停車時は設定にかかわらず状況に応じた車間距離で停車します。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50m
中間	約 40m
短い	約 30m

制御停車から追従走行に復帰させる（車間制御モード）

先行車の発進後、レバーを上げる

先行車の発進後にアクセルペダルを踏んでも追従走行に復帰します。



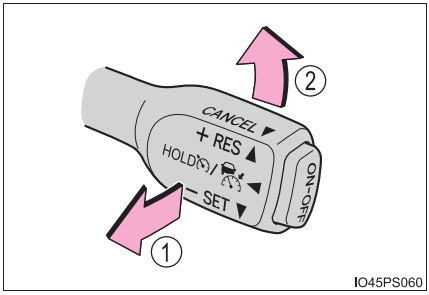
IO55PH223J

制御を解除する・復帰させる

① 制御を解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。（車間制御モードの制御停車中は、ブレーキペダルを踏んでも解除されません）

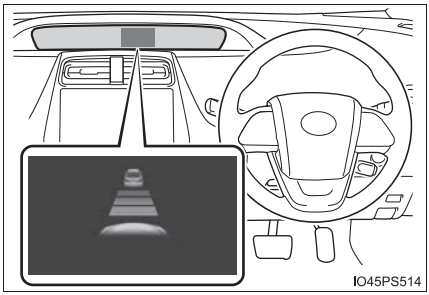
② 制御を復帰させるには、レバーを上げる



IO45PS060

接近警報（車間制御モード）

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。



■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルを踏んだとき

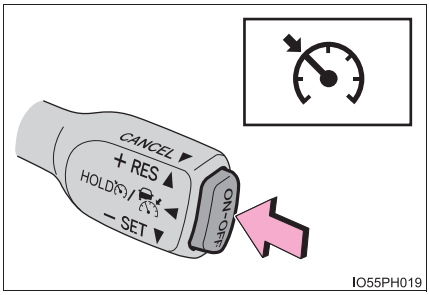
定速制御モードでの走行

定速制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行わず、一定の車速で走行します。レーダーの汚れなどにより、車間制御モードで走行できない場合のみご使用ください。

1 クルーズコントロールが OFF の状態で、ON-OFF スイッチを 1.5 秒以上押し続ける

ON-OFF スイッチを押した直後は、レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。その後、クルーズコントロール表示灯に切りかわります。

システムがOFFの状態から操作したときのみ、定速制御モードへの切りかえが可能です。



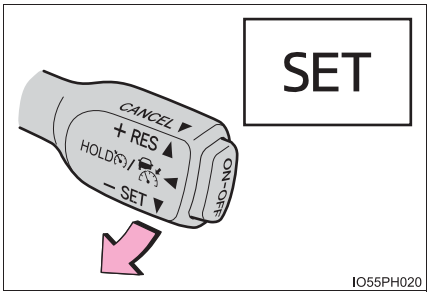
2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの車速で定速走行できます。

設定速度をかえる（→ P. 452）

制御を解除する・復帰させる（→ P. 454）



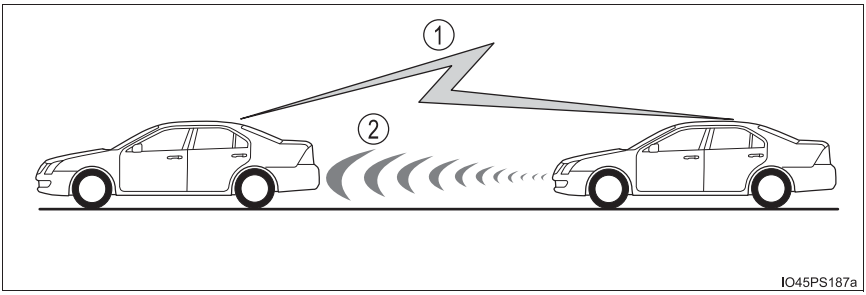
通信利用型レーダークルーズコントロール（ITS Connect 装着車）

通信利用型レーダークルーズコントロールは、ITS Connect が装着されている車両のみ利用できます。

ITS Connect については P. 467 を参照してください。

このシステムは車間制御モードでの追従走行中、先行車も通信利用型レーダークルーズコントロールに対応している場合に自動的に作動します。

■ 情報取得



① 先行車との通信

加減速情報などを取得します。

② レーダー

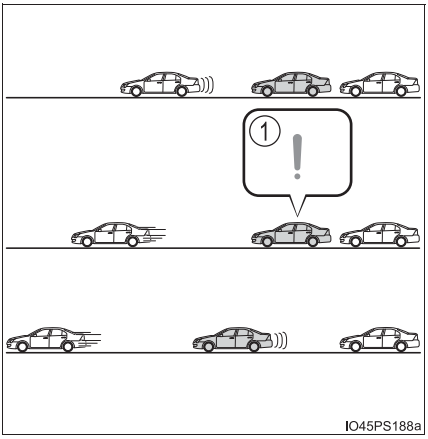
車間距離情報などを取得します。

■ システム作動について

先行車の加減速の情報を通信で取得することにより、先行車の加減速に素早く追従して車間距離や速度の変動を抑制し、スムーズな追従走行に寄与します。また、先行車が認識できなくなった場合は自動的に車間制御モードに切りかわります。

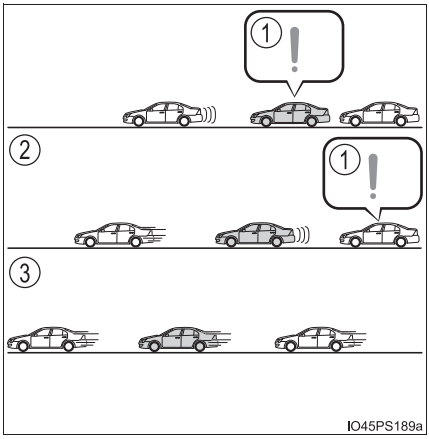
車間制御モードに比べて、次のような作動になります。

● 車間制御モード



① 先行車の発進に遅れて気付く

● 通信利用型レーダークルーズコントロール



① 先行車の発進に素早く気付く
② スムーズな加速で追従
③ 短時間で渋滞解消

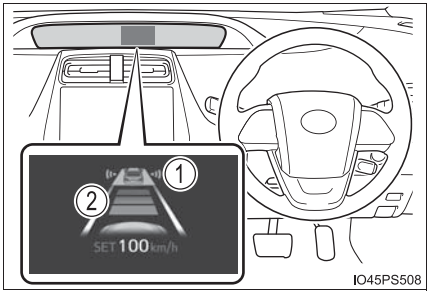
■ 通信利用型レーダークルーズコントロールの ON ／ OFF を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの 画面（→ P. 297）から、通信利用型クルーズコントロールの ON（作動）／ OFF（非作動）を変更することができます。

■ システム作動時の表示

① 先行車通信マーク

② 車間距離表示



■ 通信利用型レーダークルーズコントロールの作動目安

レーダークルーズコントロールの車間距離設定に応じて、本機能の作動レベルがかわります。(→ P. 453)

車間距離設定	作動目安
長い	ゆったりとした加減速による追従走行
中間	中間の追従走行
短い	きびきびとした加減速による追従走行

知識

■設定条件について

●シフトポジションが D のとき設定できます。

●車速が約 30km/h 以上のとき、希望の設定速度に設定できます。
(ただし車速が約 30km/h 未満で設定したときは、設定速度が約 30km/h に設定されます)

■車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■追従走行中の停車制御について

●制御停車中にレバーを上げた場合、約3秒以内に先行車が発進すれば追従走行にもどります。

●先行車に続いて停車したあと約3秒以内に先行車が発進した場合、追従走行にもどります。

■車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

●VSC が作動したとき

●TRC が一定時間作動したとき

●TRC または VSC を OFF にしたとき

●センサーが何かでふさがれて正しく検知できないとき

●運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき
（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）

●パーキングブレーキが作動したとき

●急坂路で制御停車したとき

●制御停車中に次を検出したとき

・運転席シートベルトを着用していない
・運転席ドアが開いた
・車両が停止したあと約 3 分経過した
自動で P ポジションに切りかわることがあります。（→ P. 383）

上記以外の理由で車間制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■定速制御モードの自動解除

次のとき、自動的に定速制御モードが解除されます。

●設定速度より車速が約 16km/h 以上低下したとき

●車速が約 30km/h 未満になったとき

●VSC が作動したとき

●TRC が一定時間作動したとき

●TRC または VSC を OFF にしたとき

●運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき
（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）

上記以外の理由で定速制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■通信利用型レーダークルーズコントロールについて

●本機能によって、車間制御モードの速度や車間距離設定が変更されることはありません。

●先行車が通信利用型レーダークルーズコントロールに対応していないときは、本機能は作動しません。

●先行車や周囲の車両の走行状態によっては、スムーズな追従走行が行われない場合や、自車の速度や先行車との車間距離に影響がおよぶ場合があります。必要に応じてブレーキ・アクセルを操作してください。

■通信利用型レーダークルーズコントロールが作動しないおそれがある状況

次のような状況では、通信利用型レーダークルーズコントロールが作動しない、または通信利用型レーダークルーズコントロールから車間制御モードに切りかわる場合があります。

●先行車との通信が途絶したとき

●センサーが先行車を誤って検知したとき

●トンネルやビル街などで、自車または先行車の GPS 受信状態や通信状態が悪化しているとき

●雪道などスリップしやすい路面を走行しているとき

●急な坂道を走行しているとき

●追従していた先行車が車線変更などで離脱したとき

●通信していた先行車とのあいだに、通信利用型レーダークルーズコントロールに対応していない車両が割り込んできたとき

■ブレーキが作動したとき

ブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えがかわったりすることがありますが異常ではありません。

■レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。（→ P. 419, 727）

■センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

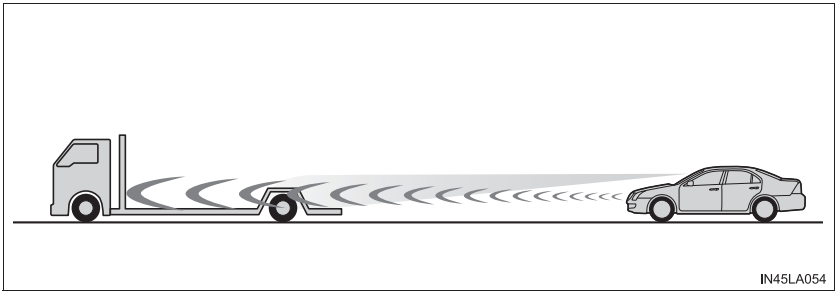
次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。
センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→ P. 455）も作動しないおそれがあります。

●先行車が急に割り込んできたとき

●先行車が低速で走行中のとき

●同じ車線に停車中の車がいるとき

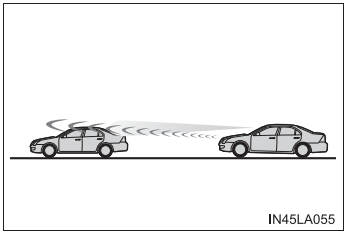
●先行車の後部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）



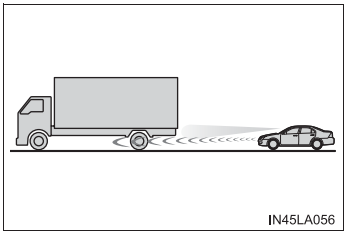
●同じ車線を二輪車が走行中のとき

●周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーの検知のさまたげになる場合

●自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）



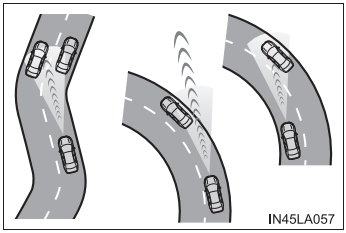
●先行車の車高が極端に高いとき



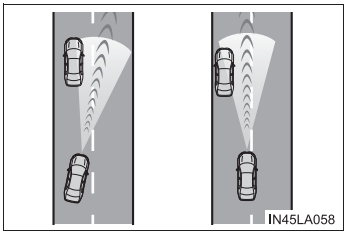
■車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況

次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってアクセルペダルを操作）してください。
センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

●カーブや車線幅が狭い道路などを走行する場合



●ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合



●先行車が急ブレーキをかけた場合

●道路脇に構造物がある道（トンネル・橋など）を走行する場合

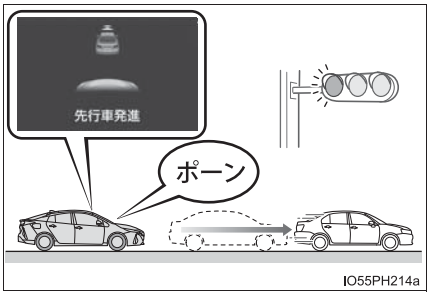
●アクセルペダルを踏んで加速したあと、車速が設定速度にもどるとき

先行車発進告知機能

先行車の発進後、自車が停止し続けた場合、警告ブザーとマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停止しているときに先行車を認識し続け、先行車が発進してしばらく進んでも自車が停止し続けた場合にお知らせします。



知識

■作動条件

次のいずれかの条件を満たしたときに作動します。

●シフトポジションがP・R以外でブレーキペダルを踏んで、停止している、またはシフトポジションがNで停止しているとき

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が作動していて、制御停車中のとき

■先行車が発進していても告知しない場合があるとき

例えば次のような状況では、前方カメラとレーダーが対象を検出できず、システムが正常に作動しない場合があります。

●自車と先行車の停止位置がずれており、先行車を正しく認識できないとき

●先行車との車間距離が極端に短くなり、先行車を正しく認識できないとき

●坂道やカーブなどにより、先行車を正しく認識できないとき

●先行車の背面形状（けん引をしている車両や荷物を積んでいないトレーラー、雪や泥などが大量に付着している車両など）やボデーカラーなどにより、先行車を正しく認識できないとき

●先行車がオートバイ・自転車などのとき

●先行車の右左折や車線変更などにより、先行車を認識できなくなったとき

●悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）・煙・水蒸気などにより、先行車を認識できないとき

●前方カメラとレーダー前面に雨滴、雪などが付着し、先行車を正しく認識できないとき

●前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車を正しく認識できないとき

●プリクラッシュセーフティが一時的に使用できないときや、故障などによりPCS 警告灯が点滅または点灯しているとき

●右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき

■先行車が発進していなくても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場合があります。

●悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）により、先行車の発進を誤認識したとき

●坂道やカーブなどにより、先行車ではないものを先行車と認識しているとき

●前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車ではないものを先行車と認識しているとき

●先行車がいない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき

●自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき

■先行車発進告知機能の設定を変更するには

●先行車発進告知機能の ON ／ OFF

システムの ON ／ OFF を切りかえることができます。（→ P. 297）

●先行車発進告知機能の告知距離

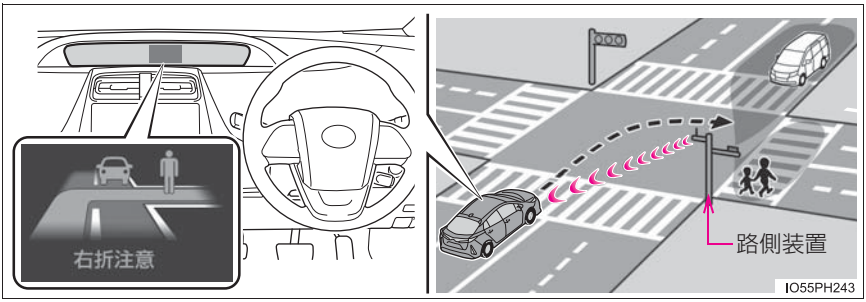
告知する距離を切りかえることができます。（→ P. 297）

ITS Connect ★

ITS Connect の概要

ITS Connect は、交通情報や周辺車両の情報を受信することにより、安全運転や快適な運転を支援するシステムです。

◆ 安全運転を支援する通知・案内・注意喚起



ITS Connect は、道路に設置された DSSS※ 用路側装置や通信機を搭載した車両と無線通信することで、見通しが悪い交差点の交通状況などの情報を受信します。

受信した情報は、状況に応じて通知・案内や注意喚起としてマルチインフォメーションディスプレイに表示され、運転者に注意をうながすことにより安全運転を支援します。

※ DSSS（Driving Safety Support Systems）とは、運転者の認知・判断の遅れや誤りによる交通事故を未然に防止することを目的とするシステムで、警察庁が推進しているプロジェクトです。

◆ 通信利用型レーダークルーズコントロール

先行車との通信により受信した加速／減速情報をレーダークルーズコントロールの制御に利用し、よりスムーズな追従走行に寄与することで快適な運転を支援します。詳細は P. 457 を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
ITS Connect はあらゆる状況で安全運転の支援をするものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ITS Connect は安全運転の支援を目的として設計していますが、その効果はさまざまな条件によりかわり、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
「システムが正常に作動しないおそれがあるとき」（→ P. 475）をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

■ITS Connect について

●次のような状況では、ITS Connect は作動しません。

・交差点に DSSS 用路側装置が設置されていないとき
・先行車や接近してくる車両に通信機が搭載されていないとき

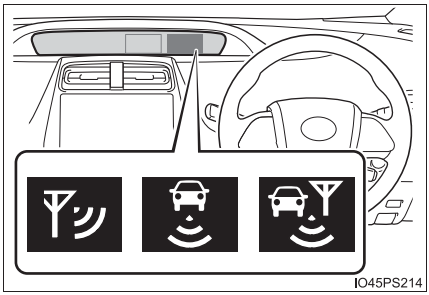
●交差点に進入する方向によっては、作動する通知・案内・注意喚起が異なる場合があります。

■右折時注意喚起について

DSSS 用路側装置が設置された交差点であっても、DSSS 用路側装置の種類や交差点に進入する方向によっては、対向車のみを検知し、歩行者に対する注意喚起をしない場合があります。
そのため、注意喚起の表示内容が実際の交通状況と異なる場合があります。「割り込み表示による通知・案内・注意喚起」（→ P. 470）をお読みいただき、必ず自らの目視による安全確認を行ってください。

ITS Connect アイコンの見方

ITS Connect の機能が利用可能なとき、メインディスプレイに次のアイコンを表示して通信の接続状態をお知らせします。



アイコン	接続状態
	道路に設置された DSSS 用路側装置から必要な情報を取得できている
	通信機を搭載した車両から必要な情報を取得できている
	道路に設置された DSSS 用路側装置、および通信機を搭載した車両、両方から必要な情報を取得できている

割り込み表示による通知・案内・注意喚起

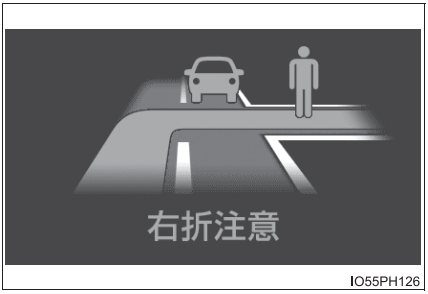
状況に応じて、次の通知・案内・注意喚起をマルチインフォメーションディスプレイに割り込み表示します。

■ 右折時注意喚起

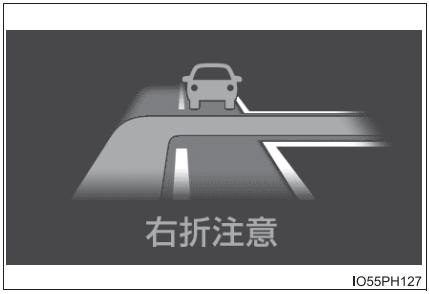
交差点で右側方向指示灯を点滅させて右折待ちをしているときに、対向車や歩行者がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、対向車や右折先の歩行者を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

交差点に設置されている DSSS 用路側装置（感知器）の種類によって、注意喚起の表示は次のように異なります。

▶ 対向車および歩行者を感知する交差点



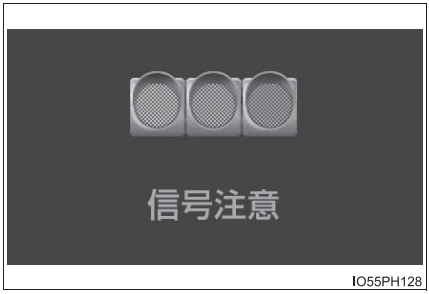
▶ 対向車のみを感知する交差点



・注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
・一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

■ 赤信号注意喚起

赤信号の交差点手前にさしかかってもアクセルペダルを踏み続けているなど、赤信号を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

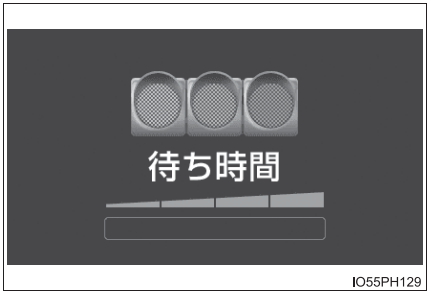


IO55PH128

■ 信号待ち発進準備案内

赤信号で停車したとき、青信号にかわるまでの待ち時間の目安をバー表示で表します。

待ち時間が残り少なくなるとバー表示が消え、まもなく信号がかわることを表します。



IO55PH129

■ 緊急車両存在通知

緊急車両（救急車）がサイレンを鳴らして近辺を走行しているときに、ブザーが鳴り、自車に対する緊急車両のおおよその方向・距離・進行方向を表示します。

緊急車両の距離と進行方向が表示されていないときは、自車のすぐ近くに緊急車両がいることを表します。

IO55PH130

■ 一時停止注意喚起 ※1, 2

一時停止の交差点手前にさしかかってもアクセルペダルを踏み続けているなど、一時停止を見落している可能性があるとシステムが判断したときにブザーと表示で注意喚起を行います。

IO55PH023

■ 前方停止車両存在案内 ※1, 2

見通しが悪いカーブの先などで、渋滞などによって先行車両が停止または低速で走行しているときに、ブザーと表示でお知らせします。

IO55PH024

■ わき道車両存在案内 ※1, 2

見通しが悪い交差点のわき道に車両がいるときに、ブザーと表示でお知らせします。

IO55PH025

※1 エントリーナビキットまたは T-Connect ナビキット装着車、かつ ETC2.0 ユニット（ビルトイン）ナビキット連動タイプ（光ビーコン機能付）装着車のみ

※2 一時停止注意喚起・前方停止車両存在案内・わき道車両存在案内について、正常に作動しないおそれがある状況など、詳しくは別冊「ナビゲーション取扱書」を参照してください。

通信車両接近通知

交差点などで停車しているときに、通信機を搭載した車両が接近してくると、通信車両のおおよその方向を表示します。

接近してくる方向が正面の場合は、右側方向指示灯を点滅させているときのみ表示します。

IO45PS202a

■ 通信車両接近通知の使い方

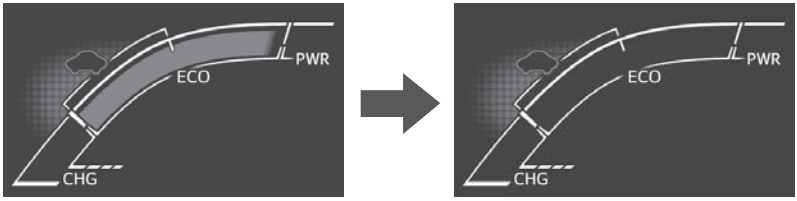
● マルチインフォメーションディスプレイで専用の通知画面を表示しているときに使用することができます。

ハンドルのメーター操作スイッチの〈または〉を押して を選択し、∧または∨を押して、通知画面を表示してください。

● 車両が停止しているときに表示が有効になります。車両が完全に停止していないときは通知されません。

信号情報利用型エコアクセルガイド

赤信号により交差点で停止すると予測されるときに、ハイブリッドシステムインジケーターのエコアクセルガイド（→ P. 280）のゲージを 0 にし、運転者が余分な加速をし続けないように支援します。



IO45PS251

各機能の設定変更

マルチインフォメーションディスプレイの 画面（→ P. 297）で、機能の設定を変更することができます。

● 信号情報

次の機能の作動・非作動を変更することができます。
・赤信号注意喚起
・信号待ち発進準備案内
・信号情報利用型エコアクセルガイド

● 道路環境情報

次の機能の作動・非作動を変更することができます。
・一時停止注意喚起 ※
・右折時注意喚起
・前方停止車両存在案内 ※
・わき道車両存在案内 ※

● 支援タイミング

次の機能の表示タイミングを変更することができます。
・赤信号注意喚起
・一時停止注意喚起 ※
・右折時注意喚起
・信号情報利用型エコアクセルガイド

● 緊急車両通知

緊急車両存在通知の作動・非作動を変更することができます。

● クルーズ（ITS）

通信利用型レーダークルーズコントロールの作動・非作動を変更することができます。

※ エントリーナビキットまたは T-Connect ナビキット装着車、かつ ETC2.0 ユニット（ビルトイン）ナビキット連動タイプ（光ビーコン機能付）装着車のみ

知識

■交差点ごとの作動する通知・案内・注意喚起について

道路に設置されている DSSS 用路側装置の種類により発信している情報が異なるため、交差点によって作動する通知・案内・注意喚起は異なります。

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●例えば次のような状況などでは、車両の位置や向きを正しく特定できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

・高いビルや高い街路樹に囲まれているとき
・トンネルや高架下を通過しているとき
・ハイブリッドシステムを始動してから、しばらく走行するまでのあいだ

●例えば次のような状況などでは、正しく通信ができず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

・周囲に大型車が走行しているときなど、通信がさえぎられたとき
・通信を妨害する電波が発せられているとき
・DSSS 用路側装置の向きがかわってしまっているとき
・DSSS 用路側装置がメンテナンス中や故障しているとき
・他車両の通信機が故障しているとき

●右折時注意喚起は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。

・交差点内で一旦停止せずに右折しようとしたとき
・周囲の環境や天候、DSSS 用路側装置の劣化などの影響により、対向車や歩行者の検知性能が低下しているとき
・対向車や歩行者が周囲の建物や別の車両に隠れているとき
・DSSS 用路側装置の検知範囲外に対向車や歩行者がいるとき
・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

●赤信号注意喚起は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。

・遅い速度で走行しているとき
・停車しているとき
・交差点付近の側道や駐車場内の通路など、DSSS 路側装置が設置された道路と並行する場所を走行しているとき
・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

●信号待ち発進準備案内は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。

・前方の信号機が青信号・黄信号または矢印信号のとき
・青信号にかわるまでの待ち時間が残り少ないとき
・停車していないとき
・交差点付近の側道や駐車場内の通路など、DSSS 路側装置が設置された道路と並行する場所を走行しているとき
・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

●緊急車両存在通知は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。

・緊急車両と自車の距離が一定以上離れているとき
・緊急車両が自車から遠ざかる方向に走行しているとき
・立体交差付近を走行しているとき
・緊急車両から受信した情報が誤っているとき

●通信車両接近通知は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。

・相手通信車両から受信した情報が誤っているとき

●信号情報利用型エコアクセルガイドは、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。

・前方の信号機が青信号・黄信号または矢印信号のとき
・遅い速度で走行しているとき
・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

■ITS Connect 機器に関する情報

●本製品は、トロンフォーラム（www.tron.org）の T-License2.0 に基づき T-Kernel ソースコードを利用しています。

●本機は、ITS Connect 推進協議会が規定する相互接続性確認試験に適合しています。
機種名：DTU-1010
型式認定番号：10005

●本システムは、周波数 760MHz の電波を発信するため、お車を海外へ持ち込んだ場合はその国の関連法規に違反する場合があります。

■ITS Connect に関するお問い合わせについて

ITS Connect に関するお問い合わせ（機器の調子・機能・使用方法や道路上の通信設備の整備計画など）はトヨタ販売店にお問い合わせください。

⚠注意

■ITS Connect 機器取り扱いの注意

・ITS Connect 機器は電波法の基準に適合しています。ITS Connect 機器に貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。
・ITS Connect 機器を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

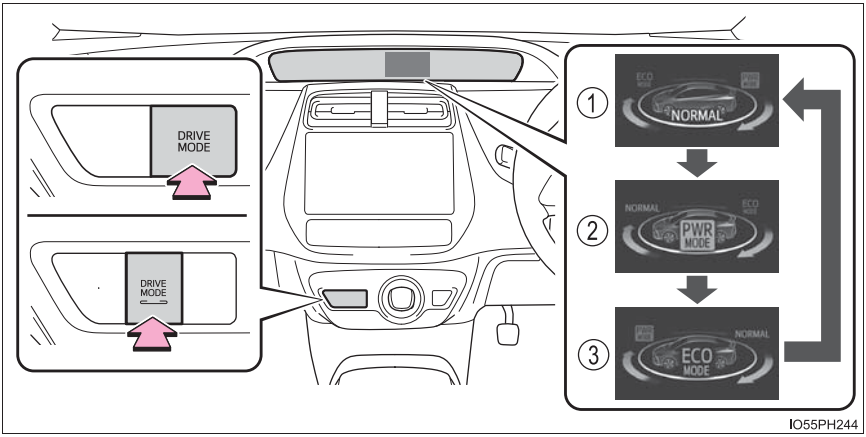
ドライブモードセレクトスイッチ

走行状況に応じて、3 種類から走行モードを選択することができます。

走行モードについて

目的の走行モードに切りかわるまで、スイッチをくり返し押す

スイッチを押すたびに走行モードが切りかわり、エコドライブモード表示灯／パワーモード表示灯の点灯状態がかわります。



① ノーマルモード

通常の走行に適しています。

ノーマルモードの選択中は、エコドライブモード表示灯／パワーモード表示灯がともに消灯します。

② パワーモード

山岳路などで、アクセルレスポンスのよい、きびきびとした走りを楽しみたいときに適しています。

パワーモードの選択中は、パワーモード表示灯が点灯します。

③ エコドライブモード

ノーマルモードにくらべて、アクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになり、燃費を向上させる走行に適しています。

エコドライブモードの選択中は、エコドライブモード表示灯が点灯します。

エアコンの使用時は、エコ空調モード（→ P. 597）に自動的に切りかわり、より燃費のよい走行につながります。

知識

■パワーモードの自動解除

- パワーモードは、パワースイッチを OFF にすると自動的に解除され、ノーマルモードにもどります。
- ノーマルモード、およびエコドライブモードは、スイッチ操作でほかの走行モードに切りかえるまで解除されません。（パワースイッチを OFF にしても自動では解除されません）

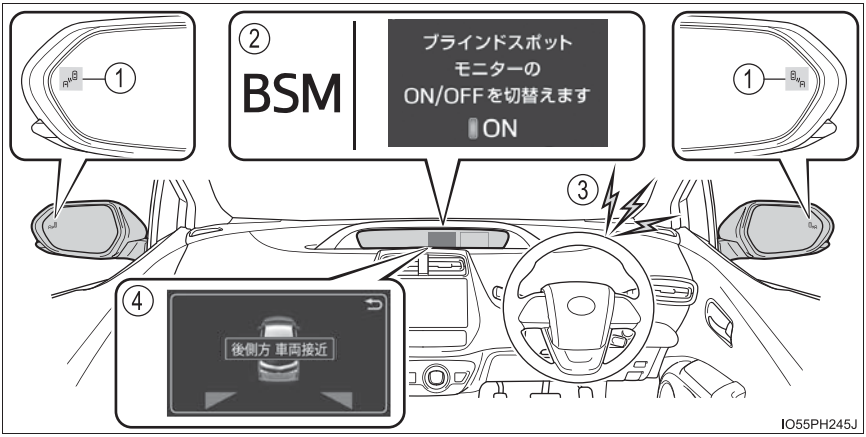
BSM（ブラインドスポットモニター）★

ブラインドスポットモニターの概要

ブラインドスポットモニターには 2 つの機能があります。

- BSM（ブラインドスポットモニター）機能
  運転者による車線変更時の判断を支援します。
- RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能
  後退時に運転者を支援します。

これらの機能は同じセンサーを使用します。



① ドアミラーインジケーター

BSM 機能：
ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、検知した側のドアミラーインジケーターが点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

RCTA 機能：
自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、両側のドアミラーインジケーターが点滅します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

② マルチインフォメーションディスプレイ／ BSM 表示灯

BSM 機能・RCTA 機能の ON ／ OFF を切りかえます。

BSM 機能が ON のとき、BSM 表示灯が点灯します。

③ RCTA ブザー（RCTA 機能のみ）

自車の右後方･左後方から接近している車両を検知したときは、ブザーが鳴ります。

④ RCTA 検知画面（RCTA 機能のみ）

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、RCTA 検知画面がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

設定のしかた

マルチインフォメーションディスプレイの 画面でBSM／RCTAのON（作動）・OFF（停止）の切りかえができます。（→ P. 297）

OFF（停止）に切りかえて、BSM ／ RCTA を停止させた場合、再度マルチインフォメーションディスプレイから ON（作動）に切りかえないとシステムは復帰しません。（パワースイッチの操作では復帰しません）

知識

■ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■RCTA ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオなど大きな音がする場合、RCTA ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「BSM　現在使用できません」または「RCTA 現在使用できません」が表示されたとき

電圧異常やセンサー周辺のリヤバンパー上方に氷・雪・泥などが付着していることが考えられます（→ P. 482）。センサー周辺のリヤバンパー上方の氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合、正常に作動しないことがあります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「BSM 故障　販売店で点検してください」または「RCTA 故障　販売店で点検してください」が表示されたとき

センサーの故障や位置・向きのずれなどが考えられます。トヨタ販売店にて点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
（→ P. 297）

■レーダーセンサーの取り扱いについて

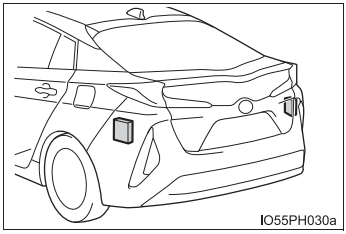
本製品は各国の電波法に適合しています。製品表面の印字はその証明ですので、消さないでください。
製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。

R 202 -LSC077

警告

■システムを正しく作動させるために

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパーの内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。



- センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておく
- センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける
  センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。
  次のような場合には、必ずトヨタ販売店にて点検を受けてください。
  ・センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた
  ・センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部が外れている
- センサーを分解しない
- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーにステッカーを貼ったり、アクセサリー用品を取り付けたりしない
- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーを改造しない
- リヤバンパーの塗装修理の際にはトヨタ設定色以外への変更は行わないでください

BSM 機能

BSM 機能はレーダーセンサーにより隣の車線を走行する次の車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによってその車両の存在を運転者に知らせます。

BSM 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。

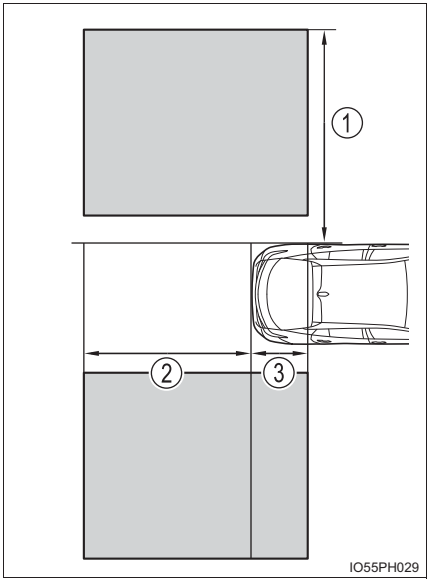
検知できる範囲：

① 車両の両側面について、側面から約 3.5 m の領域

車両側面から外側に約 0.5 m は検知しません。

② リヤバンパーから約 3 m 後方の領域

③ リヤバンパーから約 1 m 前方の領域



警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

BSM 機能は、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認をおこなう必要があります。

知識

■BSM 機能の作動条件

BSM 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●BSM 機能が ON のとき

●車速が約 16 km/h 以上のとき

■BSM 機能が車両を検知する条件

BSM 機能は、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

●隣の車線を走行する他車に自車が追い越されるとき

●小さい速度差で隣の車線を走行する他車を追いこすとき

●他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

■システムが検知しない条件

BSM 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●小型のオートバイ・自転車・歩行者など ※

●対向車

●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※

●同じ車線を走行する後続車 ※

●2 つ隣の車線を走行する他車 ※

●大きい速度差で自車が追い越す他車 ※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■システムが正しく作動しないおそれがある状況

●BSM 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。

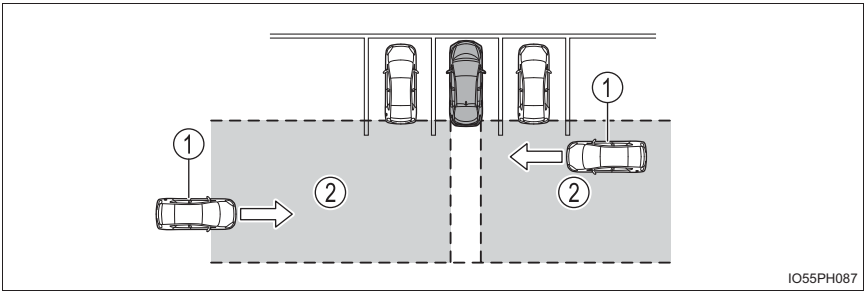
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパー上方に付着したとき
・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき
・複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
・自車と後続車の車間距離が短いとき
・検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
・自車と他車の速度差に変化があるとき
・検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
・停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーやけん引フックを装着しているとき
・検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
・BSM 機能を ON にした直後

●BSM 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・タイヤがスリップ（空転）しているとき
・自車と後続車の車間距離が短いとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーやけん引フックを装着しているとき

RCTA 機能

RCTA 機能はレーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、ドアミラーのインジケーターとブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。



① 接近車両

② 接近車両を検知できる範囲

警告

■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。（→ P. 483）

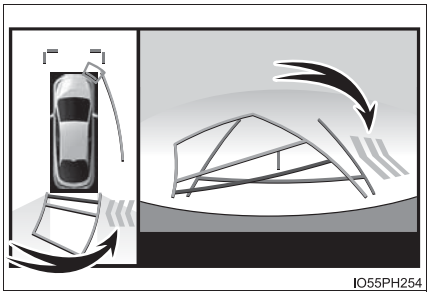
■システムを正しく作動させるために

→ P. 482

RCTA アイコン表示★

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、マルチメディア画面上に次の表示をします。

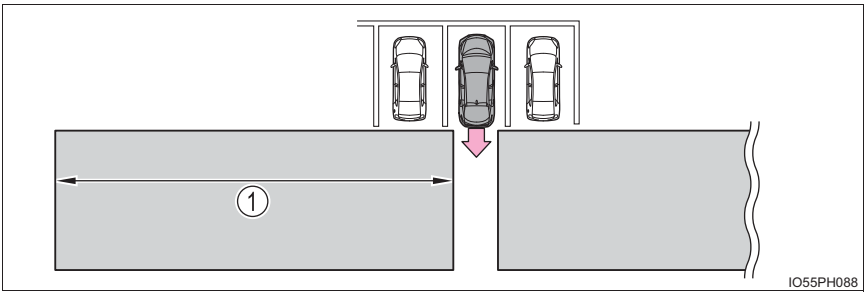
イラストは右後方から車両が接近している例です。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

RCTA 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



速度が速い車両に対しては、より離れた位置で警報ブザーを鳴らします。

例：

接近車両	速度	①警報距離（概算）
速い	28 km/h	20 m
遅い	8 km/h	5.5 m

知識

■RCTA 機能の作動条件

RCTA 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●BSM 機能が ON のとき

●シフトポジションが R のとき

●自車の車速が約 8 km/h 以下のとき

●接近する他車の車速が約 8 km/h ～ 28 km/h のあいだのとき

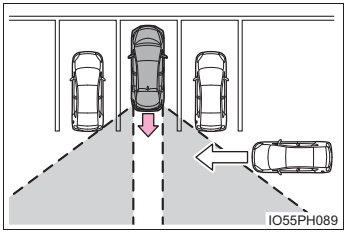
■システムが検知しない車両について

RCTA 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●真うしろから接近する車両

●自車の隣の駐車スペースで後退する車両

●障害物のためにセンサーが検知できない車両



●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※

●小型の二輪車、自転車、歩行者など※

●自車から遠ざかる車両

●自車の隣の駐車スペースから接近する車両※

●センサーと接近車両との距離が近すぎる場合

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■システムが正常に作動しないおそれがある状況

RCTA 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。

●センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき

●泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき

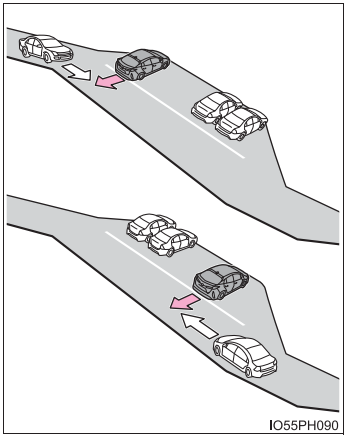
●大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき

●複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき

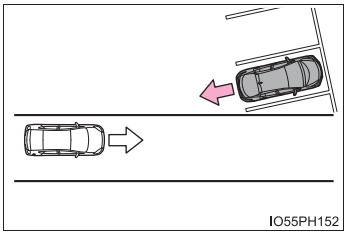
●車両が高速で接近するとき

●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

●勾配の変化が激しい坂で後退しているとき



●斜めの駐車場から出庫するとき



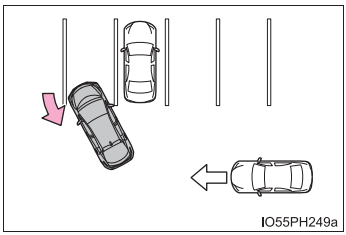
●検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき

●炎天下や寒冷時

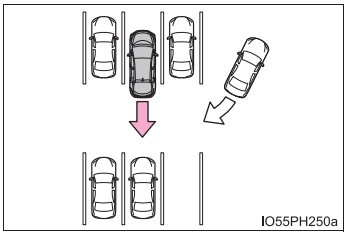
●ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき

●車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

●自車が旋回しているとき



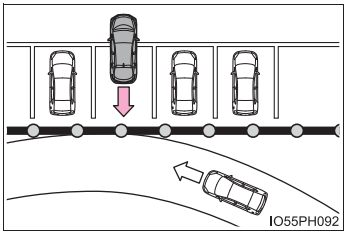
●旋回しながら車両が近づいてきたとき



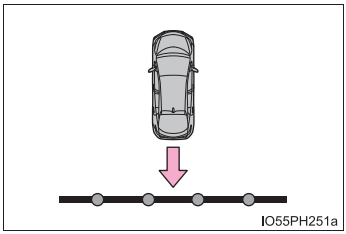
■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

RCTA 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

●駐車場に面した道を車両が走行しているとき

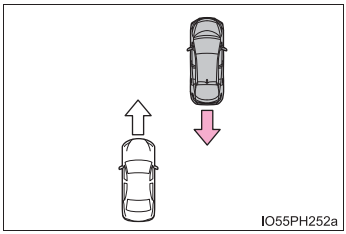


●車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき

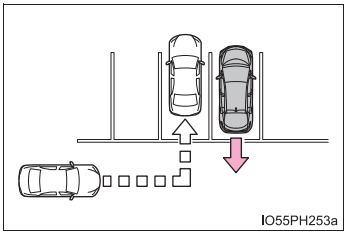


●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

●車両が自車の横を通過するとき



●自車の近くで旋回していく移動物が存在するとき



●自車近くに室外機などの回転体があるとき

●センサーに向けてスプリンクラーなどによる水の飛散があったとき

●動いているもの（旗・排気ガス・大粒の雨や雪、路面の雨水など）

●ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき

●グレーチングや側溝

●炎天下や寒冷時

●ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
●車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

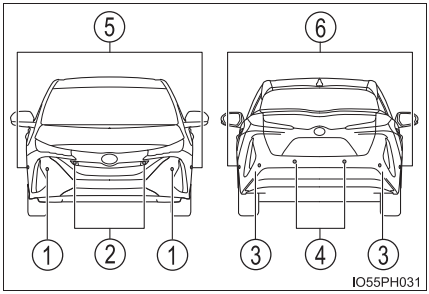
クリアランスソナー★

クリアランスソナーは、低速（約 10km/h 以下）で運転しているときに、車両と障害物とのおおよその距離を超音波センサーによって感知して、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイおよびマルチメディア画面★の距離表示とブザー音で運転者にお知らせする補助装置です。

センサーの位置・種類

① フロントコーナーセンサー
② フロントセンサー
③ リヤコーナーセンサー
④ バックセンサー
⑤ フロントサイドセンサー ※
⑥ リヤサイドセンサー ※

※ S-IPA（シンプルインテリジェントパーキングアシスト）装着車のみ

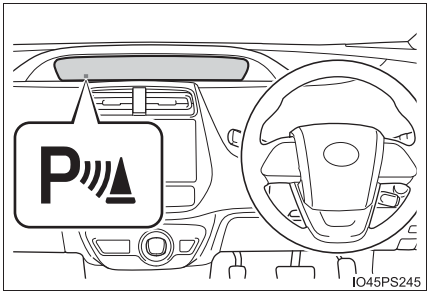


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

クリアランスソナーの切りかえ

マルチインフォメーションディスプレイの 画面（→ P. 297）から、クリアランスソナーの ON（作動）／ OFF（非作動）を切りかえることができます。

ON（作動）を選択すると、クリアランスソナー表示灯が点灯します。

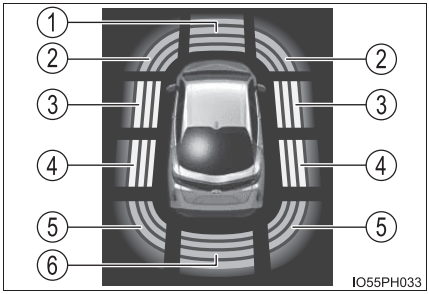


OFF（非作動）に切りかえて、クリアランスソナーを停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの 画面から ON（作動）に切りかえないとシステムは復帰しません。（パワースイッチの操作では復帰しません）

クリアランスソナーの表示のしかた

壁などの静止物を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイまたはマルチメディア画面★に表示されます。

■ マルチインフォメーションディスプレイの表示



① フロントセンサー作動表示

② フロントコーナーセンサー作動表示

③ フロントサイドセンサー作動表示★

④ リヤサイドセンサー作動表示★

⑤ リヤコーナーセンサー作動表示

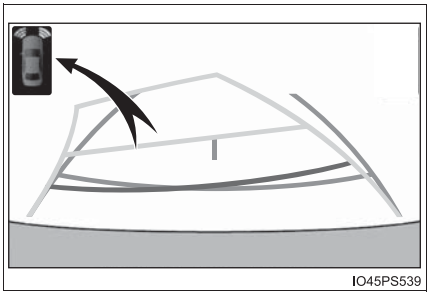
⑥ バックセンサー作動表示

・センサーが作動している場合は、灰色で作動表示されます。

・サイドエリアのスキャンが完了するまでのあいだは、フロントサイドセンサー作動表示、リヤサイドセンサー作動表示は表示されません。

■ マルチメディア画面の表示★

静止物を検知すると自動的に表示されます。

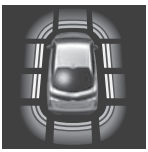
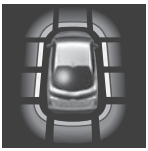


距離表示の見方

静止物を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイおよびマルチメディア画面★の作動表示が点灯（一部、点滅）します。

S-IPA（シンプルインテリジェントパーキングアシスト）装着車では、サイドエリアのスキャンが完了するまでの間は、フロントサイドセンサー作動表示、リヤサイドセンサー作動表示は表示されません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

マルチインフォメーションディスプレイ※1, 2	マルチメディア画面※1	障害物までのおおよその距離		
		—	フロントコーナー＆フロントセンサー／フロントサイドセンサー★	リヤコーナー＆バックセンサー／リヤサイドセンサー★
（点灯）	（遅い点滅）	遠い ↑	**フロントセンサー**： 約100cm～60cm	**バックセンサー**： 約150cm～60cm
（点灯）	（点滅）		**コーナーセンサー**： 約60cm～45cm **サイドセンサー**： 約100cm～70cm **フロントセンサー**： 約60cm～45cm	**コーナーセンサー**： 約60cm～45cm **サイドセンサー**： 約100cm～70cm **バックセンサー**： 約60cm～45cm
 （点灯）	（早い点滅）		**コーナーセンサー**： 約45cm～35cm **サイドセンサー**： 約70cm～30cm **フロントセンサー**： 約45cm～35cm	**コーナーセンサー**： 約45cm～35cm **サイドセンサー**： 約70cm～30cm **バックセンサー**： 約45cm～35cm
 （点滅）	（点灯）	近い ↓	**コーナーセンサー**： 約 35cm 以下 **サイドセンサー**： 約 30cm 以下 **フロントセンサー**： 約 35cm 以下	**コーナーセンサー**： 約 35cm 以下 **サイドセンサー**： 約 30cm 以下 **バックセンサー**： 約 35cm 以下

※1 イラストは説明のための例であり、センサーの検知状態により表示は異なります。（→ P. 494）

※2 S-IPA（シンプルインテリジェントパーキングアシスト）装着車では、センサー表示が灰色で表示されます。また、サイドエリアのスキャンが完了するまでの間は、フロントサイドセンサー作動表示、リヤサイドセンサー作動表示は表示されません。（→ P. 498）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ブザーについて

障害物を感知すると、ブザーが鳴ります。

- 障害物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。障害物との距離が次のとき、ブザーは断続音 “ピピピ” から連続音 “ピー” になります。
  - ・フロントコーナーセンサーが感知した障害物との距離が約35cm以下
  - ・フロントサイドセンサー★、リヤサイドセンサー★が感知した障害物との距離が約 30cm 以下
  - ・フロントセンサーが感知した障害物との距離が約 35cm 以下
  - ・リヤコーナーセンサーが感知した障害物との距離が約 35cm 以下
  - ・バックセンサーが感知した障害物との距離が約 35cm 以下
- 複数のセンサーが同時に障害物を感知しているときは、最も近い障害物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。
- 障害物を車両の前後で同時に感知しているときは、フロント側、リヤ側それぞれで、障害物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。

ブザーの音量と鳴るタイミングを変更することができます。(→ P. 780)

障害物を感知できる範囲

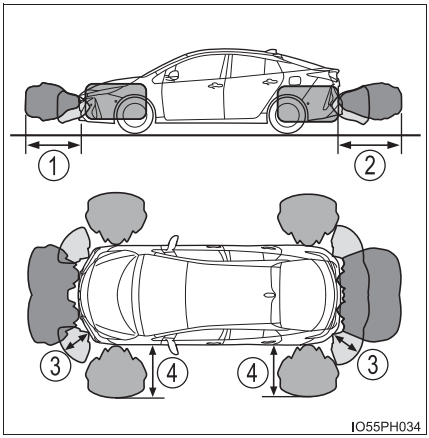
① 約 100cm（約 1.0m）

② 約 150cm（約 1.5m）

③ 約 60cm（約 0.6m）

④ 約 100cm（約 1.0m）

- ・感知できる範囲は右図のとおりです。ただし、障害物がセンサーに近付きすぎると感知できません。
- ・サイドエリアの障害物の感知については P. 498 を参照してください。
- ・障害物の形状・条件によっては感知できる距離が短くなることや、感知できないことがあります。



障害物を感知できる範囲を変更することができます。(→ P. 780)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

●フロントコーナーセンサー：

・シフトポジションが P 以外にあるとき
・車速が約 10km/h 以下のとき

●フロントサイドセンサー★／リヤサイドセンサー★：

・シフトポジションが P 以外にあるとき
・車速が約 10km/h 以下のとき
・ハンドルを約 90 度以上きっているとき

●フロントセンサー：

・シフトポジションが P・R 以外にあるとき
・車速が約 10km/h 以下のとき

●リヤコーナーセンサー／バックセンサー：

シフトポジションが R にあるとき

■クリアランスソナーの割り込み表示について（S-IPA[シンプルインテリジェントパーキングアシスト] 装着車のみ）

→ P. 522

■センサーの感知について

●センサーの感知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。

●障害物の形状・条件によって感知できる範囲が短くなることや、感知できないことがあります。

●センサーが障害物に近付きすぎると感知できないことがあります。

●障害物を感知してから、表示やブザーが出るまでに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも、表示やブザーが出る前に障害物に近付きすぎると、表示が出なかったり、ブザーが鳴らない場合があります。

●センサーより低い物体や細い杭などは、一度感知しても接近すると突然感知しなくなることがあります。

●オーディオ★・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。

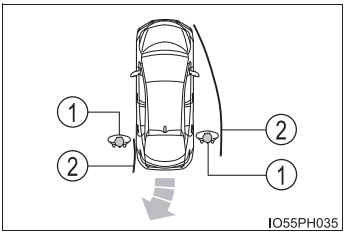
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■巻き込み警報機能（S-IPA［シンプルインテリジェントパーキングアシスト］装着車のみ）

前進または後退時、サイドエリアの障害物が車両の経路内にある場合に、表示とブザーで運転者に知らせます。（→ P. 494，496）

① 障害物

② 計算した車両経路



■サイドエリアの障害物について（S-IPA［シンプルインテリジェントパーキングアシスト］装着車のみ）

●サイドエリアの障害物は、走行しながらサイドセンサーでスキャンすることで感知し、最大約 2 分間保持します。

●スキャンが完了するまでは、サイドエリアに障害物があっても感知できない場合があります。パワースイッチを ON モードにしたあと、しばらく走行するとスキャンが完了します。

●サイドセンサーで車・人・動物などを感知したときは、車・人・動物などがサイドセンサーの感知範囲内から出ても感知している状態が継続します。

■マルチインフォメーションディスプレイに「ソナーの汚れを除去してください」が表示されたとき

クリアランスソナーのセンサーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。
この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。
また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても感知しないことがあります。氷が溶ければ、正常に復帰します。センサー部に氷・雪・泥などが付着してないのに警告メッセージが表示している場合は、センサーの異常が考えられますのでトヨタ販売店で点検を受けてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「クリアランスソナー故障」が表示されたとき

センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。
トヨタ販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

ブザーの音量などを変更できます。（カスタマイズ一覧：→ P. 780）

■システムが正しく検知できないことがある静止物

静止物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

●針金・フェンス・ロープなどの細いもの

●綿・雪などの音波を吸収しやすいもの

●鋭角的な形のもの

●背の低いもの

●背が高く上部が張り出しているもの

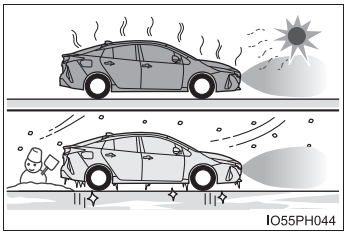
■システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、センサーが正常に作動しないことがあります。

●センサーに水滴･氷･雪･泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）

●センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、壁などの静止物があっても検知しないことがあります。

●炎天下や寒冷時



●凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など

●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき

●大雨や水しぶきがかかったとき

●センサーに静止物が近付きすぎたとき

●超音波を反射しにくい歩行者（例：ギャザーやフリルの多いスカートなど）

●地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凹凸なもの、波打っているものが検知範囲にあるとき

●風が強いとき

●霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき

●作動対象物と車両の間に検知できない対象物があるとき

●車・オートバイ・自転車・歩行者などの作動対象が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき

●衝突などで、センサーの方向がずれたとき

●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

●積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）

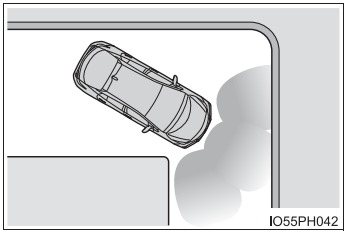
●事故や故障で自車の走行が不安定なとき

●タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

■**衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況**

次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

●狭い道路を走行するとき



●垂れ幕や旗やのれん、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETC のバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき

●地面にわだちや穴がある場合

●排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時

●急な登坂路や降坂路を走行するとき

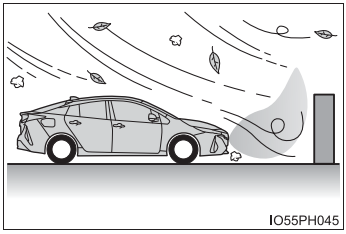
●冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき

●センサーに水滴･氷･雪･泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）

●大雨や水しぶきがかかったとき

●霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき

●風が強いとき



●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき

●積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）

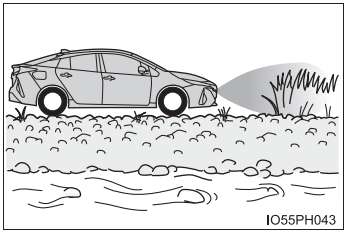
●衝突などで、センサーの方向がずれたとき

●背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき

●立体駐車場や工事現場などで柱（H 形鋼など）の付近を走行するとき

●事故や故障で自車の走行が不安定なとき

●凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など



●タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

警告

■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■システムを正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。

●センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けないでください。

●センサー周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はトヨタ販売店で点検を受けてください。前後のバンパーやグリルの脱着や交換が必要な場合はトヨタ販売店にご相談ください。

●改造・分解・塗装をしないでください。

●ライセンスプレートカバーを取り付けないでください。

●適正なタイヤ空気圧を維持してください。

■クリアランスソナーを OFF にするとき

次のときはシステムを OFF にしてください。クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●上記の内容が守られないとき

●トヨタ純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

警告

■サイドセンサーについて★

次のとき、クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

●サイドエリアのスキャン（→ P. 498）が完了するまでのあいだは、サイドエリアに障害物があっても障害物を感知できない場合があります。

●サイドエリアのスキャン完了後でも、車・人・動物などが車両の横からサイドエリアに侵入してきた場合は感知できません。

●サイドエリアのスキャン完了後でも、周囲の環境によっては障害物を感知できなくなることがあります。このとき、サイドセンサーの作動表示（→ P. 494）が一時的に表示されなくなります。

■洗車時の注意

●高圧洗浄機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

●スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

注意

■クリアランスソナー使用時の注意

次のとき、センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

●障害物を感知してない状態で、クリアランスソナーの作動表示が点滅し、ブザーが鳴ったとき

●センサー部付近に物をぶつけたときや、たたくなどの強い衝撃を与えたとき

●バンパーをぶつけたとき

●ブザー音がしないのにクリアランスソナー・バックセンサーの作動表示が点灯したままのとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

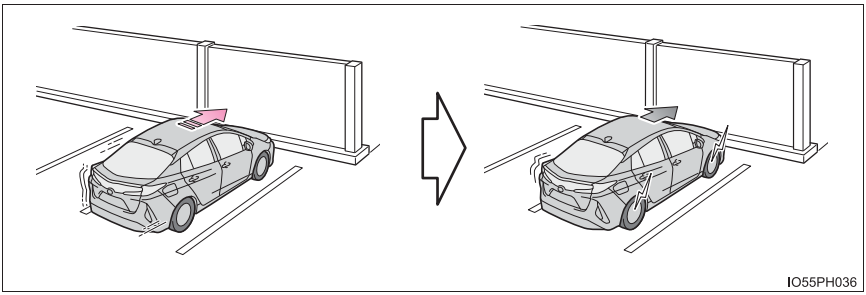
パーキングサポートブレーキ★

駐車時や低速走行時における障害物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトポジション選択を誤っての発進時に、センサーが前後進行方向の障害物を検知するとシステムが作動し、壁などの障害物への衝突を緩和し被害低減に寄与します。

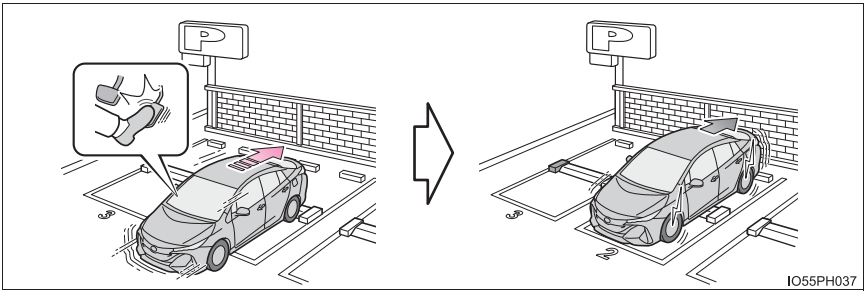
システム作動例

次のようなときに進行方向の障害物を感知してシステムが作動します。

◆ 低速走行時にブレーキペダルを踏み忘れてしまった、または踏み遅れてしまったとき

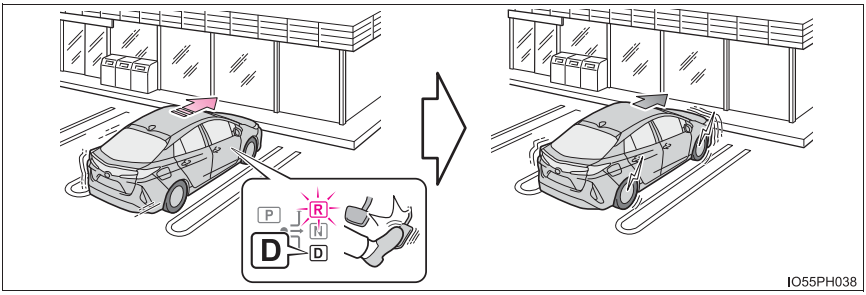


◆ アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき



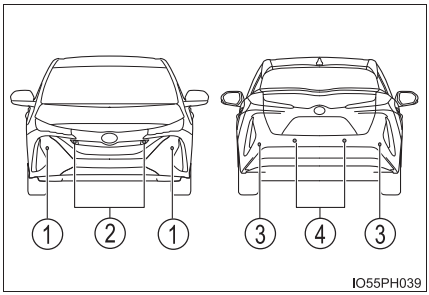
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ シフトポジションの選択を誤って発車してしまったとき



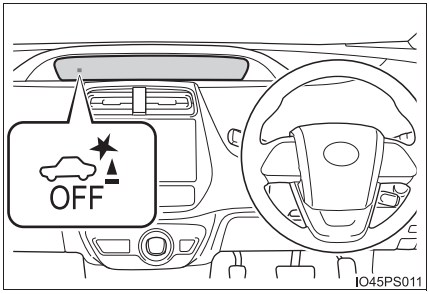
センサーの種類

① フロントコーナーセンサー
② フロントセンサー
③ リヤコーナーセンサー
④ バックセンサー



パーキングサポートブレーキの切りかえ

マルチインフォメーションディスプレイの 画面（→ P. 297）から、パーキングサポートブレーキのON（作動）／OFF（非作動）を切りかえることができます。

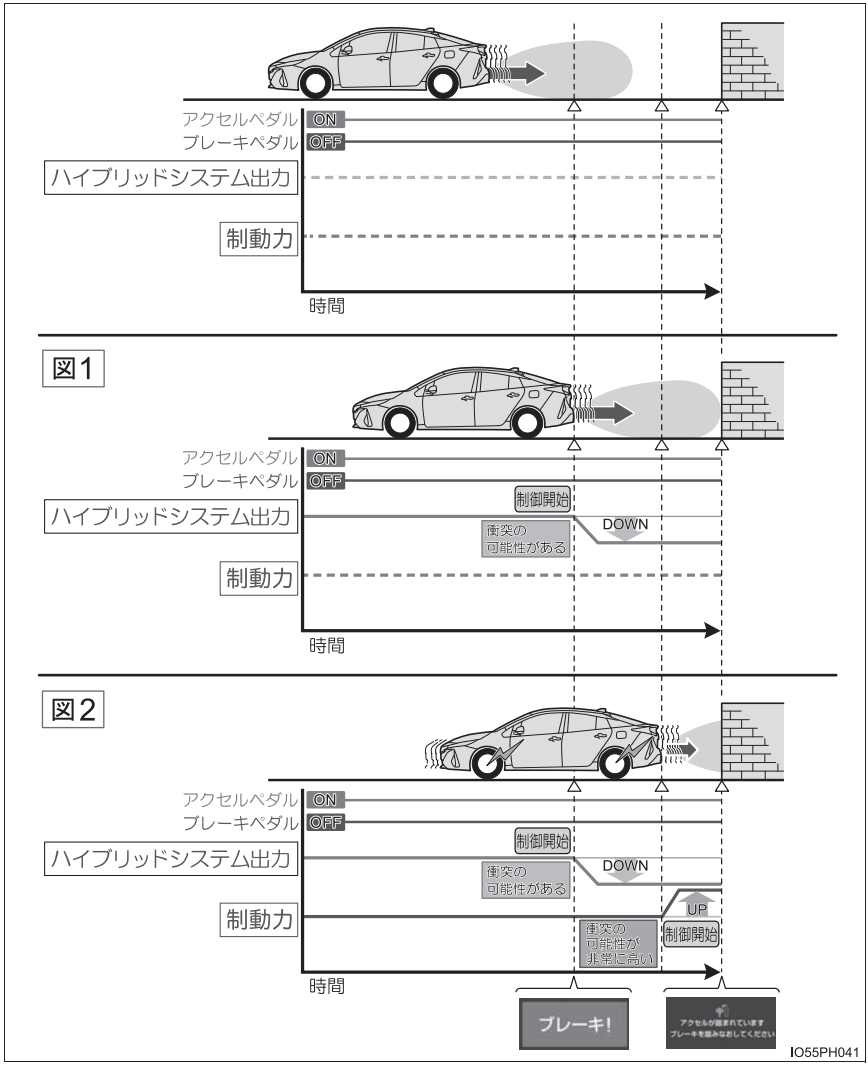


パーキングサポートブレーキが OFF（非作動）になっているときは、PKSB OFF 表示灯が点灯します。

OFF（非作動）に切りかえて、パーキングサポートブレーキを停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの 画面から ON（作動）に切りかえないとシステムは復帰しません。（パワースイッチの操作では復帰しません）

作動について

パーキングサポートブレーキは、衝突の可能性がある障害物を感知したとき、ハイブリッドシステムの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます。（ハイブリッドシステム出力抑制制御：下記図 1）
また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます。（ブレーキ制御：下記図 2）



作動条件について

■ 作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯・点滅（→ P. 505, 510）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

▶ ハイブリッドシステム出力抑制制御
・パーキングサポートブレーキを ON（作動）にしているとき
・車速が約 15km/h 以下
・車両進行方向に障害物がある（約 2 ～ 4m 先まで）
・衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断した

▶ ブレーキ制御
・ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中
・衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断した

■ 作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

▶ ハイブリッドシステム出力抑制制御
・パーキングサポートブレーキを OFF（停止）にした
・通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になった
・車両進行方向の障害物がなくなった（約 2 ～ 4m 先まで）

▶ ブレーキ制御
・パーキングサポートブレーキを OFF（停止）にした
・ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過した
・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだ
・車両進行方向の障害物がなくなった（約 2 ～ 4m 先まで）

ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

出力抑制制御は状況により、加速制限制御か出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

制御	状況	マルチインフォメーションディスプレイ表示	PKSB OFF表示灯	ブザー
ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中（加速制限制御）	一定以上の加速ができない状況	加速抑制中です	消灯のまま	“ポーン”（単発音）
ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中（出力最大抑制制御）	通常よりやや強めのブレーキ操作が必要な状況	ブレーキ!	消灯のまま	
ブレーキ制御作動中	急ブレーキが必要な状況			
システム作動により車両停止	ブレーキ制御作動後に車両が停止した状況	アクセルが踏まれています ブレーキを踏みなおしてください	点灯	

知識

■センサーの感知範囲について

パーキングサポートブレーキの感知範囲は、クリアランスソナーの感知範囲（→ P. 496）とは異なります。
そのため、クリアランスソナーが障害物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキは作動を開始していない場合があります。

■システムが作動したとき

システム作動により車両が停止した場合、パーキングサポートブレーキが停止して、PKSB OFF 表示灯が点灯します。

■システムの復帰について

システム作動によりパーキングサポートブレーキが停止したときに、パーキングサポートブレーキを復帰させたい場合は、再度、パーキングサポートブレーキを ON にし停止を解除（→ P. 505）するか、パワースイッチ をいったん OFF にしてから、再度 ON モードにしてください。
また、進行方向の障害物がなくなった状態で車両を走行させたとき、または車両の進行方向が入れかわった（前進から後退、または後退から前進に切りかえた）ときはシステムが自動的に復帰します。

■センサーが感知しない障害物について

次のような障害物は、センサーが感知しない場合があります。

- 人や綿、雪など音波を反射しにくいもの
  （特に人は衣類の種類によっても感知できない場合があります）
- 地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凸凹なもの、波打っているもの
- 背の低いもの
- 針金・フェンス・ロープ・標識の支柱などの細いもの
- バンパーに非常に近いもの

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

→ P. 499

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→ P. 500

■万一、踏切などでパーキングサポートブレーキが誤って作動したとき

万一、踏切などでパーキングサポートブレーキが誤って作動しても、ブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、そのまま前進することで脱出できます。
また、ブレーキペダルを踏んでも、ブレーキ制御は解除されるため、再度アクセルペダルを踏むことで前進し、脱出できます。

■補機バッテリーを脱着したとき

システムを初期化する必要があります。
約 35km/h 以上の車速で 5 秒以上直進走行することで初期化できます。

■マルチインフォメーションディスプレイに「パーキング サポートブレーキ 現在使用できません」が表示され PKSB OFF 表示灯が点滅したとき

●センサー部に氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。
この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。
また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても感知しないことがあります。氷が溶ければ、正常に復帰します。

●センサーの汚れを取り除いても表示が出るとき、センサーが汚れていなくても表示が出るときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「パーキング サポートブレーキ故障 販売店で点検してください」が表示され PKSB OFF 表示灯が点滅しブザーが鳴ったとき

システムが正常に作動しなくなっているおそれがあります。
トヨタ販売店で点検してください。

警告

■安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。パーキングサポートブレーキは衝突緩和という支援ができる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。

●パーキングサポートブレーキは、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。

●故意に車や壁に向かって走行するなど、システムの作動を確認する行為は大変危険です。絶対におやめください。

警告

■**パーキングサポートブレーキを OFF にするとき**

次のときは、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF にしてください。衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用する場合
- 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けた場合
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 自走式洗車機を使用する場合
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

■**システムを正しく作動させるために**

→ P. 501

■**サスペンションの取り扱いについて**

車高や車の傾きが変化すると、センサーが障害物を正しく感知できなくなり、システムが作動しなくなったり、不要に作動してしまう場合があるため、サスペンションの改造はしないでください。

■**万一、踏切などでパーキングサポートブレーキが誤って作動したとき**

→ P. 509

■**洗車時の注意**

→ P. 502

注意

■ **センサーの故障を防ぐために**

- センサー周辺に衝撃を受けたときは、センサーの故障などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 高圧洗浄機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

プラスサポート（販売店装着オプション）

プラスサポートは、急アクセル時加速抑制によって運転者を補助し、安全なドライブを支援します。

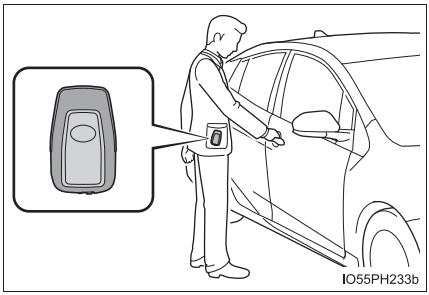
プラスサポートを使用するためには、サテンゴールドに加飾された電子キー（プラスサポート用スマートキー、以下、「サポキー」といいます）が必要です。

プラスサポートを使用するには

■ プラスサポートを始動するには

1 サポキーを携帯していることを確認して、ドアを解錠する（→ P. 318, 323）

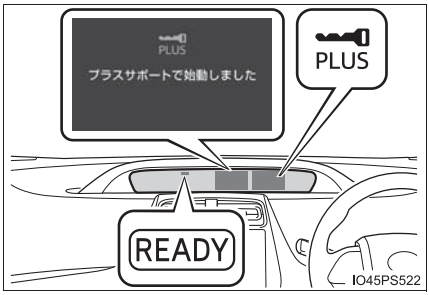
パワースイッチが OFF 以外の状態でドアが施錠されているときは、サポキーでドアを解錠しても、プラスサポートは作動可能になりません。



2 通常の手順でハイブリッドシステムを始動する（→ P. 374）

3 READY インジケーターが点灯し、「プラスサポートで始動しました」というメッセージが表示され、プラスサポート表示灯が点灯したことを確認する

パワースイッチを OFF にするまで、プラスサポートが作動可能な状態になります。



4 メーター操作スイッチの ⮌ を押してメッセージを非表示にする

⮌ を押すまで、「プラスサポートで始動しました」のメッセージは表示されたままになります。

■ プラスサポートが不要なときは

黒色の電子キー（標準装備のもの）を携帯してドアを解錠し、ハイブリッドシステムを始動したときは、プラスサポートが非作動になり、標準車と同様の制御になります。

警告

■プラスサポートを正しく使用するために

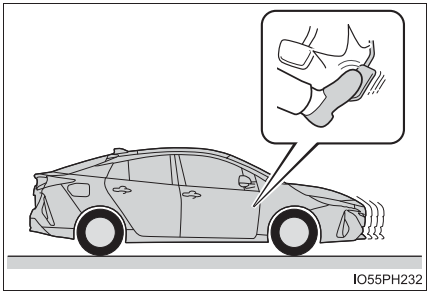
●必ずサポキーを携帯していることを確認してください。黒色の電子キー（標準装備のもの）を携帯しているときは、プラスサポートが始動しません。

●サポキーと黒色の電子キーを同時に携帯しないでください。プラスサポートが始動しない場合があります。

●ハイブリッドシステムの始動後は、プラスサポート表示灯が点灯していることを必ず確認してください（→ P. 260）。プラスサポート表示灯が点灯していないときは、プラスサポートが作動しません。また、プラスサポートが不要なときは、プラスサポート表示灯が消灯していることを必ず確認してください。

急アクセル時加速抑制について

低速走行（約 30km/h 以下）中に、ペダルの踏み間違いなどでアクセルペダルが速く強く踏み込まれたとシステムが判断したとき、ハイブリッドシステムの出力を抑制することで、車両が急加速しないように制御します。



警告

■安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。急アクセル時加速抑制は、状況によっては作動しない場合もあります。

●急アクセル時加速抑制は衝突を防止するシステムではありません。車両を自動で停止させる機能はないため、加速抑制後も車両は惰性で動きます。周囲の交通状況を確認の上、必ずご自身でブレーキペダルを踏んでください。

●急アクセル時加速抑制は意図せぬ急加速の防止を補助する機能ですが、走行状況によっては、加速が必要なときにもハイブリッドシステムの出力が抑制される場合があります。安全、かつ環境に優しい運転をするためにも、日頃からアクセルペダルはゆっくり操作するように心がけてください。

●お客様ご自身で急アクセル時加速抑制の作動テストを行わないでください。状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動すると、ハイブリッドシステムの出力を抑制します。すみやかにアクセルペダルから足を離して、ブレーキペダルを踏んでください。アクセルペダルを踏み込んだままでいると、しばらくしたあとに車両が加速し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

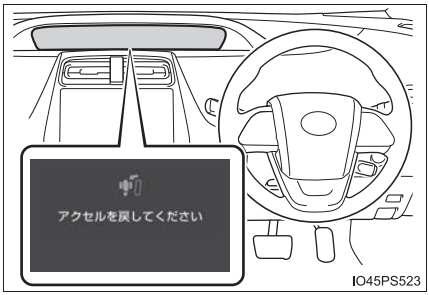
■右左折・車線変更するとき

必ず方向指示灯を点滅させてください。方向指示灯が点滅していないと、プラスサポートによりハイブリッドシステムの出力が抑制され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

メッセージが表示されたときは、すみやかにアクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。



知識

■急アクセル時加速抑制の作動条件

プラスサポートが始動したあと、次の条件をすべて満たした場合、急アクセル時加速抑制が作動します。

●シフトポジションが P・N 以外のとき

●車速が約 30km/h 以下のとき

●アクセルペダルを速く強く踏み込んだとき（アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき）

次の条件のいずれかを満たした場合、ハイブリッドシステムの出力抑制量を少なくし、前進時は約 30km/h、後退時は約 12km/h※ までゆるやかに加速します。

●加速抑制作動中にアクセルペダルを約 5 秒間踏み続けたとき

●加速抑制作動後すぐにアクセルペダルを速く強く踏み直したとき

※ 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります

■急アクセル時加速抑制が作動しないとき

次の場合は、加速が必要な場合を考慮し、急アクセル時加速抑制が作動しません。アクセルペダルをゆっくり操作し、安全運転を心がけてください。

●方向指示灯の点滅中、または消灯したあと約 2 秒間

●ブレーキペダルを踏んでいるとき、またはブレーキペダルを離したあと約2秒間

●急な上り坂に自車がいるとき

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況ではシステムが正常に作動しない場合があります。

●車両の変化

・積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
・ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤなどを取り付けたとき

●周辺環境の影響

・坂道・凸凹道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
・雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
・坂道の出口など車両姿勢が急激に変化したとき
・スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

■加速したい場面でシステムが作動するおそれのある状況

次のような状況では踏み間違いでなくてもシステムが作動する場合があります。アクセルを離してゆっくり踏み直してください。

●車両の変化

・積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
・ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤなどを取り付けたとき

●周辺環境の影響

・坂道・凸凹道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
・雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
・坂道の入り口など車両姿勢が急激に変化したとき
・スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

●運転操作の影響

・車線変更や右折などで方向指示灯を点滅させずに急いで加速しようとしたとき
・惰性走行から急いで加速しようとしたとき
・ETC ゲート通過後に急加速したとき

S-IPA（シンプルインテリジェントパーキングアシスト）★

シンプルインテリジェントパーキングアシストについて

■ 機能概要

シンプルインテリジェントパーキングアシストは、ハンドルを自動で操作することにより、目標駐車位置付近への後退駐車や縦列駐車からの出庫を補助します。（シフトポジションの切りかえ、および前進・後退時の速度調整は自動で行いません）

- シンプルインテリジェントパーキングアシストは自動駐車装置ではありません。後退駐車や縦列駐車からの出庫を行うための補助装置です。
- 設定した目標駐車位置付近に向けハンドル操作をアシストするシステムのため、駐車時の路面や自車の状況・目標駐車位置までの距離などにより、設定した目標駐車位置に到達できない場合があります。

■ パーキングサポートブレーキとの連携

シンプルインテリジェントパーキングアシストが作動しているときは、パーキングサポートブレーキの ON ／ OFF に関係なく、システムが衝突の可能性がある障害物を感知したとき、緊急ブレーキが作動します。（→ P. 520）

⚠ 警告

- 後退または前進するときは、必ず車両の後方や前方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり後退または前進してください。
- 周辺の車両や障害物、人などに接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、S-IPA スイッチ（→ P. 521）を押してシステムを中止してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

シンプルインテリジェントパーキングアシストのアシストモードと機能一覧

アシストモード（機能）	駐車種類	機能概要	参照ページ
車庫入れ駐車アシストモード（前進誘導機能付き）	並列駐車	目標駐車位置の正面に停車した状態からアシストを開始し、後退開始位置への案内を含めたバック駐車アシストを行います。	P. 524
縦列駐車アシストモード	縦列駐車	目標駐車位置の検出と後退開始位置を案内し、後退からアシストを開始し、目標駐車位置までアシストを行います。	P. 530
縦列出庫アシストモード	縦列出庫	縦列駐車状態からアシストを開始し、駐車スペースから出られる位置までアシストを行います。	P. 536

知識

■シンプルインテリジェントパーキングアシスト作動中のパーキングサポートブレーキについて

シンプルインテリジェントパーキングアシスト作動中は、パーキングサポートブレーキの ON ／ OFF（→ P. 505）に関係なく、システムが衝突の可能性がある障害物を感知したとき、パーキングサポートブレーキのハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動します。

- パーキングサポートブレーキ作動後はシンプルインテリジェントパーキングアシストの作動を一時的に中断し、パーキングサポートブレーキの作動がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。（→ P. 508）
- パーキングサポートブレーキの作動による中断が3回発生した場合、シンプルインテリジェントパーキングアシストの作動を中止します。
- パーキングサポートブレーキが作動したあと、シンプルインテリジェントパーキングアシストが作動可能な場合は、マルチインフォメーションディスプレイにシフト操作をうながすメッセージが表示されます。マルチインフォメーションディスプレイの表示に従いシフトレバーを操作し、再度 S-IPA スイッチ（→ P. 521）を押すことで、シンプルインテリジェントパーキングアシストの作動を再開できます。

■シンプルインテリジェントパーキングアシスト作動中のシフト操作について

前進から後退（または後退から前進）時のシフト切りかえ案内前でも、運転者の意思で前進または、後退したいと判断した場合は、シフトを切りかえても支援を継続します。ただし、システム案内と異なる操作のため、切り返しを行う回数は多くなることがあります。

■カスタマイズ機能

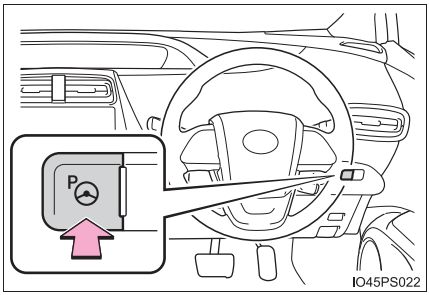
障害物を感知できる範囲などを変更できます。
（カスタマイズ機能一覧：→ P. 780）

アシストモードの切りかえ

■ S-IPA スイッチによる切りかえ

S-IPA スイッチを押す

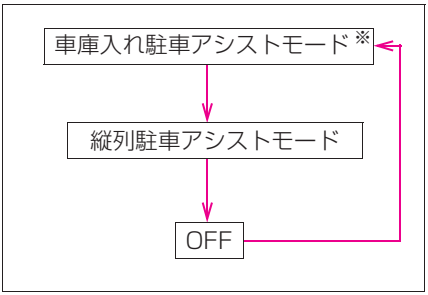
機能の切りかえ、アシストモードの中止／再開ができます。



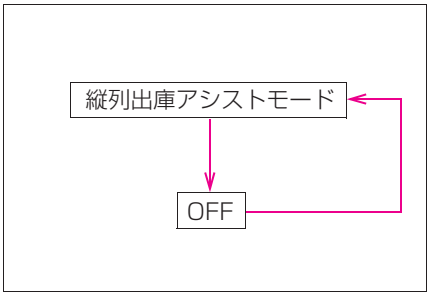
パワースイッチが ON モード、車速が約 30km/h 以下のとき、S-IPA スイッチを押すごとに、次のように機能が切りかわります。

選択中の機能がマルチインフォメーションディスプレイの作動表示部(→P. 522)に表示されます。

▶ シフトポジションが P 以外で S-IPA スイッチを押したとき



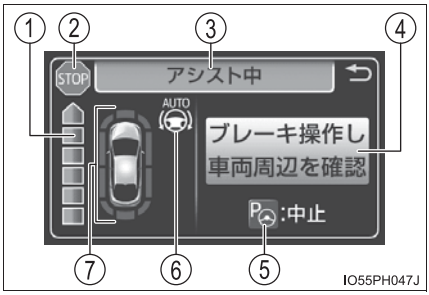
▶ シフトポジションが P で S-IPA スイッチを押したとき



※ 車庫入れ駐車アシストモードの作動条件（→ P. 528）を満たしたときに切りかえできます。
作動条件を満たしていない場合は、縦列駐車アシストモードに切りかわります。

ガイド画面について

マルチインフォメーションディスプレイにガイド画面が表示されます。



① アシスト段階表示

車両停止位置・アシスト終了位置までの段階を目盛りの数で表示します。

② ストップ表示

点灯したときは、すみやかにブレーキペダルを踏んで車両を停止してください。

③ 作動表示部

シンプルインテリジェントパーキングアシストの作動状態を示します。

④ アドバイス表示

表示内容に従って操作を行ってください。画面の例では、「ブレーキペダルを踏んで車速を調整しながら、車両周辺の安全を確認してください」という内容をお知らせしています。

⑤ S-IPA スイッチアイコン

S-IPA スイッチを操作することでアシストモードの切りかえ、システムの中止／再開ができるときに表示されます。

⑥ ハンドル AUTO 操作表示

ハンドルの自動操作が作動しているとき表示されます。

⑦ クリアランスソナー表示／ドア開閉状態表示

→ P. 494

知識

■ メーター内のシンプルインテリジェントパーキングアシスト表示灯（→ P. 259）について

シンプルインテリジェントパーキングアシストによるハンドルの自動操作が作動しているときに点灯します。制御が終了したときは、しばらく点滅したあとに消灯します。

■ クリアランスソナーの割り込み表示について

シンプルインテリジェントパーキングアシスト作動中は、クリアランスソナーの ON ／ OFF（→ P. 493）に関係なく、クリアランスソナーが障害物を感知すると、ガイド画面に自動的にクリアランスソナー表示が割り込み表示されます。（→ P. 494）

アシストモードの中止・中断

次のときにアシストモードが中止、または中断されます。

■ アシストが中止されるとき

- システムの温度保護機能が働いた
- システム異常
- システムがアシスト継続できない駐車環境と判断した

アシストが中止されたときは、ハンドルをしっかり持って、ブレーキペダルを踏んで車両を停車してください。
すでにシステムは中止されていますので、はじめからやり直すか、引き続き駐車するときは通常どおりハンドルを操作してください。

■ アシストが中断されるとき

- ハンドルを操作した
- アシスト中に車速が 7km/h をこえた
- パーキングサポートブレーキが作動した

アシストが中断されたときは、表示画面の案内に従うことでアシストを再開できます。

知識

■ アシスト中に制限車速を超過しそうになったとき

ブザーが鳴り、制限車速をこえてしまう可能性があることをお知らせするアドバイスが表示されます。

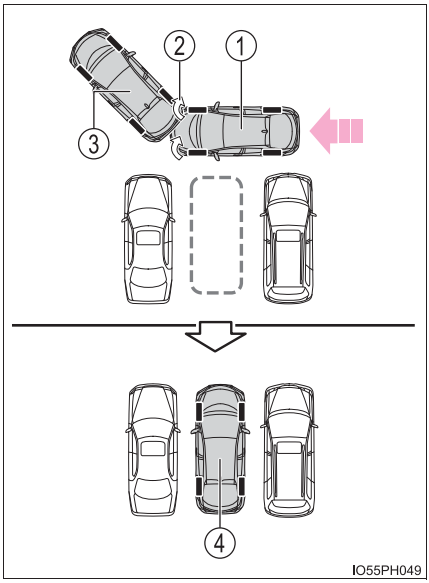
アドバイスが表示されたときは、ただちにブレーキペダルを踏んで減速してください。減速しないまま加速し続けると、一定の速度をこえた時点でアシストが中断されます。
(→ P. 544)

IO55PH048J

並列駐車のしかた（車庫入れ駐車アシストモード）

■ 機能概要

目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車し、駐車スペースが検出できれば、車庫入れ駐車アシストモードを使用することができます。
また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。



① 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車し、S-IPA スイッチを 1 回押して車庫入れ駐車アシストモードを選択

② 移動を開始するとハンドルの自動操作が作動します。

③ 後退開始位置に着いたことを音と表示により案内します。

検出した駐車スペース、または道幅（駐車スペース向い側までの距離）が狭い場合や、車両前方に障害物があるような場合は案内されません。

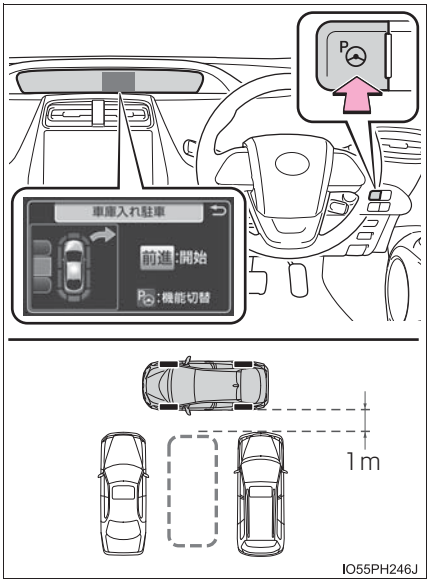
④ 駐車完了

アシストモードが終了します。

駐車スペースの状況により、③のあと後退を開始してから駐車完了までのあいだに、前進または後退方向への切り返しが必要な場合は、前進開始位置・後退開始位置の案内、およびハンドルの自動操作をくり返します。

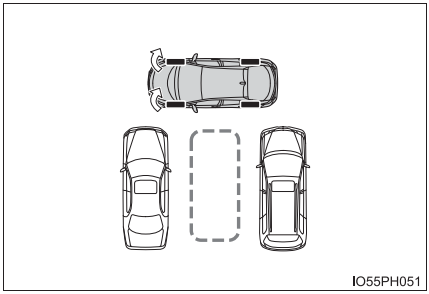
■ 駐車する

1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で車両を停車し、S-IPA スイッチを 1 回押し、マルチインフォメーションディスプレイの表示が「車庫入れ駐車」に切りかわったことを確認する



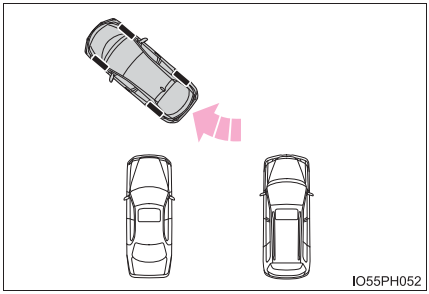
- 表示内のハンドル自動操作による車両進行方向を示す矢印の先の状況、および目標駐車位置を目視で確認してください。
- S-IPA スイッチを押すごとにモードが切りかわります。（→ P. 521）
- シフトポジションが D または B 以外のときは、「車庫入れ駐車」の表示には切りかわりません。
- 車速が検知されていると、「縦列駐車」に切りかわります。「車庫入れ駐車」に切りかえる場合は、完全に停車した状態で再度S-IPAスイッチを押してください。
- 方向指示レバー（→ P. 386）を操作して車両の左右いずれか駐車したい方向を選択できます。
- 駐車スペースが狭い場合や、アシストに十分なエリアがない場合はシステムを使用できません。マルチインフォメーションディスプレイの表示内容を参考に別の駐車スペースで使用してください。

2 通常の運転操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、前方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり前進すると“ピー”という音とともにメーター内の表示灯が点灯し、アシストが開始されます。



- ハンドルの自動操作が開始されると、表示内にハンドルAUTO操作表示（→ P. 522）とアシスト段階表示（→ P. 522）が表示されます。
- アシストを中止するには、S-IPAスイッチを押します。
- 車速が速すぎると、“ピピッ”という音が鳴り、アシストが中断されます。（→ P. 544）
- アシスト開始後にスペースが狭かった場合、“ピピッ”という音が鳴り、アシストが中止されます。

3 “ポーン”という音が鳴り、表示内のストップ表示（→P. 522）が点灯したら停車する

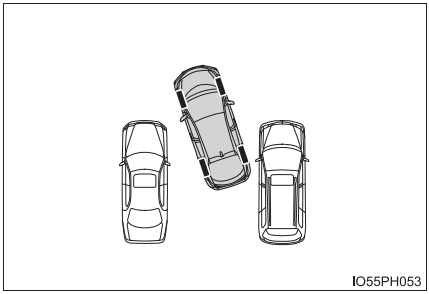


4 シフトポジションをRにする

5 通常の後退操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、後方および周辺の安全を直接確認し、駐車スペース内に障害物がないことを確認してから、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながらゆっくり後退する

・目標駐車位置に一度で入りきらず、切り返しが必要な場合：手順6へ
・切り返しが不要な場合：手順12へ（→ P. 528）

6 “ポーン” という音が鳴り、表示内のストップ表示(→P. 522)が点灯したら停車する

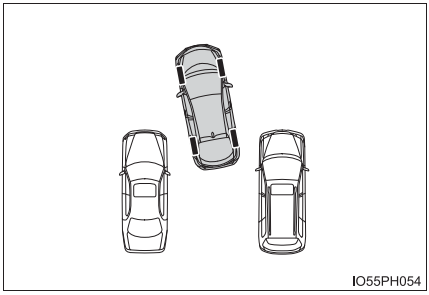


7 シフトポジションを D にする

現在停車している位置でアシストを終了したい場合は、シフトポジションを P にしてください。

8 通常の運転操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、前方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり前進する

9 “ポーン” という音が鳴り、表示内のストップ表示(→P. 522)が点灯したら停車する



10 シフトポジションを R にする

11 通常の後退操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、後方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり後退する

駐車スペースの状況により、手順 6 から 11 をくり返す場合があります。

12 車両がほぼ目標駐車位置に入り、“ピー”という音が鳴り、表示内のストップ表示（→ P. 522）が点灯したら停車する

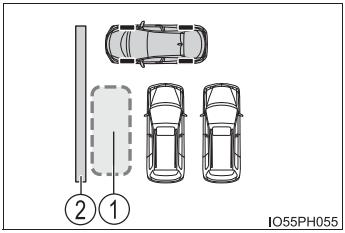
車庫入れ駐車アシストモードが終了します。

- ブザーは安全のため、目標駐車位置より若干手前で鳴ります。また、その時点でシステムの作動も終了するため、ハンドルをしっかり持ち、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながらゆっくり後退し、希望の位置に駐車します。
- 必ず目視やミラーで車両の前後を確認しながら後退してください。

知識

■車庫入れ駐車アシストモードの作動条件

- 機能を正しく作動させるために、ゆっくり（すぐに停車できる車速で）走行してください。
- 機能を正しく作動させるために、ゆっくり（すぐに停車できる車速で）走行し、駐車スペースのほぼ真横で完全に停車してから S-IPA スイッチを操作してください。
- 車速が約 30km/h 以上のときは、使用することができません。
- フロントサイドセンサー・リヤサイドセンサーにより駐車車両を検出し、駐車位置を特定しているため、検出できない場合（→ P. 550）は、案内されません。
- 駐車車両がない場合は、駐車位置を特定できないため、車庫入れ駐車アシストモードを作動できません。
- 駐車スペースの周囲の環境によってはスペースを検出できず、車庫入れ駐車アシストモードが作動できないことがあります。
- 駐車スペースの状況により、車両前方に駐車に必要なスペースがない場合は、目標駐車位置に到達できないことがあります。

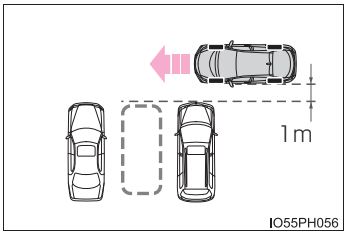


① 目標駐車位置

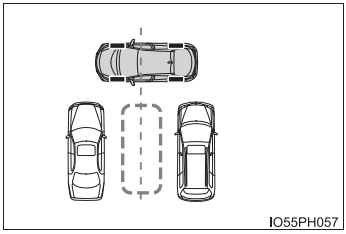
② 壁

■車庫入れ駐車アシストモードを使用するときのコツ

●駐車車両と約1m間隔をあけて目標駐車位置に近付いてください。
駐車車両との間隔があきすぎていると、フロントサイドセンサー・リヤサイドセンサーが駐車車両を検出できない場合があります。



●目標駐車位置の中央が真横に見える位置で停車してください。
また、S-IPA スイッチを押すときは、車両が完全に停車した状態で押してください。



注意

●路面に段差や勾配があると正しい位置に目標駐車位置を設定できないため、駐車位置がずれたり、車両が傾くことがあります。このような場所では、車庫入れ駐車アシストモードは使用しないでください。

●狭いスペースに駐車するときは隣接車両に接近します。接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車してください。

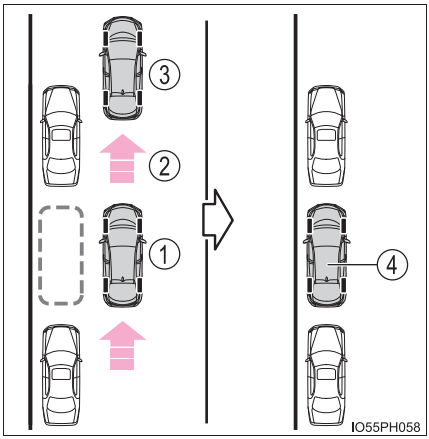
●低い障害物は検知できないことがあるため、周辺の安全を直接確認し、接触のおそれがある場合はブレーキペダルを踏んで停車してください。

●駐車車両など周辺の環境によって駐車位置がずれたり、車両が傾くことがあります。必要に応じて手動で整列してください。

縦列駐車のしかた（縦列駐車アシストモード）

■ 機能概要

駐車スペースが検出できれば、アシスト開始位置までの前進を案内し、アシストを開始する縦列駐車アシストモードを使用することができます。
また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。



① 道路または路肩と平行にまっすぐ前進して目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で車両を停車し、S-IPA スイッチを 2 回押して、縦列駐車アシストモードを選択

② 道路または路肩と平行にまっすぐ前進し駐車スペースを検出

③ アシスト可能な後退開始位置に着いたことを音と表示により案内し、案内に従ってシフトを切りかえ、移動を開始するとハンドルの自動操作が開始されます。

検出した駐車スペース、または道幅（駐車スペース向かい側までの距離）が狭い場合は案内されません。

④ 駐車完了

アシストモードが終了します。

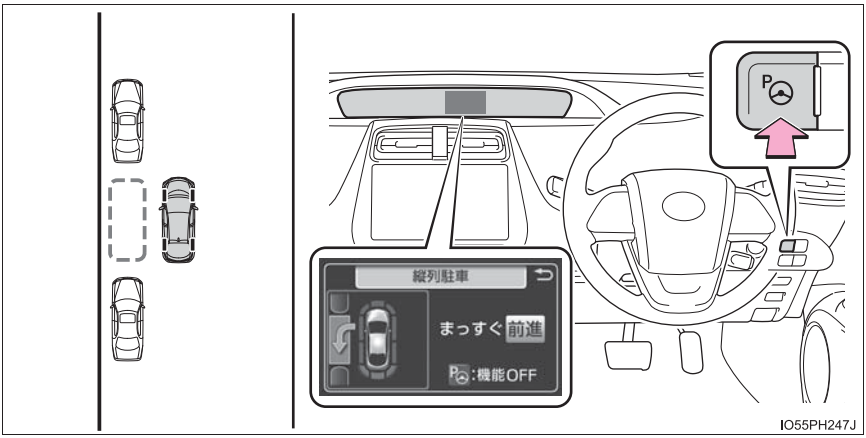
駐車スペースの状況により、③のあと後退を開始してから駐車完了までのあいだに、前進または後退方向への切り返しが必要な場合は、前進開始位置・後退開始位置の案内、およびハンドルの自動操作をくり返します。

■ 駐車する

1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車し、S-IPA スイッチを 2 回押し、マルチインフォメーションディスプレイの表示が「縦列駐車」に切りかわったことを確認する

● S-IPAスイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→P. 521)

● 車速が約 30km/h 以上のときは、S-IPA スイッチを押しても「縦列駐車」の表示には切りかわりません。

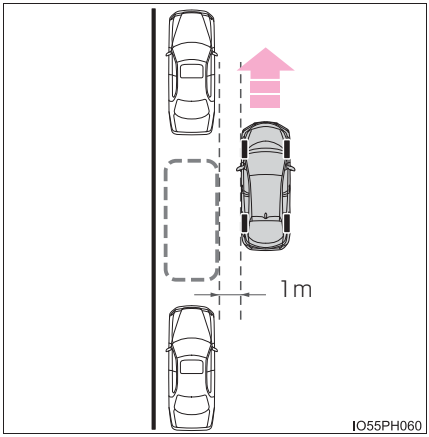


2 道路（または路肩）と平行で、駐車車両との間隔が約 1m の位置に車両を移動させ、まっすぐ前進する

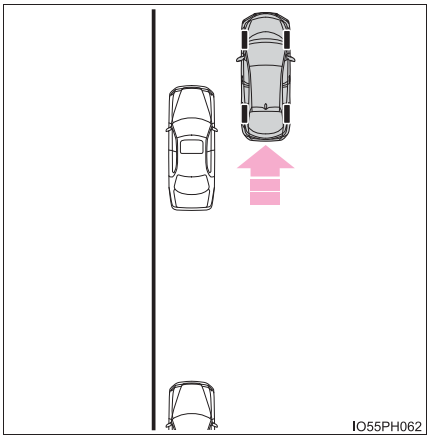
- ゆっくり前進してください。
- 駐車スペースの探索が開始されます。

  スペース探索中に、方向指示レバー（→ P. 386）で車両左右の駐車スペースを選択できます。

- 機能を中止する場合は、S-IPA スイッチを 1 回押して、機能を OFF にしてください。
- 駐車スペースを検出すると画面が切りかわります。



3 “ポーン” という音が鳴り、表示内のストップ表示(→P. 522)が点灯したら停車する



4 シフトポジションを R にする

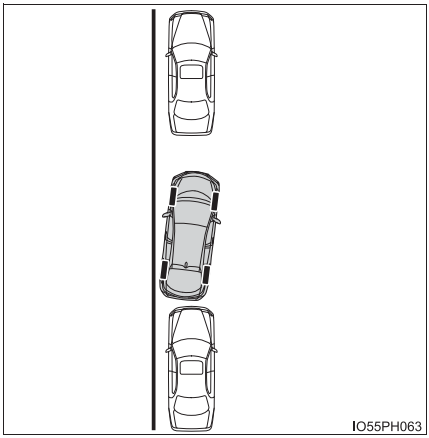
5 通常の運転操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、後方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり後退すると“ピー”という音と共にメーター内の表示灯が点灯し、アシストが開始されます。

- ハンドルの自動操作が開始されると、表示内にハンドル AUTO 操作表示（→ P. 522）とアシスト段階表示（→ P. 522）が表示されます。
- アシストを中止するには S-IPA スイッチを押します。

6 通常の後退操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、後方および周辺の安全を直接確認し、駐車スペース内に障害物がないことを確認してから、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながらゆっくり後退する

- 後退車速が速すぎると、“ピピッ”という音が鳴り、アシストが中断されます。（→ P. 544）
- 目標駐車位置に一度で入りきらず、切り返しが必要な場合：手順 7 へ
  切り返しが不要な場合：手順 13 へ

7 “ポーン”という音が鳴り、表示内のストップ表示（→P. 522）が点灯したら停車する



8 シフトポジションを D にする

9 通常の運転操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、前方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり前進する

10 “ポーン”という音が鳴り、表示内のストップ表示（→ P. 522）が点灯したら停車する

11 シフトポジションを R にする

12 通常の後退操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、後方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり後退する

駐車スペースの状況により、手順7から12をくり返す場合があります。

13 車両がほぼ目標駐車位置に入り、“ピー”という音が鳴り、表示内のストップ表示（→ P. 522）が点灯したら停車する

縦列駐車アシストモードが終了します。

- 停車したあと、任意で前進または後退し、希望の位置に車両を移動してください。
- 必ず目視やミラーで車両の前後を確認しながら後退してください。

知識

■縦列駐車アシストモードの作動条件

- 縦列駐車アシストモードを正しく動作させるために、道路（または路肩）と平行に駐車車両との間隔が約 1m の位置をゆっくり（すぐに停車できる車速で）走行してください。
- 車速が約 30km/h 以上のときは、使用することができません。
- フロントサイドセンサー・リヤサイドセンサーにより駐車車両を検出し、駐車位置を特定しているため、検出できない場合（→ P. 550）は、案内されません。
- 駐車車両がない場合は、駐車車両を特定できないため縦列駐車アシストモードは作動できません。
- 駐車スペースの周囲の環境によってはスペースを検出できず、縦列駐車アシストモードが作動できないことがあります。
- 車速が約30km/h 以上になる、またはS-IPAスイッチにより機能をOFF にするまで案内が継続されます。

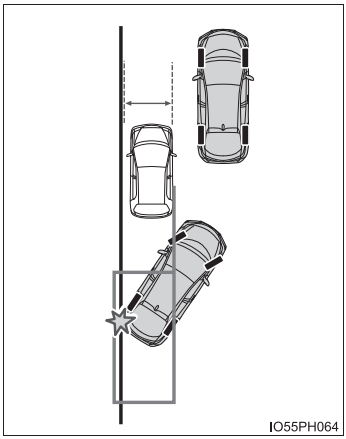
■S-IPA スイッチを押すタイミングについて

縦列駐車アシストモードを使用して駐車するときの手順で、次のときもアシストモードが作動することがありますが、その際はマルチインフォメーションディスプレイの表示に従って駐車操作を行ってください。

- 手順1で、目標駐車位置の手前をとおりこして S-IPA スイッチを押した
  手順1で、停車せずに車両移動中に S-IPA スイッチを押す場合、1 回押すだけで「縦列駐車」を選択でき、そのまま手順2に移ることができます。
- S-IPA スイッチを押していない状態のまま、手順3の位置まで車両を移動し、シフトポジションを R にしてから S-IPA スイッチを押した

注意

- 路面に段差や勾配があると正しい位置に目標駐車位置を設定できないため、駐車位置がずれたり、車両が傾くことがあります。このような場所では、縦列駐車アシストモードは使用しないでください。
- 駐車車両の車幅が狭いときや駐車車両が路肩側に極端に近いときは、駐車をアシストする位置も路肩に接近します。接触、脱輪しそうなときはブレーキペダルを踏んで停車し、S-IPA スイッチを押してシステムを中止してください。



- 駐車スペースの奥側に壁などがある場合や、駐車車両が通路側にはみ出した位置に駐車されている場合は、通路に少しはみ出した位置に目標駐車位置が設定されることがあります。
- 駐車車両など周辺の環境によって駐車位置がずれたり車両が傾くことがあります。必要に応じて手動で整列してください。
- 駐車スペースに障害物、段差や縁石があるときでも、隣接車両に合わせた位置にアシストします。
  接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、S-IPA スイッチでシステムを中止してください。
- 低い障害物は検知できないことがあるため、周辺の安全を直接確認し、接触のおそれがある場合はブレーキペダルを踏んで停車してください。

縦列出庫のしかた（縦列出庫アシストモード）

■ 機能概要

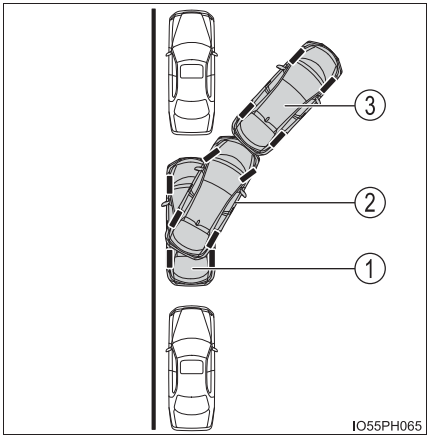
縦列駐車から出庫する際、出庫したい方向を選択することで発進可能な位置までのハンドル操作をアシストします。

① シフトポジションが P の状態でS-IPAスイッチを押して、縦列出庫アシストモードを選択し、方向指示レバーで希望の出庫方向を選択する

② 案内に従ってシフトを切りかえると、ハンドルの自動操作が作動します。

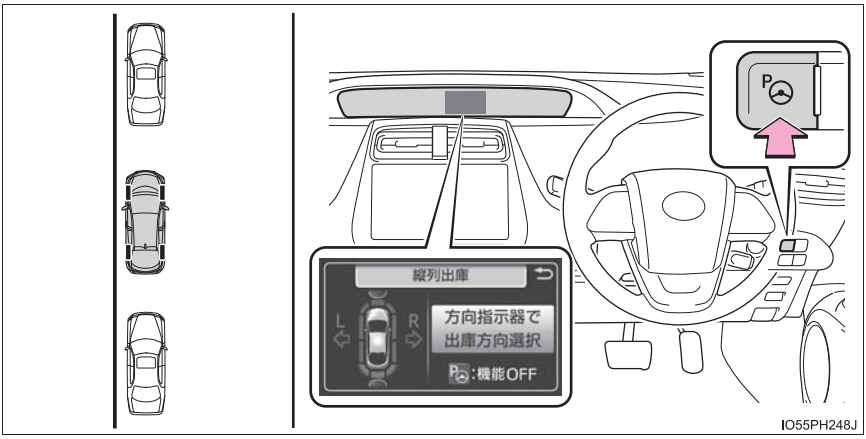
③ 発進可能な位置に到達したことを音と表示で案内します。

駐車スペースの状況により、②でハンドルの自動操作が開始してから発進可能な位置に到達するまでのあいだに、前進または後退方向への切り返しが必要な場合は、前進開始位置・後退開始位置の案内、およびハンドルの自動操作をくり返します。



■ 縦列出庫アシストモードを使用して出庫する

1 シフトポジションが P の状態で S-IPA スイッチを押し、マルチインフォメーションディスプレイの表示が「縦列出庫」の画面に切りかわったことを確認する



2 方向指示レバー（→ P. 386）を操作して左右いずれか出庫したい方向を選択する

出庫方向に障害物などがあると出庫できないと判断し、アシストが中止されます。

3 表示内のアドバイス表示（→ P. 522）に従って、シフトポジションを R（または D）にすると “ピー” という音が鳴りアシストが開始されます。

手順 4 以降は、方向指示レバーで出庫方向を選択後、アドバイス表示に「シフト [R]」が表示されたときの場合です。

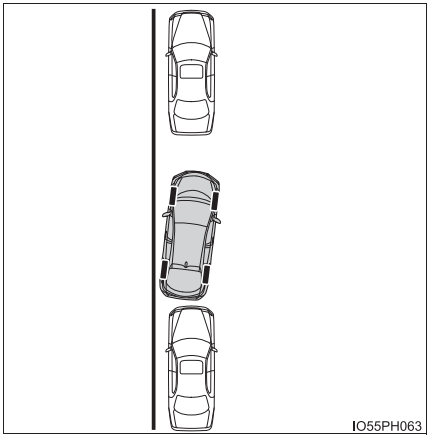
● ハンドルの自動操作が開始されると、表示内にハンドル AUTO 操作表示（→ P. 522）とアシスト段階表示（→ P. 522）が表示されます。

● アシストを中止するには S-IPA スイッチを押します。

4 通常の後退操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、後方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり後退してください。

● 後退車速が速すぎると、“ピピッ” という音が鳴り、アシストが中断します。（→ P. 544）

5 “ポーン” という音が鳴り、表示内のストップ表示(→P. 522)が点灯したら停車する

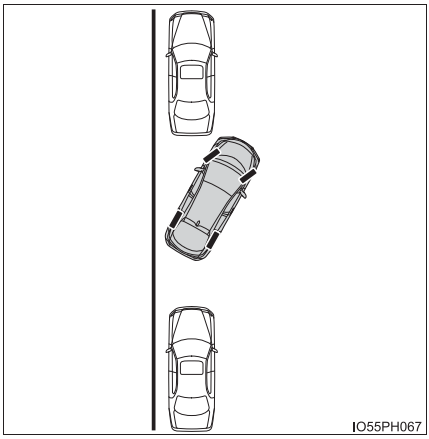


6 シフトポジションを D にする

7 通常の運転操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、前方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり前進する

・一度で出庫できず、切り返しが必要な場合：手順 8 へ
・切り返しが不要な場合：手順 14 へ（→ P. 539）

8 “ポーン” という音が鳴り、表示内のストップ表示(→P. 522)が点灯したら停車する

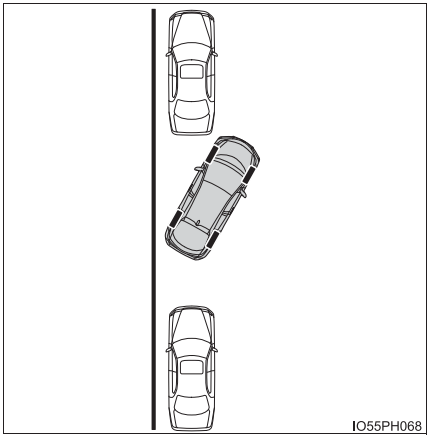


9 シフトポジションを R にする

10 通常の後退操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、後方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり後退する

駐車スペースの状況により、手順 5 から 10 をくり返す場合があります。

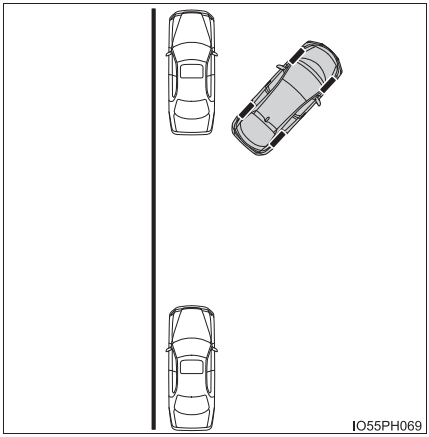
11 “ポーン” という音が鳴り、表示内のストップ表示(→P. 522)が点灯したら停車する



12 シフトポジションを D にする

13 通常の運転操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、前方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり前進する

14 車両がほぼ出庫可能位置に到達し、“ピー” という音が鳴り、アシストが終了します。そのままハンドルを持ち、前進してください。



知識

■縦列出庫アシストモードについて

●アシスト中に、運転者が出庫可能と判断しハンドルを操作すると、その位置でアシストを終了します。

●車両の前方に駐車車両がない場合、または車両の前方と駐車車両との間隔があきすぎている場合は、アシストを使用できません。

●縦列出庫アシストモード使用時の周囲の環境によってはアシストモードが作動できない場合があります。

注意

●障害物を検知できる範囲（→ P. 496）は限られるため、周辺の安全を直接確認し、接触のおそれがある場合はブレーキペダルを踏んで停車してください。

●低い障害物は検知できないことがあるため、周辺の安全を直接確認し、接触のおそれがある場合はブレーキペダルを踏んで停車してください。

●発進可能な位置に出庫する際は、周辺の安全を直接確認してください。

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージについて

シンプルインテリジェントパーキングアシストが作動できないときや、作動が中止または、中断されたときなどにマルチインフォメーションディスプレイに次のメッセージが表示されます。ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。

■ 作動できないとき

メッセージ	状況・対処方法
	システムに異常があるおそれがある → パワースイッチをいったん OFF にしてからハイブリッドシステムを始動してください。再度表示される場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。
	システムに故障のおそれがある
	パワーステアリング装置の一時的な過熱が起きた → パワースイッチをいったん OFF にし、しばらくしてからハイブリッドシステムを始動して使用してください。
	ハイブリッドシステムが作動していない → ハイブリッドシステムを始動してください。
	センサー部に氷・雪・泥などが付着している → 氷・雪・泥などを取り除いてください。
	センサー部が凍結している → 凍結部が溶ければ正常に復帰します。
	補機バッテリーを脱着した → 約 35km/h 以上の車速で 5 秒以上直進走行してください。
	車速が30km/hを超過した状態でS-IPAスイッチを操作した → 車速約 30km/h 以下にして使用してください。

メッセージ	状況・対処方法
	駐車スペースがない場所で S-IPA スイッチを操作した、または道幅の狭い駐車スペースで S-IPA スイッチを操作した → 駐車スペースがないためアシストできません。横幅が約 2.6m 以上の駐車スペースに移動して使用してください。 → 道幅が狭いためアシストできません。道幅が約4.5m以上の駐車スペースの近くで使用してください。
	自車が駐車するのには狭すぎる駐車スペースで S-IPA スイッチを操作した → 駐車スペースがないためアシストできません。横幅が約 2.6m 以上の駐車スペースに移動して使用してください。
	自車前方に障害物が存在し、後退開始位置まで前進できないような場所でS-IPAスイッチを操作した → 前方に障害物があるためアシストできません。駐車スペースの前で停車した際に、前方に障害物がないような駐車スペースで使用してください。
	ハンドルに力を加えた状態でアシストを開始した → ハンドルに力を加えないように手を添えてください。アシストが開始されます。
	ハンドルに力を加えた状態で車両移動し、アシストを開始した → 停車し、案内どおりに操作するとアシストが開始されます。
	縦列出庫で自車前後の間隔が狭いときに S-IPA スイッチを操作した → 自車前後スペースが狭く、アシストによる出庫ができません。周囲の安全を確認した上で手動で出庫してください。
	縦列出庫で、前方近くに障害物が存在しない、または自車側方に障害物が存在し、出庫ができない状況で S-IPA スイッチを操作した → 容易に出庫できる、または側方に障害物があるため、アシストによる出庫ができません。周囲の安全を確認した上で手動で出庫してください。

■ 作動が中止されたとき

メッセージ	状況・対処方法
	アシスト中に運転者がシフトポジションをPに切りかえた、または S-IPA スイッチを操作した
	縦列アシストモードの駐車スペース探索中に車速が 30km/h をこえた
	駐車スペースが狭い場所でアシストを開始した
	縦列出庫アシストモードにおいて、方向指示レバーで出庫方向を選択せずにシフトポジションを切りかえた → 案内どおりに操作してください。
	アシスト開始時に、案内と逆方向に進行した → 案内どおりに操作、進行してください。
	アシスト中に切り返し回数が上限になった、急な路面勾配で使用したため設定した目標位置に到達できない → 路面勾配のない、広いスペースでアシスト案内に従って使用してください。

■ 作動が中断されたとき

メッセージ	状況・対処方法	
	アシスト中に運転者がハンドルに力を加えた	→ 停車してハンドルに力を加えないように手を添えた状態でS-IPAスイッチを押すとアシストを再開できます。
	アシスト中に車速が7km/hをこえた	
	アシスト中断中、ハンドルに力を加えた状態でS-IPA スイッチを押した	→ ハンドルに力を加えないように手を添えた状態で停車するとアシストが再開します。
	アシスト中断中、車両が移動している状態でS-IPA スイッチを押した	
	アシスト中断中（再開可能）	→ 停車してハンドルに力を加えないように手を添えた状態でS-IPAスイッチを押すとアシストを再開できます。
	アシスト中に、前方障害物に接近しすぎた	→ シフトポジションをRに切りかえてから、S-IPAスイッチを押すと、アシストを再開できます。
	アシスト中に、後方障害物に接近しすぎた	→ シフトポジションをDに切りかえてから、S-IPAスイッチを押すと、アシストを再開できます。

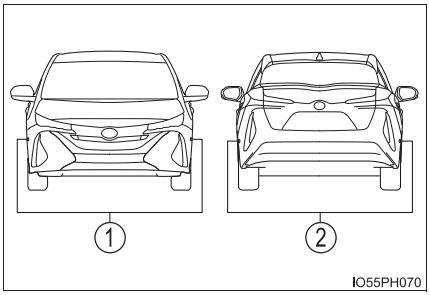
使用上の注意点について

■ センサーについて

センサーにより駐車車両を検出して、駐車位置を特定します。

① フロントサイドセンサー

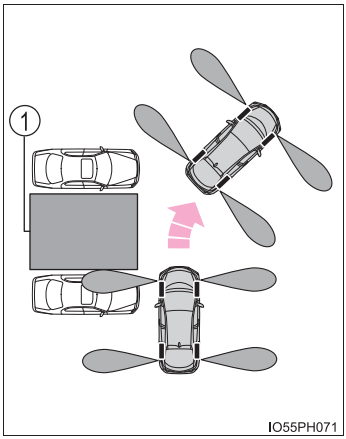
② リヤサイドセンサー



知識

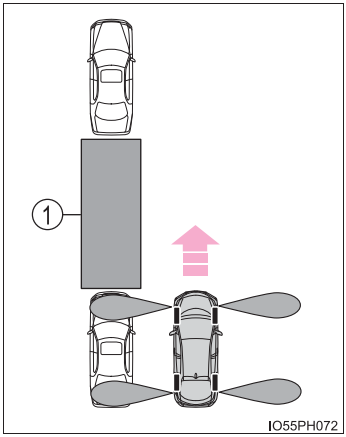
●車庫入れ駐車アシストモード時のセンサー感知範囲について

① 目標駐車位置



●縦列駐車アシストモード時のセンサー感知範囲について

① 目標駐車位置

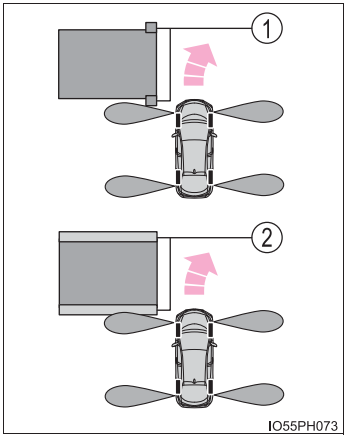


●駐車車両が目標駐車位置の奥にある場合は、距離が遠くなるため検出できないことがあります。また、駐車車両の形状や条件によっては検出距離が短くなったり、検出できないことがあります。

●柱や壁など駐車車両以外は検出できないことがあります。また、検出できても目標駐車位置がずれることがあります。

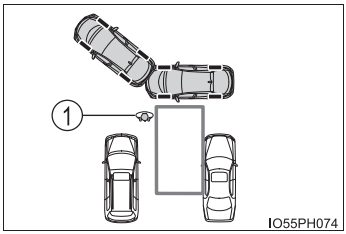
① 柱

② 壁



●歩行者などを検出して目標駐車位置がずれることがあります。

① 歩行者



●駐車スペース内の路面にあるグレーチングや縞板鋼板などを検知し、シンプルインテリジェントパーキングアシストを使用できないことがあります。

警告

- シンプルインテリジェントパーキングアシストを過信しないでください。一般の車と同様、必ず後方や周辺の安全を直接確認しながら慎重に前進または、後退してください。
- マルチインフォメーションディスプレイだけを見ながら後退することは絶対にしないでください。表示と実際の状況は異なることがあり、表示だけを見て後退すると車にぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすことがあります。後退するときは必ず目視やミラーなどで後方や周辺の安全を直接確認してください。
- 前進または、後退するときは、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり前進または、後退してください。
- 周辺の車両や障害物、人などに接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、S-IPA スイッチを押してシステムを中止してください。
- 平坦な駐車場で使用してください。
- 使用中はハンドルが自動的に回転するため、次の点に注意してください。
  - ・ネクタイ・スカーフ・腕などを巻き込むおそれがあります。上体をハンドルに近付けないでください。また、お子さまがハンドルに近付かないよう注意してください。
  - ・爪が長いとハンドルが回転する際にけがをするおそれがあります。
  - ・万一のときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、S-IPA スイッチを押してシステムを中止してください。
- 駐車するときは、必ずスペースに車を駐車できるかを確認してから操作を行ってください。
- 次のような状況では、目標位置に正しくアシストできず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険なため使用しないでください。
  - ・駐車場以外の場所
  - ・砂地、砂利地のような駐車枠のない整備されていない駐車場
  - ・傾斜、段差のある平坦でない駐車場
  - ・凍結したり、すべりやすい路面、または雪道
  - ・真夏の炎天下でアスファルトが溶けているようなとき
  - ・目標駐車位置や自車と目標駐車位置とのあいだに障害物があるとき
  - ・タイヤチェーンを使用しているとき
- メーカー出荷時装着タイヤ以外のタイヤは使用しないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。タイヤを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

●次のような状況では、設定した位置にアシストできない場合があります。

・タイヤが極端に摩耗していたり、空気圧が低いとき
・極端に重いものを積んでいるとき
・車両の片側にだけ荷物などを積んで車両が傾いているとき
・駐車場にロードヒーター（路面凍結防止用のヒーター）が設置されているとき

上記の場合以外で設定位置と車両の位置が大きくずれる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

●縦列出庫アシストモードについて次のことをお守りください。

縦列出庫アシストモードは縦列駐車からの出庫時に使用する機能ですが、車両前方にある障害物や人をセンサーで検知すると機能を使用できる場合があります。縦列駐車から出庫する以外の状況では、機能を使用しないでください。万が一、ステアリングの制御が作動してしまった場合には、S-IPA スイッチで OFF するかハンドルを操作すると、制御を中止します。

●次のような状況では、誤って縦列出庫アシストモードを使用してしまうと、障害物にふれるおそれがあります。

サイドセンサーで障害物を検知できておらず、障害物のある方向に出庫機能を作動させてしまった場合（柱が車両の真横にある状況等）

●センサーが正常に作動しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがありますので、次のことにご注意ください。

・センサー部付近を強くたたいたり、物をぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。
・高圧洗浄機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。バンパーをぶつけたときは、センサーの故障などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

●次のとき、センサーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

・サイドエリアのスキャン（→ P. 498）が完了するまでのあいだは、サイドエリアに障害物があっても障害物を感知できません。
・サイドエリアのスキャン完了後でも、車・人・動物などが車両の横からサイドエリアに侵入してきた場合は感知できません。
・センサー部が凍結したとき（溶ければ、正常に復帰します）
特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、駐車車両があっても感知しないことがあります。
・センサーを手でふさいだとき
・車両姿勢が大きく傾いたとき
・炎天下や寒冷時
・凸凹道、坂道、砂利道、草むら走行時など
・他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、他車のセンサーなどの超音波を発生するものが近付いたとき
・雨や水しぶきがかかったとき
・目標駐車位置に駐車車両があるにもかかわらずアシストが開始されたときは、センサーの角度がずれているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。
・センサーが感知する範囲には、アクセサリー用品などを取り付けないでください。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ECB（電子制御ブレーキシステム）

電子制御により、ブレーキ操作に応じたブレーキ力を発生させます。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）

ABS・TRC・VSC・EPS を協調して制御します。
すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

◆ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

◆ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

◆ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

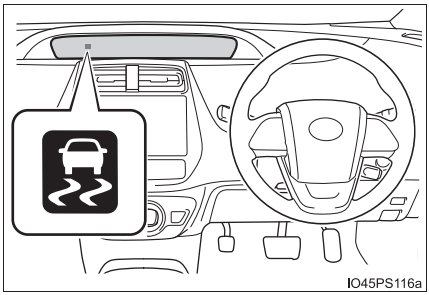
電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

◆ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

TRC・VSC・ABS が作動しているとき

TRC・VSC・ABS が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



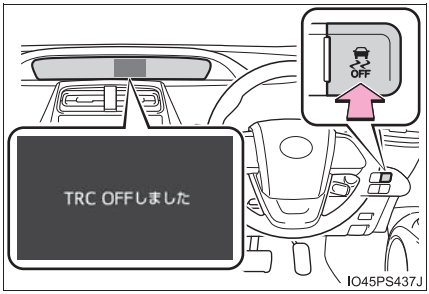
TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもハイブリッドシステムの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに OFF を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには OFF を押す

マルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF しました」と表示されます。

もう一度 OFF を押すと、システム作動可能状態にもどります。



知識

■TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に OFF を押し 3 秒以上保持する

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF しました」と表示されます。※

もう一度 OFF を押すと、システム作動可能状態にもどります。

※ プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキも停止します。PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→ P. 429）

■ OFF を押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF しました」が表示されたとき

TRC が一時的に作動できない状態になっています。表示が継続する場合はトヨタ販売店にご相談ください。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

●シフトポジションが P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）

●車両停止状態

●アクセルペダルを踏んでいない

●パーキングブレーキがかかっていない

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●シフトポジションを P または N にした

●アクセルペダルを踏んだ

●パーキングブレーキをかけた

●ブレーキペダルから足を離して約 2 秒経過した

■ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

●ハイブリッドシステム始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる

■ECB の作動音

次のような場合に ECB の作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●ブレーキペダルを操作したときに、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー” という音）

●運転席ドアを開けたときに車両前方から聞こえるブレーキシステムのモーター音（“ジー” という音）

●ハイブリッドシステム停止後1～2分経過時に、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー” という音）

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、次のときはシステム作動可能状態にもどります。

●パワースイッチを OFF にしたとき

●（TRC のみを作動停止にしている場合）車速が高くなったとき

ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、ハイブリッドシステムを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

→ P. 726

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

●非常点滅灯が点滅していないこと

●車速 55km/h 以上

●車両の減速度から急ブレーキだとシステムにより判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●非常点滅灯を点滅させた

●車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

警告

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRC や VSC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能でありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■スリップ表示灯が点滅しているとき

TRC・ABS・VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■TRC や VSC を OFF にするとき

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

警告

■**タイヤまたはホイールを交換するとき**

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→ P. 779）
異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■**タイヤとサスペンションの取り扱い**

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

パノラミックビューモニター ※ ★

※ バックガイドモニター装着車は、別冊「マルチメディア取扱書」または「販売店オプションのナビゲーションシステム取扱説明書」をご覧ください。

パノラミックビューモニターは、車両に取り付けたフロント、サイド、バックカメラの映像を合成して画面上につなぎ目のない車両上方からの映像を表示させることで、低速時の運転を補助する装置です。

警告

- 安全のため、運転者は走行中に極力操作をしないでください。走行中の操作はハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。車を停車させてから操作をしてください。なお、走行中に画面を見るときは、必要最小限の時間にしてください。
- パノラミックビューモニターは、車両周囲確認を補助する装置です。必ず周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
- カメラのレンズの特性により、画面に映る人や障害物は、実際の位置や距離と異なります。

知識

- 本文中で使用している画面のイラストは例であり、イラストと実際に映し出される映像では車両の映り込みなどが異なることがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

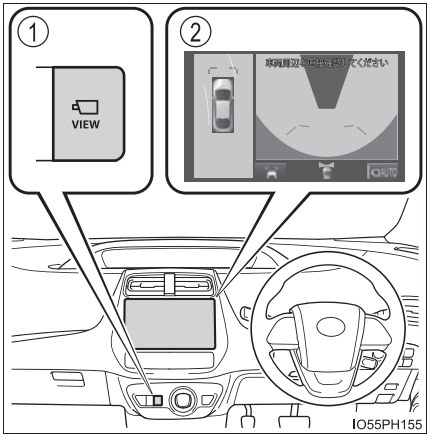
パノラミックビューモニター画面の表示

パワースイッチが ON モードのときにメインスイッチを押すと、パノラミックビューモニター画面がディスプレイに表示されます。

一定の車速を上まわっているときは、一定時間が経過すると、ナビゲーション画面、オーディオ画面、または情報表示画面にもどります。
パノラミックビューモニター画面が表示される時間は、現在の車速等の条件によりかわります。（→ P. 559）

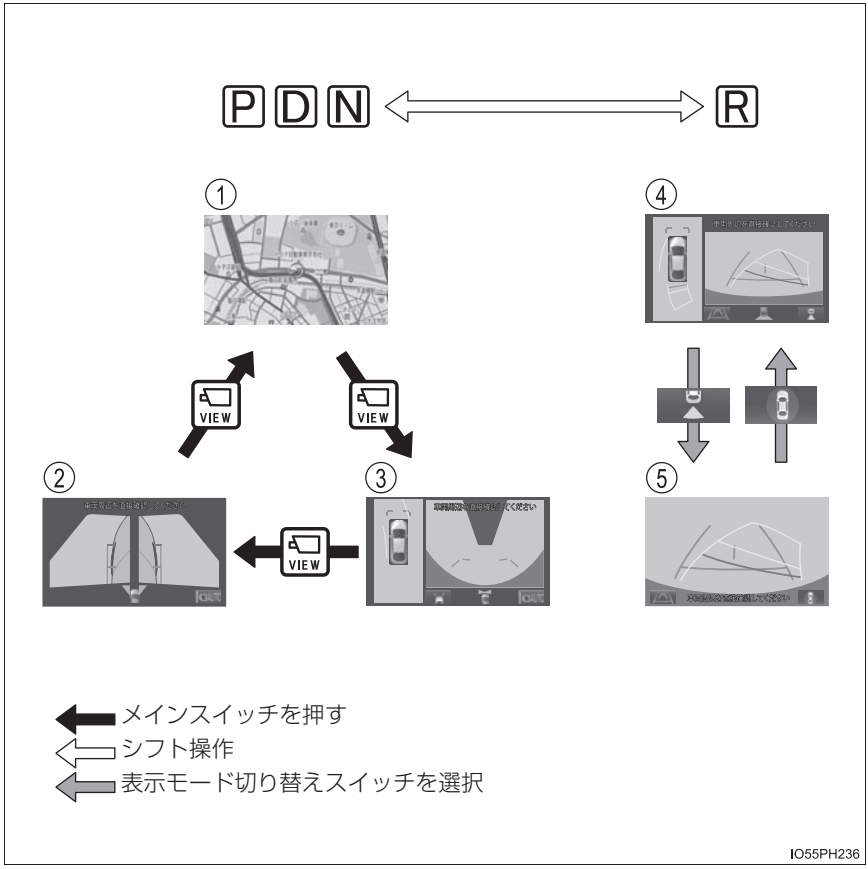
① メインスイッチ

② ディスプレイ



パノラミックビューモニターの画面遷移

パノラミックビューモニター画面の表示中にスイッチを操作することで、次のように画面表示を切りかえることができます。（以下は一例です。）



① ナビゲーション画面、オーディオ画面、または情報設定画面など ※

② 両サイドビュー：→ P. 563

③ パノラミックビュー＆ワイドフロントビュー：→ P. 561

④ パノラミックビュー＆バックビュー：→ P. 566

⑤ バックビュー：→ P. 566

※ 詳しくは別冊「マルチメディア取扱書」または「販売店オプションのナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

知識

▶マルチメディアシステム装着車

●車速が約 12km/h 以下でメインスイッチを押した場合、パノラミックビューモニター画面を表示します。

●車速が約 12km/h 以上になった場合、ナビゲーション画面、オーディオ画面、または情報設定画面が表示されます。

▶マルチメディアシステム非装着車

●車速が約 20km/h 以下でメインスイッチを押した場合、パノラミックビューモニター画面を表示します。

●車速が約 20km/h 以上になった場合、ナビゲーション画面、オーディオ画面、または情報設定画面が表示されます。

パノラミックビュー＆ワイドフロントビュー

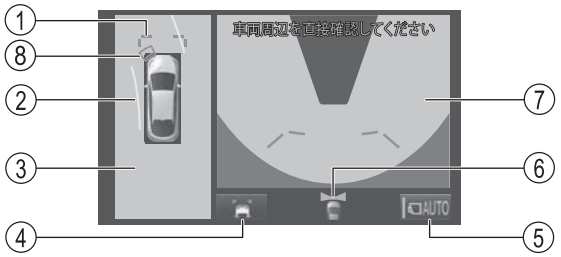
見通しの悪い交差点や T 字路などで、車両の前方と左右方向の状況確認をするために、車両上方からの映像と前方カメラからの映像を同時に表示するモードです。（以下手順は一例です。）

◆ ガイド画面を表示する

1 シフトポジションを P、D、または N に入れる

2 メインスイッチを押す

パノラミックビュー＆ワイドフロントビューが表示されます。



IO55PH255

① 前方距離目安線

フロントバンパー前端から約 1.0 m 先（青色）を示す。

② 前進予想進路線

ハンドル操作と連動して、進路の目安を示す（黄色）。
（直進状態から 90 度以上ハンドル操作をした場合に表示）

③ パノラミックビュー

④ ガイド線表示モード切り替えスイッチ

スイッチを押すたびにガイド線表示モードを切り替える。（→ P. 562）

⑤ 自動表示モード切り替えスイッチ

自動表示モードの ON/OFF を切り替える。（→ P. 563）
・ 自動表示モードが ON のときは作動表示灯が点灯します。

⑥ 表示エリア

⑦ ワイドフロントビュー

⑧ クリアランスソナー★

障害物をクリアランスソナーが感知すると、画面表示でお知らせします。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

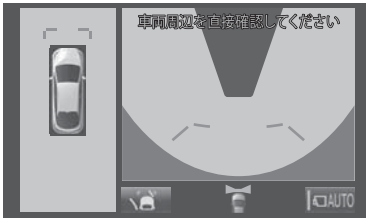
警告

乗車人数・積載量・路面の勾配などにより、画面のガイド線の示す位置はかわります。必ず周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

■ ガイド線表示モードについて

ガイド線表示モード切り替えスイッチを選択するごとに、表示モードが切り替わります。

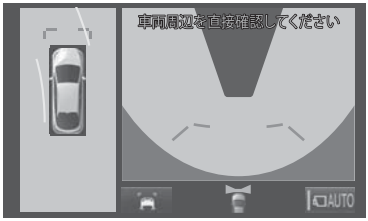
▶ 距離目安線表示モード



IO55PH158

● 車両前端から約 1.0 m 先を示します。（青色）

▶ 予想進路線表示モード



IO55PH159

● ハンドル操作と連動して、進路の目安を示します。（黄色）直進状態から 90 度以上ハンドル操作をした場合に表示されます。

■ 自動表示モードについて

メインスイッチの操作による表示に加え、車速に応じて自動的にパノラミックビュー＆ワイドフロントビュー、両サイドビューが表示される自動表示モードを設定することができます。

● 自動表示モードを ON にすると、次の場合に自動で表示することができます。
・シフトポジションを D または N にしたとき
・車速が約 10km/h 以下に減速したとき（シフトポジションが R 以外）

● AUTO を選択するごとに、自動表示モードの ON と OFF が切り替わります。

両サイドビュー

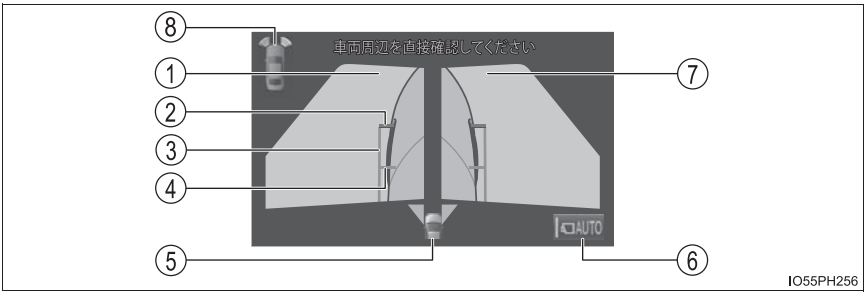
左右両サイドに設置されたカメラからの映像を表示し、車両側方の安全確認や狭小路での接触回避などの操作を補助するモードです。（以下手順は一例です。）

◆ ガイド画面を表示する

1 シフトポジションを P、D、または N に入れる

2 メインスイッチを両サイドビューが表示されるまで押す

◆ 画面の見方について



① サイドビュー（左前側方）

② 前方距離目安線

車両前端から約 0.5m 先（赤色）を示す。

③ 車幅平行線

ドアミラー分を含んだ車幅の目安（青色）を示す。

④ 前輪接地線

前タイヤの位置（青色）を示す。

⑤ 表示エリア

⑥ 自動表示モード切り替えスイッチ

自動表示モードの ON/OFF を切り替える。（→ P. 563）

・ 自動表示モードが ON のときは作動表示灯が点灯します。

⑦ サイドビュー（右前側方）

⑧ クリアランスソナー★

障害物をクリアランスソナーが感知すると、画面表示でお知らせします。

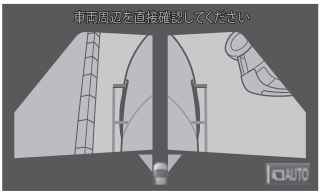
⚠ 警告

乗車人数・積載量・路面の勾配などにより、画面のガイド線の示す位置はかわります。必ず周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

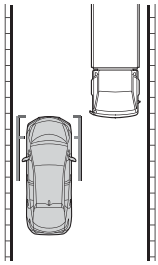
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ 車幅平行線の使い方

画面



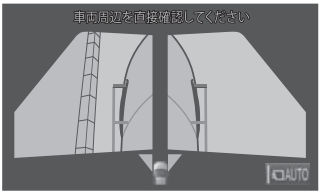
車の状況



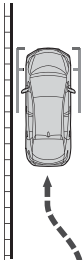
IO55PH161

- 車幅平行線と障害物との位置関係を見ます。
- 車幅平行線が実際の障害物などに重ならないようにハンドルを操作して前進します。

画面



車の状況



IO55PH162

- 車幅平行線と路肩の縁石などの目標物との位置関係を見ます。
- 上記のように車幅平行線が重ならないように車両を幅寄せします。
- 同時に車幅平行線と目標物が平行になるように運転操作することで、目標物に沿って駐車することができます。

パノラミックビュー＆バックビュー

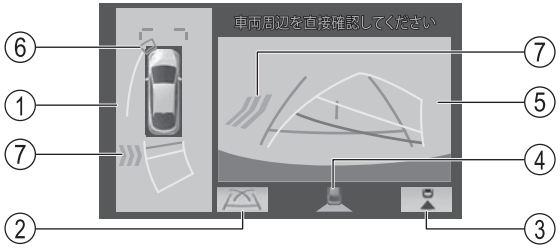
駐車時の安全確認を行うために、車両上方からの映像と後方カメラからの映像を同時に表示するモードです。表示モード切り替えスイッチを選択するとバックビューのみを表示するモードに切り替えることができます。（以下手順は一例です。）

◆ ガイド画面を表示する

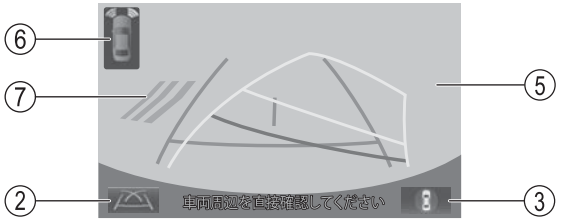
1 シフトポジションを R に入れる

パノラミックビュー＆バックビューが表示されます。

▶ パノラミックビュー＆バックビューモード



▶ バックビューモード



IO55PH258

① パノラミックビュー

② ガイド線表示モード切り替えスイッチ

スイッチを押すたびにガイド線表示モードを切り替える。（→ P. 562）

③ 表示モード切り替えスイッチ

パノラミックビュー＆バックビューモードとバックビューモードの間で表示モードを切り替える。

④ 表示エリア

⑤ バックビュー

⑥ クリアランスソナー★

障害物をクリアランスソナーが感知すると、画面表示でお知らせします。

⑦ RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★

後側方からの接近車両を後側方レーダーで検知すると、画面にインジケーターが表示される。

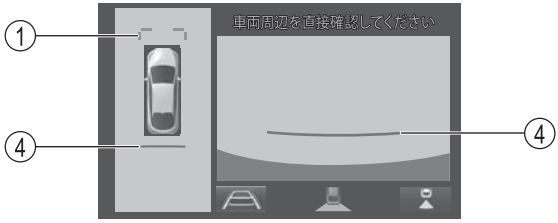
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ 画面の見方について

■ 距離目安線表示モード

距離目安線のみ表示されるモードです。

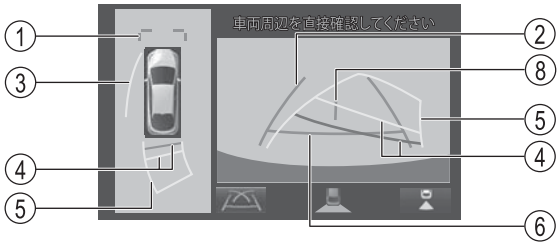
ガイドを必要としない方はご使用ください。



IO55PH165

■ 予想進路線表示モード

ハンドル操作に連動した予想進路線などが表示されるモードです。

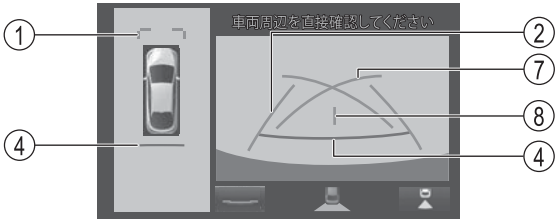


IO55PH166

■ 駐車ガイド線表示モード

ハンドルの切り返し点（駐車ガイド線）が表示されるモードです。

車両感覚に慣れた方（進路線表示を必要とせずに駐車できる方）はご使用ください。



IO55PH167

① 前方距離目安線

フロントバンパー前端から約 1.0 m 先（青色）を示す。

② 後方車幅延長線

車をまっすぐ後退させたときの進路の目安を示す。

・ 実際の車幅より広く表示。
・ 直進状態になっているときは、予想進路線と重なる。（予想進路線表示モード）

③ 側方予想進路線

ハンドルの角度から算出した後退予想進路（黄色）を示す。

・ ハンドルの方向に応じて、フロントに旋回方向外側の後退予想進路を表示します。

④ 後方距離目安線

車の後方の距離を示す。予想進路線表示モードでは、ハンドル操作と連動する。

・ 予想進路線と連動する。（予想進路線表示モード）
・ バンパー後端の中心位置から約 0.5 m 先（赤色）・約 1 m 先（黄色）を示す。（予想進路線表示モード）
・ バンパー後端の中心位置から約 0.5 m 先（赤色）を示す。（距離目安線表示モード / 駐車ガイド線表示モード）

⑤ 後方予想進路線

ハンドル操作と連動して、進路の目安（黄色）を示す。

⑥ 後方距離目安線

車の後方の距離を示す。

・ バンパー後端から約 0.5 m 先（青色）を示す。

⑦ 駐車ガイド線

もっとも後方へ小まわりしたときの進路の目安（青色）を示す。
・ 駐車時にハンドルを操作する位置の目安。

⑧ 車両中央線

車幅延長線の中心位置（青色）を示す。

警告

- 乗車人数・積載量・路面の勾配などにより、画面のガイド線の示す位置はかわります。必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
- ハンドルがまっすぐ（直進状態）で車幅延長線と予想進路線がずれているときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 後方車幅延長線は、実際の車幅より広く表示されます。後退するときは、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

知識

- バックドアが閉じていないとガイド線は表示されません。バックドアを閉じてもガイド線が表示されない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

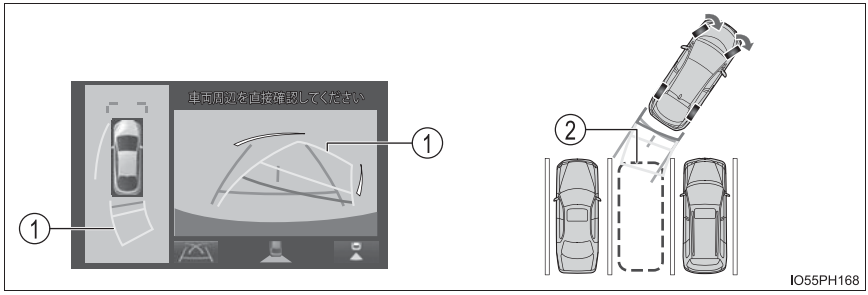
◆ 駐車する

■ 並列駐車をする（予想進路線表示モード）

以下の手順と逆方向の駐車スペースに駐車するときは、ハンドル操作がすべて左右逆になります。

1 シフトポジションを R にする

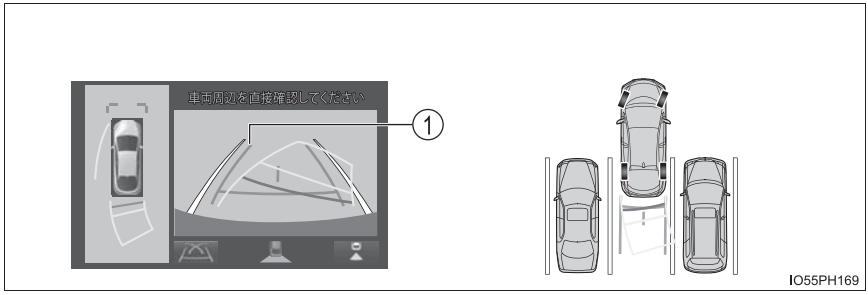
2 予想進路線が駐車スペースの中に入るようにハンドルを操作して、ゆっくり後退する



① 予想進路線

② 駐車スペース

3 車の後部が駐車スペースの中に入ったら、車幅延長線が駐車スペース左右の区画線の間に入るようにハンドルを操作する



① 車幅延長線

4 車幅延長線と駐車スペースの区画線が平行になったら、ハンドルをまっすぐにして、車が駐車スペースにすべて入るまで、ゆっくり後退する

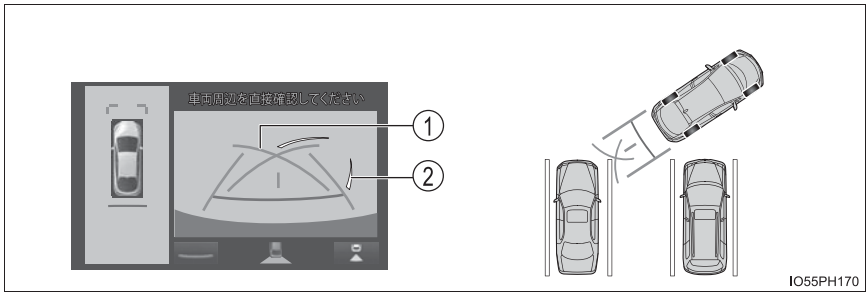
5 適切な位置で停車し、駐車を終える

■ **並列駐車をする（駐車ガイド線表示モード）**

以下の手順と逆方向の駐車スペースに駐車するときは、ハンドル操作がすべて左右逆になります。

1 シフトポジションを R にする

2 駐車ガイド線が駐車スペースの左端の区画線に合うまで後退したら止まる



① 駐車ガイド線

② 駐車場の区画線

3 ハンドルを右いっぱいにまわして、ゆっくり後退する

4 車が駐車スペースと平行になったら、ハンドルをまっすぐにして、車が駐車スペースにすべて入るまで、ゆっくり後退する

5 適切な位置で停車し、駐車を終える

パノラミックビューモニターの注意点

運転操作時は、必ず後方や周囲の安全を直接確認してください。お守りいただかないと、車をぶつけるなど、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

パノラミックビューモニターを使用するときは以下のことをお守りください。

警告

- パノラミックビューモニターを過信しないでください。
  一般の車と同様、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に運転してください。特に周辺に駐車している車や障害物などに接触しないようにしてください。
- 運転操作時は、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
- 画面だけを見ながら運転操作することは絶対にしないでください。
  画面に映し出されている映像と実際の状況は異なることがあります。また、カメラの映し出す範囲は限られていますので、画面だけを見て右左折、後退することは絶対にしないでください。車をぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。必ず目視やインナーミラー、ドアミラーなどで周囲の安全を確認し、十分注意したうえで運転してください。
- 乗車人数・積載量・路面の勾配などにより、画面のガイド線の示す位置はかわります。必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
- 以下のような状況では、使用しないでください。
  - ・凍結したり、すべりやすい路面、または雪道
  - ・タイヤチェーン、応急用タイヤを使用しているとき
  - ・フロントドア・バックドアが完全に閉まっていないとき
  - ・坂道など平坦でない道路
  - ・タイヤをメーカー指定のものから交換しているとき
  - ・サスペンションを改造しているとき
  - ・画面に映るエリアに社外品を装着しているとき
- 外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像が薄れることがあります。特に動いているものの映像が歪む、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。
- タイヤを交換すると、画面に表示されるガイド線の示す位置に誤差が生じることがあります。

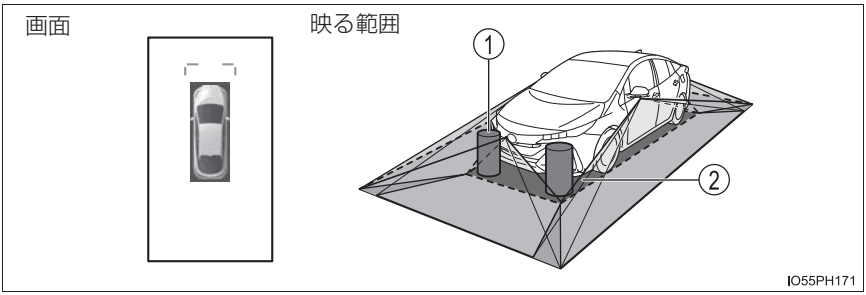
注意

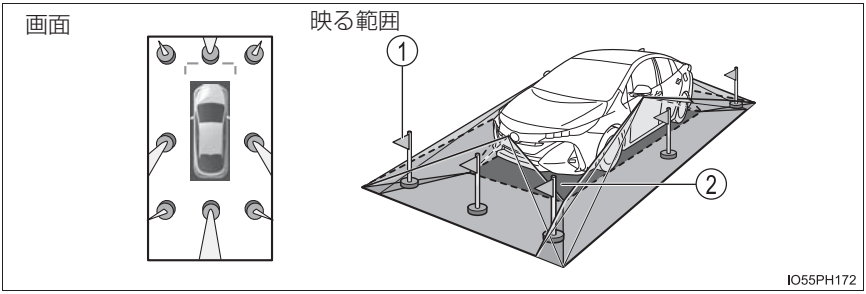
- パノラミックビューは、フロントカメラとバックカメラ、左右サイドカメラが撮影した映像を合成処理した映像です。表示可能な範囲や表示内容には限界があるため、パノラミックビューモニターの特性を十分理解したうえで使用してください。
- パノラミックビューの四隅には、それぞれのカメラ映像境界位置を中心に映像合成処理領域が存在し、映像の鮮明度が低下することがありますが、故障ではありません。
- それぞれのカメラ付近の照度条件により、パノラミックビューに明暗ができる場合があります。
- パノラミックビューでは、それぞれのカメラの取り付け位置や撮像範囲より上部は表示されません。
- 車両付近には死角があり、パノラミックビューモニターには表示されない領域があります。
- ワイドフロントビューまたはバックビューに表示されている立体物が、パノラミックビューでは表示されない場合があります。
- パノラミックビューモニターは、人物や障害物などの立体物が実際と異なって表示される場合があります。（倒れているように表示される場合や、映像合成処理領域付近で消えてしまう場合、映像合成処理領域付近から現れるように表示される場合、表示位置の距離感が実際と異なるなど）
- バックカメラが取り付けられたバックドア、サイドカメラを内蔵したドアミラーが取り付けられたフロントドアが開いている場合、パノラミックビューモニターは正しく表示されません。
- パノラミックビューに表示される車両アイコンは、コンピューターグラフィックによる画像を表示しているため、実際の車両とは色や形状、大きさなどが異なります。このため、車両付近の立体物が車両と接触しているように見える場合や、立体物との位置関係が実際の位置関係と異なる場合があります。

◆ 画面に映る範囲について

■ パノラミックビューの表示される領域について

車両付近には死角があり、表示されない領域があります。画面では車両の周辺に何も表示されていなくても、実際には障害物が進路上にあるため、接触することがあります。必ず周囲の安全を直接確認してください。





① 表示されません。

② 表示されません。（車両アイコンまわりに黒色で示されている部分）

知識

●車両アイコンまわりの黒色部分はカメラに映らない部分です。直接確認してください。

●パノラミックビューは、4 つのカメラから得られた画像を平らな路面を基準に加工して表示しているため、以下のように表示されることがあります。

・立体物が倒れて細長く、もしくは大きく見える。
・路面より高い位置にある立体物が実際より遠くに見える、もしくは見えない。
・高さのある物が合成のつぎ目から現れてくるように見える場合がある。

●照度条件により、カメラごとの映像の明るさにばらつきが出る場合があります。

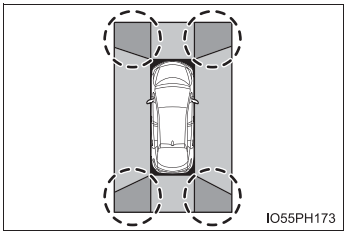
●乗員人数、積載状況、ガソリン残量による車体の傾きや車高の変化などにより、表示映像がずれる場合があります。

●ドアが完全に閉まっていないと、表示映像・ガイド線が正しく表示されない場合があります。

●パノラミックビューに表示されている車両アイコンと、路面・障害物との位置関係は実際の位置とは異なる場合があります。

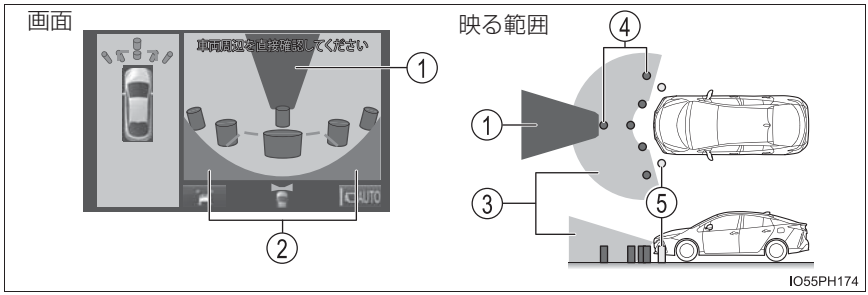
●字光式ナンバープレートを装着していると、画面上に映り込むことがあります。

●図の○部分は画像を合成しているため、映像が見えにくい場合があります。



■ カメラに映る範囲について

▶ ワイドフロントビュー



① マスキング

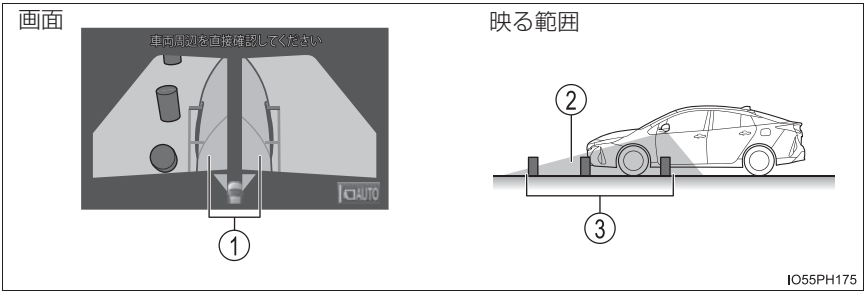
② 画面に車体の一部（バンパーやグリルなど）が映ります。

③ カメラの視野範囲

④ カメラで確認できる対象物

⑤ カメラで確認できない対象物

▶ 両サイドビュー

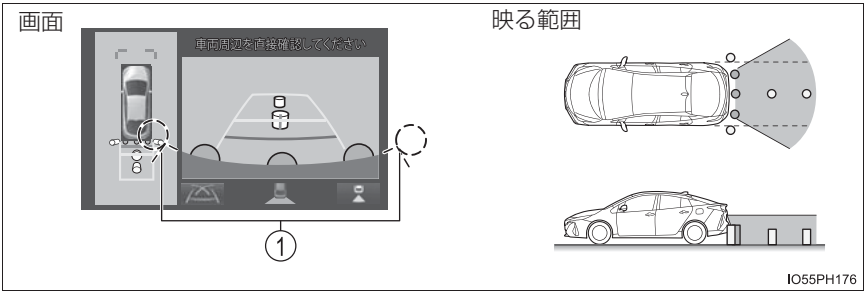


① 画面に車体の側方が映ります。

② カメラの視野範囲

③ カメラで確認できる対象物

▶ バックビュー



① バンパーの両端付近は映りません。

知識

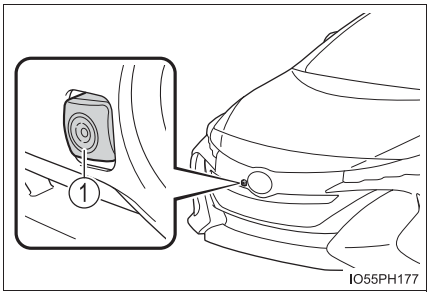
- 車両前方は距離感が異なるため、マスキングをしています。
- 車や路面の状況により、映る範囲は異なることがあります。
- カメラの映し出される範囲には限度があり、バンパーの両端付近やバンパーの真下付近にある物は映し出されません。
- 画面に映る映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。
- ワイドフロントビュー・両サイドビュー・バックビューのカメラは特殊なレンズを使用しているため、画面に映る映像の距離感は実際の距離とは異なります。
- バックカメラより高い位置にあるものについては、モニターに映らないことがあります。
- 字光式ナンバープレートを装着していると、画面上に映り込むことがあります。

◆ カメラについて

パノラミックビューモニターの各カメラは以下の位置にあります。

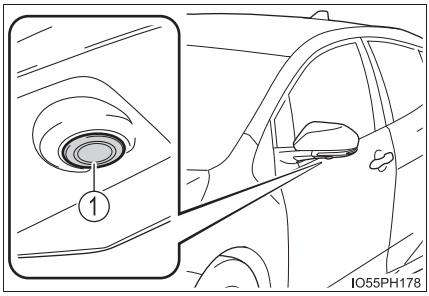
■ フロントカメラ

① フロントカメラ



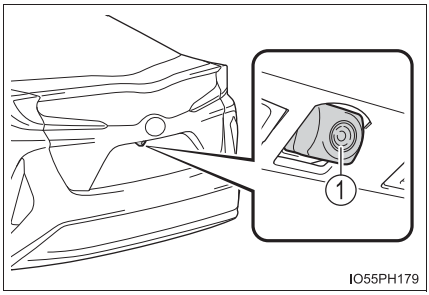
■ サイドカメラ

① サイドカメラ（左右両側）



■ バックカメラ

① バックカメラ



■ カメラのお手入れについて

カメラに水滴、雪、泥などの異物や汚れが付着していると、鮮明な画像を見ることができません。

この場合、大量の水でカメラの汚れを流し、水で湿らせた柔らかい布でカメラレンズをふき取ってください。

注意

●パノラミックビューモニターが正常に作動しなくなるおそれがありますので、以下のことにご注意ください。

・カメラ部を強くたたいたり、物をぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。
・カメラ部は防水構造となっていますので、取りはずし・分解・改造をしないでください。
・カメラレンズを洗うときは、大量の水でカメラの汚れを流した後、水で湿らせた柔らかい布でカメラレンズをふき取ってください。
カメラレンズを強くこするとカメラレンズが傷ついて、鮮明な画像を見ることができなくなるおそれがあります。
・カメラのカバーは樹脂ですので、有機溶剤・ボディワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。
・寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。
・洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。強い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

●カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

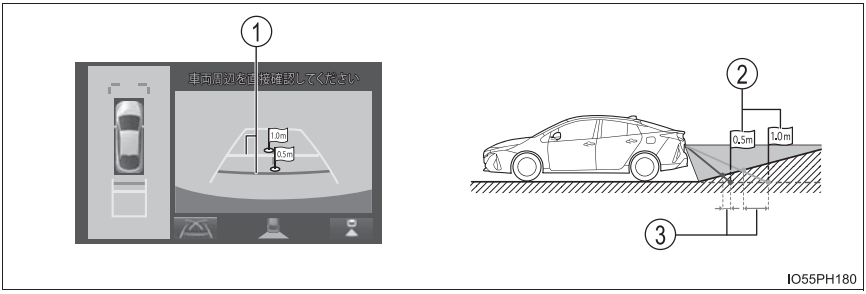
◆ 画面と実際の路面との誤差について

▶ パノラミックビュー／バックビュー

距離目安線や、パノラミックビューの合成映像・ガイド線は、平らな路面に対しての距離の目安を示しています。そのため、以下の状態のときは、画面のガイドと実際の路面上の距離・進路に誤差が生じます。

■ 急な上り坂が後方にあるとき

実際の距離より手前に距離目安線が表示されます。そのため、上り坂にある障害物は実際より遠くに見えます。同様にガイド線と実際の路面上の進路にも誤差が生じます。



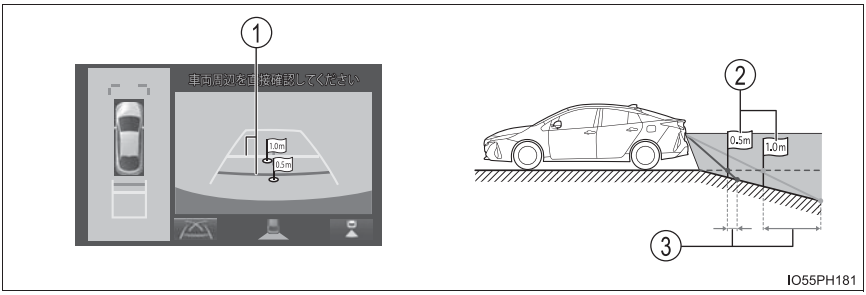
① 距離目安線

② 実際の距離

③ 誤差

■ 急な下り坂が後方にあるとき

実際の距離よりうしろに距離目安線が表示されます。そのため、下り坂にある障害物は、実際より近くに見えます。同様にガイド線と実際の路面上の進路にも誤差が生じます。



① 距離目安線

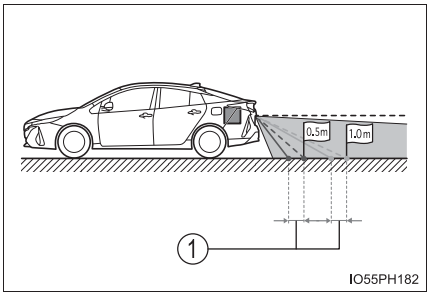
② 実際の距離

③ 誤差

■ 車が傾いているとき

乗車人数、積載量などにより車が傾いているときは、実際の距離、進路と誤差が生じます。

① 誤差

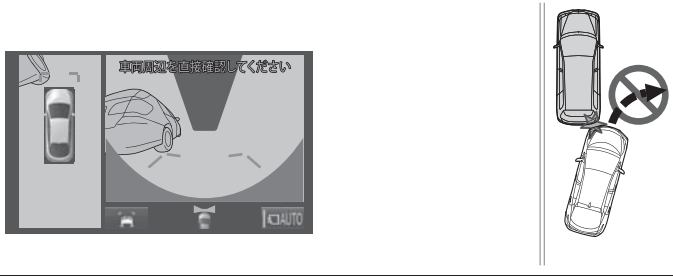


◆ 画面と実際の立体物との誤差について

路面より高い位置にある立体物（車両バンパーなど）が近くにあるときは、以下のことにご注意ください。

■ パノラミックビューの表示について

パノラミックビューは、平らな路面を基準に画像を加工して表示しているため、路面より高い位置にある立体物（車両のバンパーなど）の位置を判断することはできません。画面では車両のバンパーとの間に余裕があり、ぶつからないように見えても、実際には車両が進路上にあるためぶつかることがあります。
周囲の安全を直接確認してください。



■ 予想進路線について

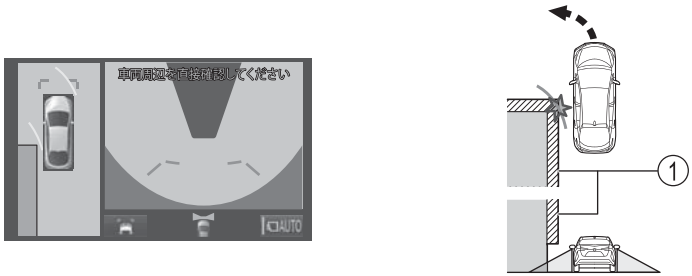
▶ パノラミックビュー

予想進路線は平らな路面に対して表示しているため、路面より高い位置にある立体物（車両のバンパーなど）の位置を判断することはできません。画面では車両のバンパーが予想進路線の外側にあり、ぶつからないように見えても、実際には車両が進路上にあるためぶつかることがあります。

IO55PH184

① 予想進路線

高い位置にある立体物（張り出しのある壁やトラックの荷台など）は、画面に映らない場合があります。
周囲の安全を直接確認してください。

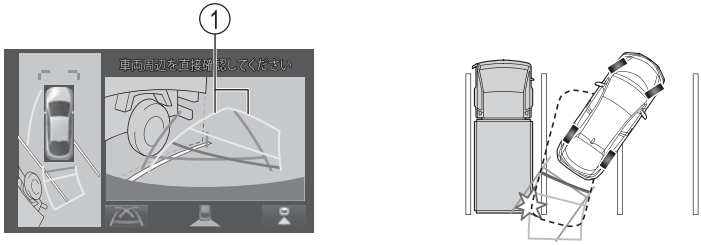


IO55PH185

① 壁の張り出し部分

▶ バックビュー

ガイド線は路面に対して表示されているため、立体物の位置を判断することはできません。周囲の安全を直接確認してください。画面では、トラックの荷台が予想進路線の外側にあり、ぶつからないように見えても、実際は荷台が進路上に張り出しているためぶつかることがあります。

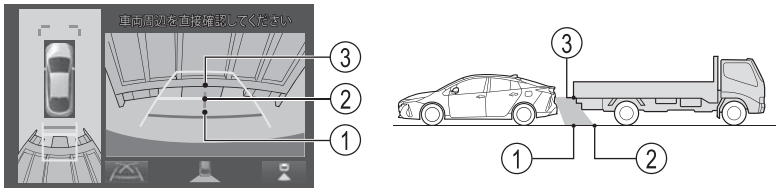


IO55PH186

① 予想進路線

■ 距離目安線について

ガイド線は路面に対して表示されているため、立体物との距離を判断することはできません。周囲の安全を直接確認してください。画面では、距離目安線により②の位置にトラックが駐車してあるように見えますが、実際には①の位置まで後退すると、ぶつかります。画面では①・②・③の順に近く見えますが、実際の距離は①と③は同じ距離で、②は①と③より遠い距離にあります。



IO55PH187

知っておいていただきたいこと

◆ 故障とお考えになる前に

下記のような症状で気になったりお困りになったときは、考えられる原因と処置を参考に、もう一度確認してください。

処置をしても直らないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

考えられる原因	対処方法
❑ 画面が見にくい	
・夜間など暗いところで使用。 ・レンズ付近の温度が高い、または低い。 ・外気温が低いとき。 ・カメラに水滴がついた。 ・雨天時など湿度が高い。 ・カメラ付近に異物（泥など）がついた。 ・太陽やヘッドランプの光が直接カメラのレンズに当たった。 ・蛍光灯、ナトリウム灯、水銀灯などの照明下で使用した。	車両周囲の状況を直接確認しながら、運転してください。（カメラおよびその周辺環境が改善されてから、再びパノラミックビューモニターをご使用ください。） パノラミックビューモニターの画質調整の方法は、ナビゲーション画面の調整と同じです。詳しくは販売店オプションのナビゲーションシステム取扱説明書を参照してください。
❑ 画面が不鮮明	
カメラのレンズに水滴、雪、泥など異物や汚れが付着している。	大量の水でカメラの汚れを流した後、水で湿らせた柔らかい布でカメラレンズをふき取ってください。
❑ 画面がずれている	
カメラ部に強い衝撃が与えられた。	トヨタ販売店で点検を受けてください。
❑ ガイド線が大きくずれる	
カメラの位置がずれている。	トヨタ販売店で点検を受けてください。
・車が傾いているとき（重い荷物の積載やパンクしてタイヤ空気圧が低いときなど）。 ・傾斜地で使用するとき。	車両周囲の状況を直接確認しながら、運転してください。

考えられる原因	対処方法
❑ ハンドルが直進状態であるにも関わらず予想進路線がまがっている（車幅延長線と予想進路線がずれる）	
ステアリングセンサーの信号に異常が発生した。	トヨタ販売店で点検を受けてください。
❑ 車両後方のガイド線が表示されない	
バックドアが開いている。	バックドアを閉める。 直らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。
❑ ！マークが表示される	
・補機バッテリーの脱着中にハンドル操作を行った。 ・補機バッテリー能力が低下した。 ・ステアリングセンサーを脱着した。 ・ステアリングセンサーの信号に異常が発生した。	車を止め、ハンドルを左右いっぱいにまわしてください。 直らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える前の準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
  - ・エンジンオイル
  - ・冷却水
  - ・ウォッシャー液
- 補機バッテリーの点検を受けてください。
- GR SPORT を除く：
  冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を使用してください。
  タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
  （タイヤについて：→ P. 668）
- GR SPORT：
  冬用タイヤ（4 輪）を使用してください。
  タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを使用してください。
  （タイヤについて：→ P. 668）

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトポジションを P にして駐車し、必ず輪止め ※ をしてください。

輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

知識

■タイヤチェーンについて

▶ GR SPORT を除く

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 前 2 輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従う
- 取り付け後 0.5 ～ 1.0km 走行したら締め直しを行う

▶ GR SPORT

タイヤとボデーのすき間が狭いため、この車にはタイヤチェーンを装着できません。

■寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

■寒冷時の燃費・電費について

一般に自動車は、寒冷時は車両各部（トランスミッション・タイヤなど）の抵抗が増え、走行時に消費されるエネルギーが増加するため、燃費が下がりやすくなります。

この車も同様に、寒冷時は燃費・電費の数値が低下しやすくなります。

警告

■冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■タイヤチェーン装着時の警告（GR SPORT を除く）

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ
- LTA（レーントレーシングアシスト）を使用しない

注意

■タイヤチェーンの使用について（GR SPORT を除く）

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■ガラスに付いた氷を除去するとき

氷をたたいて割らないでください。
ガラスがひび割れるおそれがあります。

室内装備・機能

6

6-1. エアコンの使い方

オートエアコン 594

リモートエアコン
システム 606

ステアリングヒーター／
シートヒーター
（快適温熱シート）／
シートベンチレーター 610

6-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 613

・フロント
インテリアランプ 614

・マップランプ 614

・リヤインテリアランプ..... 615

6-3. 収納装備の使い方

収納装備一覧.....616

・グローブボックス.....617

・コンソールボックス.....617

・カップホルダー.....618

・ボトルホルダー／
ドアポケット 619

・小物入れ 620

・カードホルダー.....621

・シートバックポケット.....621

ラゲージルーム内装備 622

6-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備.....627

・サンバイザー 627

・バニティミラー.....627

・アクセサリーソケット.....628

・アクセサリー
コンセント 629

・ワイヤレス充電器
（おくだけ充電）.....640

・アームレスト 646

・コートフック 646

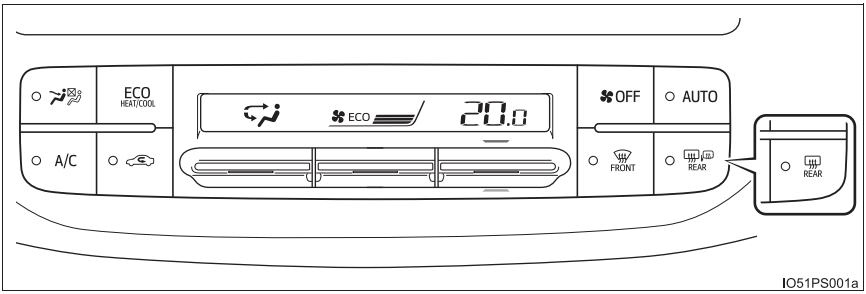
・アシストグリップ.....647

・ステアリングスイッチ.....648

オートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

基本操作

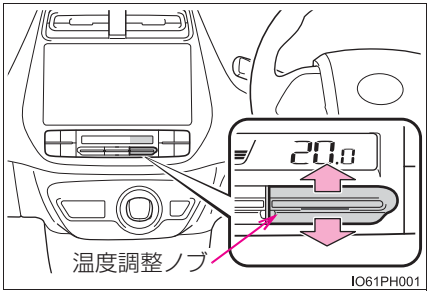


IO51PS001a

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは温度調整ノブを上に、下げるときは下に操作する

A/C が押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。



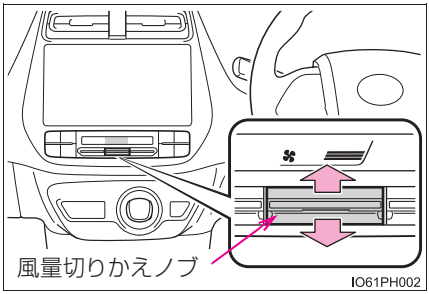
IO61PH001

■ 風量を切りかえる

風量を増やすときは風量切りかえノブを上に、減らすときは下に操作する

風量は 7 段階に調整できます。

OFF を押すと、ファンが止まります。



IO61PH002

■ 吹き出し口を切りかえる

吹き出し口切りかえノブを上下に操作する

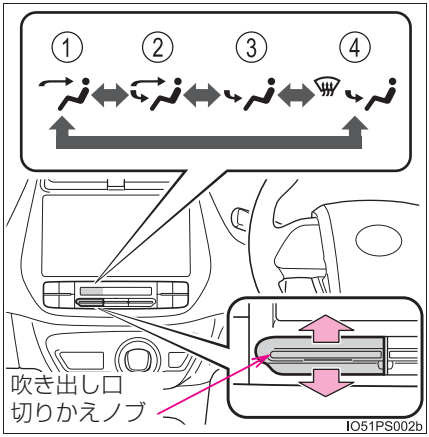
操作するたびに、吹き出し口が切りかわります。

① 上半身に送風

② 上半身と足元に送風

③ 足元に送風

④ 足元に送風・フロントウインドウガラスの曇りを取る



■ その他の機能

- 内気循環／外気導入を切りかえる（→ P. 597）
- フロントウインドウガラスの曇りを取る（→ P. 597）
- リヤウインドウガラスの曇りやミラーの霜を取る（→ P. 598）

オート設定で使用する

1 ○ AUTO を押す

2 温度を設定する（→ P. 594）

3 ファンを止めたいときは、 OFF を押す

■ オート設定時の作動表示灯について

風量や吹き出し口を切りかえると、 ○ AUTO の作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

フロント席集中送風モード（S-FLOW）

エアコンの送風がフロント席に優先されるよう、送風を自動的に制御する機能です。助手席に乗員がいない場合は、運転席のみへの送風に切りかわることがあります。無駄な冷暖房を抑えることで、燃費の向上に貢献します。

フロント席集中送風モードは、次のような状況で作動します。

- リヤ席に乗員を検知していない
- フロントウインドウガラスの曇り取りが作動していない

作動中は、 ○ が点灯します。

■ 手動でフロント席集中送風モードの作動／非作動を切りかえる

フロント席集中送風モードは、スイッチ操作によりフロント席のみへの送風と全席への送風を切りかえることができます。このとき、送風の自動制御は作動しなくなります。

エアコン操作パネルの ○ を押し、送風を切りかえます。

- 表示灯が点灯：フロント席のみへの送風
- 表示灯が消灯：全席への送風

その他の機能

■ 内気循環／外気導入を切りかえる

を押す

押すたびに内気循環／外気導入が切りかわります。

内気循環を選択しているときは、 の作動表示灯が点灯します。

■ エコ空調モードを使用する

燃費性能を優先した作動に切りかえることができます。（→ P. 602）

を押す

押すたびにエコ空調モードの ON ／ OFF が切りかわります。
エコ空調モードのときは、モニター部に「ECO」が表示されます。

■ フロントウインドウガラスの曇りを取る

フロントウインドウガラスと運転席・助手席ドアガラスの曇りを取るときに使用してください。

を押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に外気導入に切りかわることがあります）
風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。

作動中は、 の作動表示灯が点灯します。

曇りが取れたら再度 を押すと前のモードにもどります。また、作動中にパワースイッチを OFF にしても、前のモードにもどります。

■ リヤウインドウデフォッガー & ミラーヒーター★

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用してください。

／

を押す

押すたびに ON ／ OFF が切りかわります。

ON のときは、

／

の作動表示灯が点灯します。

リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターは、しばらくすると自動的に OFF になります。

■「ナノイー」★を ON ／ OFF する

マルチインフォメーションディスプレイの 画面（→ P. 297）から、「ナノイー」の ON（作動）／ OFF（非作動）を変更することができます。

ON を選択すると、モニター部に「 nanoe 」が表示されます。

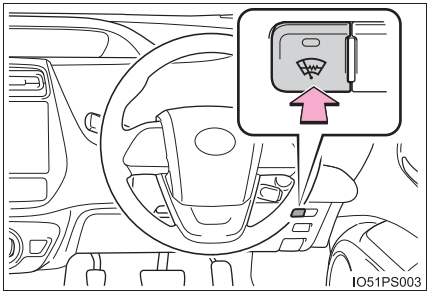
■ ウインドシールドデアイサー★

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用してください。

スイッチを押す

押すたびに ON ／ OFF が切りかわります。
ON のときは、スイッチの作動表示灯が点灯します。

ウインドシールドデアイサーは、約 15 分後に自動的に OFF になります。



■ エコジャッジ（空調スコア）について

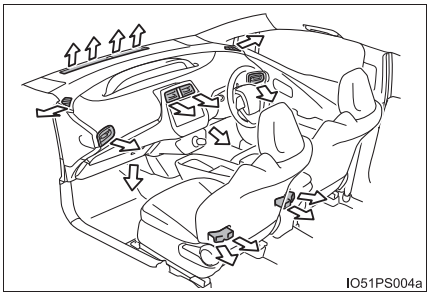
→ P. 294

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

吹き出し口について

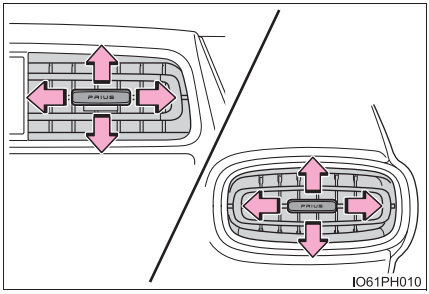
■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。



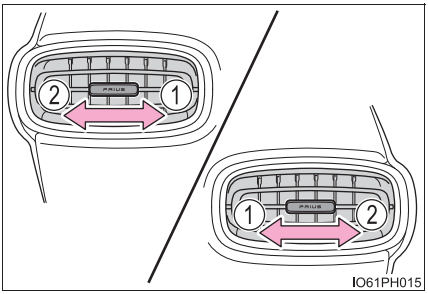
■ 風向きの調整

ノブを上下左右に動かす



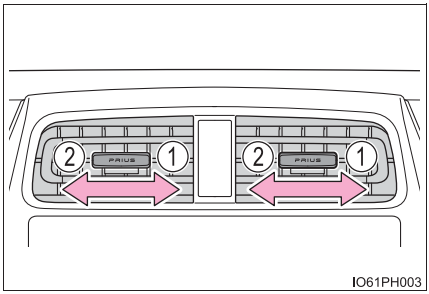
■ 吹き出し口の開閉

▶ 助手席サイド／運転席サイド



① 開ける
② 閉める

▶ 中央



① 開ける
② 閉める

知識

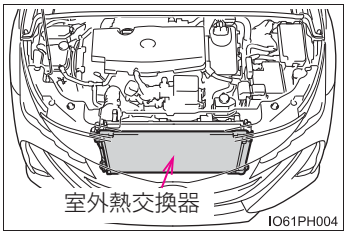
■暖房について

●HV モード時は、エンジン冷却水の排熱による暖房を行うため、ガソリンエンジンが作動することがあります。

●EV モード時は、ヒートポンプによる暖房を行います。

・ヒートポンプの特性上、外気温が低いときや雪が降っているときなどには、従来の車両にくらべて暖房が効きにくい場合や、温風が出ない場合があります。

・ヒートポンプの暖房運転中に室外熱交換器に着霜すると、風量が低下して暖房が効きにくくなる場合がありますが、異常ではありません。
この場合、設定温度を上げても吹き出し口から出る風の温度が上がらないことがあります。



・室外熱交換器に着霜している場合は、運転の前にリモートエアコンシステムを作動させると、室外熱交換器の着霜を取り除くことができます。
（→ P. 606）
着霜している場合、リモートエアコンシステムは除霜してから暖房運転を開始します。

・ AUTO が ON のときに最適な暖房を行うように設定されているため、風量設定を上げても所定の暖房能力が出ない場合があります。

●次のときは、EV モードであってもエンジン冷却水の排熱による暖房を行うため、ガソリンエンジンが作動することがあります。

・外気温が約－ 10 ℃以下のとき

・ FRONT が ON のとき

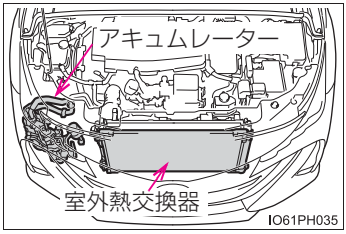
■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、 AUTO を押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■エアコン作動時の水滴について

エアコンの作動中に室外熱交換器･アキュムレーター･エアコン配管が結露･着霜する場合があります。

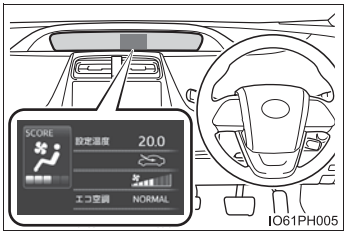
エアコンの作動中や作動後に、車の下に水滴が落ちることがありますが、異常ではありません。



■エアコン設定内容の確認表示

エアコンの設定を変更すると、マルチインフォメーションディスプレイにエアコン設定内容の確認画面が表示されます。

メーター操作スイッチの を押すと、前の画面表示にもどります。



■送風の自動制御について

●車室内を快適に保つために、ハイブリッドシステム始動直後や外気温によっては、乗員がいないシートにも送風されることがあります。

●ハイブリッドシステム始動後に乗員が車室内を移動した場合や乗降した場合は、乗員の有無を正しく検知できず、送風の自動制御は作動しません。

■送風の手動制御について

手動でフロント席のみへの送風に切りかえた場合でも、リヤ席に乗員がいると自動的に全席に送風されることがあります。

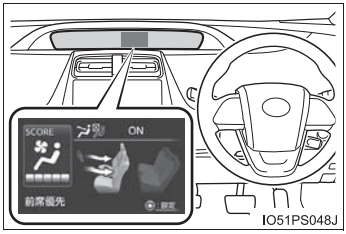
■送風を自動制御にもどすには

1 表示灯が消灯している状態でパワースイッチを OFF にする。

2 60 分以上経過後にパワースイッチを ON にする。

■フロント席集中送風モード（S-FLOW）の作動について

を押すと、マルチインフォメーションディスプレイにフロント席集中送風モード（S-FLOW）の作動状態が表示されます。



■マルチインフォメーションディスプレイでエアコンの設定を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの 画面からエアコンの設定を変更することができます。（→ P. 293）

■ガラスの曇りについて

●車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、A/C を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

● A/C を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

●内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■フロントウインドウガラス内側の曇り検知機能について

オート設定時、湿度センサー（→ P. 605）でフロントウインドウガラス内側の曇りを検知し、エアコンを自動的に制御して曇りを防ぎます。

■外気導入・内気循環について

●トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

●設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■駐車時外気導入システム

駐車時に自動で外気導入に切りかえることにより駐車中の換気をうながし、始動時に発生する臭いを緩和します。

■エコ空調モードのエアコン作動について

●エコ空調モードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。

・エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房／冷房の能力を抑制します。
・オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。

●空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。

・風量を調整する
・温度を調整する
・エコ空調モードを解除する

●走行モードをエコドライブモードにすると、自動でエコ空調モードに切りかわります。この場合でも、ECO を押すとエコ空調モードを解除できます。（→ P. 477）

■外気温度が 0 ℃近くまで下がったとき

A/C を押しても除湿機能が作動しない場合があります。

■「ナノイー」★※1 について

エアコンには「ナノイー」発生装置が搭載されています。この装置は運転席側吹き出し口を通じて、水に包まれた肌や髪にやさしい弱酸性の「ナノイー」を放出し、室内を爽やかな空気環境に導きます※2。

●「ナノイー」設定が ON のとき（→ P. 598）にファンが作動すると、「ナノイー」が作動します。

●「ナノイー」の作動中、次の条件で効果を発揮します。次の条件以外では、効果が十分に得られない場合があります。

・吹き出し口が 、 ・または のとき

・運転席側の吹き出し口が開いているとき

●「ナノイー」作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。

●「ナノイー」作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。

・「ナノイー」が作動するまでに多少時間がかかることがあります。

・作動直後は作動音が大きい場合があります。

※1「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

※2 温湿度環境、風量・風向きによっては「ナノイー」の効果が十分に得られない場合があります。

■換気とエアコンの臭いについて

●車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は自動的に外気導入になります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■エアコンフィルターについて

→ P. 685

■カスタマイズ機能

○ AUTO を ON にしたとき、連動して外気導入と内気循環を切りかえるかどうかなどを設定できます。（カスタマイズ一覧：→ P. 780）

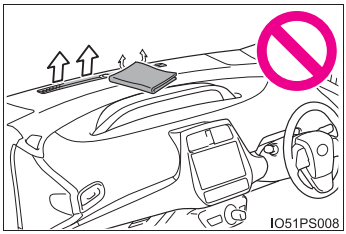
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**フロントウインドウガラスの曇りを防止するために**

●外気の湿度が高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、 を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

●フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなることがあります。



■**リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター★／ウインドシールドデアイサー★作動中の警告**

●ミラーヒーター装着車：ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

●ウインドシールドデアイサー装着車：フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

■**「ナノイー」★について**

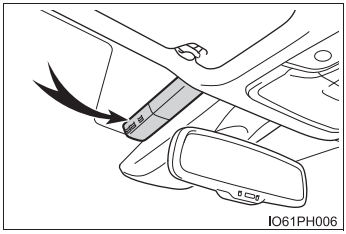
このシステムは、高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

■湿度センサーについて

フロントウインドウガラスの曇り検知（→ P. 602）のために、フロントウインドウガラスの温度やその付近の湿度などを監視するセンサーが装着されています。



センサーの故障を防ぐため、次のことをお守りください。

- 湿度センサーを分解しない
- ガラスクリーナーなどを吹きかけたり、強い衝撃を与えたりしない
- 湿度センサーにシールなどを貼らない

■「ナノイー」★の損傷を防ぐために

運転席側吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に働かなくなるおそれがあります。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステム停止中（READY インジケーターが点灯していないとき）は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

■吹き出し口について

暖房で使用するときは、吹き出し口が熱くなりますので、注意して調整してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

リモートエアコンシステム

駆動用電池に蓄えられた電力を使用して、乗車前に車外から冷房／暖房を作動させ、車内を空調することができます。

車両に充電ケーブルを接続した状態でリモートエアコンシステムを使用すると、外部電源からの電力を使用することができるため、駆動用電池の充電量の低下を抑えられます。

リモートエアコンシステム停止後は自動的に充電を行います。

車を降りる前に

エアコンの設定温度を確認してください。（→ P. 594）

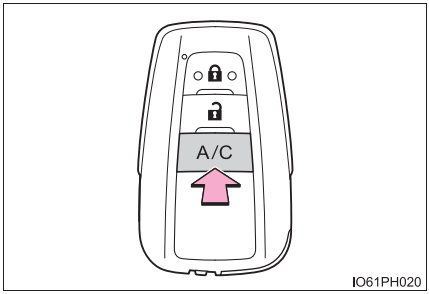
リモートエアコンシステムは、エアコンの設定温度に従って作動します。

作動させるには

電子キーの “A/C” を押したまま保持する

いずれかのドアを開くと停止します。

“A/C” を２回押して停止させることもできます。



知識

■作動条件

次の条件をすべて満たしていないと、リモートエアコンシステムは作動しません。

●シフトポジションが P になっている

●パワースイッチが OFF になっている ※

●すべてのドアが閉じている（バックドアを含む）

●ボンネットが閉じている

※ パワースイッチを OFF にしてから約 3 分半が経過するまでは、リモートエアコンシステムを使用できません。

■リモートエアコンシステムの自動停止について

次のとき、自動的に停止します。

●リモートエアコンシステムの作動開始から約 10 分後

●作動条件がひとつでも満たされなくなったとき

駆動用電池の充電量が少ないときも、停止する場合があります。

■リモートエアコンシステムの作動について

次のような場合は、作動しないことがあります。

●駆動用電池の充電量が少ないとき

●外気温が極めて低いとき

●ハイブリッドシステムが低温のとき（低外気温下に長時間放置したあとなど）

■フロントガラスの曇り取りについて

リモートエアコンシステムでフロントガラスの曇りを取る場合、通常のエアコン使用時よりも電力が制限されているため、十分にフロントガラスの曇りが取れないことがあります。また、外気温や湿度、エアコンの設定温度などにより、フロントガラスの外側が曇る場合があります。

■リモートエアコンシステムで暖房を使用するとき

室外熱交換器に着霜すると、霜を取る除霜運転に自動で切りかわり、暖房効果が低くなることがあります。（→ P. 600）

■セキュリティ機能

リモートエアコンシステムを作動するとき、盗難防止のため施錠されていないドアは自動的に施錠され、ブザーと非常点滅灯の点滅でお知らせします。
（ドアの施錠は 1 回、システムの停止は 2 回）

■機能が正常に働かないおそれのある状況

→ P. 337

■リモートエアコンシステムを使用すると

マルチインフォメーションディスプレイに、充電についてのメッセージが表示されます。
なお、リモートエアコンシステムを作動開始したタイミング（充電完了後または充電中）により、表示されるメッセージは異なります。

■リモートエアコンシステムの作動中に

●リモートエアコンシステムの作動状態によっては、電動ファンが回転して作動音が発生しますが、異常ではありません。

●リモートエアコンシステム以外の電気負荷（シートヒーターなど）が作動しているときや、補機バッテリーの充電量が少ないときには、一時的にリモートエアコンシステムが停止することがあります。

●リモートエアコンシステムの作動中は、ヘッドランプ・ワイパー・メーターなどは作動しません。

■電子キーの電池の消耗について

→ P. 320

■電子キーの電池が切れたとき

→ P. 692

■カスタマイズ機能

リモートエアコンシステムの作動開始・停止時の、ワイヤレスリモコンの操作方法を変更できます。（カスタマイズ一覧：→ P. 780）

■スマートフォンでの操作について（マルチメディアシステム装着車）

T-Connect にお申込みの方は、T-Connect 対応アプリで、リモートエアコンシステム（冷暖房）を操作することができます。

T-Connect サービスの詳細については、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

警告

■使用上の警告

●車室内に人がいるときは使用しないでください。
リモートエアコンシステムを使用していても、システムの自動停止等により車室内が高温、または低温になる場合があります。お子さまやペットを車室内に残したままにしておくと、熱中症や脱水症状や低体温症になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●車両の周囲の安全を十分に確認してから使用してください。

●ボンネットが開いているときは、“A/C”を操作しないでください。
意図せず冷房が作動して、冷却ファンに手や衣服などが巻き込まれるおそれがあります。

注意

■誤操作による駆動用電池の消費を防ぐために

必要なとき以外、“A/C”を操作しないでください。

ステアリングヒーター★／シートヒーター（快適温熱シート）★／シートベンチレーター★

● ステアリングヒーター
ハンドルの左右のグリップ部を暖めることができます。
● シートヒーター
フロントシートの表面を暖めることができます。
● シートベンチレーター
フロントシート内部に装備されたファンで換気することにより、シート表面の通気をよくします。

警告

●低温やけどを負うおそれがあるため、次の方がステアリングヒーター／シートヒーターにふれないようにご注意ください。

・乳幼児・お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
・皮膚の弱い方
・疲労の激しい方
・深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方

●異常過熱や低温やけどの原因になるおそれがあるため、シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。

・長時間連続使用しない
・毛布・クッションなどを使用しない

注意

●シートヒーターの損傷を防ぐため、凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

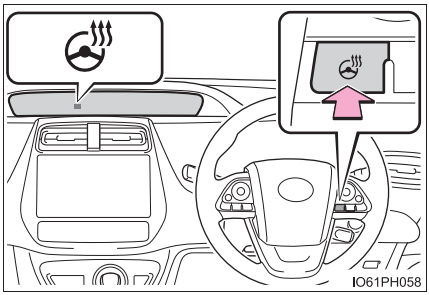
●補機バッテリーあがりを防ぐため、ハイブリッドシステムが停止した状態で使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ステアリングヒーター

システムのON／OFFを切りかえる

作動中はメーター内の表示灯が点灯します。



知識

- 作動条件：パワースイッチが ON モードのとき
- タイマー制御：約 30 分後に自動で OFF になります。

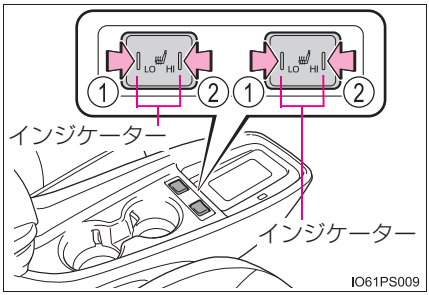
シートヒーター

▶ シートベンチレーター非装着車

① LO（弱）であたためる

② HI（強）であたためる

押した側のインジケーターが点灯します。
OFF にするときは、押されていない側を軽く押して、スイッチを中立の位置にします。



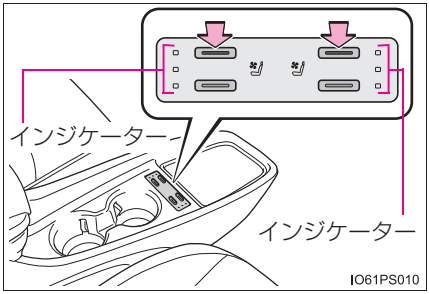
▶ シートベンチレーター装着車

スイッチを押す

シートヒーターが作動し、インジケーター（黄）が点灯します。

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

強（3 個点灯）→中（2 個点灯）→弱（1 個点灯）→ OFF



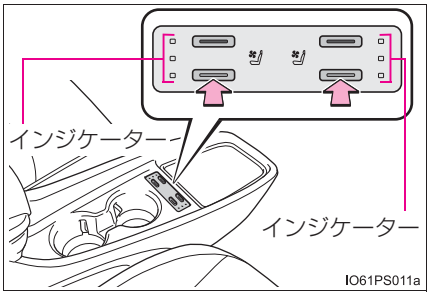
シートベンチレーター

スイッチを押す

シートベンチレーターが作動し、インジケーター（緑）が点灯します。

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

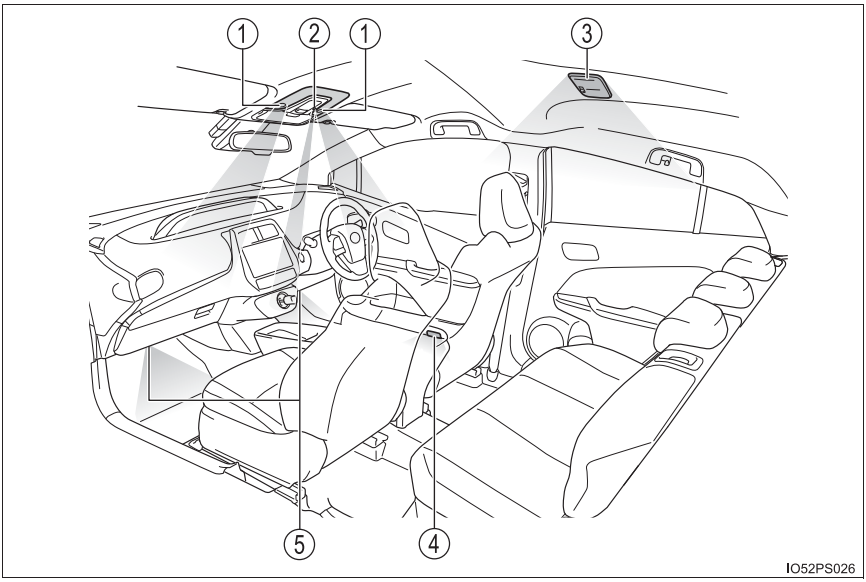
強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→ OFF



知識

- 作動条件：パワースイッチが ON モードのとき
- 使用しないときはスイッチを OFF にしてください。インジケーターが消灯します。

室内灯一覧



① フロントインテリアランプ・マップランプ（→ P. 614）

② シフトレバー照明

③ リヤインテリアランプ（→ P. 615）

④ ドアカーテシランプ

⑤ 足元照明★

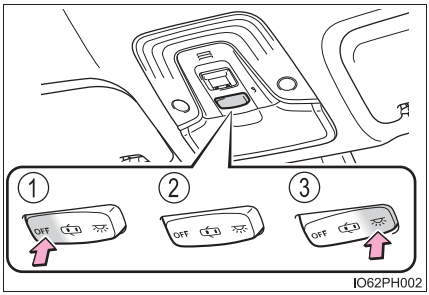
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フロントインテリアランプ

① ランプを消灯する

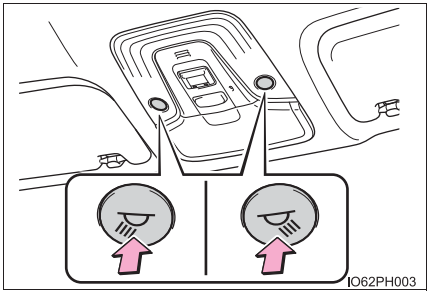
② ドアポジション（ドア連動）をONにする

③ ランプを点灯する



マップランプ

ランプを点灯・消灯する

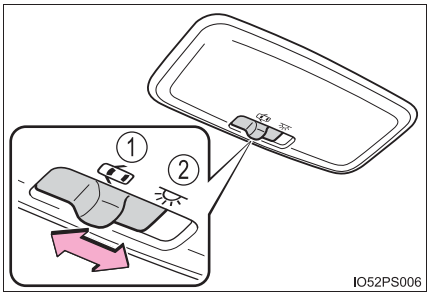


リヤインテリアランプ

① ドアポジション（ドア連動）をONにする※

※ フロントインテリアランプメインスイッチに連動して作動し、スイッチ状態がOFFのときはランプが点灯しません。

② ランプを点灯する



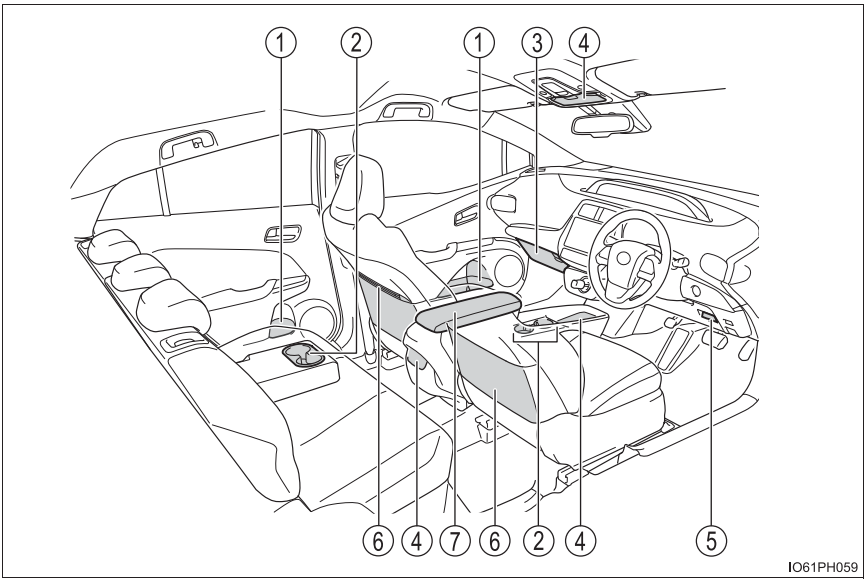
知識

- 電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・パワースイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。（イルミネーテッドエントリーシステム）
- パワースイッチがOFFの場合、各部の照明が点灯したままのときは約20分後に自動消灯します。
- 室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P. 780）

注意

補機バッテリーあがりを防止するために、ハイブリッドシステムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

収納装備一覧



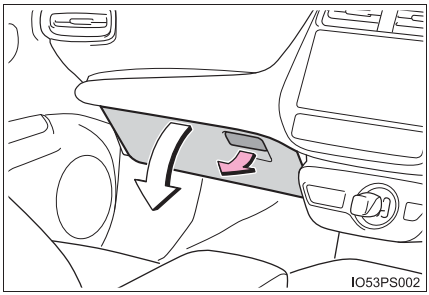
① ボトルホルダー／ドアポケット（→ P. 619）
② カップホルダー（→ P. 618）
③ グローブボックス（→ P. 617）
④ 小物入れ（→ P. 620）
⑤ カードホルダー（→ P. 621）
⑥ シートバックポケット（→ P. 621）
⑦ コンソールボックス（→ P. 617）

警告

- メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
  放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
  - ・室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
  - ・室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる
- 収納装備を使わないときは、フタを必ず閉じてください。
  急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

グローブボックス

グローブボックスを開けるには、
レバーを引き上げる

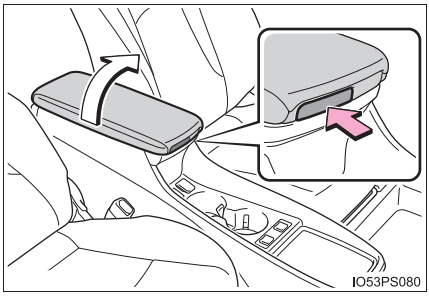


知識

車幅灯点灯時は、グローブボックス内のランプが点灯します。

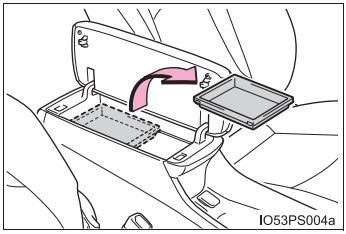
コンソールボックス

ノブを押し、ロックを解除してフタを開く



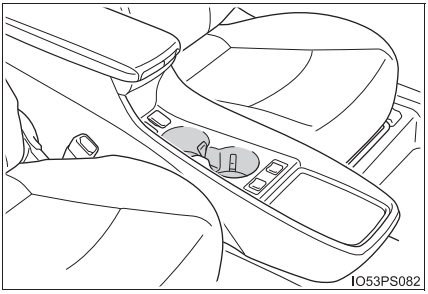
知識

ソーラー充電システム非装着車：
コンソールボックス内のトレイを前後に移動する、または引き上げて取りはずすことができます。

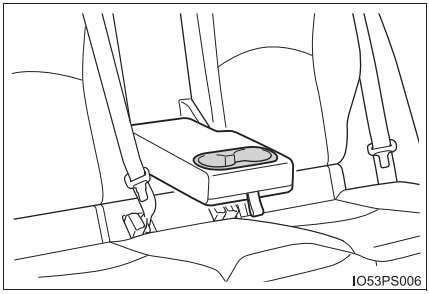


カップホルダー

▶ フロント



▶ リヤ



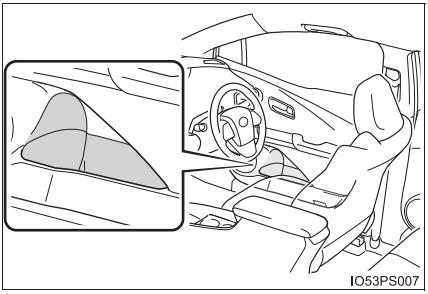
リヤセンターアームレストを引き出す

警告

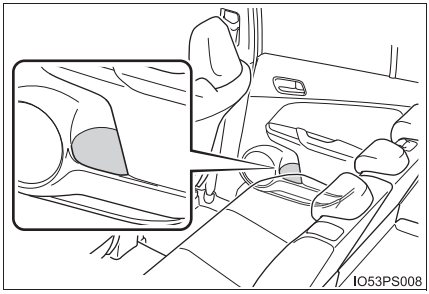
カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

ボトルホルダー／ドアポケット

▶ フロント



▶ リヤ



知識

●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

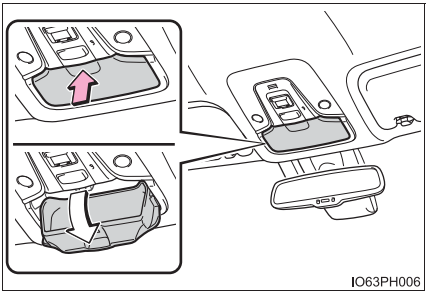
●ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

注意

ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

小物入れ

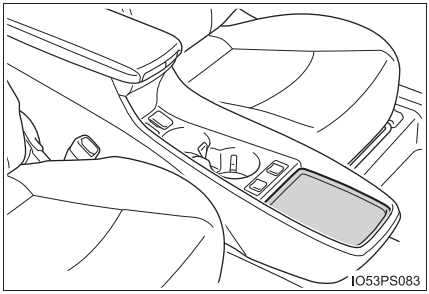
▶ オーバーヘッドコンソールボックス



フタを押す

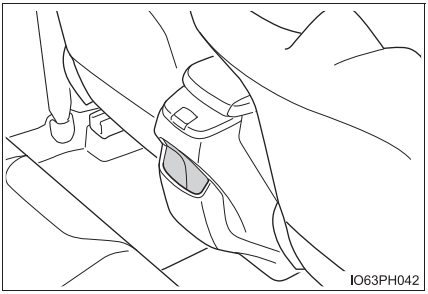
小物を一時的に収納できます。

▶ フロントコンソールトレイ★

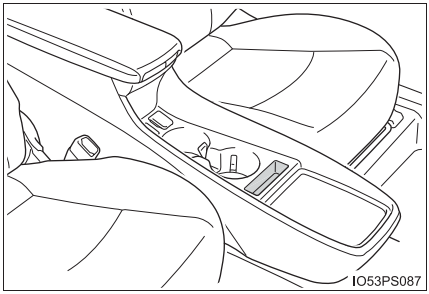


ワイヤレス充電器（おくだけ充電）装着車は、P. 640 を参照してください。

▶ コンソールボックス後方★



▶ 小物入れ★



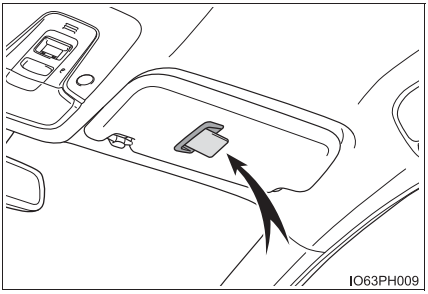
警告

オーバーヘッドコンソールボックスに 200g 以上のものを入れないでください。200g 以上のものを入れると、オーバーヘッドコンソールボックスが開き収納されているものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

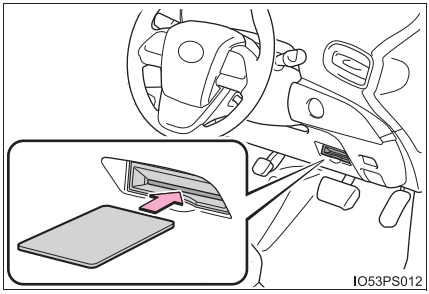
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

カードホルダー

▶ サンバイザー（運転席側）

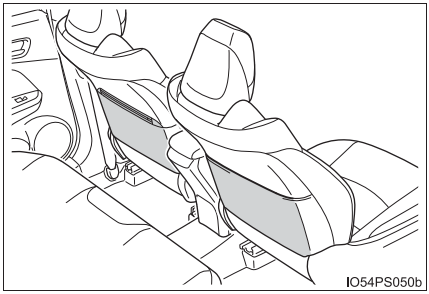


▶ 運転席横★



シートバックポケット

左側席のファスナーポケット★には取扱書などを収納できます。

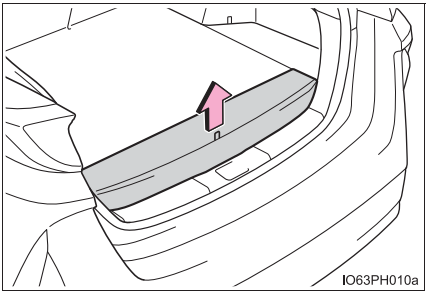


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ラゲージルーム内装備

デッキアンダーボックス

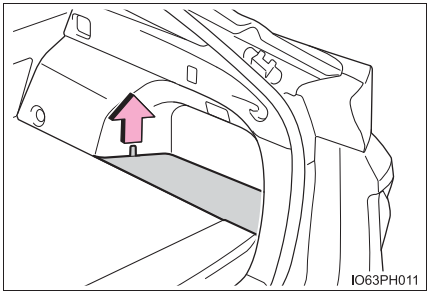
▶ 中央



ストラップを持ってデッキボードを持ち上げ、取りはずす

トノカバーや充電ケーブル、工具袋などを収納することができます。

▶ 右側

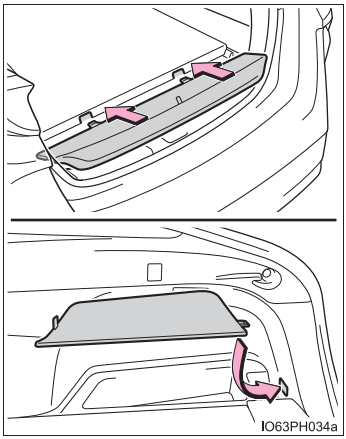


ストラップを持ってデッキボードを持ち上げ、取りはずす

知識

■ デッキボードを取り付けるとき

デッキボードの端にあるツメを穴に挿し込んでから、取り付けます。



警告

デッキボードを開けたときは、走行前に必ずもとどおりに閉じておいてください。開けたまま走行すると、急ブレーキをかけたときなどにデッキボードや収納していたものが飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

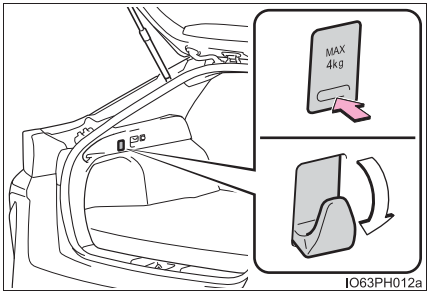
注意

破損を防ぐために、デッキボードの上に立ったり、無理な力をかけたりしないでください。

買い物フック

使用するときは、下側を押してフックを起こす

フックは運転席側にもあります

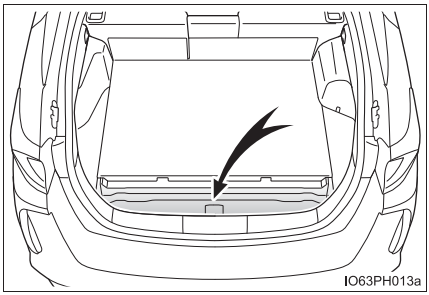


注意

買い物フックの破損を防ぐために、4kg 以上のものや大きいものを買い物フックに吊り下げないでください。

三角表示板等収納スペース

デッキアンダーボックスに三角表示板等を収納することができます。



知識

三角表示板等のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

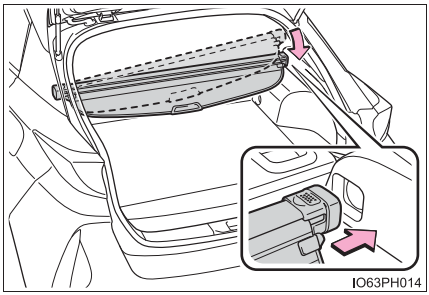
警告

三角表示板等を収納するときは、確実に収納されていることを確認してください。確実に収納されていないと、急ブレーキをかけたときなどに三角表示板等が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

トノカバー

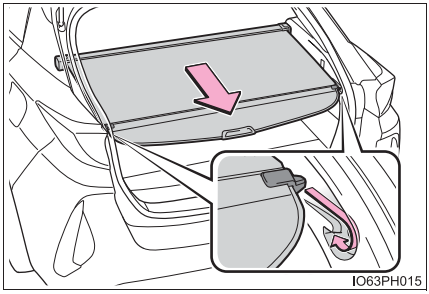
■ 取り付け方

トノカバー本体の一方をホルダーに取り付け、もう一方の先端を内側に押し込みながらホルダーに取り付ける



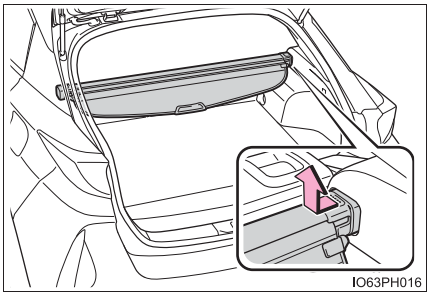
■ 使い方

トノカバーを引き出して、左右のホルダーにツメをかける



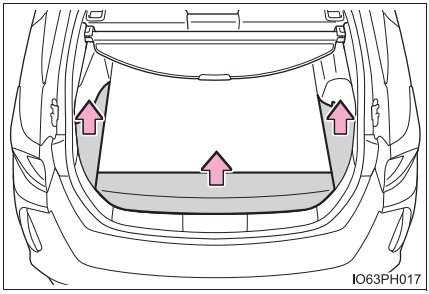
■ 取りはずし方

一方の先端を内側に押し込んで、ホルダーから取りはずす

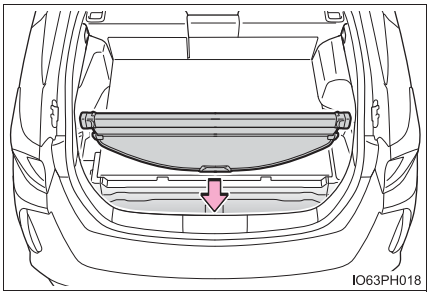


■ 収納のしかた

1 デッキボードを取りはずす



2 デッキアンダーボックスへ収納する



3 デッキボードをもとどおりに閉じる

警告

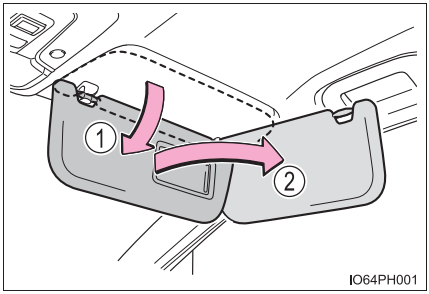
- トノカバーの上に荷物を置いたり、お子さまが乗ったりしないようにしてください。
  トノカバーが破損し、荷物が損傷したり、お子さまが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- トノカバーを操作するときは、トノカバーとまわりの部品のあいだに指や腕などを入れないように注意してください。指や腕を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- トノカバーを取り付けるときは、後方視界のさまたげにならないよう、トノカバーの後端部を水平にして取り付けてください。
  お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

その他の室内装備

サンバイザー

① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

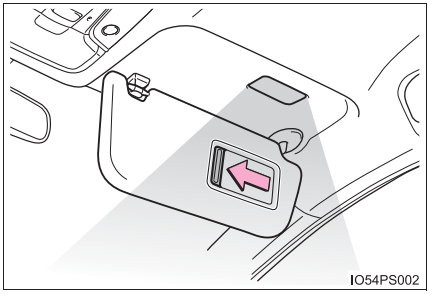
② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす



バニティミラー

カバーをスライドして開ける

カバーを開けるとランプが点灯します。



知識

パワースイッチが OFF の場合、バニティミラーランプが点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

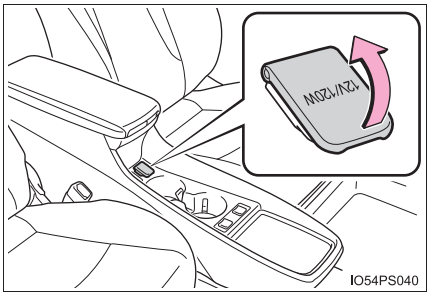
注意

補機バッテリーあがりを防止するために、ハイブリッドシステムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

アクセサリーソケット

DC12V ／ 10A（消費電力 120W）未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

フタを手前に引いて開ける



知識

■アクセサリーソケットを使用するとき

パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのとき

■ハイブリッドシステムを停止するとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。接続したままにしておくと、ハイブリッドシステムが正常に停止しなくなる場合があります。

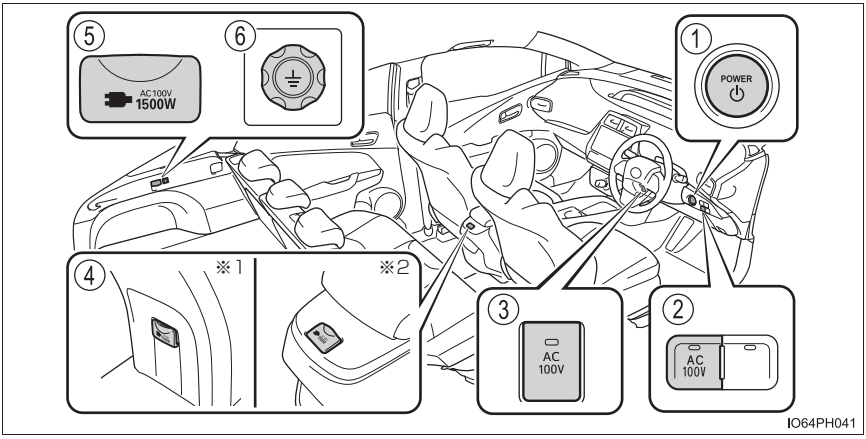
注意

- ショートや故障を防ぐために、アクセサリーソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。
- 補機バッテリーあがりを防止するために、ハイブリッドシステムが停止した状態で、アクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

アクセサリーコンセント

車内において、AC100V で最大消費電力 1500W 以下の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

■ 各部の名称



① パワースイッチ（→ P. 374）※3

② AC100V スイッチ（GR SPORT）

③ AC100V スイッチ（GR SPORT を除く）

④ 室内コンセント（コンソールボックス後方）

⑤ ラゲージルーム内コンセント（助手席側）

⑥ アース端子

※1 ソーラー充電システム非装着車

※2 ソーラー充電システム装着車

※3 GR SPORT はパワースイッチの意匠が異なります。

■ コンセントを ON するとき

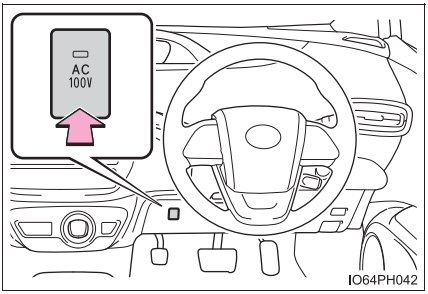
1 パーキングブレーキがかかっていることを確認し、ブレーキペダルをしっかり踏みながらパワースイッチを押す（→ P. 374）

2 READYインジケーターが点灯したことを確認し、AC100Vスイッチを押す

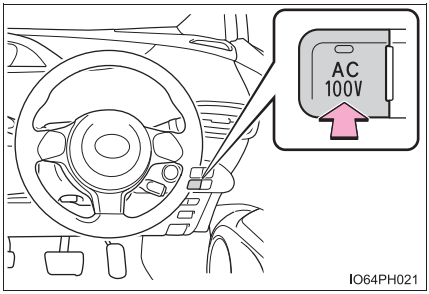
AC100V スイッチ上の作動表示灯が点灯し、使用可能な状態になります。

AC100V スイッチを押すたびにコンセントの ON ／ OFF が切りかわります。

▶ GR SPORT を除く



▶ GR SPORT

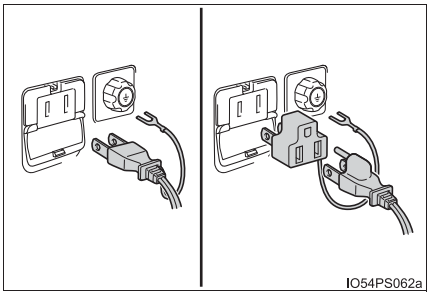


■ 電気製品の電源プラグを接続するとき

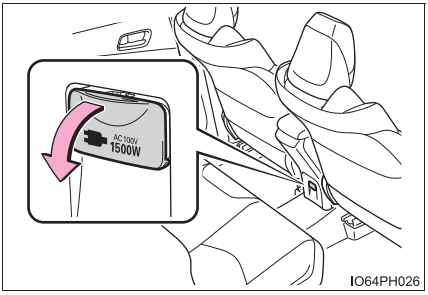
フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり挿し込む

アース線のある電気製品を使用するときは、ラゲージルーム内のコンセントを使用し、アース線をアース端子に接続してください。

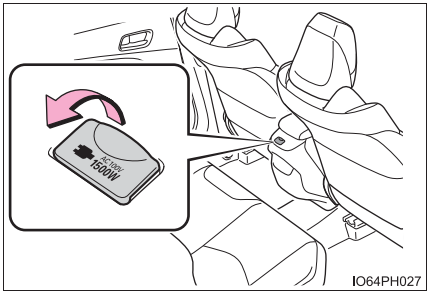
また、接地極付きプラグのある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線をアース端子に接続してください。



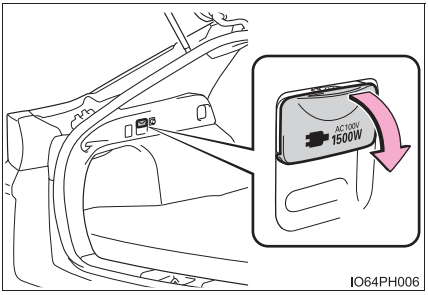
▶ コンソールボックス後方（ソーラー充電システム非装着車）



▶ コンソールボックス後方（ソーラー充電システム装着車）



▶ ラゲージルーム



■ コンセントを OFF するとき

次の手順をお守りください。

1 使用している電気製品の電源を OFF にする

2 AC100V スイッチを押して OFF にする

3 コンセントから電源プラグを取りはずす

4 コンセントのフタを閉める

知識

■使用条件

●READY インジケーターが点灯しているとき

●AC 外部電源供給システムを使用しているとき

●マイルームモードを使用しているとき

■アイドリングストップ条例について

駆動用電池の残量減少などにより、自動でエンジンが始動し、充電を行います。一部の自治体では、駐車または停車中にエンジンを始動した場合、条例にふれる可能性があります。駐車中または停車中のアクセサリーコンセントの使用については関係する自治体に確認した上で、適切に使用してください。

■AC 外部電源供給システムを使用しているとき

AC100V スイッチを押さなくても、コンセントを常時使用することができます。(→ P. 220)
また、作動表示灯は点灯したままとなり、スイッチを押しても OFF できません。

■使用しないとき

AC 外部電源供給システムを使用していないとき：
AC100V スイッチを OFF にして、スイッチ上の作動表示灯が消灯していることを確認してください。

AC 外部電源供給システムを使用しているとき：
AC 外部電源供給システムを停止してください。AC 外部電源供給システムを停止すると、AC100V スイッチは自動で OFF になります。

■アクセサリーコンセントに接続する電気製品について

●AC100V で、すべてのコンセントに接続されている電気製品の消費電力合計が 1500W 以下の電気製品を使用してください。規定容量をこえる電気製品を使用すると、保護機能が働き、コンセントが使用できなくなることがあります。

●使用する電気製品によっては、大きな電流が流れ、瞬間電力が 1500W をこえるときがあります。
この場合、保護機能が働き、コンセントが使用できなくなることがあります。

●消費電力が大きな電気製品の中には、コンセントを単独で使うことを必須としているものがあります。その場合、他の電気製品と併用しないでください。

●複数の電気製品に給電する場合、電気製品によっては正常に作動しない可能性があります。
その場合は、単独で電気製品を使用してください。

●使用する電気製品によっては、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。

●各電気製品の取り扱い説明書に記載されている注意事項に従ってください。

●一般的な電気製品の多くは、自動車内での使用が想定されていません。車室内で電気製品を使用すると、次のような問題が発生する場合があります。

・走行中の振動による電気製品の故障
・車室内の温度変化※ による電気製品の故障または作動不良
・車室内が平らではないため、設置が不安定になり、正常に作動しない

※ 天候・季節・使用環境などによっては、車室内が極端な高温または低温になることがあります。

■アクセサリーコンセントについて

●コンセントは車室内で電気製品を使用するための装備です。

●コンセントを使用中、リヤシート付近から冷却用ファンの音がすることがありますが、異常ではありません。

■正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような AC100V の電気製品は、消費電力の合計が 1500W 以下でも正常に作動しないおそれがあります。

●起動時の電力が大きい電気製品

●取扱説明書などに記載されている消費電力よりも大きな供給電力を必要とする電気製品

●精密なデータ処理をする計測機器

●極めて安定した電力供給を必要とする電気製品

●タイマー設定する機器など、コンセントの出力が連続して必要な電気製品

■コンセントが使用できないとき

AC100V スイッチを押しても作動表示灯が点灯しない場合、保護機能が働いていることが考えられます。
この場合、まず次の処置を行ってください。

●電気製品の電源プラグを抜き、消費電力の合計が 1500W 以下になっているかを確認し、再度 AC100V スイッチを押してください。

●電気製品の電源プラグを抜き、製品自体が故障していないかを確認して、再度 AC100V スイッチを押してください。

●駆動用電池の残量を確認してください（→ P. 283）。残量が少ない場合は、シフトポジションを P にして、駆動用電池の残量を回復させ、再度 AC100V スイッチを押してください。

●炎天下に放置した直後など、車内が高温になっている場合は、車両を日陰などへ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げ、しばらくしてから再度、AC100V スイッチを押してください。

●特に外気温が低いときは、駆動用電池を保護するため、コンセントを使用できないことがあります。その場合は、しばらく走行して駆動用電池をあたためてから使用してください。

以上の処置を行ってもコンセントが使用できない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■電源周波数について

工場出荷時、車両側の電源周波数は 60Hz に設定されています。
コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。
電気製品によっては、電源周波数の切りかえ（50 ／ 60Hz）機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を同じにしてください。
車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■安全にお使いいただくために

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●走行中、次のような場合は、電気製品を使用しないでください。また、電気製品を確実に固定できない状態で使用しないでください。

・わき見運転など、安全運転のさまたげになる場合（テレビ・ビデオ・DVDなど）
・急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、固定の不完全な電気製品の転倒・落下による事故や、発熱により火災・やけどなどのおそれがある場合（トースター・電子レンジ・電熱器・ポット・コーヒーメーカーなど）
・ペダルの下に電気製品が入り込み、ブレーキペダルが踏めなくなるおそれがある場合（ドライヤー・AC アダプター・マウスなど）

●窓を閉めたまま、蒸気が出る電気製品を使用しないでください。ガラスが曇って視界が悪化し、運転に支障が出るなどのおそれがあります。また、他の電装品に悪影響をおよぼすおそれがあります。やむを得ず使用するときは、車両を停車した状態で窓を開けて使用してください。

●故障した電気製品を使用しないでください。
コンセントが使用できなくなるおそれがあります。

●ぬれた手で電気製品の電源プラグを抜き挿ししたり、ピンなどをコンセントに挿したりしないでください。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は乾燥させてから使用してください。

●コンセントの改造・分解・修理などはしないでください。修理についてはトヨタ販売店にご相談ください。

●お子さまにコンセントをさわらせないでください。

●コンセントにほこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。

●電気製品の電源プラグをコンセントに挿し込んでもゆるいときは、コンセントを交換してください。交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

●コンセントへは電源プラグ本体を持って抜き挿しをしてください。
プラグの刃にふれないようにしてください。また、コードを引っ張って電源プラグを抜くと、電源プラグやコードが損傷するおそれがあります。

●アース線のある電気製品を使用するときは、アース端子付きのコンセントを使用し、アース線をアース端子に接続してください。また、接地極付きプラグのある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線をアース端子に接続してください。

警告

●電源プラグはコンセントにいっぱいまで確実に挿し込んでください。
電源プラグが半挿しの状態にならないようにしてください。また、電源プラグに荷重がかからないようにしてください。

■駐車中または停車中に使用するとき

次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因になるおそれがあります。

●パーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトポジションをPから切りかえないでください。

●電気製品を使用中に、READY インジケーターが点灯した状態のまま車両から離れないでください。

●ボンネットが閉まっていることを確認してください。
状況によっては、エンジンが自動で始動するため排気管付近に近付いたり、荷物を置いたりしないでください。また、エンジンルーム内に顔や手を近付けないでください。ラジエーター冷却用のファンが急にまわりだすことがあります。ファンの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれるおそがあります。

●燃えやすいものの近くで停車しないでください。
過熱した排気管で発火するおそれがあります。

●車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所（雪が積もった場所）などでは、酸素欠乏や排気ガスの充満・滞留を防ぐため、給排気を可能とする関連装置などを適切に設置して、使用してください。

●給排気設備のない車庫内など換気が悪い場所や給排気設備のない囲まれた場所（雪が積もった場所）などでは、酸素欠乏のおそれや排気ガスが充満したり、滞留したりするおそれがあるため、使用しないでください。（→ P. 44）

●車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しないでください。

●暖房器具などの電気製品を使用して、車中で泊まることはやめてください。

●車外で電気製品を使用するときや、災害などによる非常時に電力が必要な場合などには、AC 外部電源供給システムを使用してください。（→ P. 208）

警告

■接続する電気製品について

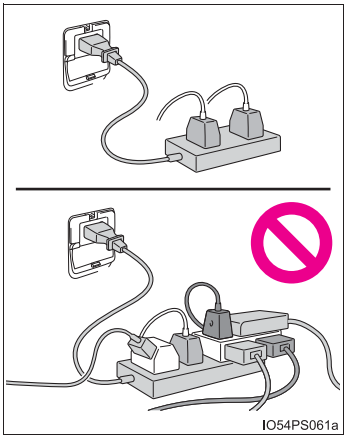
- 使用する電気製品に付属の取り扱い説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。
- 電源プラグや電気製品が故障しているときは使用しないでください。
- 特に外気温が低いときや高いときは、故障や作動不良になるおそれがあります。
- 水平設置が必要な電気製品は、正常に作動しないおそれがあります。
- 防水仕様の電気製品を除き、雨や水のかかる場所、湿気の多い場所では使用しないでください。
- 水没や浸水した、またそのおそれのある電気製品は使用しないでください。
- 車両の状態によっては、一時的にコンセントの出力が停止することがあるため、医療機器は使用しないでください。

⚠注意

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、正常に作動しなかったり、車両や電気製品が損傷したりするおそれがあります。

■ショートや故障を防ぐために

- 車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。熱により溶損や焼損のおそれがあります。
- 振動や熱などに弱い電気製品を車内で使用しないでください。
走行時の振動や、炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障するおそれがあります。
- コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。
誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。特に、電子レンジは使用中に発熱するおそれがあります。
- コンセントを使用しないときは、フタを閉めてください。コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障したり、ショートしたりするおそれがあります。
- コンセントに二股などの分岐用コンセントを複数接続しないでください。コードが発熱するおそれがあります。異常な発熱を感じたらただちに使用を中止してください。



- コードリールを使う場合、コードが発熱するおそれがありますので、コードはリールからすべて引き出してご使用ください。
- 電源コードやコンセントに異常な発熱を感じたら、ただちに使用を中止してください。

注意

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、正常に作動しなかったり、車両や電気製品が損傷したりするおそれがあります。

■特に外気温が高いとき

炎天下に放置した直後など、車内が高温になっている場合は、車両を日陰などへ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げ、しばらくしてから再度、AC100V スイッチを押してください。

■特に外気温が低いとき

駆動用電池を保護するため、コンセントを使用できないことがあります。その場合は、エアコンを使用し駆動用電池をあたためてから使用してください。

■電気製品の電源プラグをコンセントに接続するとき

電源プラグをコンセントに接続する前に、電気製品の電源が OFF になっていることを確認してください。

ワイヤレス充電器（おくだけ充電）★

ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）によるワイヤレス充電規格 Qi に適合した携帯電話やスマートフォンなどの携帯機器を充電エリアに置くだけで、携帯機器を充電することができます。

充電エリアより大きい携帯機器には本機能を使用できません。また、携帯機器によっては、正常に作動しない場合があります。
ご使用になる携帯機器に付属の取り扱い説明書もお読みください。

■「Qi」マークについて

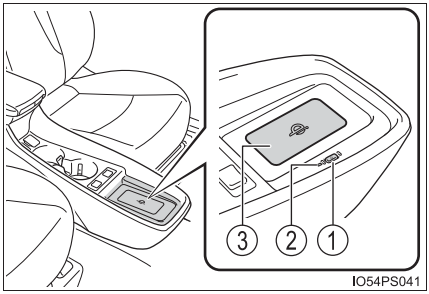
「Qi」および Qi マークは、ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）の登録商標です。

■「おくだけ充電」マークについて

「おくだけ充電」および「おくだけ充電」マークは、株式会社 NTT ドコモの登録商標です。

■ 各部の名称

① 電源スイッチ
② 作動表示灯
③ 充電エリア



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

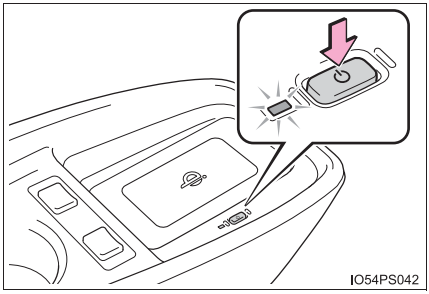
■ 充電する

1 電源スイッチを押す

押すごとに ON と OFF に切りかわります。

ON にすると作動表示灯が緑色に点灯します。

ワイヤレス充電器の電源の状態（ON ／ OFF）はパワースイッチを OFF にしても記憶されます。

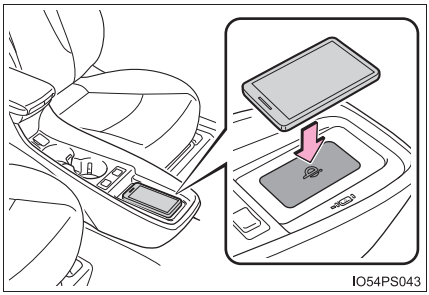


2 充電エリアに携帯機器を置く

携帯機器の充電面が下になるように置いてください。

充電中は作動表示灯が橙色に点灯します。

充電が行われないときは、できるだけ充電エリアの中央付近に携帯機器を置き直してください。



充電が完了すると作動表示灯が緑色に点灯します。

● 再充電機能
- 充電が完了し、充電停止状態が一定時間経過すると充電を再開します。
- 携帯機器が移動すると、いったん充電が停止しますが、ただちに充電を再開します。

■ 作動表示灯の点灯状況

作動表示灯	状況
消灯	ワイヤレス充電器の電源が OFF のとき
緑（点灯）	待機中（充電可能状態）
	充電完了時 ※
橙（点灯）	充電エリアに携帯機器を置いたとき（携帯機器を検出中）
	充電中

※ 携帯機器によっては、充電完了後も表示灯が橙色に点灯し続ける場合があります。

● 作動表示灯が点滅したときは

エラーが発生すると作動表示灯が橙色に点滅します。次の表に基づき、対処をしてください。

作動表示灯	想定される原因	対処方法
1 秒間に 1 回の点滅をくり返す（橙色）	**ワイヤレス充電器の故障**	トヨタ販売店へお問い合わせください。
3 回連続の点滅をくり返す（橙色）	**異物検知** 携帯機器と充電エリアのあいだに異物がある	携帯機器と充電エリアのあいだにある異物を取り除いてください。
	携帯機器のずれ 置かれた場所から携帯機器がずれている	携帯機器を充電エリアの中央付近に置き直してください。
4 回連続の点滅をくり返す（橙色）	**ワイヤレス充電器内の温度上昇**	いったん充電を停止し、しばらく待ってから充電を開始してください。

知識

■作動条件

パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのとき

■使用できる携帯機器について

●ワイヤレス充電規格 Qi 準拠機器を使用できます。ただし、すべての Qi 準拠機器と互換性を保証しているものではありません。

●携帯電話やスマートフォンをはじめとする携帯機器を対象とした 5W 以下の低電力給電を対象としています。

■スマートエントリー＆スタートシステムの使用について

スマートエントリー＆スタートシステムの作動中は、一時的に充電が停止することがありますが、異常ではありません。

■携帯機器にカバーやアクセサリーを付けるとき

携帯機器に、「Qi」非対応のカバーやアクセサリーを付けた状態で充電しないでください。カバーやアクセサリーの種類によっては充電できない場合があります。充電エリアに携帯機器を置いても充電が行われないときは、カバーやアクセサリーをはずしてください。

■充電中に AM ラジオにノイズが入るとき

ワイヤレス充電器の電源を OFF にして、ノイズが低減するか確認してください。
ノイズが低減する場合は、充電中にワイヤレス充電器の電源スイッチを約 2 秒間押し続けることで、充電の周波数を切りかえてノイズを低減することができます。
また、その際、作動表示灯が橙色に 2 回点滅します。

■充電中の留意事項

充電中は、ワイヤレス充電器と携帯機器が温かくなりますが、異常ではありません。
充電中に携帯機器が温かくなったときは、携帯機器側の保護機能により、充電が停止することがあります。この場合、携帯機器の温度が十分に下がってから、再度、充電を行ってください。

■作動中の音について

電源スイッチを押して電源を ON にしたときや、携帯機器を検出中は “ ジー ” と作動音がしますが、異常ではありません。

警告

■**運転中の注意**

携帯機器を充電する場合、安全のため、運転者は運転中に携帯機器本体の操作をしないでください。

■**電波がおよぼす影響について**

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器などの医療用電気機器を装着されている方は、ワイヤレス充電器のご使用にあたっては医師とよくご相談ください。ワイヤレス充電器の動作が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。

■**故障や火災を防ぐために**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと装置の故障や損傷、車両火災、発熱によるやけど、または感電につながるおそれがあります。

- 充電エリアと携帯機器のあいだに金属物を挟まない
- 小物入れがわりにものを置かない
- 強い力や衝撃をかけない
- 分解や改造、取りはずしをしない
- 指定された携帯機器以外は充電しない
- 磁気を帯びたものを近付けない
- 充電エリアに、ほこりがかぶった状態で充電しない
- ワイヤレス充電器に異物を入れたり、飲料水などをかけない
- 布などをかぶせて充電しない
- 充電エリアにアルミなどのシールや金属製のものを貼り付けない

⚠注意

■機能が正常に働かないおそれのある状況

次のような場合は正常に充電しない場合があります。

- ●携帯機器が満充電
- ●充電エリアと携帯機器のあいだに異物がある
- ●充電により、携帯機器の温度が高温になっている
- ●携帯機器の充電面を上にして置いた
- ●携帯機器の置き場所が充電エリアからずれている
- ●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- ●携帯機器が、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
  - ・アルミ箔などの金属の貼られたカード
  - ・アルミ箔を使用したタバコの箱
  - ・金属製の財布やかばん
  - ・小銭
  - ・カイロ
  - ・CD や DVD などのメディア
- ●近くで電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

また、上記以外で、充電が正常に行われない、または作動表示灯が点滅したままのときは、ワイヤレス充電器の異常が考えられます。トヨタ販売店へお問い合わせください。

■故障やデータ破損を防止するために

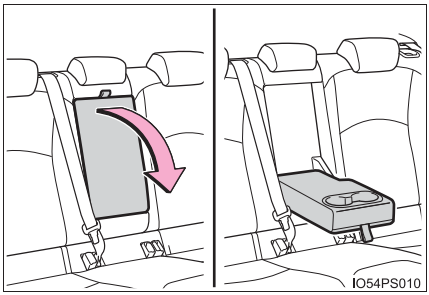
- ●充電中に、充電エリアにクレジットカード・ETC カードなどの磁気カードや磁気記録メディアなどを近付けると、磁気の影響によりデータが消えるおそれがあります。また、腕時計などの精密機器を近付けると、こわれたりするおそれがありますので、近付けないでください。
- ●携帯機器は車室内に放置しないでください。炎天下など車室内が高温となり、故障の原因となります。

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態で、ワイヤレス充電器を長時間使用しないでください。

アームレスト

手前に倒して使用します。

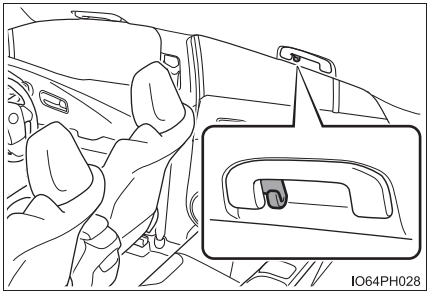


注意

破損を防ぐために、アームレストに過度の負荷をかけないでください。

コートフック

コートフックは、リヤのアシストグリップに付いています。

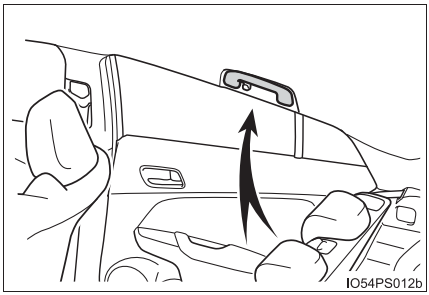


警告

ハンガーなどの硬いもの、鋭利なものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

アシストグリップ

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



警告

アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

注意

破損を防ぐために、アシストグリップに過度の負荷をかけないでください。

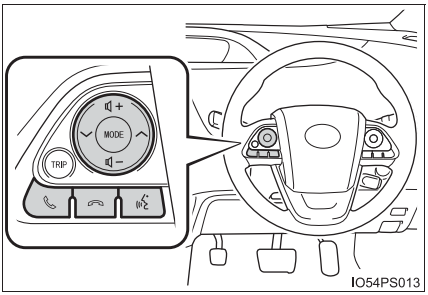
ステアリングスイッチ

マルチメディアシステム装着車は、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

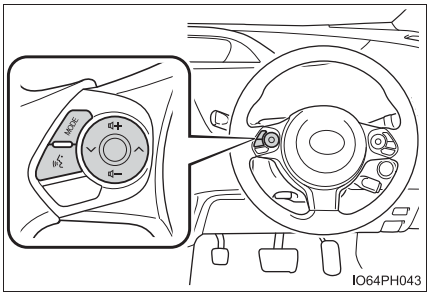
ハンドルにあるスイッチで、オーディオや、ナビゲーションシステムを操作することができます。

装着されているオーディオ・ナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。詳しくは製品に付属の取り扱い説明書をご覧ください。

▶ GR SPORT を除く



▶ GR SPORT



警告

運転中にステアリングスイッチを操作するときは、十分注意してください。

お手入れのしかた

7

7-1. お手入れのしかた
外装の手入れ.....650
内装の手入れ.....655
7-2. 簡単な点検・部品交換
ボンネット 662
ガレージジャッキ.....665
ウォッシャー液の補充.....666
タイヤについて.....668
タイヤ空気圧について 672
タイヤの交換.....674
エアコンフィルターの
交換 685
ワイパーゴムの交換.....689
電子キーの電池交換.....692
ヒューズの点検、交換.....695
電球（バルブ）の交換.....698

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける。（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■洗車をする前に

車両の充電リッド、および給油口が確実に閉まっていることを確認してください。

■自動洗車機を使うとき

- ドアミラーを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。
- 洗車機によっては、アンテナ・リヤスポイラーが引っかかり洗車できない場合や傷付いたり、破損したりするおそれがあります。

■高圧洗浄機を使うとき

室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

■スマートエントリー＆スタートシステムについて

電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠・解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

●電子キーを車両から2m以上離れた場所に保管する（電子キーの盗難に注意してください）

●電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→ P. 336）

■ホイール・ホイールキャップについて

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。

●洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。

●塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。

・酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
・硬いブラシを使用しない
・夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ブレーキパッドやディスクローターについて

水に濡れた状態のまま駐車しておくと、錆びて貼り付くことがあります。洗車後は低速で走行し、ブレーキを数回かけて乾燥させてから駐車してください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■フロントドアガラスの撥水コーティング★について

撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。

●フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす

●汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する

●コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない

●金属製の道具で霜取りをしない

■メッキ部品のお手入れについて

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

●中性洗剤を水で約 5%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る

●乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る

●油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

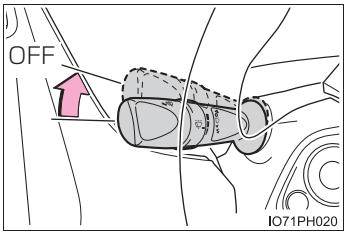
警告

■**洗車をするとき**

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■**フロントウインドウガラスを清掃するとき（雨滴感知式ワイパー装着車）**

ワイパースイッチを OFF にしてください。AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。



- 雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき
- 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき
- フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき
- 車内からセンサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■**排気管について**

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■**ブラインドスポットモニター★について**

リヤバンパーの塗装に傷が付くと、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。トヨタ販売店にご相談ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合は、ただちに洗車してください。

・海岸地帯を走行したあと
・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
・ばい煙･油煙･粉じん･鉄粉･化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
・ほこり・泥などで激しく汚れたとき
・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ワイパーアームの損傷を防ぐために

ワイパーアームを立てるときは、必ず運転席側を先に立ててから助手席側を立ててください。また、もとにもどすときは、必ず助手席側から先にもどしてください。

■ランプの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ランプを損傷させるおそれがあります。

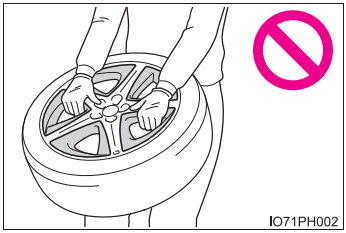
●ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■樹脂加飾部品の取り扱いについて（17 インチホイール装着車）

●ホイールに装着されている樹脂加飾部品の取り扱いについては、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、樹脂加飾部品またはホイールが損傷するおそれがあります。

・樹脂加飾部品を取りはずさない
樹脂加飾部品の取りはずしが必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

・樹脂加飾部品を持ってホイールを持ち上げたり、持ち運んだりしない



●樹脂加飾部品にガタつきがあったり、走行中にホイール周辺から異音が聞こえたりするときは、トヨタ販売店でホイールの点検を受けてください。

⚠注意

■自動洗車機を使用するとき（雨滴感知式ワイパー装着車）

ワイパースイッチを OFF にしてください。
AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

■高圧洗浄機を使用するときは

●洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水をあてないでください。
高い水圧により衝撃が加わり、装備が正常に作動しなくなるおそれがあります。

●エンブレム裏に搭載されているレーダーに直接水をかけないでください。部品故障の原因になるおそれがあります。

●ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクター類に近付けすぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

・駆動系部品
・ステアリング部品
・サスペンション部品
・ブレーキ部品

●モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。

●フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

●充電リッド付近に使用しないでください。充電インレットに水が入り、車両故障につながるおそれがあります。

■アルミ部品の清掃について

ボンネットを清掃するときは、強く押したり、体重をかけたりしないでください。アルミ部分がへこむおそれがあります。

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

車内の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1%にうすめてやわらかい布に含ませふき取る
  水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る
  ウール用の中性洗剤を水で約 5%にうすめて使用してください。
- 水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

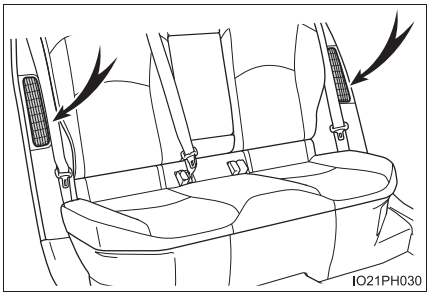
合成皮革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1%にうすめてやわらかい布に含ませふき取る
- 水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

駆動用電池冷却用吸入口／フィルターの清掃

駆動用電池冷却用吸入口／フィルターにほこりなどがたまったり、目づまりしたりしないように、次の要領で清掃してください。

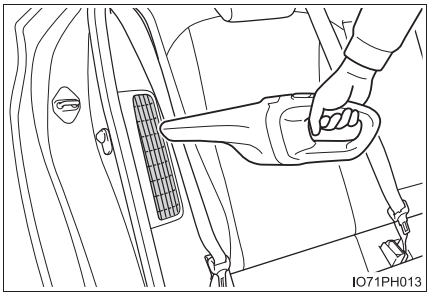
駆動用電池冷却用吸入口のグリルの裏側には、フィルターが取り付けられています。



■ 冷却用吸入口／フィルターの清掃

掃除機などを使用して吸入口／フィルターのほこりを取り除く

左右両側ともに、吸入口の清掃を実施してください。



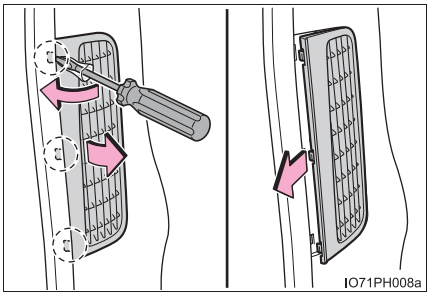
■ フィルターの清掃

マルチインフォメーションディスプレイに「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要　取扱書を確認」が表示されたときは、リヤシート左右にある駆動用電池冷却用吸入口のグリルを取りはずして、フィルターを清掃してください。

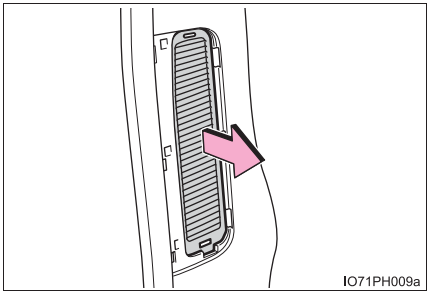
1 グリルの端にある切り欠きにマイナスドライバーなどを挿し込んでツメ（3ヶ所）をはずし、グリルを取りはずす

グリル横のゴムをめくって、マイナスドライバーを挿し込みます。

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

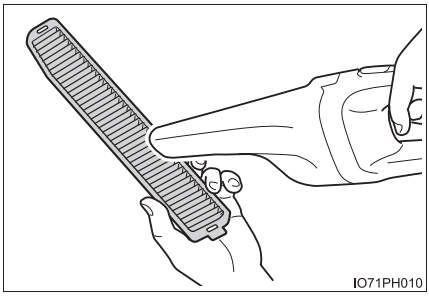


2 フィルターを取りはずす



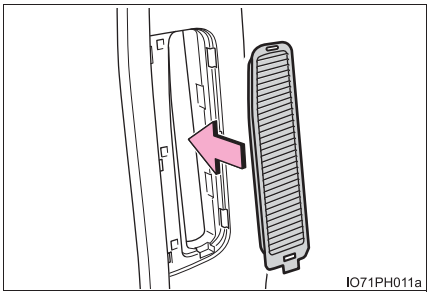
3 掃除機などでほこりを吸い込み、フィルターを清掃する

フィルターの清掃と併せて、グリルにたまったほこりも掃除機などで清掃してください。



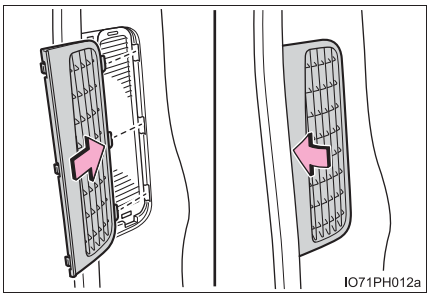
4 フィルターをもとどおりに取り付ける

フィルターが変形したり、取り付け位置とのあいだにすき間ができたりしないように注意して、取り付けてください。



5 グリルの端のツメを取り付け位置に挿し込み、反対側の端を押し込んでグリルを固定する

ゴムをめくりながら、グリルをもとどおりに取り付けます。



6 ハイブリッドシステムを始動し、マルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージが消えたことを確認する

ハイブリッドシステムの始動後、警告メッセージが消えるまでに数分間かかる場合があります。

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■駆動用電池冷却用吸入口／フィルターの清掃について

- 冷却用吸入口／フィルターが汚れていると、駆動用電池の冷却に悪影響をおよぼし、電費／燃費の悪化につながります。駆動用電池冷却用吸入口にほこりなどがたまらないよう、定期的に清掃してください。
- 冷却用吸入口／フィルターが目づまりし、マルチインフォメーションディスプレイに「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要　取扱書を確認」が表示されている状態で走行を続けると、駆動用電池の過熱などによって電気モーターでの走行距離が短くなり、電費／燃費の悪化につながったり、故障の原因になったりします。警告メッセージが表示されたときは、すみやかに清掃してください。
- 誤った取り扱いをすると、グリルまたはフィルターが損傷するおそれがあります。ご自身でのフィルターの清掃に不安がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- フィルターを清掃してもマルチインフォメーションディスプレイの表示が消えないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- フィルターの清掃が必要な時期は、車両の使用環境により異なります。

警告

■車両への水の浸入

●床・ラゲージルーム内・駆動用電池冷却用吸入口など、車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。（→ P. 85）
駆動用電池や電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

●SRS エアバッグの構成部品や配線をぬらさないでください。（→ P. 36）
電気の不具合により、エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ワイヤレス充電器（おくだけ充電）★（→ P. 640）をぬらさないでください。
発熱によるやけど、または感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤

・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために次のことをお守りください。

●革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

●直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
フロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。
また、レンズにはふれないでください。（→ P. 415）

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するとき

●熱線やアンテナ★を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナ★にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線やアンテナ★を引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠注意

■駆動用電池冷却用吸入口／フィルターを清掃するとき

次のことをお守りください。お守りいただかないと、車両故障の原因となるおそれがあります。

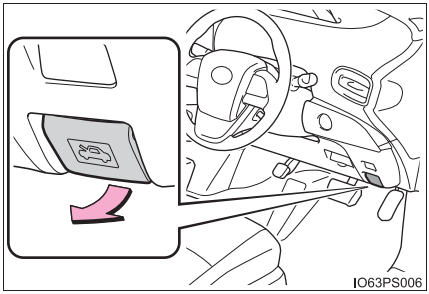
- 駆動用電池冷却用吸入口のグリルを取りはずすときは、必ずパワースイッチをOFF にしてハイブリッドシステムを停止する
- 水や液体などで吸入口／フィルターを清掃しない
- グリルを取りはずしたときは、駆動用電池冷却用吸入口に水や異物などが入らないように注意する
- 取りはずしたフィルターは損傷しないよう、慎重に取り扱う
  フィルターが損傷した場合は、トヨタ販売店で新しいフィルターに交換してください。
- 清掃後は、必ずフィルターとグリルをもとどおりに取り付ける
  フィルターは左右で形状が異なります。左右両側のフィルターを取りはずしたときは、左右の方向を間違えて取り付けないよう、ご注意ください。
- この車両用のフィルター以外のものを吸気口に取り付けたり、フィルターを取りはずした状態で車を使用したりしない

ボンネット

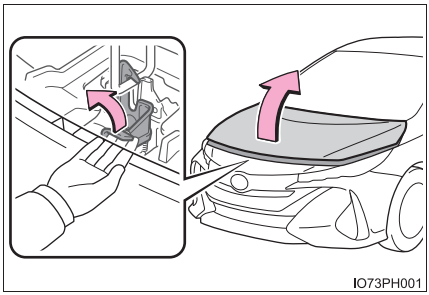
車内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

1 ボンネット解除レバーを引く

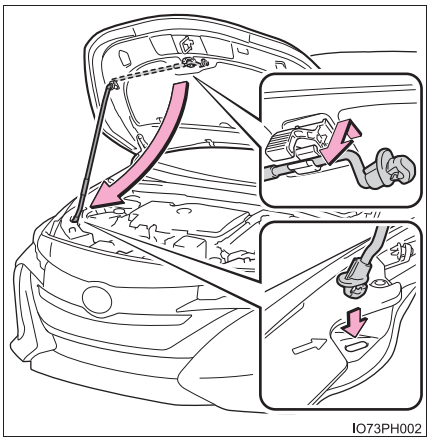
ボンネットが少し浮き上がります。



2 レバーを引き上げて、ボンネットを開ける



3 ボンネットステーをステー穴に挿し込む



警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■修理・車検・整備点検をする場合は

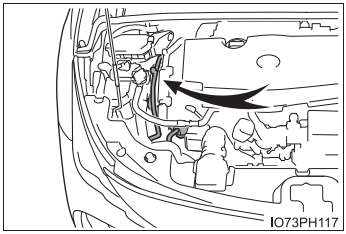
整備モードに切りかえる必要がありますので、必ずトヨタ販売店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ボンネットを開けるとき

ボンネットを開ける前にパワースイッチを OFF にしてください。作動中の部品に巻き込まれて重大な傷害を受けるおそれがあります。

■やけどを防ぐために

エアコンのコンプレッサーの作動中、または作動後は、エアコンの配管が高温になるため、手をふれないでください。配管が冷える前にふれると、やけどをするおそれがあります。



■エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

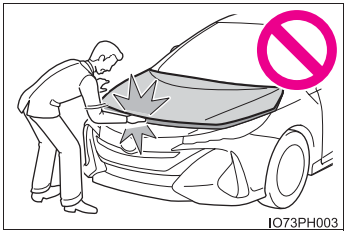
■ボンネットステーをステー穴に挿し込んだあとは

ボンネットが頭や体の上に落ちてこないように、正しく挿し込まれているか確認してください。

警告

■ボンネットを閉めるとき

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



注意

■ボンネットへの損傷を防ぐために

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

■ボンネットを閉めるとき

ボンネットステーをステー穴から取りはずし、クリップに正しくもどしてください。ステーを正しくもどさない状態でボンネットを閉めると、ボンネットやステーが損傷するおそれがあります。

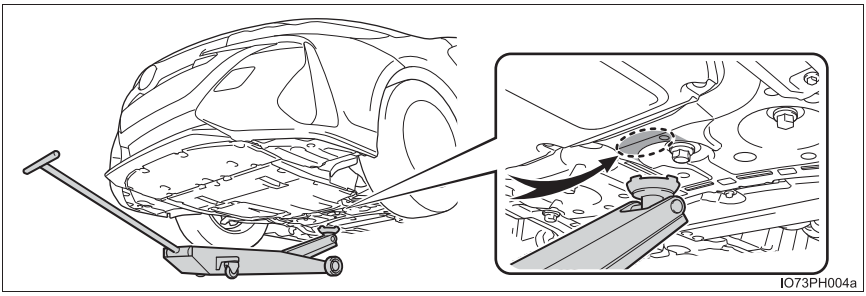
ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取り扱い説明書に従って、安全に作業してください。

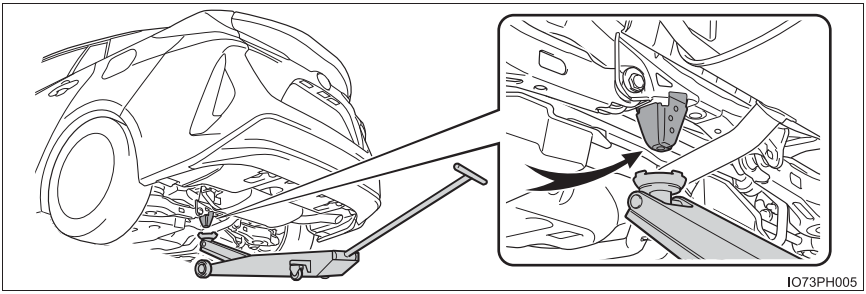
ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをしたりするおそれがあります。

◆ フロント側

フロントサスペンションメンバーにガレージジャッキをセットします。



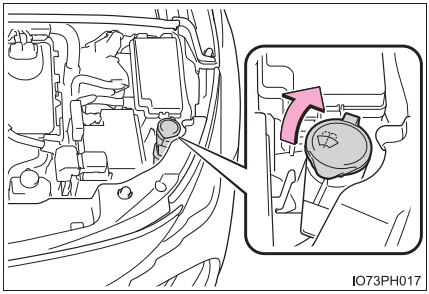
◆ リヤ側



ウォッシャー液の補充

補充のしかた

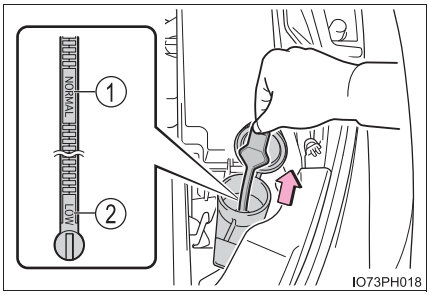
1 フタを開く



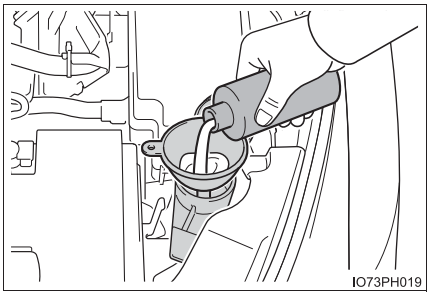
2 レベルゲージでウォッシャー液の量を確認する

① NORMAL（通常）

② LOW（少ない）



3 液面が LOW の位置に近付いたら
ウォッシャー液を補充する



警告

■ **ウォッシャー液を補充するとき**

ハイブリッドシステムが熱いときやハイブリッドシステム作動中は、ウォッシャー液を補充しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ハイブリッドシステムなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ **ウォッシャー液について**

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ **ウォッシャー液のうすめ方**

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

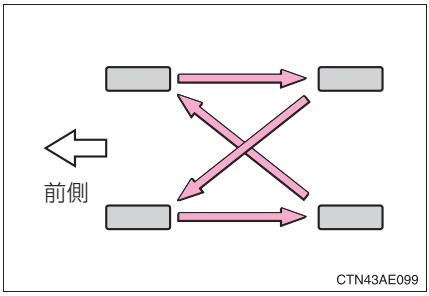
- タイヤ空気圧

  空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。
- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度がほかのタイヤと著しく異なるなど）の有無

タイヤローテーションのしかた

図で示すようにタイヤのローテーションを行う

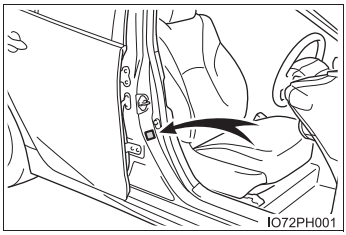
タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。



知識

■タイヤ空気圧の数値

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。



タイヤサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧	
	前輪	後輪
195/65R15 91S	250 kPa (2.5 kg/cm^2)	240 kPa (2.4 kg/cm^2)
215/45R17 87W	230 kPa (2.3 kg/cm^2)	220 kPa (2.2 kg/cm^2)
225/40R18 88Y	230 kPa (2.3 kg/cm^2)	220 kPa (2.2 kg/cm^2)

■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■低偏平タイヤについて（195/65R15 タイヤ装着車を除く）

雪道や凍結路では、普通のタイヤとくらべてグリップ力が低下します。冬用タイヤを使用し、道路状態に応じた速度で注意深く運転するようにしてください。

■低偏平タイヤの空気圧点検（195/65R15 タイヤ装着車を除く）

低偏平タイヤは、走行性能を優先したタイヤです。特に空気圧は定期的に点検してください。2 週間に 1 回（最低でも 1ヶ月に 1 回）、または長距離ドライブの前には、必ず空気圧を点検してください。

警告

■点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない
- ほかの車両で使用していたタイヤを使用しない
  以前どのように使用されていたか不明のタイヤは使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■タイヤ交換時の注意

ねじ部にオイルやグリースを塗らないでください。
ナット部を締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。
またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

■異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。
走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠注意

■走行中に空気もれが起こったら

走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

■低偏平タイヤについて（195/65R15 タイヤ装着車を除く）

低偏平タイヤのホイールは、路面から衝撃を受けたとき、ホイールに通常より大きなダメージを与えることがあります。そのため次のことに注意してください。

- 適切なタイヤ空気圧で使用する
  空気圧が低すぎると簡単に損傷することがあります。
- 段差や凹凸のある路面、路上に空いた穴、平らでない舗道・縁石や他の障害物を避ける
  タイヤおよびホイールがひどく損傷することがあります。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。低扁平タイヤの場合、2 週間に 1 回、または長距離ドライブの前には必ず空気圧を点検してください。（→ P. 779）

知識

■タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
  タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

警告

■**タイヤの性能を発揮するために**

適正なタイヤ空気圧を維持してください。
タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気もれ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
  （路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

注意

■**タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは**

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気がもれ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

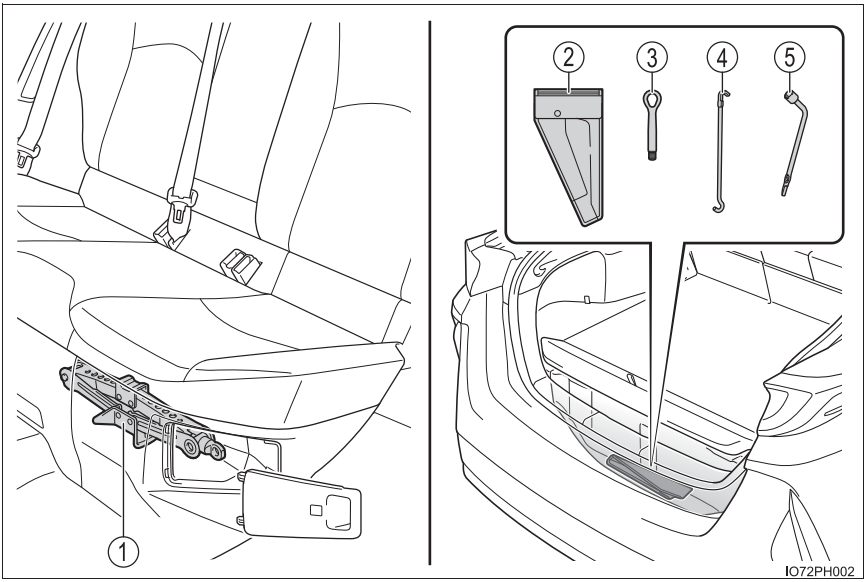
タイヤの交換

搭載されているジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にジャッキをセットしてください。正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトポジションを P にする
- ハイブリッドシステムを停止する

工具とジャッキの搭載位置



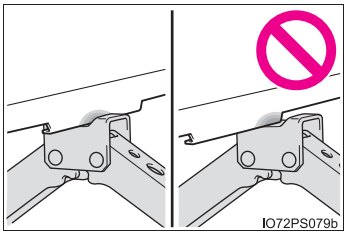
① ジャッキ
② 工具袋
③ けん引フック
④ ジャッキハンドル
⑤ ホイールナットレンチ

警告

■**ジャッキの使用について**

次のことをお守りください。
ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、ほかの車に使ったりほかの車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける（→ P. 680）



- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、ハイブリッドシステムを始動したり車を走らせない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

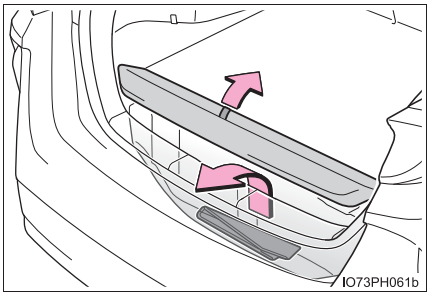
■**収納位置からジャッキを取り出すとき**

充電中・充電直後は、充電器の熱によってジャッキが熱くなっていることがあるため、ジャッキを取り扱う際は軍手などを着用してください。素手でふれると、やけどをするおそれがあります。

工具の取り出し方

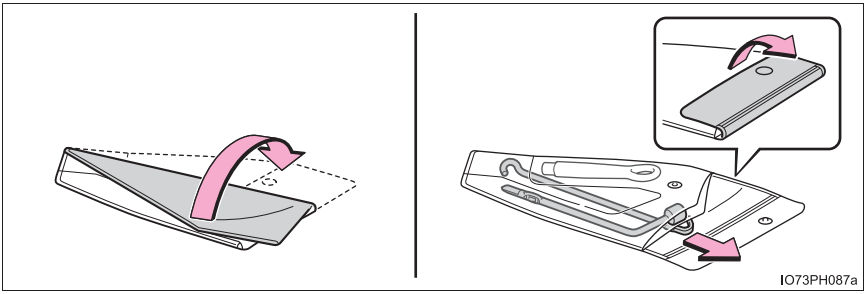
1 バックドアを開く（→ P. 328）

2 デッキアンダーボックスのフタを持ち上げ、工具袋を取り出す



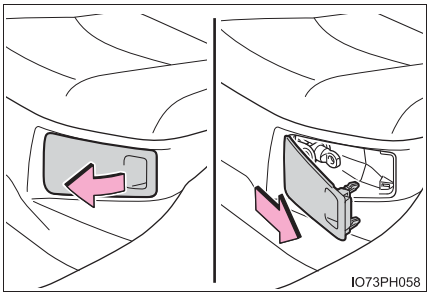
3 工具袋を展開して、ジャッキハンドルとホイールナットレンチを取り出す

工具を使用したあとは、逆の手順で収納します。



ジャッキの取り出し方

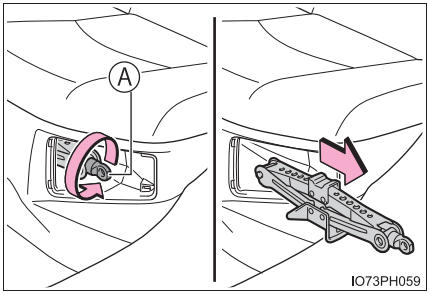
1 カバーを手前に引いてロックをはずし、車両の外側に引いてカバーを取りはずす



2 Ⓐ部をまわして固定をゆるめ、ジャッキをゆっくり引き出す

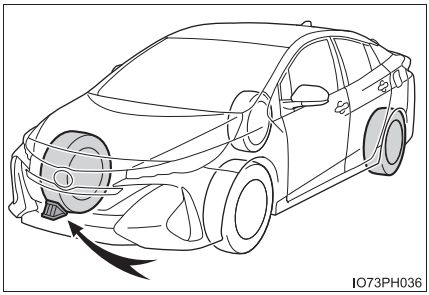
状況によっては、ジャッキが熱くなっている場合があるため、取り扱いにご注意ください。（→ P. 676）

Ⓐ部がゆるまないときは、ジャッキハンドルを使ってまわしてください。



タイヤの交換

1 輪止め※をする

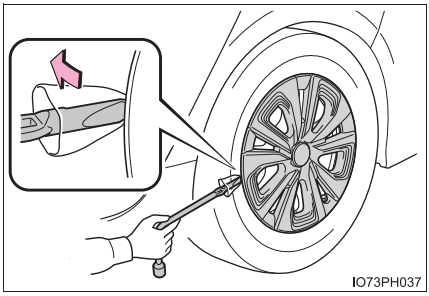


取りはずすタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

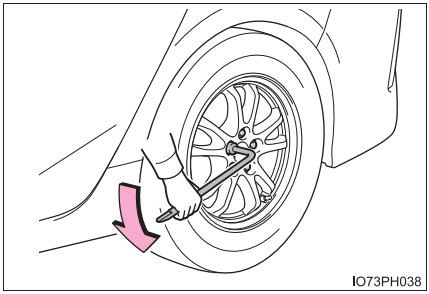
※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

2 15 インチホイール装着車は、ホイールキャップを取りはずす

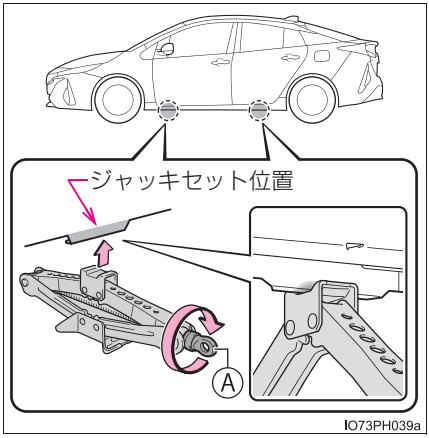
傷が付くのを防ぐため、ホイールナットレンチの先に布などを巻いて保護してください。



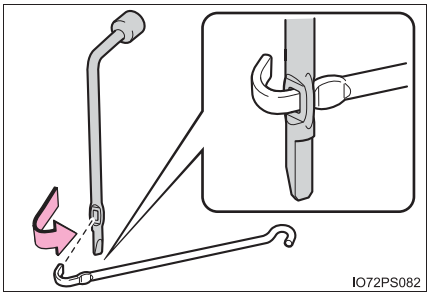
3 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる



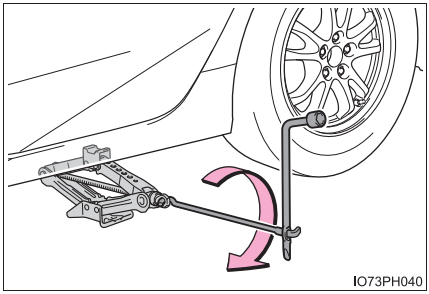
4 ジャッキ頭部の凹み部が、ジャッキセット位置の中央あたりに軽くあたるまで、ジャッキのⒶ部を手でまわす



5 ジャッキハンドルとホイールナットレンチを図のように組み合わせる

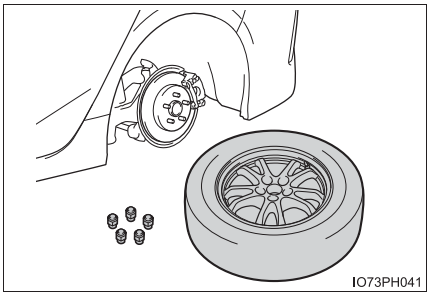


6 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



7 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にします。



警告

■タイヤ交換について

●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため、タイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

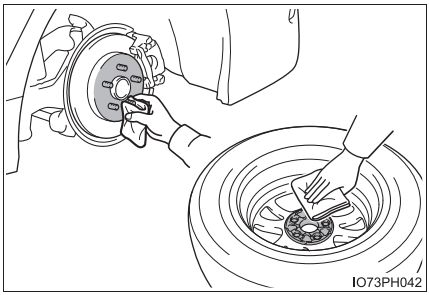
●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・ホイールの交換後はすぐに 103N・m（1050kgf・cm）の力でナットを締める
・タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
・ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
・ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける

タイヤの取り付け

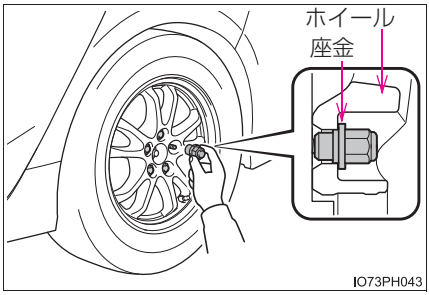
1 ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。


IO73PH042

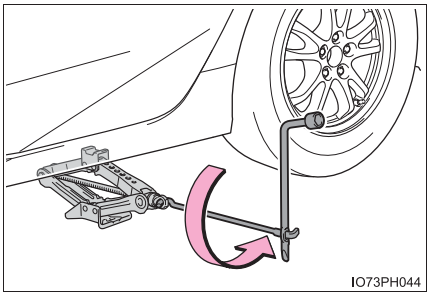
2 タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

ナットの座金がホイールにあたるまでまわします。



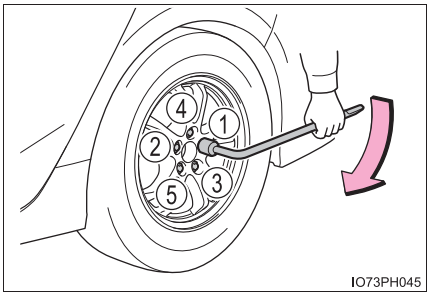
IO73PH043

3 車体を下げる


IO73PH044

4 図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける

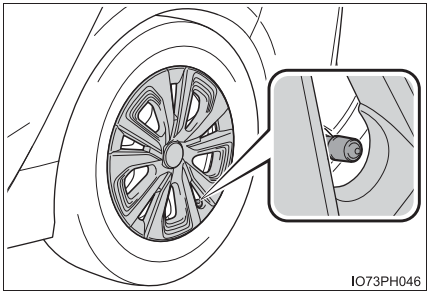
締め付けトルク：
103N・m（1050kgf・cm）



IO73PH045

5 15 インチホイール装着車は、ホイールキャップを取り付ける

タイヤのバルブ（空気口）に切り欠きを合わせてホイールキャップを確実に取り付けます。

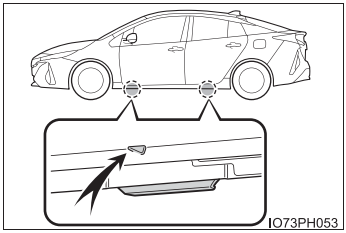


6 すべての工具・ジャッキを収納する

知識

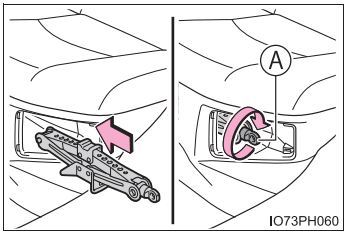
■ジャッキセット位置を確認するとき

ジャッキセット位置を確認するためのマークが、車体の下側に刻印されています。



■ジャッキを収納するとき

ジャッキを収納部に奥まで挿し込んだあと、Ⓐ部をまわしてジャッキを確実に固定してください。



警告

■ **ジャッキや工具を使用したあとは**

走行前に正しい位置に格納されているか確認してください。正しく格納されていないと、事故や急ブレーキの際、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

注意

■ **樹脂加飾部品の取り扱いについて（17 インチホイール装着車）**

→ P. 653

エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換のしかた

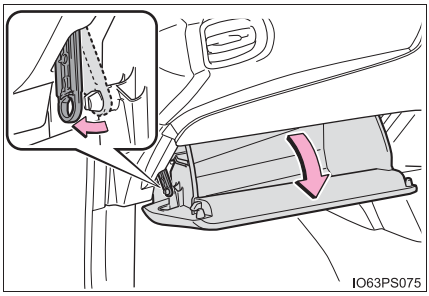
1 パワースイッチを OFF にする

充電コネクターが接続されていないことを確認してください。また、作業中はリモートエアコンシステムを使用しないでください。

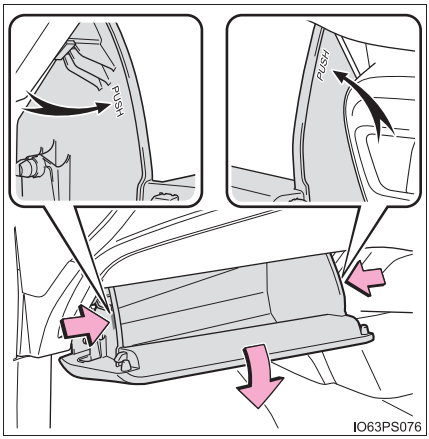
2 助手席ドアを開く

ドアを開けておくことで、リモートエアコンシステムの意図せぬ作動を防止できます。（→ P. 607）

3 グローブボックスを開き、ダンパーステーのピンをはずす

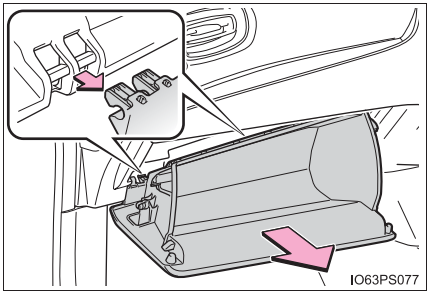


4 グローブボックス側面を内側に押して上部のツメを片側ずつはずし、グローブボックスを支えながらゆっくりと全開させる



5 グローブボックスがいっぱいまで開いた状態から、少しだけ持ち上げた位置で手前に引き、グローブボックス下部の結合部をはずす

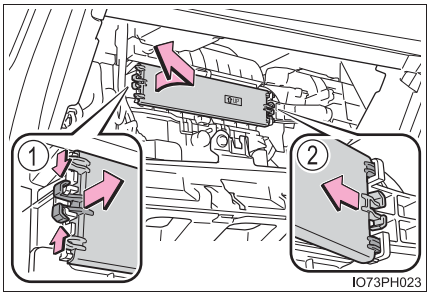
軽く引いても結合部がはずれない場合は、無理に引っ張らず、持ち上げる量を微調整しながら手前に引いてください。



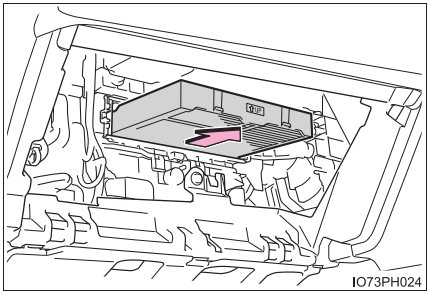
6 フィルターカバーを取りはずす

① つまみを押してフィルターカバーの固定を解除する

② フィルターカバーを矢印の方向にずらし、ツメからフィルターカバーを抜く

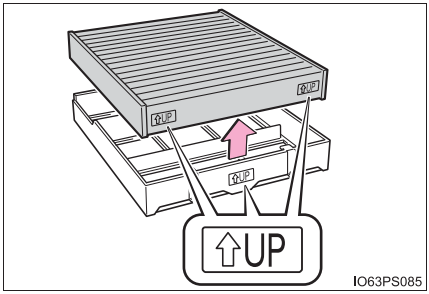


7 フィルターケースを取りはずす



8 フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。



9 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは次の時期を目安に交換してください。
15000km［7500km※1］ごと、ただし 12ヶ月をこえないこと ※2

※1 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

※2 芳香剤などの使用により脱臭寿命が著しく低下する場合があります。エアコンの臭いが気になりだしたらフィルターを交換してください。

■エアコンの風量が減少したとき

フィルターの目づまりが考えられますので、フィルターを交換してください。

警告

■エアコンフィルターを交換するとき

次のことをお守りください。お守りいただかないと、作業中にエアコンが作動し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●充電コネクターが接続されていないことを確認する
エアコン連動機能（→ P. 165）や駆動用電池冷却（→ P. 135）などにより、エアコンが作動する場合があります。

●リモートエアコンシステムを使用しない

⚠注意

■エアコンを使用するときの注意

●フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。

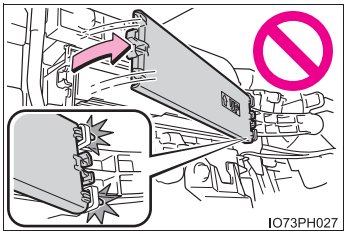
●フィルターは、交換するタイプです。
水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

■グローブボックスを取りはずすとき

必ず指定の手順（→ P. 685）に従って取りはずしてください。正しい方法で取りはずさないと、グローブボックス下部の結合部が破損するおそれがあります。

■フィルターカバーの破損を防ぐために

フィルターカバーの固定を解除するときに、フィルターカバーを矢印の方向に動かす際は、ツメに無理な力が加わらないよう注意してください。
ツメが破損するおそれがあります。



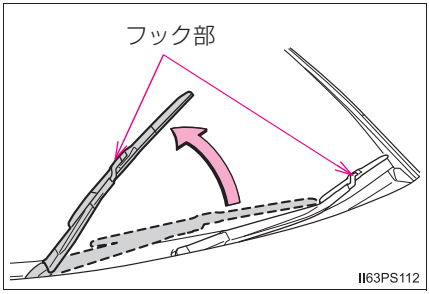
ワイパーゴムの交換

ワイパーゴムを交換する際は、次の要領で作業を行ってください。

ワイパーブレードの脱着

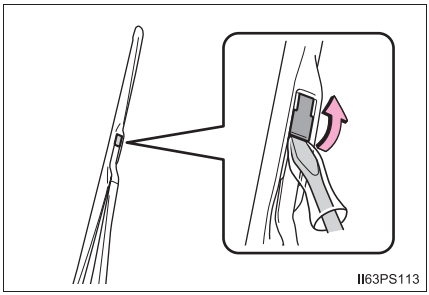
1 ワイパーアームを起こす

ワイパーアームのフック部を持ってガラス面から引き上げてください。



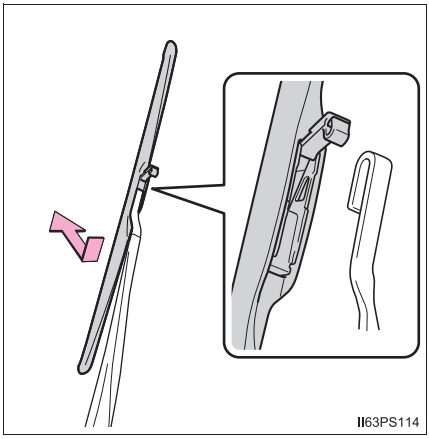
2 図のようにマイナスドライバーを挿し込んで、ストッパーを起こす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



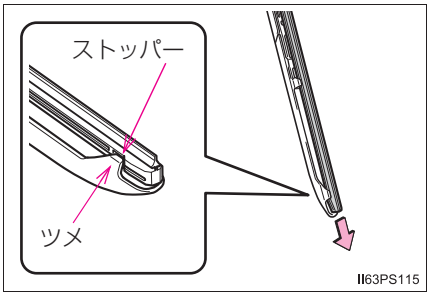
3 ワイパーブレードをスライドさせ、ワイパーアームから取りはずす

取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付けます。



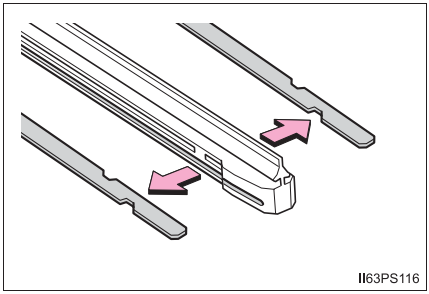
ワイパーゴムの交換

1 ワイパーゴムを引っ張り、ワイパーブレードのツメをストッパーからはずし、そのまま引き抜く



2 引き抜いたワイパーゴムから金属プレート２枚を取りはずし、新しいワイパーゴムに付けかえる

金属プレートの切り欠きと反りの方向が、もとどおりになっていることを確認してください。



3 ストッパーがない側を先にして、ワイパーゴムをワイパーブレードに挿入する

4 ワイパーブレードのツメで、ワイパーゴムのストッパーを確実に固定する

知識

■ワイパーブレード・ワイパーゴムの取り扱いについて

誤った取り扱いをすると、ワイパーブレード、またはワイパーゴムが損傷するおそれがあります。ご自身でのワイパーブレード・ワイパーゴムの交換に不安がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

注意

■損傷を防ぐために

- ワイパーゴムを交換するときは、ツメの損傷に注意してください。
- ワイパーブレードからワイパーアームを取りはずしたあとはウインドウガラスが傷付かないように、ウインドウガラスとワイパーアームのあいだに布などを挟んでください。
- 無理にワイパーゴムを引き出したり、ワイパーゴムの金属プレートが変形しないようにしてください。

電子キーの電池交換

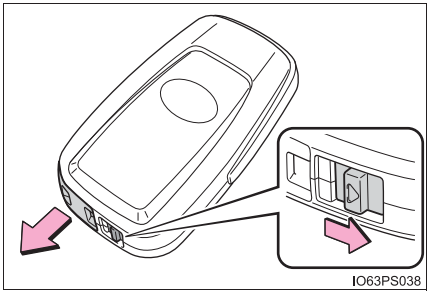
電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池 CR2032

電池交換のしかた

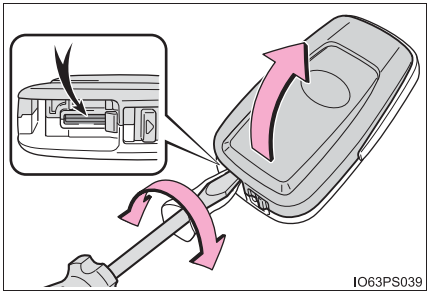
1 ロックを解除してメカニカルキーを抜く



2 カバーをはずす

適切なサイズのマイナスドライバーをご使用ください。無理にこじった場合、カバーが変形するおそれがあります。

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

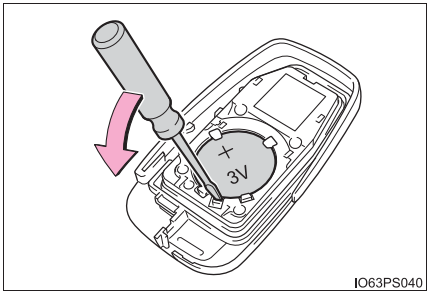


3 消耗した電池を取り出す

カバーをはずしたときに、上側のカバーに電子キーのモジュールが貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子キーのモジュールをひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

電池をはずす際は、適切なサイズのマイナスドライバーをご使用ください。

新しい電池は、＋極を上にして取り付けます。



4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■リチウム電池 CR2032 の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

●スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない

●作動距離が短くなる

警告

■**電子キーの電池について**

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。

●電子キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか 2 時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。

●カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、トヨタ販売店で点検を受けてください。

●誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

■**電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために**

●同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。

●極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。

●電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

注意

■**交換後、正常に機能させるために**

次のことを必ずお守りください。

●ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。

●電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない

●電極を曲げない

ヒューズの点検、交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

1 パワースイッチを OFF にする

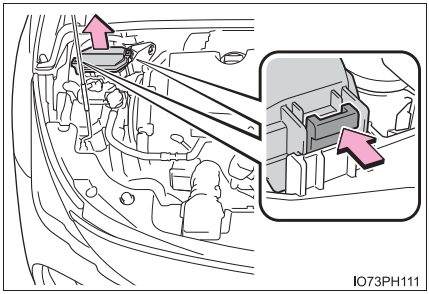
充電コネクターが接続されていないことを確認してください。また、作業中はリモートエアコンシステムを使用しないでください。

2 ヒューズボックスを開ける

▶ エンジンルーム（運転席側）

2ヶ所のツメを押しながら、カバーを持ち上げる

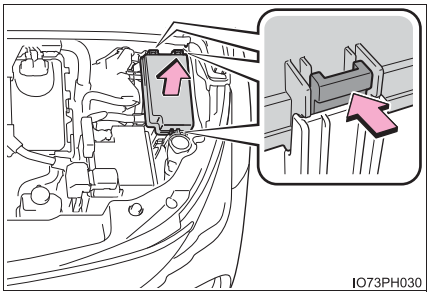
閉めるときは、2ヶ所のツメを確実に閉めてください。



▶ エンジンルーム（助手席側）

3ヶ所のツメを押しながら、カバーを持ち上げる

閉めるときは、3ヶ所のツメを確実に閉めてください。



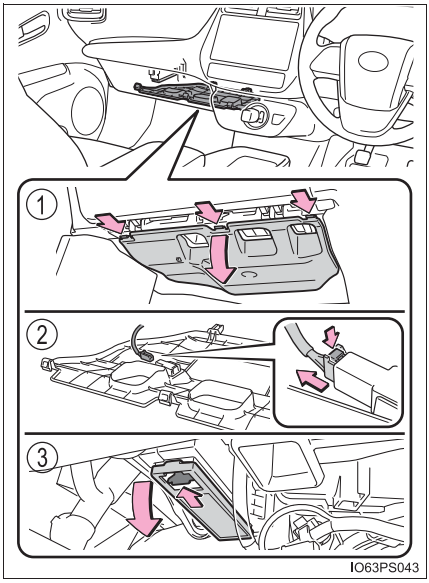
▶ 助手席足元

① ツメを押してロックをはずし、アンダーカバーを取りはずす

② ツメを押してロックをはずし、コネクター★を取りはずす

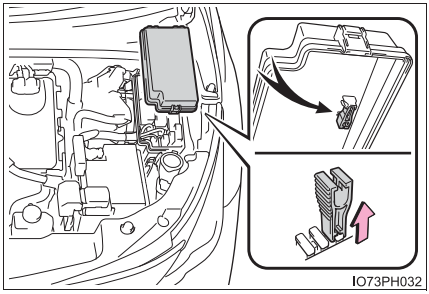
③ ヒューズボックスカバーを取りはずす

取りはずすときや、取り付けるときはツメを押してください。



3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。

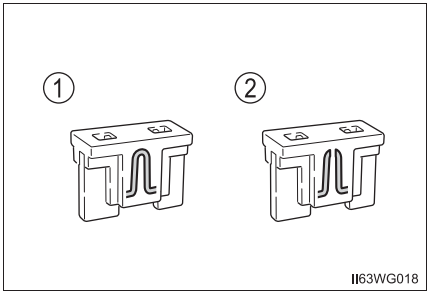


4 ヒューズが切れていないか点検する

① 正常

② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ヒューズを交換したあとは

●交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。（→ P. 698）

●交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■補機バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■電球（バルブ）を交換するとき

この車両に指定されているトヨタ純正品のご使用をおすすめします。
一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のトヨタ純正品以外は使用できない場合があります。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

注意

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

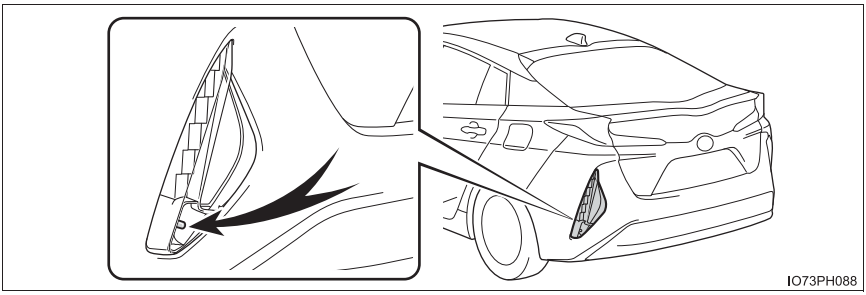
次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→ P. 779）

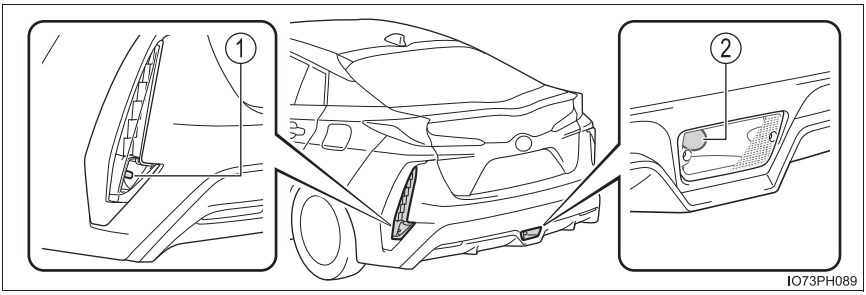
バルブ位置

▶ GR SPORT を除く



後退灯

▶ GR SPORT



① 後退灯

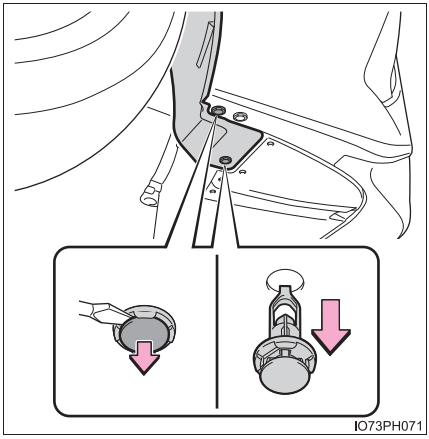
② リヤフォグランプ

電球交換のしかた

■ 後退灯

1 リヤタイヤの後方にあるカバーの下部を固定しているクリップ（2 個）を取りはずす

マイナスドライバーで中央部を引き出し、クリップを引き抜きます。

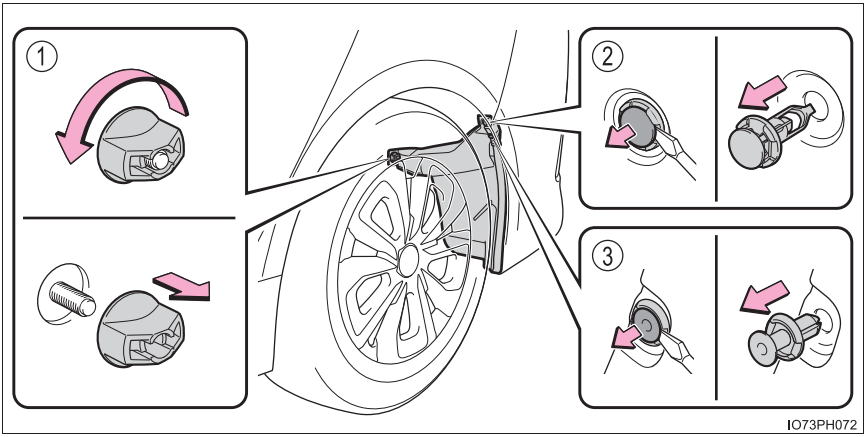


2 カバーの上部を固定しているクリップ（3 個）を取りはずす

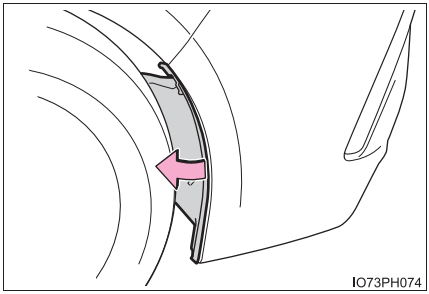
① クリップを左にまわして取りはずします。

② マイナスドライバーで中央部を引き出し、クリップを引き抜きます。

③ マイナスドライバーで中央部を引き出し、クリップを引き抜きます。

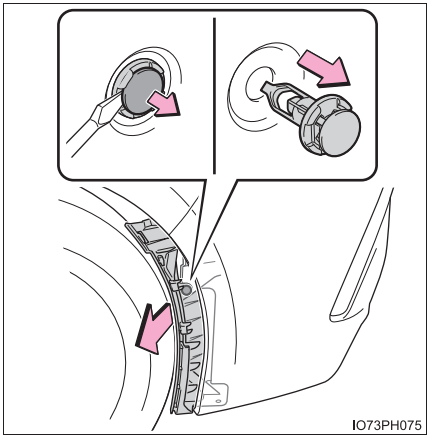


3 カバーの端の固定をはずして車両前方に向けて引き、リヤバンパーとのあいだにすき間をつくる



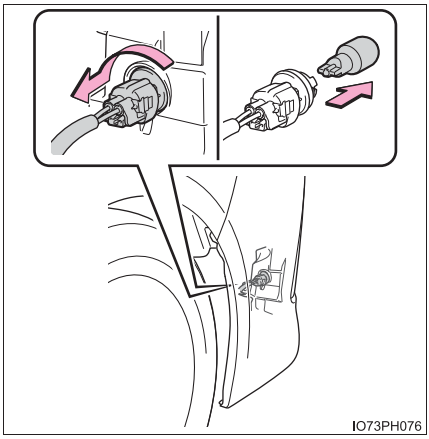
4 カバーの奥を固定しているクリップを取りはずし、カバーを取りはずす

マイナスドライバーで中央部を引き出し、クリップを引き抜きます。

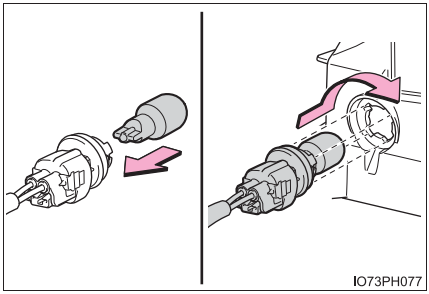


5 ソケットをまわして取りはずし、電球を引き抜く

リヤタイヤとリヤバンパーとのすき間から手を挿し込んで、作業を行います。

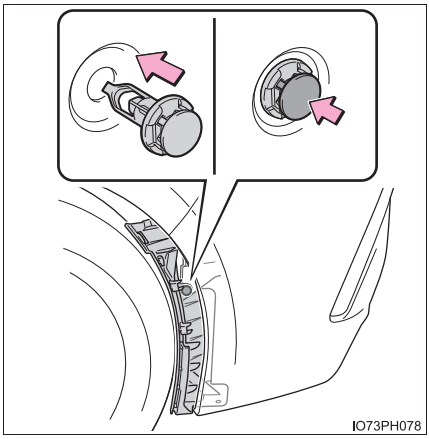


6 新しい電球を取り付け、ソケットをまわして取り付ける



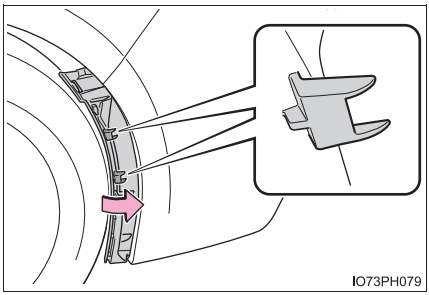
7 カバーをもとの位置にもどし、奥側のクリップを取り付ける

クリップを挿し込んでから、中央部を押します。



8 カバーの端をリヤバンパーにはめ込む

カバーの端にあるツメ（2ヶ所）を確実に固定してください。

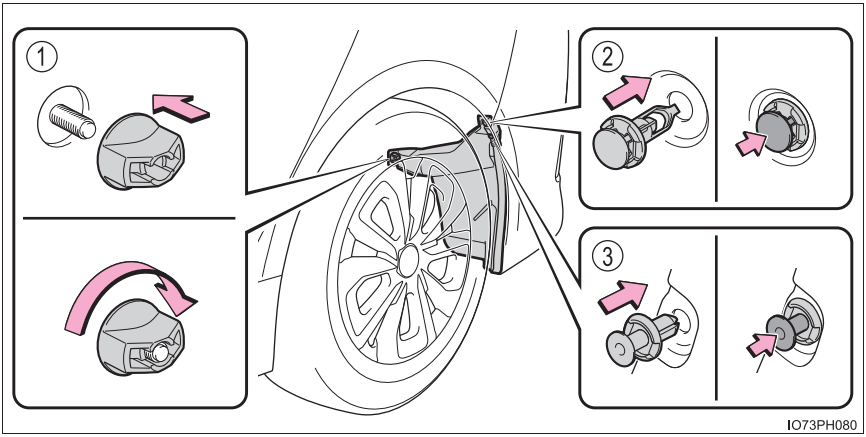


9 カバーの上部にクリップ（3 個）を取り付ける

① クリップを右にまわして固定します。

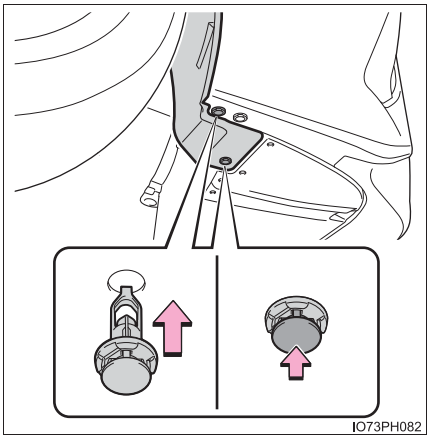
② クリップを挿し込んでから、中央部を押します。

③ クリップを挿し込んでから、中央部を押します。



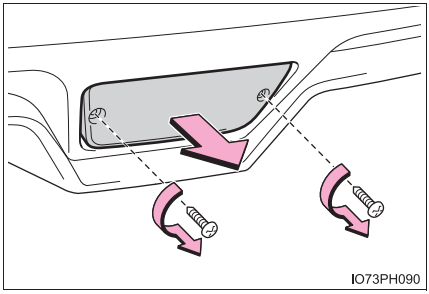
10 カバーの下部にクリップ（2 個）を取り付ける

クリップを挿し込んでから、中央部を押します。

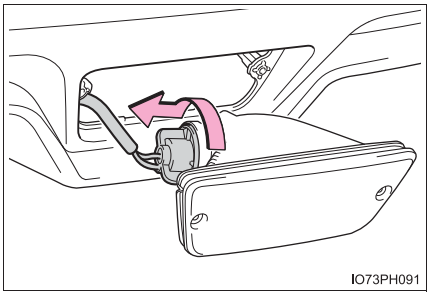


■ リヤフォグランプ（GR SPORT のみ）

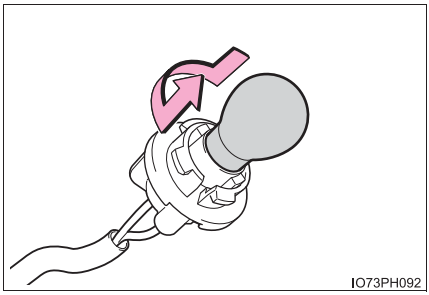
1 ネジ（2 個）をはずし、ランプ本体を手前に引き出す



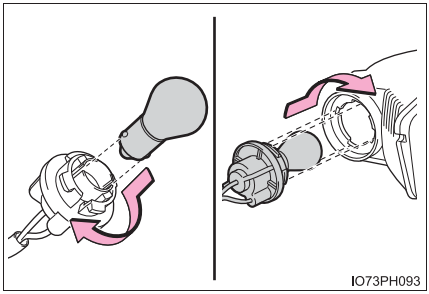
2 ソケットをまわして取りはずす



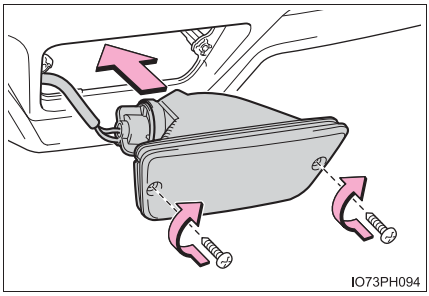
3 電球を取りはずす



4 新しい電球を取り付け、ソケットをまわして取り付ける



5 ランプ本体をもとの位置にもどし、ネジ（2 個）で固定する



■ 次の電球を交換するには

次の電球が切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドランプ
- 車幅灯
- 薄暮灯★
- LED イルミネーションビーム★
- フロントフォグランプ★
- フロント方向指示灯／非常点滅灯
- サイド方向指示灯／非常点滅灯
- リヤ方向指示灯／非常点滅灯
- リヤフォグランプ★（GR SPORT を除く）
- 尾灯
- 制動灯
- ハイマウントストップランプ
- 番号灯

知識

■LED ランプについて

後退灯・リヤフォグランプ（GR SPORT のみ）以外のランプは、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

■電球（バルブ）を交換するとき

→ P. 697

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**電球を交換するとき**

●必ずハイブリッドシステムを停止し、ランプを消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどすることがあります。

●電球のガラス部を素手でふれないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。

●電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

●電球・ソケット・電気回路および構成部品を、修理または分解しないでください。
感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●走行した直後には、車両右側の後退灯を交換しないでください。
走行直後は排気管が高温になっているため、誤って排気管にふれるとやけどをするおそれがあります。

●車の部品などでけがをしないように、手袋などの保護具を使用してください。
部品の端などでけがをするおそれがあり危険です。

■**お車の故障や火災を防ぐために**

●電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

●発熱による損傷を防ぐため、バルブを取り付ける前にバルブのワット数を確認してください。

万一の場合には 8

8-1. まず初めに

故障したときは.....708
非常点滅灯
（ハザードランプ）.....709
発炎筒.....710
車両を緊急停止するには.....712
水没・冠水したときは.....713

8-2. 緊急時の対処法

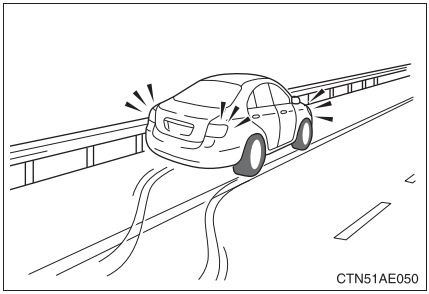
けん引について.....715
警告灯がついたときは.....722
警告メッセージが
表示されたときは.....727
パンクしたときは.....736
ハイブリッドシステムが
始動できないときは.....753
電子キーが正常に
働かないときは.....755
補機バッテリーが
あがったときは.....759
オーバーヒート
したときは.....765
スタックしたときは.....770

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

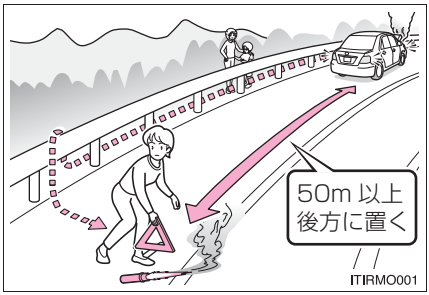
非常点滅灯（→ P. 709）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

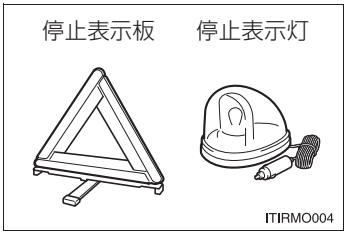
- 同乗者を避難させる
- 車両の 50m 以上後方に発炎筒（→ P. 710）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
  - ・見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
  - ・発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する



知識

■停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

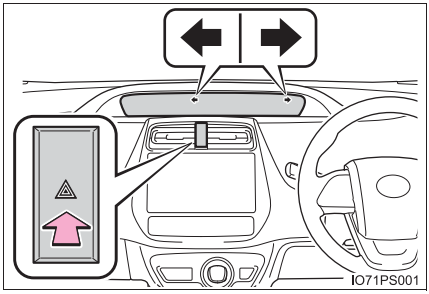


非常点滅灯（ハザードランプ）

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

■非常点滅灯について

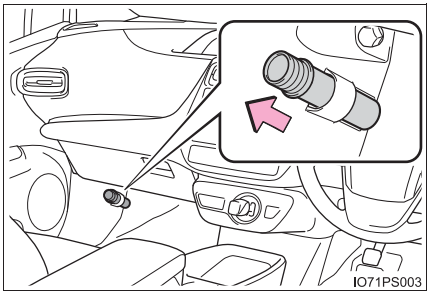
●ハイブリッドシステム停止中（READY インジケーターが点灯していないとき）に、非常点滅灯を長時間使用すると、補機バッテリーがあがるおそれがあります。

●SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、非常点滅灯が自動で点滅します。
非常点滅灯スイッチを 2 回押すか、約 20 分経過すると消灯します。
（衝撃の度合いや事故の状況によっては点滅しないことがあります。）

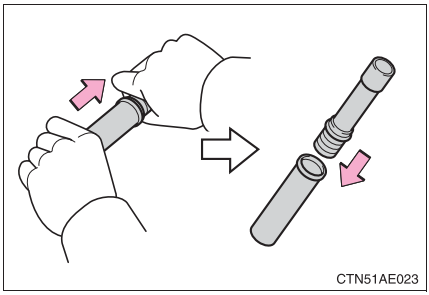
発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約５分です。非常点滅灯と併用してください。

1 助手席足元の発炎筒を取り出す

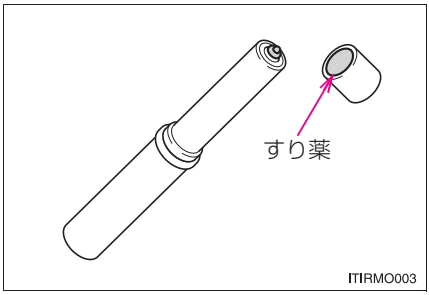


2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



3 先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。



知識

■発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。
有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトポジションを N にする

▶ シフトポジションが N になった場合

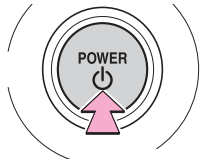
3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 ハイブリッドシステムを停止する

▶ シフトポジションが N にならない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してハイブリッドシステムを停止する



2 秒以上押す、または 3 回以上連続で押す

CTY52AD214

5 車を安全な道路脇に停める

警告

■走行中にやむを得ずハイブリッドシステムを停止するとき

ハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。
ハイブリッドシステムを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウインドウスイッチでドアガラスを 開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

  車外の水位がドア高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

知識

■水位がフロアを超えると

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウインドウが作動しなくなったり、エンジンやモーターが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■緊急脱出用ハンマー※の使用について

この車両のフロントウインドウガラスとドアガラスには合わせガラス★が使われております。合わせガラスは、緊急脱出用ハンマー※で割ることができません。

※ 詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

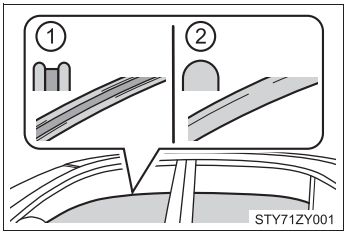
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■合わせガラスの見分け方

ガラスの断面を上から見たとき、2 枚の板ガラスを貼り合わせてあるのが合わせガラスです。

① 合わせガラス

② 強化ガラス



警告

■走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

他車によるけん引が不可能な状況

次の場合は、パーキングロックにより前輪が固定されている可能性があるため、他車にロープでけん引してもらうことはできません。トヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

- シフト制御システムに異常があるとき（→ P. 378, 735）
- イモビライザーシステムに異常があるとき（→ P. 66）
- スマートエントリー＆スタートシステムに異常があるとき（→ P. 755）
- 補機バッテリーがあがったとき（→ P. 759）

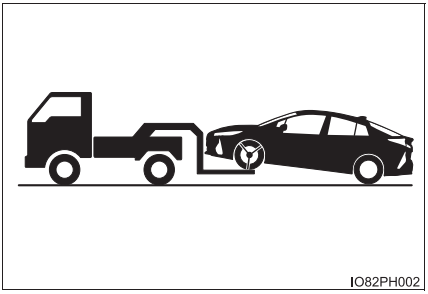
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- ハイブリッドシステムの異常を示す警告メッセージが表示され、車が動かない
- 異常な音がする

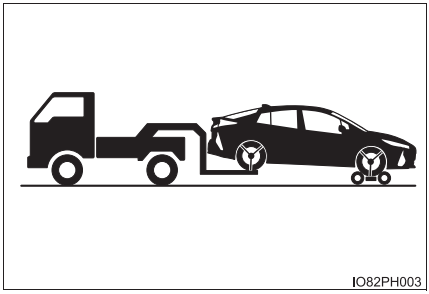
レッカー車でけん引するとき

▶ 前向きにけん引するときは



パーキングブレーキを解除する

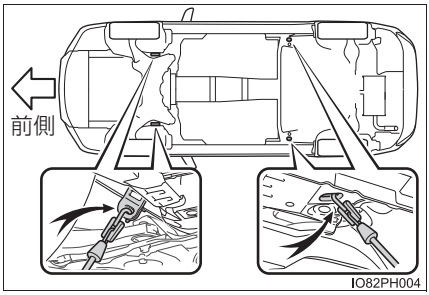
▶ うしろ向きにけん引するときは



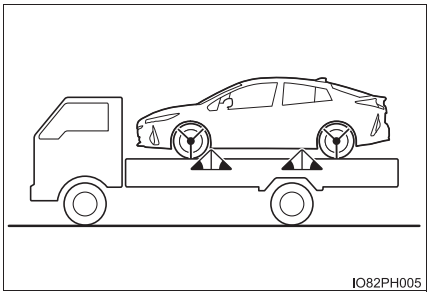
台車を使用して前輪を持ち上げる

車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する



鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が 45° になるように固縛する



他車にけん引してもらうとき

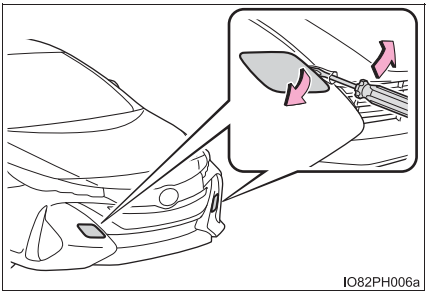
他車にけん引してもらうときは、けん引フックを取り付ける必要があります。手順に従って取り付けてください。

1 ラゲージルーム内のホイールナットレンチ、けん引フックを取り出す（→ P. 675）

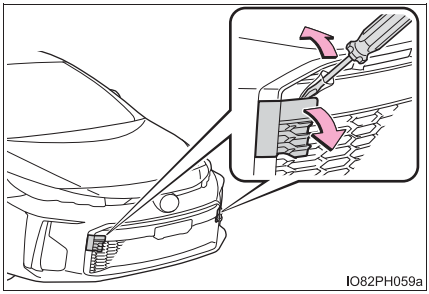
2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

▶ GR SPORT を除く

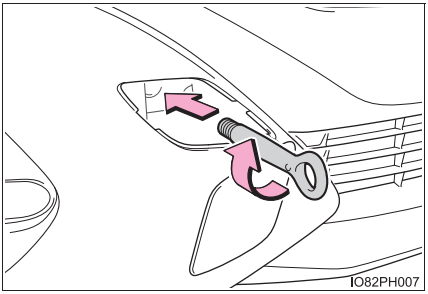


▶ GR SPORT

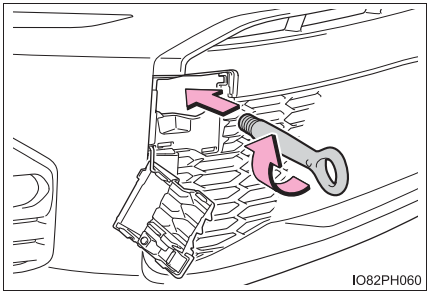


3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める

▶ GR SPORT を除く



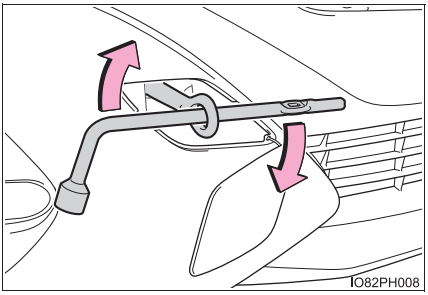
▶ GR SPORT



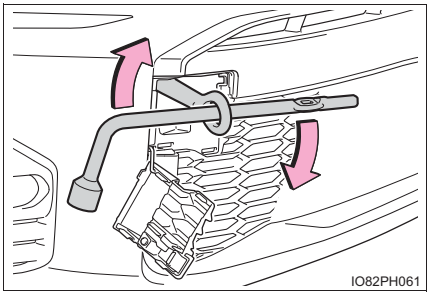
4 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

締め付ける際、ホイールナットレンチ、または金属の固い棒で車体を傷付けないように注意してください。

▶ GR SPORT を除く



▶ GR SPORT

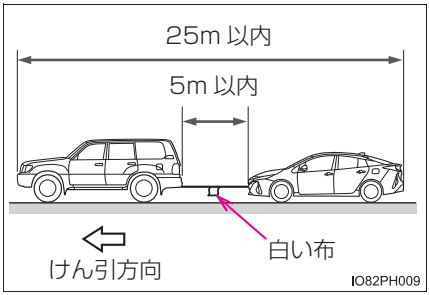


5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3m 平方（30cm×30cm）以上



7 運転者はけん引される車両に乗り、ハイブリッドシステムを始動する

ハイブリッドシステムが始動しないときは、パワースイッチを ON モードにしてください。

パーキングサポートブレーキ★を OFF にしてください。（→ P. 505）

8 けん引される車両のシフトポジションを N※ にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

※ シフトポジションの切りかえができない、または現在のシフトポジションが確認できない場合は、トヨタ販売店または専門業者にご連絡ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

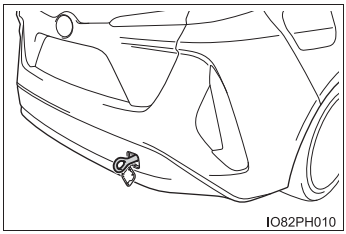
ハイブリッドシステムが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールナットレンチについて

ラゲージルームに搭載されています。（→ P. 675）

■リヤ側のフック取り付け位置について

リヤ側のフック取り付け位置は、船舶固縛で車両を輸送するときに、車両を固定するためのものです。この車で他車をけん引することはできません。

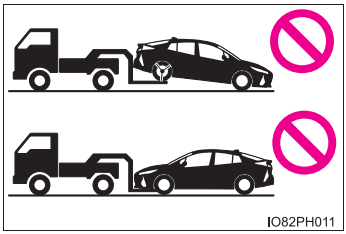


警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■レッカー車でけん引するとき

必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。



■他車にけん引してもらうときの運転について

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
  けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- パワースイッチを OFF にしないでください。
  パーキングロックにより、前輪が固定され思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

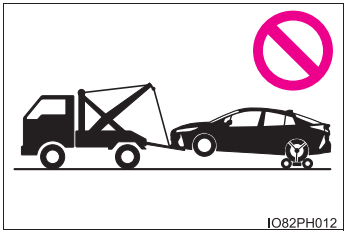
■けん引フックを車両に取り付けるとき

- けん引フックは、搭載されている車両専用です。ほかの車のけん引フックを使用したり、この車のけん引フックをほかの車に取り付けたりしないでください。
- 指定の位置にしっかりと取り付けてください。
  指定の位置にしっかり取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

⚠注意

■レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。



■車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

■車両の損傷を防ぐために

●他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。

・ワイヤーロープは使用しない
・速度 30km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる
・前進方向でけん引する
・サスペンション部などにロープをかけない

●この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザー一覧

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
（赤色）	**ブレーキ警告灯（警告ブザー ※1）** ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**
（黄色）	**電子制御ブレーキ警告灯** ・回生ブレーキシステムの異常 ・電子制御ブレーキシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	充電警告灯 マルチインフォメーションディスプレイに「補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書確認ください」が表示されているか確認する ・メッセージの表示がない場合： 充電系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。** ・メッセージが表示されている場合： 補機バッテリーあがりのおそれ → P. 732
	油圧警告灯（警告ブザー ※2） エンジンオイルの圧力が異常に低い **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**
	エンジン警告灯 ・ハイブリッドシステムの異常 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・ SRS エアバッグシステムの異常 ・ プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	ABS ＆ブレーキアシスト警告灯 ・ ABS の異常 ・ ブレーキアシストの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
（赤色／黄色）	**パワーステアリング警告灯（警告ブザー）** EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
OFF （点滅または点灯）	**PCS 警告灯** ・ 警告ブザーが鳴った場合： プリクラッシュセーフティの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** ・ 警告ブザーが鳴らない場合： プリクラッシュセーフティが一時的、または対処を行うまで作動停止している **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→ P. 419, 734）** プリクラッシュセーフティが OFF、または VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムが停止しているときも点灯します。 **→ P. 429**
（橙色）	**LTA 表示灯（警告ブザー）** LTA（レーントレーシングアシスト）の異常 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→ P. 441）**
	スリップ表示灯 ・ VSC システムの異常 ・ TRC システムの異常 ・ ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** ABS・VSC・TRC システム作動時は点滅します。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	高水温警告灯 ・警告灯が点滅したとき： エンジン冷却水高温異常 水温の上昇にともない、点滅から点灯にかわります。 **→ ただちに安全な場所に車両を停車して点検する（→ P. 765）** ・警告灯が点滅することなく、点灯したとき： 排熱回収器の異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
OFF （点滅）	**PKSB OFF 表示灯★** パーキングサポートブレーキの異常 **→ トヨタ販売店で点検を受けてください。** システムの異常時以外にも、表示灯が次のように作動します。 ・パーキングサポートブレーキを OFF にすると点灯します。（→ P. 505） ・システムの作動中に点灯します。（→ P. 508） ・システムが一時的に使用できないときに点滅します。（→ P. 510）
	半ドア警告灯（警告ブザー ※3） いずれかのドアが確実に閉まっていない **→ 全ドアを閉める**
	燃料残量警告灯 燃料の残量が約 6.4L 以下になった **→ 燃料を補給する**
	シートベルト非着用警告灯（警告ブザー ※4） 運転席・助手席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する**
	リヤ席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー ※5） リヤ席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する**
	マスターウォーニング システムの異常時にブザーと共に点灯・点滅し、マルチインフォメーションディスプレイ上に警告メッセージを表示します。 **→ P. 727**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	ペダル誤操作警告灯 ※6（警告ブザー） ブザーが鳴った場合： ・ブレーキオーバーライドシステムの異常 ・ドライブスタートコントロールの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** ・アクセルペダルを踏んだ状態でシフト操作が行われたことにより、ドライブスタートコントールが作動 ・衝突時の急加速抑制が作動 **→ ただちにアクセルペダルを離してください。** パーキングサポートブレーキ作動時 **→ 表示された画面の指示に従ってください。** 速く強くアクセルペダルを踏み込んだことにより、急アクセル時加速抑制★が作動 **→ アクセルペダルを離し、ブレーキペダルを踏んでください。** ブザーが鳴らなかった場合： アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたことにより、ブレーキオーバーライドシステムが作動 **→ アクセルペダルを離し、ブレーキペダルを踏んでください。**

※1 ブレーキ警告ブザー：
ブレーキの効き低下につながる異常があると、警告灯の点灯と同時にブザーが鳴ります。

※2 油圧警告ブザー：
READY インジケーターが点灯しているとき、エンジンオイルの圧力低下により警告灯が点灯すると、最大で約 30 秒間、警告ブザーが鳴ります。

※3 半ドア走行時警告ブザー：
いずれかのドアが確実に閉まっていない状態で走行し、車速が約 5km/h 以上になると、警告ブザーが鳴ります。

※4 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

※5 リヤ席シートベルト非着用警告ブザー：
リヤ席シートベルト非着用（いずれかのシートベルト脱着により、リヤ席シートベルト非着用警告灯が点灯している状態）のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

※6 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

●助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。

●助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

補機バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオ★の音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

警告

■パワーステアリング警告灯が点灯したとき

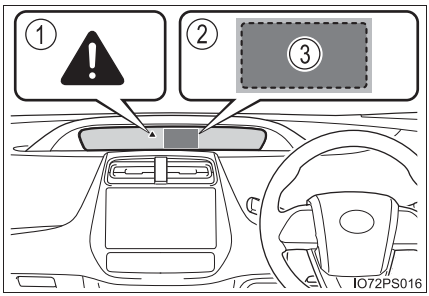
黄色に点灯したときは操作力補助が制限され、赤色に点灯したときは操作力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。

充電に関するメッセージが表示されたときは、P. 203 を参照してください。



① マスターウォーニング

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。※

② マルチインフォメーションディスプレイ

③ 対処方法

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージに従ってください。

処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

※ メッセージの内容によっては、マスターウォーニングが連動しない場合があります。

メッセージと警告作動

メッセージの内容によって警告灯や警告ブザーの作動が次のように切りかわります。ディーラーで点検をするように表示されたときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠	専用警告灯	警告ブザー ※	警告内容
点灯	―	あり	走行にかかわるシステムの故障や、そのまま放置すると思わぬ危険を招くおそれがあるなどの重要なメッセージを意味します。
―	点灯または点滅	あり	表示されたシステムに故障のおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点滅	―	あり	車両への損傷や、思わぬ危険を招くおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点灯	―	なし	電装品の故障や状態、メンテナンスのお知らせなどのメッセージを意味します。
点滅	―	なし	車両を正しく操作していない場合や、操作方法のアドバイスなどを意味します。

上記の点灯状況、ブザーの吹鳴状況と異なる場合があります。その際は表示された内容に従ってすみやかに対応してください。

※ メッセージを最初に表示したときに作動します。

知識

■警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■専用警告灯について

次の内容のメッセージ、または画像が表示されたときは、マスターウォーニングが点灯・点滅しません。その場合は個別の専用警告表示を行います。

●「ABS 故障 販売店で点検してください」が表示されている：
ABS ＆ブレーキアシスト警告灯が点灯します。（→ P. 723）

●「故障のためブレーキ力が低下します　販売店で点検してください」が表示されている：
電子制御ブレーキ警告灯（黄）が点灯します。（→ P. 722）

●いずれかのドアが開いていることを示す画像が表示されている（停車中）：
半ドア警告灯が点灯します。（→ P. 724）

■「販売店で点検してください」の警告メッセージが表示されたとき

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。

すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■各部の操作に関するメッセージが表示されたとき

●アクセルペダル・ブレーキペダルの操作に関するメッセージが表示されたとき

・PCS（プリクラッシュセーフティ）やレーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）などの走行支援システムの作動中、ブレーキ操作に関する警告メッセージが表示される場合があります。
メッセージが表示されたときは、必ず減速、または画面で指示された操作を行ってください。
・ブレーキオーバーライドシステムが作動したときに、警告メッセージが表示されます。（→ P. 362, 733）
・ドライブスタートコントロール・パーキングサポートブレーキ★が作動したときに、警告メッセージが表示されます（→ P. 361, 508）。
画面の指示に従って対処してください。
・急アクセル時加速抑制が作動したときに、警告メッセージが表示されます。（→ P. 513, 733）

●パワースイッチの操作に関するメッセージが表示されたとき

正しい手順で始動操作をしていないときや、誤操作の可能性があるときなどに、パワースイッチの操作に関するアドバイスが表示されます。
画面の指示に従って操作し直してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

●シフト操作に関するメッセージが表示されたとき

誤ったシフトポジションの選択や、停車中の意図せぬ車両の動き出しなどを防止するため、自動的にシフトポジションが切りかわったり（→ P. 382）、シフト操作が指示されたりすることがあります。
その場合は、画面の指示に従ってシフトポジションを変更してください。

●各部の開閉状態や、消耗品の補充などに関するメッセージ・画像が表示されたとき

画面の表示、または警告灯で指示された部位を確認し、開いているドアを閉めたり、消耗品を補充したりするなどの対処を行ってください。

■「取扱書を確認」の警告メッセージが表示されたとき

●「故障のためブレーキ力が低下　安全な場所に停車して取扱書を確認」が表示されたときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

●「エンジン油圧不足　安全な場所に停車して取扱書を確認してください」が表示されたときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

●次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

・「プラグイン充電システム故障」
・「ハイブリッドシステム故障」
・「エンジン系故障」
・「バッテリー系故障」
・「アクセル系故障」
・「スマートエントリー＆スタートシステム故障 取扱書を確認」

●「補機バッテリー（始動用）充電不足　取扱書確認ください」が表示されたときは、対処方法に従ってください。（→ P. 732）

■「シフト系不作動 駐車時はパーキングブレーキをかけ 取扱書を確認」が表示されたとき

シフト制御システムに問題が発生しています。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

このメッセージが表示された場合、始動操作やシフトポジションなどの切りかえ操作などが正常に行えないおそれがあります。（対処方法：→ P. 735）

■「シフト系故障 駐車時はパーキングブレーキをかけ 取扱書を確認」または「シフト系通信故障 駐車時はパーキングブレーキをかけ 取扱書を確認」が表示されたとき

シフト制御システムが故障しています。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

このメッセージが表示された場合、始動操作やシフトポジションの切りかえ操作などが正常に行えないおそれがあります。（対処方法：→ P. 735）

■「P スイッチ故障　駐車時はパーキングブレーキをかけ　取扱書を確認」が表示されたとき

P ポジションスイッチが働かない可能性があります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

駐車する場合は平坦な場所を選び、パーキングブレーキを確実にかけてください。

■「シフト系故障 シフト切替えできません 取扱書を確認」が表示されたとき

シフト制御システムの故障が発生しています。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

シフトポジションを P から P 以外に切りかえられない可能性があります。

■「シフト系故障 安全な場所に停車して 取扱書を確認」が表示されたとき

シフト制御システムが故障しています。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

シフトポジションを切りかえられない可能性があります。安全な場所に停車してください。

■「シフト系故障 取扱書を確認」が表示されたとき

シフト制御システムが故障しています。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

放置すると、システムが正しく作動しなくなるおそれがあります。

■「補機バッテリー充電不足 駐車時パーキングブレーキをかけ 取扱書を確認」が表示されたとき

補機バッテリーが充電不足です。補機バッテリーを充電または交換してください。

- このメッセージが表示された場合、始動操作やシフトポジションの切りかえ操作などが正常に行えないおそれがあります。（対処方法：→ P. 735）
- 補機バッテリー充電後も、シフトポジションを P から P 以外に切りかえるまでメッセージが表示され続ける場合があります。

■「補機バッテリー充電不足 シフト切替えできません 取扱書を確認」が表示されたとき

補機バッテリーの電圧が低下したため、シフトポジションの切りかえができなくなっています。補機バッテリーを充電、または交換してください。
（補機バッテリーあがりの対処方法：→ P. 759）

■「ハイブリッドシステム高温 出力制限中です」が表示されたとき

負荷の高い走行状況（例えば、長い上り坂の走行中や、後退方向での登坂中など）のときにメッセージが表示される場合があります。

対処方法：→ P. 765

■「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要　取扱書を確認」が表示されたとき

フィルターが目づまりしている、冷却用の吸入口がふさがれている、またはダクトにすき間があるなどが考えられます。

●駆動用電池冷却用吸入口／フィルターが汚れている場合は、P. 656の要領で清掃してください。

●駆動用電池冷却用吸入口／フィルターが汚れていないのにメッセージが表示されたときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■「補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書確認ください」が表示されたとき

●数秒後※に表示が消えたときは

約 15 分以上、ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。

●表示が消えないときは

「補機バッテリーがあがったときは」（→ P. 759）の手順でハイブリッドシステムを始動してください。

※ 約 6 秒間表示されます。

■「駆動用電池保護が必要 N レンジの使用を控えてください」が表示されたとき

シフトポジションが N のときにメッセージが表示されることがあります。

シフトポジションが N では充電できないため、停車するときはシフトポジションを P にしてください。

■「駆動用電池保護が必要 P レンジにして再始動してください」が表示されたとき

一定時間シフトポジションが N になっていると、駆動用電池の残量が低下し、メッセージが表示されます。

車両を動かす場合は、シフトポジションを P にして、ハイブリッドシステムを再始動してください。

■「 P に切りかえました　再発進するときはシフト操作」が表示されたとき

自動 P ポジション切りかえ機能（→ P. 383）が作動したときにメッセージが表示されます。

シフトポジションが P に切りかわったあと、車両を発進させるときは、シフトレバーを操作してください。

■「駐車時は P レンジに入れてください」が表示されたとき

シフトポジションが P 以外でパワースイッチを OFF にせずに運転席ドアが開いたときにメッセージが表示されます。

駐車時は P にしてください。

■「N レンジです アクセルを緩めて 希望レンジに切り替えてください」が表示されたとき

シフトポジションが N で、アクセルペダルを踏んだときにメッセージが表示されます。

アクセルペダルから足を離し、シフトポジションを D または R にしてください。

■「停車時はブレーキを踏んでください」が表示されたとき

上り坂などでの停車時にアクセルペダルを踏んで車両を保持するとメッセージが表示される場合があります。

そのままの状態を続けるとハイブリッドシステムが過熱するおそれがあります。アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

■「N レンジに切替えました P にする場合は 停車し P スイッチ操作」が表示されたとき

走行中に P ポジションスイッチを押したとき、自動的にシフトポジションが N に切りかわり、このメッセージが表示されます。（→ P. 382）

■「バッテリー保護のため自動で電源を OFF しました」が表示されたとき

自動電源 OFF 機能が作動したときに表示されます。

この場合、次回のハイブリッドシステム始動時に、約 5 分間ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。

■「エンジンオイル量不足 補充するか、交換してください」が表示されたとき

エンジンオイルが不足しているときにメッセージが表示されます。エンジンオイル量を点検し、オイルを補給してください。

また、傾斜路などに停車したときに表示される場合があります。水平な路面に移動し、メッセージが表示されるか確認してください。

■「アクセルとブレーキが両方踏まれています」が表示されたとき

アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれているため、ブレーキオーバーライドシステムが作動しています。（→ P. 362）

アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

■「アクセルを戻してください」が表示されたとき

次の機能が作動したときに表示されます。アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

- ドライブスタートコントロール（→ P. 361）
- プラスサポート★（→ P. 516）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■前方カメラの異常を示すメッセージが表示されたとき

メッセージに表示された異常が解消されるまで、以下のシステムは作動しない可能性があります。（→ P. 419, 722）

●PCS（プリクラッシュセーフティ）

●LTA（レーントレーシングアシスト）

●AHS（アダプティブハイビームシステム）★

●AHB（オートマチックハイビーム）★

●RSA（ロードサインアシスト）

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

●先行車発進告知機能

■レーダーの異常を示すメッセージが表示されたとき

メッセージに表示された異常が解消されるまで、以下のシステムは作動しない可能性があります。（→ P. 419, 722）

●PCS（プリクラッシュセーフティ）

●LTA（レーントレーシングアシスト）

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

●先行車発進告知機能

■「クルーズコントロール一時使用不可　取扱書を確認ください」が表示されたとき

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）のシステムが一時的、または対処を行うまで使用できません。（要因および対処方法→ P. 419）

■「クルーズコントロール　現在使用できません」が表示されたとき

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）のシステムが一時的に使用不可と判断されています。しばらく走行してからレーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を再度設定してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■警告メッセージが表示され、シフトポジションを変更できなかったり、パワースイッチを操作してOFFにしようとしてもアクセサリーモードになったりするときは

補機バッテリーが充電不足になったり、シフト制御システムが故障してしまったりした場合、次のような現象が起こる場合があります。

●シフトポジションを P に切りかえられない可能性があります。
駐車する場合は平坦な場所を選び、パーキングブレーキを確実にかけてください。

●ハイブリッドシステムを始動できない可能性があります。

●パワースイッチを操作して OFF にしようとしても、アクセサリーモードになることがあります。
その場合は、パーキングブレーキをかけてからパワースイッチを操作すると、OFF にすることができます。

●自動 P ポジション切りかえ機能（→ P. 383）が働かない可能性があります。
パワースイッチを OFF にする前に、確実に P ポジションスイッチを押し、シフトポジション表示灯または P ポジションスイッチの作動表示灯で、シフトポジションが P であることを必ず確認してください。

■警告ブザーについて

→ P. 726

⚠注意

■「補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書確認ください」がひんぱんに表示されるときは

補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーあがりを起こすおそれがあるため、トヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

■「駆動用電池の点検を 販売店で受けてください」が表示されたときは

駆動用電池の点検・交換時期になったことをお知らせしています。すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

●駆動用電池の点検を受けないまま車を使用し続けると、ハイブリッドシステムを始動することができなくなります。

●万一、ハイブリッドシステムが始動できなくなったときは、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

パンクしたときは

この車両には、スペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）。パンクしたタイヤの損傷状況により、応急修理キットでは応急修理できない場合があります。（→ P. 737）

タイヤパンク応急修理キットによる応急修理は、一時的な処置です。できるだけ早くタイヤを修理・交換してください。

警告

■パンクしたままの走行について

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

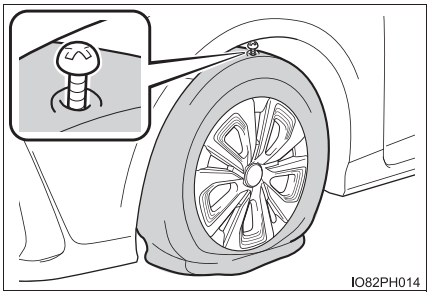
応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをしっかりかける
- シフトポジションを P にする
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる
- タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

・タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。

・パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。



知識

■応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

●タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき

●タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき

●タイヤがホイールから明らかにはずれているとき

●タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき

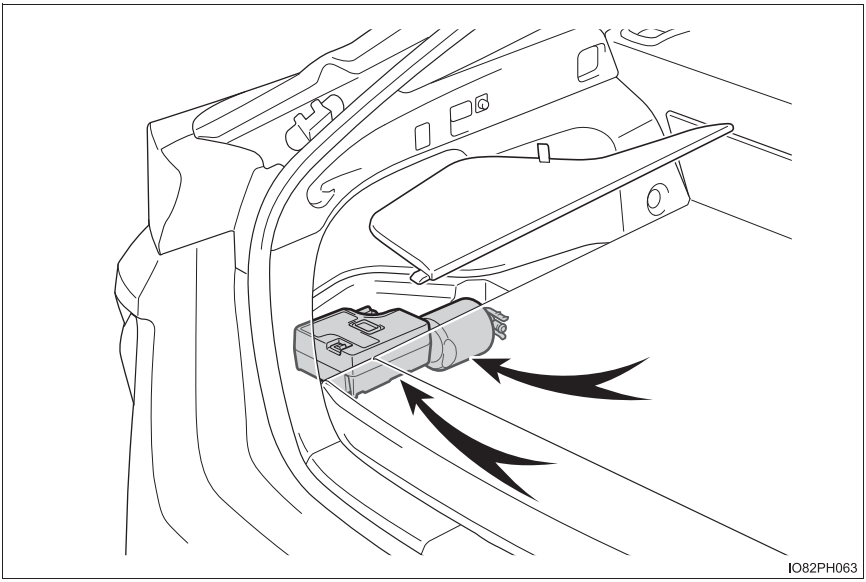
●ホイールが破損しているとき

●2 本以上のタイヤがパンクしているとき

●1 本のタイヤに 2 箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき

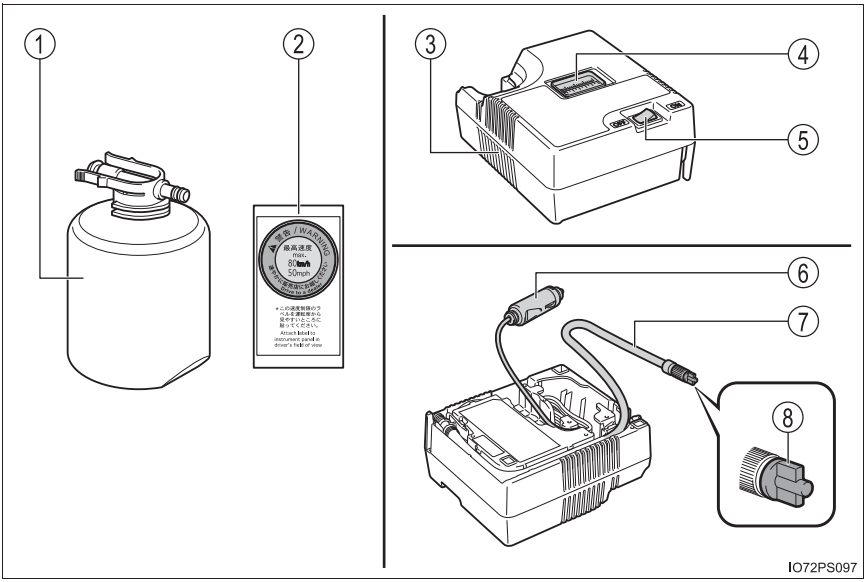
●補修液の有効期限が切れているとき

タイヤパンク応急修理キットの搭載位置



タイヤパンク応急修理キット

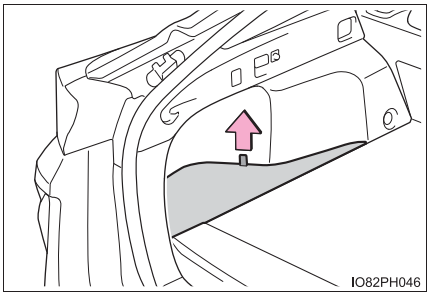
タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称



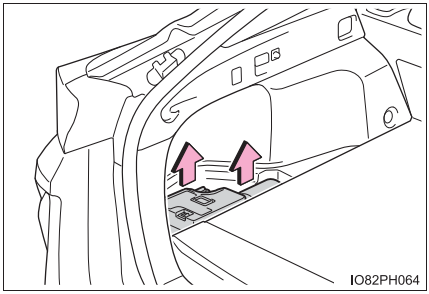
① ボトル
② 速度制限ラベル
③ コンプレッサー
④ 空気圧計
⑤ 電源スイッチ
⑥ 電源プラグ
⑦ ホース
⑧ 空気逃がしキャップ

タイヤパンク応急修理キットの取り出し方

1 ストラップをつかんで持ち上げ、フタを取りはずす



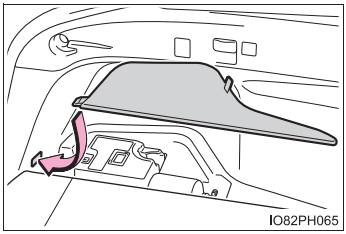
2 応急修理キットを取り出す



知識

■ **フタをもとにもどすとき**

フタの端にあるツメを穴に挿し込んでから、フタを降ろします。

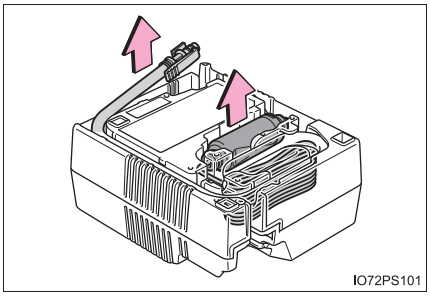


応急修理するときは

1 応急修理キットをビニール袋から取り出す

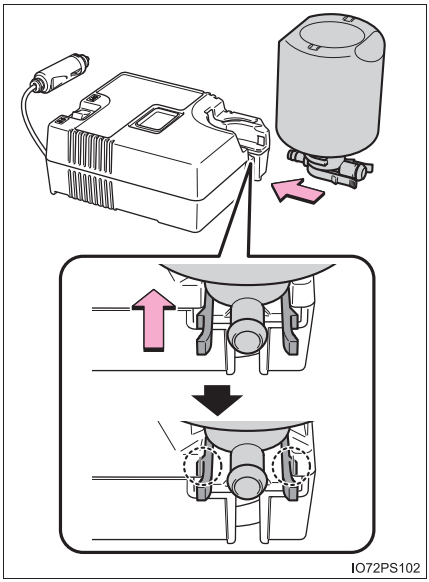
ボトルに同封されているラベルは、所定の位置へ貼り付けます。（手順10へ）

2 コンプレッサーからホースを取りはずし、電源プラグを取り出す



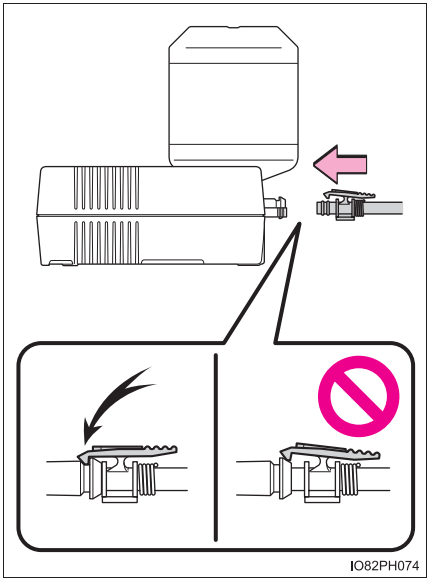
3 ボトルをコンプレッサーに接続する

図のように、ボトルをまっすぐコンプレッサーに挿入・接続し、ボトルのツメが穴に隠れていることを確認してください。

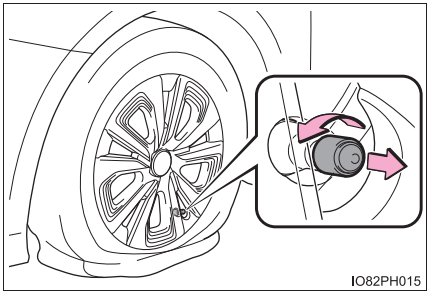


4 ホースをボトルに取り付ける

図のように、ボトルにホースがしっかり接続しているか確認してください。

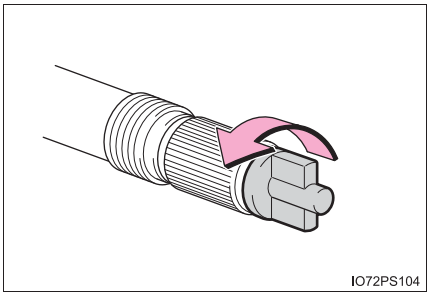


5 パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす



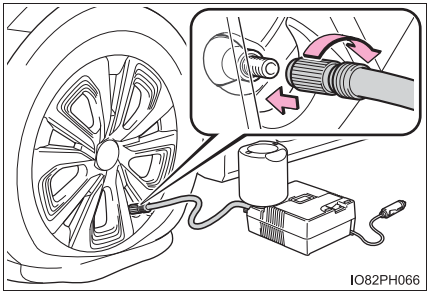
6 ホースをのばし空気逃がしキャップを取りはずす

空気逃がしキャップは再度使用するため、なくさないように保管してください。

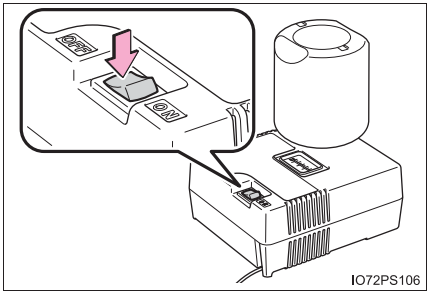


7 ホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

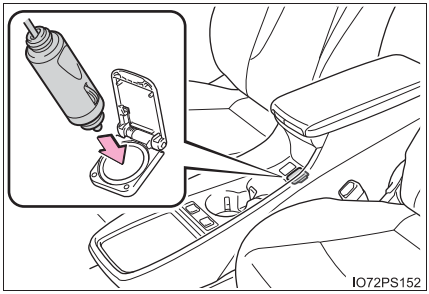
ホース先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込みます。



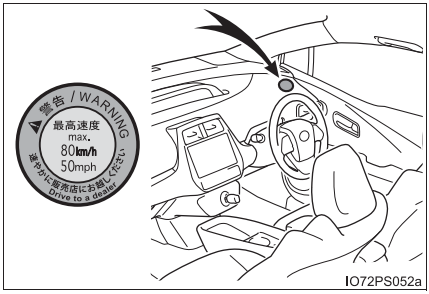
8 コンプレッサーのスイッチがOFF であることを確認する



9 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む（→ P. 628）

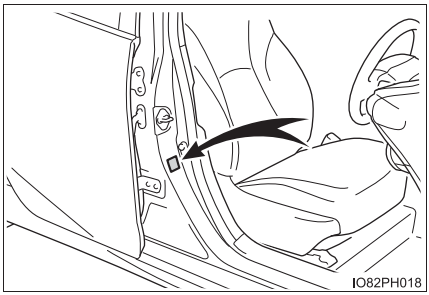


10 運転席から見やすい位置に、付属のラベルを貼り付ける



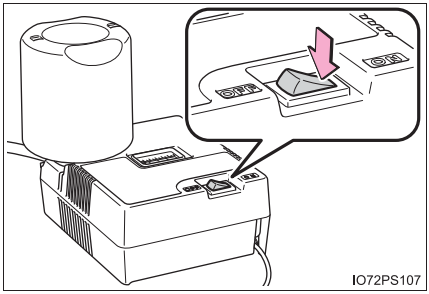
11 タイヤの指定空気圧を確認する

運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。（→ P. 669）



12 ハイブリッドシステムを始動する（→ P. 374）

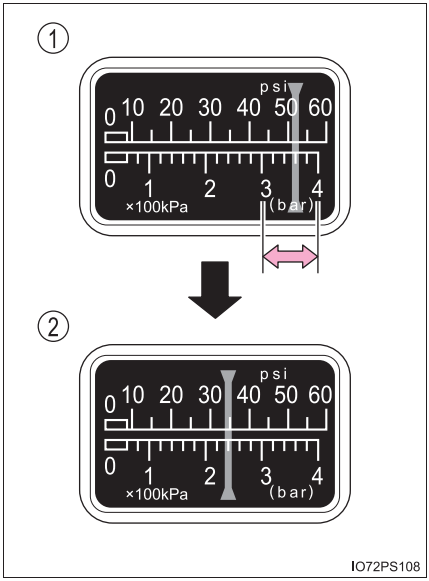
13 コンプレッサーのスイッチをONにし、パンク補修液と空気を充填する



14 空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填する

① 一時的に空気圧計が 300 ～ 400kPa(3.0～4.0kg/cm^2)まで上昇し、徐々に減少します。

② スイッチを ON にしてから約 1 ～ 5 分程度で実際の空気圧になります。



空気圧を確認するときは、コンプレッサーのスイッチを OFF にしてください。
空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

充填までに必要な時間は、約５～20 分です（外気温により異なります）。25 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。コンプレッサーのスイッチを OFF にして、トヨタ販売店にご連絡ください。

空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。
(→ P. 748, 779)

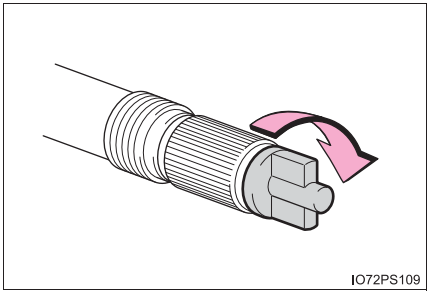
15 コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認した上で、アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブからホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

16 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

17 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。

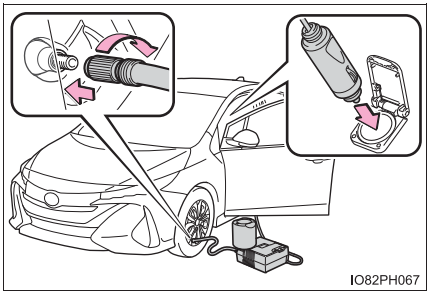


18 いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納する

19 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約 5km、速度 80km/h 以下で安全に走行する

20 走行後、平坦な場所に停車して再度、応急修理キットを接続する

ホースを接続する前に、空気逃がしキャップを取りはずしてください。

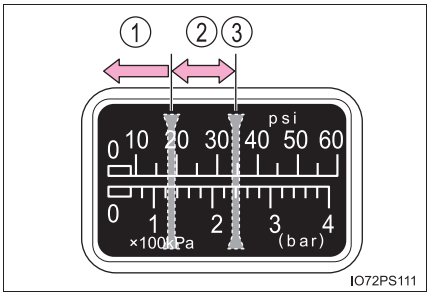


21 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にしてから再度 OFF し、空気圧を確認する

① 空気圧が130kPa（1.3kg/cm^2）未満の場合：応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

② 空気圧が130kPa（1.3kg/cm^2）以上、指定空気圧未満の場合：手順**22**へ

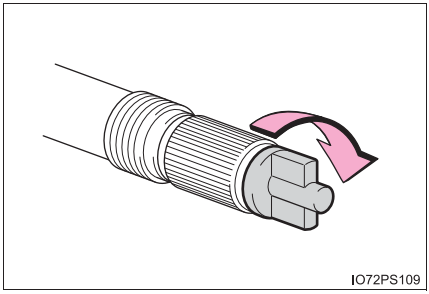
③ 空気圧が指定空気圧（→P. 779）の場合：手順**23**へ



22 コンプレッサーのスイッチをONにして指定空気圧まで空気を充填し、再度、約 5km 走行後にあらためて手順 20 から実施する

23 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



24 ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納する

25 急ブレーキ・急加速・急ハンドルを避け、走行距離が約 100km 以内、かつ 80km/h 以下の速度で、トヨタ販売店まで慎重に運転する

タイヤの修理・交換、応急修理キットの処理についてはトヨタ販売店にご相談ください。

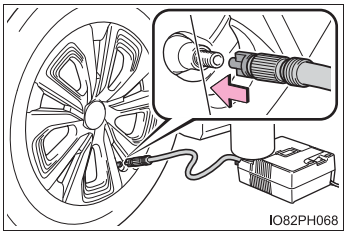
トヨタ販売店にてタイヤを修理・交換するときに、パンク補修液注入済みであることを必ずお伝えください。

知識

■空気を入れすぎてしまったとき

1 タイヤからホースを取りはずす

2 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付け、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあて、空気を抜く



3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する

4 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧計を確認する

指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■応急修理後のタイヤのバルブについて

応急修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■応急修理キットの点検について

- パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。
  有効期限はボトルに表示されています。
- 有効期限が切れたパンク補修液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。
- 有効期限が切れる前に交換してください。交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

■補修液を廃棄するときは

補修液には環境に有害な物質が含まれています。補修液のボトル、および補修液の廃棄が必要な際は、トヨタ販売店、または都道府県知事の許可を受けた、専門の廃棄物処理業者に処理をご依頼ください。

■応急修理キットについて

●パンク補修液ボトル1本でタイヤ1本を1回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。

●外気温が－30℃～60℃のときに使用できます。

●応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。

●パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。

●パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。

●応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。

●タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

警告

■**タイヤがパンクしているときは**

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤおよびホイールが損傷し修理できなくなります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

■**応急修理キットについて**

●応急修理キットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■**パンク補修液について**

●誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。

●もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

警告

■パンクしたタイヤを応急修理するとき

●車両を安全で平坦な場所に停止させてください。

●走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

●タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。ホースの接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。

●空気充填中にホースがはずれると、圧力でホースが暴れ大変危険です。

●空気充填後は、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。

●作業手順に従って応急修理を行ってください。
手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。

●破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。

●応急修理キットは、長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。40 分以上連続で作動させないでください。

●応急修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所付近の金属部分は特に熱くなるのでふれないでください。

●速度制限ラベルは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■補修液を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

●低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。

●車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、次のことを確認してください。

・タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
・空気圧を確認してください。130kPa（1.3kg/cm^2）未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

⚠注意

■応急修理をするときは

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。
  取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。
- 応急修理キットは倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。

■応急修理キットについて

- 応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
- 応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- 応急修理キットはビニール袋に入れて砂ぼこりや水を避けて収納してください。
- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、空気圧計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

ハイブリッドシステムが始動できないときは

ハイブリッドシステムが始動できない原因は状況によって異なります。
次のことをご確認いただき、適切に対処してください。

正しいハイブリッドシステムの始動方法（→ P. 374）に従っても始動できない

次の原因が考えられます。

- 充電ケーブル、またはヴィークルパワーコネクタが車両に接続されていないか確認してください。（→ P. 145, 208）
- 電子キーが正常に働いていない可能性があります。※（→ P. 755）
- 燃料が入っていない可能性があります。
  給油してください。（→ P. 86）
- イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。※（→P. 66）
- シフト制御システムに異常がある可能性があります。※
  （→ P. 378, 735）
- 電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、ハイブリッドシステムを一時的な処置で始動することができます。（→ P. 754）
- 駆動用電池の温度が著しく低い（およそ－ 30 ℃以下）可能性があります。（→ P. 86, 377）

※ シフトポジションを P から切りかえることができない可能性があります。

室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 759）
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。
  （→ P. 760）

室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 759）
- 補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。（→ P. 760）

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもハイブリッドシステムが始動できないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急始動機能

通常のハイブリッドシステム始動操作でハイブリッドシステムが始動しないときは、次の手順でハイブリッドシステムが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認する
2. パワースイッチをアクセサリーモードにする
3. ブレーキペダルをしっかり踏んでパワースイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でハイブリッドシステムが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■急速充電後・V2H 充電／ V2H 給電後、マルチインフォメーションディスプレイに「プラグイン充電システム 確認のため 充電口を閉めてください 詳細は取扱書をお読みください」が表示されたとき

P. 161 の記載に従って、対処してください。

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→ P. 337）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー＆スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、ハイブリッドシステムを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠

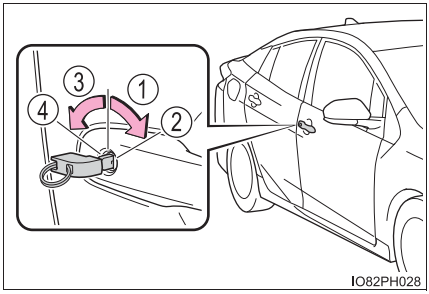
メカニカルキー（→ P. 319）を使って次の操作ができます。

① 全ドア施錠

② ドアガラスが閉まる（まわし続ける）※

③ 全ドア解錠

④ ドアガラスが開く（まわし続ける）※



※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。（→ P. 780）

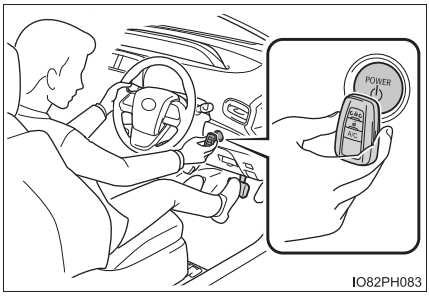
ハイブリッドシステム始動の方法

1 ブレーキペダルを踏む

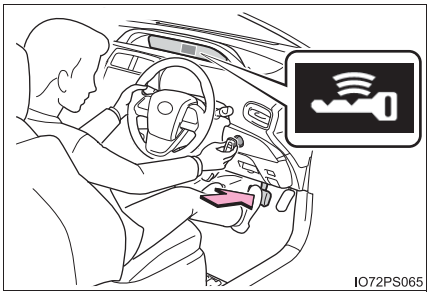
2 電子キーのトヨタエンブレム面で、パワースイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、ON モードへ切りかわります。

カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたときは、アクセサリーモードへ切りかわります。



3 ブレーキペダルをしっかり踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイに が表示されていることを確認する



4 パワースイッチを押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

充電リッドの施錠・解錠

■ 充電リッドの施錠

1 充電リッドを閉める（→ P. 99）

2 メカニカルキーを使ってドアを施錠する（→ P. 755）

1・2の手順を逆に行った場合も、充電リッドが施錠されます。

■ 充電リッドの解錠

1 メカニカルキーを使ってドアを解錠する（→ P. 755）

2 充電リッドを開ける（→ P. 99）

普通充電コネクターの施錠・解錠

■ 普通充電コネクターの施錠

1 メカニカルキーを使ってドアを解錠する（→ P. 755）

2 充電リッドを開ける（→ P. 99）

3 普通充電コネクターを普通充電インレットに挿し込む（→ P. 147）

4 コネクターロックスイッチを押す（→ P. 147）

普通充電コネクターが施錠されます。

■ 普通充電コネクターの解錠

1 メカニカルキーを使ってドアを解錠する（→ P. 755）

2 コネクターロックスイッチを押す（→ P. 149）

普通充電コネクターが解錠されます。

知識

■ハイブリッドシステム停止のしかた

通常のハイブリッドシステム停止のしかたと同様に、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにして、パワースイッチを押します。

■電池交換について

ここで説明しているハイブリッドシステムの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。（→P. 692）

■オートアラームについて

メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームが設定されません。

■パワースイッチのモードの切りかえ

ハイブリッドシステム始動方法の手順3で、ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを押すと、ハイブリッドシステムが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。（→P. 376）

■電子キーが正常に働かない場合

- 車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。（→P. 780）
- 電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。設定されている場合は解除してください。（→P. 336）

警告

■メカニカルキーを使ってドアガラスを操作するとき

ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

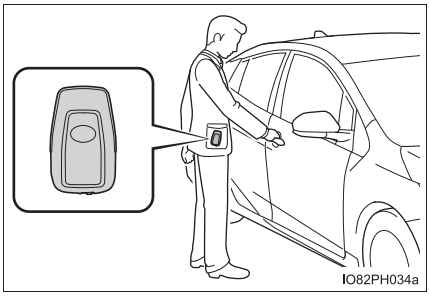
補機バッテリーがあがったときは

補機バッテリーがあがった場合、次の手順でハイブリッドシステムを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、ハイブリッドシステムを始動させることができます。

1 電子キーを携帯していることを確認する

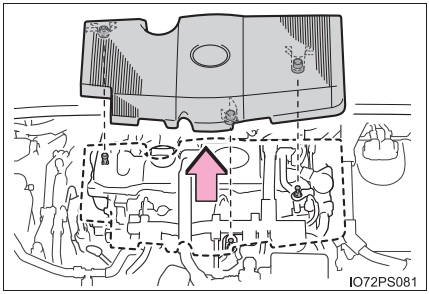
ブースターケーブル接続時、場合によっては、オートアラームが作動し自動的にドアが施錠されます。(→P. 69)



2 ボンネットを開ける（→ P. 662）

3 エンジン上部のカバーをはずす

両端をつかんで垂直に持ち上げると、カバーがはずれます。



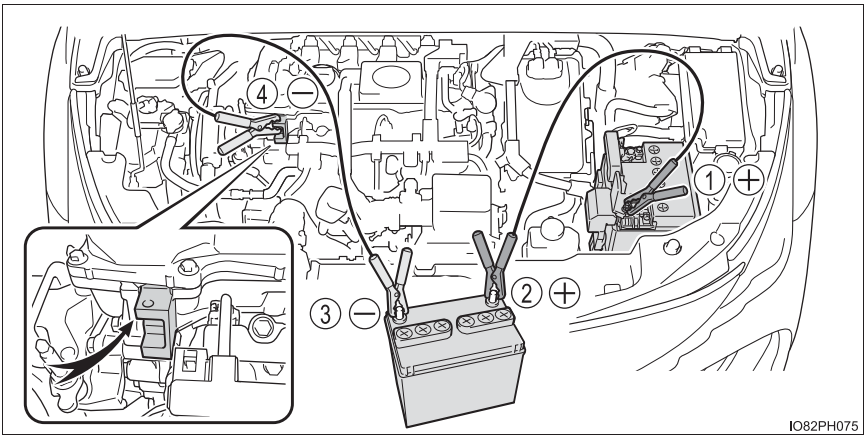
4 補機バッテリーの＋端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ

① 赤色のブースターケーブルを自車の補機バッテリーの＋端子につなぐ

② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ

③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ

④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を補機バッテリーから離れた、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ



5 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車の補機バッテリーを充電する

6 救援車のエンジン回転を維持したまま、パワースイッチをいったんONモードにしてからハイブリッドシステムを始動する

7 READY インジケーターが点灯することを確認する

点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

8 ハイブリッドシステムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

ブースターケーブルをはずしたあとは、バッテリー＋ 端子のカバーをもとにもどしてください。

9 エンジン上側のカバーをもとどおりに取り付ける

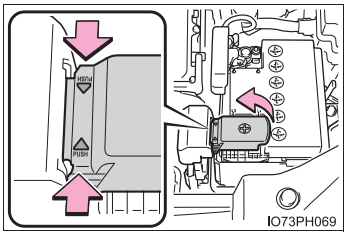
取りはずしたときと逆の手順で、エンジン上部のカバーを取り付けます。取り付け後は、固定ピンが確実にはめ込まれていることを確認してください。

ハイブリッドシステムが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■補機バッテリーの＋端子カバーを開くとき

図に示す位置を両側から押しながら、カバーの先端を持ち上げます。



■補機バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

- ハイブリッドシステムが停止しているときは、ランプやエアコンの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■補機バッテリーがあがってしまったときは

- コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。
- 初期設定が必要な機能があります。（→ P. 790）

■補機バッテリー端子をはずすときは

補機バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■補機バッテリーの充電について

補機バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、補機バッテリーがあがってハイブリッドシステムを始動できなくなるおそれがあります。（補機バッテリーはハイブリッドシステムの作動中に自動で充電されます）

■補機バッテリーあがり時や取りはずし時など

●補機バッテリー脱着直後はスマートエントリー＆スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。

●補機バッテリー脱着後、最初のハイブリッドシステム始動は失敗することがあります。2 回目以降のハイブリッドシステム始動は正常に動作しますので、問題ではありません。

●補機バッテリーの脱着直後は、スマートリッド＆コネクターロックシステムによる充電リッドの解錠、または普通充電コネクターの施錠・解錠ができなくなることがあります。その場合は、電子キーを携帯して、充電リッドまたはコネクターロックスイッチを再操作してください。

●車両は常にパワースイッチの状態を記憶しています。補機バッテリーあがり時、補機バッテリー脱着後は、バッテリーをはずす前の状態に車両は復帰します。補機バッテリーを脱着する際は、パワースイッチを OFF にしてから行ってください。
補機バッテリーあがり前のパワースイッチの状態が不明の場合、補機バッテリー接続時は特に注意してください。

●シフトポジションがPの状態で補機バッテリーがあがった場合は、Pから他のポジションに切りかえることができない可能性があります。その場合は、前輪が固定されているため、前輪を持ち上げないと車両の移動ができません。
（→ P. 715）

■補機バッテリーを交換するときは

●欧州規格バッテリーを使用してください。

●交換前と同一のケースサイズ（LN1）、20 時間率容量（20HR）が同等（45Ah）以上、かつ性能基準値（CCA）が同等（295A）以上の補機バッテリーを使用してください。

・ケースサイズが異なると、補機バッテリーが正しく固定されません。
・20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない期間が短い期間であっても補機バッテリーがあがって、ハイブリッドシステムの始動ができなくなるおそれがあります。

●詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■**補機バッテリー端子をはずすときは**

必ず－端子を先にはずしてください。＋端子を先にはずすと、＋端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがあるほか、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために**

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない
- ＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- 補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■**補機バッテリーの取り扱いについて**

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- 補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
  また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- 補機バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまを補機バッテリーに近付けない

■**補機バッテリーのマイナス端子について**

ボデーに接続された補機バッテリーのマイナス端子をはずさないでください。誤ってはずすとプラス端子と接触し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ **ブースターケーブルの取り扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンなどに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 高水温警告灯（→ P. 724）が点滅または点灯したり、ハイブリッドシステムの出力が低下する（スピードが出ないなど）
- マルチインフォメーションディスプレイに「ハイブリッドシステム高温　出力制限中です」が表示される
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

■ 高水温警告灯が点滅または点灯したとき

1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、ハイブリッドシステムを停止する

2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

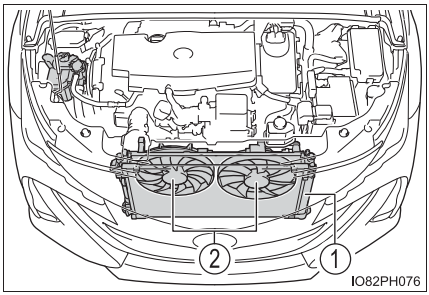
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける

3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

① ラジエーター

② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

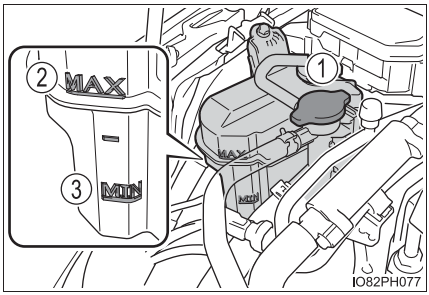


4 冷却水の量がリザーバータンクの“MAX”（上限）と“MIN”（下限）のあいだにあるかを点検する

① リザーバータンク

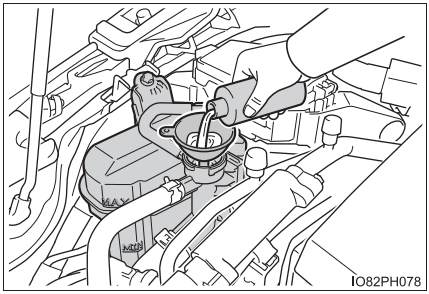
② “MAX”（上限）

③ “MIN”（下限）



5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



6 ハイブリッドシステムを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

ハイブリッドシステムが冷えた状態での始動直後は、設定温度を「LO」にして、エアコンスイッチ（ A/C ）をONにすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンスイッチ（ A/C ）のON・OFFをくり返してください。
（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

7 ファンが作動していない場合：
すぐにハイブリッドシステムを停止し、トヨタ販売店に連絡する

ファンが作動している場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

■ マルチインフォメーションディスプレイに「ハイブリッドシステム高温　出力制限中です」が表示されたとき

1 安全な場所に停車する

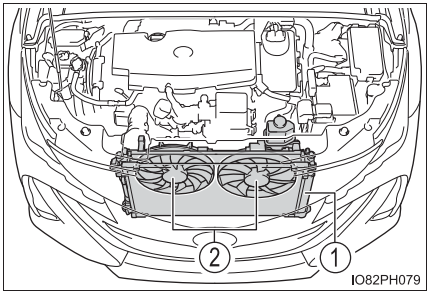
2 ハイブリッドシステムを停止し、注意してボンネットを開ける

3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

① ラジエーター

② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

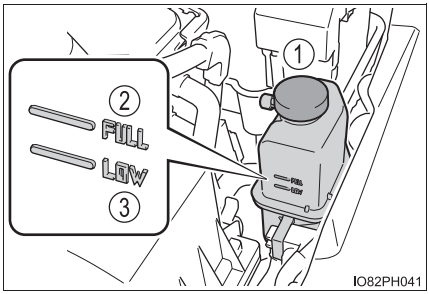


4 冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する

① リザーバータンク

② “FULL”（上限）

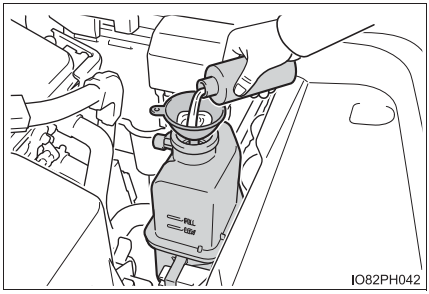
③ “LOW”（下限）



5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

応急措置として水を補給した場合は、できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受けてください。



6 ハイブリッドシステムを停止してから 5 分以上経過したあとで、ハイブリッドシステムを始動し、マルチインフォメーションディスプレイを確認する

表示が消えない場合：
ハイブリッドシステムを停止してトヨタ販売店に連絡する

表示が消えている場合：
ハイブリッドシステムの温度が低下したため、通常走行が可能です。

ただし、そのあともひんぱんに表示される場合は、トヨタ販売店に連絡してください。

警告

■**エンジンルームを点検しているとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- ハイブリッドシステムの停止後は、メインディスプレイ上の「アクセサリー」・「イグニッション ON」の表示、または走行距離表示（→ P. 264）と、READY インジケーターが消えていることを確認してください。
  ハイブリッドシステムが作動していると、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、ガソリンエンジンが停止していても、冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンなどの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハイブリッドシステムおよびラジエーターが熱い場合は、冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
  高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

注意

■**冷却水を入れるとき**

ハイブリッドシステムが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
ハイブリッドシステムが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、ハイブリッドシステムが損傷するおそれがあります。

■**冷却系統の故障を防ぐために**

次のことをお守りください。

●異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない

●市販の冷却水添加剤を使用しない

スタックしたときは

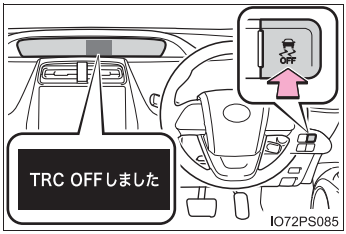
ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法で脱出してください。

1. パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてハイブリッドシステムを停止する
2. 前輪周辺の土や雪を取り除く
3. 前輪の下に木や石などをあてがう
4. ハイブリッドシステムを再始動する
5. シフトポジションを確実に D または R にし、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルを踏む

知識

■脱出しにくいとき

TRC を停止するには OFF を押してください。（→ P. 552）



警告

■脱出するとき

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車、ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■ **トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

- 前輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報 9

9-1. 仕様一覧
メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）.....774
9-2. カスタマイズ機能
ユーザーカスタマイズ機能一覧.....780
9-3. 初期設定
初期設定が必要な項目.....790

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
・無鉛レギュラーガソリン ・バイオ混合ガソリン（レギュラー）※	43

※ エタノールの混合率 10%以下または、ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

⚠ 注意

■燃料について

→ P. 90

エンジンオイル

指定銘柄	容量 [L]（参考値※）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推奨： トヨタ純正モーターオイル SP 0W-16 —API SP/RC, ILSAC GF-6B, SAE 0W-16 適合： トヨタ純正モーターオイル SP 0W-20 —API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 0W-20 トヨタ純正モーターオイル SP 5W-30 —API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 5W-30	3.9	4.2

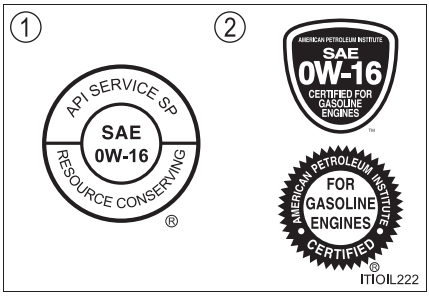
※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、まず水平な場所に駐車し、エンジンの暖機後にハイブリッドシステムを停止、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SP/RC、SN PLUS/RC、SN/RC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。0W-16 は、新車時に工場充填されている推奨オイルであり、優れた省燃費性能を発揮できます。
0W-16 が入手困難な場合は、0W-20、5W-30 もご使用いただけます。
なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

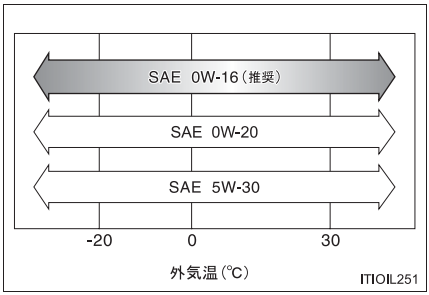
① API マーク

② ILSAC CERTIFICATION マーク



■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



オイル粘度について（例として 0W-16 で説明します）：

・0W-16 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。

・0W-16 の 16 は、高温時の粘度特性を示しています。粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L]（参考値）	
	ガソリンエンジン	パワーコントロールユニット
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　−12 ℃ 濃度 50%　−35 ℃	6.2	1.5

トランスミッション

指定銘柄	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正オートフルード　WS※	3.7

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

■ **トランスミッションフルードについて**

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときのコラムホールカバーとのすき間 ※	117

※ ハイブリッドシステムが作動している状態で、300N（31kgf）の踏力をかけたときのコラムホールカバーとのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
踏みしろ 操作力 300N（31kgf）のときのノッチ ※ 数	8 ～ 11

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです。

ウォッシャータンク

容量 [L]（参考値）
4.8

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	
		前輪	後輪
195/65R15 91S	15 × 6 1/2J	250（2.5）	240（2.4）
215/45R17 87W	17 × 7J	230（2.3）	220（2.2）
225/40R18 88Y	18 × 7 1/2J	230（2.3）	220（2.2）

電球（バルブ）※

	電球	W（ワット）数
車外	後退灯	16
	リヤフォグランプ（GR SPORT のみ）	21
車内	バニティミラーランプ	8
	フロントインテリアランプ／マップランプ	5
	リヤインテリアランプ	8
	ドアカーテシランプ	5
	ラゲージルームランプ	5

※ 表に記載のないランプは LED を採用しています。

車両仕様

型式		ZVW52
エンジン		2ZR-FXE（1.8L ガソリン）
電動機型式	発電／駆動用	1SM
	駆動用	1NM
駆動方式		FF（前輪駆動）

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。また、マルチメディアディスプレイ★・マルチインフォメーションディスプレイの操作により設定を変更することができる機能もあります。

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

マルチメディアシステム装着車、かつ T-Connect サービスご契約のお客様は、マイカーカスタマイズ機能（T-Connect 対応スマホアプリのご利用またはトヨタ販売店へのご依頼）により、遠隔で設定変更ができます。
遠隔での設定変更が可能な項目に関してはT-Connect対応スマホアプリでご確認ください。

カスタマイズ設定をする

安全に操作することができる場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にします。

■ マルチメディアディスプレイ★で設定するには

1 「MENU」スイッチを押し、「設定・編集」を選択する

2 「設定・編集」画面の「車両」を選択する

3 「車両カスタマイズ」を選択する

4 設定を変更したいカテゴリーを選択する

5 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する

6 機能の作動内容を選択する

作動・非作動を変更できる機能では、「する」（作動）・「しない」（非作動）を選択します。
音量やセンサーの感度などを変更できる機能では、「＋」または「－」を選択してレベルを調整します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

1 メーター操作スイッチの〈または〉を押して を選択する

2 ∧または∨を押して「 (車両カスタマイズ)」を選択し、
◎を押す

3 ∧または∨を押して変更する項目を選択し、◎を押す

4 ∧または∨を押して設定したい項目を選択し、◎を押す

設定を終了する場合は、↩スイッチを押します。

車両カスタマイズ設定一覧

① マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能
② マルチメディアディスプレイ★で設定変更可能
③ トヨタ販売店で設定変更可能

■ オートアラーム（→ P. 67）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
メカニカルキーを使って解錠したときのアラーム解除	しない	する	―	―	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ メーター照明（→ P. 246）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
周囲の明るさにより、メーターの照度を自動減光するためのセンサーの感度調節	0	－２～＋２	―	―	○
周囲の明るさにより、減光したメーターなどの照度をもとにもどすためのセンサーの感度調節	0	－２～＋２	―	―	○

■ HUD（ヘッドアップディスプレイ）★（→ P. 304）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
ルート案内★	する	しない	○	―	―

■ スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通（→ P. 323, 334）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
作動の合図（ブザー音量調整）	5	OFF	○※	○	○
		1～7			
作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし	○※	○	○
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒	―	―	○
		120 秒			
半ドア警告ブザー	あり	なし	―	―	○

※ マルチメディアシステム非装着車のみ

■ スマートエントリー＆スタートシステム（→ P. 334）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
スマートエントリー＆スタートシステム	あり	なし	○※	○	○
連続してできる施錠操作の回数	無制限	2 回	―	―	○

※ マルチメディアシステム非装着車のみ

■ ワイヤレスドアロック（→ P. 323）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
ワイヤレス機能	あり	なし	―	―	○

■ リヤシートリマインダー（→ P. 327）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
リヤシートリマインダー	する	しない	○	―	―

■ ドアミラー（→ P. 352）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
オート電動格納作動	ドアの施錠・解錠と連動	なし	―	―	○
		パワースイッチと連動			

■ パワーウインドウ（→ P. 354）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
メカニカルキー連動開閉機能（開）	しない	する	―	―	○
メカニカルキー連動開閉機能（閉）	しない	する	―	―	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能（開）	しない	する	―	―	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能（閉）	しない	する	―	―	○
ワイヤレスリモコン連動作動合図（ブザー）	する	しない	―	―	○

■ ドライブスタートコントロール（→ P. 361）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
後退速度の抑制制御	あり	なし ※	○	―	―

※「なし」に変更しても、パワースイッチを ON モードにするたびに「あり」にもどります。

■ ランプ自動点灯・消灯システム（→ P. 388）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
ライトセンサーの感度調整	-2	－２～＋２	○ ※	○	○
ランプ消し忘れ防止機能	運転席ドアと連動	パワースイッチと連動	―	―	○

※ マルチメディアシステム非装着車のみ

■ アダプティブハイビームシステム★（→ P. 396）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
遮光ビームの切りかえ	あり	なし ※	―	―	○
前方車両と遮光ハイビームとの間隔	標準	狭い	―	―	○
		広い			
車速に応じた、ハイビームの明るさと照らす範囲の調整	約 15km/h から作動	約 30km/h から作動	―	―	○
		約 80km/h から作動			
カーブを走行しているとき、進行方向側のハイビームを明るく照らす	あり	なし	―	―	○
先行車との距離に応じた、ロービームの照らす範囲の調整	あり	なし	―	―	○

※ ハイビームとロービームのみ切りかえます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 雨滴感知式ワイパー★（→ P. 406）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
ワイパースイッチを “AUTO” にしたときの作動	雨滴感知	車速連動間欠作動（間欠時間調整式）	—	—	○

■ RSA（ロードサインアシスト）（→ P. 442）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
RSA（ロードサインアシスト）機能	あり	なし	○	—	—
制限速度超過告知	なし	告知表示のみ	○	—	—
		告知表示とブザー			
制限速度超過の告知車速	2km/h	10km/h	○	—	—
		5km/h			
追い越し禁止告知	告知表示のみ	なし	○	—	—
		告知表示とブザー			
その他の告知（進入禁止告知）	告知表示のみ	なし	○	—	—
		告知表示とブザー			

■ ITS Connect★（→ P. 467）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
信号情報	ON	OFF	○	—	○
道路環境情報	ON	OFF	○	—	○
緊急車両通知	ON	OFF	○	—	○
支援タイミング	早	遅	○	—	○
クルーズ（ITS）	ON	OFF	○	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ BSM（ブラインドスポットモニター）★（→ P. 479）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
ドアミラーインジケーターの明るさ	明るい	暗い	―	―	○

■ クリアランスソナー★（→ P. 492）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
フロントセンサーの検知可能距離	遠い	近い	―	―	○
バックセンサーの検知可能距離	遠い	近い	―	―	○
ブザー音量	レベル 3	レベル 1 ～ 5	―	―	○

■ S-IPA（シンプルインテリジェントパーキングアシスト）★（→ P. 518）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
障害物回避距離	標準	短い	―	―	○
		少し長い			
		長い			
並列駐車可能スペース	標準	狭い	―	―	○
		少し広い			
		広い			
縦列駐車可能スペース	標準	狭い	―	―	○
		少し広い			
		広い			

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ エアコン（→ P. 594）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
AUTO スイッチが ON のとき、連動して A/C の ON ／ OFF を自動的に切りかえる	する	しない	○ ※	○	○
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない	○ ※	○	○

※ マルチメディアシステム非装着車のみ

■ リモートエアコンシステム（→ P. 606）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
作動開始時のリモコンスイッチの操作	1 回押し続ける（約 0.8 秒）	1 回押し	—	—	○
		2 回押し			
		1 回押し続ける（約 2.4 秒）			
		非作動			
作動停止時のリモコンスイッチの操作	2 回押し	1 回押し	—	—	○
		1 回押し続ける（約 0.8 秒）			
		1 回押し続ける（約 2.4 秒）			
		非作動			

■ イルミネーション（→ P. 613）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
消灯までの時間	15 秒	OFF	○※	○	○
		7.5 秒			
		30 秒			
パワースイッチ OFF 後の作動	あり	なし	―	―	○
解錠時の照明の点灯	あり	なし	―	―	○
接近時の照明の点灯	あり	なし	―	―	○
足元照明の点灯★	あり	なし	―	―	○
室内照明の点灯制御	あり	なし	―	―	○

※ マルチメディアシステム非装着車のみ

■ 充電設定

タイマー充電	タイマー充電機能の設定（→ P. 168）
充電電流	充電電流の上限値の変更（→ P. 129）
充電コネクターロック	充電コネクターロックの設定変更（→ P. 118）
駆動用電池ヒーター	駆動用電池ヒーターの ON ／ OFF（→ P. 135）

■ 外部電源供給

外部電源供給モードの選択（→ P. 209）

知識

■車両カスタマイズについて

解錠後にドアを開けなかったときの自動施錠が作動した合図は、「作動の合図（非常点滅灯）」・「作動の合図音量（ブザー音量調整）」の設定に依存します。

■車両カスタマイズ画面について

次の状態になるとマルチインフォメーションディスプレイの車両カスタマイズ画面は自動的に終了します。

●パワースイッチが OFF になった

●車両カスタマイズ画面表示中に走行し始めた

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■カスタマイズを行うとき

ハイブリッドシステムを始動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■カスタマイズを行うとき

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

初期設定が必要な項目

次の項目は補機バッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく働かせるために初期設定が必要です。

項目	初期設定が必要なとき	参照先
パワーウインドウ	正常に働かないとき	P. 355
パーキングサポートブレーキ★	補機バッテリーの充電、交換後の再接続時	P. 510
シンプルインテリジェントパーキングアシスト★	補機バッテリーの充電、交換後の再接続時	P. 541
パノラミックビューモニター★	補機バッテリーの充電、交換後の再接続時	P. 587

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

さくいん

こんなときは
（症状別さくいん）.....792
車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....796
アルファベット順
さくいん.....798
五十音順さくいん.....800

メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車にお乗りのお客さまは、次の装備については別冊「マルチメディア取扱書」をお読みください。

・ナビゲーション
・オーディオ＆ビジュアル
・音声操作システム
・バックガイドモニター
・ETC2.0 システム
・ハンズフリー
・T-Connect

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない

キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→ P. 319）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→ P. 322）

施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→ P. 692）
- パワースイッチが ON モードになっていませんか？
  施錠するときは、パワースイッチを OFF にしてください。（→ P. 376）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？
  施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。（→ P. 337）

リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていませんか？
  チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→ P. 326）

故障かな？と思ったら

ハイブリッドシステムが始動できない

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらパワースイッチを押していますか？（→ P. 374）
- シフトポジションは P になっていますか？（→ P. 381）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→ P. 335）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
  このときは、一時的な方法でハイブリッドシステムを始動することができます。（→ P. 756）
- 補機バッテリーがあがっていませんか？（→ P. 759）

パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- ウインドウロックスイッチが押されていませんか？
  ウインドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。（→ P. 354）

パワースイッチが自動的に OFF になった

- 一定時間アクセサリーモードまたはONモード（ハイブリッドシステムが作動していない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→ P. 376）

警告音・アラーム・ホーンが鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→ P. 796）をご確認ください。

警告灯や警告メッセージが表示されたとき

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P. 722, 727 をご確認ください。

トラブルが発生した

タイヤがパンクした

- 車を安全な場所に停め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→ P. 736）

立ち往生した

- ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→ P. 770）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
解錠したとき	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P. 67
ドアを開閉したとき	シフトポジションがP以外になっている	P. 727
	窓が開いている（ハイブリッドシステム停止中のみ）	P. 356
	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P. 67
ハイブリッドシステムを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P. 692
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 335
	電子キーを車内に置き忘れている	P. 727

※ スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンでドアを解錠する、またはパワースイッチをONモードにするか、ハイブリッドシステムを始動すると、警報を解除することができます。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 326
	パーキングブレーキが解除されていない	P. 387
	運転席･助手席のシートベルトを着用していない ※	P. 725
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 367
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用している	P. 455
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動した	P. 420
車線から逸脱しそうになったとき	LTA（レーントレーシングアシスト）の車線逸脱警報機能・ふらつき警報機能が作動した	P. 434
前の車が発進しても停止し続けたとき	先行車発進告知機能が作動した	P. 464

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

アルファベット順さくいん

A/C
（エアコン）. 594
ABS
（アンチロックブレーキシステム）. 551, 723
AHB
（オートマチックハイビーム）. 392
AHS
（アダプティブハイビームシステム）. 396
BSM
（ブラインドスポットモニター）. 479
ECB
（電子制御ブレーキシステム）. 551
EDR
（イベントデータレコーダー）. 11
EPS
（エレクトリックパワーステアリング）. 551, 723
EV
（エレクトリックビークル）. 73
FF
（フロントエンジンフロントドライブ）. 779
HUD
（ヘッドアップディスプレイ）. 304
ILSAC CERTIFICATION
（イルサックサーティフィケーション）. 775
ISOFIX
（アイソフィックス／イソフィックス）. 59, 62
LED
（ライトエミッティングダイオード）. 401, 705
LTA
（レーントレーシングアシスト）. 430
PCS
（プリクラッシュセーフティ）. 420

PHV
（プラグインハイブリッドビークル）. 72
PKSB
（パーキングサポートブレーキ）. 503, 724
RCTA
（リヤクロストラフィックアラート）. 479, 486
RSA
（ロードサインアシスト）. 442
S-FLOW
（フロント席集中送風モード）. 596
S-IPA
（シンプルインテリジェントパーキングアシスト）. 518
S-VSC
（ステアリングアシステッドビークルスタビリティ
コントロール）. 551, 723
SRS
（サプリメンタルレストレイントシステム）. 36, 723
Toyota Safety Sense
AHB（オートマチックハイビーム）. 392
AHS（アダプティブハイビームシステム）. 396
LTA（レーントレーシングアシスト）. 430
PCS（プリクラッシュセーフティ）. 420
RSA（ロードサインアシスト）. 442
先行車発進告知機能. 464
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）. 447
TRC
（トラクションコントロール）. 551, 723
V2H
（ヴィーツーエッチ）. 132, 156
VSC
（ビークルスタビリティコントロール）. 551, 723

五十音順さくいん

あ

アースポイント
（バッテリーあがりの処置）..... 759
アームレスト（リヤシート）..... 646
RF 送信機..... 12
RSA（ロードサイン
アシスト）..... 442
ITS Connect..... 467
アウターミラー
（ドアミラー）..... 352
操作 352
BSM（ブラインドスポット
モニター）..... 479
ミラーヒーター 598
アクセサリーコンセント 629
アクセサリーソケット..... 628
アクセサリーモード..... 376
アシストグリップ..... 647
足元照明 613
アダプティブハイビーム
システム（AHS）..... 396
アラーム
オートアラーム 67
音さくいん..... 796
警告ブザー..... 722, 727
アンチロックブレーキ
システム（ABS）..... 551
アンテナ
スマートエントリー&
スタートシステム..... 334

い

ECB（電子制御ブレーキ
システム）..... 551
EV ／ HV モード切りかえ
スイッチ 75
EV 走行可能距離..... 94
EV 走行比率 286
EV モード.....73
イグニッションスイッチ
（パワースイッチ）.....374
自動電源 OFF 機能.....376
車両を緊急停止するには 712
ハイブリッドシステム
始動のしかた.....374
モードの切りかえ.....376
1km 毎の電費／燃費 285
位置交換
（タイヤローテーション）.....668
イベントデータレコーダー
（EDR）.....11
イモビライザーシステム.....66
イルミネーテッド
エントリーシステム.....615
インジケーター（表示灯）.....258
エラーインジケーター 105
駆動用電池残量
インジケーター.....100
充電インジケーター
（充電ケーブル）.....105
充電インジケーター
（充電ポート）.....102
充電ケーブル 105
電源インジケーター.....105
ドアミラーインジケーター 479
ハイブリッドシステム
インジケーター.....277
表示灯 258
READY 374
インテリアランプ 614, 615
インテリジェントパーキング
アシスト（S-IPA）.....518
インナーミラー 350

う

ヴィークルパワーコネクタ 210
ウインカー（方向指示灯）..... 386
電球（バルブ）の交換..... 705
方向指示レバー 386
ウインドウ 354
ウインドシールド
デアイサー 598
ウォッシャー 405
パワーウインドウ 354
リヤウインドウ
デフォッガー 598
ウインドウロックスイッチ 354
ウォーニングランプ
（警告灯）..... 256, 722
ウォッシャー 405
液の補充..... 666
スイッチ..... 405
タンク容量..... 778
冬の前の準備・点検 589
動けなくなったときは
（スタック）..... 770
雨滴感知式ワイパー..... 406
運転..... 360
雨の日の運転 362
EV 走行可能距離 94
運転を補助する装置 551
エコアクセルガイド 280
寒冷時の運転 589
正しい運転姿勢 30
手順 360
プラグインハイブリッド車
運転のアドバイス..... 91
運転席シートベルト
非着用警告灯..... 724

え

エアコン.....594
エコ空調モード.....597
エコジャッジ
（空調スコア）.....294
オートエアコン.....594
曇り取り（フロント
ウインドウガラス）.....597
曇り取り
（リヤウインドウ）.....598
フィルターの交換.....685
フロント席集中送風モード
（S-FLOW）.....596
マイルームモード.....185
リモートエアコン
システム 606
エアバッグ.....36
SRS エアバッグ警告灯.....723
お子さまのための注意.....37
改造・廃棄 39
作動条件 40, 41
正しい姿勢 30
配置.....36
HV モード.....75
エコダイアリー 288
S-IPA（シンプル
インテリジェント
パーキングアシスト）.....518
ガイド画面 522
縦列出庫 536
縦列駐車 530
並列駐車 524
メッセージ 541

S-VSC（ステアリング
アシステッドビークル
スタビリティコントロール）..... 551
エネルギーモニター..... 272, 312
LED イルミネーションビーム.... 401
スイッチ..... 401
電球（バルブ）の交換..... 705
LTA（レーントレーシング
アシスト）..... 430
エレクトリックパワー
ステアリング（EPS）..... 551
機能 551
パワーステアリング警告灯.... 723
エンジン
イモビライザーシステム..... 66
エンジン警告灯 722
エンジンスイッチ 374
エンジンルームから
蒸気が出ている 765
オーバーヒート 765
緊急時の停止方法 712
ハイブリッドシステムが
始動できない 753
ハイブリッドシステムの
始動方法..... 374
パワースイッチ
（イグニッション
スイッチ）..... 374
ボンネット..... 662
エンジンオイル..... 775
冬の前の準備・点検 589
メンテナンスデータ 775
油圧警告灯 722
容量 775
エンジンスイッチ
（パワースイッチ）.....374
自動電源 OFF 機能.....376
車両を緊急停止するには 712
ハイブリッドシステムの
始動のしかた.....374
モードの切りかえ.....376
エンジンフード
（ボンネット）.....662

お

オーディオ ※
オーディオ操作スイッチ.....648
オートアラーム 67
オートエアコン 594
オートマチックハイビーム
（AHB）.....392
オートレベリングシステム
（ヘッドランプ）.....390
オーバーヒート.....765
オープナー
給油扉 412
バックドア 329
ボンネット 662
オイル（エンジンオイル）.....775
おくだけ充電.....640

お子さまを乗せるとき 45
ウインドウロックスイッチ 354
エアバッグ 37
お子さまの安全のために 45
キーの電池 694
シートの取り扱いに関する警告 342, 344
シートベルトの着用 33
ステアリングヒーター／シートヒーターに関する警告 610
充電に関する警告 141
チャイルドシート 46
チャイルドプロテクター 326
発炎筒の取り扱いに関する警告 711
バックドアに関する警告 331
パワーウインドウに関する警告 356
補機バッテリーに関する警告 763
オドメーター 264

か

カーテンシールドエアバッグ 36
カードホルダー 621
カーペット 658
洗浄 658
フロアマットの取り付け方 28
外気温表示 263
快適温熱シート（シートヒーター） 610
回生ブレーキ 80
外装の電球（バルブ） 698
交換要領 698
ワット数 779
外部電源供給システム
AC 外部電源供給システム 208
DC 外部電源供給システム 230
買い物フック 623
ガス欠になったとき 86
カスタマイズ機能 780
型式 779
カップホルダー 618
カメラ
前方カメラ（Toyota Safety Sense） 415
バックガイドモニター ※
パノラミックビューモニター 580
カラーヘッドアップディスプレイ 304
ガラスの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー） 598
ガレージジャッキ 665
冠水路走行 371
寒冷時の運転 589

※：マルチメディアシステムは、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

き

キー 318
キーナンバープレート 318
キーの構成 318
キーレスエントリー 323
キーをなくした 319, 322
スマートエントリー&
スタートシステム 334
正常に働かない 755
施錠・解錠ができない 755
電子キー 318
電池が切れた 692, 755
ハイブリッドシステムが
始動できない 756
メカニカルキー 319
ワイヤレスリモコン 318
キーレスエントリー 323
スマートエントリー&
スタートシステム 334
ワイヤレスドアロック 323
きしみやひっかき音が聞こえる
（ブレーキパッドウェア
インジケーター） 367
給油 409
給油扉が開かないとき 412
給油のしかた 409
メンテナンスデータ 774
緊急時シートベルト固定機構 33
緊急始動機能
（ハイブリッドシステム） 754
緊急時の対処
オーバーヒートした 765
キーの電池が切れた 692, 755
キーをなくした 319, 322
警告灯がついた 722
警告メッセージが
表示された 727
けん引 715
故障した 708
車両を緊急停止する 712
水没・冠水した 713
スタックした 770
電子キーが
正常に働かない 755
ハイブリッドシステムが
始動できない 753
発炎筒 710
パンクした 736
補機バッテリーがあがった 759
緊急停止システム 85
緊急ブレーキシグナル 551

く

空気圧（タイヤ） 779
区間距離計
（トリップメーター） 264
駆動用電池 84
残量インジケーター 100
充電について 98
搭載位置 84
冷却用吸入口 85
駆動用電池冷却用吸入口 85
手入れ 656

曇り取り
フロントウインドウガラス.... 597
ミラーヒーター 598
リヤウインドウ
デフォッガー 598
クラクション（ホーン）..... 348
クリアランスソナー..... 492
表示 494
ブザー..... 496
巻き込み警報機能 498
クリアランスランプ
（車幅灯）..... 388
スイッチ..... 388
電球（バルブ）の交換..... 705
クリップ
フロアマット 28
クルーズコントロール
レーダークルーズコントロール
（全車速追従機能付き）..... 447
グローブボックス..... 617
グローブボックスランプ 617

け

警音器（ホーン）..... 348
計器類
（コンビネーションメーター）... 246
警告灯／表示灯 255
時計の調整..... 251
ヘッドアップ
ディスプレイ 304
マルチインフォメーション
ディスプレイ 269
メインディスプレイ 263
警告灯.....256, 722
ABS ＆ブレーキアシスト 723
LTA 表示灯.....723
SRS エアバッグ.....723
エンジン 722
急アクセル時加速抑制.....725
高水温 724
シートベルト非着用.....724
充電.....722
スリップ表示灯.....723
電子制御ブレーキ.....722
ドライブスタート
コントロール.....725
燃料残量 724
パーキングサポート
ブレーキ 725
パワーステアリング.....723
半ドア 724
PKSB OFF 表示灯 724
PCS.....723
プリテンショナー.....723
ブレーキ 722
ブレーキオーバーライド
システム 725
マスターウォーニング.....724
油圧.....722

警告ブザー
クリアランスソナー 496
シートベルト非着用 724
シフトポジション切りかえ
制限..... 382
車線逸脱警報機能 434
衝突警報（PCS）..... 420
接近警報（レーダークルーズ
コントロール）..... 455
先行車発進告知機能 464
パーキングサポート
ブレーキ..... 508
パーキングブレーキ
未解除走行時 387
半ドア..... 324, 335, 724
ふらつき警報機能 435
ブレーキ..... 722
リバース..... 382
警告メッセージ..... 727
警告ラベル（ハイブリッド
システム）..... 84
化粧ミラー（バニティミラー）... 627
けん引..... 715
けん引のしかた 715
フックの搭載場所 675
フックの取り付け 717

こ

交換
キーの電池 692
タイヤ 674
電球（バルブ）.....698
ヒューズ 695
ワイパーゴム 689
工具（ツール）.....675
航続可能距離.....264
後退速度の抑制制御（ドライブ
スタートコントロール）.....361
後退灯
（バックアップランプ）.....698
電球（バルブ）の交換.....699
ワット数 779
高電圧部位.....84
コートフック 646
5km 毎の電費／燃費 285
子供専用シート 46
小物入れ.....620
コンセント
アクセサリーコンセント 629
ヴィークルパワーコネクタ 210
コンソールボックス 617
コンライト
（自動点灯・消灯装置）.....388

さ

サービスプラグ..... 84
サイドエアバッグ..... 36
サイド方向指示灯..... 386
電球（バルブ）の交換..... 705
方向指示レバー..... 386
サイドミラー（ドアミラー）..... 352
格納のしかた..... 352
操作..... 352
BSM（ブラインドスポット
モニター）..... 479
ミラーヒーター..... 598
三角表示板等収納スペース..... 624
サンバイザー..... 627

し

シート..... 341, 343
シートヒーター
（快適温熱シート）..... 610
シートベンチレーター..... 610
正しい運転姿勢..... 30
チャイルドシート..... 46
調整..... 341
手入れ..... 655
ヘッドレスト..... 345
シートバックポケット..... 621
シートヒーター..... 610
シートベルト..... 32
お子さまの着用..... 33
緊急時シートベルト
固定機構..... 33
シートベルト非着用警告灯.... 724
高さ調節..... 33
正しく着用するには..... 32
着け方・はずし方..... 32
手入れ..... 658
妊娠中の方の着用..... 34
シートベルト非着用警告灯..... 724
シートベルトプリテンショナー..... 33
機能..... 33
プリテンショナー警告灯..... 723
シートベンチレーター..... 610
事故が発生したとき
（ハイブリッド
システムの注意）..... 88
室内灯（インテリアランプ）..... 613
始動のしかた..... 374
シフトポジション..... 381
シフトレバー..... 380
シフトポジションの
切りかえ..... 380
シフトレバー照明..... 613
P ポジションスイッチ..... 381
リバース警告ブザー..... 382
締め付けトルク（ホイール）..... 682
車間距離切りかえスイッチ..... 453
車線逸脱警報機能..... 434
ジャッキ
ガレージジャッキ..... 665
車載ジャッキ..... 675
ジャッキハンドル..... 675
車幅灯..... 388
電球（バルブ）の交換..... 705
ランプスイッチ..... 388
車両型式..... 779
車両仕様（スペック）..... 774
車両接近通報装置..... 78
車両データの記録..... 10
車両を緊急停止するには..... 712

充電 98
V2H 充電 156
急速充電 156
充電器 153
充電ケーブル 104
充電装備 98
充電に関するアドバイス 138
充電に関する警告 152, 162
充電のしかた 145, 156
正常に充電できない 194
ソーラー充電システム 190
タイマー充電機能 164
電源について 123
電源に関する警告 130
普通充電 145
マイルームモード 185
メッセージ 140
充電ケーブル
（普通充電ケーブル） 104
安全機能 105
インジケーター 105
お手入れ 111
電源プラグコードの交換 107
普通充電ケーブルに
関する警告 109
普通充電コネクターを解錠
できないとき 120
充電ポート 98
外部電源供給
システム 208, 230
充電リッドが開かないとき 116
充電リッドの開閉 99
スマートリッド＆コネクター
ロックシステム 112
収納装備 616
瞬間電費 266
瞬間燃費 266, 315
仕様（車両仕様） 779
初期設定 790
助手席シートベルト
非着用警告灯 724

す

スイッチ
EV ／ HV モード切りかえ 75
イグニッション 374
ウインドウロック 354
ウインドシールド
デアイサー 598
ウォッシャー 405
AHS（アダプティブ
ハイビームシステム） 397
AHB（オートマチック
ハイビーム） 392
AC100V 630
S-IPA
（シンプルインテリジェント
パーキングアシスト） 521
LED イルミネーション
ビーム 401
LTA（レーントレーシング
アシスト） 436
エンジンスイッチ 374
オーディオ ※ 648
クルーズコントロール 447
シート調整 341
シートヒーター 612
シートベンチレーター 612
車間距離切りかえ 453
ステアリングヒーター 611
電話 ※ 648
ドアミラー 352
ドアロック 325

トーク（音声認識）※..... 648
ドライブモードセレクト..... 477
TRIP..... 247
ハザードランプ..... 709
バックドアオープン 329
パノラミックビューモニター
メイン..... 558
パワー（イグニッション）..... 374
パワーウインドウ 354
P ポジション..... 381
非常点滅灯
（ハザードランプ）..... 709
VSC OFF..... 552
フォグランプ..... 402
HUD（ヘッドアップ
ディスプレイ）..... 306
ヘルプネットボタン ※
方向指示レバー..... 386
ホーン（警音器）..... 348
メーター操作..... 247
ランプ..... 388
リモートエアコンシステム.... 606
リヤウインドウ
デフォッガー 598
レーダークルーズ
コントロール
（全車速追従機能付き）..... 447
ワイパー..... 405
ワイヤレス充電 640
スタック 770
ステアリングアシステッド
ビークルスタビリティ
コントロール（S-VSC）..... 551
ステアリングヒーター.....610
ステアリングホイール
（ハンドル）.....348
位置調整 348
スイッチ 648
ステアリングヒーター 610
ホーン（警音器）.....348
ストップランプ（制動灯）
電球（バルブ）の交換.....705
スノータイヤ（冬用タイヤ）.....589
スピードメーター 263
スペック（車両仕様）.....774
スマートエントリー&
スタートシステム.....334
アンテナの位置.....334
カスタマイズ設定.....780
緊急始動機能 754
警告ブザー 335
作動範囲 335
充電コネクターの
施錠・解錠.....117
充電リッドの解錠.....113
正常に働かないとき.....755
節電機能 336
電波がおよぼす
影響について.....340
ドアの解錠・施錠.....323, 328
ハイブリッドシステムの
始動 374
スマートリッド&コネクター
ロックシステム 112
スモールランプ（車幅灯）.....388
電球（バルブ）の交換.....705
ランプスイッチ.....388

※：マルチメディアシステムは、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

せ

清掃 650, 655
アルミホイール 651
ヴィークルパワーコネクタ 212
外装 650
駆動用電池冷却用吸入口 656
シートベルト 658
前方カメラ 417
内装 655
レーダーセンサー 416
制動灯
電球（バルブ）の交換 705
積算距離計（オドメーター） 264
セキュリティ
インジケーター 66, 67
接近警報（レーダークルーズ
コントロール） 455
先行車発進告知機能 464
センサー
インナーミラー 351
雨滴感知センサー 407
AHS（アダプティブ
ハイビームシステム） 396
AHB（オートマチック
ハイビーム） 392
S-IPA（シンプル
インテリジェント
パーキングアシスト） 545
クリアランスソナー 492
湿度センサー 605
前方カメラ 415
ドアハンドル 323
Toyota Safety Sense 415
パーキングサポート
ブレーキ 505
BSM（ブラインドスポット
モニター） 482
ライトセンサー 390
レーダーセンサー 415, 482
洗車 650
前照灯（ヘッドランプ） 388
オートレベリングシステム 390
電球（バルブ）の交換 705
ライトセンサー 390
ランプ消し忘れ防止機能 390
ランプスイッチ 388

そ

走行モード
（ドライブモード） 477
ソーラー充電システム 190
速度計（スピードメーター） 263

た

ターンシグナルランプ
（方向指示灯） 386
電球（バルブ）の交換 705
方向指示レバー 386
タイマー充電機能 164
タイヤ 668
空気圧 672, 779
交換 674
締め付けトルク 682
チェーン 589
低偏平タイヤ 669
点検 668
パンク応急修理キット 738
パンクしたときは 736
冬用タイヤ 589
ホイールサイズ 779
ローテーション
（位置交換） 668

タイヤが空まわりする
（スタックした）..... 770
タイヤチェーン..... 589
タコメーター 290

ち

チェーン（タイヤチェーン）..... 589
チャイルドシート..... 46
ISOFIX ロアアンカレッジで
固定..... 62
お子さまを乗せるときは..... 45
規格 51
固定方法の種類 59
シートベルトで固定 60
知っておいて
いただきたいこと..... 46
テザーベルト 64
トップテザーアンカレッジに
固定..... 64
チャイルドプロテクター 326
駐車ブレーキ
（パーキングブレーキ）..... 387
操作 387
冬季の注意..... 590
未解除走行時警告ブザー..... 387
メンテナンスデータ 778

つ

通信利用型レーダー
クルーズコントロール 457
ツール（工具）..... 675
月別電費履歴／月別燃費履歴 288

て

低偏平タイヤ.....669
手入れ.....650, 655
アルミホイール.....651
ヴィークルパワーコネクタ 212
外装.....650
駆動用電池冷却用吸入口.....656
シートベルト 658
充電ケーブル 111
前方カメラ 417
内装.....655
レーダーセンサー.....416
テールランプ（尾灯）.....388
電球（バルブ）の交換.....705
ランプスイッチ.....388
デッキボード.....622
デフォッガー
フロントウインドウ
ガラス 597
リヤガラス 598
電気モーター.....72
電球（バルブ）.....779
交換要領（外装バルブ）.....698
ワット数 779
点検基準値
（メンテナンスデータ）.....774

電子キー 318
作動範囲 335
正常に働かないとき 755
節電モード 336
電池が切れた 755
電池交換 692
電池交換（キー） 692
電費
1km 毎の電費 285
エコダイアリー 288
エネルギーモニター 272
5km 毎の電費 285
瞬間電費 266
電費について 267
ドライブモニター 2 287
電話スイッチ ※ 648

と

ドア 323
スマートエントリー&
スタートシステム 334
チャイルドプロテクター 326
ドアガラス 354
ドアロックスイッチ 325
バックドア 328
ロックレバー 325
ワイヤレスリモコン 323
ドアカーテシランプ 613
位置 613
ワット数 779
ドアポケット 619
ドアミラー 352
操作 352
格納のしかた 352
BSM（ブラインドスポット
モニター） 479
ミラーヒーター 598
盗難防止装置
イモビライザーシステム 66
オートアラーム 67
トークスイッチ 648
時計 246
時刻を設定する 251
トップテザーアンカレッジ 64
トノカバー 625
Toyota Safety Sense 414
RSA（ロードサイン
アシスト） 442
AHS（アダプティブ
ハイビームシステム） 396
AHB（オートマチック
ハイビーム） 392
LTA（レーントレーシング
アシスト） 430
先行車発進告知機能 464
PCS（プリクラッシュ
セーフティ） 420
レーダークルーズ
コントロール
（全車速追従機能付き） 447
ドライブインフォメーション
（マルチインフォメーション
ディスプレイ） 271

ドライブスタート
コントロール..... 361
急発進の抑制制御 361
後退速度の抑制制御 361
ドライブモード
セレクトスイッチ..... 477
ドライブモニター..... 286, 287
トラクション
コントロール（TRC）..... 551
機能 551
VSC OFF スイッチ..... 552
トランスミッション..... 380
自動 P ポジション
切りかえ機能 383
操作 380
メンテナンスデータ 777
リバース警告ブザー 382
トリップメーター..... 264

な

内装
収納装備..... 616
手入れ..... 655
「ナノイー」..... 598

に

日別電費履歴／日別燃費履歴 288
荷物
積むときの注意 372
荷室内装備..... 622

ぬ

ぬかるみにはまった
（スタック）.....770

ね

燃費
1km 毎の燃費.....285
エコダイアリー.....288
エネルギーモニター.....272, 312
5km 毎の燃費.....285
瞬間燃費 266, 315
燃費情報（ドライブ
インフォメーション）.....271
平均燃費 264
毎分燃費 315
燃費履歴.....285
燃料 774
給油.....409
種類.....774
燃料残量警告灯.....724
容量.....774
燃料計.....263

は

パーキングサポートブレーキ.....503
警告灯 724
警告メッセージ.....508
操作.....505
表示灯 259
パーキングブレーキ 387
操作.....387
冬季の注意 590
未解除走行時警告ブザー 387
メンテナンスデータ.....778
排気ガス.....44

※：マルチメディアシステムは、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

ハイビーム（ヘッドランプ）..... 388
AHS（アダプティブハイビームシステム）..... 396
AHB（オートマチックハイビーム）..... 392
電球（バルブ）の交換..... 705
ランプスイッチ 388
ハイブリッドシステム（プラグインハイブリッドシステム）..... 72
EV モード..... 73
運転のアドバイス 91
HV モード..... 73
オーバーヒート 765
回生ブレーキ..... 80
ガス欠になったとき 86
緊急始動機能..... 754
緊急時の停止方法 712
緊急停止システム 85
駆動用電池冷却用吸入口..... 85
高電圧部位..... 84
サービスプラグ 84
事故が発生したとき 88
始動できないときは 753
始動方法..... 374
車両接近通報装置 78
充電 98
注意 84
特徴 72
特有の音と振動 82
パワー（イグニッション）スイッチ 374
補機バッテリーがあがった.... 759
メンテナンス・修理・廃車するとき 83
ハイブリッドシステムインジケーター..... 277
ハイマウントストップランプ電球（バルブ）の交換..... 705
薄暮灯
電球の交換 705
ランプスイッチ..... 388
ハザードランプ（非常点滅灯）.... 709
緊急ブレーキシグナル 551
スイッチ 709
電球（バルブ）の交換..... 705
挟み込み防止機能 355
発炎筒..... 710
バックアップランプ（後退灯）.... 698
電球（バルブ）の交換..... 699
ワット数 779
バックドア..... 328
バックドアが開かないとき 330
バックドアハンドル..... 329
半ドア警告灯 724
ラゲージルームランプ..... 330
バッテリー（駆動用電池）..... 84
駆動用電池残量インジケーター..... 100
充電について 98
搭載位置 84
冷却用吸入口 85
バッテリー（補機バッテリー）
交換するとき 762
冬の前の準備 589
補機バッテリーがあがった 759
バニティ（化粧用）ミラー..... 627
バニティミラーランプ..... 627
装備について 627
ワット数 779
パノラミックビューモニター..... 557
バルブ（電球）
交換要領（外装のバルブ）..... 698
ワット数 779

パワーウインドウ..... 354
ウインドウロックスイッチ.... 354
開閉することが
できないとき 355
操作 354
挟み込み防止機能 355
巻き込み防止機能 355
パワーコントロールユニット 84
パワー（イグニッション）
スイッチ 374
自動電源 OFF 機能 376
車両を緊急停止するには..... 712
ハイブリッドシステムの
始動のしかた 374
モードの切りかえ 376
パワーステアリング..... 551
機能 551
警告灯..... 723
パンクした 736
番号灯（ライセンスプレート
ランプ）..... 388
電球（バルブ）の交換..... 705
ランプスイッチ 388
ハンドル
（ステアリングホイール）..... 348
位置調整..... 348
スイッチ..... 247, 648
ステアリングヒーター..... 610
ホーン（警音器）..... 348

ひ

ビークルスタビリティ
コントロール（VSC）.....551
PCS（プリクラッシュ
セーフティ）.....420
機能.....420
警告灯.....723
設定を変更する.....423
ヒーター
オートエアコン.....594
駆動用電池 135
シートヒーター.....610
ステアリングヒーター.....610
ミラーヒーター.....598
P ポジションスイッチ 381
非常点滅灯（ハザードランプ）....709
緊急ブレーキシグナル.....551
スイッチ 709
電球（バルブ）の交換.....705
尾灯（テールランプ）.....388
電球（バルブ）の交換.....705
ランプスイッチ.....388
ヒューズ.....695
表示灯.....258
日よけ（サンバイザー）.....627
ヒルスタートアシスト
コントロール 551

ふ

VSC（ビークルスタビリティ
コントロール 551
ブースターケーブルの
つなぎ方.....759
フォグランプ.....402
スイッチ 402
電球（バルブ）の交換.....705

ブザー
RCTA 479
クリアランスソナー 496
シートベルト非着用 724
車線逸脱警報機能（LTA）..... 434
衝突警報（PCS）..... 420
接近警報（レーダークルーズコントロール）..... 455
先行車発進告知機能 464
パーキングサポートブレーキ 508
パーキングブレーキ未解除走行時 387
半ドア..... 324, 335, 724
ふらつき警報機能（LTA）..... 435
ブレーキ..... 722
リバース..... 382
普通充電ケーブル（充電ケーブル）..... 104
安全機能..... 105
インジケーター 105
お手入れ..... 111
電源プラグコードの交換..... 107
普通充電ケーブルに関する警告 109
普通充電コネクターを解錠できないとき 120
フック
買い物フック 623
けん引フック 717
コートフック 646
フロアマット固定フック..... 28
フューエルメーター（燃料計）... 263
フューエルリッド（給油扉）..... 412
給油扉が開かないとき 412
給油のしかた 409
冬の前の準備（寒冷時の運転）.... 589
冬用タイヤ..... 589
ブラインドスポットモニター（BSM）..... 479
プラグインハイブリッドシステム..... 72
EV モード..... 73
運転のアドバイス..... 91
HV モード..... 73
充電のしかた 145, 156
注意..... 84
特徴..... 72
バッテリーチャージモード 73
プラスサポート 513
プリクラッシュセーフティ（PCS）..... 420
機能..... 420
警告灯 723
設定を変更する..... 423
ブレーキ
回生ブレーキ 80
緊急ブレーキシグナル 551
警告ブザー 722
パーキングブレーキ..... 387
ブレーキ警告灯..... 722
メンテナンスデータ 778
ブレーキアシスト 551
ABS ＆ブレーキアシスト警告灯 723
機能..... 551
ブレーキ付近からキーキー音が聞こえる..... 367
ブレーキフルード 778

フロアマット 28
フロントインテリアランプ 614
フロントシート..... 341
シートヒーター 610
シートベンチレーター..... 610
正しい運転姿勢 30
調整 341
手入れ..... 655
ヘッドレスト 345
フロントフォグランプ 402
スイッチ..... 402
電球（バルブ）の交換..... 705
フロント方向指示灯 705
電球（バルブ）の交換..... 705
方向指示レバー 386

へ

平均車速 286
平均電費 285, 287, 288
平均燃費
.....263, 266, 285, 288, 315
ヘッドアップディスプレイ 304
ヘッドランプ 388
オートレベリングシステム.... 390
電球（バルブ）の交換..... 705
ライトセンサー 390
ランプ消し忘れ防止機能..... 390
ランプスイッチ 388
ヘッドランプオートレベリング
システム 390
ヘッドレスト 345
ヘルプネットボタン ※
ベンチレーター
（シートベンチレーター）..... 610

ほ

ホイール
交換（タイヤ）.....674
メンテナンスデータ 779
ホイールナットレンチ.....675
方向指示灯 386
電球（バルブ）の交換 705
方向指示レバー.....386
ホーン（警音器）.....348
補機バッテリー
交換するとき 762
冬の前の準備 589
補機バッテリーがあがった 759
保証 12
ボトルホルダー 619
ボンネット.....662

ま

毎分燃費.....315
マイルームモード 185
巻き込み防止機能 355
マスターウォーニング.....727
マルチインフォメーション
ディスプレイ 269
エアコン設定画面.....293
S-IPA（シンプル
インテリジェント
パーキングアシスト）.....522
エネルギーモニター.....272
LTA（レーントレーシング
アシスト）.....436
クリアランスソナー.....494
警告メッセージ表示画面 296
衝突警報（PCS）.....420
設定画面 297

※：マルチメディアシステムは、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

走行支援システム連携画面.... 296
ドライブ
インフォメーション..... 271
ナビゲーションシステム
連携画面..... 291
パーキングサポート
ブレーキ..... 508
表示項目..... 269
レーダークルーズ
コントロール
（全車速追従機能付き）..... 447

み

ミラー
インナーミラー..... 350
ドアミラー..... 352
バニティミラー..... 627
BSM（ブラインドスポット
モニター）..... 479
ミラーヒーター..... 598

め

メインディスプレイ..... 263
メーター（計器類）..... 246
警告灯／表示灯..... 255
照度調整..... 248
時計の調整..... 251
ヘッドアップ
ディスプレイ..... 304
マルチインフォメーション
ディスプレイ..... 269
メインディスプレイ..... 263
メカニカルキー..... 319
メンテナンスデータ..... 774

も

モーター（電気モーター）.....72
モーターでの走行
（EV モード）.....73

ゆ

USB 端子 ※
ユーザーカスタマイズ機能.....780
雪道ですべって動けない
（スタックした）.....770
油脂類.....774

ら

ライセンスプレートランプ
（番号灯）.....388
電球（バルブ）の交換.....705
ランプスイッチ.....388
ラジエーター
オーバーヒート.....765
メンテナンスデータ.....777
ランプ
インテリアランプ.....614, 615
AHS（アダプティブ
ハイビームシステム）.....396
AHB（オートマチック
ハイビーム）.....392
LED イルミネーション
ビーム.....401
電球（バルブ）の交換.....698
ドアカーテシランプ.....613
非常点滅灯
（ハザードランプ）.....709
フロントフォグランプ.....402
ヘッドランプ（前照灯）.....388
方向指示灯（ターンシグナル
ランプ／ウインカー）.....386

マップランプ..... 614
ライトセンサー 390
ラゲージルームランプ..... 330
ランプ消し忘れ防止機能..... 390
リヤフォグランプ 402
ワット数..... 779
ランプ消し忘れ
防止機能 330, 390, 615, 627

り

リモートエアコンシステム 606
リヤアームレスト..... 646
リヤウインドウデフォッガー
スイッチ 598
リヤクロストラフィック
アラート（RCTA）..... 479, 486
リヤシート 343
リヤシートリマインダー 327
リヤフォグランプ..... 402
スイッチ..... 402
電球（バルブ）の
交換..... 703, 705
ワット数..... 779
リヤ方向指示灯..... 386
電球（バルブ）の交換..... 705
方向指示レバー 386

る

ルームミラー
（インナーミラー）..... 350
ルームランプ（室内灯）..... 613

れ

レーダークルーズコントロール
（全車速追従機能付き）.....447
接近警報 455
通信利用型レーダー
クルーズコントロール 457
レーダーセンサー.....415
レーントレーシングアシスト
（LTA）.....430
スイッチ 436
メーター表示 436
冷却水.....777
冬の前の準備 589
メンテナンスデータ.....777
冷却装置（ラジエーター）.....777
オーバーヒート.....765
メンテナンスデータ.....777
レバー
シフト.....380
ハンドル位置調整.....348
方向指示 386
ボンネット解除.....662
ロック（ドア）.....325
ワイパー 405

※：マルチメディアシステムは、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

ろ

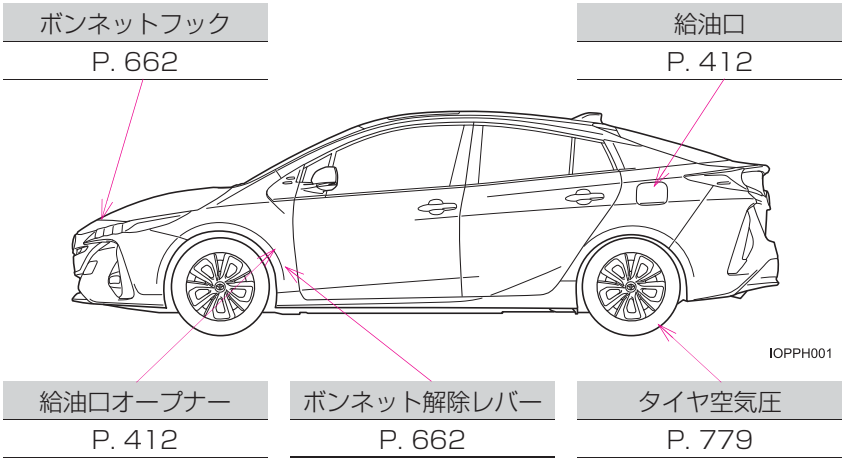
ロードサインアシスト
（RSA）..... 442
ロック
ウインドウロック 354
スマートエントリー＆
スタートシステム..... 334
スマートリッド＆コネクター
ロックシステム 112
チャイルドプロテクター..... 326
ドア 323, 328
バックドア..... 328
ワイヤレスリモコン 323

わ

ワイパー＆ウォッシャー..... 405
ウォッシャー液の補充..... 666
ワイパーゴムの交換 689
ワイヤレスリモコン..... 318
作動の合図..... 324
操作 318
電池の交換..... 692
半ドア警告ブザー 324
リモートエアコンシステム.... 606
ワックス 650
ワット数 779

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。



燃料の容量（参考値）	43L
燃料の種類 （→ P. 774）	・ 無鉛レギュラーガソリン ・ バイオ混合ガソリン（レギュラー）※ ※ エタノールの混合率 10% 以下または、ETBE の混合率 22% 以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。
タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	

タイヤサイズ	前輪	後輪
195/65R15 91S	250（2.5）	240（2.4）
215/45R17 87W	230（2.3）	220（2.2）
225/40R18 88Y	230（2.3）	220（2.2）

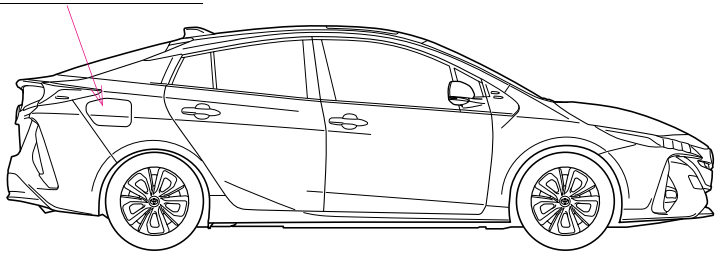
エンジンオイル容量 （参考値）	オイルのみ交換時： 3.9L オイルとオイルフィルター交換時： 4.2L
エンジンオイルの種類 （→ P. 775）	トヨタ純正モーターオイル 推奨： ・ SP 0W-16（API SP/RC, ILSAC GF-6B, SAE 0W-16） 適合： ・ SP 0W-20（API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 0W-20） ・ SP 5W-30（API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 5W-30）

充電設備での情報

充電の際に必要になる情報をまとめてあります。

充電リッド

P. 99, 113



充電方法	普通充電	急速充電 ※1
定格電圧／電流	AC200V ／ 16A	ー
充電に要する時間 ※2	約 2 時間 20 分	約 20 分
電池種類	リチウムイオン電池	

※1 急速充電インレット装着車のみ

※2 メーター上にEV走行可能距離が表示されていない状態から、満充電になるまでの目安です。（急速充電時は、普通充電での満充電量の約80%まで充電されます）
充電設備の仕様により、満充電の前に電源供給が停止されることがあります。
充電方法については、2章の「普通充電のしかた」／「急速充電・V2H 充電／ V2H 給電のしかた」を参照してください。
充電器に備え付けの充電コネクターにより、取り扱いが異なる場合があります。充電器に掲示されている取り扱い方法をご確認ください。

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター

全国共通・フリーコール

0800-700-7700

オープン時間　365日　9:00～18:00

所在地　〒450－8711　名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）をご用意頂くとスムーズな対応が可能です。

「個人情報保護方針」については、
https://toyota.jp/privacy_statement/ にて
掲載しております。

「リコール等情報」については、
https://toyota.jp/recall/index.html にて
掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
https://toyota.jp

ヌ-43

TOYOTA

M 47E95
01999-47E95
CI-2021年９月28日
2021年６月３日 初版
2021年10月５日 2版
プリウス PHEV